市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第41集

上総国分寺台遺跡調査報告XXVIII

市原市台遺跡Ｅ地点

（本文編）

２０１７

市 原 市 教 育 委 員 会

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第41集

上総国分寺台遺跡調査報告XXVIII

市原市台（だい）遺跡Ｅ地点

（本文編）

２０１７

市 原 市 教 育 委 員 会



国分寺台全景 （養老川上空付近から北東方向） 1978年度撮影



台遺跡E地点全景（市原市庁舎上空付近から北西方向）1978年度撮影



100号遺構遺物出土状況（南西から）



100号遺構出土遺物

序　文

市原市は、千葉県のほぼ中央に位置し、南北に貫流する養老川がもたらした肥沃な平野と、山間部の緑豊かな自然環境をもち、貴重な遺跡が数多く残されています。

いにしえより多くの先人が足跡を残した地で、多様な文化が育まれ、神門古墳群や「王賜」銘鉄剣、及び上総国分僧寺・尼寺に代表される埋蔵文化財の宝庫として全国的に知られています。

土地区画整理事業の対象地として、昭和45年に計画された「国分寺台」の地には、多数の埋蔵文化財が存在し、その記録保存のため、昭和47年から63年までの16年間にわたって、43遺跡の発掘調査が行われました。

今回報告する「台遺跡Ｅ地点」は、東京湾を望む台地上に展開する台遺跡の北部に位置し、平成11年から始まった台遺跡整理の最終報告となり、本書をもって台遺跡の整理報告は完了します。

弥生時代中期から古墳時代後期初頭を経て、中世に至る遺構・遺物の発掘調査成果をまとめた本書が、学術的な資料としてはもとより、広く市民の皆様に活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から整理報告にいたるまでの間、長期にわたり、多大な御協力をいただきました、文化庁記念物課、千葉県教育庁文化財課、旧市原市国分寺台土地区画整理組合、旧上総国分寺台遺跡調査団、旧財団法人市原市文化財センター、関係諸機関及び地元関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

平成29年12月

市原市教育委員会
教育長　前田周一

例　言

1　本書は、市原市国分寺台土地区画整理事業に先行して実施した埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。

2　本書に所収したのは、以下の遺跡である。
台遺跡E地点　千葉県市原市根田４丁目　市原市埋蔵文化財分布地図　遺跡番号721の一部

3　発掘調査は、市原市教育委員会の委託を受け、千葉県教育委員会・市原市教育委員会の指導のもと、昭和57年度に上総国分寺台遺跡調査団が主体となって行った。全体の調査面積は、プラニメーター計測値12,293㎡であり、担当者は半田堅三、郷田良一である。

4　整理・報告事業は、平成25年５月15日～平成29年12月22日まで、市原市教育委員会埋蔵文化財調査センターで行った。担当は小川浩一である。なお、中世土器・陶器類の遺物観察について、当職員櫻井敦史の指導を得た。

5　本書の原稿執筆は、第Ⅲ章以外を小川浩一が行った。また、第Ⅲ章については、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。本書の挿図作成は、当職員櫻井敦史、鶴岡英一、小橋健司の協力を得た。遺物写真については、当職員小橋健司が撮影した。

6　石材肉眼鑑定については、パリノ・サーヴェイ株式会社に、石鏃実測については創和システム株式会社に委託した。

7　極小玉類の重量測定には、島津理化器械株式会社製電子分析てんびんAEL-200を使用した。

8　本書に収録した出土遺物および記録類は、市原市教育委員会ふるさと文化課埋蔵文化財調査センターで収蔵、保管している。

凡　例

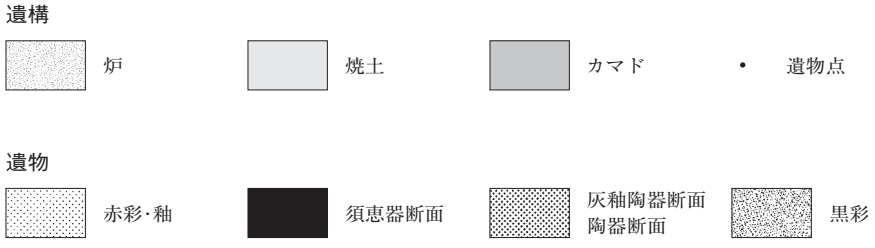
1　本書で示す北は、座標北である。また、水準は海抜からの高さを示す。

2　本書で使用した国土地理院発行の地図は、1:50,000千葉・姉崎である。

3　本書掲載の遺構縮尺は、方形周溝墓・竪穴建物跡・土坑等1:80を原則とした。ただし、遺物出土状況等、更に詳細図が必要と判断された遺構については、縮尺を変え掲載した。遺物は、土器等1/3を基本としたが、支脚・瓦1/4、有孔円板・臼玉等は1/1で掲載した。

4　土器の器面色調については、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖　2001年度版』日本色研事業株式会社発行を用いた。

5　挿図におけるスクリーントーンの用例については下記によるか、または図中に示した。



本 文 目 次

序　文
例　言
Ⅰ　調査経緯と遺跡の概要
1　調査に至る経緯と経過 …… 1
2　遺跡の位置と概要 …… 1
3　調査・整理の方法 …… 5
(1)　グリッド・水準 …… 5
(2)　遺構平面図 …… 5
(3)　遺物 …… 5
(4)　遺構番号 …… 6

Ⅱ　遺構と遺物
1　竪穴建物跡 …… 23
2　土坑跡・方形周溝墓跡 …… 72
3　グリッド出土遺物 …… 95
4　一括出土遺物 …… 96
5　補遺 …… 96

Ⅲ　自然遺物および自然科学分析
1　台遺跡Ｅ地点出土石器等石材鑑定 …… 297

Ⅳ　まとめ …… 303

報告書抄録

巻 頭 図 版 目 次

巻頭図版1　国分寺台全景
台遺跡Ｅ地点全景
巻頭図版2　100号遺構遺物出土状況
100号遺構出土遺物

挿 図 目 次

第 1 図　台遺跡 E 地点位置図 …… 2
第 2 図　国分寺台地区と周辺の遺跡群 …… 3
第 3 図　台遺跡の位置と各調査地点 …… 4
第 4 図　台遺跡 E 地点全体図 …… 7･8
第 5 図　台遺跡 E 地点遺構配置図 1 …… 9
第 6 図　台遺跡 E 地点遺構配置図 2 …… 10
第 7 図　台遺跡 E 地点遺構配置図 3 …… 11
第 8 図　台遺跡 E 地点遺構配置図 4 …… 12
第 9 図　2・48・51・315 号 遺構実測図 …… 98
第 10 図　3～5・301 号 遺構実測図 …… 99
第 11 図　6～8・302・310 号 遺構実測図 …… 100
第 12 図　2・3・5～8・48・51・302 号 遺構実測図 …… 101
第 13 図　9・13～15・47・49・50・303 号 遺構実測図 …… 102
第 14 図　147・407 号 遺構実測図 …… 103･104
第 15 図　26・27・29・30 号 遺構実測図 …… 105
第 16 図　16～19・21・25・32～34 号 遺構実測図 …… 106
第 17 図　9・13～15・29・30・47・49・50・147・407 号 遺構実測図 …… 107
第 18 図　16～19・21・25～27・32～34 号 遺構実測図 …… 108
第 19 図　10～12・20・23・35・304・311 号 遺構実測図 …… 109
第 20 図　22・44・142 号 遺構実測図 …… 110
第 21 図　140・141・143・144 号 遺構実測図 …… 111
第 22 図　145・414 号 遺構実測図 …… 112
第 23 図　139 号 遺構実測図 …… 113
第 24 図　42 号 遺構実測図 …… 114
第 25 図　11・12・20・22・23・35・44・142・304・311 号 遺構実測図 …… 115
第 26 図　22・42・139・141・143～145 号 遺構実測図 …… 116
第 27 図　36～41・46・153・305 号 遺構実測図 …… 117
第 28 図　31 号 遺構実測図 …… 118
第 29 図　31・36～41・46・305 号 遺構実測図 …… 119
第 30 図　52・53・55・56・152・156 号 遺構実測図 …… 120
第 31 図　54・58 号 遺構実測図 …… 121
第 32 図　57・60～64 号 遺構実測図 …… 122
第 33 図　52～58・60～64 号 遺構実測図 …… 123
第 34 図　43・45・136～138 号 遺構実測図 …… 124
第 35 図　146 号 遺構実測図 …… 125
第 36 図　324・415 号 遺構実測図 …… 126
第 37 図　130・134・151 号 遺構実測図 …… 127
第 38 図　43・130・136～138・146・151・415 号 遺構実測図 …… 128
第 39 図　131・132 号 遺構実測図 …… 129
第 40 図　66～69・306・307・316・317 号 遺構実測図 …… 130
第 41 図　82・83・86・87 号 遺構実測図 …… 131
第 42 図　66～69・82・83・86・87・131・132・306・307 号 遺構実測図 …… 132
第 43 図　80・81・119 号 遺構実測図 …… 133
第 44 図　72～79・120 号 遺構実測図 …… 134
第 45 図　123・323 号 遺構実測図 …… 135
第 46 図　124～126・420 号 遺構実測図 …… 136
第 47 図　73～75・78～81・119・120・123～126 号 遺構実測図 …… 137
第 48 図　127～129・135・312 号 遺構実測図 …… 138
第 49 図　419 号 遺構実測図 …… 139
第 50 図　308・309・320 号 遺構実測図 …… 140
第 51 図　127～129・135・308・309・312・419 号 遺構実測図 …… 141
第 52 図　84・85・114・116～118・318・319・472 号 遺構実測図 …… 142
第 53 図　94・95・113・348 号 遺構実測図 …… 143
第 54 図　96・97・106・107・326・331 号 遺構実測図 …… 144
第 55 図　84・85・94～97・106・107・113・114・116～118・326・348・472 号 遺構実測図 …… 145
第 56 図　90～93・148・314 号 遺構実測図 …… 146
第 57 図　71・88・89・313・325 号 遺構実測図 …… 147
第 58 図　98・99 号 遺構実測図 …… 148
第 59 図　108・327～329・474～476 号 遺構実測図 …… 149
第 60 図　111・330・482・483 号 遺構実測図 …… 150
第 61 図　100・112・332・333・335 号 遺構実測図 …… 151
第 62 図　71・88～93・98・99・111・112・148・313・314 号 遺構実測図 …… 152
第 63 図　101～104・334 号 遺構実測図 …… 153
第 64 図　100～104・332・452・466・478・479 号 遺構実測図 …… 154
第 65 図　105 号 遺構実測図 …… 155
第 66 図　423～449・451・452・460～463・465・466・468・477～481 号 遺構実測図 …… 156
第 67 図　110・336～346・473 号 遺構実測図 …… 157
第 68 図　109・149・347 号 遺構実測図 …… 158
第 69 図　105・423～426・428～431・435・438～441・460・461・463・465 号 遺構実測図 …… 159
第 70 図　109・333・432～434・442～449・451・468 号 遺構実測図 …… 160
第 71 図　2 号 (1) 遺構出土遺物実測図 …… 161
第 72 図　2 号 (2)・3 号 (1) 遺構出土遺物実測図 …… 162
第 73 図　3 号 (2)・4 号 遺構出土遺物実測図 …… 163
第 74 図　5 号・6 号 遺構出土遺物実測図 …… 164
第 75 図　7 号 (1) 遺構出土遺物実測図 …… 165

第 76 図　7 号 (2)・8 号・10 号・11 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 166
第 77 図　11 号 (2)・12 ～ 15 号 遺構出土遺物実測図 … 167
第 78 図　16 ～ 20 号・21 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 168
第 79 図　21 号 (2)・22 号・23 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 169
第 80 図　23 号 (2) 遺構出土遺物実測図 … 170
第 81 図　23 号 (3)・25 号 遺構出土遺物実測図 … 171
第 82 図　26 号・27 号・29 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 172
第 83 図　29 号 (2)・30 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 173
第 84 図　30 号 (2) 遺構出土遺物実測図 … 174
第 85 図　30 号 (3)・31 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 175
第 86 図　31 号 (2) 遺構出土遺物実測図 … 176
第 87 図　32 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 177
第 88 図　32 号 (2)・34 ～ 36 号 遺構出土遺物実測図 … 178
第 89 図　37 号・38 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 179
第 90 図　38 号 (2)・40 号・42 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 180
第 91 図　42 号 (2) 遺構出土遺物実測図 … 181
第 92 図　42 号 (3)・43 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 182
第 93 図　43 号 (2)・44 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 183
第 94 図　44 号 (2) 遺構出土遺物実測図 … 184
第 95 図　44 号 (3) 遺構出土遺物実測図 … 185
第 96 図　44 号 (4) 遺構出土遺物実測図 … 186
第 97 図　44 号 (5) 遺構出土遺物実測図 … 187
第 98 図　44 号 (6) 遺構出土遺物実測図 … 188
第 99 図　44 号 (7) 遺構出土遺物実測図 … 189
第 100 図　44 号 (8)・45 号 遺構出土遺物実測図 … 190
第 101 図　47 号・48 号・49 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 191
第 102 図　49 号 (2) 遺構出土遺物実測図 … 192
第 103 図　49 号 (3)・50 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 193
第 104 図　50 号 (2)・51 ～ 54 号 遺構出土遺物実測図 … 194
第 105 図　55 号・56 号 遺構出土遺物実測図 … 195
第 106 図　57 号・58 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 196
第 107 図　58 号 (2)・60 ～ 62 号 遺構出土遺物実測図 … 197
第 108 図　64 号・67 号 遺構出土遺物実測図 … 198
第 109 図　68 号・69 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 199
第 110 図　69 号 (2)・71 号・72 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 200
第 111 図　72 号 (2)・73 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 201
第 112 図　73 号 (2)・74 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 202
第 113 図　74 号 (2) 遺構出土遺物実測図 … 203
第 114 図　74 号 (3) 遺構出土遺物実測図 … 204
第 115 図　74 号 (4) 遺構出土遺物実測図 … 205
第 116 図　74 号 (5)・76 号・77 号・78 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 206
第 117 図　78 号 (2) 遺構出土遺物実測図 … 207
第 118 図　78 号 (3) 遺構出土遺物実測図 … 208
第 119 図　78 号 (4)・79 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 209
第 120 図　79 号 (2)・80 号 遺構出土遺物実測図 … 210
第 121 図　83 号・84 号 遺構出土遺物実測図 … 211
第 122 図　85 号 遺構出土遺物実測図 … 212
第 123 図　86 号・87 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 213
第 124 図　87 号 (2)・88 ～ 90 号・91 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 214
第 125 図　91 号 (2)・92 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 215
第 126 図　92 号 (2) 遺構出土遺物実測図 … 216
第 127 図　93 ～ 95 号・96 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 217
第 128 図　96 号 (2) 遺構出土遺物実測図 … 218
第 129 図　96 号 (3) 遺構出土遺物実測図 … 219
第 130 図　96 号 (4) 遺構出土遺物実測図 … 220
第 131 図　96 号 (5) 遺構出土遺物実測図 … 221
第 132 図　96 号 (6)・97 号・98 号 遺構出土遺物実測図 … 222
第 133 図　100 号遺構遺物出土状況図 … 223
第 134 図　100 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 224
第 135 図　100 号 (2) 遺構出土遺物実測図 … 225
第 136 図　100 号 (3) 遺構出土遺物実測図 … 226
第 137 図　100 号 (4) 遺構出土遺物実測図 … 227
第 138 図　100 号 (5) 遺構出土遺物実測図 … 228
第 139 図　100 号 (6) 遺構出土遺物実測図 … 229
第 140 図　100 号 (7) 遺構出土遺物実測図 … 230
第 141 図　100 号 (8) 遺構出土遺物実測図 … 231
第 142 図　100 号 (9)・101 号・102 号 遺構出土遺物実測図 … 232
第 143 図　103 号・105 号・108 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 233
第 144 図　108 号 (2)・109 号 遺構出土遺物実測図 … 234
第 145 図　110 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 235
第 146 図　110 号 (2) 遺構出土遺物実測図 … 236
第 147 図　110 号 (3) 遺構出土遺物実測図 … 237
第 148 図　110 号 (4)・111 号・112 号 遺構出土遺物実測図 … 238
第 149 図　113 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 239
第 150 図　113 号 (2)・114 号・116 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 240
第 151 図　116 号 (2)・117 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 241
第 152 図　117 号 (2)・119 号 遺構出土遺物実測図 … 242
第 153 図　120 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 243
第 154 図　120 号 (2)・123 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 244
第 155 図　123 号 (2) 遺構出土遺物実測図 … 245
第 156 図　123 号 (3) 遺構出土遺物実測図 … 246
第 157 図　123 号 (4) 遺構出土遺物実測図 … 247
第 158 図　123 号 (5) 遺構出土遺物実測図 … 248
第 159 図　123 号 (6) 遺構出土遺物実測図 … 249
第 160 図　123 号 (7) 遺構出土遺物実測図 … 250
第 161 図　123 号 (8) 遺構出土遺物実測図 … 251
第 162 図　124 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 252
第 163 図　124 号 (2)・131 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 253
第 164 図　131 号 (2) 遺構出土遺物実測図 … 254
第 165 図　132 号・137 号 (1) 遺構出土遺物実測図 … 255

第166図　137号(2)・138号 遺構出土遺物実測図 …… 256
第167図　139号(1) 遺構出土遺物実測図 …… 257
第168図　139号(2)・140号 遺構出土遺物実測図 …… 258
第169図　143号・144号・145号(1) 遺構出土遺物実測図 …… 259
第170図　145号(2)・149号・304号・407号・430号・436号・
439号・440号 遺構出土遺物実測図 …… 260
第171図　442号・444号・446号・449号 遺構出土遺物実測図
…… 261
第172図　451号(1) 遺構出土遺物実測図 …… 262
第173図　451号(2) 遺構出土遺物実測図 …… 263
第174図　451号(3) 遺構出土遺物実測図 …… 264
第175図　472号 遺構出土遺物実測図 …… 265
第176図　473号遺構・中世土器陶器(1) 出土遺物実測図 …… 266
第177図　中世土器陶器(2) 出土遺物実測図 …… 267
第178図　石造物(1) 出土遺物実測図 …… 268
第179図　石造物(2) 出土遺物実測図 …… 269
第180図　石造物(3) 出土遺物実測図 …… 270
第181図　石造物(4) 出土遺物実測図 …… 271
第182図　石造物(5) 出土遺物実測図 …… 272
第183図　石造物(6) 出土遺物実測図 …… 273
第184図　石造物(7)・グリッド(1) 出土遺物実測図 …… 274
第185図　グリッド(2) 出土遺物実測図 …… 275
第186図　E地点一括(1) 出土遺物実測図 …… 276
第187図　E地点一括(2) 出土遺物実測図 …… 277
第188図　E地点一括(3) 出土遺物実測図 …… 278
第189図　E地点一括(4) 出土遺物実測図 …… 279
第190図　E地点一括(5) 出土遺物実測図 …… 280
第191図　E地点一括(6) 出土遺物実測図 …… 281
第192図　E地点一括(7) 出土遺物実測図 …… 282
第193図　E地点一括(8) 出土遺物実測図 …… 283
第194図　E地点一括(9) 出土遺物実測図 …… 284
第195図　E地点一括(10) 出土遺物実測図 …… 285
第196図　E地点一括(11) 出土遺物実測図 …… 286
第197図　E地点一括(12) 出土遺物実測図 …… 287
第198図　E地点一括(13) 出土遺物実測図 …… 288
第199図　E地点一括(14) 出土遺物実測図 …… 289
第200図　E地点一括(15)・A地点(1) 出土遺物実測図 …… 290
第201図　A地点(2) 出土遺物実測図 …… 291
第202図　A地点(3) 出土遺物実測図 …… 292
第203図　A地点(4) 出土遺物実測図 …… 293
第204図　A地点(5) 出土遺物実測図 …… 294
第205図　B地点 出土遺物実測図 …… 295
第206図　D地点 出土遺物実測図 …… 296
第207図　台遺跡E地点時期別全体図 …… 305

表目次

第1-1表　台遺跡E地点遺構観察表 …… 13
第1-2表　台遺跡E地点遺構(方形周溝墓)観察表 …… 22
第2表　台遺跡E地点出土土器観察表 …… 307
第3表　台遺跡A地点出土土器観察表 …… 376
第4表　台遺跡B地点出土土器観察表 …… 377
第5表　台遺跡D地点出土土器観察表 …… 378
第6表　台遺跡E地点出土土製品観察表 …… 379
第7表　台遺跡A地点出土土製品観察表 …… 382
第8表　台遺跡B地点出土土製品観察表 …… 382
第9表　台遺跡E地点出土金属器・骨角器観察表 …… 383
第10表　台遺跡E地点出土銭貨観察表 …… 384
第11表　台遺跡E地点出土玉類観察表 …… 392
第12表　台遺跡E地点出土石器等観察表 …… 403
第13表　台遺跡A地点出土石器等観察表 …… 409
第14表　台遺跡D地点出土石器等観察表 …… 410
第15表　台遺跡石材鑑定表
第16表　台遺跡石器・石製品別石質組成
第17表　台遺跡E地点出土銭貨計測表
第18表　台遺跡E地点出土玉類計測表
※第15～18表はDVD-ROMのみ収録。

Ⅰ　調査経緯と遺跡の概要

1　調査に至る経緯と経過

昭和30年代後半から40年代にかけて、京葉工業地帯を抱える市原市は、そのベッドタウンとして、大規模な宅地造成が各地で計画された。そのひとつが、約380ヘクタールに及ぶ国分寺台土地区画整理事業である。

昭和45年には、市原市国分寺台土地区画整理組合が設立され、これに対応する発掘調査機関として、市原市国分寺台埋蔵文化財調査会のもと、上総国分寺台遺跡調査団が結成された。調査は、昭和47年から開始され、当初３ヵ年計画で事業地内の遺跡の調査が終了する予定であった。しかし、当時把握されていた事業地内の遺跡は、実際には当初の想定を大きく超えた規模であり、調査面積と調査期間の大幅な変更が余儀なくされた。最終的には、昭和63年まで17年間の歳月を要し、上総国分僧・尼寺をはじめとする43遺跡、面積にして537,270㎡の発掘調査が終了した。

整理作業については、事業地内の発掘調査を最優先したことや、報告書刊行に伴う費用負担の問題等から、殆ど進捗しなかったが、平成７年度における市原市と市原市国分寺台土地区画整理組合との協議の結果、費用負担の問題も解決し再開されることとなった。

今回、報告する台遺跡Ｅ地点は、昭和57年度に上総国分寺台遺跡調査団(団長　滝口　宏)のもとで調査が行われた遺跡の調査成果をまとめたものである。

2　遺跡の位置と概要

台遺跡Ｅ地点は、市原市役所の北西約600m、現在の市原市根田４丁目に所在し、東京湾沿いに広がる海岸平野を北西に望む、標高18～20m前後の台地に三角形状に展開する台遺跡の北端に位置する(第３図)。昭和57年度に発掘調査が行われた。

本遺跡の北東側には、谷を挟んで、弥生時代の竪穴建物跡などが検出された向原台遺跡及び東向原遺跡があり、東側には、支谷を挟んで、弥生時代から古墳時代終末期までの竪穴建物跡群が検出された加茂遺跡Ａ・Ｂ地点が展開する(第２図)。

また、南側には、台遺跡Ａ・Ｄ地点(平成25年度報告済)、市道１号線を越えて、台遺跡Ｂ地点(平成15年度報告済)・Ｃ地点(平成21年度報告済)が存在する。

さらに谷を挟んで南方には、弥生時代中期末の環濠集落が検出された根田代遺跡や、弥生時代中期から古墳時代中期後半を中心とした多くの竪穴建物跡が検出された御林跡遺跡が展開している。両遺跡とは密接なつながりがあったと推測され、根田代遺跡の環濠集落の墓域として、本遺跡南部のＢ及びＣ地点の方形周溝墓が想定されると共に、Ｂ及びＣ地点で検出された環濠集落の墓域が、本遺跡中部から北部にあるＡ・Ｄ及びＥ地点の方形周溝墓に該当すると考えられる(第３図)。

また、御林跡遺跡とＥ地点で検出された臼玉集中出土遺構は、臼玉の祭祀が行われた点で、何らかの共通点を持つ可能性がある。周辺において、一部の期間を除いて弥生時代中期から古墳時代中期末葉までの竪穴建物跡が連綿と営まれるのは、御林跡遺跡のみのようであり、古墳時代後期の６世紀始めから末葉の約１世紀にわたり、居住利用の痕跡がなくなることは、本遺跡の特徴と共通しており、関係性があったと考えられる。





第1図　台遺跡E地点位置図



第2図　国分寺台地区と周辺の遺跡群



第3図　台遺跡の位置と各調査地点

台遺跡Ｅ地点は、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物跡が南部を中心に展開するが、北半部を中心に、古墳時代中期後半から後期初頭の竪穴建物跡が展開し、特殊な性格を持つ遺構が検出された。また、北西部では、中世まで下る遺物が多数出土しており、墓域が形成されていたと考えられる。

3　調査・整理の方法

（1）グリッド・水準

本地点は、航空写真測量を実施しており、これにより、公共座標に基づく６ｍピッチでのグリッド(方眼)が組まれている。それにより、各遺構における公共座標値を得ることができた。したがって、本報告における各遺構の方位は座標北を示している。水準も、航空写真測量により、各遺構及び確認面の標高が一定の間隔で求められている。しかし、遺構内の水準測定箇所は、通常の発掘調査で測定される箇所よりは少ない。

航空写真測量図を作成する前段階には、通常の発掘調査における図化が行われたのだが、発掘調査現場で記録された平面図には、基準点の標高が記載されていないものや、基準点の標高が記載されていても、レベル高が記載されていない図面が殆どであった。航空写真測量図における水準高の記載箇所が限定されていることもあり、エレベーションの作成には、推定でラインを引かざるを得なかった箇所が多くある。また、後に述べるが、調査区北側を中心に柱穴ピットが掘られていない遺構があり、それについては、エレベーションの作成を断念したものもある。

（2）遺構平面図

発掘調査現場で記録作成した平図面には、平板測量時に設定された任意の平板杭点が記録されているが、基準点の方向を示す測点がなく、相対する見返り点も記録されていないため、この平面図だけでは、台遺跡Ｅ地点における具体的な記録地点を定めることができなかった。

しかし、先述したように、幸いなことに本地点は、航空写真測量を実施しており、この測量図から、各遺構における公共座標値を得ることができた。しかしながら、Ｅ地点北側の遺構については、柱穴ピットが掘られていなかったり、竪穴建物跡の平面形態が歪んでいるものが見受けられるようになる。これは、竪穴建物跡が完全に掘りあげられた状態で図化が行われたのではなく、「荒掘り」状態のまま、見切り発車的に航空写真測量図化が行われてしまったことを示している。

当時の調査担当者としては、航空写真測量図化により、各遺構の位置を確定させた後で、個別の遺構を掘り上げ、平板により図化したものをはめ込んで、全体の平面図を完成させようと意図していた可能性もある。しかし、そもそも航空写真測量による図化が、通常の平板測量による図化を行った場合の発掘調査終了予定の期日に、絶望的に間に合わない状況となった窮余の一策として取り入れられた経緯があり、前述の意図は、叶うべくもなかった。

（3）遺物

遺物については、各遺構からの出土遺物を挿図に掲載しているが、検出遺物と遺構の平面形態との時期的な齟齬が見られるものが散見される。殊に、北側部分での遺構における出土遺物の齟齬が著しく、北側の竪穴建物跡では、南側での竪穴建物跡の遺物出土量に比べて、出土量が激減する。規格の

大きな竪穴建物跡に複数の帰属時期にまたがる遺物の出土が集中し、周囲の比較的規模の小さい竪穴建物跡は、殆ど掲載可能な遺物の出土がないという状況である。

このことは、前項で述べたように、竪穴建物跡が床面まで掘り上げられず、「荒掘り」状態で終わってしまったために、床面直上の遺物が取り上げられなかった可能性が高いことと、各遺構から取り上げられた遺物がその都度ラベル等を貼り付けていなかったために、多くの遺物が出土した遺構の遺物袋と混同して、持ち帰られたこと等が考えられる。

Ｅ地点の発掘調査は、南側から始められ、北西部の近世以降の墓域における掘り上げ作業に時間を取られ過ぎ、墓域から北側部分の調査されるべき遺構の掘り上げが、不完全になってしまった状況が見て取れる。北側部分については、核となるような竪穴建物跡は、何とか掘り上げることはできたが、周囲の竪穴建物跡については、遺構の位置把握までが精一杯で、時間切れとなってしまったのではあるまいか。現場の混乱ぶりが想像される。

（４）遺構番号

遺構番号についても、齟齬があると認めざるを得ない。本地点は、航空写真測量図化を行っており、平板測量図化を遺構ごとに行った前地点（Ａ～Ｄ地点）ほど、３基以上に跨って同一の遺構番号が重複するという状況は見られなかったが、遺構番号の重複及び欠落は、特に土坑等で多く見受けられた。

引用・参考文献

高橋康男『市原市向原台遺跡・東向原遺跡』財団法人　市原市文化財センター調査報告書第79集
上総国分寺台遺跡調査報告Ⅶ　財団法人　市原市文化財センター　2002
半田堅三「千葉県　市原市台遺跡Ｂ地点」財団法人　市原市文化財センター調査報告書第84集
上総国分寺台遺跡調査報告Ⅹ　財団法人　市原市文化財センター　2003
大村　直ほか「千葉県　市原市根田代遺跡」財団法人　市原市文化財センター調査報告書第92集
上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅢ　財団法人　市原市文化財センター　2005
浅利幸一ほか『市原市加茂遺跡Ａ・Ｂ地点』財団法人　市原市文化財センター調査報告書第94集
上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅤ　財団法人　市原市文化財センター　2005
木對和紀ほか「千葉県　市原市御林跡遺跡Ⅱ」市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第５集
上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅧ　市原市教育委員会　2008
木對和紀ほか「千葉県　市原市台遺跡Ｃ地点」市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第12集
上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅩⅡ　市原市教育委員会　2010
木對和紀ほか「千葉県　市原市台遺跡Ａ・Ｄ地点」市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第29集
上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅩⅤ　市原市教育委員会　2013



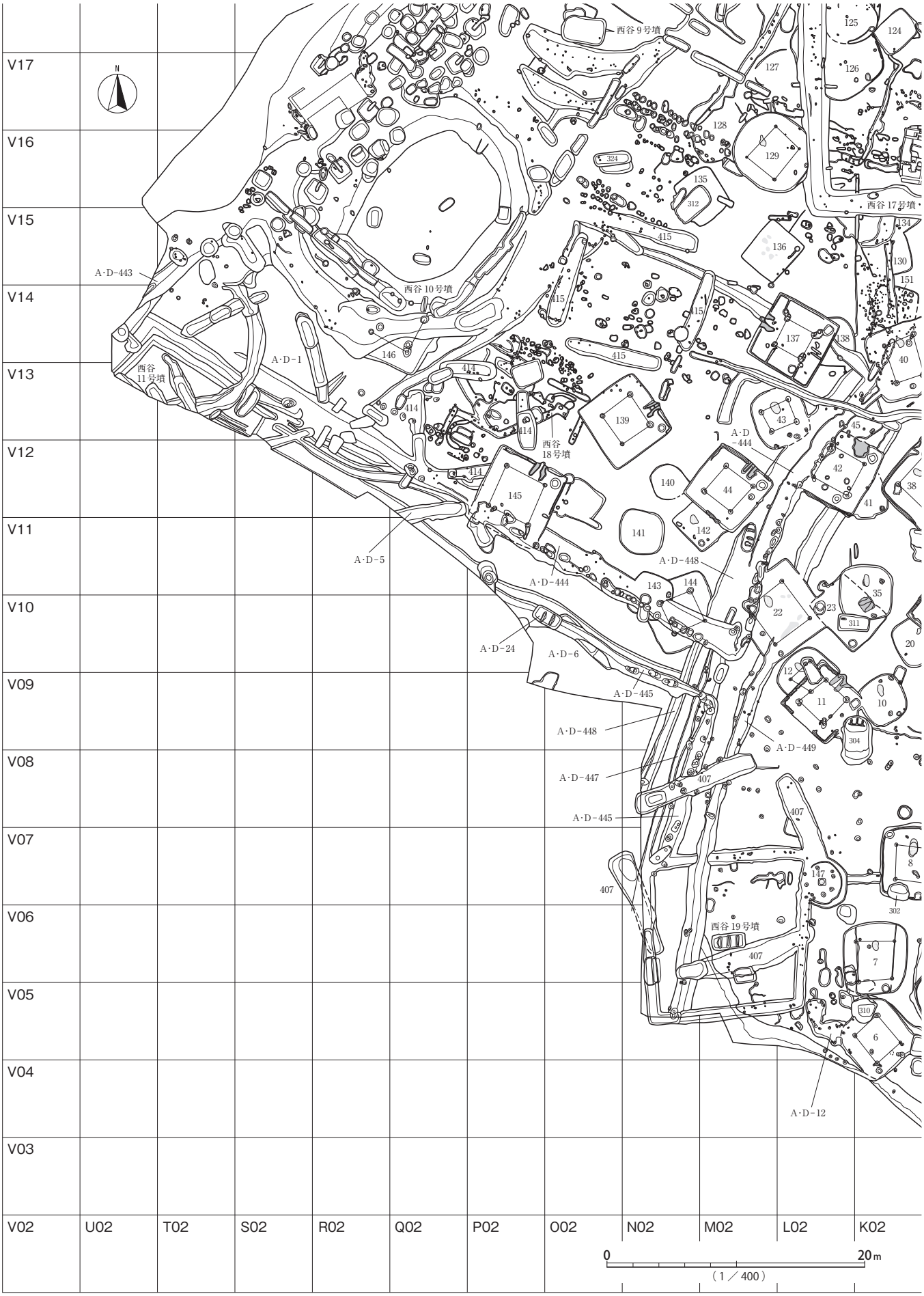
第4図　台遺跡E地点全体図



第5図　台遺跡E地点遺構配置図 1



第6図　台遺跡E地点遺構配置図 2



第7図　台遺跡E地点遺構配置図 3



第8図　台遺跡E地点遺構配置図 4

第1-1表　台遺跡E地点遺構観察表

遺構番号	遺構種	図番号	縮尺	位置	時期			法量（推定・現在長）（m）			深度（cm）	主軸方向	柱穴	備考
								主軸×副軸	上端面積	下端面積				
002	竪穴建物跡	9	1:80	H05	弥生	終末期前半	中台1式	(5.18) × (4.62)	(21.013)	—	26	N- 35° -W	4	
003	竪穴建物跡	10	1:80	J04	弥生	終末期後半	中台2-2式	(6.50) × (6.22)	(29.685)	(22.491)	65	N- 23° -W	3	
004	竪穴建物跡	10	1:80	J04	古墳	前期中葉	草刈2式か	—	(6.677)	—	27	N- 2° -W	—	
005	竪穴建物跡	10	1:80	J05	古墳	前期中葉	草刈2式	6.00 × 5.82	27.440	21.424	39	N- 25° -W	4	
006	竪穴建物跡	11	1:80	K05	古墳	前期後葉	草刈3-1式	(5.18) × 4.94	(23.984)	(20.688)	40	N- 42° -W	4	
007	竪穴建物跡	11	1:80	K06	古墳	前期前葉	草刈1式	5.64 × 4.98	24.325	22.528	29	N- 2° -W	4	
008	竪穴建物跡	11	1:80	K07	古墳	前期後葉	草刈3式か	5.96 × 4.96	26.624	21.658	32	N- 6° -E	4	
009	竪穴建物跡	13	1:80	J08	弥生	後期後半	不明	—	(6.613)	—	12	N- 15° -W	—	
010	竪穴建物跡	19	1:80	K09	古墳	前期前葉	草刈1式	3.64 × 3.60	11.168	9.664	33	N- 32° -W	—	
011	竪穴建物跡	19	1:80	L09	古墳	中期前半	和泉式	4.82 × 4.80	(22.112)	(19.787)	35	N- 43° -E	4	
012	竪穴建物跡	19	1:80	L09	弥生	終末期後半	中台2-1式か	(3.80) × 4.20	(15.482)	(14.005)	35	N- 49° -W	4	
013	竪穴建物跡	13	1:80	J09	古墳	前期前葉	草刈1式	(3.76) × 3.70	(14.357)	(12.896)	32	N- 87° -E	—	
014	竪穴建物跡	13	1:80	I09	古墳	前期前葉	草刈1式	(4.22) × 4.24	(17.280)	(14.773)	69	N- 26° -W	2	
015	竪穴建物跡	13	1:80	I09	古墳	前期前葉	草刈1式	(4.42) × (2.42)	(10.608)	(8.443)	40	N- 25° -W	4	
016	竪穴建物跡	16	1:80	J09	弥生	後期後半	山田橋式	(3.00) × 2.94	(7.344)	(7.264)	23	N- 43° -E	1	
017	竪穴建物跡	16	1:80	J10	弥生	終末期前半	中台1-2式	(3.38) × 4.00	(17.456)	(12.112)	24	N- 81° -E	—	
018	竪穴建物跡	16	1:80	I10	弥生	後期後半	山田橋式	3.78 × 3.57	(11.285)	(9.781)	56	N- 25° -W	4	
019	竪穴建物跡	16	1:80	I10	弥生	後期後半	山田橋式	5.63 × 4.78	22.037	20.650	40	N- 40° -W	4	
020	竪穴建物跡	19	1:80	K10	弥生	後期後半	山田橋式	3.70 × (2.80)	(8.939)	(7.488)	28	N- 34° -W	—	
021	竪穴建物跡	16	1:80	J10	古墳	中期末葉	鬼高式（古）	(4.98) × 4.97	(23.024)	(19.595)	25	N- 45° -E	4	
022	竪穴建物跡	20	1:80	M10	古墳	前期末葉	草刈3-2式	(6.18) × 5.98	(36.475)	(34.043)	17	N- 36° -W	4	
023	竪穴建物跡	19	1:80	L10	古墳	中期中葉	和泉式	(3.96) × 5.06	(18.240)	—	15	N- 45° -E	2	
025	竪穴建物跡	16	1:80	J11	古墳	前期後葉	草刈3式	4.56 × (4.10)	(17.061)	(15.099)	24	N- 42° -W	—	
026	竪穴建物跡	15	1:80	H10	古墳	前期中葉	草刈2式	(4.00) × 5.23	(17.776)	(16.896)	21	N- 33° -W	4	
027	竪穴建物跡	15	1:80	H10	古墳	前期後葉	草刈3式か	(4.96) × 4.81	(24.512)	(21.032)	34	N- 30° -W	4	
029	竪穴建物跡	15	1:80	H11	古墳	前期後葉	草刈3式	4.00 × (2.80)	(9.563)	—	37	N- 22° -W	4	

遺構番号	遺構種	図番号	縮尺	位置	時期			法量（推定・現在長）（m）			深度（cm）	主軸方向	柱穴	備考
								主軸×副軸	上端面積	下端面積				
030	竪穴建物跡	15	1:80	H11	古墳	前期後葉	草刈3式	5.76 × (5.81)	(31.669)	(28.576)	29	N- 24° -W	4	
031	竪穴建物跡	28	1:80	H12	古墳	中期中葉	和泉式	5.82 × 5.98	33.120	26.971	52	N- 65° -E	4	
032	竪穴建物跡	16	1:80	I11	古墳	中期末葉	鬼高式（古）	4.20 × 4.24	16.112	14.032	45	N- 23° -W	4	P1・P2・P4は柱抜き取り痕あり
033	竪穴建物跡	16	1:80	H12	弥生	後期後半	山田橋式か	(4.58) × (4.42)	(18.171)	—	27	N- 35° -E	1	
034	竪穴建物跡	16	1:80	I11	古墳	前期前葉	草刈1式	(2.94) × (3.58)	(12.981)	—	4	N- 61° -E	—	
035	竪穴建物跡	19	1:80	K11	古墳	前期前葉	草刈1式	(4.22) × 4.08	(15.184)	(12.773)	39	N- 0° -E	2	
036	竪穴建物跡	27	1:80	J12	弥生	後期後半	山田橋式	3.03 × 2.82	(7.477)	(6.336)	16	N- 23° -W	—	
037	竪穴建物跡	27	1:80	J11	古墳	前期中葉	草刈2式	(4.41) × 4.18	(16.133)	(13.877)	11	N- 39° -E	4	
038	竪穴建物跡	27	1:80	K12	古墳	前期中葉	草刈2式	5.32 × 5.98	(16.330)	(13.754)	25	N- 50° -W	4	P1・P2は柱抜き取り痕あり
039	竪穴建物跡か	27	1:80	K11	不明	—	—	—	(2.491)	—	26	—	—	
040	竪穴建物跡	27	1:80	K13	古墳	前期後葉	草刈3式	5.61 × (5.12)	(27.029)	(26.288)	41	N- 20° -W	4	
041	竪穴建物跡	27	1:80	K12	弥生	後期後半	山田橋式か	—	(5.322)	—	18	N- 5° -W	—	
042	竪穴建物跡	24	1:80	L12	古墳	中期中葉	和泉式	5.64 × (5.60)	(31.616)	—	26	N- 28° -E	4	P1・P3・P4は柱抜き取り痕あり
043	竪穴建物跡	34	1:80	L13	弥生	後期後半	山田橋式	(4.54) × 4.18	(15.834)	(14.565)	20	N- 24° -W	4	
044	竪穴建物跡	20	1:80	M12	古墳	中期中葉	和泉式	5.22 × 5.21	25.712	21.845	54	N- 42° -E	4	
045	竪穴建物跡	34	1:80	K13	古墳	中期前葉	和泉式	—	(11.755)	—	17	N- 27° -W	—	
046	竪穴建物跡	27	1:80	J14	古墳	前期か	不明	3.02 × (4.00)	(7.237)	(7.013)	16	N- 26° -E	—	焼土が2ヵ所に散る
047	竪穴建物跡	13	1:80	I06	弥生	後期後半	山田橋式	(4.20) × (4.00)	(11.040)	(10.224)	25	N- 50° -W	1	
048	竪穴建物跡	9	1:80	H06	弥生	後期後半	山田橋式	(4.61) × (4.23)	(12.640)	—	2	N- 19° -W	4	
049	竪穴建物跡	13	1:80	I08	古墳	前期	草刈2～3式	(4.82) × (4.78)	(8.773)	(7.984)	22	N- 11° -E	—	
050	竪穴建物跡	13	1:80	I08	古墳	中期後半	不明	5.08 × (5.06)	(25.616)	(24.112)	44	N- 41° -E	4	
051	竪穴建物跡	9	1:80	G06	弥生	後期後半	山田橋式	(5.26) × 4.78	(20.468)	(17.824)	30	N- 40° -W	3	
052	竪穴建物跡	30	1:80	F11	古墳	中期前葉	和泉式	—	(10.234)	(7.824)	55	N- 11° -W	—	
053	竪穴建物跡	30	1:80	F12	古墳	前期後葉	草刈3-1式	(5.66) × —	(13.147)	(12.968)	5	N- 20° -W	2	
054	竪穴建物跡	31	1:80	E13	古墳	前期中葉	草刈2式	(4.02) × (4.18)	(18.928)	(16.123)	28	N- 14° -W	4	
055	竪穴建物跡	30	1:80	G13	古墳	中期末葉	鬼高式（古）	(4.88) × (4.82)	(24.619)	—	25	N- 77° -E	4	
056	竪穴建物跡	30	1:80	G13	弥生	後期後半	山田橋式	—	(5.392)	(4.688)	26	N- 50° -W	—	

遺構番号	遺構種	図番号	縮尺	位置	時期			法量（推定・現在長）（m）			深度（cm）	主軸方向	柱穴	備考
								主軸×副軸	上端面積	下端面積				
057	竪穴建物跡	32	1:80	G14	古墳	前期末～中期	草刈3-2～和泉式	4.09 × —	(9.339)	—	22	N-22°-E	—	焼土が4ヵ所に散る
058	竪穴建物跡	31	1:80	F15	古墳	前期末葉	草刈3-2式	(5.18) × 5.18	(26.864)	(24.656)	33	N-45°-W	—	
060	竪穴建物跡	32	1:80	G13	古墳	前期後葉	草刈3-1式	—	(18.229)	—	13	N-33°-E	—	
061	竪穴建物跡	32	1:80	H14	古墳	前期後葉	草刈3-1式	3.37 × 3.38	9.456	8.693	25	N-47°-W	1	
062	竪穴建物跡	32	1:80	H14	古墳	前期後葉	草刈3-1式	—	(5.360)	(4.677)	45	N-48°-W	—	
063	竪穴建物跡	32	1:80	H14	弥生	後期後半	山田橋式か	—	(5.253)	(4.763)	25	N-47°-W	—	
064	竪穴建物跡	32	1:80	G15	古墳	前期	草刈1式	— × (4.42)	(19.205)	(18.416)	23	N-29°-W	2	
066	竪穴建物跡	40	1:80	D16	弥生	後期前半	久ヶ原式	— × (4.30)	(8.528)	(7.472)	14	N-16°-W	—	
067	竪穴建物跡	40	1:80	C17	弥生	後期前半	久ヶ原式か	3.94 × 3.58	10.688	9.050	20	N-7°-W	—	
068	竪穴建物跡	40	1:80	C17	弥生	後期後半	山田橋式	(4.40) × —	(15.936)	(14.698)	83	N-11°-W	2	
069	竪穴建物跡	40	1:80	C18	弥生	後期前半	久ヶ原式	4.40 × 3.80	13.067	11.840	36	N-52°-W	4	
071	竪穴建物跡	57	1:80	C22	古墳	前期中葉	草刈2式	4.36 × (4.20)	(16.976)	(14.741)	13	N-41°-E	—	
072	竪穴建物跡	44	1:80	G16	古墳	前期中葉～後葉	草刈2～3式か	—	(2.394)	(2.181)	17	N-83°-W	—	焼土が1ヵ所に散る
073	竪穴建物跡	44	1:80	H17	弥生	終末期後半	中台2-2式	4.18 × 3.66	12.810	11.728	44	N-36°-W	—	
074	竪穴建物跡	44	1:80	G17	古墳	中期前半	和泉式	4.36 × (4.00)	(12.106)	(10.768)	12	N-37°-W	—	
075	竪穴建物跡	44	1:80	H18	弥生	終末期後半	中台2式か	4.10 × (4.00)	(16.421)	(15.424)	35	N-32°-W	—	
076	竪穴建物跡	44	1:80	G17	古墳	前期後葉	草刈3-1式	—	—	—	9	N-30°-W	—	
077	竪穴建物跡	44	1:80	F17	弥生	後期前半	久ヶ原式	(5.32) × —	(15.413)	(14.885)	20	N-6°-W	—	
078	竪穴建物跡	44	1:80	G18	古墳	中期中葉	和泉式	(7.68) × 6.76	(46.165)	(44.474)	19	N-57°-W	—	
079	竪穴建物跡	44	1:80	G17	弥生	後期後半	山田橋式	(5.40) × (4.82)	(21.776)	—	11	N-77°-W	4	
080	竪穴建物跡	43	1:80	G19	弥生	後期後半	山田橋式	—	(5.354)	(5.242)	12	N-34°-W	—	
081	竪穴建物跡	43	1:80	F19	古墳	前期後葉	草刈3式	(5.46) × 5.74	(26.480)	(23.125)	40	N-15°-E	4	
082	竪穴建物跡	41	1:80	E19	弥生	後期前半	久ヶ原式	—	(4.730)	—	12	N-8°-W	—	
083	竪穴建物跡	41	1:80	E19	古墳	前期前葉	草刈1式	(4.02) × (4.37)	(12.698)	—	15	N-25°-W	—	
084	竪穴建物跡	52	1:80	D20	古墳	中期	和泉式	5.19 × (4.58)	(21.541)	(20.296)	52	N-69°-W	3	
085	竪穴建物跡	52	1:80	D20	古墳	前期後葉	草刈3-1式	(4.98) × 4.94	(20.618)	(19.674)	28	N-29°-W	—	
086	竪穴建物跡	41	1:80	E18	弥生	後期前半	久ヶ原式	(4.10) × (4.30)	(12.757)	(11.546)	37	N-11°-W	—	

遺構番号	遺構種	図番号	縮尺	位置	時期			法量（推定・現在長）（m）			深度（cm）	主軸方向	柱穴	備考
								主軸×副軸	上端面積	下端面積				
087	竪穴建物跡	41	1:80	F17	古墳	前期中葉	草刈2式	(5.00) × (5.06)	(23.856)	—	9	N-34°-W	2	住居形態不明瞭
088	竪穴建物跡	57	1:80	B23	弥生	後期後半	山田橋式	(4.62) × —	(17.456)	(16.688)	38	N-10°-E	—	
089	竪穴建物跡	57	1:80	C23	弥生	後期前半	久ヶ原式	3.18 × (2.58)	(6.416)	(5.370)	57	N-6°-E	—	
090	竪穴建物跡	56	1:80	C22	不明	—	—	(2.00) × (2.08)	(1.197)	(1.136)	18	N-9°-E	—	
091	竪穴建物跡	56	1:80	C23	弥生	後期後半～終末期	山田橋～中台1式	3.62 × (2.18)	(7.301)	(6.496)	15	N-81°-W	—	
092	竪穴建物跡	56	1:80	D23	古墳	中期中葉	和泉式	6.54 × 6.19	35.476	31.824	24	N-72°-W	4	
093	竪穴建物跡	56	1:80	E23	弥生	後期	久ヶ原～山田橋式	4.00 × (2.53)	(9.946)	(8.613)	26	N-22°-E	—	
094	竪穴建物跡	53	1:80	F23	弥生	後期前半	久ヶ原式	2.92 × 2.12	4.570	3.589	41	N-30°-E	—	
095	竪穴建物跡	53	1:80	G23	古墳	中期末葉	鬼高式（古）	3.78 × 3.17	(10.530)	(8.432)	33	N-52°-W	—	
096	竪穴建物跡	54	1:80	F24	古墳	中期前半	和泉式	6.64 × 6.60	33.904	29.994	39	N-31°-E	4	
097	竪穴建物跡	54	1:80	F24	弥生	後期前半	久ヶ原～山田橋式	— × (6.39)	(8.325)	(6.181)	26	N-22°-E	1	
098	竪穴建物跡	58	1:80	C25	弥生	後期前半	久ヶ原～山田橋式	4.34 × 4.00	13.658	12.016	11	N-10°-W	4	
099	竪穴建物跡	58	1:80	C26	古墳	前期後葉	草刈3-1式	(3.78) × —	(4.229)	(3.760)	16	N-28°-W	—	
100	竪穴建物跡	61	1:80	F28	古墳	中期後葉～末葉	—	9.81 × 10.01	92.380	80.730	20	N-41°-E	4	
101	竪穴建物跡	63	1:80	G28	弥生	後期後半	山田橋式か	4.78 × 4.23	(16.320)	(14.736)	36	N-46°-W	4	
102	竪穴建物跡	63	1:80	H27	古墳	中期末葉	鬼高式（古）	6.42 × (6.20)	(36.325)	(34.688)	33	N-34°-E	4	
103	竪穴建物跡	63	1:80	G27	弥生	後期前半	久ヶ原式	(5.50) × 5.42	(20.272)	(18.362)	37	N-32°-W	4	
104	竪穴建物跡	63	1:80	H26	弥生	後期後半	山田橋式か	3.62 × 3.38	9.088	8.800	33	N-43°-W	—	
105	竪穴建物跡	65	1:80	I26	弥生	後期後半	山田橋式か	(5.86) × 5.44	(23.868)	(22.810)	15	N-44°-W	4	
106	竪穴建物跡	54	1:80	G24	不明	—	—	(2.98) × —	(5.840)	(5.168)	12	N-4°-E	—	
107	竪穴建物跡	54	1:80	F24	古墳	中期中葉	和泉式	5.64 × (5.70)	(2.650)	(2.496)	30	N-31°-E	3	
108	竪穴建物跡	59	1:80	C29	古墳	前期前葉	草刈1式か	(7.39) × (7.22)	(42.032)	(41.904)	45	N-69°-W	—	
109	竪穴建物跡	68	1:80	D30	古墳	前期前葉～中葉	草刈1～2式	(3.20) × (2.68)	(6.149)	(4.976)	14	N-66°-W	—	
110	竪穴建物跡	67	1:80	E30	古墳	中期中葉	和泉式	(4.80) × —	—	—	4	N-55°-W	—	
111	竪穴建物跡	60	1:80	E29	弥生	後期後半	山田橋式	(4.00) × (3.08)	(10.064)	(9.168)	17	N-2°-E	—	
112	竪穴建物跡	61	1:80	F29	弥生	後期後半	山田橋式	(6.12) × (5.18)	(23.728)	—	5	N-42°-W	4	P1・P2及びP4は柱抜き取り痕跡あり
113	竪穴建物跡	53	1:80	G22	弥生	後期後半	山田橋式	6.34 × 5.61	(30.453)	(27.301)	4	N-49°-W	4	

遺構番号	遺構種	図番号	縮尺	位置	時期			法量（推定・現在長）（m）			深度（cm）	主軸方向	柱穴	備考
								主軸×副軸	上端面積	下端面積				
114	竪穴建物跡	52	1:80	E22	弥生	後期後半	山田橋式	5.62 × 4.97	(23.018)	(20.128)	4	N- 39° -W	4	
116	竪穴建物跡	52	1:80	D21	弥生	後期前半	久ヶ原式	(1.18) × (3.00)	(2.330)	(2.256)	18	N- 5° -E	—	
117	竪穴建物跡	52	1:80	D21	弥生	後期前半	久ヶ原～山田橋式	4.17 × 3.32	10.234	8.661	33	N- 10° -E	—	
118	竪穴建物跡	52	1:80	E21	弥生	終末期	中台式か	(3.62) × 3.62	(9.893)	(8.976)	17	N- 61° -W	—	
119	竪穴建物跡	43	1:80	G19	縄文	中期後半	加曽利E式か	(5.84) × —	(3.430)	(2.405)	34	N- 3° -W	—	
120	竪穴建物跡	44	1:80	G18	古墳	中期後半	和泉式	(3.41) × (3.60)	(7.514)	(6.789)	29	N- 5° -E	—	
123	竪穴建物跡	45	1:80	I17	古墳	中期末葉～後期初頭	鬼高式（古）	5.54 × (6.21)	(22.437)	(18.192)	49	N- 65° -W	—	
124	竪穴建物跡	46	1:80	K18	古墳	中期末葉	鬼高式（古）	(2.48) × (3.23)	(7.258)	(6.389)	29	N- 40° -W	—	
125	竪穴建物跡	46	1:80	L18	弥生	後期前半	久ヶ原式か	4.59 × (4.08)	(14.437)	(12.997)	15	N- 36° -W	—	
126	竪穴建物跡	46	1:80	L17	弥生	後期前半	久ヶ原式か	(7.00) × (6.08)	(16.752)	(16.026)	31	N- 42° -W	—	
127	竪穴建物跡	48	1:80	L17	不明	—	—	(4.20) × (3.81)	(10.234)	(9.957)	10	N- 33° -W	—	
128	竪穴建物跡	48	1:80	M16	弥生	終末期	中台式か	(4.64) × 4.43	(15.795)	(13.531)	9	N- 20° -W	—	
129	竪穴建物跡	48	1:80	M16	弥生	後期後半	山田橋式か	6.05 × 5.72	(26.597)	(23.157)	56	N- 51° -W	4	
130	竪穴建物跡	37	1:80	K15	古墳	前期	草刈式か	(3.43) × 3.42	(9.623)	(9.003)	21	N- 16° -W	—	
131	竪穴建物跡	39	1:80	I16	古墳	中期中葉	和泉式	7.78 × 7.98	57.624	52.922	24	N- 29° -E	4	
132	竪穴建物跡	39	1:80	I15	弥生	後期後半～終末期	山田橋～中台式か	— × (4.20)	(3.872)	(3.562)	28	N- 49° -E	—	
134	竪穴建物跡	37	1:80	K15	弥生	終末期～古墳前	中台～草刈式か	(5.60) × —	(9.989)	(9.163)	23	N- 58° -E	—	
135	竪穴建物跡	48	1:80	M16	古墳	前期	草刈式	3.82 × (3.40)	(12.123)	(10.987)	13	N- 32° -W	—	
136	竪穴建物跡	34	1:80	M15	古墳	前期	草刈式	3.84 × 3.21	13.008	12.074	48	N- 40° -E	1	
137	竪穴建物跡	34	1:80	L14	古墳	中期中葉	和泉式	5.61 × 5.58	28.731	25.824	49	N- 60° -W	4	
138	竪穴建物跡	34	1:80	L14	古墳	前期	草刈式か	3.81 × (3.80)	(10.656)	-	24	N- 2° -W	1	
139	竪穴建物跡	23	1:80	O13	古墳	中期後葉	和泉式	5.43 × 5.62	27.173	26.650	41	N- 54° -E	4	
140	竪穴建物跡	21	1:80	N12	不明	—	—	(2.76) × 2.61	(5.520)	—	25	N- 20° -W	—	
141	竪穴建物跡	21	1:80	N11	不明	—	—	3.41 × 3.43	10.427	8.971	5	N- 5° -E	—	
142	竪穴建物跡	20	1:80	M11	古墳	前期	草刈式か	3.43 × (2.41)	(12.235)	—	12	N- 38° -W	2	
143	竪穴建物跡	21	1:80	N11	古墳	前期中葉	草刈2式	3.39 × (3.42)	(9.781)	—	23	N- 29° -E	—	

遺構番号	遺構種	図番号	縮尺	位置	時期			法量（推定・現在長）（m）			深度（cm）	主軸方向	柱穴	備考
								主軸×副軸	上端面積	下端面積				
144	竪穴建物跡	21	1:80	N10	古墳	中期後半	和泉式	5.44 × 5.36	(4.640)	(4.240)	11	N-21°-W	4	
145	竪穴建物跡	22	1:80	P12	古墳	中期末葉	鬼高式（古）	(6.21) × 5.97	(35.088)	(31.232)	37	N-26°-E	4	
146	竪穴建物跡	35	1:80	Q14	古墳	中期末葉	鬼高式（古）	(6.02) × (5.92)	(8.992)	(6.821)	31	N-68°-W	3	
147	竪穴建物跡	14	1:80	L07	縄文	中期	—	3.87 × (4.02)	(10.954)	(9.637)	42	N-13°-W	9	
148	竪穴建物跡	56	1:80	D24	古墳	中期中葉	和泉式か	(5.38) × (5.18)	(25.712)	(24.496)	19	N-31°-E	4	
149	竪穴建物跡	68	1:80	C32	不明	—	—	— × (3.43)	(6.144)	(4.896)	20	N-4°-W	—	
151	竪穴建物跡	37	1:80	K14	古墳	前期	—	(3.40) × (3.52)	(9.333)	—	17	N-13°-E	2	
152	竪穴建物跡	30	1:80	G12	古墳	前期	草刈式	(5.12) × (4.94)	(22.768)	—	28	N-36°-W	—	
153	竪穴建物跡	27	1:80	J14	不明	—	—	(2.84) × (2.97)	—	—	10	N-22°-W	—	
156	竪穴建物跡	30	1:80	F13	弥生	後期	久ヶ原～山田橋式	4.03 × —	—	—	15	N-26°-E	—	
301	土坑跡	10	1:80	J05	古墳	終末期	—	1.61 × 1.61	2.416	1.296	116	N-4°-E	—	地下式横穴墓と考えられる
302	土坑跡	11	1:80	K07	中世	—	—	1.68 × 1.38	1.882	0.661	108	N-80°-W	—	地下式坑と考えられる
303	土坑跡	13	1:80	J07	不明	—	—	1.23 × 0.80	7.179	1.019	75	N-9°-W	—	
304	土坑跡	19	1:80	K09	古墳	終末期	—	3.78 × 1.23	7.146	1.392	156	N-2°-E	—	地下式横穴墓と考えられる
305	土坑跡	27	1:80	K11	不明	—	—	1.84 × 1.41	2.491	0.192	142	N-94°-E	—	
306	土坑跡	40	1:80	D17	不明	—	—	2.43 × 1.70	2.842	1.760	73	N-17°-E	—	
307	土坑跡	40	1:80	C18	不明	—	—	2.18 × 1.24	2.341	1.467	75	N-9°-E	—	
308	土坑跡	50	1:80	C19	中世	—	—	2.18 × 1.48	2.976	0.468	70	N-7°-E	—	方形竪穴か
309	土坑跡	50	1:80	C21	古墳	終末期	—	4.56 × 1.64	5.722	0.378	116	N-10°-E	—	地下式横穴墓と考えられる
310	土坑跡	11	1:80	K05	中世	—	—	1.72 × 1.94	2.704	0.992	150	N-91°-W	—	地下式坑
311	土坑跡	19	1:80	L10	不明	—	—	1.43 × 1.21	2.488	2.160	54	N-94°-E	—	
312	土坑跡	48	1:80	N16	不明	—	—	3.03 × 1.62	4.672	4.272	59	N-50°-E	—	
313	土坑跡	57	1:80	C23	不明	—	—	2.96 × 1.56	(3.320)	(1.648)	99	N-9°-W	—	
314	土坑跡	56	1:80	C23	中世	—	—	3.63 × 3.51	8.688	5.914	115	N-2°-E	—	地下式坑
315	土坑跡	9	1:80	H05	中世	—	—	1.97 × 1.58	(2.474)	(2.256)	51	N-34°-W	—	方形竪穴
316	土坑跡	40	1:80	C17	不明	—	—	1.64 × 0.98	1.376	0.869	50	N-9°-E	—	
317	土坑跡	40	1:80	B16	不明	—	—	4.58 × (1.21)	(8.827)	(5.627)	52	N-8°-E	—	

遺構番号	遺構種	図番号	縮尺	位置	時期			法量（推定・現在長）（m）			深度（cm）	主軸方向	柱穴	備考
								主軸×副軸	上端面積	下端面積				
318	土坑跡	52	1:80	D20	不明	—	—	1.22 × 0.83	0.886	0.368	57	N- 12° -E	—	
319	土坑跡	52	1:80	D20	不明	—	—	1.59 × 1.22	1.445	0.762	67	N- 66° -E	—	
320	土坑跡	50	1:80	C20	不明	—	—	1.41 × 1.17	1.578	0.890	48	N- 8° -E	—	
323	土坑跡	45	1:80	I18	不明	—	—	2.08 × 1.06	2.117	1.413	52	N- 4° -W	—	
324	土坑跡	36	1:80	O16	不明	—	—	1.84 × 1.02	3.861	2.661	54	N- 93° -W	—	
325	土坑跡	57	1:80	C24	不明	—	—	2.23 × 1.19	2.896	1.536	71	N- 10° -E	—	
326	土坑跡	54	1:80	G24	不明	—	—	2.40 × 0.97	2.133	1.327	78	N- 34° -W	—	
327	土坑跡	59	1:80	C28	不明	—	—	3.68 × 1.84	5.710	4.521	46	N- 62° -E	—	
328	土坑跡	59	1:80	D28	不明	—	—	2.02 × 1.35	2.432	1.701	72	N- 41° -E	—	
329	土坑跡	59	1:80	C28	不明	—	—	2.39 × 1.06	2.170	1.333	82	N- 46° -E	—	
330	土坑跡	60	1:80	D27	不明	—	—	2.06 × 1.18	1.722	1.408	58	N- 7° -E	—	
331	土坑跡	54	1:80	F23	不明	—	—	1.42 × 1.03	0.896	0.560	66	N- 27° -W	—	
332	土坑跡	61	1:80	F27	不明	—	—	2.58 × 1.64	3.760	2.235	60	N- 39° -E	—	
333	土坑跡	61	1:80	F27	不明	—	—	(1.20) × 1.00	(1.435)	(0.480)	43	N- 42° -E	—	
334	土坑跡	63	1:80	G27	不明	—	—	1.99 × 1.41	2.165	1.648	54	N- 33° -E	—	
335	土坑跡	61	1:80	F28	不明	—	—	1.12 × 0.63	0.389	0.149	—	N- 32° -E	—	
336	土坑跡	67	1:80	F31	不明	—	—	(1.91) × 1.40	(2.576)	1.256	81	N- 55° -E	—	
337	土坑跡	67	1:80	E31	不明	—	—	1.76 × 1.43	2.384	1.040	96	N- 28° -W	—	
338	土坑跡	67	1:80	E32	不明	—	—	1.19 × 1.16	1.104	0.656	93	N- 91° -W	—	
339	土坑跡	67	1:80	E32	不明	—	—	0.88 × 0.98	0.432	0.368	22	N- 28° -W	—	
340	土坑跡	67	1:80	D32	不明	—	—	1.23 × 0.96	1.072	0.656	67	N- 27° -E	—	
341	土坑跡	67	1:80	E31	不明	—	—	2.81 × 1.76	4.480	3.424	104	N- 28° -W	—	
342	土坑跡	67	1:80	D30	不明	—	—	1.18 × 0.62	1.072	0.784	40	N- 38° -W	—	
343	土坑跡	67	1:80	D31	不明	—	—	1.19 × 0.84	0.784	0.368	41	N- 38° -W	—	
344	土坑跡	67	1:80	E31	不明	—	—	(0.86) × 0.61	(0.432)	0.176	39	N- 55° -E	—	
345	土坑跡	67	1:80	E31	不明	—	—	0.99 × 0.59	0.464	0.272	63	N- 40° -W	—	
346	土坑跡	67	1:80	E31	不明	—	—	0.81 × 0.62	0.432	0.272	46	N- 24° -W	—	

遺構番号	遺構種	図番号	縮尺	位置	時期			法量（推定・現在長）（m）			深度（cm）	主軸方向	柱穴	備考
								主軸×副軸	上端面積	下端面積				
347	土坑跡	68	1:80	D32	不明	—	—	1.18 × 1.15	1.008	0.592	57	N- 62° -W	—	
348	土坑跡	53	1:80	G23	不明	—	—	1.98 × 0.86	1.563	0.800	101	N- 40° -E	—	
423	土坑跡	66	1:80	F30	不明	—	—	1.56 × 1.18	1.205	1.008	17	N- 39° -E	—	
424	土坑跡	66	1:80	G30	不明	—	—	0.64 × 0.42	0.176	0.064	—	N- 27° -E	—	
425	土坑跡	66	1:80	F29	不明	—	—	1.16 × 0.59	0.512	0.176	42	N- 33° -E	—	
426	土坑跡	66	1:80	F29	不明	—	—	0.83 × 0.42	0.320	0.160	48	N- 36° -E	—	
427	土坑跡	66	1:80	F29	不明	—	—	1.12 × 0.80	(0.656)	(0.192)	47	N- 78° -W	—	
428	土坑跡	66	1:80	F29	不明	—	—	0.93 × 0.77	0.544	0.128	59	N- 52° -E	—	
429	土坑跡	66	1:80	G29	不明	—	—	0.61 × 0.44	0.192	0.064	18	N- 28° -E	—	
430	土坑跡	66	1:80	G29	中世	—	—	0.66 × 0.60	0.288	0.112	22	N- 42° -E	—	
431	土坑跡	66	1:80	G29	不明	—	—	0.72 × 0.59	0.298	0.123	17	N- 4° -W	—	
432	土坑跡	66	1:80	G29	不明	—	—	0.78 × 0.60	(0.357)	0.229	40	N- 55° -W	—	
433	土坑跡	66	1:80	G29	不明	—	—	0.92 × 0.64	0.528	0.304	45	N- 6° -E	—	
434	土坑跡	66	1:80	G29	不明	—	—	1.04 × 0.82	0.560	0.336	20	N- 80° -E	—	
435	土坑跡	66	1:80	G29	不明	—	—	0.99 × 0.78	0.661	0.085	85	N- 38° -E	—	掘り直しの痕跡ありか
436	土坑跡	66	1:80	G29	中世	—	—	(1.26) × 0.76	(0.373)	(0.090)	—	N- 61° -E	—	複数の掘り直しがある複合土坑か
437	土坑跡	66	1:80	G29	不明	—	—	(1.04) × (0.66)	(0.240)	(0.080)	—	N- 76° -E	—	複数の掘り直しがある複合土坑か
438	土坑跡	66	1:80	F29	不明	—	—	1.34 × 1.28	1.424	0.704	37	N- 1° -E	—	
439	土坑跡	66	1:80	F29	中世	—	—	1.05 × 0.81	0.720	0.368	46	N- 86° -E	—	
440	土坑跡	66	1:80	G29	中世	—	—	1.04 × 0.83	0.928	0.416	78	N- 21° -E	—	
441	土坑跡	66	1:80	G29	中世	—	—	1.81 × 0.86	(1.056)	(0.418)	39	N- 57° -W	—	
442	土坑跡	66	1:80	G29	中世	—	—	1.04 × 0.84	0.848	0.496	56	N- 45° -E	—	板碑・五輪塔が出土している
443	土坑跡	66	1:80	G29	中世	—	—	1.06 × 1.03	0.880	0.560	47	N- 45° -W	—	
444	土坑跡	66	1:80	G29	中世	—	—	1.01 × 0.72	0.592	0.256	52	N- 26° -E	—	
445	土坑跡	66	1:80	G29	中世	—	—	1.03 × 0.67	0.628	0.400	35	N- 36° -E	—	
446	土坑跡	66	1:80	G29	中世	—	—	1.22 × 0.85	0.928	0.272	78	N- 48° -W	—	板碑が出土している
447	土坑跡	66	1:80	G28	中世	—	—	0.80 × 0.64	0.384	0.192	37	N- 35° -E	—	

遺構番号	遺構種	図番号	縮尺	位置	時期			法量（推定・現在長）（m）			深度（cm）	主軸方向	柱穴	備考
								主軸×副軸	上端面積	下端面積				
448	土坑跡	66	1:80	G28	中世	—	—	0.96 × 0.64	0.432	0.176	40	N-12°-W	—	
449	土坑跡	66	1:80	G28	中世	—	—	1.04 × 0.70	0.656	0.176	28	N-30°-E	—	板碑が出土している
451	土坑跡	66	1:80	G28	近世	—	—	1.02 × 0.81	0.624	0.341	102	N-59°-E	—	銭埋納遺構と考えられる
452	土坑跡	66	1:80	E29	中世	—	—	1.03 ×（0.64）	（1.237）	（0.752）	27	N-79°-W	—	
460	土坑跡	66	1:80	F28	不明	—	—	0.43 × 0.40	0.144	0.053	15	N-84°-E	—	
461	土坑跡	66	1:80	F29	中世	—	—	0.69 × 0.41	0.240	0.112	16	N-38°-W	—	
462	土坑跡	66	1:80	F28	不明	—	—	（0.67）× —	（0.053）	—	—	N-30°-W	—	
463	土坑跡	66	1:80	F29	不明	—	—	0.80 × 0.84	0.496	0.219	21	N-79°-W	—	
465	土坑跡	66	1:80	F28	不明	—	—	0.81 × 0.59	0.379	0.197	19	N-43°-E	—	
466	土坑跡	61	1:80	E28	不明	—	—	1.43 × 0.61	0.763	—	—	N-97°-E	—	
468	土坑跡	66	1:80	F28	中世	—	—	0.81 × 0.78	0.432	0.304	15	N-47°-W	—	周囲は板碑・五輪塔が集中している
472	土坑跡	52	1:80	D22	近世	—	—	2.38 × 1.61	2.776	2.048	61	N-4°-E	—	
473	土坑跡	67	1:80	E30	中世	15C前半	常滑9型式	—	—	—	—	N-92°-W	—	常滑産大甕2点が出土している
474	土坑跡	59	1:80	C30	中世か	—	—	（1.97）× 0.74	（1.168）	—	92	N-32°-W	—	火葬土坑
475	土坑跡	59	1:80	D29	中世か	—	—	1.39 × 0.75	0.432	0.272	（燃焼部）25	N-36°-E	—	火葬土坑・T字状ピット
476	土坑跡	59	1:80	D29	中世か	—	—	（1.59）× 1.42	（1.269）	（0.848）	（煙道部）36 （燃焼部）29	N-33°-W	—	火葬土坑
477	土坑跡	66	1:80	F30	中世か	—	—	1.12 × 0.86	1.256	0.933	（煙道部）20 （燃焼部）39	N-30°-W	—	火葬土坑・T字状ピット・燃焼部と煙道部の間に天井部残存
478	土坑跡	66	1:80	F28	中世か	—	—	1.56 × 1.01	（0.820）	（0.576）	（燃焼部）15	N-49°-W	—	火葬土坑・T字状ピット・3基の火葬土坑が複合している
479	土坑跡	66	1:80	F28	中世か	—	—	1.76 × 0.99	（1.173）	（1.146）	（煙道部）8 （燃焼部）19	N-40°-E	—	火葬土坑・T字状ピット・3基の火葬土坑が複合している
480	土坑跡	66	1:80	E28	中世か	—	—	1.43 × 0.91	0.757	0.608	（燃焼部）31	N-130°-E	—	火葬土坑・T字状ピット・3基の火葬土坑が複合している
481	土坑跡	66	1:80	F28	中世か	—	—	1.17 × 0.61	0.432	0.192	—	N-56°-W	—	火葬土坑・T字状ピット・隣接地は五輪塔集中地点
482	土坑跡	60	1:80	E29	中世か	—	—	4.23 × 1.58	3.712	1.579	33	N-57°-W	—	火葬土坑・T字状ピット
483	土坑跡	60	1:80	E29	中世か	—	—	2.22 × 0.78	1.130	0.443	56	N-76°-W	—	火葬土坑・T字状ピット

第1-2表　台遺跡E地点遺構（方形周溝墓）観察表

遺構番号	遺構種	図番号	縮尺	位置	時期		方位	法量（推定・長さ）（m）						深度（cm）	主体部	主軸方向	備考
								方台部主軸×副軸	方台部面積	長さ	幅	上端面積	下端面積				
407	方形周溝墓	14	1:80	N08	弥生	中期か	東側周溝	（12.43）×12.18	145.303	（10.40）	1.61～1.94	12.800	9.643	29～37	—	N-70°-E	東側周溝は、147号竪穴により削平される。南及び西側周溝は、西谷19号墳により削平される。
							西側周溝			8.28	（1.40）～2.08	12.373	7.531	—			
							南側周溝			11.21	0.79～1.08	20.077	12.716	48～50			
							北側周溝			9.84	1.41～1.59	15.840	10.987	40～45			
414	方形周溝墓	22	1:80	Q13	弥生	中期か	東側周溝	7.00×6.71	43.867	4.56	0.97～1.44	5.488	3.781	41～50	—	N-86°-E	東及び北側周溝は、西谷18号墳により削平される。南側周溝は、145号竪穴及び区画溝により削平される。
							西側周溝			（5.20）	0.84～（1.21）	4.165	2.171	31			
							南側周溝			（4.80）	0.58～1.11	5.035	2.875	31～34			
							北側周溝			4.37	1.23～1.46	5.147	2.544	34～44			
415	方形周溝墓	36	1:80	O15	弥生	中期か	東側周溝	8.98×8.59	71.328	6.43	1.01～1.31	6.944	5.189	38～43	—	N-74°-W	東側周溝が、区画溝により削平される。
							西側周溝			7.60	0.97～1.60	8.101	4.891	36～45			
							南側周溝			7.60	0.99～1.39	8.527	5.397	33～49			
							北側周溝			（7.56）	1.22～1.53	9.397	8.853	23～35			
419	方形周溝墓	49	1:80	N19	弥生	中期か	東側周溝	6.06×5.99	34.901	2.23	0.97～1.19	2.202	1.338	26	—	N-49°-W	東側周溝の一部は、土坑（西谷9号墳の土坑墓か）により削平される。
							西側周溝			4.39	0.67～0.81	3.125	1.536	34～38			
							南側周溝			（4.03）	0.88～1.03	3.397	2.016	34～39			
							北側周溝			4.61	0.78～0.94	3.728	2.320	31			
420	方形周溝墓	46	1:80	J18	弥生	中期か	東側周溝	—	—	4.63	0.62～0.78	3.088	1.792	12～17	—	N-44°-W	東側周溝及び南側周溝の一部のみ残存。西側周溝及び北側周溝は、124～126号竪穴及び西谷17号墳により削平される。
							西側周溝			—	—	—	—	—			
							南側周溝			（1.24）	0.44～0.79	（0.683）	（0.459）	16			
							北側周溝			—	—	—	—	—			

Ⅱ　遺構と遺物

1　竪穴建物跡

概要

調査によって検出された竪穴建物跡は、143軒ある。弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物跡を中心とし、北側部分に古墳時代中期から後期初頭の竪穴建物跡が存在する。古墳時代中期末から後期初頭の竪穴建物跡は大型化しているものがあり、後述する100号遺構（竪穴建物跡）は多くの土器が運び込まれた土器祭祀が行われた特殊な遺構であったことが考えられ、123号遺構は、石製模造品である臼玉を主体とした祭祀が行われていた遺構と考えられる。

2号遺構（竪穴建物跡）（第9・12・71・72図）

位置　調査区の南側H05グリッドに位置する。

形態　隅丸方形を呈する。北側部分を西谷15号墳及び315号遺構（土坑跡）により切られている。いずれの遺構よりも、本遺構の方が古い。

構造　平面規模は(5.18)×(4.62)m、遺構深度26cmを測る。主軸方位は、N－35°－Wであり、上端面積(21.013)㎡を測る。柱穴は4本を数える。P5東脇の土坑P6は貯蔵穴であろうか。炉は、P1－P2間の中央に位置している。壁溝は、西辺の一部で検出された。遺物は、遺構内南側及び東側から広口壺1が、中央部付近から壺9などが出土し、南側P5付近から甕7が、南側から壺頸部3、広口壺5や甕8などが出土している。他に、壺の胴部片18、19、21などが出土しているが混入であろう。古相の印象を受ける遺物も出土しているが、竪穴建物跡の形態から弥生時代終末期前半中台1式期の遺構と考えられる。

3号遺構（竪穴建物跡）（第10・12・72・73図）

位置　調査区の南端J04グリッドに位置する。

形態　隅丸方形を呈する。南側部分が削平されてしまっており、東側において、西谷2号墳と重複している。本遺構の方が古いと考えられる。

構造　平面規模は(6.50)×(6.22)mを測り、遺構深度は65cmを測る。主軸方位は、N－23°－Wを向いており、上端面積(29.685)㎡、下端面積(22.491)㎡を測る。柱穴は3本を数える。炉は、P1－P2間のほぼ中央に位置している。方位は、本遺構の主軸方位とほぼ同一である。壁溝は、検出されなかった。遺物は、西側から壺口縁部5及び東側から輪積み痕を残した台付甕8が出土し、炉南東脇から高杯3が出土し、P2付近から甕上半部9が出土している。また、P1付近からは頸部に連続刺突を施した甕10が出土している。他には、南東壁直下付近において、赤彩を施した広口壺7などが出土している。出土遺物の帰属時期に幅があるが、遺構形態の特徴から弥生時代終末期後半中台2－2式期の遺構と考えられる。

4号遺構（竪穴建物跡）（第10・73図）

位置　調査区の南側J04グリッドに位置する。

形態　竪穴建物跡の南辺部分が僅かに残存するのみであるが、隅丸方形を呈していたか。北側を５号(竪穴建物跡)等と重複している。本遺構の方が古いと考えられる。
構造　平面規模は上端面積が(6.677)㎡を測るが、判然としない。遺構深度は27cm程度を測る。主軸方位は、Ｎ－２°－Ｗを向いているだろうか。柱穴等は、検出されなかった。炉も、検出されていない。壁溝は、かろうじて、南辺が検出されたのみである。遺物は、ヘラミガキが施された高杯１、２や、弥生時代後期壺口縁部３や胴部４が出土するのみである。４は、羽状縄文を結節文で区画しており、後期後半山田橋式の特徴を示す。遺構の帰属時期は、新相の遺物である１及び２から、古墳時代前期中葉草刈２式期を中心とする時期と判断したい。

５号遺構（竪穴建物跡）（第10・12・74図）

位置　調査区の南側Ｊ05グリッドに位置する。
形態　隅丸方形を呈する。本遺構の中央を、西谷１号墳によって切られている。また、本遺構内南西部には、301号遺構があり、Ｐ３を切るようにして掘り込まれている。新旧関係は、本遺構より西谷１号墳の方が新しく、301号遺構(土坑跡)は、さらに新しい。
構造　平面規模は6.00×5.82m、遺構深度39cmを測る。主軸方位は、Ｎ－25°－Ｗであり、上端面積27.440㎡、下端面積21.424㎡を測る。柱穴は４本を数える。出入り口に伴うピットであるＰ５東脇の土坑Ｐ６は貯蔵穴であろうか。炉は、Ｐ１－Ｐ２間の中央に位置している。方位は、本遺構の主軸方位とほぼ同一である。壁溝は、南側の一部を除いて、ほぼ全周して検出された。遺物は、器台１や甕の下半部４などが出土している。遺構の形態及び遺物の特徴から古墳時代前期中葉である草刈２式期の遺構と考えられる。

６号遺構（竪穴建物跡）（第11・12・74図）

位置　調査区の南端Ｋ05グリッドに位置する。
形態　隅丸方形を呈する。本遺構南東部を、台遺跡Ａ地点12号方形周溝墓と重複している。また、北部を310号遺構(土坑跡)によって切られている。本遺構との新旧関係は、12号方形周溝墓の方が古く、310号遺構の方が新しい。
構造　平面規模は(5.18)×4.94mを測り、遺構深度は40cmを測る。主軸方位は、Ｎ－42°－Ｗを向いており、上端面積は(23.984)㎡、下端面積は(20.688)㎡を測る。柱穴は４本を数える。Ｐ５土坑は貯蔵穴であろうか。炉は、検出されなかった。310号遺構により切られたのであろうか。壁溝は、検出されなかった。遺物は、遺構内南東側からヘラミガキが施された高杯１、２、Ｐ２周辺から穿孔が施された小型器台４が出土している。他には、遺構内中央東寄りから口縁に刻みが施された甑７や、北東壁直下から小型の鉢形土器８などが出土している。遺物の特徴及び遺構の平面形態から古墳時代前期後葉草刈3－1式期の遺構と考えられる。

７号遺構（竪穴建物跡）（第11・12・75・76図）

位置　調査区の南側Ｋ06グリッドに位置する。
形態　隅のやや丸まった方形を呈していたと考えられる。竪穴建物跡の南辺西寄り部分が310号遺構

(土坑跡)と重複する。本遺構の方が古いと考えられる。
構造　平面規模は5.64×4.98mを測り、遺構深度は29cmを測る。主軸方位は、N－2°－Wを向いており、上端面積24.325㎡、下端面積22.528㎡を測る。柱穴は4本を数える。P1－P3の西側及びP2－P4から東側が一段高くなっており、いわゆるベッド状遺構を呈していたと考えられる。柱穴は、いずれも平面規模が小さく、抜き取り等の痕跡は見られなかった。炉は、P1－P2間のほぼ中央南寄りに位置している。壁溝は、検出されなかった。遺物は、東側ベッド状の高まり部分から、ヘラミガキ及び赤彩が施された高杯3及び甕7が出土している。P4付近から赤彩が施された壺6や口唇部にヘラ状工具による刻みを施した甑10が、中央北側及び南東寄りから甕胴部8が出土している。遺物及び遺構の平面形態から古墳時代前期前葉草刈1式期の遺構と考えられる。

8号遺構（竪穴建物跡）（第11・12・76図）
位置　調査区の南側K07グリッドに位置する。
形態　方形を呈する。南側を302号遺構(土坑跡)により切られている。本遺構の方が古いと考えられる。
構造　平面規模は5.96×4.96m、遺構深度32cmを測る。主軸方位は、N－6°－Eであり、上端面積26.624㎡、下端面積21.658㎡を測る。柱穴は4本を数える。抜き取りなどの痕跡は見られなかった。炉は、P1－P2間の中央に位置している。主軸は、建物跡の主軸方位とほぼ一致する。壁溝は、ほぼ全周する。遺物は、赤彩が施された高杯脚部1及び砥石2が出土するのみである。帰属時期を決定する根拠に乏しいが、遺構の平面形態等から古墳時代前期後葉草刈3式期に帰属するか。

9号遺構（竪穴建物跡）（第13・17図）
位置　調査区の南側J08グリッドに位置し、西谷15号墳に切られている。
形態　西谷15号墳に多くを削平されてしまったためか、遺構の多くが失われており、北西側の緩い隅丸方形部を残すのみである。
構造　平面規模は不明であり、遺構深度は12cmを測る。主軸方位は、N－15°－Wを向いているか。柱穴はピットが2つ検出されたが、本遺構に帰属するものか、判然としない。炉は検出されず、壁溝も検出されなかった。遺物の出土も皆無である。遺構の平面形態から、弥生時代後期後半山田橋式期の遺構とも想定されるが、時期不明と言わざるを得ない。

10号遺構（竪穴建物跡）（第19・76図）
位置　調査区の南側K09グリッドに位置する。
形態　隅の丸まった方形を呈しており、平面形態では古相の印象を受ける。西側隅部が、11号遺構(竪穴建物跡)と重複する。本遺構の方が古いと考えられる。
構造　平面規模は3.64×3.60mを測り、遺構深度は33cmを測る。主軸方位は、N－32°－Wを向いており、上端面積11.168㎡、下端面積9.664㎡を測る。炉は、中央部北寄りに存在する。柱穴は認められなかった。遺構内南東側のピットは、貯蔵穴の可能性ありか。壁溝も認められなかった。遺物は、東側壁付近から高杯1が、中央部から焼成前穿孔が5ヵ所施された器台2が出土している。他には、南側壁付近からヘラミガキが施された小型甕3が出土している。遺物及び遺構の平面形態から古墳時

代前期前葉草刈１式期の遺構と考えられる。

11号遺構（竪穴建物跡）（第19・25・76・77図）

位置　調査区の南側Ｌ09グリッドに位置する。

形態　方形を呈する。本遺構の東側は、10号遺構（竪穴建物跡）及び304号遺構（土坑跡）と重複し、西側を12号遺構（竪穴建物跡）が重複する。新旧関係は、本遺構の方が、10号、12号遺構より新しく、304号遺構より古い。

構造　平面規模は4.82×4.80m、遺構深度35cmを測る。主軸方位は、Ｎ－43°－Ｅであり、上端面積（22.112）㎡、下端面積（19.787）㎡を測る。柱穴は４本を数える。Ｐ３及びＰ４は、柱を抜き取った痕跡ありか。Ｐ２東脇の方形の土坑は貯蔵穴と考えられる。カマドは、北東辺中央に位置する。壁溝は、南西辺の一部及び北東辺の一部を除いて、検出された。遺物は、Ｐ１付近から赤彩が施された杯２が出土している。また、Ｐ２内からミニチュア土器７が出土している。遺構の形態及び遺物の特徴から古墳時代中期前半和泉式期の遺構と考えられる。

12号遺構（竪穴建物跡）（第19・25・77図）

位置　調査区の南側Ｌ09グリッドに位置する。

形態　隅の丸まった方形を呈する。南東側を11号遺構（竪穴建物跡）により切られている。新旧関係は、本遺構の方が古い。

構造　平面規模は（3.80）×4.20mを測り、遺構深度は35cmを測る。主軸方位は、Ｎ－49°－Ｗを向いており、上端面積は（15.482）㎡、下端面積は（14.005）㎡を測る。柱穴は４本を数える。Ｐ３及びＰ４は、11号遺構内に存在する。炉は、Ｐ１－Ｐ２間の中央やや北東寄りに位置している。主軸は、建物跡の主軸方位とほぼ一致する。壁溝は、検出されなかった。遺物は、11号遺構（竪穴建物跡）張り床下から赤彩が施された壺１や、高杯脚部２及びハケメ痕の残る甕上半部３などが出土している。遺物の出土が少数で、帰属時期の把握は難しいが、遺構の平面形態等から弥生時代終末期後半中台2－1式期か。

13号遺構（竪穴建物跡）（第13・17・77図）

位置　調査区の南側Ｊ09グリッドに位置する。

形態　隅のやや丸まった方形を呈する。東側部分を14号遺構（竪穴建物跡）により切られている。新旧関係は、本遺構の方が古いと考えられる。

構造　平面規模は（3.76）×3.70m、遺構深度32cmを測る。主軸方位は、Ｎ－87°－Ｅであり、上端面積（14.357）㎡、下端面積（12.896）㎡を測る。明確な柱穴は検出されなかった。Ｐ３は、貯蔵穴と考えられ、周囲に間仕切り溝が検出されている。炉は、中央東寄りに２つ検出された。炉が東寄りに検出されたことから、西寄りにあるＰ１は、出入口に伴うピットであろうか。壁溝は、検出されなかった。遺物は、内面が赤彩された小型の鉢１や、ヘラミガキが施された高杯２及び口唇に刻み目が施された小口甕４などが出土している。出土遺物及び、竪穴建物跡の形態から古墳時代前期前葉草刈１式期の遺構と考えられる。

14号遺構（竪穴建物跡）（第13・17・77図）

位置　調査区の南側Ｉ09グリッドに位置する。

形態　隅丸方形を呈する。東側部分を15号遺構（竪穴建物跡）と、西側部分を13号遺構（竪穴建物跡）とそれぞれ重複し、南側部分を西谷15号墳とも重複する。新旧関係は、本遺構の方が、15号遺構、13号遺構よりも新しく、西谷15号墳よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は（4.22）×4.24ｍを測り、遺構深度は69cmを測る。主軸方位は、Ｎ－26°－Ｗを向いており、上端面積（17.280）㎡、下端面積（14.773）㎡を測る。柱穴は２本検出された。Ｐ１から西辺に沿って北西方向に間仕切り溝が検出されている。Ｐ３は、規模が大きいが、出入口に伴うピットであろうか。炉は、北西寄りに２つ検出されている。方位は、本遺構の主軸方位とほぼ同一である。壁溝は、南東部を除いてほぼ全周して検出された。遺物は、赤彩が施され、結節文で区画された壺１や、結節文で区画された壺の肩部片２および胴部片３、４などが出土しているが、混入遺物と考えられる。出土遺物は古相であるが、遺構形態の特徴から古墳時代前期前葉草刈１式期の遺構と考えられる。

15号遺構（竪穴建物跡）（第13・17・77図）

位置　調査区の南側Ｉ09グリッドに位置する。

形態　隅のかなり丸まった方形を呈する。西側を14号遺構（竪穴建物跡）と、南側を西谷15号墳と重複する。新旧関係は、本遺構の方が14号遺構、西谷15号墳いずれよりも古いと考えられる。

構造　平面規模は（4.42）×（2.42）ｍを測り、遺構深度は40cm程度を測る。主軸方位は、Ｎ－25°－Ｗを向いており、上端面積（10.608）㎡、下端面積（8.443）㎡を測る。柱穴は４本検出された。Ｐ５は、貯蔵穴であろうか。炉は、中央北西寄りに検出され、14号遺構の東側壁溝に切られていた。壁溝は、かろうじて北辺に検出されたのみである。遺物は、口唇部に刻み目が施された甕１、２、ハケメ痕の残る甕底部３などが出土している。遺構の帰属時期は、新相の遺物である３及び遺構の平面形態の特徴から古墳時代前期前葉草刈１式期の遺構と考えられる。

16号遺構（竪穴建物跡）（第16・18・78図）

位置　調査区の南側Ｊ09グリッドに位置する。

形態　隅の丸まった方形を呈するが、本遺構の北東側は、集水枡によって破壊されている。

構造　平面規模は（3.00）×2.94ｍを測り、遺構深度は23cmを測る。主軸方位は、Ｎ－43°－Ｅであり、上端面積（7.344）㎡、下端面積（7.264）㎡を測る。柱穴は１本検出されたのみである。炉は、検出されなかった。壁溝も、検出されなかった。遺物は、赤彩が施され、沈線で区画された羽状縄文帯が巡る壺１や、沈線で区画された山形文が施された壺胴部２などが出土している。古相を示す遺物が出土しているが、遺構の平面形態の特徴から弥生時代後期後半山田橋式期の遺構と判断した。

17号遺構（竪穴建物跡）（第16・18・78図）

位置　調査区の南側Ｊ10グリッドに位置する。

形態　隅丸方形を呈する。本遺構東側は、18号遺構（竪穴建物跡）及び19号遺構（竪穴建物跡）と重複している。また、北西部は、21号遺構（竪穴建物跡）と重複し、南西部は集水枡によって切られている。

本遺構との新旧関係は、18号遺構及び19号遺構の方が古く、21号遺構の方が新しい。
構造　平面規模は(3.38)×4.00mを測り、遺構深度は24cmを測る。主軸方位は、N－81°－Eを向いており、上端面積は(17.456)㎡、下端面積は(12.112)㎡を測る。柱穴は検出されなかった。炉は、中央東寄りに検出され、西側において、焼土が2ヵ所堆積していた。壁溝は、検出されなかった。遺物は、内・外面にヘラナデ痕を持ち、内面にヘラミガキ痕が残る甕胴部1が出土するのみである。帰属時期を決定する根拠に乏しいが、遺構の平面形態から弥生時代終末期前半中台1-2式期の遺構と考えられる。

18号遺構（竪穴建物跡）（第16・18・78図）
位置　調査区の南側Ⅰ10グリッドに位置する。
形態　隅の丸まった方形を呈している。北側は、17号遺構(竪穴建物跡)及び19号遺構(竪穴建物跡)と重複し、南西側は、14号遺構(竪穴建物跡)と重複する。本遺構との新旧関係は、19号遺構の方が古く、14号遺構及び17号遺構の方が新しいと考えられる。
構造　平面規模は3.78×3.57mを測り、遺構深度は56cmを測る。主軸方位は、N－25°－Wを向いており、上端面積(11.285)㎡、下端面積(9.781)㎡を測る。柱穴は4本を数える。柱抜き取りの痕跡は見られなかった。P5は、出入口に伴うピットであり、P6は貯蔵穴と考えられる。炉は、P1－P2間のほぼ中央に位置している。壁溝は、検出されなかった。遺物は、輪積み痕を残す甕上半部5などが出土しているが、僅少である。多くが、重複する遺構の遺物として取り上げられてしまった可能性が高い。遺構の平面形態から弥生時代後期後半山田橋式期の遺構と考えられる。

19号遺構（竪穴建物跡）（第16・18・78図）
位置　調査区の南側Ⅰ10グリッドに位置する。
形態　隅の丸まった方形を呈する。西側を17号遺構(竪穴建物跡)及び18号遺構(竪穴建物跡)と重複する。本遺構との新旧関係は、いずれの遺構よりも本遺構の方が古いと考えられる。
構造　平面規模は5.63×4.78m、遺構深度40cmを測る。主軸方位は、N－40°－Wであり、上端面積22.037㎡、下端面積20.650㎡を測る。柱穴は4本を数える。P2については、柱が抜き取られた可能性がある。炉は、P1－P2間の中央に位置している。主軸は、建物跡の主軸方位とほぼ一致する。壁溝は、検出されなかった。遺物は、小片が多く、結節文で区画された壺肩部～胴部片2～4などが出土している。帰属時期を決定する根拠に乏しいが、遺物及び遺構の平面形態等から弥生時代後期後半山田橋式期の遺構と考えられる。

20号遺構（竪穴建物跡）（第19・25・78図）
位置　調査区の南側K10グリッドに位置する。
形態　隅のやや丸い方形を呈する。北東側は、21号遺構(竪穴建物跡)と重複する。本遺構との新旧関係は、本遺構の方が古い。
構造　平面規模は3.70×(2.80)m、遺構深度28cmを測る。主軸方位は、N－34°－Wであり、上端面積(8.939)㎡、下端面積(7.488)㎡を測る。柱穴は検出されなかった。炉は、北東部に小規模なものが

位置している。壁溝は、検出されなかった。遺物は、壺体部片１及び甕底部２が出土するのみである。帰属時期を決定する根拠に乏しいが、遺構の平面形態から弥生時代後期後半山田橋式期の遺構と判断したい。

21号遺構（竪穴建物跡）（第16・18・78・79図）

位置　調査区の南側にＪ10グリッドに位置する。

形態　方形を呈している。北東部において25号遺構（竪穴建物跡）、南東部において17号遺構（竪穴建物跡）、南西部において20号遺構（竪穴建物跡）と重複する。いずれの遺構よりも、本遺構の方が新しい。

構造　平面規模は（4.98）×4.97ｍを測り、遺構深度は25cmを測る。主軸方位は、Ｎ－45°－Ｅを向いており、上端面積（23.024）㎡、下端面積（19.595）㎡を測る。カマドは、北東辺の南東寄りに位置する。25号の竪穴建物跡を切っているため、北東辺の立ち上がりは不明瞭である。柱穴は４本検出されたが、Ｐ１及びＰ２間に存在しているピットも、掘り込みがしっかりしており、柱穴だった可能性がある。カマド東ソデ脇にあるＰ５は、貯蔵穴であろう。壁溝北東辺を除いて、ほぼ全周して検出された。遺物は、Ｐ２南側において赤彩が施された高杯２が出土している。また、カマド西ソデ脇から、甕９、東ソデ内から、甑11が出土している。他には、赤彩及びヘラミガキが施され、脚部が直立する高杯脚部４や、北陸系の影響を受けた可能性のある器台５などが出土しているが、混入であろう。古相の遺物も混入しているが、出土遺物及び遺構の平面形態から古墳時代中期末葉鬼高式古段階期の遺構と考えられる。

22号遺構（竪穴建物跡）（第20・25・26・79図）

位置　調査区の南側M10グリッドに位置する。

形態　方形を呈している。本遺構の東隅は、23号遺構（竪穴建物跡）と重複し、北東から南西方向に、本遺構を横断するようにＡ・Ｄ地点449号溝と重複している。また、北西部は、Ａ・Ｄ地点444号溝及びＡ・Ｄ448号溝と重複している。新旧関係は、本遺構の方が、23号遺構よりも古く、Ａ・Ｄ地点444、448及び449号溝の方が新しい。

構造　平面規模は（6.18）×5.98ｍを測り、遺構深度は17cmを測る。主軸方位は、Ｎ－36°－Ｗであり、上端面積（36.475）㎡、下端面積（34.043）㎡を測る。柱穴は４本を数える。柱抜き取りの痕跡は認められなかった。Ｐ３南側に位置するＰ５は、貯蔵穴の可能性がある。炉は、Ｐ１－Ｐ２間の中央内寄りに位置する。焼土が、南東部及び炉の東側部に堆積していた。壁溝は、検出されなかった。遺物は、ヘラミガキが施された小型の鉢１や、ヘラミガキや赤彩が施された大型の鉢形土器２が出土するのみである。帰属時期を決定する根拠に乏しいが、遺物の特徴及び遺構の形態から古墳時代前期末葉である草刈3-2式期の遺構と判断したい。

23号遺構（竪穴建物跡）（第19・25・79・80・81図）

位置　調査区の南側Ｌ10グリッドに位置する。

形態　方形を呈している。北東側を35号遺構（竪穴建物跡）と重複し、北西側は22号遺構（竪穴建物跡）と重複している。また、遺構内に311号遺構（土坑跡）が存在する。新旧関係は、本遺構の方が35号遺

構及び22号遺構より新しく、311号遺構よりも古い。
構造　平面規模は(3.96)×5.06mを測り、遺構深度は15cmを測る。主軸方位は、N－45°－Eを向いており、上端面積は(18.240)㎡を測る。柱穴は2本検出された。P1は、柱抜き取り痕か。35号遺構と重複する北東辺及び22号遺構と重複する西隅部は、竪穴建物跡の壁が検出されなかった。北東辺東寄りの白色粘土で作られたカマドが露出して検出され、本遺構の存在が認識されたものと考えられる。壁溝は、検出されなかった。遺物は、カマド前から高杯脚部4が出土し、P2内からも赤彩が施された高杯脚部6が出土している。また、カマド西ソデ付近を中心に、甕10、12、13、15、17などが出土し、南西部付近で、甕11、16及び甑19が出土している。一括出土遺物では、2ヵ所に穿孔を施した柱状土製品の上半部22が出土している。なお、遺跡全体の一括出土遺物にも類似の遺物が出土しており、関連が注目される。他に、焼成前穿孔が施された高杯8などが出土しているが、混入であろう。遺物の特徴及び、遺構の平面形態等から古墳時代中期中葉和泉式期の遺構と考えられる。

25号遺構（竪穴建物跡）（第16・18・81図）
位置　調査区の南側J11グリッドに位置する。
形態　隅丸方形を呈する。北東側部分を32号遺構(竪穴建物跡)及び34号遺構(竪穴建物跡)と重複し、南西側部分を21号遺構(竪穴建物跡)と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、21号遺構及び32号遺構よりも古く、34号遺構よりも新しい。
構造　平面規模は4.56×(4.10)m、遺構深度24cmを測る。主軸方位は、N－42°－Wであり、上端面積(17.061)㎡、下端面積(15.099)㎡を測る。柱穴は検出されなかった。南東隅に位置するP1は、貯蔵穴であろう。南西部に間仕切りの痕跡が認められた。炉は、中央北西寄りに検出された。浅い掘り込みの中に、焼土が堆積している。壁溝は、北西辺の一部で検出された。遺物は、貯蔵穴P1内を中心に、ハケメ痕の残る甕4、5及び甕底部7などが出土している。出土遺物の特徴及び竪穴建物跡の平面形態などから古墳時代前期後葉草刈3式期の遺構と考えられる。

26号遺構（竪穴建物跡）（第15・18・82図）
位置　調査区の南側H10グリッドに位置する。
形態　隅の丸まった方形を呈する。南側部分を西谷15号墳によって切られている。また、北西側は27号遺構(竪穴建物跡)と重複している。新旧関係は、本遺構の方がいずれの遺構よりも古いと考えられる。
構造　平面規模は(4.00)×5.23mを測り、遺構深度は21cmを測る。主軸方位は、N－33°－Wを向いており、上端面積(17.776)㎡、下端面積(16.896)㎡を測る。柱穴は4本を数え、P3は、西谷15号墳周溝内に位置する。柱抜き取りの痕跡等は見られなかった。炉は、P1－P2間の中央西寄りに位置している。壁溝は、検出されなかった。遺物は、赤彩が施され、ハケメ痕の残る鉢形土器1や甕底部2などが出土している。甕2の底部は、ドーナツ状の底面を持ち、いわゆる底部輪台技法と呼ばれるものと考えられる。畿内地方の影響を受けたものであろうか。出土遺物が僅少であり、帰属時期の把握は困難であるが、遺構の平面形態の特徴等から古墳時代前期中葉草刈2式期の遺構と考えられる。

27号遺構（竪穴建物跡）（第15・18・82図）

位置　調査区の南側Ｈ10グリッドに位置する。

形態　隅のやや丸い方形を呈する。南東側を26号遺構（竪穴建物跡）と重複している。新旧関係は、本遺構の方が新しいと考えられる。

構造　平面規模は（4.96）×4.81ｍを測り、遺構深度は34cm程度を測る。主軸方位は、Ｎ－30°－Ｗを向いており、上端面積（24.512）㎡、下端面積（21.032）㎡を測る。柱穴は４本検出され、いずれも柱の抜き取り痕跡等は認められなかった。炉は、Ｐ１－Ｐ２間の中央やや内寄りに位置している。主軸は、建物跡の主軸方位とほぼ一致する。焼土が僅かであるが、南西部において堆積していた。壁溝は、南東部において、検出されたのみである。遺物は、高杯脚部１や甕上半部２が出土している。また、弥生時代後期の壺口縁部や甕口縁部の破片が出土しているが、混入である。出土遺物が僅少であり、帰属時期を判断する根拠に乏しいが、遺構の平面形態の特徴等から、古墳時代前期後葉草刈３式期を中心とする時期と判断したい。

29号遺構（竪穴建物跡）（第15・17・82・83図）

位置　調査区の南側Ｈ11グリッドに位置する。

形態　隅丸方形を呈する。本遺構の西側は、30号遺構（竪穴建物跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、古いと考えられる。

構造　平面規模は4.00×（2.80）ｍ、遺構深度37cmを測る。主軸方位は、Ｎ－22°－Ｗであり、上端面積（9.563）㎡を測る。柱穴は４本を数える。柱穴Ｐ１及びＰ３は、30号遺構内に位置する。出入り口に伴うピットと考えられるＰ５の南東脇にある土坑Ｐ６は貯蔵穴であろう。炉は、Ｐ１－Ｐ２間の中央に位置している。方位は、本遺構の主軸方位とほぼ同一である。掘り込みの中に、焼土が堆積していた。壁溝は、検出されなかった。遺物は、赤彩やヘラミガキを施した鉢１や高杯脚部２、小型器台３、ハケメの残る甕５、６、ヘラミガキが施された甕の下半部７などが出土している。遺物の特徴及び遺構の平面形態の特徴等から古墳時代前期後葉である草刈３式期の遺構と考えられる。

30号遺構（竪穴建物跡）（第15・17・83・84・85図）

位置　調査区の南側Ｈ11グリッドに位置する。

形態　隅のやや丸い方形を呈する。本遺構東側を、29号遺構（竪穴建物跡）と重複する。また、北側は、31号遺構（竪穴建物跡）と重複し、西側は、34号遺構（竪穴建物跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、31号遺構より古く、29号遺構及び34号遺構よりも新しい。

構造　平面規模は5.76×（5.81）ｍを測り、遺構深度は29cmを測る。主軸方位は、Ｎ－24°－Ｗを向いており、上端面積は（31.669）㎡、下端面積は（28.576）㎡を測る。柱穴は４本を数える。Ｐ２は、柱が抜き取られた可能性がある。Ｐ４の南東に位置するＰ５土坑は、貯蔵穴である。炉は、Ｐ１－Ｐ２間の中央やや東寄りの内側に位置している。方位は、本遺構の主軸方位とほぼ同一である。焼土が南西部分に少量堆積していた。壁溝は、29号遺構との切り合い部分である東辺において検出された。遺物は、赤彩及びヘラミガキが施された脚部が直立する高杯脚部５や、ハケメ痕が残る小型坩７、赤彩及びヘラミガキが施されたミニチュア土器８などが出土している。他には、折返し状の口縁を持つハケ

メ痕が残る壺10、11や、丁寧なハケメ痕が残る甕14、ハケメ及び粗いヘラミガキが施された壺15などが出土している。甕底部26は、底部がドーナツ状を呈し、いわゆる底部輪台技法で成形されている。畿内地方の影響を受けたものであろうか。遺物の特徴及び遺構の平面形態から古墳時代前期後葉草刈３式期の遺構と考えられる。

31号遺構（竪穴建物跡）（第28・29・85・86図）

位置　調査区の南側Ｈ12グリッドに位置する。

形態　方形を呈していたと考えられる。本遺構の北側に、時期不明の溝が横断し、南側が30号遺構（竪穴建物跡）と重複する。本遺構の方が、30号遺構よりも新しいと考えられる。

構造　平面規模は5.82×5.98ｍを測り、遺構深度は52cmを測る。主軸方位は、Ｎ－65°－Ｅを向いており、上端面積33.120㎡、下端面積26.971㎡を測る。柱穴は４本を数える。Ｐ１は、時期不明の溝内に位置する。Ｐ３は、柱が抜き取られた可能性がある。Ｐ２の南東脇に位置するＰ５は、貯蔵穴である。南西側にある落ち込みは、西谷古墳群の土坑墓である可能性がある。南東辺やや東寄りに、周堤状の高まりが認められる。カマドは、北東辺南寄りにおいて検出された。壁溝は、北東の一部を除いて、ほぼ全周して検出された。遺物は、カマド北西ソデ脇から、ヘラケズリが施され、球胴形を呈した甕12が出土している。また、赤彩が施された高杯１～３、坩形土器６、７が出土している。他には、頸部が直立した甕10や、甑16、17などが出土している。15は、甕の底部を焼成後に穿孔しており、甑に転用されたものと考えられる。高杯４及びハケメ痕を残した甕11は混入であろう。遺物及び遺構の平面形態から古墳時代中期中葉和泉式期の遺構と考えられる。

32号遺構（竪穴建物跡）（第16・18・87・88図）

位置　調査区の南側Ｉ11グリッドに位置する。

形態　方形を呈する。北東側は33号遺構（竪穴建物跡）と重複し、南東側は34号遺構（竪穴建物跡）、南西側は25号遺構（竪穴建物跡）とそれぞれ重複している。本遺構との新旧関係は、いずれの遺構よりも本遺構の方が新しい。

構造　平面規模は4.20×4.24ｍを測り、遺構深度は45cmを測る。主軸方位は、Ｎ－23°－Ｗであり、上端面積16.112㎡、下端面積14.032㎡を測る。柱穴は４本を数える。Ｐ１、Ｐ２、Ｐ４については、柱が抜き取られた可能性がある。カマドは、北辺中央に位置している。壁溝は、北隅部においてのみ、検出された。遺物は、赤彩が施された杯１や高杯３などが出土している。他には、ヘラケズリが施された甕６、７などが出土している。脚部に焼成前穿孔が施された小型器台４は混入であろう。出土遺物の特徴及び遺構の平面形態等から古墳時代中期末葉鬼高古段階期の遺構と考えられる。

33号遺構（竪穴建物跡）（第16・18図）

位置　調査区の南側Ｈ12グリッドに位置する。

形態　隅の丸まった方形を呈する。本遺構の西側部分の多くが、32号遺構（竪穴建物跡）と重複している。また、南側部分は34号遺構（竪穴建物跡）と重複している。新旧関係は、いずれの遺構よりも本遺構の方が新しい。

構造　平面規模は(4.58)×(4.42)ｍを測り、遺構深度は27cmを測る。主軸方位は、Ｎ－35°－Ｅと考えられ、上端面積(18.171)㎡を測る。柱穴はＰ１が検出されたのみである。炉は、検出されなかった。壁溝も、検出されなかった。遺物の出土も皆無であり、弥生時代後期後半山田橋式期の遺構と想定されるが、具体的な帰属時期は、不明と言わざるを得ない。

34号遺構（竪穴建物跡）（第16・18・88図）

位置　調査区の南側Ｉ11グリッドに位置する。

形態　隅のやや丸い方形を呈している。東側部分を、30号遺構(竪穴建物跡)と重複する。また、北側部分を32号遺構(竪穴建物跡)及び33号遺構(竪穴建物跡)と重複し、西側部分を25号遺構(竪穴建物跡)と重複する。新旧関係は、25号遺構、30号遺構及び32号遺構より古く、33号遺構より新しいと考えられる。

構造　平面規模は(2.94)×(3.58)ｍを測り、遺構深度は４cmを測るのみである。主軸方位は、Ｎ－61°－Ｅを向いており、上端面積(12.981)㎡を測る。炉は、東部において検出された。柱穴は検出されなかった。壁溝も認められなかった。遺物は、赤彩が施された高杯脚部１、２や、ハケメ痕を残す小型壺４、甕口縁部５などが出土するのみである。帰属時期を把握する根拠に乏しいが、遺物の特徴及び遺構の平面形態等から古墳時代前期前葉草刈１式期の遺構と考えられる。

35号遺構（竪穴建物跡）（第19・25・88図）

位置　調査区の南側Ｋ11グリッドに位置する。

形態　隅の丸まった方形を呈する。本遺構の南東から北西側部分は、23号遺構(竪穴建物跡)及び311号遺構(土坑跡)と重複する。新旧関係は、本遺構の方がいずれの遺構よりも古い。

構造　平面規模は(4.22)×4.08mを測り、遺構深度は39cmを測る。主軸方位は、Ｎ－0°－Ｅであり、上端面積(15.184)㎡、下端面積(12.773)㎡を測る。柱穴は２本検出された。Ｐ１は、柱が抜き取られた可能性がある。Ｐ２は、南側壁付近に位置することから、貯蔵穴の可能性もある。炉は、中央北寄りに検出され、ピットの周囲が焼けていた。壁溝は、検出されなかった。遺物は、赤彩が施された高杯１や小型器台２などが出土するのみである。帰属時期を把握する根拠に乏しいが、遺物の特徴及び遺構の平面形態等から古墳時代前期前葉草刈１式期の遺構と判断した。

36号遺構（竪穴建物跡）（第27・29・88図）

位置　調査区の南側Ｊ12グリッドに位置する。

形態　隅の丸まった方形を呈する。南西側を38号遺構(竪穴建物跡)と重複している。新旧関係は、本遺構の方が古い。

構造　平面規模は3.03×2.82mを測り、遺構深度は16cmを測る。主軸方位は、Ｎ－23°－Ｗを向いており、上端面積は(7.477)㎡、下端面積は(6.336)㎡を測る。柱穴は検出されなかった。Ｐ１は南東壁直下に位置しており、貯蔵穴である可能性がある。炉は、中央北寄りに位置している。壁溝は、検出されなかった。遺物は、炉の西側部分で集中して検出されており、結節文により文様帯が区画された壺３及び赤彩とヘラミガキが施された壺底部４などが出土している。出土遺物の特徴及び遺構の平面

形態等から弥生時代後期後半山田橋式期の遺構と考えられる。

37号遺構（竪穴建物跡）（第27・29・89図）

位置　調査区の南側Ｊ11グリッドに位置する。

形態　隅の丸まった方形を呈する。北西側を38号遺構（竪穴建物跡）と重複する。また、南西側部分を39号遺構（竪穴建物跡）及び305号遺構（土坑跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、38号遺構より新しく、305号遺構よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は（4.41）×4.18ｍを測り、遺構深度は11cmを測る。主軸方位は、Ｎ－39°－Ｅであり、上端面積は（16.133）㎡、下端面積は（13.877）㎡を測る。柱穴は4本検出された。いずれも、柱が抜き取られたような痕跡は認められなかった。Ｐ５は、出入口に伴うピットと考えられ、東にあるＰ６は、貯蔵穴と考えられる。炉は、中央北西寄りに検出され、38号遺構内に位置する。このため、遺構の平面形態は、37号遺構の方が古相を示すように考えられるが、37号遺構が、38号遺構を切って建てられたと考えられる。炉の方位は、本遺構の主軸方位とほぼ同一である。中央部において、焼土が堆積している。壁溝は、南東壁の一部及び北西部を除いて、ほぼ全周している。遺物は、東隅部から集中して検出され、丁寧なヘラミガキが施された高杯３、４、ハケメ痕の残る甕５～７などが出土している。他には、Ｓ字甕の口縁８が出土しており、東海系の影響が考えられる。出土遺物及び、竪穴建物跡の形態から古墳時代前期中葉草刈２式期の遺構と考えられる。

38号遺構（竪穴建物跡）（第27・29・89・90図）

位置　調査区の南側Ｋ12グリッドに位置する。

形態　隅丸方形を呈する。東側部分を36号遺構（竪穴建物跡）と、南東側部分を37号遺構（竪穴建物跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、36号遺構よりも新しく、37号遺構よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は5.32×5.98ｍを測り、遺構深度は25cmを測る。主軸方位は、Ｎ－50°－Ｗを向いており、上端面積（16.330）㎡、下端面積（13.754）㎡を測る。柱穴は４本検出された。Ｐ１及びＰ２は、柱が抜き取られた可能性がある。Ｐ５は、貯蔵穴と考えられる。炉は、Ｐ１－Ｐ２間中央の内側に位置している。壁溝は、南東部を除いてほぼ全周して検出された。遺物は、東隅部に集中して検出され、赤彩が施された小型器台２や坩３、４などが出土している。また、ヘラナデが施された甕10などが出土しているが、混入遺物と考えられる。他には、Ｓ字甕の上半部９が出土している。器壁が極めて薄く、丁寧なハケメ痕が残っている。東海系の影響を受けたものであろう。出土遺物は新相のものも混入するが、遺物の特徴及び遺構の平面形態の特徴等から、古墳時代前期中葉草刈２式期の遺構と判断したい。

39号遺構（竪穴建物跡）（第27・29図）

位置　調査区の南側Ｋ11グリッドに位置する。

形態　不整な円形状の平面形態が、僅かに残るのみである。北側を37号遺構（竪穴建物跡）及び、305号遺構（土坑跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方がいずれの遺構よりも古いと考えられるが、詳

細は不明である。
構造　遺構深度は26cm程度を測り、上端面積は(2.491)㎡を測る。東端に楕円形の土坑が存在するが、本遺構に伴うか判然としない。柱穴は検出されなかった。炉も、検出されていない。壁溝は検出されず、壁が南側部分に残るのみである。遺物も検出されなかった。竪穴建物跡としたが、遺構の帰属時期は不明と言わざるを得ない。

40号遺構（竪穴建物跡）（第27・29・90図）
位置　調査区の中央K13グリッドに位置する。
形態　隅のやや丸まった方形を呈する。本遺構の東側は、46号遺構(竪穴建物跡)と重複している。新旧関係は、本遺構の方が古いと考えられる。
構造　平面規模は5.61×(5.12)ｍを測り、遺構深度は41cmを測る。主軸方位は、Ｎ－20°－Ｗであり、上端面積(27.029)㎡、下端面積(26.288)㎡を測る。柱穴は４本検出された。柱の抜き取り痕跡等は認められなかった。Ｐ５は、出入口に伴うピットと考えられる。炉は、Ｐ１－Ｐ２間の中央やや内寄りに位置している。方位は、本遺構の主軸方位とほぼ同一である。壁溝は、検出されなかった。遺物は、赤彩が施された高杯の脚部１、２や、甕底部３、弥生時代後期の壺片４～７が出土するのみである。２及び４～７は、混入であろう。帰属時期を把握する根拠に乏しいが、遺構の平面形態の特徴から古墳時代前期後葉草刈３式期の遺構と判断した。

41号遺構（竪穴建物跡）（第27・29図）
位置　調査区の南側K12グリッドに位置する。
形態　南辺周辺を検出するのみであり、隅の丸まった方形を呈すると考えられる。本遺構東側は、38号遺構(竪穴建物跡)と重複し、南西から北東側は、42号遺構(竪穴建物跡)と重複している。新旧関係は、本遺構の方が、いずれの遺構よりも古いと考えられる。
構造　遺構深度は18cmを測る。主軸方位は、Ｎ－５°－Ｗを向いており、残存する上端面積は(5.322)㎡を測る。柱穴は検出されなかった。Ｐ１は、南東壁直下に位置しており、貯蔵穴であった可能性がある。炉は、検出されなかった。壁溝も検出されず、遺物についても出土しなかった。帰属時期を決定する根拠に乏しいが遺構の形態から、弥生時代後期後半山田橋式期の遺構であったと判断したい。

42号遺構（竪穴建物跡）（第24・26・90・91・92図）
位置　調査区の南側Ｌ12グリッドに位置する。
形態　方形を呈している。南東側は、41号遺構(竪穴建物跡)と重複し、北側を45号遺構(竪穴建物跡)と重複する。また、東側部分をＡ・Ｄ地点449号溝と重複し、西側部分を同地点444号溝と重複する。新旧関係は、41号遺構及び45号遺構よりも新しく、A･D444号溝及び449号溝より古いと考えられる。
構造　平面規模は5.64×(5.60)ｍを測り、遺構深度は26cmを測る。主軸方位は、Ｎ－28°－Ｅを向いており、上端面積(31.616)㎡を測る。柱穴は４本を数える。Ｐ２以外は、柱が抜き取られた可能性がある。Ｐ５は、やや西寄りであるが、出入口に伴うピットと考えられ、カマドの東脇に位置するＰ６は貯蔵穴と考えられる。カマドは、北東辺東寄りに位置する。壁溝は、南辺のみに検出された。遺物

は、貯蔵穴脇北東壁直下から、赤彩が施された杯１が出土している。また、中央南寄りから杯２が出土し、貯蔵穴内及びその付近から、赤彩が施された高杯４や、高杯の脚部６、８、甕11、頸部が直立する甕上半部15、16が出土している。他には、カマド東ソデ脇から甑20が出土している。ハケメ痕の残る甕口縁部10は、混入遺物と考えられる。古相の遺物も出土しているが、出土遺物の特徴及び遺構の平面形態の特徴等から古墳時代中期中葉和泉式期の遺構と考えられる。

43号遺構（竪穴建物跡）（第34・38・92・93図）

位置　調査区の南側Ｌ13グリッドに位置する。

形態　隅の丸まった方形を呈する。南東側をＡ・Ｄ地点444号溝によって切られ、北東側も時期不明溝によって切られている。新旧関係は、本遺構の方がいずれよりも古いと考えられる。

構造　平面規模は(4.54)×4.18ｍを測り、遺構深度は20cmを測る。主軸方位は、Ｎ－24°－Ｗであり、上端面積(15.834)㎡、下端面積(14.565)㎡を測る。柱穴は４本を数える。Ｐ５は、出入口に伴うピットと考えられ、東脇に位置するＰ６は、貯蔵穴であると考えられる。炉は、Ｐ１－Ｐ２間のほぼ中央内寄りに位置している。壁溝は、検出されなかった。遺物は、口縁に羽状縄文が巡り、内面に赤彩が施された浅鉢１や、複数の輪積み痕を残した甕４、５などが出土している。他には、外面に赤彩が施され、脚部が直立する高杯の脚部８などが出土しているが、混入遺物と考えられる。出土遺物及び遺構の平面形態の特徴等から弥生時代後期後半山田橋式期の遺構と考えられる。

44号遺構（竪穴建物跡）（第20・25・93～100図）

位置　調査区の南側M12グリッドに位置する。

形態　方形を呈する。南西側は、142号遺構(竪穴建物跡)と重複し、西側は、140号遺構(竪穴建物跡)と重複する。新旧関係は、本遺構の方が新しいと考えられる。

構造　平面規模は5.22×5.21ｍ、遺構深度54cmを測る。主軸方位は、Ｎ－42°－Ｅであり、上端面積25.721㎡、下端面積21.845㎡を測る。柱穴は４本検出されている。柱の抜き取り等は、認められなかった。カマド東ソデ脇に位置するＰ５は、貯蔵穴と考えられる。カマドは、北東辺のやや東寄りに位置している。壁溝は、北東壁、北西壁及び南西壁の一部で認められた。遺物は、多数出土しており、Ｐ４脇から半球形を呈した杯１が出土している。また、Ｐ１脇から杯２や、赤彩が施された小型壺28が出土し、Ｐ３脇から杯３、４及び赤彩が施された杯７、高杯14などが出土している。カマド西ソデ脇からは、高杯15、17、18が出土している。一方、カマド東ソデ脇からは、甕33、45、50、甑63が出土している。他には、中央部から甕39、43、44、46、48などが出土し、西側部分からは、甕54、55などが出土している。西部からは、輪積み痕を残す甕65も出土しているが、混入遺物と考えられる。出土遺物及び遺構の平面形態の特徴等から古墳時代中期中葉和泉式期の遺構と考えられる。本遺構からは、極めて多量の土器が出土しており、後述する100号遺構と同様の性格を帯びた遺構の可能性がある。

45号遺構（竪穴建物跡）（第34・100図）

位置　調査区の南側Ｋ13グリッドに位置する。

形態　方形を呈すると考えられる。南東部のみの検出であり、南西側を42号遺構(竪穴建物跡)と重複

し、北西側は、A・D地点444号溝によって切られている。また、東西に、E地点の時期不明溝によっても切られている。新旧関係は、本遺構の方が、42号遺構よりも古く、A・D地点444号溝及び本地点時期不明溝よりも古いと考えられる。

構造　遺構深度は17cmを測る。主軸方位は、N－27°－Wを向いており、上端面積(11.755)㎡を測る。カマド等は、検出されず、柱穴も検出されなかった。壁溝も検出されていない。遺物は、南東隅部分から検出され、赤彩及びヘラミガキが施された高杯脚部1や球胴形をした甕3、甑4などが出土している。他に、口縁に刻み目が施された壺及び甕が出土しているが、混入遺物と考えられる。古相の遺物も混入しているが、出土遺物及び遺構の平面形態から古墳時代中期和泉式期の遺構と考えられる。

46号遺構（竪穴建物跡）（第27・29図）

位置　調査区の中央J14グリッドに位置する。

形態　方形を呈している。本遺構の西側は、40号遺構(竪穴建物跡)と重複し、北東部では、153号遺構(竪穴建物跡)と重複している。新旧関係は、本遺構の方が、40号遺構よりも古く、153号遺構よりも新しいと考えられる。

構造　平面規模は3.02×(4.00)mを測り、遺構深度は16cmを測る。主軸方位は、N－26°－Eであり、上端面積(7.237)㎡、下端面積(7.013)㎡を測る。柱穴は検出されなかった。炉は、検出されず、焼土が北東部と南西部に2ヵ所堆積していた。壁溝は、検出されなかった。遺物も、出土していない。帰属時期を決定することが困難であるが、遺構の平面形態から古墳時代の遺構と判断したい。

47号遺構（竪穴建物跡）（第13・17・101図）

位置　調査区の南側I06グリッドに位置する。

形態　隅の丸まった不整な方形を呈している。西谷1号墳が東西に横断し、南西部は、西谷15号墳によって切られている。新旧関係は、本遺構の方が、どちらの古墳よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は(4.20)×(4.00)mを測り、遺構深度は25cmを測る。主軸方位は、N－50°－Wを向いており、上端面積は(11.040)㎡、下端面積は(10.224)㎡を測る。柱穴は1本のみ検出された。P2は、周囲を間仕切り溝で囲われており、貯蔵穴であった可能性が高い。炉は、遺構内北西寄りに検出された。壁溝は、検出されなかった。遺物は、結節文で区画された羽状縄文帯が巡る壺1や、弥生後期壺片3、4、6などが出土している。出土遺物が僅少であり、帰属時期の把握は困難であるが、遺物の特徴及び、遺構の平面形態等から弥生時代後期後半山田橋式期の遺構と考えられる。

48号遺構（竪穴建物跡）（第9・12・101図）

位置　調査区の南側H06グリッドに位置する。

形態　竪穴建物跡の壁は検出されなかったが、隅の丸まった方形を呈するものと考えられる。北西隅部を西谷1号墳によって切られ、南西隅部を西谷15号墳によって切られている。いずれの遺構よりも、本遺構の方が古い。

構造　平面規模は(4.61)×(4.23)m、遺構深度2cm程度を測るのみである。主軸方位は、N－19°－Wであり、上端面積(12.640)㎡を測る。柱穴は4本を数える。いずれの柱穴規模も小さいが、P2に

ついては、柱が抜き取られた可能性がある。Ｐ５は、出入口に伴うピットと考えられ、東脇の土坑Ｐ６は貯蔵穴と考えられる。炉は、Ｐ１－Ｐ２間の中央内側に位置している。方位は、本遺構の主軸方位とほぼ同一と考えられる。壁溝は、検出されなかった。遺物は、口唇部に刻み目を施した壺口縁部１及び沈線による山形文が施された壺胴部片２、３が出土するのみである。出土遺物が僅少であり、帰属時期の把握は困難であるが、出土遺物及び竪穴建物跡の平面形態等から弥生時代後期後半山田橋式期の遺構と考えられる。

49号遺構（竪穴建物跡）（第13・17・101・102・103図）

位置　調査区の南側Ｉ08グリッドに位置する。

形態　隅丸方形を呈する。西側部分を50号遺構（竪穴建物跡）及び西谷15号墳と重複している。新旧関係は、いずれの遺構よりも本遺構の方が古いと考えられる。

構造　平面規模は（4.82）×（4.78）ｍを測り、遺構深度は22cmを測る。主軸方位は、Ｎ－11°－Ｅを向いており、上端面積（8.773）㎡、下端面積（7.984）㎡を測る。柱穴は検出されなかったが、南東隅にあるＰ１は貯蔵穴であった可能性がある。炉は、検出されなかった。壁溝も、検出されなかった。遺物は、南側から焼成前穿孔が施された小型器台４が出土している。また、甕９なども出土している。北部からは、ハケメ痕が残り、上半部赤彩が施された壺５が出土し、貯蔵穴と考えられるＰ１からは、坩１、２、ハケメ痕の残る壺６の他に、甕８、10、11、12、甑13、14が出土している。12は、底部がドーナツ状を呈し、いわゆる底部輪台技法で成形されたと考えられる。畿内地方の影響を受けたものであろうか。他には、赤彩された杯15が出土しているが、混入遺物と考えられる。出土遺物の帰属時期に幅があるが、出土遺物及び遺構平面形態の特徴から古墳時代前期草刈2～3式期の遺構と考えられる。

50号遺構（竪穴建物跡）（第13・17・103・104図）

位置　調査区の南側Ｉ08グリッドに位置する。

形態　方形を呈していたと考えられる。東側を49号遺構（竪穴建物跡）と重複している。また、北西側を西谷15号墳によって切られている。新旧関係は、本遺構の方が49号遺構よりも新しく、西谷15号墳よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は5.08×（5.06）ｍを測り、遺構深度は44cm程度を測る。主軸方位は、Ｎ－41°－Ｅを向いており、上端面積（25.616）㎡、下端面積（24.112）㎡を測る。柱穴は４本検出され、Ｐ１及びＰ３は、西谷15号墳内に位置している。柱の抜き取り痕跡等は認められなかった。Ｐ２北東脇に位置するＰ５は、貯蔵穴と考えられる。カマドは、北東壁の突出部付近にあった可能性があるが、白色粘土等は認められていない。壁溝も、検出されなかった。遺物は、中央部から赤彩が施された高杯の脚部３及びタテ方向にヘラケズリが施された甕６が出土している。また、貯蔵穴内からは、甕上半部５及び甕底部９が出土している。他には、南東壁直下から、高杯２及び甕下半部８が出土している。遺構の帰属時期は、出土遺物の特徴及び遺構の平面形態の特徴等から、古墳時代中期後半と考えられる。

51号遺構（竪穴建物跡）（第９・12・104図）

位置　調査区の南側Ｇ06グリッドに位置する。

形態　隅の丸まった方形を呈する。本遺構の中央を、近世以降と考えられる区画溝が横断している。新旧関係は、本遺構の方が古い。

構造　平面規模は(5.26)×4.78ｍを測り、遺構深度は30cmを測る。主軸方位は、Ｎ－40°－Ｗであり、上端面積(20.468)㎡、下端面積(17.824)㎡を測る。柱穴は３本を検出した。南西側の柱穴は、近世以降と考えられる区画溝により破壊されてしまったのかもしれない。Ｐ４は出入口に伴うピットと考えられ、東脇に位置する土坑Ｐ５は貯蔵穴と考えられる。炉は、Ｐ１－Ｐ２間の中央外寄りに位置している。２つのピットをまたぐようにして、火床面が検出された。壁溝は、検出されなかった。遺物は、結節文により区画された羽状縄文帯が巡る壺胴部片１及び口縁に刻み目が施された甕口縁部２、３が出土するのみである。出土遺物が僅少であり、帰属時期を判断する根拠に乏しいが、遺構の平面形態の特徴等から弥生時代後期後半山田橋式期の遺構と考えられる。

52号遺構（竪穴建物跡）（第30・33・104図）

位置　調査区の東側Ｆ11グリッドに位置する。

形態　方形を呈していたと考えられるが、尾根東側の緩斜面に位置するため、北西部のみが検出された。

構造　遺構深度は55cmを測る。主軸方位は、Ｎ－11°－Ｗを向いており、上端面積は(10.234)㎡、下端面積は(7.824)㎡を測る。柱穴は検出されず、炉も検出されていない。壁溝も、検出されなかった。遺物は、半球形をした小型鉢１、口縁部がやや直立する小型鉢２、及び土器片錘３と球状土錘４が出土するのみである。出土遺物が僅少であり、帰属時期を把握する根拠に乏しいが、遺物の特徴及び遺構の平面形態から古墳時代中期和泉式期の遺構と考えられる。

53号遺構（竪穴建物跡）（第30・33・104図）

位置　調査区の東側Ｆ12グリッドに位置する。

形態　隅のやや丸い方形を呈していたと考えられるが、尾根東側の緩斜面に位置するため、東側部分は、検出されなかった。竪穴建物跡の北西隅部が近世以降の区画溝によって切られている。新旧関係は、本遺構の方が古い。

構造　平面規模は南北軸長(5.66)ｍを測る。遺構深度は５cm程を測るのみである。主軸方位は、Ｎ－20°－Ｗを向いており、上端面積(13.147)㎡、下端面積(12.968)㎡を測る。柱穴は２本を検出した。柱の抜き取り等の痕跡は見られなかった。炉は、Ｐ１－Ｐ２に直交するラインの北側やや内寄りに検出された。壁溝は、検出されなかった。遺物は、ハケメ痕の残る甕口縁部１、甕底部２及び坩形土器３のみである。出土遺物が僅少であり、帰属時期を把握する根拠に乏しいが、遺物の特徴及び遺構の平面形態から古墳時代前期後葉草刈3-1式期の遺構と考えられる。

54号遺構（竪穴建物跡）（第31・33・104図）

位置　調査区の東側Ｅ13グリッドに位置する。

形態　方形を呈していたと考えられる。尾根東側の緩斜面に位置するため、東側部分の竪穴建物壁は、多くが検出されなかった。
構造　平面規模は(4.02)×(4.18)m、遺構深度28cmを測る。主軸方位は、N－14°－Wであり、上端面積(18.928)㎡、下端面積(16.123)㎡を測る。柱穴は４本を数える。Ｐ２は柱が抜き取られたのだろうか。炉は、検出されなかった。壁溝も、検出されなかった。遺物は、坩形土器１及びハケメ痕の残る壺底部２が出土するのみである。帰属時期を決定する根拠に乏しいが、出土遺物及び遺構の平面形態等から古墳時代前期中葉草刈２式期の遺構と考えられる。

55号遺構（竪穴建物跡）（第30・33・105図）
位置　調査区の中央G13グリッドに位置する。
形態　方形を呈すると考えられるが、南壁及び西壁の一部は検出されなかった。東側を156号遺構(竪穴建物跡)と重複し、西側を56号遺構(竪穴建物跡)、北西側を60号遺構(竪穴建物跡)と重複し、西側を近世以降の区画溝が南北に縦断する。新旧関係は、本遺構の方が、56号遺構、60号遺構及び156号遺構よりも新しく、時期不明溝よりも古いと考えられる。
構造　平面規模は(4.88)×(4.82)m、遺構深度25cmを測る。主軸方位は、N－77°－Eであり、上端面積(24.619)㎡を測る。柱穴は４本を数える。柱の抜き取り痕跡等は認められなかった。カマドは、東壁南寄りに位置しており、本来、貯蔵穴があると想定される、南ソデ脇から焼土が検出されている。壁溝は、東壁を中心に一部検出された。遺物は、口縁部にヨコナデが施された鉢１、赤彩が施された高杯の杯部２、高杯の脚部３及び甕４、５、甑７などが出土している。出土遺物及び遺構の平面形態の特徴等から、古墳時代中期末葉鬼高古段階期の遺構と考えられる。

56号遺構（竪穴建物跡）（第30・33・105図）
位置　調査区の中央G13グリッドに位置する。
形態　隅の丸まった方形を呈している。東側部分を、55号遺構(竪穴建物跡)と重複し、北側を60号遺構(竪穴建物跡)と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、どちらの遺構よりも、古いと考えられる。
構造　遺構深度は26cmを測る。主軸方位は、N－50°－Wを向いており、上端面積(5.392)㎡、下端面積(4.688)㎡を測る。炉は、検出されなかった。柱穴も認められなかった。壁溝も検出されなかった。遺物は、口縁部に斜縄文が巡り、赤彩を施した壺口縁部１や、結節文により区画された羽状縄文帯が巡る壺胴部片３～５などが出土している。出土遺物が僅少で、帰属時期の把握は困難であるが、遺物及び遺構の平面形態の特徴等から弥生時代後期後半山田橋式期の遺構と考えられる。

57号遺構（竪穴建物跡）（第32・33・106図）
位置　調査区の中央側G14グリッドに位置する。
形態　方形を呈していたと考えられる。本遺構の東側は、西谷14号墳の主体部及び近世以降の区画溝によって切られており、西側も近世以降の区画溝によって切られている。新旧関係は、本遺構の方が、いずれよりも古い。
構造　平面規模は南北軸長が4.09mを測り、遺構深度は22cmを測る。主軸方位は、N－22°－Eであ

り、上端面積(9.339)㎡を測る。柱穴は、検出されず、南東壁直下にＰ１が位置しているが、貯蔵穴の可能性がある。炉も検出されていないが、中央北寄りにおいて、焼土の堆積が４ヵ所認められた。壁溝は、検出されなかった。遺物は、赤彩が施された杯１や、沈線により区画された中に山形文を施した壺胴部片４や、ハケメ痕の残る壺口縁部３、結節文により区画された中に連続山形文を施した壺胴部片５などが出土している。４、５は混入遺物と考えられる。出土遺物が僅少であり、帰属時期を把握することは困難であるが、遺構の平面形態等から古墳時代前期末葉草刈3-2式～中期和泉式期の遺構と判断した。

58号遺構（竪穴建物跡）（第31・33・106・107図）

位置　調査区の中央Ｆ15グリッドに位置する。

形態　隅のやや丸まった方形を呈していたと考えられるが、東隅部の壁立ち上がりは、検出されていない。遺構の中央及び北西側を、近世以降の区画溝によって切られている。新旧関係は、本遺構の方が古い。

構造　平面規模は(5.18)×5.18ｍを測り、遺構深度は33cmを測る。主軸方位は、Ｎ－45°－Ｗを向いており、上端面積は(26.864)㎡、下端面積は(24.656)㎡を測る。柱穴は検出されなかった。炉は、遺構内中央やや北寄りに位置し、中央を縦断する区画溝によって西側部分を切られている。壁溝は、検出されなかった。遺物は、赤彩及びヘラミガキが施された小型丸底鉢１、赤彩が施され、ハケメ痕の残る坩２、小型の鉢６、ヘラミガキが施され、ハケメ痕が残る高杯の脚部７や、脚部が細長く直立する高杯８などが出土している。また、口縁部にハケメ痕が残る球胴形の甕14や、ハケメ痕が残る甕底部19、小型甕22などが出土している。口縁部に斜縄文が巡る甕24なども出土しているが、混入遺物である。出土遺物及び遺構の平面形態の特徴等から古墳時代前期末葉草刈3-2式期の遺構と考えられる。

60号遺構（竪穴建物跡）（第32・33・107図）

位置　調査区の中央Ｇ13グリッドに位置する。

形態　隅の丸まった不整な方形を呈すると考えられる。東側部分を近世以降区画溝により切られており、南隅を、55号遺構(竪穴建物跡)及び56号遺構(竪穴建物跡)と重複している。また、北西部を61号遺構(竪穴建物跡)と重複する。新旧関係は、本遺構の方が55号遺構及び61号遺構よりも古く、56号遺構よりも新しいと考えられる。

構造　遺構深度は13cmを測る。主軸方位は、Ｎ－33°－Ｅであり、上端面積(18.229)㎡を測る。明確な柱穴は検出されなかった。炉も、検出されなかった。壁溝も、検出されていない。遺物は、内面にハケメ痕が残る甕底部１及び、支脚２が出土するのみである。出土遺物が極めて僅少であり、帰属時期を把握することは困難であるが、竪穴建物跡の形態等から古墳時代前期後葉草刈3-1式期の遺構と判断した。

61号遺構（竪穴建物跡）（第32・33・107図）

位置　調査区の中央Ｈ14グリッドに位置する。

形態　隅丸方形を呈する。南側を60号遺構(竪穴建物跡)と、西側部分を62号遺構(竪穴建物跡)とそ

れぞれ重複する。新旧関係は、本遺構の方が、いずれの遺構よりも新しいと考えられる。
構造　平面規模は3.37×3.38mを測り、遺構深度は25cmを測る。主軸方位は、N－47°－Wを向いており、上端面積9.456㎡、下端面積8.693㎡を測る。柱穴は中央部にＰ１が検出された。炉は、検出されなかったが、Ｐ１の西脇に焼土の堆積が認められた。壁溝は、検出されなかった。遺物は、ハケメ痕の残る球胴形を呈した甕１、ヘラナデが施された甕２及びハケメ痕の残る壺底部３、甕底部４などが出土している。出土遺物及び、遺構の平面形態の特徴等から古墳時代前期後葉草刈3-1式期の遺構と考えられる。

62号遺構（竪穴建物跡）（第32・33・107図）
位置　調査区の中央H14に位置する。
形態　隅の丸まった方形を呈する。東側を61号遺構（竪穴建物跡）と重複し、北側を63号遺構（竪穴建物跡）と重複する。また、西側は西谷14号墳により切られている。新旧関係は、本遺構の方が、西谷14号墳より古く、63号遺構よりも新しいと考えられる。
構造　遺構深度は45cmを測る。主軸方位は、N－48°－Wを向いており、上端面積（5.360）㎡、下端面積（4.677）㎡を測る。柱穴は検出されなかった。炉も、検出されていない。壁溝も、検出されなかった。遺物は、ハケメ痕の残る甕１と沈線で区画された山形文が巡る壺胴部片２が出土するのみである。出土遺物が極めて僅少であり、帰属時期を把握する根拠に乏しいが、遺構の平面形態の特徴等から古墳時代前期後葉草刈3-1式期の遺構と判断した。

63号遺構（竪穴建物跡）（第32・33図）
位置　調査区の中央H14グリッドに位置する。
形態　隅の丸い方形を呈する。本遺構の南東側は、62号遺構（竪穴建物跡）と重複し、西側は、西谷14号墳によって切られている。新旧関係は、本遺構の方が、いずれの遺構よりも古いと考えられる。
構造　遺構深度は25cmを測る。主軸方位は、N－47°－Wであり、上端面積（5.253）㎡、下端面積（4.763）㎡を測る。柱穴は検出されなかった。東隅部においてＰ１が検出されたのみだが、壁直下にあることから、貯蔵穴の可能性がある。炉は、検出されなかった。壁溝も、検出されなかった。遺物も、出土していない。帰属時期の把握は困難であり、遺構の平面形態の特徴から弥生時代後期後半山田橋式期の遺構であろうか。

64号遺構（竪穴建物跡）（第32・33・108図）
位置　調査区の中央G15グリッドに位置する。
形態　隅丸方形を呈する。本遺構北西側は、西谷14号墳によって切られている。新旧関係は、本遺構よりも、西谷14号墳の方が新しい。
構造　平面規模は東西軸長が（4.42）mを測る。遺構の深度は23cmである。主軸方位は、N－29°－Wを向いており、上端面積は（19.205）㎡、下端面積は（18.416）㎡を測る。柱穴は２ヵ所検出された。Ｐ３は、貯蔵穴の可能性がある。炉は、検出されず、焼土がＰ３西脇において検出された。炉は、西谷14号墳により切られ、消失したものと考えられる。壁溝は、検出されなかった。遺物は、ハケメ痕を

残し、頸部にヘラ状工具による刻み目を施した壺１、赤彩が施され、結節文により区画された斜縄文帯が巡る壺２などが出土する。出土遺物が極めて僅少であり、帰属時期を把握する根拠に乏しいが、遺構の平面形態から古墳時代前期草刈１式期の遺構と考えられる。

66号遺構（竪穴建物跡）（第40・42図）

位置　調査区の東側Ｄ16グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈している。南側は、近世以降の区画溝が横断している。東側尾根の緩斜面に位置し、南側部分は検出されなかった。新旧関係は、本遺構の方が古い。

構造　平面規模は東西軸長が(4.30)ｍを測る。遺構の深度は14cmである。主軸方位は、Ｎ－16°－Ｗを向いており、上端面積(8.528)㎡、下端面積(7.472)㎡を測る。柱穴は検出されなかった。炉も、検出されなかった。壁溝も、検出されていない。遺物も、検出されなかった。帰属時期の把握は困難であるが、遺構の平面形態から弥生時代後期前半久ヶ原式期の遺構と判断した。

67号遺構（竪穴建物跡）（第40・42・108図）

位置　調査区の東側Ｃ17グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。遺構内西側において、316号遺構(土坑跡)と重複する。新旧関係は、本遺構の方が古いと考えられる。

構造　平面規模は3.94×3.58m、遺構深度20cmを測る。主軸方位は、Ｎ－７°－Ｗであり、上端面積10.688㎡、下端面積9.050㎡を測る。柱穴は検出されなかった。炉も、検出されていない。壁溝も、検出されなかった。遺物は、赤彩を施した壺下半部の割れ口を再調整し、浅鉢に転用したと考えられる１の他に、縄文時代前期浮島式と考えられる深鉢胴部２、３が出土するのみである。柱穴や炉が検出されず、出土遺物が極めて僅少であることから、掘削深度が、床面まで達していなかった可能性が排除できない。帰属時期を把握することは困難であるが、遺構の平面形態等から弥生時代後期前半久ヶ原式期の遺構と判断したい。

68号遺構（竪穴建物跡）（第40・42・109図）

位置　調査区の東端Ｃ17グリッドに位置する。

形態　隅の丸まった不整な方形を呈する。尾根東側の緩斜面に位置し、東側は、近世以降の区画溝によって切られている。本遺構との新旧関係は、本遺構の方が古い。

構造　平面規模は南北軸長が(4.40)ｍを測る。遺構の深度は83cmである。主軸方位は、Ｎ－11°－Ｗであり、上端面積(15.936)㎡、下端面積(14.698)㎡を測る。柱穴は２本検出された。柱の抜き取り痕跡等は、認められなかった。炉は、検出されなかった。壁溝も、検出されていない。遺物は、口縁部に羽状縄文が巡る浅鉢１や、口唇部に刻み目を有する甕口縁部４、複数の輪積み痕を残す甕胴部５などが出土している。出土遺物が少数であり、帰属時期を把握することは困難であるが、出土遺物及び遺構の平面形態の特徴等から弥生時代後期後半山田橋式期の遺構と考えられる。

69号遺構（竪穴建物跡）（第40・42・109・110図）

位置　調査区の東側Ｃ18グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈している。南側に307号遺構（土坑跡）が隣接する。

構造　平面規模は4.40×3.80ｍを測り、遺構深度は36cmを測る。主軸方位は、Ｎ－52°－Ｗを向いており、上端面積13.067㎡、下端面積11.840㎡を測る。柱穴は４本検出された。柱の抜き取り痕跡等は、認められなかった。Ｐ１－Ｐ３間のほぼ中央に位置するＰ６は、出入口に伴うピットの可能性がある。東側壁直下付近にあるＰ５は、貯蔵穴であろうか。炉は、検出されなかった。壁溝も、検出されていない。遺物は、沈線により区画された羽状縄文が巡る壺胴部片１、結節文により区画された羽状縄文が巡る壺胴部片２、複数の輪積み痕を残す甕上半部６などが出土している。他に、赤彩が施された杯７、ヘラミガキが施された高杯９、ハケメ痕が残る球胴形をした甕13～16などが出土しているが、混入遺物であろう。16は、底部がドーナツ状を呈し、いわゆる底部輪台技法で成形されたと考えられる。畿内地方の影響を受けたものであろうか。新相の遺物も混入しているが、出土遺物及び遺構の平面形態の特徴等から弥生時代後期前半久ヶ原式期の遺構と判断した。

71号遺構（竪穴建物跡）（第57・62・110図）

位置　調査区の東側Ｃ22グリッドに位置する。

形態　隅丸方形を呈している。本遺構の南東側は、近世以降の区画溝によって切られている。新旧関係は、本遺構の方が古い。

構造　平面規模は4.36×（4.20）ｍを測り、遺構深度は13cmを測る。主軸方位は、Ｎ－41°－Ｅであり、上端面積（16.976）㎡、下端面積（14.741）㎡を測る。柱穴は検出されなかった。炉も、検出されていない。壁溝も、検出されなかった。本遺構も、掘削深度が床面まで到達していない可能性を排除できない遺構である。遺物は、ヘラミガキが施された小型の鉢１や、赤彩及びヘラミガキが施された坩２などが出土している。他に、沈線や結節文で区画された壺の胴部片などが出土するが、いずれも小片であり、混入遺物である。出土遺物が僅少であり、帰属時期を決定する根拠に乏しいが、遺物の特徴及び遺構の形態から古墳時代前期中葉草刈２式期の遺構と判断される。

72号遺構（竪穴建物跡）（第44・110・111図）

位置　調査区の中央Ｇ16グリッドに位置する。

形態　竪穴建物跡の痕跡と考えられ、北西部分の隅丸方形部が残るのみである。北側部分を、74号遺構（竪穴建物跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が古いと考えられる。

構造　遺構深度は17cmを測る。主軸方位は、Ｎ－83°－Ｗを向いている。上端面積（2.394）㎡、下端面積（2.181）㎡を測るのみである。柱穴は検出されず、炉も検出されなかったが、東側に焼土の堆積している箇所があり、本遺構に伴う可能性がある。壁溝も、検出されていない。遺物は、ハケメ痕が残り、赤彩が施された坩１や、ハケメ痕の残る甕口縁部２、４などが出土している。他には、沈線により羽状縄文が区画された壺胴部片７、８や、結節文で縄文帯が区画された９～12などが出土しているが、混入遺物であろう。出土遺物が少数で、遺構の痕跡のみの検出のため、帰属時期の把握は困難であるが、出土遺物の特徴等から古墳時代前期中葉～後葉草刈2～3式期の遺構であろうか。

73号遺構（竪穴建物跡）（第44・47・111・112図）

位置　調査区の中央H17グリッドに位置する。

形態　隅の丸まった方形を呈する。東側部分を74号遺構（竪穴建物跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、74号遺構よりも古い。

構造　平面規模は4.18×3.66m、遺構深度44cmを測る。主軸方位は、N－36°－Wであり、上端面積12.810㎡、下端面積11.728㎡を測る。柱穴は検出されなかった。炉も、検出されていない。壁溝も、検出されなかった。遺物は、丁寧なヘラミガキが施された高杯１や、折返し口縁を持つ壺２、口縁部直下に穿孔を施した甑３などが出土し、また、口縁部に刻み目を施し、頸部にヘラ状工具による連続刺突が巡る甕４、５などが出土している。４は、甕底部付近にハケメの痕跡がある。さらに、ハケメ痕を残し、折返し口縁を持つ壺口縁部７、小型椀９、ヘラミガキが施された器台10などが出土している。他には、口縁部に円形浮文を貼り付けた壺11や、沈線による連続山形文を施した壺片12、13や、結節文により山形文を区画した壺14などが出土しているが、混入遺物と考えられる。新相・古相の遺物が混在しているが、竪穴建物跡の平面形態などから弥生時代終末期後半中台2-2式期の遺構と考えられる。本遺構も、炉及び柱穴が検出されず、床面まで掘削深度が到達していなかった可能性を排除できない建物跡である。

74号遺構（竪穴建物跡）（第44・47・112～116図）

位置　調査区の中央G17に位置する。

形態　方形を呈する。東側部分を78号遺構（竪穴建物跡）、79号遺構（竪穴建物跡）と重複し、西側を73号遺構（竪穴建物跡）と重複し、南側は72号遺構（竪穴建物跡）、北側を76号遺構（竪穴建物跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方がいずれの遺構よりも新しいと考えられる。

構造　平面規模は4.36×（4.00）ｍを測り、遺構深度は12cmを測る。主軸方位は、N－37°－Wを向いており、上端面積（12.106）㎡、下端面積（10.768）㎡を測る。柱穴は検出されなかった。炉は、中央北西寄りに位置している。主軸方位は、建物跡とほぼ同一である。壁溝は、検出されなかった。遺物は、赤彩が施された杯１、２、３、高杯の脚部５、球胴形を呈した甕８、10、11、12、14、15などが出土している。また、甑27、28が出土しており、27は、半球状を呈している。新相の遺物も含まれているが、遺構の平面形態の特徴等から古墳時代中期前半和泉式期の遺構と考えられる。本遺構については、炉が検出されているので、床面付近まで掘削深度は到達していたと考えられるが、柱穴の検出まで至らなかった可能性を排除できない建物跡である。

75号遺構（竪穴建物跡）（第44・47図）

位置　調査区の中央H18グリッドに位置する。

形態　隅の丸まった方形を呈する。東側部分を、76号遺構（竪穴建物跡）、78号遺構（竪穴建物跡）及び120号遺構（竪穴建物跡）と重複している。新旧関係は、本遺構の方がいずれの遺構よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は4.10×（4.00）ｍを測り、遺構深度は35cmを測る。主軸方位は、N－32°－Wを向いており、上端面積（16.421）㎡、下端面積（15.424）㎡を測る。柱穴は検出されず、炉も、検出されなかっ

た。壁溝も、検出されていない。遺物も出土しなかった。帰属時期の把握は極めて困難であるが、遺構の平面形態の特徴から、弥生時代終末期後半中台２式期を中心とする時期と判断したい。本遺構についても、炉及び柱穴が検出されず、床面まで掘削深度が到達していなかった可能性を排除できない建物跡である。

76号遺構（竪穴建物跡）（第44・116図）

位置　調査区の中央Ｇ17グリッドに位置する。

形態　方形を呈していたと考えられる。本遺構の東側は、78号遺構（竪穴建物跡）、79号遺構（竪穴建物跡）と重複し、南側は、74号遺構（竪穴建物跡）と重複する。北側は、75号遺構（竪穴建物跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、74号遺構及び78号遺構よりも古く、75号遺構及び79号遺構よりも新しいと考えられる。

構造　遺構深度は９cmを測る。主軸方位は、Ｎ－30°－Ｗである。柱穴は検出されていないが、重複する79号遺構内にあるピットが本遺構に帰属する可能性も考えられる。炉も、検出されていない。壁溝も、検出されなかった。遺物は、ハケメ痕の残る甕口縁部１などが出土しており、他には沈線ないし結節文が施された壺胴部片４～６などが出土している。出土遺物が僅少であり、遺構が激しく重複していることから、帰属時期の把握は極めて困難であるが、出土遺物の特徴及び遺構の平面形態の特徴等から古墳時代前期後葉である草刈3-1式期の遺構と判断した。

77号遺構（竪穴建物跡）（第44・116図）

位置　調査区の中央Ｆ17グリッドに位置する。

形態　隅がやや丸まった不整な方形を呈する。本遺構東側を、87号遺構（竪穴建物跡）及び近世以降の区画溝によって切られている。また、西側は、78号遺構（竪穴建物跡）及び79号遺構（竪穴建物跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、いずれの遺構よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は南北軸長（5.32）ｍを測り、遺構深度は20cmを測る。主軸方位は、Ｎ－６°－Ｗを向いており、上端面積は（15.413）㎡、下端面積は（14.885）㎡を測る。柱穴は検出されなかった。炉も、検出されていない。壁溝も検出されず、壁自体が78号遺構などに切られ、南西部付近のみの検出である。遺物は、折返し口縁下端部に、ヘラ状工具による刻み目を施した壺口縁部１や、沈線により区画された壺胴部片２、３などが出土するのみである。出土遺物が僅少であり、帰属時期の把握は困難であるが、遺物の特徴及び遺構の平面形態から弥生時代後期前半久ヶ原式期の遺構と判断した。本遺構についても、柱穴等が検出されておらず、床面まで掘削深度が到達していなかった可能性を排除できない建物跡である。

78号遺構（竪穴建物跡）（第44・47・116～119図）

位置　調査区の中央Ｇ18グリッドに位置する。

形態　方形を呈していたと考えられる。本遺構の東側は、77号遺構（竪穴建物跡）と重複し、南側は、79号遺構（竪穴建物跡）と重複する。また、南西側を74号遺構（竪穴建物跡）及び76号遺構（竪穴建物跡）と重複し、北西側を75号遺構（竪穴建物跡）及び120号遺構（竪穴建物跡）と重複する。新旧関係は、本

遺構の方が、いずれの遺構よりも新しいと考えられる。
構造　平面規模は(7.68)×6.76mを測り、遺構深度は19cmを測る。主軸方位は、N－57°－Wを向いており、上端面積(46.165)㎡、下端面積(44.474)㎡を測る。柱穴は検出されていないが、東壁直下にあるＰ１が貯蔵穴である可能性がある。炉は、中央に位置している。複数の炉が検出されているようにも見え、周囲の遺構の炉が検出されている可能性がある。壁溝は、検出されなかった。遺物は、赤彩が施された杯１、平底を呈する赤彩の鉢４などが出土している。また、赤彩を施した台付鉢５及び高杯の杯部６～10、高杯の脚部11～17などが出土している。器台18は、混入遺物と考えられる。他には、球胴形を呈する甕19、22、甑41、42などが出土している。古相及び新相の遺物が混在しているが、出土遺物及び遺構の平面形態の特徴等から古墳時代中期中葉和泉式期の遺構と考えられる。

79号遺構（竪穴建物跡）（第44・47・119・120図）
位置　調査区の中央Ｇ17グリッドに位置する。
形態　隅の丸まった不整な方形を呈する。南西隅部を除いて多くを78号遺構(竪穴建物跡)と重複している。東側は77号遺構(竪穴建物跡)と重複し、南西側は74号遺構(竪穴建物跡)及び76号遺構(竪穴建物跡)と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、77号遺構よりも新しく、他のいずれの遺構よりも古いと考えられる。
構造　平面規模は(5.40)×(4.82)m、遺構深度11cmを測る。主軸方位は、N－77°－Wであり、上端面積(21.776)㎡を測る。柱穴は4本を数える。柱が抜き取られたような痕跡は認められなかった。Ｐ５は、出入口に伴うピットと考えられ、東にあるＰ６は、貯蔵穴と考えられる。炉は、Ｐ１－Ｐ２間の中央やや南寄り内側に検出された。壁溝はもとより、壁自体が78号遺構により切られ、残存していない。遺物は、折返し口縁を持つ壺口縁部１～７が出土している。７は、折返し部の器厚が薄く、退化した印象を受ける。また、結節文により縄文帯が区画された壺胴部片11、13、14、16などが出土している。他には、ハケメ痕の残る甕上半部22が出土しているが、混入遺物と考えられる。出土遺物の特徴及び遺構の平面形態等から弥生時代後期後半山田橋式期の遺構と考えられる。

80号遺構（竪穴建物跡）（第43・47・120図）
位置　調査区の中央Ｇ19グリッドに位置する。
形態　隅の丸まった不整な方形を呈する。北東部を近世以降の区画溝が横断している。本遺構の西側部分は、削平されていたため、検出されていない。新旧関係は、本遺構の方が古い。
構造　遺構深度は12cmを測る。主軸方位は、N－34°－Wと考えられ、上端面積(5.354)㎡、下端面積(5.242)㎡を測る。柱穴は検出されていない。炉も検出されず、壁溝も、検出されなかった。遺物は、羽状縄文帯が巡る壺胴部片１、甑の底部２及び高杯の脚部３が出土するのみである。出土遺物が僅少であり、帰属時期の把握は困難であるが、遺構の平面形態等から、弥生時代後期後半山田橋式期の遺構と判断したい。なお、本遺構についても、柱穴等が検出されておらず、出土遺物も極めて僅かであることから、床面まで掘削深度が到達していなかった可能性を排除できない建物跡である。

81号遺構（竪穴建物跡）（第43・47図）

位置　調査区の中央Ｆ19グリッドに位置する。

形態　隅丸方形を呈している。西側部分を、119号遺構（竪穴建物跡）と重複する。また、北端部分及び中央部分を、近世以降の区画溝が横断している。新旧関係は、本遺構の方が、119号遺構より新しく、区画溝よりも古い。

構造　平面規模は（5.46）×5.74ｍを測り、遺構深度は40cmを測る。主軸方位は、Ｎ－15°－Ｅを向いており、上端面積（26.480）㎡、下端面積（23.125）㎡を測る。柱穴は４本検出された。いずれも柱の抜き取り痕跡等は認められなかった。Ｐ４南東脇に位置するＰ５は、貯蔵穴と考えられる。炉は、検出されなかった。壁溝は、全周していたと考えられる。遺物は、検出されていない。帰属時期の把握は、極めて困難であるが、遺構の平面形態等から古墳時代前期後葉草刈３式期の遺構と判断したい。本遺構については、遺構深度が40cmあり、柱穴及び壁溝等が、掘り上げられていながら、掲載可能な出土遺物が皆無という状況は、あまりにも不自然と言わざるを得ない。出土遺物の取り上げ時に、何かしらの取り違え、齟齬があったと考えられる。

82号遺構（竪穴建物跡）（第41・42図）

位置　調査区の中央Ｅ19グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。本遺構の北側の多くを、83号遺構（竪穴建物跡）と重複しており、北側から南東側及び西側において、近世以降の区画溝によって切られている。新旧関係は、本遺構の方が、いずれよりも古い。

構造　遺構深度は12cmを測る。主軸方位は、Ｎ－８°－Ｗであり、上端面積（4.730）㎡を測る。柱穴は検出されていない。炉は、中央北寄りに検出され、83号遺構内に位置する。壁溝は、もとより壁自体が検出されなかった。炉の存在により、竪穴建物跡と認定したものである。遺物は、出土していない。帰属時期を把握することは極めて困難であるが、遺構の平面形態等から弥生時代後期前半久ヶ原式期の遺構と判断したい。

83号遺構（竪穴建物跡）（第41・42・121図）

位置　調査区の中央Ｅ19グリッドに位置する。

形態　隅丸方形を呈する。南側を82号遺構（竪穴建物跡）と重複し、北西～南東にかけて、近世以降の区画溝によって切られている。新旧関係は、本遺構の方が古い。

構造　平面規模は（4.02）×（4.37）ｍを測り、遺構深度は15cmを測る。主軸方位は、Ｎ－25°－Ｗを向いており、上端面積は（12.698）㎡を測る。柱穴は検出されなかった。炉は、中央北西寄りに位置している。壁溝はもとより、壁自体が検出されなかった。炉を検出したことにより、竪穴建物跡と認定したものである。遺物は、小型器台１や、大小計６ヵ所の焼成前穿孔を施した小型器台の脚部２、赤彩、ヘラミガキ及び焼成前穿孔を施した高杯の脚部３などが出土している。脚部が直立した焼成前穿孔を施した高杯４も出土しているが、混入遺物と考えられる。出土遺物が僅少であり、帰属時期の把握は困難であるが、出土遺物の特徴及び遺構の平面形態等から古墳時代前期前葉草刈１式期の遺構と考えられる。

84号遺構（竪穴建物跡）（第52・55・121図）

位置　調査区の中央D20グリッドに位置する。

形態　隅のやや丸まった方形を呈する。南側を85号遺構（竪穴建物跡）と重複し、東側部分を319号遺構（土坑跡）と重複する。また、北東から南西にかけて、近世以降の区画溝が縦断する。新旧関係は、本遺構の方が、85号遺構より新しく、319号遺構及び区画溝よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は5.19×（4.58）m、遺構深度52cmを測る。主軸方位は、N－69°－Wであり、上端面積は（21.541）㎡、下端面積は（20.296）㎡を測る。柱穴は、３本検出された。いずれも、柱が抜き取られたような痕跡は認められなかった。カマドは、北西壁中央やや南寄りで検出された。壁溝は、検出されなかった。遺物は、赤彩が施された小型壺の上半部１、小型甕の上半部２及び小型椀底部５が出土している。他には、折返し口縁部を持つ壺口縁部６や、輪積み痕を残し、ヘラ状工具による刻み目を施した甕胴部片７、８などが出土しているが、混入遺物と考えられる。出土遺物が僅少であり、帰属時期の把握は困難であるが、出土遺物及び、竪穴建物跡の形態から古墳時代中期和泉式期の遺構と考えられる。

85号遺構（竪穴建物跡）（第52・55・122図）

位置　調査区の中央D20グリッドに位置する。

形態　隅丸方形を呈する。北側部分を84号遺構（竪穴建物跡）と重複し、南側部分を318号遺構（土坑跡）と重複する。また、北東側を319号遺構（土坑跡）と重複し、北東から南西にかけて、近世以降の区画溝が縦断する。新旧関係は、本遺構の方が、いずれの遺構よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は（4.98）×4.94mを測り、遺構深度は28cmを測る。主軸方位は、N－29°－Wを向いており、上端面積（20.618）㎡、下端面積（19.674）㎡を測る。柱穴は検出されなかった。炉は、遺構中央北寄りに位置している。壁溝は、検出されなかった。遺物は、赤彩を施した高杯の杯部２及び赤彩が施された小型器台３や、赤彩が施され、脚部が直立した高杯４、ハケメ痕跡の残る甕上半部９、甕の底部15及び16は、底部がドーナツ状を呈し、いわゆる底部輪台技法で形成されたと考えられ、畿内地方の影響を受けたものと考えられる。また、ハケメ痕が残る小型の鉢17、18、19なども出土している。19についても、15、16同様、底部がドーナツ状を呈し、いわゆる底部輪台技法で形成されたと考えられ、畿内地方の影響を受けたものと考えられる。他には、赤彩を施し、半球状を呈する鉢１や、赤彩を施した坩上半部７及びヘラケズリを施した甕10、11などが出土しているが、混入遺物と考えられる。新相の遺物も混入しているが、遺物の特徴及び遺構の平面形態の特徴等から、古墳時代前期後葉草刈3-1式期の遺構と考えられる。

86号遺構（竪穴建物跡）（第41・42・123図）

位置　調査区の中央E18グリッドに位置する。

形態　やや隅の張る不整な円形を呈する。南側を西谷13号墳によって切られている。新旧関係は、本遺構の方が西谷13号墳よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は（4.10）×（4.30）mを測り、遺構深度は37cmを測る。主軸方位は、N－11°－Wを向いており、上端面積（12.757）㎡、下端面積（11.546）㎡を測る。柱穴は検出されなかった。炉は、中央

部北側やや東寄りに検出されている。壁溝は検出されず、壁が南側部分は西谷13号墳によって切られていた。遺物は、羽状縄文帯が巡る浅鉢１や、折返し口縁を持つ壺口縁部２及び沈線による山形文の中に斜縄文を施す壺胴部３や、口唇部に刻み目を施し、輪積み痕を残した甕口縁部５などが出土している。出土遺物が僅少であり、帰属時期を把握することは困難であるが、出土遺物及び遺構の平面形態の特徴等から、弥生時代後期前半久ヶ原式期の遺構と考えられる。

87号遺構（竪穴建物跡）（第41・42・123・124図）

位置　調査区の中央Ｆ17グリッドに位置する。

形態　方形を呈する。本遺構の北東側は、西谷13号墳と重複し、西側は、77号遺構（竪穴建物跡）と重複する。また、南北方向に近世以降の区画溝が３条、縦断している。新旧関係は、本遺構の方が77号遺構よりも新しく、西谷13号墳及び区画溝よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は（5.00）×（5.06）ｍを測り、遺構深度は９ｃｍを測る。主軸方位は、Ｎ－34°－Ｗであり、上端面積（23.856）㎡を測る。柱穴は２本検出された。柱の抜き取り痕跡等は認められなかった。炉は、区画溝によって、削平された可能性が高い。壁溝はもとより、壁自体が検出されなかった。遺物は、赤彩が施された有段口縁を持つ鉢１や、穿孔を施した小型器台３及び小型坩４、５、Ｓ字状台付甕口縁８及びハケメ痕の残る甕９などが出土している。他には、球胴形をした甕13などが出土するが混入遺物と考えられる。古相及び新相の遺物が混在しているが、出土遺物の特徴及び遺構の平面形態から古墳時代前期中葉草刈２式期の遺構と考えられる。

88号遺構（竪穴建物跡）（第57・62・124図）

位置　調査区の東端Ｂ23グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。尾根東側の緩斜面に位置し、東側は遺構が検出されず、西側のみの検出である。

構造　平面規模は南北軸長（4.62）ｍを測り、遺構深度は38ｃｍを測る。主軸方位は、Ｎ－10°－Ｅを向いており、残存する上端面積は（17.456）㎡、下端面積は（16.688）㎡を測る。柱穴は検出されず、炉も、検出されなかった。壁溝も、検出されていない。遺物については、穿孔を施し、結節文により区画された羽状縄文帯が巡る鉢１や、沈線で区画された羽状縄文が巡る壺胴部片２及び、赤彩、ヘラミガキが施された壺３が出土するのみである。出土遺物が僅少であり、帰属時期を決定する根拠に乏しいが、遺物の特徴及び遺構の平面形態等から、弥生時代後期後半山田橋式期の遺構であった可能性が高いと考えられる。

89号遺構（竪穴建物跡）（第57・62・124図）

位置　調査区の東側Ｃ23グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈している。東側は、88号遺構（竪穴建物跡）と重複しており、本遺構内中央西寄りを313号遺構（土坑跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、いずれの遺構よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は3.18×（2.58）ｍを測り、遺構深度は57ｃｍを測る。主軸方位は、Ｎ－６°－Ｅを向い

ており、上端面積(6.416)㎡、下端面積(5.370)㎡を測る。柱穴は検出されず、炉も検出されなかった。壁溝も、検出されていない。遺物は、沈線により区画された羽状縄文帯が巡る壺胴部片１～３、輪積み痕を残した甕胴部片５などが出土している。他に、結節文により斜縄文帯が区画された壺胴部片４が出土しているが、混入遺物の可能性が高い。出土遺物が僅少であり、帰属時期の把握は困難であるが、出土遺物の特徴及び遺構の平面形態の特徴等から弥生時代後期前半久ヶ原式期の遺構である可能性が高いと考えられる。

90号遺構（竪穴建物跡）（第56・62・124図）

位置　調査区の東側Ｃ22グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。北側を314号遺構(土坑跡)と重複している。新旧関係は、本遺構の方が古いと考えられる。

構造　平面規模は(2.00)×(2.08)ｍ、遺構深度18cmを測る。主軸方位は、Ｎ－９°－Ｅであり、上端面積(1.197)㎡、下端面積(1.136)㎡を測るのみである。柱穴は検出されず、炉も、検出されていない。壁溝も、検出されなかった。遺物は、縄文時代中期阿玉台式期の深鉢口縁部１が出土するのみである。胎土に雲母粒が含まれていた。本遺構に伴う出土遺物とは考えにくく、帰属時期は不明と言わざるを得ない。

91号遺構（竪穴建物跡）（第56・62・124・125図）

位置　調査区の東側Ｃ23グリッドに位置する。

形態　隅の丸まった方形を呈する。南側は、314号遺構(土坑跡)と重複する。新旧関係は、本遺構の方が古いと考えられる。

構造　平面規模は3.62×(2.18)ｍ、遺構深度15cmを測る。主軸方位は、Ｎ－81°－Ｗであり、上端面積(7.301)㎡、下端面積(6.496)㎡を測る。柱穴は検出されていない。炉は、中央西側に位置している。壁溝は、検出されなかった。遺物は、炉の西脇から、１段の輪積み痕を残し、縄文原体による刻み目を施した甕上半部４が出土している。他には、ヘラミガキが施された高杯の脚部１や、１段の輪積み痕を残し、球胴形の胴部がつく甕３などが出土している。新相の遺物も出土しているが、出土遺物及び遺構の平面形態の特徴等から弥生時代後期後半山田橋式～終末期前半中台１式期の遺構と考えられる。

92号遺構（竪穴建物跡）（第56・62・125・126図）

位置　調査区の中央Ｄ23グリッドに位置する。

形態　方形を呈すると考えられる。西側を93号遺構(竪穴建物跡)と重複し、北側は、148号遺構(竪穴建物跡)と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、いずれの遺構よりも新しいと考えられる。

構造　平面規模は6.54×6.19m、遺構深度24cmを測る。主軸方位は、Ｎ－72°－Ｗであり、上端面積35.476㎡、下端面積31.824㎡を測る。柱穴は、４本検出されている。柱の抜き取り痕等は、認められなかった。カマド南脇に位置するＰ５は、貯蔵穴と考えられる。Ｐ５は、掘り上げられない状態で、航空測量図化が行われた。カマドは、南東壁中央やや南寄りに検出された。壁溝は検出されなかった。

遺物は、カマド南ソデ脇から赤彩を施したやや平底を呈する杯１、赤彩を施した短頸壺10、口縁部が直立し、胴部が膨らんでいる甕11などが出土している。また、貯蔵穴Ｐ５確認面上及びその周辺から、赤彩を施した丸底の杯２、赤彩を施した高杯４、赤彩を施した高杯の杯部９、胴部が球胴形を呈した甕12、小型甕13などが出土している。他には、滑石片岩でできた石製模造品の有孔円板20などが出土している。南側からは、内面にハケメ痕跡の残る壺底部15などが出土しているが、混入遺物と考えられる。出土遺物及び遺構の平面形態の特徴等から古墳時代中期中葉和泉式期の遺構と考えられる。

93号遺構（竪穴建物跡）（第56・62・127図）

位置　調査区の中央Ｅ23グリッドに位置する。

形態　隅のかなり丸まった方形を呈している。本遺構の東側は、92号遺構（竪穴建物跡）と重複している。新旧関係は、本遺構の方が古いと考えられる。

構造　平面規模は4.00×（2.53）ｍを測り、遺構深度は26cmを測る。主軸方位は、Ｎ－22°－Ｅであり、上端面積（9.946）㎡、下端面積（8.613）㎡を測る。柱穴は検出されなかった。炉は、中央北東寄りに検出されている。壁溝は、検出されなかった。遺物は、沈線により区画された羽状縄文が巡る壺胴部片１～４が出土している。５、６は、櫛描きによる波状文が施されており、他地域の影響を受けた土器の可能性がある。出土遺物が少数であり、帰属時期を把握することは困難であるが、遺物及び遺構の平面形態の特徴等から弥生時代後期前半久ヶ原式～後期後半山田橋式期の遺構と判断される。

94号遺構（竪穴建物跡）（第53・55・127図）

位置　調査区の中央部Ｆ23グリッドに位置する。

形態　不整な楕円形を呈している。

構造　平面規模は2.92×2.12ｍを測り、遺構深度は41cmを測る。主軸方位は、Ｎ－30°－Ｅを向いており、上端面積は4.570㎡、下端面積は3.589㎡を測る。柱穴は検出されず、炉も、検出されなかった。壁溝も、検出されていない。遺物は、赤彩し、沈線によって区画された連続菱形文内に斜縄文を施した壺胴部１、折返し口縁端部に刻み目を施した壺口縁部２、４、棒状浮文を貼り付けた壺口縁部３、口唇部に刻み目を施した甕口縁部５、６などが出土している。遺物の出土状況及び遺構の床面状況等から、竪穴建物跡の残骸と判断したものである。帰属時期の把握は困難であるが、出土遺物等から、弥生時代後期前半久ヶ原式期の遺構と判断したい。

95号遺構（竪穴建物跡）（第53・55・127図）

位置　調査区の中央Ｇ23グリッドに位置する。

形態　隅丸方形を呈する。北東側部分を348号遺構（土坑跡）と重複している。新旧関係は、本遺構の方が古いと考えられる。

構造　平面規模は3.78×3.17m、遺構深度33cmを測る。主軸方位は、Ｎ－52°－Ｗであり、上端面積（10.530）㎡、下端面積（8.432）㎡を測る。柱穴は検出されず、炉やカマドも、検出されていない。壁溝も、検出されなかった。遺物は、赤彩を施した杯１、甕口縁部２及び甕底部３が出土している。他に、折返し口縁を持つ壺口縁部４や、沈線による山形文内に斜縄文を施す壺胴部５が出土しているが、

混入遺物と考えられる。出土遺物が僅少のため、帰属時期の把握は困難であるが、遺物及び遺構の形態等から古墳時代中期末葉鬼高式古段階期の遺構と判断したい。

96号遺構（竪穴建物跡）（第54・55・127～132図）

位置　調査区の中央Ｆ24グリッドに位置する。

形態　方形を呈する。北側を97号遺構（竪穴建物跡）及び107号遺構（竪穴建物跡）と重複する。また、南隅において、331号遺構（土坑跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が97号遺構及び107号遺構より新しく、331号遺構より古いと考えられる。

構造　平面規模は6.64×6.60ｍを測り、遺構深度は39cmを測る。主軸方位は、Ｎ－31°－Ｅを向いており、上端面積33.904㎡、下端面積29.994㎡を測る。柱穴は４本を数える。柱の抜き取り痕跡等は、認められなかった。カマドは、北東壁東寄りに位置している。カマド南東脇に位置している方形の土坑Ｐ５は、貯蔵穴である。壁溝は、331号遺構に切られている部分を除いて、ほぼ全周する。遺物は、赤彩が施され、やや平底を呈する杯１や、赤彩が施された丸底の杯２～８、赤彩を施した高杯11～15、鉢16、坩17～19などが出土している。折返し口縁を持つ壺20は、カマド西ソデ上面からの出土であるが、底面の内面付近にハケメ痕跡を残しており、古相の印象を受ける。他には、球胴形の胴部を呈する甕22、28や、卵形の胴部を有する甕21、23、25、29及び須恵器の大甕44などが出土している。また、石器では、滑石片岩で作られた紡錘車46などが出土している。出土遺物の帰属時期にやや幅があるように感じるが、遺物及び遺構の平面形態の特徴等から古墳時代中期前半和泉式期の遺構と考えられる。

97号遺構（竪穴建物跡）（第54・55・132図）

位置　調査区の中央Ｆ24グリッドに位置する。

形態　やや隅の張る不整な円形を呈する。南西側を96号遺構（竪穴建物跡）、107号遺構（竪穴建物跡）及び326号遺構（土坑跡）と重複している。また、北東側を西谷７号墳に切られている。新旧関係は、本遺構の方がいずれの遺構よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は、東西軸長（6.39）ｍ、遺構深度は26cmを測る。主軸方位は、Ｎ－22°－Ｅを向いており、上端面積（8.325）㎡、下端面積（6.181）㎡を測る。柱穴は、１本のみ検出された。炉は、検出されなかった。壁溝も、検出されていない。遺物は、口唇部にヘラ状工具による刻み目を施した折返し口縁を有する甕１、口唇部にヘラ状工具による刻み目を施し１段の輪積み痕跡を残す甕上半部２、及び口唇部にヘラ状工具による刻み目を施した甕口縁部３が出土するのみである。出土遺物が僅少であり、帰属時期の把握は困難であるが、遺物及び遺構の平面形態の特徴から、弥生時代後期前半久ヶ原～山田橋式期の遺構と考えられる。

98号遺構（竪穴建物跡）（第58・62・132図）

位置　調査区の東側Ｃ25グリッドに位置する。

形態　隅のかなり丸まった不整な方形を呈する。本遺構の中央を、長方形の撹乱土坑が重複しており、炉の南東部が切られている。新旧関係は、当然のことであるが、本遺構の方が古い。

構造　平面規模は4.34×4.00m、遺構深度11cmを測る。主軸方位は、N－10°－Wであり、上端面積13.658㎡、下端面積12.016㎡を測る。柱穴は４本を数える。出入口に伴うピットであるＰ５東脇の土坑Ｐ６は貯蔵穴であろうか。Ｐ１～Ｐ６は、掘り上げられない状態で、航空測量図化が行われた。炉は、Ｐ１－Ｐ２間の中央に位置している。壁溝は、検出されなかった。遺物は、甕底部片１及び縄文時代中期阿玉台式期の深鉢胴部片２が出土するのみである。出土遺物が極めて僅少であり、帰属時期を把握する根拠に乏しいが、遺構の平面形態の特徴から弥生時代後期前半久ヶ原～山田橋式期の遺構と判断したい。ピットが掘り上げられていれば、帰属時期を把握する根拠が増えた可能性のある遺構である。

99号遺構（竪穴建物跡）（第58・62図）

位置　調査区の東側寄りＣ26グリッドに位置する。

形態　隅のかなり丸まった不整な方形を呈する。本遺構の西側は、西谷６号墳によって、切られている。新旧関係は、本遺構の方が古いと考えられる。

構造　平面規模は南北軸長(3.78)ｍを測り、遺構深度は16cmを測る。主軸方位は、N－28°－Wを向いており、上端面積は(4.229)㎡、下端面積は(3.760)㎡を測る。柱穴は検出されず、炉も、検出されなかった。西谷６号墳により切られたものと考えられる。壁溝も、検出されていない。遺物も、出土しなかった。遺構の平面形態から古墳時代前期後葉草刈3－1式期の遺構と考えられる。なお、本遺構についても、柱穴等が検出されておらず、出土遺物もないことから、床面まで掘削深度が到達していなかった可能性を排除できない建物跡である。

100号遺構（竪穴建物跡）（第61・64・133～142図）

位置　調査区の北側Ｆ28グリッドに位置する。

形態　方形を呈する。南西側を101号遺構(竪穴建物跡)と重複し、北西側を112号遺構(竪穴建物跡)と重複する。また、多数の土坑跡と重複しており、南側は、332号遺構(土坑跡)、333号遺構(土坑跡)、335号跡(土坑跡)と重複する。西側は､446号遺構(土坑跡)､451号遺構(土坑跡)及び468号遺構(土坑跡)と重複する。北側は、460号遺構(土坑跡)、461号遺構(土坑跡)、462号遺構(土坑跡)、463号遺構(土坑跡)、465号遺構(土坑跡)北東側は、452号遺構(土坑跡)、466号遺構(土坑跡)と重複する。また、中央部に中世期まで遡る可能性のある火葬土坑跡が数基検出されており、478～481号遺構(土坑跡)と重複する。他には、南西部を中心に五輪塔及び板碑がまとまって黒色堆積土上に検出されており、本遺構埋没後、黒色土中に掘り込まれた中世期の墓坑跡が多数あったことを想起させる(第66図参照)。新旧関係は、本遺構の方が､101号遺構及び112号遺構より新しく、他の土坑跡よりは古いと考えられる。

構造　平面規模は9.81×10.01ｍを測り、遺構深度は20cmを測る。主軸方位は、N－41°－Ｅを向いており、上端面積92.380㎡、下端面積80.730㎡を測る。柱穴は４本を数える。柱穴は、いずれも平面規模が小さく、柱の抜き取り等の痕跡は見られなかった。カマドは、北東壁東寄りに位置している。壁溝は、南隅部及び西部を除いて検出された。本遺構は、建物跡の平面規模が92㎡を越え、大型の建物跡であるとともに、土器祭祀が行われた特殊な建物跡と考えられ、多量な遺物が出土している。本遺構は、現場調査担当者も特殊な遺構と認識していたようで、張り床を剥がすことまで行われている。

杯は、全て赤彩が施されており、いずれも祭祀に使われた土器であることを想起させる。口縁部がやや外反する鉢１や丸底の杯２～33、内・外面に赤彩が施された蓋34及び小型丸底壺35、36が出土している。35、36は、口縁が短く直立している。また、赤彩が施された鞴39、赤彩が施された坩40～45、高杯46～69が出土し、47以外は全て赤彩が施されている。なお、68、69は小型の高杯である。70は、ミニチュア土器の鉢か。71～88は甕である。やや時間幅があるようであり、71は、ハケメ痕跡が残る。胴部が球胴化した72、73、78などが主体であるが、卵形をした74、77、84なども出土している。他には、甑89、90、須恵器大甕の口縁～頸部91などが出土している。石器では、滑石片岩で作られた石製模造品の有孔円板92、93が出土している。93は、小型で端部の整形が粗く、後出的な印象を受ける。出土遺物に時間的な幅があるように感じるが、出土遺物及び遺構の平面形態の特徴等から、古墳時代中期後葉～末葉の遺構と考えられる。なお、本遺構については、第Ⅳ章で改めて述べる。

101号遺構（竪穴建物跡）（第63・64・142図）

位置　調査区の北側Ｇ28グリッドに位置する。

形態　隅のかなり丸まった不整な方形を呈する。東側を100号遺構（竪穴建物跡）と重複している。また、南側を334号遺構（土坑跡）と重複している。本遺構の方がいずれの遺構よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は4.78×4.23m、遺構深度36cmを測る。主軸方位は、Ｎ－46°－Ｗであり、上端面積（16.320）㎡、下端面積（14.736）㎡を測る。柱穴は４本を数える。柱の抜き取り痕跡などは見られなかった。Ｐ４の南東側にあるピットＰ５は、貯蔵穴であろう。炉は、Ｐ１－Ｐ２間の中央に位置している。壁溝は、検出されなかった。遺物は、折返し口縁部に斜縄文が巡り、ボタン状の円形浮文が貼り付けられた壺口縁部１及び口唇部に刻み目を施し、輪積み痕を残す甕口縁部２が出土している。ヘラケズリが施された甕３は、混入遺物と考えられる。出土遺物が僅少であり、帰属時期を決定する根拠に乏しいが、遺物及び遺構の平面形態等から弥生時代後期後半山田橋式期の遺構であろうか。

102号遺構（竪穴建物跡）（第63・64・142図）

位置　調査区の北側Ｈ27グリッドに位置する。

形態　方形を呈する。東側を103号遺構（竪穴建物跡）と重複している。新旧関係は、本遺構の方が新しいと考えられる。

構造　平面規模は6.42×（6.20）m、遺構深度33cmを測る。主軸方位は、Ｎ－34°－Ｅであり、上端面積（36.325）㎡、下端面積（34.688）㎡を測る。柱穴は４本を数える。Ｐ２は、柱が抜き取られた可能性がある。カマド東ソデ脇にあるピットＰ５は、貯蔵穴であろう。カマドは、北東壁中央東寄りに位置している。壁溝は、検出されなかった。遺物は、ヘラケズリを施した甕上半部１及び、沈線により区画された中に、斜縄文を充填した連続菱形文が巡る壺胴部２が出土するのみである。出土遺物が極めて僅少であり、帰属時期の把握は困難であるが、遺構の平面形態等から、古墳時代中期末葉鬼高式古段階期の遺構と判断したい。本遺構については、遺構深度が33cmあり、柱穴等が、掘り上げられていながら、掲載可能な出土遺物が極めて僅少であり、不自然と言わざるを得ない。出土遺物の取り上げ時に、何かしらの取り違え、齟齬があったと考えられる。

103号遺構（竪穴建物跡）（第63・64・143図）

位置　調査区の北側Ｇ27グリッドに位置する。

形態　やや隅の張る不整な円形を呈しており、北西側が、102号遺構（竪穴建物跡）と重複する。本遺構の方が古いと考えられる。

構造　平面規模は（5.50）×5.42ｍを測り、遺構深度は37ｃｍを測る。主軸方位は、Ｎ－32°－Ｗを向いており、上端面積（20.272）㎡、下端面積（18.362）㎡を測る。柱穴は４本を数える。柱の抜き取り痕跡などは認められなかった。Ｐ５は、出入口に伴うピットと考えられる。東に存在するＰ６は、貯蔵穴と考えられる。周囲には、周堤状の高まりが認められる。炉は、中央北西寄りに位置している。主軸方位は、建物跡とほぼ同一である。壁溝は、検出されなかった。遺物は、沈線で区画された斜縄文が巡る浅鉢口縁部１、赤彩が施された高杯２、３及び甕上半部４が出土するのみである。出土遺物が僅少であり、帰属時期を把握することは困難であるが、遺構の平面形態等から、弥生時代後期前半久ヶ原式期の遺構と判断した。本遺構についても、遺構深度が37ｃｍあり、柱穴や貯蔵穴が掘り上げられていながら、掲載可能な出土遺物が極めて僅少であり、不自然と言わざるを得ない。出土遺物の取り上げ時に、何かしらの取り違え、齟齬があったと考えざるを得ない。

104号遺構（竪穴建物跡）（第63・64図）

位置　調査区の北側Ｈ26グリッドに位置する。

形態　隅のかなり丸まった不整な方形を呈する。

構造　平面規模は3.62×3.38ｍ、遺構深度33ｃｍを測る。主軸方位は、Ｎ－43°－Ｗであり、上端面積9.088㎡、下端面積8.800㎡を測る。柱穴は検出されていない。出入口部に伴う位置にピットが確認されるが、掘り上げられていない。炉は、中央北西寄りに位置する。主軸方位は、建物跡とほぼ同一である。壁溝は、検出されなかった。遺物も、検出されていない。帰属時期の把握は極めて困難であるが、遺構の平面形態から弥生時代後期後半山田橋式期の遺構と判断したい。本遺構については、炉が確認された段階で、遺構掘削を終了し、柱穴や床面などの精査が不完全であった可能性がある。

105号遺構（竪穴建物跡）（第65・69・143図）

位置　調査区の北側Ｉ26グリッドに位置する。

形態　隅の丸まった不整な方形を呈する。遺構の重複はないが、北西側部分の壁が検出されていない。

構造　平面規模は（5.86）×5.44ｍを測り、遺構深度は15ｃｍを測る。主軸方位は、Ｎ－44°－Ｗを向いており、上端面積は（23.868）㎡、下端面積は（22.810）㎡を測る。柱穴は４本を数える。柱の平面規模が小さく、柱の抜き取り痕跡などは認められなかった。Ｐ４の南東側に位置するＰ５は、貯蔵穴の可能性がある。炉は、検出されなかった。壁溝も、検出されていない。遺物は、沈線により複合山形文を区画し、結節文を充填した壺胴部片１が出土するのみである。出土遺物が極めて僅少であり、帰属時期を把握する根拠に乏しいが、遺構の平面形態等から弥生時代後期後半山田橋式期の遺構と判断したい。

106号遺構（竪穴建物跡）（第54・55図）

位置　調査区の中央Ｇ24グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈し、竪穴建物跡の痕跡と考えられる。北側を時期不明の土坑状の溝に切られており、北西側は、壁の立ち上がりが検出されていない。

構造　平面規模は、南北軸長(2.98)ｍ、遺構深度12cmを測る。主軸方位は、Ｎ－４°－Ｅであり、上端面積(5.840)㎡、下端面積(5.168)㎡を測る。柱穴は検出されなかった。炉も、検出されていない。壁溝も、検出されなかった。遺物も、出土しなかった。帰属時期の把握は、極めて困難であり、時期不明と言わざるを得ない。

107号遺構（竪穴建物跡）（第54・55図）

位置　調査区の中央Ｆ24グリッドに位置する。

形態　方形を呈する。遺構の西端部分を除いて殆どを96号遺構(竪穴建物跡)により切られている。また、北西壁南側は､326号遺構(土坑跡)によって切られている。さらに、北側は97号遺構(竪穴建物跡)と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、96号遺構及び326号遺構よりも古く、97号遺構よりも新しいと考えられる。

構造　平面規模は5.64×(5.70)ｍを測り、遺構深度は30cmを測る。主軸方位は、Ｎ－31°－Ｅを向いており、上端面積(2.650)㎡、下端面積(2.496)㎡を測る。柱穴は３本検出され、いずれも96号遺構内に位置している。炉は､96号遺構により削平されたため、検出されなかった。壁溝も、検出されなかった。遺物も、出土しなかった。帰属時期の把握は困難であるが、遺構の平面形態から古墳時代中期中葉和泉式期の遺構と判断した。

108号遺構（竪穴建物跡）（第59・143・144図）

位置　調査区の北側Ｃ29グリッドに位置する。

形態　隅丸方形を呈する。北西側を大きく西谷５号墳によって切られており、474号遺構(土坑跡)とも重複する。新旧関係は、本遺構の方が、いずれよりも古いと考えられる。

構造　平面規模は(7.39)×(7.22)ｍを測り、遺構深度は45cmを測る。主軸方位は、Ｎ－69°－Ｗを向いており、上端面積(42.032)㎡、下端面積(41.904)㎡を測る。柱穴や貯蔵穴と断定できるものは、検出されなかった。炉も、検出されていない。壁溝も、検出されず、北東側及び南東側は、壁の立ち上がりさえ検出されなかった。遺物は、ヘラナデを施した鉢１が出土し、他には、口縁部に羽状縄文が巡り、円形浮文を貼り付けた壺２、沈線で区画された羽状縄文帯が巡る壺頸部～胴部３、５、赤彩及びヘラミガキを施した壺下半部４、６、７、口唇部に刻み目を施した甕８、９などが出土している。石器では、緑色片岩で作られた石製模造品の有孔円板11が出土している。竪穴建物跡の平面形態から判断すれば、１以外は混入遺物となるが、実際には、弥生時代後期まで遡る遺構が重複していた可能性も考えられる。または、遺物の取り上げ時に、何かの取り違えがあった可能性もある。いずれにしても、帰属時期を把握する根拠に乏しいが、遺構の平面形態から古墳時代前期前葉草刈１式期の遺構と判断したい。

109号遺構（竪穴建物跡）（第68・70・144図）

位置　調査区の北側Ｄ30グリッドに位置する。

形態　隅丸方形を呈していたと考えられる。本遺構の南側は、西谷５号墳が横断している。

構造　平面規模は(3.20)×(2.68)ｍを測り、遺構深度は14cmを測る。主軸方位は、Ｎ－66°－Ｗであり、上端面積(6.149)㎡、下端面積(4.976)㎡を測る。柱穴は検出されなかった。炉も、検出されていない。壁溝も、検出されなかった。遺物は、赤彩が施された坩１、ヘラナデが施された杯２、丁寧なヘラミガキが施された高杯３、ハケメ痕跡の残る甕口縁部４、赤彩及びヘラナデが施された壺下半部６などが出土している。他には、赤彩が施され、口縁部に羽状縄文が巡る壺７、赤彩が施され頸部に結節文が巡る壺８、口唇部及び胴部上半に刻み目を施し、輪積み痕を残した甕９などが出土しているが、混入遺物と考えられる。出土遺物の特徴及び、遺構の平面形態の特徴から古墳時代前期前葉から中葉草刈1～2式期の遺構と考えられる。

110号遺構（竪穴建物跡）（第67・145～148図）

位置　調査区の北側Ｅ30グリッドに位置する。

形態　方形を呈する。本遺構南西側は、西谷５号墳によって大きく切られている。また、北隅部は、西谷５号墳墳丘上に常滑の大甕が２基据え置かれた473号遺構（土坑跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、いずれの遺構よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は北西－南東軸長(4.80)ｍを測り、遺構深度は僅か４cmである。主軸方位は、Ｎ－55°－Ｗを向いている。柱穴は検出されず、炉も、検出されていない。壁溝はもとより、壁の立ち上がり自体が検出されなかった。遺物は、赤彩を施した蓋１や赤彩を施した丸底の杯２～４、赤彩を施した鉢５、赤彩を施した高杯６～８、赤彩を施した坩９、ハケメ痕跡の残る球胴形を呈した甕11、口縁部が直立し球胴形を呈する甕15、球胴形を呈する甕16～18、胴部が卵形を呈する甕12、13、21などが出土している。他には、支脚28やチャートで作られた磨石29などが出土している。遺構の遺存割合に比べて、遺物出土量が極めて多く、西谷５号墳周溝内の遺物も取り上げられた可能性がある。出土遺物に時間的な幅がややある印象を受けるが、遺物の特徴及び遺構の平面形態から古墳時代中期中葉和泉式期の遺構と判断したい。

111号遺構（竪穴建物跡）（第60・62・148図）

位置　調査区の北側Ｅ29グリッドに位置する。

形態　隅の丸まった不整な方形を呈している。北側は、西谷５号墳が横断している。新旧関係は、本遺構の方が古いと考えられる。

構造　平面規模は(4.00)×(3.08)ｍを測り、遺構深度は17cmを測る。主軸方位は、Ｎ－２°－Ｅを向いており、上端面積(10.064)㎡、下端面積(9.168)㎡を測る。柱穴は検出されなかった。炉は、中央やや北西寄りに位置している。壁溝は、検出されなかった。遺物は、結節文により区画された連続山形文が巡る鉢口縁部１や、壺胴部２、折返し口縁の口唇部に斜縄文が巡り、ヘラ状工具による刻み目を施した壺口縁部３や、沈線により区画された羽状縄文が巡る壺胴部４、結節文で区画された壺胴部５、口唇部に刻み目を施し、輪積み痕を残した甕６などが出土している。炉の存在から遺構と認定さ

れた竪穴建物跡の痕跡であり、出土遺物は少量であるが、遺物の特徴及び遺構の平面形態から弥生時代後期後半山田橋式期の遺構と考えられる。

112号遺構（竪穴建物跡）（第61・62・148図）

位置　調査区の北側Ｆ29グリッドに位置する。

形態　遺構の壁立ち上がりは、全く検出されず、炉と柱穴及び貯蔵穴の存在により、竪穴建物跡と認定したものである。南西側を100号遺構（竪穴建物跡）と重複していたと考えられ、北西側を426号遺構（土坑跡）、427号遺構（土坑跡）、428号遺構（土坑跡）及び438号遺構（土坑跡）と重複する。また、北西側を477号遺構（土坑跡）、南東側を482号遺構（土坑跡）、南東側を483号遺構（土坑跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、いずれの遺構よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は、(6.12)×(5.18)ｍ、遺構深度５ｃｍを測る。主軸方位は、Ｎ－42°－Ｗであり、上端面積(23.728)㎡を測る。柱穴は４本を数える。Ｐ１、Ｐ２及びＰ４については、柱が抜き取られた可能性がある。Ｐ４の南東側に位置するＰ５は、貯蔵穴であると考えられる。Ｐ６は、出入口に伴うピットの可能性があるが、掘り込まれていない。炉は、Ｐ１－Ｐ２間の中央やや北寄りに位置している。主軸は、建物跡の主軸方位とほぼ一致すると考えられる。壁溝はもとより、壁の立ち上がりが全く検出されなかった。遺物は、赤彩を施し、斜縄文が巡る壺１や、口縁部に羽状縄文が巡り、口縁下端部に刻み目を施す壺２や、結節文により、羽状縄文帯などを区画した壺胴部片４～６などが出土している。出土遺物が少量であり、遺構の平面形態が不明のため、帰属時期を把握する根拠に乏しいが、遺物の特徴などから、弥生時代後期後半山田橋式期の遺構と判断したい。

113号遺構（竪穴建物跡）（第53・55・149・150図）

位置　調査区の中央Ｇ22グリッドに位置する。

形態　隅の丸まった方形を呈する。遺構の中央を南北に、方墳である西谷16号墳が縦断している。また、南端部を近世以降の区画溝により切られている。新旧関係は、本遺構の方が、いずれよりも古い。

構造　平面規模は6.34×5.61ｍ、遺構深度４ｃｍを測る。主軸方位は、Ｎ－49°－Ｗであり、上端面積(30.453)㎡、下端面積(27.301)㎡を測る。柱穴は４本検出された。柱の抜き取り痕跡等は、認められなかった。Ｐ４の南東壁直下に位置するＰ５は、貯蔵穴の可能性があるが、掘り込まれていない。炉は、Ｐ１－Ｐ２間の中央内寄りに位置している。主軸は、建物跡の主軸方位とほぼ一致すると考えられる。壁溝は、検出されなかった。遺物は、炉内から、輪積み痕を残し、輪積み痕下端部に縄文原体による刻み目を施した甕上半部８、９、折返し口縁を持つ甕10及び甕底部12などが出土している。また、北西部から、口縁部に結節文が巡り、２本の棒状浮文が貼り付けられた壺４及び、無文部に赤彩を施し、沈線により区画された羽状縄文帯が巡る壺胴部５が出土し、西部においては、壁付近から赤彩及びヘラミガキが施された小型壺３などが出土している。さらに、貯蔵穴の可能性があるＰ５付近から、沈線により区画された山形文内に羽状縄文を施した壺胴部７が出土している。一括出土遺物では、赤彩が施され、結節文により、口縁部の羽状縄文帯が区画された浅鉢１、２が出土している。出土遺物及び遺構の平面形態の特徴等から弥生時代後期後半山田橋式期の遺構と考えられる。

114号遺構（竪穴建物跡）（第52・55・150図）

位置　調査区の中央Ｅ22グリッドに位置する。

形態　隅の丸まった方形を呈している。東部及び北西部を、近世以降の区画溝が重複している。新旧関係は、本遺構の方が古い。

構造　平面規模は5.62×4.97ｍを測り、遺構深度は４ｃｍを測るのみである。主軸方位は、Ｎ－39°－Ｗを向いており、上端面積(23.018)㎡、下端面積(20.128)㎡を測る。柱穴は４本検出された。Ｐ１及びＰ２は、柱が抜き取られた可能性がある。Ｐ５は、出入口に伴うピットの可能性がある。Ｐ５の南東壁直下に位置するＰ６は、貯蔵穴であろう。炉は、Ｐ１－Ｐ２間の中央やや内寄りに位置している。主軸は、建物跡の主軸方位とほぼ一致すると考えられる。壁溝は、検出されなかった。遺物は、南壁直下から、丁寧なヘラミガキが施された高杯１や、Ｐ３付近から、口唇部及び頸部下端に刻み目が施された甕上半部５が出土している。他には、一括出土遺物として、赤彩が施され、結節文により区切られた斜縄文帯が巡る広口壺２が出土している。ハケメ痕跡が残る甕３なども出土しているが、混入遺物と考えられる。出土遺物の特徴及び遺構の平面形態等から弥生時代後期後半山田橋式期の遺構と考えられる。

116号遺構（竪穴建物跡）（第52・55・150・151図）

位置　調査区の中央Ｄ21グリッドに位置する。

形態　隅のやや張る不整な円形を呈している。本遺構の南側は、117号遺構(竪穴建物跡)と重複している。新旧関係は、本遺構の方が古いと考えられる。

構造　平面規模は(1.18)×(3.00)ｍを測り、遺構深度は18cmを測る。主軸方位は、Ｎ－５°－Ｅであり、上端面積(2.330)㎡、下端面積(2.256)㎡を測る。柱穴は検出されなかった。炉も、117号遺構に切られ、検出されていない。壁溝も、検出されなかった。遺物は、折返し口縁部に、斜縄文が巡り、ヘラ状工具による刻み目を施した壺口縁部１、２や、口縁部に斜縄文が巡り、ヘラ状工具による刻み目を施した浅鉢口縁部３、沈線により区画された羽状縄文帯が巡る壺胴部４及び１段の輪積み痕を残し、ヘラ状工具による刻み目を施した甕胴部12などが出土している。他には、赤彩を施した杯５や、高杯脚部６、小型の甕７などが出土しているが、混入遺物と考えられる。帰属時期を把握する根拠に乏しいが、出土遺物及び遺構の平面形態等から、弥生時代後期前半久ヶ原式期の遺構であると判断した。

117号遺構（竪穴建物跡）（第52・55・151・152図）

位置　調査区の中央Ｄ21グリッドに位置する。

形態　隅のやや張る不整な円形を呈している。北側を116号遺構(竪穴建物跡)と重複し、南側を近世以降の区画溝と重複している。新旧関係は、本遺構の方が、区画溝よりも古く、116号遺構よりも新しい。

構造　平面規模は4.17×3.32ｍを測り、遺構深度は33cmを測る。主軸方位は、Ｎ－10°－Ｅを向いており、上端面積は10.234㎡、下端面積は8.661㎡を測る。柱穴は、南西側にＰ１が検出され、南東壁付近にあるＰ２は、貯蔵穴の可能性があるが、いずれも掘り上げられていない。炉は、中央北寄りに位置している。主軸は、建物跡の主軸方位とほぼ一致すると考えられる。壁溝は、検出されなかった。

遺物は、中央部東側において、折返し口縁部に斜縄文が巡り、胴部上端に沈線で区画された羽状縄文帯が巡る広口壺１や、折返し口縁端部にヘラ状工具による刻み目を施し、口縁～頸部にかけて、羽状縄文が施される壺２、折返し口縁状を呈し、口唇部にヘラ状工具による刻み目を施す甕８などが出土している。他には、一括出土遺物として、沈線で区画された斜縄文帯及び山形文が巡る壺胴部３～７が出土している。また、杯９などが出土しているが、混入遺物と考えられる。出土遺物が少量であり、帰属時期を把握する根拠に乏しいが、遺物の特徴及び遺構の平面形態等から弥生時代後期前半久ヶ原～山田橋式期の遺構と考えられる。

118号遺構（竪穴建物跡）（第52・55図）

位置　調査区の中央Ｅ21グリッドに位置する。

形態　隅の丸まった不整な方形を呈すると考えられる。遺構の中央を、近世以降の区画溝が横断し、東側部分も、近世以降の区画溝が南北に縦断している。新旧関係は、本遺構の方が古い。

構造　平面規模は(3.62)×3.62m、遺構深度17cmを測る。主軸方位は、Ｎ－61°－Ｗであり、上端面積(9.893)㎡、下端面積(8.976)㎡を測る。柱穴は検出されなかった。炉も、近世以降の区画溝に削平されたためか、検出されていない。壁溝も、検出されなかった。遺物も、出土していない。帰属時期の把握は、極めて困難であるが、遺構の平面形態などから弥生時代終末期中台式期の遺構と判断したい。

119号遺構（竪穴建物跡）（第43・47・152図）

位置　調査区の中央Ｇ19グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。東側部分の多くを、81号遺構(竪穴建物跡)によって切られている。また、遺構中央及び北端部は、近世以降の区画溝が横断している。新旧関係は、本遺構の方が、いずれよりも古いと考えられる。

構造　平面規模は南北軸長(5.84)ｍを測り、遺構深度は34cmを測る。主軸方位は、Ｎ－３°－Ｗを向いており、上端面積(3.430)㎡、下端面積(2.405)㎡を測る。柱穴は検出されず、炉も、検出されなかった。壁溝も、検出されず、北西部は、壁の立ち上がりさえ検出されなかった。遺物は、縄文時代中期加曽利Ｅ式期の深鉢口縁部１～３、胴部４、５及び底部６が出土しており、石器では、軽石製の砥石７が出土するのみである。遺構の検出面積が狭小であり、出土遺物も少量であることから、帰属時期を把握する根拠に乏しいが、出土遺物及び遺構の形態等からは、縄文時代中期後半加曽利Ｅ式期の遺構と判断せざるを得ない。

120号遺構（竪穴建物跡）（第44・47・153・154図）

位置　調査区の中央Ｇ18グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈する。南東側を78号遺構(竪穴建物跡)と重複し、南西側は75号遺構(竪穴建物跡)と重複している。また、北側は、近世以降の区画溝によって切られている。新旧関係は、本遺構の方が75号遺構及び78号遺構よりも新しく、区画溝よりも古い。

構造　平面規模は(3.41)×(3.60)ｍを測り、遺構深度は29cmを測る。主軸方位は、Ｎ－５°－Ｅを向

いており、上端面積(7.514)㎡、下端面積(6.789)㎡を測る。柱穴は検出されず、炉も、検出されなかった。壁溝も、検出されていない。遺物は、赤彩を施した、口縁部がやや外反する杯１、２、椀形を呈する杯４、５、赤彩を施し、脚部が短脚化した高杯６～９、頸部が直立する甕10、11、甑16、17などが出土している。胴部が球胴形を呈する甕下半部13は、78号遺構からの混入遺物であろうか。出土遺物を見ると、本遺構の方が、78号遺構より明らかに後出の遺構ということになるが、竪穴建物跡の痕跡のような平面形態でありながら、比較的まとまった量の遺物が出土しており、不自然な印象を受ける。遺物の取り上げ時に何かしらの取り違え、齟齬があった可能性は否定できないが、出土遺物の特徴から、古墳時代中期後半和泉式期の遺構と判断せざるを得ない。

123号遺構（竪穴建物跡）（第45・47・154～161図）

位置　調査区の中央Ｉ17グリッドに位置する。

形態　方形を呈する。本遺構の東側は、方墳である西谷17号墳の周溝が、南北に縦断している。また、西側は、近世以降の区画溝が北東－南西方向に縦断している。新旧関係は、本遺構の方が、いずれよりも古いと考えられる。

構造　平面規模は5.54×(6.21)ｍ、遺構深度49cmを測る。主軸方位は、Ｎ－65°－Ｗであり、上端面積(22.437)㎡、下端面積(18.192)㎡を測る。柱穴は検出されなかった。西谷17号墳及び近世以降の区画溝によって消滅したものと考えられる。カマドが、北西壁中央やや北寄りに位置している。壁溝は、検出されず、南東部及び北東部は、西谷17号墳及び近世以降の区画溝等によって切られ、壁の立ち上がり自体が検出されなかった。遺物は、赤彩を施した丸底の杯１～10、蓋と考えられる12、口縁部がやや外反する丸底の鉢13、赤彩を施した坩17、18、赤彩を施した高杯19～23、手捏ね状の小型の鉢24、25、ミニチュア様の小型の甕27、頸部がやや直立する甕33、37、須恵器の蓋41、などが出土している。また、穿孔を施した土製品43、44、用途不明の土製品42、45や、土製の勾玉46などが出土しており、本遺構の特殊な性格を想起させる。他には、ハケメ痕跡の残る壺29、甕32、35、底部がドーナツ底状を呈し、いわゆる底部輪台技法で作られた壺38、及びＳ字甕口縁部31、などが出土しているが、混入遺物と考えられる。そして、石器では、有孔円板、勾玉、剣形などの石製模造品や、多量の臼玉が出土している。臼玉は、計1,109点出土し、そのうち257点を図示し、852点は法量の計測値を掲載している。臼玉は、篠原祐一氏の論文(参考文献(註１・２))を基に、形態で６分類し、算盤玉形に近いものをA'、太鼓胴形を呈するものをＢ、円筒形を呈するものをＣ、長い円筒形を呈するものをＤ、短い円筒形を呈するものをＥ、それに類するものをE'として、臼玉の観察表及び集計表に記載した。傾向としては、円筒形を呈し、横方向研磨のＣ３類が、全体の72.6％を占め、やや太鼓胴形を呈するＢ３類を含めると、全体の94.6％を占めている。他には、扁平な円筒形を呈するＥ３類が５％程度と少量混入しており、５世紀後葉～６世紀初頭とする遺構の帰属時期を敷衍する。また、径の平均値は4.92～4.93mm、厚さ(高さ)の平均値は2.64mm、重量の平均値は0.1035ｇとなっている。有孔円板、勾玉、剣形及び臼玉には、それぞれ未成品と考えられる遺物が少量であるが含まれており、本遺構は石製模造品や臼玉による祭祀の場であると共に、その場において、応急的に臼玉等を生産した「工房跡」の可能性がある。本来、多量の加工剥片、チップが出土するはずであるが、掘削土を篩にかけて選別する作業を行っていないため、剥片の検出量は極めて少量である。掘削時に肉眼で視認できた遺

物しか取り上げられていないと考えられる。臼玉の石材は石材鑑定の結果(第Ⅲ章参照)、滑石、滑石片岩及び蛇紋岩の他に、泥岩や砂岩なども石材として用いられており、灰オリーブ系の色調を呈する石材を、柔軟に利用して製作されていたことが窺われる。西谷17号墳とは重複関係にあるが、終末期古墳と考えられるため、古墳からの混入遺物とは、考えにくい。遺物の特徴及び遺構の平面形態の特徴等から古墳時代中期末葉～後期初頭の遺構と考えられる。本遺構については、第Ⅳ章で改めて述べる。

124号遺構（竪穴建物跡）（第46・47・162・163図）

位置　調査区の中央Ｋ18グリッドに位置する。

形態　隅丸方形を呈する。本遺構西側を、125号遺構(竪穴建物跡)及び126号遺構(竪穴建物跡)と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、いずれの遺構よりも新しいと考えられる。

構造　平面規模は(2.48)×(3.23)㎡を測り、遺構深度は29cmを測る。主軸方位は、Ｎ－40°－Ｗを向いており、上端面積は(7.258)㎡、下端面積は(6.389)㎡を測る。柱穴は検出されず、炉も、検出されなかった。壁溝も、検出されていない。遺物は、赤彩を施した椀形の杯１～３、赤彩を施し、口縁部が直立する杯４、赤彩を施した高杯５～７、赤彩を施した坩と考えられる８、９、赤彩を施し口縁部が外反する鉢10、などが出土している。また、胴部が球胴形を呈した甕15、胴部が中胴形を呈した甕19などが出土している。石器では、滑石片岩で作られた石製模造品の有孔円板24が出土している。他に、粗いヘラミガキが施された壺口縁部11や、ハケメ痕跡の残る甕口縁部14、などが出土しているが、混入遺物と考えられる。遺物の特徴及び遺構の平面形態等から古墳時代中期末葉鬼高古段階期の遺構と考えられる。

125号遺構（竪穴建物跡）（第46・47図）

位置　調査区の中央Ｌ18グリッドに位置する。

形態　やや隅の張る不整な円形を呈していたと考えられる。本遺構の南東部に、124号遺構(竪穴建物跡)が重複し、南西部に126号遺構(竪穴建物跡)が重複する。新旧関係は、本遺構の方が、124号遺構よりも古く、126号遺構よりも新しいと考えられる。

構造　平面規模は4.59×(4.08)ｍを測り、遺構深度は15cmを測る。主軸方位は、Ｎ－36°－Ｗを向いており、上端面積(14.437)㎡、下端面積(12.997)㎡を測る。柱穴は、南東壁直下にあるＰ１が、貯蔵穴の可能性がある。炉は、検出されなかった。壁溝も、南側の一部を除いて、検出されなかった。遺物も、検出されていない。帰属時期を把握する根拠が極めて乏しいが、遺構の平面形態から弥生時代後期前半久ヶ原式期の遺構と判断したい。なお、本遺構については、一部で壁溝が検出されたものの、柱穴や炉等が検出されず、出土遺物も皆無であることから、床面まで掘削深度が到達していなかった可能性を排除できない建物跡である。

126号遺構（竪穴建物跡）（第46・47図）

位置　調査区の中央Ｌ17グリッドに位置する。

形態　やや隅の張る不整な円形を呈していたと考えられる。本遺構の北東部に、124号遺構(竪穴建物

跡)が重複し、北部に125号遺構(竪穴建物跡)が重複する。新旧関係は、本遺構の方が、いずれの遺構よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は(7.00)×(6.08)ｍを測り、遺構深度は31cmを測る。主軸方位は、Ｎ－42°－Ｗを向いており、上端面積(16.752)㎡、下端面積(16.026)㎡を測る。柱穴は、南東部にあるＰ１が、出入口に伴うピットの可能性があり、南東壁付近にあるＰ２は、貯蔵穴の可能性がある。炉は、検出されなかった。壁溝も、南東側の一部を除いて、検出されなかった。遺物も、検出されていない。帰属時期を把握する根拠が極めて乏しいが、遺構の平面形態から弥生時代後期前半久ヶ原式期の遺構と判断したい。なお、本遺構についても、一部で壁溝が検出されたものの、柱穴や炉等が検出されておらず、出土遺物も皆無であることから、床面まで掘削深度が到達していなかった可能性を排除できない建物跡である。

127号遺構（竪穴建物跡）（第48・51図）

位置　調査区の中央Ｌ17グリッドに位置する。

形態　隅丸の方形を呈していたか。本遺構の東側に、西谷17号墳が重複し、南西側は、近世以降の区画溝に切られている。新旧関係は、本遺構の方が、いずれよりも古いと考えられる。

構造　平面規模は(4.20)×(3.81)ｍを測り、遺構深度は10cmを測る。主軸方位は、Ｎ－33°－Ｗを向いており、上端面積(10.234)㎡、下端面積(9.957)㎡を測る。柱穴は、検出されず、炉も、検出されなかった。壁溝も検出せず、東側は、壁の立ち上がり自体が検出されていない。遺物も、出土しなかった。帰属時期を把握する根拠が極めて乏しく、遺構の平面形態も痕跡を残すのみのため不整形であり、時期は不明と言わざるを得ない。

128号遺構（竪穴建物跡）（第48・51図）

位置　調査区の西側M16グリッドに位置する。

形態　やや隅の張る不整な方形を呈していたと考えられる。本遺構の南東部に、129号遺構(竪穴建物跡)が重複し、北部に近世以降の区画溝が重複し、南西部に列状を呈する時期不明の土坑跡が重複する。新旧関係は、本遺構の方が129号遺構よりも新しく、区画溝や土坑列よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は(4.64)×4.43mを測り、遺構深度は９cmを測る。主軸方位は、Ｎ－20°－Ｗを向いており、上端面積(15.795)㎡、下端面積(13.531)㎡を測る。柱穴は、時期不明の列状の土坑群と重複しており、柱穴と断定できるものは検出されなかった。炉も、検出されなかった。壁溝も、検出されていない。遺物も、出土しなかった。帰属時期を把握する根拠が極めて乏しいが、遺構の平面形態から弥生時代終末期中台式期を中心とした遺構と判断したい。なお、本遺構についても、炉等が検出されておらず、出土遺物も皆無であることから、床面まで掘削深度が到達していなかった可能性を排除できない建物跡である。

129号遺構（竪穴建物跡）（第48・51図）

位置　調査区の中央M16グリッドに位置する。

形態　やや隅の張る不整な円形を呈していたと考えられる。本遺構の東側に、西谷17号墳が重複し、

西側に128号遺構(竪穴建物跡)が重複する。新旧関係は、本遺構の方が、いずれの遺構よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は6.05×5.72mを測り、遺構深度は56cmを測る。主軸方位は、N－51°－Wを向いており、上端面積(26.597)㎡、下端面積(23.157)㎡を測る。柱穴は、４本検出された。柱穴の平面規模が小さく、柱の抜き取り痕跡などは認められなかった。南東部にあるＰ５は、出入口に伴うピットと考えられる。また、南東壁付近に位置するＰ６は貯蔵穴と考えられる。炉は、Ｐ１－Ｐ２間のほぼ中央に位置している。壁溝は、検出されなかった。遺物も、出土していない。帰属時期を把握する根拠が極めて乏しいが､遺構の平面形態から弥生時代後期後半山田橋式期を中心とした遺構と判断したい。なお、本遺構については、遺構深度が56cmあるにもかかわらず、出土遺物が皆無であり、不自然と言わざるを得ない。出土遺物の取り上げ時に、何かしらの取り違え、齟齬があった可能性を排除できない建物跡である。

130号遺構（竪穴建物跡）（第37・38図）

位置　調査区の中央Ｋ15グリッドに位置する。

形態　隅丸方形を呈する。本遺構の北側に、134号遺構(竪穴建物跡)が重複している。また、遺構の中央を南北に近世以降の区画溝が縦断している。新旧関係は、134号遺構よりも新しく、区画溝よりは古いと考えられる。

構造　平面規模は(3.43)×3.42m、遺構深度21cmを測る。主軸方位は、N－16°－Wと考えられ、上端面積(9.623)㎡、下端面積(9.003)㎡を測る。柱穴は検出されず、炉も、検出されなかった。壁溝も、検出されなかった。遺物の出土も皆無であり、帰属時期の把握は極めて困難であるが、遺構の平面形態から、古墳時代前期草刈式期を中心とした遺構と判断したい。なお、本遺構についても、柱穴や炉等が検出されておらず、出土遺物も皆無であることから、床面まで掘削深度が到達していなかった可能性を排除できない建物跡である。

131号遺構（竪穴建物跡）（第39・42・163・164図）

位置　調査区の中央Ｉ16グリッドに位置する。

形態　方形を呈している。南側部分を、132号遺構(竪穴建物跡)と重複する。また、北西部分を西谷17号墳により切られている。新旧関係は､132号遺構より新しく、西谷17号墳よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は7.78×7.98mを測り、遺構深度は24cmを測る。主軸方位は、N－29°－Eを向いており、上端面積57.624㎡、下端面積52.922㎡を測る。柱穴は、４本検出された。Ｐ１及びＰ４は、柱が抜き取られた可能性がある。カマド東ソデ脇にあるＰ５は、貯蔵穴と考えられる。Ｐ６－Ｐ８は、間仕切り溝に伴うピットと考えられる。Ｐ８東脇には、焼土の堆積が認められた。カマドは、北東壁東寄りに位置している。壁溝は、西谷17号墳に切られた部分を除き、全周している。遺物は、貯蔵穴内から、赤彩を施し、平底を呈する杯１、赤彩を施した坩８、周辺から、胴部が張りを持つ甕10が出土している。また、カマド内から、甕底部13が出土し、Ｐ２内から、赤彩を施した高杯６が出土している。他には、椀形を呈する杯２、３、赤彩が施され、口縁部が直立する小型椀４、赤彩を施した高杯５、７、南東部から、胴部が張りを持つ甕９などが出土している。石器では、緑色片岩でできた石

製模造品の勾玉17が出土している。その他では、ハケメ痕跡の残る甕口縁部12が出土しているが、混入遺物と考えられる。遺物の特徴及び遺構の平面形態等から古墳時代中期中葉和泉式期の遺構と考えられる。

132号遺構（竪穴建物跡）（第39・42・165図）

位置　調査区の中央Ｉ15グリッドに位置する。

形態　隅のやや張る不整な円形を呈する。本遺構の北東側は、131号遺構（竪穴建物跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が古いと考えられる。

構造　平面規模は北西－南東軸長（4.20）m、遺構深度28cmを測る。主軸方位は、Ｎ－49°－Ｅであり、上端面積（3.872）㎡、下端面積（3.562）㎡を測る。柱穴は検出されず、炉も、検出されなかった。壁溝は、131号遺構により切られている部分を除いて、全周している。遺物は、甕口縁部１が出土するが、混入遺物と考えられる。帰属時期を把握する根拠に極めて乏しいが、遺構の平面形態から弥生時代後期後半山田橋式～終末期中台式期の遺構であろうか。

134号遺構（竪穴建物跡）（第37図）

位置　調査区の中央Ｋ15グリッドに位置する。

形態　隅丸方形を呈するか。南側を130号遺構（竪穴建物跡）と重複しており、北側は、西谷17号墳と重複している。新旧関係は、本遺構の方がいずれの遺構よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は北東－南西軸長（5.60）mを測り、遺構深度は23cmを測る。主軸方位は、Ｎ－58°－Ｅを向いており、上端面積は（9.989）㎡、下端面積は（9.163）㎡を測る。柱穴は検出されず、炉も、検出されなかった。壁溝も、検出されていない。遺物も、出土していない。出土遺物が皆無であり、帰属時期の把握は、極めて困難であるが、遺構の平面形態から弥生時代終末期中台式～古墳時代前期草刈式期の遺構であろうか。

135号遺構（竪穴建物跡）（第48・51図）

位置　調査区の西側Ｍ16グリッドに位置する。

形態　隅丸方形を呈する。南西側を312号遺構（土坑跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が古いと考えられる。

構造　平面規模は3.82×（3.40）m、遺構深度13cmを測る。主軸方位は、Ｎ－32°－Ｗであり、上端面積は（12.123）㎡、下端面積は（10.987）㎡を測る。柱穴は検出されず、炉も、検出されなかった。壁溝も、検出されていない。遺物も、出土しなかった。出土遺物が皆無であり、帰属時期の把握は、極めて困難であるが、竪穴建物跡の形態から古墳時代前期草刈式期の遺構と判断した。なお、本遺構についても、柱穴や炉等が検出されておらず、出土遺物も皆無であることから、床面まで掘削深度が到達していなかった可能性を排除できない建物跡である。

136号遺構（竪穴建物跡）（第34・38図）

位置　調査区の中央Ｍ15グリッドに位置する。

形態　隅丸方形を呈する。
構造　平面規模は3.84×3.21m、遺構深度48cmを測る。主軸方位は、N－40°－Eであり、上端面積は13.008㎡、下端面積は12.074㎡を測る。柱穴はＰ１が検出されているが、貯蔵穴の可能性もある。南西に向かって細長い溝及びピットのようなものがあり、間仕切り溝及びそれに伴うピットが存在しているようにも見える。炉は、検出されなかったが、中央から西及び南寄りにかけて、焼土の堆積が数カ所で認められている。壁溝は、検出されなかった。遺物の出土は、皆無である。帰属時期の把握は、極めて困難であるが、竪穴建物跡の形態から古墳時代前期草刈式期の遺構と判断した。なお、本遺構については、遺構深度が48cmあるにもかかわらず、出土遺物が皆無という状況であり、不自然と言わざるを得ない。遺物取り上げ時に、何かしらの取り違え、齟齬があった可能性を排除できない建物跡である。

137号遺構（竪穴建物跡）（第34・38・165・166図）
位置　調査区の中央Ｌ14グリッドに位置する。
形態　方形を呈する。本遺構の東側は、138号遺構（竪穴建物跡）と重複しており、北西－南東にかけて、近世以降の区画溝が横断している。新旧関係は、本遺構の方が138号遺構よりも新しく、区画溝よりも古い。
構造　平面規模は5.61×5.58mを測り、遺構深度は49cmを測る。主軸方位は、N－60°－Wであり、上端面積28.731㎡、下端面積25.824㎡を測る。柱穴は４本を数えるが、主柱穴の外側に、間仕切り溝に伴うピットが存在している。Ｐ１～Ｐ４は、柱が抜き取られた可能性がある。Ｐ５は、カマドから離れた北東隅に位置するが、貯蔵穴と考えられる。壁溝は、北東隅部を除いてほぼ全周している。遺物は、口唇部がやや外反する丸底の杯1や、赤彩が施された椀形の杯２、３、赤彩が施された高杯４、５、などが出土している。また、胴部が球胴形に近い甕８、９、胴部が球胴形を呈し、ハケメ痕跡の残る甕12など、やや古相の遺物も出土している。出土遺物及び、遺構の平面形態の特徴から古墳時代中期中葉和泉式期の遺構と考えられる。

138号遺構（竪穴建物跡）（第34・38・166図）
位置　調査区の中央Ｌ14グリッドに位置する。
形態　隅のやや丸まった方形を呈する。本遺構の西側は、137号遺構（竪穴建物跡）により大きく切り込まれている。また、北西－南東にかけて、近世以降の区画溝が横断している。新旧関係は、本遺構の方がいずれよりも古いと考えられる。
構造　平面規模は3.81×(3.80)mを測り、遺構深度は24cmを測る。主軸方位は、N－2°－Wであり、上端面積(10.656)㎡を測る。柱穴は1本のみ検出された。柱の抜き取り痕跡等は認められなかった。炉は、検出されなかった。壁溝も、検出されていない。遺物は、底部がドーナツ状を呈し、いわゆる底部輪台技法で成形されたと考えられる壺底部１及び石器の黒曜石フレーク２が出土するのみである。２は混入であろう。出土遺物が僅少であり、帰属時期を把握する根拠に乏しいが、遺構の平面形態から古墳時代前期草刈式期の遺構と判断できるか。

139号遺構（竪穴建物跡）（第23・26・167・168図）

位置　調査区の西側Ｏ13グリッドに位置する。

形態　方形を呈する。本遺構の西側の一部が、時期不明の溝状の土坑跡と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、古いと考えられる。

構造　平面規模は5.43×5.62ｍを測り、遺構深度は41cmを測る。主軸方位は、Ｎ－54°－Ｅであり、上端面積27.173㎡、下端面積26.650㎡を測る。柱穴は４本検出された。柱の抜き取り痕跡等は認められなかった。Ｐ２東脇に位置するＰ５は、貯蔵穴と考えられる。カマドは、北東壁やや東寄りに位置している。カマド内の火床面も検出されている。壁溝は、北東壁の一部を除いて、検出されていない。遺物は、赤彩を施し、椀形を呈すると考えられる杯２、赤彩を施した坩３、６などが出土している。他には、丁寧なハケメ痕跡が残る大型の坩１や、底部がドーナツ状を呈し、いわゆる底部輪台技法で成形されたと考えられ、ハケメ痕跡が残る小型の甕４、５、赤彩を施し、脚部が直立する高杯脚部７、器台８、ハケメ痕跡が残る甕９～13、鉢形を呈する甑14などが出土しているが、遺構の平面形態に比して古相であり、混入遺物と考えられる。出土遺物及び、遺構の平面形態等から古墳時代中期後葉和泉式期の遺構と考えられる。本遺構においては、遺構に伴うと考えられる出土遺物が少数であり、それより古相の草刈式期の遺物が多くを占めている。遺物が出土していないとされる古墳時代前期草刈式期の竪穴建物跡に伴っていた遺物が、取り上げ時に何かしらの経緯で取り違えられ、本遺構の帰属遺物として注記が行われた可能性を排除できない。

140号遺構（竪穴建物跡）（第21・168図）

位置　調査区の南側Ｎ12グリッドに位置する。

形態　やや隅の張る不整な円形を呈している。南東側は、44号遺構（竪穴建物跡）と重複している。新旧関係は、本遺構の方が、44号遺構よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は（2.76）×2.61ｍを測り、遺構深度は25cmを測る。主軸方位は、Ｎ－20°－Ｗを向いており、上端面積（5.520）㎡を測る。柱穴は検出されず、炉も検出されなかった。壁溝も、検出されていない。遺物は、赤彩が施された高杯脚部１が出土するのみである。出土遺物が極めて僅少であり、遺構も痕跡を残すのみのため、帰属時期の把握は極めて困難であり、不明と言わざるを得ない。

141号遺構（竪穴建物跡）（第21・26図）

位置　調査区の南側Ｎ11グリッドに位置する。

形態　隅の丸まった不整な方形を呈している。

構造　平面規模は3.41×3.43ｍを測り、遺構深度は５cmを測る。主軸方位は、Ｎ－５°－Ｅを向いており、上端面積10.427㎡、下端面積8.971㎡を測る。柱穴は検出されず、炉も検出されなかった。壁溝も、検出されていない。遺物の出土がなく、遺構も痕跡を残すのみにも見えることから、帰属時期の把握は極めて困難であり、不明と言わざるを得ない。しかし、本遺構についても、柱穴や炉等が検出されておらず、出土遺物も皆無であることから、壁面及び床面まで掘り下げが充分に行われていない、いわゆる荒掘り状態で測量図化が行われた可能性を排除できない建物跡である。

142号遺構（竪穴建物跡）（第20・25図）

位置　調査区の南側M11グリッドに位置する。

形態　隅丸方形を呈している。北東側は、44号遺構（竪穴建物跡）と重複している。新旧関係は、本遺構の方が、44号遺構よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は3.43×（2.41）mを測り、遺構深度は12cmを測る。主軸方位は、N－52°－Eを向いており、上端面積（12.235）㎡を測る。柱穴は２本検出されたが、Ｐ２は、位置的に見て、貯蔵穴となる可能性もある。炉は、中央寄りに検出された。壁溝は、検出されなかった。遺物も、出土していない。出土遺物が皆無であり、帰属時期の把握は極めて困難であるが、遺構の平面形態から、古墳時代前期草刈式期の遺構と判断したい。

143号遺構（竪穴建物跡）（第21・26・169図）

位置　調査区の南側N11グリッドに位置する。

形態　隅の丸まった方形を呈する。東側を144号遺構（竪穴建物跡）と重複し、北西－南東にかけて、A・D地点444号溝が横断している。新旧関係は、本遺構の方がいずれよりも古いと考えられる。

構造　平面規模は3.39×（3.42）m、遺構深度23cmを測る。主軸方位は、N－29°－Eであり、上端面積（9.781）㎡を測る。明確に柱穴と判断されるものは、検出されなかった。炉も、検出されず、壁溝も、検出されなかった。遺物は、小型の甕底部１や、ハケメ痕跡の残る甕口縁部２及び底部３などが出土する。出土遺物及び遺構の平面形態の特徴等から古墳時代前期中葉草刈２式期の遺構と判断したい。なお、本遺構についても、柱穴や炉等が検出されておらず、出土遺物も僅少であることから、壁面及び床面まで掘り下げが充分に行われていない、いわゆる荒掘り状態で測量図化が行われた可能性を排除できない建物跡である。

144号遺構（竪穴建物跡）（第21・26・169図）

位置　調査区の南側N10グリッドに位置する。

形態　隅丸方形を呈する。北西側は、143号遺構（竪穴建物跡）と重複し、北西－南東にかけて、A・D地点444号溝が横断している。新旧関係は、143号遺構よりも新しく、A・D地点444号溝よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は5.44×5.36m、遺構深度11cmを測る。主軸方位は、N－21°－Wであり、上端面積（4.640）㎡、下端面積（4.240）㎡を測る。柱穴は４本検出されている。Ｐ１は、143号遺構内に位置しており、柱が抜き取られた可能性がある。明確に貯蔵穴と判断できるピットは検出されなかった。炉は検出されず、A・D444号溝により消滅した可能性があある。壁溝も検出されていない。遺物は、赤彩が施された椀形の杯１や甕底部２などが出土している。出土遺物が僅少であり、帰属時期の把握は困難であるが、出土遺物及び遺構の平面形態の特徴等から古墳時代中期後半和泉式期の遺構と判断したい。

145号遺構（竪穴建物跡）（第22・26・169・170図）

位置　調査区の西側Ｐ12グリッドに位置する。

形態　方形を呈すると考えられる。北西側を414号遺構（方形周溝墓跡）と重複し、南西側は、Ａ・Ｄ地点444号溝が北西－南東方向に横断している。新旧関係は、本遺構の方が、414号遺構よりも新しく、Ａ・Ｄ地点444号溝よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は（6.21）×5.97m、遺構深度37cmを測る。主軸方位は、Ｎ－26°－Ｅであり、上端面積（35.088）㎡、下端面積（31.232）㎡を測る。柱穴は４本検出されている。柱穴の平面規模が小さく、柱の抜き取り痕跡などは認められなかった。Ｐ４から南に延びる溝は、間仕切り痕跡に伴うものであろうか。カマド東ソデ脇にあるＰ５は、貯蔵穴と考えられる。カマドは、北東壁やや東寄りに位置している。壁溝は、北東壁及び南東壁北寄りの一部を除いて、検出されず、南西壁は、Ａ・Ｄ地点444号溝により切られて検出されなかった。遺物は、口縁部が直立するいわゆる模倣杯１、２、口縁部が外反する丸底の杯３、４、脚部が短脚化した高杯５や、胴部中位に膨らみを持ち、タテ方向のヘラケズリが施された甕８などが出土している。他には、赤彩が施され、折返し口縁部に、縄文原体により刻み目が施された壺９が出土しているが、混入遺物と考えられる。新相の遺物も出土しているが、出土遺物及び遺構の平面形態等から古墳時代中期末葉鬼高古段階期を中心とした遺構と考えられる。

146号遺構（竪穴建物跡）（第35・38図）

位置　調査区の西側Ｑ14グリッドに位置する。

形態　方形を呈している。本遺構の北西側は、西谷10号墳によって大きく切られている。新旧関係は、本遺構の方が古いと考えられる。

構造　平面規模は（6.02）×（5.92）ｍを測り、遺構深度は31cmを測る。主軸方位は、Ｎ－68°－Ｗであり、上端面積（8.992）㎡、下端面積（6.821）㎡を測る。柱穴は３本検出されている。Ｐ３は、内側にもピットが存在しており、柱穴が、掘り直された可能性がある。カマドは、西谷10号墳により切られて検出されず、壁溝も検出されなかった。遺物も、出土していない。帰属時期を決定することが極めて困難であるが、遺構の平面形態か古墳時代中期末葉鬼高古段階期の遺構と判断したい。

147号遺構（竪穴建物跡）（第14・17図）

位置　調査区の南側Ｌ07グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈している。北側を407号遺構（方形周溝墓跡）の東溝と重複し、西側は、西谷19号墳と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、どちらの遺構よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は3.87×（4.02）ｍを測り、遺構深度は42cmを測る。主軸方位は、Ｎ－13°－Ｗを向いており、上端面積は（10.954）㎡、下端面積は（9.637）㎡を測る。柱穴は９本検出されたと考えられる。炉は、中央に方形のピットが掘り込まれ、下底部に焼土が堆積していた。壁溝は、407号遺構東溝及び西谷19号墳との重複関係にない東側部分において、幅40～60cm程度、検出されているが、本遺構に確実に伴うものかどうか、判然としなかった。遺物は、出土していない。遺物の出土が皆無のため、帰属時期の把握は極めて困難であるが、遺跡一括出土遺物では、阿玉台式や、加曽利Ｅ式期の遺物が出土しており、遺構の平面形態等から縄文時代中期の遺構である可能性がある。

148号遺構（竪穴建物跡）（第56・62図）

位置　調査区の中央D24グリッドに位置する。

形態　方形を呈している。本遺構の北東－南西にかけて、西谷７号墳が横断している。また、南隅部を92号遺構（竪穴建物跡）と重複している。新旧関係は、本遺構の方が、いずれの遺構よりも古いと考えられる。

構造　平面規模は（5.38）×（5.18）ｍを測り、遺構深度は19cmを測る。主軸方位は、Ｎ－31°－Ｅであり、上端面積（25.712）㎡、下端面積（24.496）㎡を測る。柱穴は４本検出されている。Ｐ１及びＰ３は、隣接する位置に複数のピットが検出されており、柱穴が掘り直された可能性がある。炉は、西谷７号墳により切られて検出されず、壁溝も検出されなかった。遺物も、出土していない。帰属時期を把握することが極めて困難であるが、遺構の平面形態から古墳時代中期中葉和泉式期の遺構と判断したい。

149号遺構（竪穴建物跡）（第68・170図）

位置　調査区の北端Ｃ32グリッドに位置する。

形態　隅の丸まった不整な方形を呈する。本遺構を東西に西谷５号墳（古墳跡）が横断していると考えられる。新旧関係は、本遺構の方が古いと考えられる。

構造　平面規模は東西軸長が（3.43）ｍを測り、遺構深度は20cmを測る。主軸方位は、Ｎ－4°－Ｗを向いており、上端面積（6.144）㎡、下端面積（4.896）㎡を測る。柱穴は検出されなかった。炉も検出されず、壁溝も検出されなかった。遺物は、赤彩が施された壺底部１及び結節文が巡る壺胴部２が出土するのみである。出土遺物が僅少で、遺構についても西谷５号墳によって削平された痕跡を残すのみであり、帰属時期は不明と言わざるを得ない。

151号遺構（竪穴建物跡）（第37・38図）

位置　調査区の中央Ｋ14グリッドに位置する。

形態　隅丸方形を呈していたと考えられる。南側を40号（竪穴建物跡）と重複している。また、中央を近世以降の区画溝が、南北に縦断している。新旧関係は、本遺構の方が、いずれよりも古いと考えられる。

構造　平面規模は（3.40）×（3.52）ｍを測り、遺構深度は17cm程度を測る。主軸方位は、Ｎ－13°－Ｅであり、上端面積（9.333）㎡を測る。柱穴は、２本検出され、北東隅にあるＰ３は、貯蔵穴の可能性がある。周囲にある溝は、間仕切りに伴う溝及びピットの可能性がある。炉は、中央を縦断する近世以降の区画溝により削平され、検出されなかった。壁溝も、北西隅を除いて検出されていない。遺物の出土も皆無であり、遺構の帰属時期の把握は、極めて困難であるが、遺構の平面形態から古墳時代前期の遺構と考えられる。

152号遺構（竪穴建物跡）（第30図）

位置　調査区の南側Ｇ12グリッドに位置する。

形態　隅丸方形を呈する。本遺構の東側を、近世以降と考えられる区画溝が南北に縦断している。新旧関係は、本遺構の方が古い。

構造　平面規模は(5.12)×(4.94)ｍを測り、遺構深度は28cmを測る。主軸方位は、Ｎ－36°－Ｗであり、上端面積(22.768)㎡を測る。明確に柱穴と判断できるものは、検出されなかった。炉は、近世以降の区画溝によって削平されたのか、検出されなかった。壁溝も、検出されていない。遺物の出土も皆無であり、遺構の帰属時期の把握は、極めて困難であるが、遺構の平面形態から、古墳時代前期草刈式期の遺構と考えられる。なお、本遺構についても、明確な柱穴や炉等が検出されておらず、出土遺物も皆無であることから、壁面及び床面まで掘り下げが充分に行われていない、いわゆる荒掘り状態で測量図化が行われた可能性を排除できない建物跡である。

153号遺構（竪穴建物跡）（第27図）

位置　調査区の中央Ｊ14グリッドに位置する。

形態　遺構の痕跡と考えられ、隅の丸まった不整な方形を呈していたか。本遺構の南西側を、46号遺構(竪穴建物跡)と重複する。新旧関係は、本遺構の方が古いと考えられる。

構造　平面規模は(2.84)×(2.97)ｍを測り、遺構深度は10cmを測る。主軸方位は、Ｎ－22°－Ｗである。柱穴と判断できるものは、検出されなかった。炉も検出されず、壁溝も、検出されていない。遺物の出土も皆無であり、遺構も痕跡をとどめるものでしかないため、帰属時期の把握は、極めて困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

156号遺構（竪穴建物跡）（第30図）

位置　調査区の中央Ｆ13グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈していたと考えられる。本遺構の西側を、55号遺構(竪穴建物跡)と重複し、北西側は、西谷14号墳の主体部によって切られている。また、東側は、近世以降の区画溝が南北に縦断する。新旧関係は、本遺構の方がいずれよりも古いと考えられる。

構造　平面規模は南北軸長4.03mを測り、遺構深度は15cmを測る。主軸方位は、Ｎ－26°－Ｅである。柱穴と判断できるものは、検出されなかった。炉は、中央北寄りに検出されている。壁溝は、検出されなかった。遺物の出土も皆無であり、帰属時期の把握は、極めて困難であるが、遺構の平面形態から、弥生時代後期久ヶ原～山田橋式期の遺構と判断した。

2　土坑跡・方形周溝墓跡

概要

調査によって検出された土坑跡は、94基ある。北西部に中世戦国期を中心とした土坑(墓)群が認められるが､その他のほとんどは、出土遺物が認められず、時期不明の土坑跡が多くを占める。しかし、その中に、西谷古墳群に関連する、墳丘をもたない土坑墓や地下式横穴墓などの地下式系墓が存在していると考えられ、注意を要する。

また、調査によって検出された方形周溝墓は、５基ある。いずれも四隅開口形を呈していたと考えられる。周溝内に、周溝内土坑の存在を想定させる掘り込みは、あまり認められず、主体部も検出されなかった。また、出土遺物もほとんどなかった。帰属時期を把握する根拠に乏しいが、遺構の平面形態の特徴から、弥生時代中期を中心とする時期と判断したい。

301号遺構（土坑跡）（第10図）

位置　調査区の南側Ｊ05グリッドに位置する。

形態　隅丸の方形を呈する。５号遺構内に位置する。新旧関係は、本遺構の方が、新しいと考えられる。

構造　平面規模は1.61×1.61m、遺構深度116cmを測る。主軸方位は、Ｎ－４°－Ｅであり、上端面積2.416㎡、下端面積1.296㎡を測る。玄室内に排水用の溝が掘られている。遺物は、確認されておらず、帰属時期の把握は困難であるが、遺構の平面形態の特徴等から、西谷古墳群に関係する古墳時代終末期の地下式横穴墓と考えられる。

302号遺構（土坑跡）（第11・12図）

位置　調査区の南側Ｋ07グリッドに位置する。

形態　やや隅の張る楕円形を呈する。８号遺構(竪穴建物跡)内に位置する。新旧関係は、本遺構の方が、新しいと考えられる。

構造　平面規模は1.68×1.38m、遺構深度108cmを測る。主軸方位は、Ｎ－80°－Ｗであり、上端面積1.882㎡、下端面積0.661㎡を測る。出土遺物は確認されておらず、帰属時期を決定する根拠に乏しい。西谷古墳群に関係する地下式系墓の可能性もあるが、遺構の平面形態等から、中世期の地下式坑のひとつと判断したい。

303号遺構（土坑跡）（第13図）

位置　調査区の南側Ｊ07グリッドに位置する。

形態　隅のやや丸まった長方形を呈している。南側部分を、西谷１号墳と重複し、北側を近世以降の区画溝と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、区画溝よりも古い。

構造　平面規模は1.23×0.80m、遺構深度は75cmを測る。主軸方位は、Ｎ－９°－Ｗを向いており、上端面積7.179㎡、下端面積1.019㎡を測る。出土遺物は確認されておらず、帰属時期は不明と言わざるを得ないが、西谷古墳群に関係する地下式系墓の可能性がある。

304号遺構（土坑跡）（第19・25・170図）

位置　調査区の南側Ｋ09グリッドに位置する。

形態　縦長の楕円形を呈する。本遺構の北西側は、11号遺構(竪穴建物跡)と重複している。新旧関係は、本遺構の方が、新しい。

構造　平面規模は3.78×1.23m、遺構深度は156cmを測る。主軸方位は、Ｎ－２°－Ｅであり、上端面積7.146㎡、下端面積1.392㎡を測る。玄室内に排水用の溝が掘られている。遺物は、ハケメ痕跡の残る甕口縁部１が出土するのみであるが、混入遺物と考えられる。帰属時期の把握は困難であるが、遺構の平面形態の特徴等から、西谷古墳群に関係する古墳時代終末期の地下式横穴墓と考えられる。

305号遺構（土坑跡）（第27・29図）

位置　調査区の南側Ｋ11グリッドに位置する。

形態　隅のやや丸まった不整な方形を呈する。遺構の北東側を、37号遺構（竪穴建物跡）と重複し、南側を39号遺構（竪穴建物跡）と重複している。新旧関係は、本遺構の方が新しいと考えられる。
構造　平面規模は1.84×1.41ｍを測り、遺構深度は142cmを測る。主軸方位は、Ｎ－94°－Ｅを向いており、上端面積は2.491㎡、下端面積0.192㎡を測る。出土遺物が確認されず、帰属時期の把握は困難である。西谷古墳群に関係する地下式系墓の可能性がある。

306号遺構（土坑跡）（第40・42図）
位置　調査区の東側Ｄ17グリッドに位置する。
形態　不整な円形を呈する。
構造　平面規模は2.43×1.70ｍを測り、遺構深度は73cmを測る。主軸方位は、Ｎ－17°－Ｅであり、上端面積2.842㎡、下端面積1.760㎡を測る。出土遺物が確認されず、帰属時期の把握は困難である。西谷古墳群に関係する地下式系墓の可能性がある。

307号遺構（土坑跡）（第40・42図）
位置　調査区の東側Ｃ18グリッドに位置する。
形態　不整な楕円形を呈する。
構造　平面規模は2.18×1.24ｍを測り、遺構深度は75cmを測る。主軸方位は、Ｎ－９°－Ｅを向いており、上端面積2.341㎡、下端面積1.467㎡を測る。出土遺物が確認されず、帰属時期の把握は困難である。西谷古墳群に関係する地下式系墓の可能性がある。

308号遺構（土坑跡）（第50・51図）
位置　調査区の東側Ｃ19グリッドに位置する。
形態　方形を呈する。中央に、溝状の落ち込みがある。
構造　平面規模は2.18×1.48ｍを測り、遺構深度は70cmを測る。主軸方位は、Ｎ－７°－Ｅを向いており、上端面積2.976㎡、下端面積0.468㎡を測る。中央に、溝状の落ち込みがあり、北端部にピットが認められた。出土遺物が確認されず、帰属時期の把握は困難である。西谷古墳群に関係する地下式系墓の可能性もあるが、遺構の平面形態の特徴等から中世期の方形竪穴と考えられる。

309号遺構（土坑跡）（第50・51図）
位置　調査区の東側Ｃ21グリッドに位置する。
形態　不整な楕円形を呈する。
構造　平面規模は4.56×1.64ｍを測り、遺構深度は116cmを測る。主軸方位は、Ｎ－10°－Ｅであり、上端面積5.722㎡、下端面積0.378㎡を測る。遺物は、確認されず、帰属時期の把握は困難であるが、遺構の平面形態の特徴等から、西谷古墳群に関係する古墳時代終末期の地下式横穴墓と考えられる。

310号遺構（土坑跡）（第11図）
位置　調査区の南側Ｋ05グリッドに位置する。

形態　不整な方形の土坑及び楕円形の土坑がエの字状に接続したような形態を呈する。南側を、6号遺構(竪穴建物跡)と重複し、北側の楕円形部は、７号遺構(竪穴建物跡)の床下に存在する。新旧関係は、本遺構の方が、いずれの遺構よりも新しいと考えられる。
構造　平面規模は1.72×1.94mを測り、遺構深度は150cmを測る。主軸方位は、Ｎ－91°－Ｗを向いており、上端面積は2.704㎡、下端面積は0.992㎡を測る。不整な方形の土坑と楕円形の土坑がエの字状に接続しており、不整な方形の土坑が、竪坑(入口)部であり、地下にある楕円形の土坑が主室部と考えられる。遺物は、確認されず、帰属時期の把握は困難である。西谷古墳群に関係する地下式系墓の可能性もあるが、遺構の平面形態等から中世期の地下式坑と考えられる。

311号遺構（土坑跡）（第19・25図）
位置　調査区の南側Ｌ10グリッドに位置する。
形態　不整な長方形を呈している。23号遺構(竪穴建物跡)内に位置し、北側は、35号遺構(竪穴建物跡)南側と重複する。新旧関係は、いずれの遺構よりも、本遺構の方が新しいと考えられる。
構造　平面規模は1.43×1.21ｍを測り、遺構深度は54cmを測る。主軸方位は、Ｎ－94°－Ｅを向いており、上端面積2.488㎡、下端面積2.160㎡を測る。出土遺物が確認されず、帰属時期の把握は困難である。西谷古墳群に関係する地下式系墓の可能性がある。

312号遺構（土坑跡）（第48・51図）
位置　調査区の南西側Ｎ16グリッドに位置する。
形態　やや隅の丸い不整な長方形を呈する。遺構の南西部を除いて、135号遺構(竪穴建物跡)と重複する。新旧関係は、本遺構の方が新しいと考えられる。
構造　平面規模は3.03×1.62m、遺構深度59cmを測る。主軸方位は、Ｎ－50°－Ｅであり、上端面積4.672㎡、下端面積4.272㎡を測る。出土遺物が確認されず、帰属時期の把握は困難である。西谷古墳群に関係する地下式系墓の可能性がある。

313号遺構（土坑跡）（第57・62図）
位置　調査区の東側Ｃ23グリッドに位置する。
形態　不整な楕円形を呈する。89号遺構(竪穴建物跡)内に位置している。新旧関係は、本遺構の方が新しいと考えられる。
構造　平面規模は2.96×1.56mを測り、遺構深度は99cmを測る。主軸方位は、Ｎ－９°－Ｗであり、上端面積(3.320)㎡、下端面積(1.648)㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

314号遺構（土坑跡）（第56・62図）
位置　調査区の東側Ｃ23グリッドに位置する。
形態　不整な円形を呈している。南側に90号遺構(竪穴建物跡)が重複し、北側に91号遺構(竪穴建物跡)が重複する。新旧関係は、本遺構の方が、新しいと考えられる。

構造　平面規模は3.63×3.51ｍを測り、遺構深度は115cmを測る。主軸方位は、Ｎ－２°－Ｅを向いており、上端面積8.688㎡、下端面積5.914㎡を測る。遺物が出土せず、帰属時期の把握は困難であるが、遺構の平面形態等から中世期の地下式坑と判断した。

315号遺構（土坑跡）（第9図）

位置　調査区の南側Ｈ05グリッドに位置する。

形態　方形を呈している。本遺構は、２号遺構（竪穴建物跡）内に位置し、北側を西谷15号墳と重複している。新旧関係は、本遺構の方がいずれの遺構よりも新しいと考えられる。

構造　平面規模は1.97×1.58ｍを測り、遺構深度は51cmを測る。主軸方位は、Ｎ－34°－Ｗであり、上端面積（2.474）㎡、下端面積（2.256）㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期の把握は困難であるが、遺構の形態等から中世期の方形竪穴と判断した。

316号遺構（土坑跡）（第40図）

位置　調査区の東側Ｃ17グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。67号遺構（竪穴建物跡）内に位置する。新旧関係は、本遺構の方が新しいと考えられる。

構造　平面規模は1.64×0.98ｍを測り、遺構深度は50cmを測る。主軸方位は、Ｎ－９°－Ｅを向いている。上端面積1.376㎡、下端面積0.869㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

317号遺構（土坑跡）（第40図）

位置　調査区の東端Ｂ16グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。東側部分は、調査区外となっており、南北を、近世以降の区画溝が縦断する。新旧関係は、本遺構の方が古い。

構造　平面規模は4.58×（1.21）ｍ、遺構深度52cmを測る。主軸方位は、Ｎ－８°－Ｅであり、上端面積（8.827）㎡、下端面積（5.627）㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

318号遺構（土坑跡）（第52図）

位置　調査区の中央Ｄ20グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈する。85号遺構（竪穴建物跡）内に位置しており、新旧関係は、本遺構の方が新しいと考えられる。

構造　平面規模は1.22×0.83m、遺構深度57cmを測る。主軸方位は、Ｎ－12°－Ｅであり、上端面積0.886㎡、下端面積0.368㎡を測る。出土遺物が確認されず、帰属時期の把握は困難である。西谷古墳群に関係する地下式系墓の可能性がある。

319号遺構（土坑跡）（第52図）

位置　調査区の中央D20グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。84号遺構(竪穴建物跡)内に位置しており、西側部分を、近世以降の区画溝が北東－南西方向に縦断する。新旧関係は、本遺構の方が84号遺構より新しく、区画溝よりも古い。

構造　平面規模は1.59×1.22m、遺構深度67cmを測る。主軸方位は、N－66°－Eであり、上端面積1.445㎡、下端面積0.762㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

320号遺構（土坑跡）（第50図）

位置　調査区の東側C20グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈する。

構造　平面規模は1.41×1.17m、遺構深度48cmを測る。主軸方位は、N－8°－Eであり、上端面積1.578㎡、下端面積0.890㎡を測る。出土遺物が確認されず、帰属時期の把握は困難である。西谷古墳群に関係する地下式系墓の可能性がある。

323号遺構（土坑跡）（第45図）

位置　調査区の中央I18グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈する。

構造　平面規模は2.08×1.06m、遺構深度52cmを測る。主軸方位は、N－4°－Wであり、上端面積2.117㎡、下端面積1.413㎡を測る。出土遺物が確認されず、帰属時期の把握は困難である。西谷古墳群に関係する地下式系墓の可能性がある。

324号遺構（土坑跡）（第36図）

位置　調査区の西側O16グリッドに位置する。

形態　隅の丸まった不整な方形を呈する。南側に同様な土坑状の落ち込みが重複している。

構造　平面規模は1.84×1.02m、遺構深度54cmを測る。主軸方位は、N－93°－Wであり、上端面積3.861㎡、下端面積2.661㎡を測る。出土遺物が確認されず、帰属時期の把握は困難である。西谷古墳群に関係する地下式系墓の可能性があるが、弥生時代の土坑墓の可能性も否定できない。

325号遺構（土坑跡）（第57図）

位置　調査区の東側C24グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈している。

構造　平面規模は2.23×1.19mを測り、遺構深度は71cmを測る。主軸方位は、N－10°－Eを向いており、上端面積2.896㎡、下端面積1.536㎡を測る。出土遺物が確認されず、帰属時期の把握は困難である。西谷古墳群に関係する地下式系墓の可能性がある。

326号遺構（土坑跡）（第54・55図）

位置　調査区の中央Ｇ24グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈する。本遺構の東側の多くを、107号遺構（竪穴建物跡）と重複しており、北側は、97号遺構（竪穴建物跡）と重複している。新旧関係は、本遺構の方が、いずれの遺構よりも新しいと考えられる。

構造　平面規模は2.40×0.97ｍを測り、遺構深度は78cmを測る。主軸方位は、Ｎ－34°－Ｗを向いており、上端面積2.133㎡、下端面積1.327㎡を測る。出土遺物が確認されず、帰属時期の把握は困難である。西谷古墳群に関係する地下式系墓の可能性がある。

327号遺構（土坑跡）（第59図）

位置　調査区の北側Ｃ28グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈する。

構造　平面規模は3.68×1.84ｍを測り、遺構深度は46cmを測る。主軸方位は、Ｎ－62°－Ｅを向いており、上端面積は5.710㎡、下端面積は4.521㎡を測る。出土遺物が確認されず、帰属時期を把握することは困難であるが、本遺構は、南側に西谷６号墳の周溝が迫っており、同古墳に関係する土坑墓の可能性が高い。

328号遺構（土坑跡）（第59図）

位置　調査区の北側Ｄ28グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈する。

構造　平面規模は2.02×1.35ｍを測り、遺構深度は72cmを測る。主軸方位は、Ｎ－41°－Ｅを向いており、上端面積は2.432㎡、下端面積は1.701㎡を測る。出土遺物が確認されず、帰属時期を把握することは困難であるが、本遺構は、西谷古墳群に関係する地下式系墓の可能性がある。

329号遺構（土坑跡）（第59図）

位置　調査区の北側Ｃ28グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈する。

構造　平面規模は2.39×1.06ｍを測り、遺構深度は82cmを測る。主軸方位は、Ｎ－46°－Ｅを向いており、上端面積は2.170㎡、下端面積は1.333㎡を測る。出土遺物が確認されず、帰属時期を把握することは困難であるが、本遺構は、南東側に西谷６号墳の周溝が隣接しており、同古墳に伴う地下式系墓の可能性が高い。

330号遺構（土坑跡）（第60図）

位置　調査区の北側Ｄ27グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈する。

構造　平面規模は2.06×1.18ｍを測り、遺構深度は58cmを測る。主軸方位は、Ｎ－７°－Ｅを向いており、上端面積は1.722㎡、下端面積は1.408㎡を測る。出土遺物が確認されず、帰属時期の把握は困

難である。西谷古墳群に関係する地下式系墓の可能性がある。

331号遺構（土坑跡）（第54図）

位置　調査区の中央Ｆ23グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。本遺構は、96号遺構（竪穴建物跡）内南隅に位置している。新旧関係は、本遺構の方が新しいと考えられる。

構造　平面規模は1.42×1.03ｍを測り、遺構深度は66cmを測る。主軸方位は、Ｎ－27°－Ｗであり、上端面積0.896㎡、下端面積0.560㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

332号遺構（土坑跡）（第61・64図）

位置　調査区の北側Ｆ27グリッドに位置する。

形態　不整な楕円形を呈する。北東側を100号遺構（竪穴建物跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、新しいと考えられる。

構造　平面規模は2.58×1.64ｍを測り、遺構深度は60cmを測る。主軸方位は、Ｎ－39°－Ｅであり、上端面積3.760㎡、下端面積2.235㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

333号遺構（土坑跡）（第61・66・70図）

位置　調査区の北側Ｆ27グリッドに位置する。

形態　不整な楕円形を呈する。北東側を100号遺構（竪穴建物跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、新しいと考えられる。

構造　平面規模は（1.20）×1.00ｍを測り、遺構深度は43cmを測る。主軸方位は、Ｎ－42°－Ｅであり、上端面積（1.435）㎡、下端面積（0.480）㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

334号遺構（土坑跡）（第63図）

位置　調査区の北側Ｇ27グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。北西側の多くを101号遺構（竪穴建物跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、新しいと考えられる。

構造　平面規模は1.99×1.41ｍを測り、遺構深度は54cmを測る。主軸方位は、Ｎ－33°－Ｅであり、上端面積2.165㎡、下端面積1.648㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

335号遺構（土坑跡）（第61図）

位置　調査区の北側Ｆ28グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈する。100号遺構（竪穴建物跡）内南西側に位置する。新旧関係は、本遺構の方が、

新しいと考えられる。
構造　平面規模は1.12×0.63mを測り、主軸方位は、N－32°－Eである。上端面積0.389㎡、下端面積0.149㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

336号遺構（土坑跡）（第67図）
位置　調査区の北側F31グリッドに位置する。
形態　不整な方形を呈する。北東側を337号遺構（土坑跡）と重複し、南北に西谷５号墳の周溝と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、337号遺構よりも古く、西谷５号墳よりも新しいと考えられる。
構造　平面規模は（1.91）×1.40mを測り、遺構深度は81cmを測る。主軸方位は、N－55°－Eであり、上端面積（2.576）㎡、下端面積1.256㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

337号遺構（土坑跡）（第67図）
位置　調査区の北側E31グリッドに位置する。
形態　不整な円形を呈する。南西側を336号遺構（土坑跡）と重複し、南北に西谷５号墳の周溝と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、いずれの遺構よりも新しいと考えられる。
構造　平面規模は1.76×1.43mを測り、遺構深度は96cmを測る。主軸方位は、N－28°－Wであり、上端面積2.384㎡、下端面積1.040㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

338号遺構（土坑跡）（第67図）
位置　調査区の北側E32グリッドに位置する。
形態　不整な円形を呈する。北東－南西に西谷５号墳の周溝と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、新しいと考えられる。
構造　平面規模は1.19×1.16mを測り、遺構深度は93cmを測る。主軸方位は、N－91°－Wであり、上端面積1.104㎡、下端面積0.656㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

339号遺構（土坑跡）（第67図）
位置　調査区の北側E32グリッドに位置する。
形態　不整な円形を呈する。北東－南西に西谷５号墳の周溝と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、新しいと考えられる。
構造　平面規模は0.88×0.98mを測り、遺構深度は22cmを測る。主軸方位は、N－28°－Wであり、上端面積0.432㎡、下端面積0.368㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

340号遺構（土坑跡）（第67図）

位置　調査区の北側D32グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈する。北東－南西に西谷５号墳の周溝が重複する。新旧関係は、本遺構の方が、新しいと考えられる。

構造　平面規模は1.23×0.96mを測り、遺構深度は67cmを測る。主軸方位は、Ｎ－27°－Ｅであり、上端面積1.072㎡、下端面積0.656㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

341号遺構（土坑跡）（第67図）

位置　調査区の北側E31グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。

構造　平面規模は2.81×1.76mを測り、遺構深度は104cmを測る。主軸方位は、Ｎ－28°－Ｗであり、上端面積4.480㎡、下端面積3.424㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

342号遺構（土坑跡）（第67図）

位置　調査区の北側D30グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。

構造　平面規模は1.18×0.62mを測り、遺構深度は40cmを測る。主軸方位は、Ｎ－38°－Ｗであり、上端面積1.072㎡、下端面積0.784㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

343号遺構（土坑跡）（第67図）

位置　調査区の北側D31グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。

構造　平面規模は1.19×0.84mを測り、遺構深度は41cmを測る。主軸方位は、Ｎ－38°－Ｗであり、上端面積0.784㎡、下端面積0.368㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

344号遺構（土坑跡）（第67図）

位置　調査区の北側E31グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈する。

構造　平面規模は(0.86)×0.61mを測り、遺構深度は39cmを測る。主軸方位は、Ｎ－55°－Ｅであり、上端面積(0.432)㎡、下端面積0.176㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

345号遺構（土坑跡）（第67図）

位置　調査区の北側Ｅ31グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。

構造　平面規模は0.99×0.59ｍを測り、遺構深度は63cmを測る。主軸方位は、Ｎ－40°－Ｗであり、上端面積0.464㎡、下端面積0.272㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

346号遺構（土坑跡）（第67図）

位置　調査区の北側Ｅ31グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。

構造　平面規模は0.81×0.62ｍを測り、遺構深度は46cmを測る。主軸方位は、Ｎ－24°－Ｗであり、上端面積0.432㎡、下端面積0.272㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

347号遺構（土坑跡）（第68図）

位置　調査区の北側Ｄ32グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。北東から南西に西谷５号墳の周溝が重複する。新旧関係は、本遺構の方が、新しいと考えられる。

構造　平面規模は1.18×1.15ｍを測り、遺構深度は57cmを測る。主軸方位は、Ｎ－62°－Ｗであり、上端面積1.008㎡、下端面積0.592㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

348号遺構（土坑跡）（第53・55図）

位置　調査区の中央Ｇ23グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈する。

構造　平面規模は1.98×0.86ｍを測り、遺構深度は101cmを測る。主軸方位は、Ｎ－40°－Ｅを向いており、上端面積は1.563㎡、下端面積は0.800㎡を測る。出土遺物が確認されず、帰属時期の把握は困難であるが、西谷古墳群に関係する地下式系墓の可能性がある。

407号遺構（方形周溝墓跡）（第14・17・170図）

位置　調査区の南端Ｎ08グリッドに位置する。

形態　四隅開口形を呈する。本遺構の南側は、西谷19号墳と重複し、東側周溝の南側は147号遺構（竪穴建物跡）と重複している。また、西側は、２条の近世以降の区画溝が南北に縦断している。新旧関係は、本遺構の方が、147号遺構よりも新しく、西谷19号墳や近世以降の区画溝よりは古いと考えられる。

構造　方台部東西方向の主軸（12.43）ｍ、南北方向の副軸12.18ｍを測り、面積は、145.303㎡を測る。主軸方位はＮ－70°－Ｅを示す。東側周溝は、長さ（10.40）ｍ、幅1.61～1.94m、深さ29～37cmを測り、

上端面積12.800㎡、下端面積9.643㎡を測る。西側周溝は、長さ8.28m、幅(1.40)～2.08mを測り、上端面積12.373㎡、下端面積7.531㎡を測る。南側周溝は、長さ11.21m、幅0.79～1.08m、深さ48～50cmを測り、上端面積20.077㎡、下端面積12.716㎡を測る。北側周溝は、長さ9.84m、幅1.41～1.59m、深さ40～45cmを測り、上端面積15.840㎡、下端面積10.987㎡を測る。南側周溝及び北側周溝の西端部には、周溝内土坑状の掘り込みが存在する。埋葬施設は検出されず、遺物は、一括出土遺物として、折返し口縁端部にヘラ状工具による刻み目を施し、口縁部に斜縄文が巡る壺口縁部１及び輪積み痕を残した甕胴部２が出土するのみであるが、いずれも混入遺物と考えられる。帰属時期を把握する根拠に乏しいが、遺構の平面形態から弥生時代中期の遺構と判断したい。

414号遺構（方形周溝墓跡）（第22図）

位置　調査区の西側Q13グリッドに位置する。

形態　四隅開口形を呈していたと考えられる。本遺構の北東側は、西谷18号墳と重複し、南側周溝の東側は145号遺構(竪穴建物跡)と重複している。新旧関係は、本遺構の方が、いずれの遺構よりも古いと考えられる。

構造　方台部東西方向の主軸7.00m、南北方向の副軸6.71mを測り、面積は43.867㎡を測る。主軸方位はＮ－86°－Ｅを示す。東側周溝は、長さ4.56m、幅0.97～1.44m、深さ41～50cmを測り、上端面積5.488㎡、下端面積3.781㎡を測る。西側周溝は、長さ(5.20)m、幅0.84～(1.21)m、深さ31cmを測り、上端面積4.165㎡、下端面積2.171㎡を測る。南側周溝は、長さ(4.80)m、幅0.58～1.11m、深さ31～34ｃｍを測り、上端面積5.035㎡、下端面積2.875㎡を測る。北側周溝は、長さ4.37m、幅1.23～1.46m、深さ34～44cmを測り、上端面積5.147㎡、下端面積2.544㎡を測る。東側周溝の南端部には、周溝内土坑状の掘り込みが存在する。埋葬施設は検出されず、遺物は、出土しなかった。帰属時期を把握する根拠に乏しいが、遺構の平面形態から弥生時代中期の遺構と判断したい。

415号遺構（方形周溝墓跡）（第36・38図）

位置　調査区の西側O15グリッドに位置する。

形態　四隅開口形を呈する。本遺構の北東側は、近世以降の区画溝が北西－南東方向に横断する。新旧関係は、本遺構の方が古いと考えられる。

構造　方台部東西方向の主軸8.98m、南北方向の副軸8.59mを測り、面積は、71.328㎡を測る。主軸方位はＮ－74°－Ｗを示す。東側周溝は、長さ6.43m、幅1.01～1.31m、深さ38～43cmを測り、上端面積6.944㎡、下端面積5.189㎡を測る。西側周溝は、長さ7.60m、幅0.97～1.60m、深さ36～45ｃｍを測り、上端面積8.101㎡、下端面積4.891㎡を測る。南側周溝は、長さ7.60m、幅0.99～1.39m、深さ33～49cmを測り、上端面積8.527㎡、下端面積5.397㎡を測る。北側周溝は、長さ(7.56)m、幅1.22～1.53m、深さ23～35cmを測り、上端面積9.397㎡、下端面積8.853㎡を測る。各周溝共、周溝内土坑状の掘り込みは認められなかった。埋葬施設は検出されず、遺物も、出土しなかった。帰属時期を把握する根拠に乏しいが、遺構の平面形態から弥生時代中期の遺構と判断したい。

419号遺構（方形周溝墓跡）（第49・51図）

位置　調査区の西側Ｎ19グリッドに位置する。

形態　四隅開口形を呈すると考えられる。本遺構の西側は、西谷９号墳と重複している。新旧関係は、本遺構の方が古いと考えられる。

構造　方台部東西方向の主軸6.06m、南北方向の副軸5.99mを測り、面積は、34.901㎡を測る。主軸方位はＮ－49°－Ｗを示す。東側周溝は、長さ2.23m、幅0.97～1.19m、深さ26cmを測り、上端面積2.202㎡、下端面積1.338㎡を測る。西側周溝は、長さ4.39m、幅0.67～0.81m、深さ34～38ｃｍを測り、上端面積3.125㎡、下端面積1.536㎡を測る。南側周溝は、長さ(4.03)m、幅0.88～1.03m、深さ34～39cmを測り、上端面積3.397㎡、下端面積2.016㎡を測る。北側周溝は、長さ4.61m、幅0.78～0.94m、深さ31cmを測り、上端面積3.728㎡、下端面積2.320㎡を測る。各周溝共、周溝内土坑状の掘り込みは認められなかった。埋葬施設は検出されず、遺物も、出土しなかった。帰属時期を把握する根拠に乏しいが、遺構の平面形態から弥生時代中期の遺構と判断したい。

420号遺構（方形周溝墓跡）（第46図）

位置　調査区の中央Ｊ18グリッドに位置する。

形態　四隅開口形を呈すると考えられる。東側周溝及び南側周溝の一部しか検出されず、北側周溝は、124～126号遺構（竪穴建物跡）と重複関係にあるが、削平され消滅したと考えられる。新旧関係は、本遺構の方が古いと考えられる。

構造　主軸方位はＮ－44°－Ｗを示す。東側周溝は、長さ4.63m、幅0.62～0.78m、深さ12～17cmを測り、上端面積3.088㎡、下端面積1.792㎡を測る。南側周溝は、東端の一部が残るのみであり、長さ(1.24)m、幅0.44～0.79m、深さ16ｃｍを測り、上端面積(0.683)㎡、下端面積(0.459)㎡を測るのみである。東側及び南側周溝共、周溝内土坑状の掘り込みは認められなかった。埋葬施設は検出されず、遺物も、出土しなかった。帰属時期を把握する根拠に乏しいが、遺構の平面形態から弥生時代中期の遺構と判断したい。

423号遺構（土坑跡）（第66・69図）

位置　調査区の北側Ｆ30グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。

構造　平面規模は1.56×1.18mを測り、遺構深度は17cmを測る。主軸方位は、Ｎ－39°－Ｅであり、上端面積1.205㎡、下端面積1.008㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

424号遺構（土坑跡）（第66・69図）

位置　調査区の北側Ｇ30グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。

構造　平面規模は0.64×0.42mを測る。主軸方位は、Ｎ－27°－Ｅであり、上端面積0.176㎡、下端面積0.064㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざる

を得ない。

425号遺構（土坑跡）（第66・69図）

位置　調査区の北側Ｆ29グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈する。

構造　平面規模は1.16×0.59ｍを測り、遺構深度は42cmを測る。主軸方位は、Ｎ－33°－Ｅであり、上端面積0.512㎡、下端面積0.176㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

426号遺構（土坑跡）（第66・69図）

位置　調査区の北側Ｆ29グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈する。112号遺構（竪穴建物跡）西部と重複する位置関係にあり、北東部は、427号遺構（土坑跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、いずれの遺構よりも新しいと考えられる。

構造　平面規模は0.83×0.42ｍを測り、遺構深度は48cmを測る。主軸方位は、Ｎ－36°－Ｅであり、上端面積0.320㎡、下端面積0.160㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

427号遺構（土坑跡）（第66図）

位置　調査区の北側Ｆ29グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。112号遺構（竪穴建物跡）西部と重複する位置関係にあり、南西部は、426号遺構（土坑跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、112号遺構よりも新しいと考えられる。

構造　平面規模は1.12×0.80ｍを測り、遺構深度は47cmを測る。主軸方位は、Ｎ－78°－Ｗであり、上端面積（0.656）㎡、下端面積（0.192）㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

428号遺構（土坑跡）（第66・69図）

位置　調査区の北側Ｆ29グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。112号遺構（竪穴建物跡）南西部と重複する位置関係にある。新旧関係は、本遺構の方が、112号遺構よりも新しいと考えられる。

構造　平面規模は0.93×0.77ｍを測り、遺構深度は59cmを測る。主軸方位は、Ｎ－52°－Ｅであり、上端面積0.544㎡、下端面積0.128㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

429号遺構（土坑跡）（第66・69図）

位置　調査区の北側Ｇ29グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。

構造　平面規模は0.61×0.44ｍを測り、遺構深度は18cmを測る。主軸方位は、Ｎ－28°－Ｅであり、

上端面積0.192㎡、下端面積0.064㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

430号遺構（土坑跡）（第66・69・170図）

位置　調査区の北側Ｇ29グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。

構造　平面規模は0.66×0.60mを測り、遺構深度は22cmを測る。主軸方位は、Ｎ－42°－Ｅであり、上端面積0.288㎡、下端面積0.112㎡を測る。出土遺物は、中世戦国期のカワラケ中杯１が出土するのみである。帰属時期を把握する根拠に乏しいが、中世戦国期を中心とする土坑墓跡と判断したい。

431号遺構（土坑跡）（第66・69図）

位置　調査区の北側Ｇ29グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。

構造　平面規模は0.72×0.59mを測り、遺構深度は17cmを測る。主軸方位は、Ｎ－４°－Ｗであり、上端面積0.298㎡、下端面積0.123㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

432号遺構（土坑跡）（第66・70図）

位置　調査区の北側Ｇ29グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。南東部において、433号遺構（土坑跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、古いと考えられる。

構造　平面規模は0.78×0.60mを測り、遺構深度は40cmを測る。主軸方位は、Ｎ－55°－Ｗであり、上端面積（0.357）㎡、下端面積0.229㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

433号遺構（土坑跡）（第66・70図）

位置　調査区の北側Ｇ29グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。北部において、432号遺構（土坑跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、新しいと考えられる。

構造　平面規模は0.92×0.64mを測り、遺構深度は45cmを測る。主軸方位は、Ｎ－６°－Ｅであり、上端面積0.528㎡、下端面積0.304㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

434号遺構（土坑跡）（第66・70図）

位置　調査区の北側Ｇ29グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。

構造　平面規模は1.04×0.82mを測り、遺構深度は20cmを測る。主軸方位は、Ｎ－80°－Ｅであり、

上端面積0.560㎡、下端面積0.336㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

435号遺構（土坑跡）（第66・69図）

位置　調査区の北側Ｇ29グリッドに位置する。

形態　不整な方形の土坑が２つ連結されたような形態を呈する。

構造　平面規模は0.99×0.78mを測り、遺構深度は85cmを測る。主軸方位は、Ｎ－38°－Ｅであり、上端面積0.661㎡、下端面積0.085㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

436号遺構（土坑跡）（第66・170図）

位置　調査区の北側Ｇ29グリッドに位置する。

形態　不整な円形の土坑が複数連結されたような形態を呈する。南東部において、437号遺構（土坑跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が新しい可能性がある。

構造　平面規模は（1.26）×0.76mを測り、主軸方位は、Ｎ－61°－Ｅである。上端面積（0.373）㎡、下端面積（0.090）㎡を測る。出土遺物は、中世戦国期のカワラケ中杯１、２が出土するのみである。帰属時期を把握する根拠に乏しいが、中世戦国期の土坑墓跡と判断したい。

437号遺構（土坑跡）（第66図）

位置　調査区の北側Ｇ29グリッドに位置する。

形態　不整な円形の土坑が複数連結されたような形態を呈する。北西部において、436号遺構（土坑跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が古い可能性がある。

構造　平面規模は（1.04）×（0.66）mを測り、主軸方位は、Ｎ－76°－Ｅである。上端面積（0.240）㎡、下端面積（0.080）㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

438号遺構（土坑跡）（第66・69図）

位置　調査区の北側Ｆ29グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。112号遺構（竪穴建物跡）の南西部と重複する位置関係にある。新旧関係は、本遺構の方が、112号遺構よりも新しいと考えられる。

構造　平面規模は1.34×1.28mを測り、遺構深度は37cmを測る。主軸方位は、Ｎ－１°－Ｅであり、上端面積1.424㎡、下端面積0.704㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

439号遺構（土坑跡）（第66・69・170図）

位置　調査区の北側Ｆ29グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。

構造　平面規模は1.05×0.81mを測り、遺構深度は46cmを測る。主軸方位は、N－86°－Eであり、上端面積0.720㎡、下端面積0.368㎡を測る。出土遺物は、中世戦国期のカワラケ杯１及び中杯２が出土するのみである。帰属時期を把握する根拠に乏しいが、中世戦国期の土坑墓跡と判断したい。

440号遺構（土坑跡）（第66・69・170図）

位置　調査区の北側G29グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈する。北東部において441号遺構（土坑跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、新しい可能性がある。

構造　平面規模は1.04×0.83mを測り、遺構深度は78cmを測る。主軸方位は、N－21°－Eであり、上端面積0.928㎡、下端面積0.416㎡を測る。出土遺物は、中世期のカワラケ椀1が出土するのみである。内面に、油煙が付着しているか。帰属時期を把握する根拠に乏しいが、中世期の土坑墓である可能性がある。

441号遺構（土坑跡）（第66・69図）

位置　調査区の北側G29グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈する。南西部において440号遺構（土坑跡）と重複する。新旧関係は、本遺構の方が、古い可能性がある。

構造　平面規模は1.81×0.86mを測り、遺構深度は39cmを測る。主軸方位は、N－57°－Wであり、上端面積（1.056）㎡、下端面積（0.418）㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であるが、周囲に中世期の土坑墓が存在しており、同様の性格を持つ遺構の可能性がある。

442号遺構（土坑跡）（第66・70・171図）

位置　調査区の北側G29グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈する。

構造　平面規模は1.04×0.84mを測り、遺構深度は56cmを測る。主軸方位は、N－45°－Eであり、上端面積0.848㎡、下端面積0.496㎡を測る。出土遺物は、中世戦国期のカワラケ中杯１が出土し、内面に油煙が付着しており、灯明皿と考えられる。また、中世期と考えられるカワラケの香炉形２が出土している。また、石造物では、板碑３や五輪塔の火輪４も出土している。出土遺物の特徴等から、中世戦国期を中心とした土坑墓と考えられる。

443号遺構（土坑跡）（第66・70図）

位置　調査区の北側G29グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。

構造　平面規模は1.06×1.03mを測り、遺構深度は47cmを測る。主軸方位は、N－45°－Wであり、上端面積0.880㎡、下端面積0.560㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であるが、周囲に中世戦国期を中心とした土坑墓が存在しており、同様の性格を持つ遺構の可能性がある。

444号遺構（土坑跡）（第66・70・171図）

位置　調査区の北側G29グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈する。

構造　平面規模は1.01×0.72mを測り、遺構深度は52cmを測る。主軸方位は、N－26°－Eであり、上端面積0.592㎡、下端面積0.256㎡を測る。出土遺物は、遺構内北東部から、中世戦国前期と考えられるカワラケ中杯１が出土し、内外面に油煙が一部付着しており、灯明皿と考えられる。帰属時期を把握する根拠に乏しいが、出土遺物の特徴等から、中世戦国前期を中心とした土坑墓と考えられる。

445号遺構（土坑跡）（第66・70図）

位置　調査区の北側G29グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。

構造　平面規模は1.03×0.67mを測り、遺構深度は35cmを測る。主軸方位は、N－36°－Eであり、上端面積0.628㎡、下端面積0.400㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であるが、周囲に中世戦国期を中心とした土坑墓が存在しており、同様の性格を持つ遺構の可能性がある。

446号遺構（土坑跡）（第66・70・171図）

位置　調査区の北側G29グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈する。

構造　平面規模は1.22×0.85mを測り、遺構深度は78cmを測る。主軸方位は、N－48°－Wであり、上端面積0.928㎡、下端面積0.272㎡を測る。出土遺物は、北西部から石造物の板碑１～４が出土している。出土遺物の特徴等から、中世期を中心とした土坑墓と考えられる。

447号遺構（土坑跡）（第66・70図）

位置　調査区の北側G28グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈する。

構造　平面規模は0.80×0.64mを測り、遺構深度は37cmを測る。主軸方位は、N－35°－Eであり、上端面積0.384㎡、下端面積0.192㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であるが、周囲に中世戦国期を中心とした土坑墓が存在しており、同様の性格を持つ遺構の可能性がある。

448号遺構（土坑跡）（第66・70図）

位置　調査区の北側G28グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。

構造　平面規模は0.96×0.64mを測り、遺構深度は40cmを測る。主軸方位は、N－12°－Wであり、上端面積0.432㎡、下端面積0.176㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であるが、周囲に中世戦国期を中心とした土坑墓が存在しており、同様の性格を持つ遺構の可能性がある。

449号遺構（土坑跡）（第66・70・171図）

位置　調査区の北側Ｇ28グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈する。

構造　平面規模は1.04×0.70ｍを測り、遺構深度は28cmを測る。主軸方位は、Ｎ－30°－Ｅであり、上端面積0.656㎡、下端面積0.176㎡を測る。出土遺物は、遺構内北東部から石造物の板碑１が出土するのみである。帰属時期を把握する根拠に乏しいが、出土遺物の特徴等から、中世期を中心とした土坑墓と考えられる。

451号遺構（土坑跡）（第61・64・66・70・172～174図）

位置　調査区の北側Ｇ28グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈する。100号遺構（竪穴建物跡）西部内に位置する。新旧関係は、本遺構の方が新しい。

構造　平面規模は1.02×0.81ｍを測り、遺構深度は102cmを測る。主軸方位は、Ｎ－59°－Ｅであり、上端面積0.624㎡、下端面積0.341㎡を測る。出土遺物は、開元通宝から、永楽通宝や、朝鮮通宝、及び（古）寛永通宝、（新）寛永通宝に至るまで大量の銭が埋納されていた。近世期まで下る銭埋納遺構と考えられる。

452号遺構（土坑跡）（第61・64・66図）

位置　調査区の北側Ｅ29グリッドに位置する。

形態　不整な円形を呈する。100号遺構（竪穴建物跡）北東部と重複する。新旧関係は、本遺構の方が新しいと考えられる。

構造　平面規模は1.03×（0.64）ｍを測り、遺構深度は27cmを測る。主軸方位は、Ｎ－79°－Ｗであり、上端面積（1.237）㎡、下端面積（0.752）㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であるが、周囲に中世戦国期を中心とした土坑墓が存在しており、同様の性格を持つ遺構の可能性がある。

460号遺構（土坑跡）（第61・64・66・69図）

位置　調査区の北側Ｆ28グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈している。100号遺構（竪穴建物跡）北西部内に位置する。新旧関係は、本遺構の方が新しい。

構造　平面規模は0.43×0.40ｍを測り、遺構深度は15cmを測る。主軸方位は、Ｎ－84°－Ｅであり、上端面積0.144㎡、下端面積0.053㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

461号遺構（土坑跡）（第66・69図）

位置　調査区の北側Ｆ29グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈している。100号遺構（竪穴建物跡）北西部内に位置する。新旧関係は、本遺構

の方が新しい。
構造　平面規模は0.69×0.41ｍを測り、遺構深度は16cmを測る。主軸方位は、Ｎ－38°－Ｗであり、上端面積0.240㎡、下端面積0.112㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ないが、周囲に中世戦国期を中心とした土坑墓が存在しており、同様の性格を持つ遺構の可能性がある。

462号遺構（土坑跡）（第66図）
位置　調査区の北側Ｆ28グリッドに位置する。
形態　不整な方形を呈しているが、東側部分は検出されていない。100号遺構（竪穴建物跡）北西部内に位置する。新旧関係は、本遺構の方が新しい。
構造　平面規模は北西－南東軸長（0.67）ｍを測る。主軸方位は、Ｎ－30°－Ｗであり、上端面積（0.053）㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

463号遺構（土坑跡）（第66・69図）
位置　調査区の北側Ｆ29グリッドに位置する。
形態　不整な円形を呈している。100号遺構（竪穴建物跡）北東壁直下に位置する。新旧関係は、本遺構の方が新しい。
構造　平面規模は0.80×0.84ｍを測り、遺構深度は21cmを測る。主軸方位は、Ｎ－79°－Ｗであり、上端面積0.496㎡、下端面積0.219㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

465号遺構（土坑跡）（第66・69図）
位置　調査区の北側Ｆ28グリッドに位置する。
形態　不整な方形を呈している。100号遺構（竪穴建物跡）北東部内に位置する。新旧関係は、本遺構の方が新しい。
構造　平面規模は0.81×0.59ｍを測り、遺構深度は19cmを測る。主軸方位は、Ｎ－43°－Ｅであり、上端面積0.379㎡、下端面積0.197㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

466号遺構（土坑跡）（第61・64・66図）
位置　調査区の北側Ｅ28グリッドに位置する。
形態　不整な楕円形を呈している。100号遺構（竪穴建物跡）北東壁部分と重複する。新旧関係は、本遺構の方が新しいと考えられる。
構造　平面規模は1.43×0.61ｍを測り、主軸方位は、Ｎ－97°－Ｅである。上端面積0.763㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ない。

468号遺構（土坑跡）（第66・70図）

位置　調査区の北側Ｆ28グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈している。100号遺構（竪穴建物跡）北西部内に位置する。新旧関係は、本遺構の方が新しい。

構造　平面規模は0.81×0.78mを測り、遺構深度は15cmを測る。主軸方位は、Ｎ－47°－Ｗであり、上端面積0.432㎡、下端面積0.304㎡を測る。出土遺物が無く、帰属時期を把握することは困難であり、時期は不明と言わざるを得ないが、周囲に中世戦国期を中心とした土坑墓が存在しており、本遺構の周辺にも板碑が出土していることから、同様の性格を持つ遺構の可能性がある。

472号遺構（土坑跡）（第52・55・175図）

位置　調査区の中央Ｄ22グリッドに位置する。

形態　不整な楕円形を呈する。

構造　平面規模は2.38×1.61ｍを測り、遺構深度は61cmを測る。主軸方位は、Ｎ－4°－Ｅを向いており、上端面積は2.776㎡、下端面積は2.048㎡を測る。ヘラケズリが施された甕上半部１、土製の鈴２、土人形３、寛永通宝及び文久永宝４～10、水晶製の親珠と考えられる数珠玉11が出土している。西谷古墳群に関係する地下式系墓の可能性もあるが、出土遺物を見る限り、帰属時期は近世期まで下る可能性が高いと考えられる。

473号遺構（土坑跡）（第67・176図）

位置　調査区の北側Ｅ30グリッドに位置する。

形態　西谷5号墳の南西側墳丘部に２個体の常滑産大甕が東西に並んで据え置かれた状態で検出されており（第176図参照）、黒色土中で検出されているため、遺構プランの把握はできなかった。

構造　並んで置かれた大甕の主軸方位は、Ｎ－92°－Ｗを向いている。出土遺物は、並んで据え置かれているものの、１は常滑６ａ～６ｂ型式で13世紀であり、２が常滑９型式で15世紀前半を示し、時期差がある。同時に埋葬されたものではなく、１が先行して埋葬され、２が追葬されたと考えられる。出土遺物の特徴から中世前半期を中心とした土坑墓と考えられる。

474号遺構（土坑跡）（第59図）

位置　調査区の北側Ｃ29グリッドに位置する。

形態　不整な方形を呈する。南東側を108号遺構（竪穴建物跡）と重複し、北西側を西谷５号墳と重複する。新旧関係は、いずれの遺構よりも、本遺構の方が新しいと考えられる。

構造　平面規模は（1.97）×0.74m、遺構深度92cmを測る。主軸方位は、Ｎ－32°－Ｗであり、上端面積（1.168）㎡を測る。火葬土坑と考えられるが、出土遺物がなく、帰属時期は不明と言わざるを得ないが、南西部を中心に中世期の土坑墓が展開しており、関係している可能性がある。

475号遺構（土坑跡）（第59図）

位置　調査区の北側Ｄ29グリッドに位置する。

形態　やや不整なＴ字形を呈する。
構造　平面規模は1.39×0.75m、遺構深度は燃焼部で25cmを測る。主軸方位は、Ｎ－36°－Ｅであり、上端面積0.432㎡、下端面積0.272㎡を測る。火葬土坑と考えられるが、出土遺物がなく、帰属時期は不明と言わざるを得ないが、南西部を中心に中世期の土坑墓が展開しており、関係している可能性がある。

476号遺構（土坑跡）（第59図）
位置　調査区の北側Ｄ29グリッドに位置する。
形態　やや不整なＬ字形を呈する。
構造　平面規模は(1.59)×1.42m、遺構深度は燃焼部で29cm、煙道部で36cmを測る。主軸方位は、Ｎ－33°－Ｗであり、上端面積(1.269)㎡、下端面積(0.848)㎡を測る。火葬土坑と考えられるが、出土遺物がなく、帰属時期は不明と言わざるを得ないが、南西部を中心に中世期の土坑墓が展開しており、関係している可能性がある。

477号遺構（土坑跡）（第66図）
位置　調査区の北側Ｆ30グリッドに位置する。
形態　やや不整なＴ字形を呈する。
構造　平面規模は1.12×0.86m、遺構深度は燃焼部で39cm、煙道部で20cmを測る。主軸方位は、Ｎ－30°－Ｗであり、上端面積1.256㎡、下端面積0.933㎡を測る。火葬土坑と考えられ、燃焼部と煙道部の間に、天井部が残存する。出土遺物がなく、帰属時期は不明と言わざるを得ないが、南部を中心に中世期の土坑墓が展開しており、関係している可能性がある。

478号遺構（土坑跡）（第61・64・66図）
位置　調査区の北側Ｆ28グリッドに位置する。
形態　やや不整なＴ字形を呈する。東側において、479号遺構(土坑跡)と重複しており、新旧関係は、本遺構の方が新しいと考えられるが、479号遺構及び480号遺構(土坑跡)と複合する位置関係にあり、近接した時期に火葬が繰り返された可能性がある。
構造　平面規模は1.56×1.01m、遺構深度は燃焼部で15cmを測る。主軸方位は、Ｎ－49°－Ｗであり、上端面積(0.820)㎡、下端面積(0.576)㎡を測る。火葬土坑と考えられるが、出土遺物がなく、帰属時期は不明と言わざるを得ないが、北西部を中心に中世期の土坑墓が展開しており、関係している可能性がある。

479号遺構（土坑跡）（第61・64・66図）
位置　調査区の北側Ｆ28グリッドに位置する。
形態　やや不整なＴ字形を呈する。東側において、480号遺構(土坑跡)と重複し、西側においても、478号遺構(土坑跡)と重複しており、新旧関係は、本遺構の方がいずれの遺構よりも古いと考えられるが、478号遺構及び480号遺構と複合する位置関係にあり、近接した時期に火葬が繰り返された可能

性がある。
構造　平面規模は1.76×0.99m、遺構深度は燃焼部で19cm、煙道部で８cmを測る。主軸方位は、N－40°－Eであり、上端面積(1.173)㎡、下端面積(1.146)㎡を測る。火葬土坑と考えられるが、出土遺物がなく、帰属時期は不明と言わざるを得ないが、北西部を中心に中世期の土坑墓が展開しており、関係している可能性がある。

480号遺構（土坑跡）（第66図）
位置　調査区の北側Ｅ28グリッドに位置する。
形態　やや不整なＴ字形を呈する。西側において、479号遺構(土坑跡)と重複しており、新旧関係は、本遺構の方が新しいと考えられるが、478号遺構(土坑跡)及び479号遺構と複合する位置関係にあり、近接した時期に火葬が繰り返された可能性がある。
構造　平面規模は1.43×0.91m、遺構深度は燃焼部で31cmを測る。主軸方位は、N－130°－Eであり、上端面積0.757㎡、下端面積0.608㎡を測る。火葬土坑と考えられるが、出土遺物がなく、帰属時期は不明と言わざるを得ないが、北西部を中心に中世期の土坑墓が展開しており、関係している可能性がある。

481号遺構（土坑跡）（第66図）
位置　調査区の北側Ｆ28グリッドに位置する。
形態　やや不整なＴ字形を呈する。西側に、五輪塔の集中地点がある。
構造　平面規模は1.17×0.61mを測る。主軸方位は、N－56°－Wであり、上端面積0.432㎡、下端面積0.192㎡を測る。火葬土坑と考えられるが、出土遺物がなく、帰属時期は不明と言わざるを得ないが、西側に五輪塔集中地点があり、北西部を中心に中世期の土坑墓が展開していることから、関係している可能性は高いと考えられる。

482号遺構（土坑跡）（第60図）
位置　調査区の北側Ｅ29グリッドに位置する。
形態　やや不整なＴ字形を呈する。北東側において、西谷５号墳と重複し、南西側を112号遺構(竪穴建物跡)と重複する位置関係にある。新旧関係は、本遺構の方がいずれの遺構よりも新しいと考えられる。
構造　平面規模は4.23×1.58m、遺構深度は33cmを測る。主軸方位は、N－57°－Wであり、上端面積3.712㎡、下端面積1.579㎡を測る。火葬土坑と考えられるが、出土遺物がなく、帰属時期は不明と言わざるを得ないが、南西部を中心に中世期の土坑墓が展開しており、関係している可能性がある。

483号遺構（土坑跡）（第60図）
位置　調査区の北側Ｅ29グリッドに位置する。
形態　２つのピットが細い溝状遺構によって連結されたような形態を呈する。北西側において、112号遺構(竪穴建物跡)と重複する位置関係にある。新旧関係は、本遺構の方が新しいと考えられる。

構造　平面規模は2.22×0.78m、遺構深度は56cmを測る。主軸方位は、N－76°－Wであり、上端面積1.130㎡、下端面積0.443㎡を測る。火葬土坑と考えられるが、出土遺物がなく、帰属時期は不明と言わざるを得ないが、南西部を中心に中世期の土坑墓が展開しており、関係している可能性がある。

3　グリッド出土遺物（第176～185図）

概要

前項の土坑の概要でも述べたが、調査区の北西部を中心に、中世戦国期を中心とした土坑墓群が展開していたと考えられ、供養塔である五輪塔及び板碑が、黒色土中から、ある程度ごとにまとまって出土している状況が見られた。これらは、遺構の掘り込み底面が、黒色堆積土中で終わってしまっているものが少なからず存在していたことを示しており、黒色堆積土中で黒色覆土の遺構を検知しなければならなかったため、遺構のプラン確認がままならず、中世期の出土遺物のみが検出されたものと考えられる。したがって、出土地点を把握できた遺物については、６ｍ間隔毎に設定したグリッド別に遺物を掲載した。これにより、中世戦国期の遺構の存在をある程度、限定できる可能性がある。

調査区北側北東寄りＣ29グリッドから、中世後期から戦国期に至るカワラケ中杯及び小皿１～８、板碑１～４が出土しており、板碑２には梵字が刻まれている。本グリッド内に、中世期の土坑墓があった可能性が高い。また、北側北西寄りＦ28グリッドから、中世後期のカワラケ小皿１～６が出土している。この中には、灯明皿も含まれている。また、石造物では、板碑１～３、五輪塔の空風輪４、５、火輪６～10、水輪11～14、地輪15～19などが出土しており、２　土坑跡・方形周溝墓の項で記述した遺構以外にも、中世期の土坑墓が本グリッドには存在していた可能性が高い。調査区南側南東寄りＨ11グリッドからは、中世後期のカワラケ中杯及び小皿１～５が出土している。この中には、灯明皿も含まれている。石造物の出土はないようであるが、この付近にも中世期の土坑墓が黒色土中に存在していた可能性が高いと考えられる。北側中央Ｄ30グリッドからは、石造物である板碑１、五輪塔の火輪２及び水輪３が出土している。北西付近に展開する中世土坑墓群と関連する遺物と考えられる。北側北西寄りＥ30グリッドからも、石造物である板碑１～５が出土している。２は、蓮座上に浮かぶ梵字が刻まれている。Ｄ30グリッド同様、北西付近に展開する中世土坑墓群と関連する遺物と考えられる。また、北側北西寄りＦ29グリッドからは、中世戦国期のカワラケ中杯１及び２が出土している。北西付近に展開する中世土坑墓群が、確実に戦国期まで下ることを示していると考えられる。一方、中央東側Ｆ15グリッドからは、ハケメ痕跡が残る小型椀１や、焼成前穿孔を施した高杯脚部２が出土している。周囲に古墳時代前期草刈式期の遺構が存在していた可能性が高いと考えられる。調査区中央123号遺構（竪穴建物跡）周辺のＩ17グリッドからは、沈線で区画された中に羽状縄文帯が巡る壺下半部５や、沈線及び結節文により区画された羽状縄文帯が巡る壺上半部１などが出土しており、本グリッド周辺において、弥生時代後期前半～後半への過渡期の遺構が存在していた可能性が高いと考えられる。

4　一括出土遺物　（第186～200図）

概要

台遺跡Ｅ地点の一括出土遺物は、縄文時代前期から奈良・平安時代を経て、中世戦国期及び近世期の寛永通宝や土人形に至るまで、幅広い帰属時期の遺物が出土している。このことは、グリッド出土遺物のように、出土地点がある程度特定できない場合であっても、本地点により広い帰属時期に属する遺構が存在していた可能性を示唆すると考えられる。

１～14は、縄文土器である。前期諸磯式から晩期安行３式に至るまで出土しているが、主体は、中期後半加曽利Ｅ式期の深鉢土器片である。15～19は、弥生土器である。15は、口縁下端部に径３ｍｍ程度の竹管状工具による連続刺突文が巡る弥生時代終末期前半と考えられる鉢である。他には、折返し口縁部を有する壺16～19などが出土している。古墳時代以降では、赤彩が施された杯20や高杯の脚部21、焼成前穿孔が施された高杯の脚部22、内・外面共丁寧なヘラミガキが施された鉢25、球胴形に近い胴部を呈した甕27などが出土している。他には、いわゆるＳ字甕の口縁部28や、内面ハケメ痕跡を残す甕上半部29などが出土している。須恵器では、宝珠形のつまみが付く蓋34や、底部が高台よりも突出し、白色味の強い色調を呈する湖西産と考えられる高台付杯37などが出土しており、８世紀前半を中心とした遺物の出土が多い。他には、灰釉陶器壺下半部40などが出土している。中世では、古瀬戸後期Ⅲ期の瀬戸・美濃系天目茶碗41、古瀬戸後期の瀬戸・美濃系おろし皿44、中世後期のカワラケ小皿46、中杯47などが出土している。他には、常滑産10型式の大甕48などが出土している。土製品では、球状土錘49、23号遺構（竪穴建物跡）に同様の特徴を有する遺物が出土している柱状土製品50、加曽利Ｅ式の土器片錘51、平瓦52などが出土している。また、近世期以降の可能性がある土人形53～69が出土しており、頭髪及び腹帯部分に黒彩が施されている。69は小型で、底部に棒状の穿孔が施されている。70は、銅製の青銅鉆杵で、基部に２ヵ所の穿孔を施す。71は、骨製のキセル入れである。細かい格子目状の穿孔を施している。72～169は、古銭である。72は祥符元宝、73は元豊通宝、74は治平元宝、75は熙寧元宝、76、77は永楽通宝、78は宣徳通宝である。80～155は寛永通宝であり、156～168が文久永宝である。169は題目銭であり、「南無妙法蓮華経」と書かれていた。170～184は石器であり、170が黒曜石製の石鏃、171、172は黒曜石のフレークである。また、182～184が石製模造品であり、182は滑石製の勾玉、183が滑石片岩製の剣形、184が粘板岩製の剣形である。石造物では、185が板碑であり、186は五輪塔の火輪、187～190が五輪塔の水輪、191～193が五輪塔の地輪である。調査区北西部に位置する中世土坑墓群と関係する出土遺物と考えられる。

5　補遺　（第200～206図）

概要

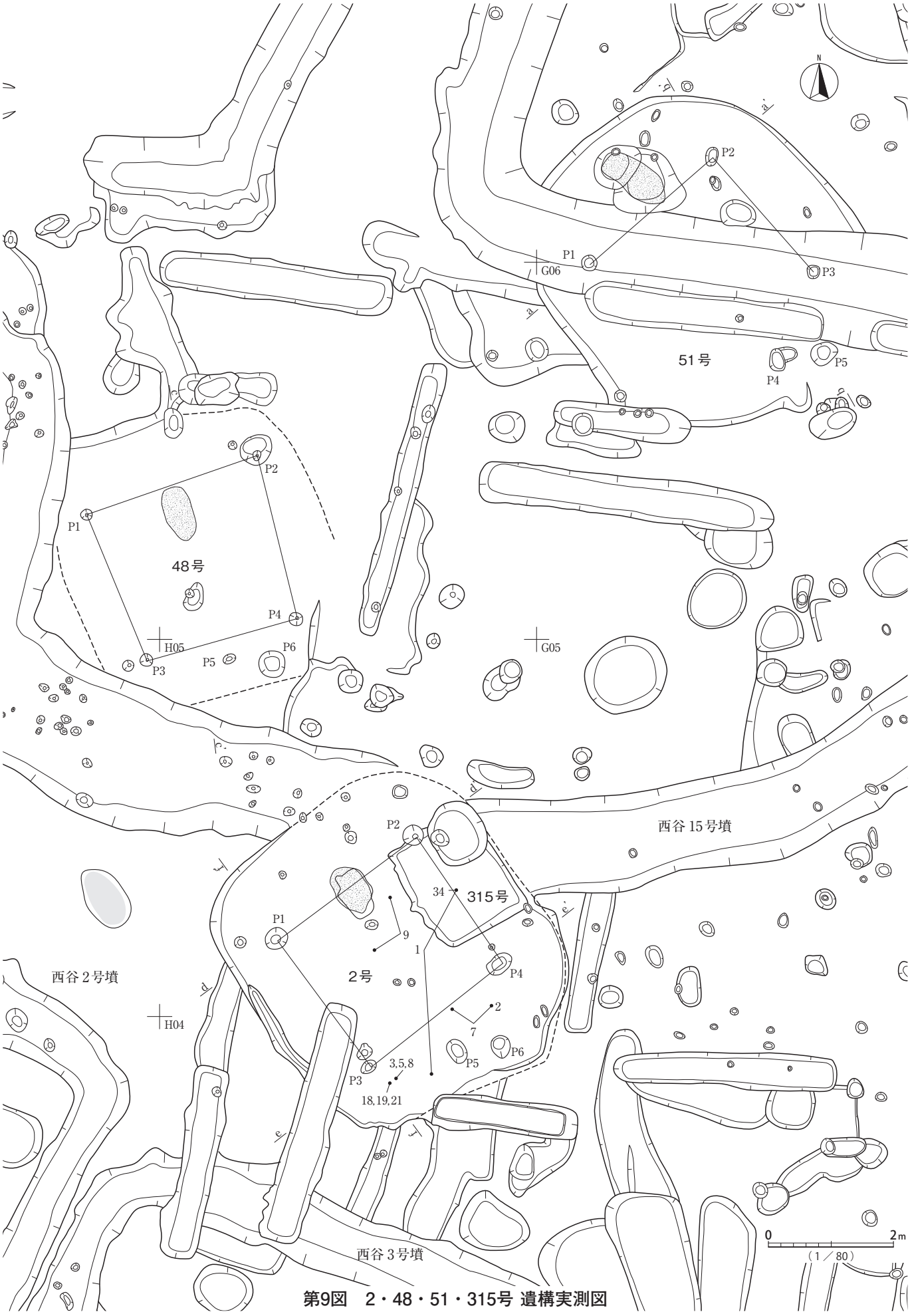
台遺跡Ｅ地点の未整理箱に混入していたため、整理作業が終了し報告書が刊行されながら、報告書に掲載することができなかった台遺跡Ａ・Ｂ及びＤ地点の出土遺物を、補遺として集成し、掲載した。

台遺跡Ａ地点では、231号遺構から、古瀬戸後期Ⅳ期の瀬戸・美濃系陶器おろし目付片口大皿１、中世瀬戸・美濃系陶器脚付鉢２が出土している。他には、303号遺構から、中世～戦国期のカワラケ小皿１～３が出土している。石造物では、257号遺構から梵字が刻まれた板碑１が出土しており、当

地点にも中世～戦国期の遺構が存在していたことが改めて示された。一括出土遺物では、結節文により区画された赤彩が施された壺１や、カワラケ６、石器では、黒曜石製の石鏃８、９、瑪瑙製の石鏃10などが出土している。石造物では、蓮座に乗った梵字が刻まれた板碑13、14、15、石臼16、17などが出土している。

台遺跡Ｂ地点では、６号溝から常滑産９型式の大甕口縁部１や、１号地下式坑から常滑産９型式片口鉢Ⅱ類の口縁～体部下半１、３号台地整形区画から常滑産９型式片口鉢Ⅱ類の口縁～体部下半１が出土しており、いずれも中世期の遺物が出土している。また、一括出土遺物では、縄文中期前半阿玉台式の土器片錘１及び、常滑産４型式片口鉢Ⅰ類の体部下半～底部２が出土している。

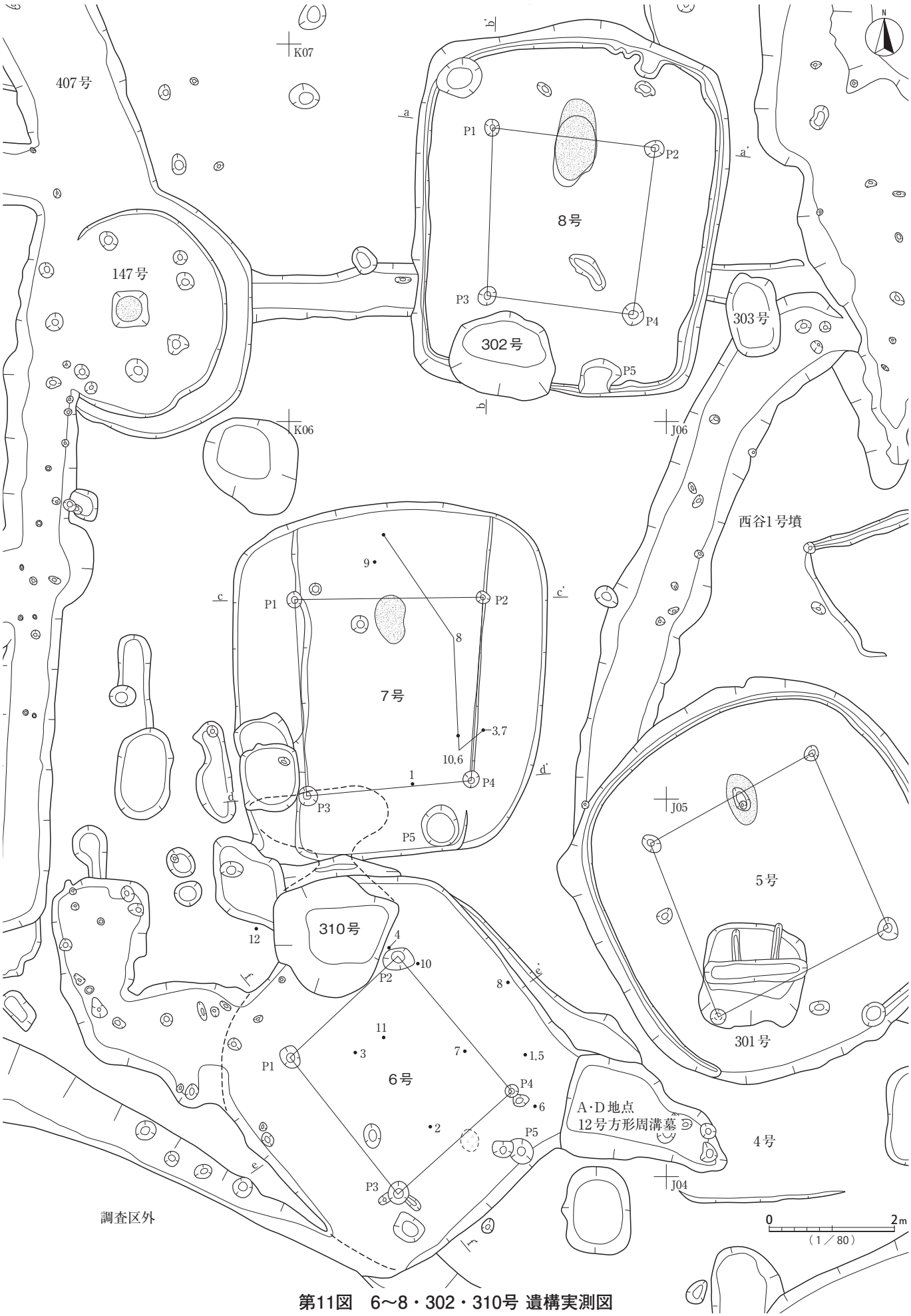
台遺跡Ｄ地点では、一括出土遺物のみの出土であり、土器では、胴部が球胴形を呈する甕１が出土している。また、石器では、黒曜石及びチャート製の石鏃２～９、緻密質輝石安山岩製の打製石斧10が出土している。



第9図　2・48・51・315号 遺構実測図

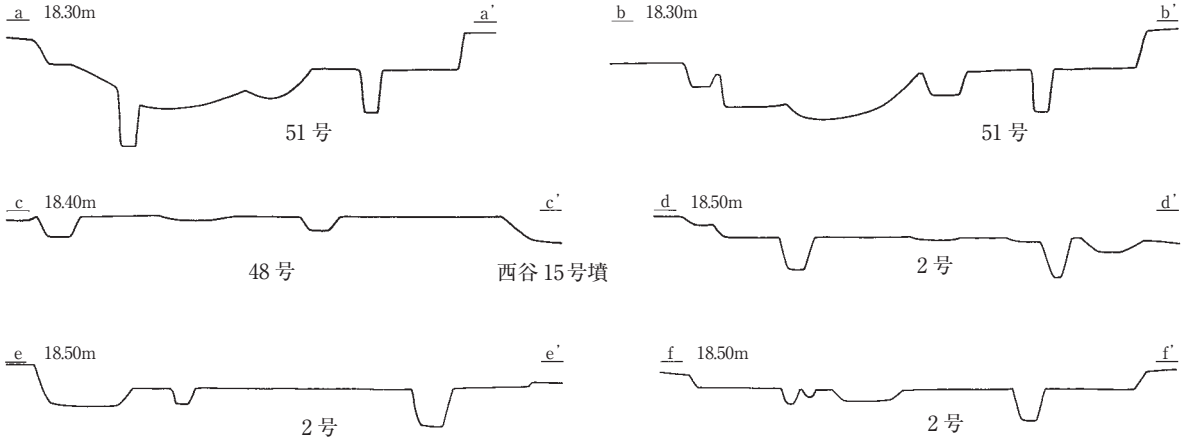


第10図　3～5・301号 遺構実測図

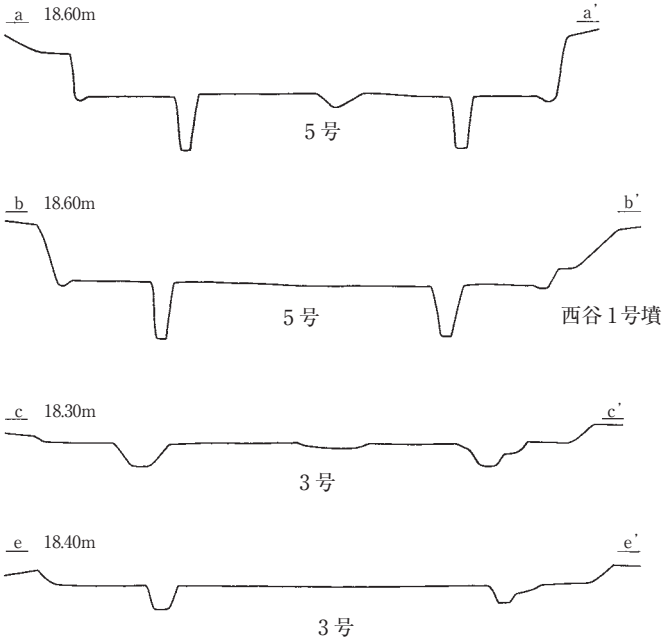


第11図　6～8・302・310号 遺構実測図

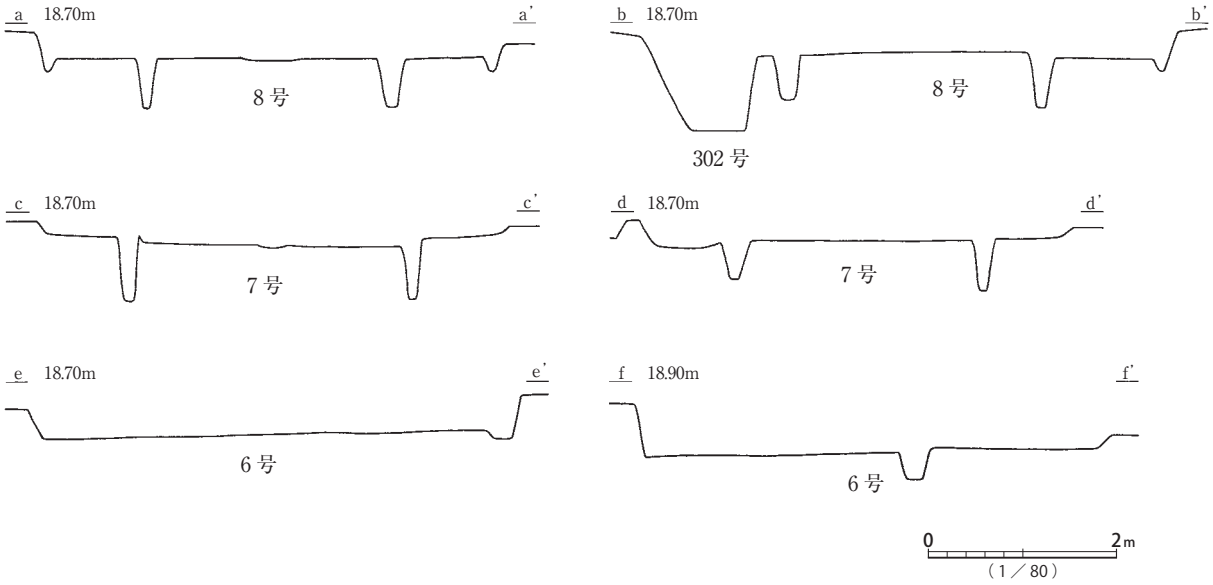
2・48・51号



3・5号



6～8・302号



第12図　2・3・5～8・48・51・302号 遺構実測図



第13図　9・13～15・47・49・50・303号 遺構実測図

N

N08

L08

J08

13号

304号

A·D地点
448号溝

407号

A·D地点
445号溝

A·D地点
447号溝

N07

L07

407号

K07

9号

西谷15号墳

調査区外

P1

P2

P3

P4

P5

P6

P7

P8

P9

147号

8号

303号

302号

407号

A·D地点
449号溝

N06

M06

L06

K06

西谷19号墳

407号

西谷1号墳

7号

N05

M05

L05

310号

J05

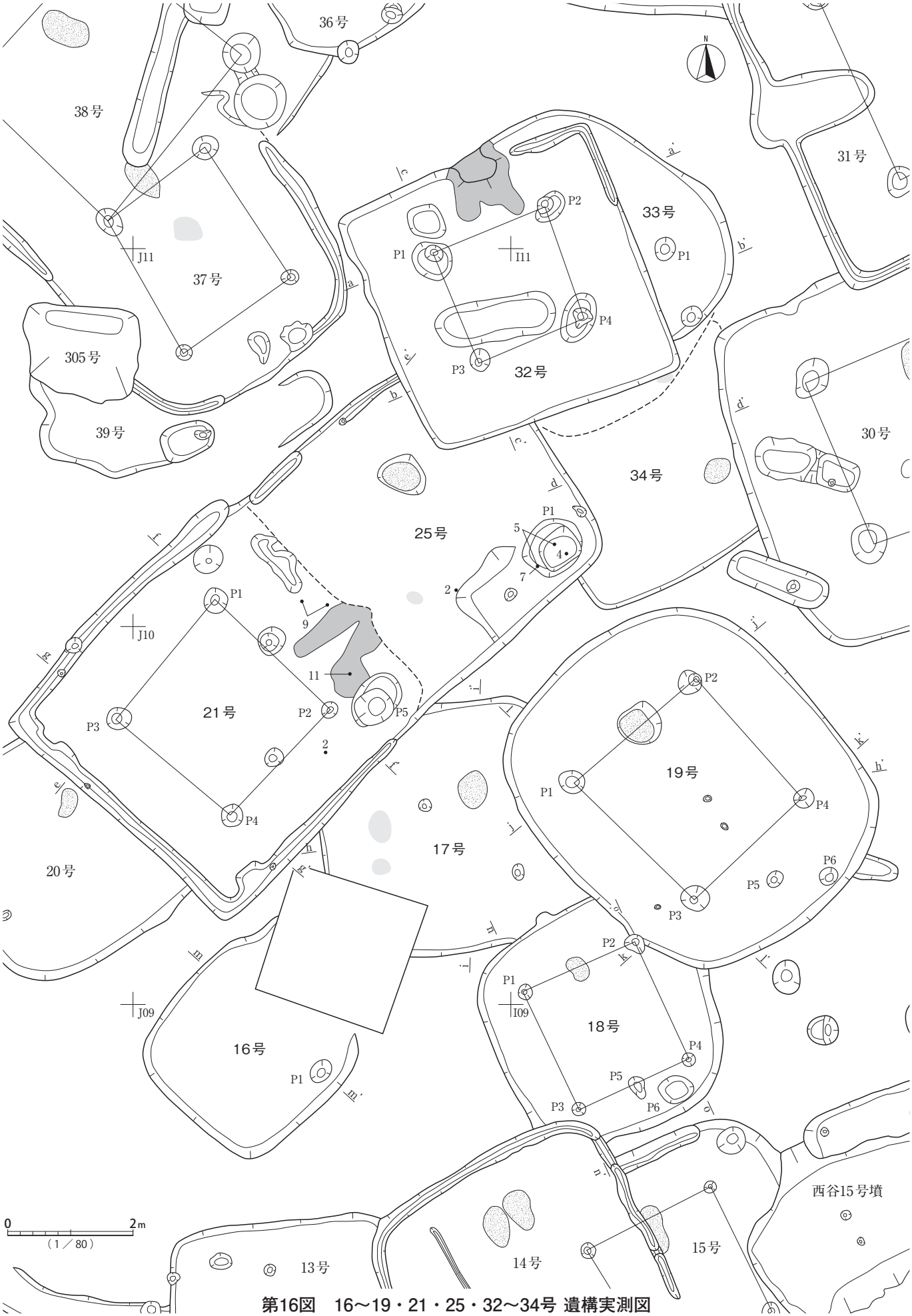
5号

0　3m
（1／80）

第14図　147・407号 遺構実測図

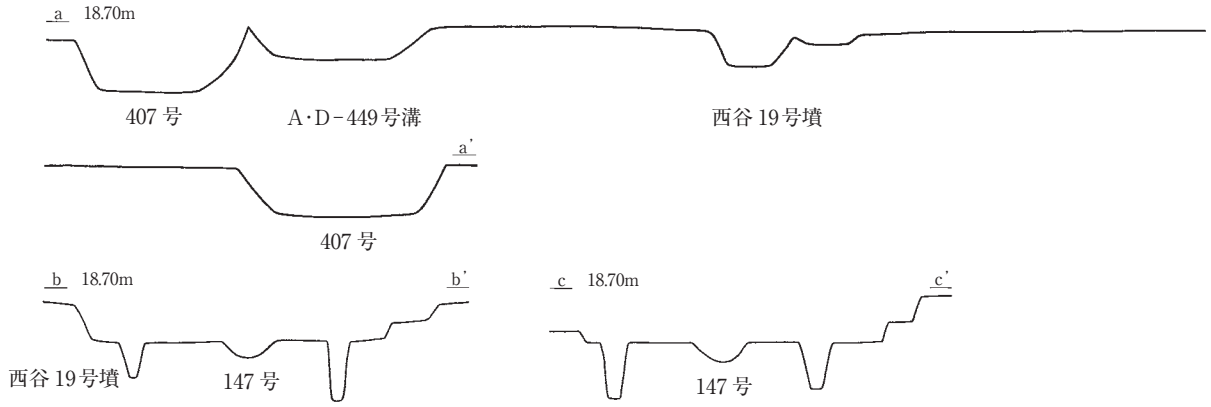


第15図　26・27・29・30号 遺構実測図

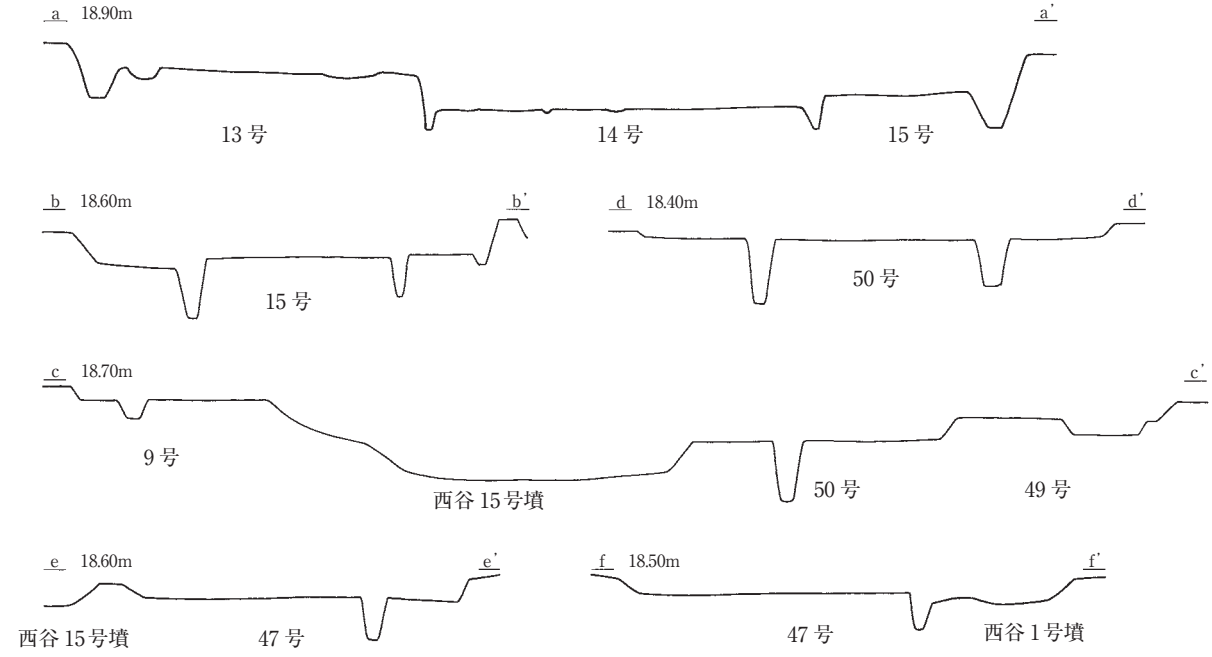


第16図　16～19・21・25・32～34号 遺構実測図

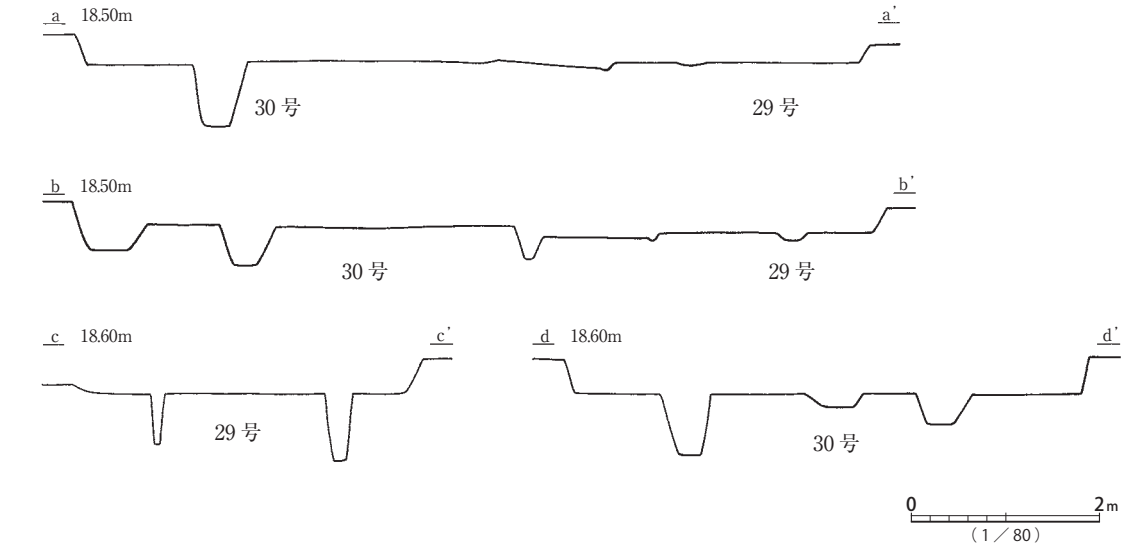
147・407号



9・13～15・47・49・50号

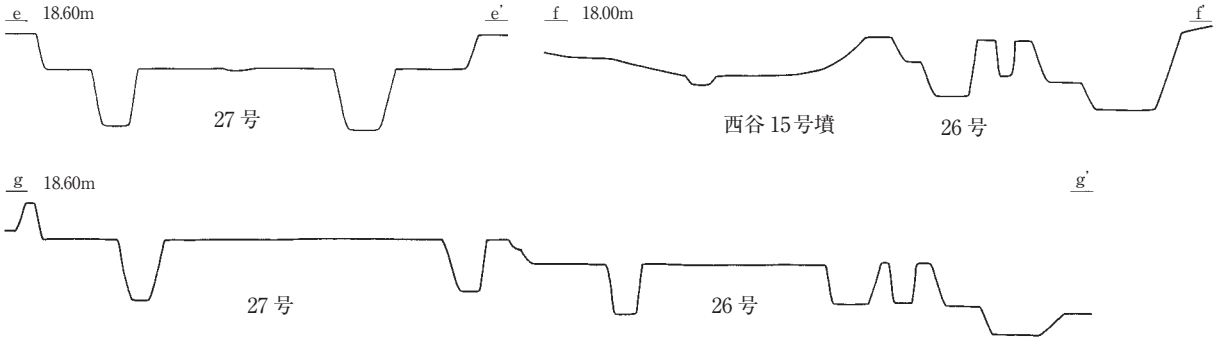


29・30号

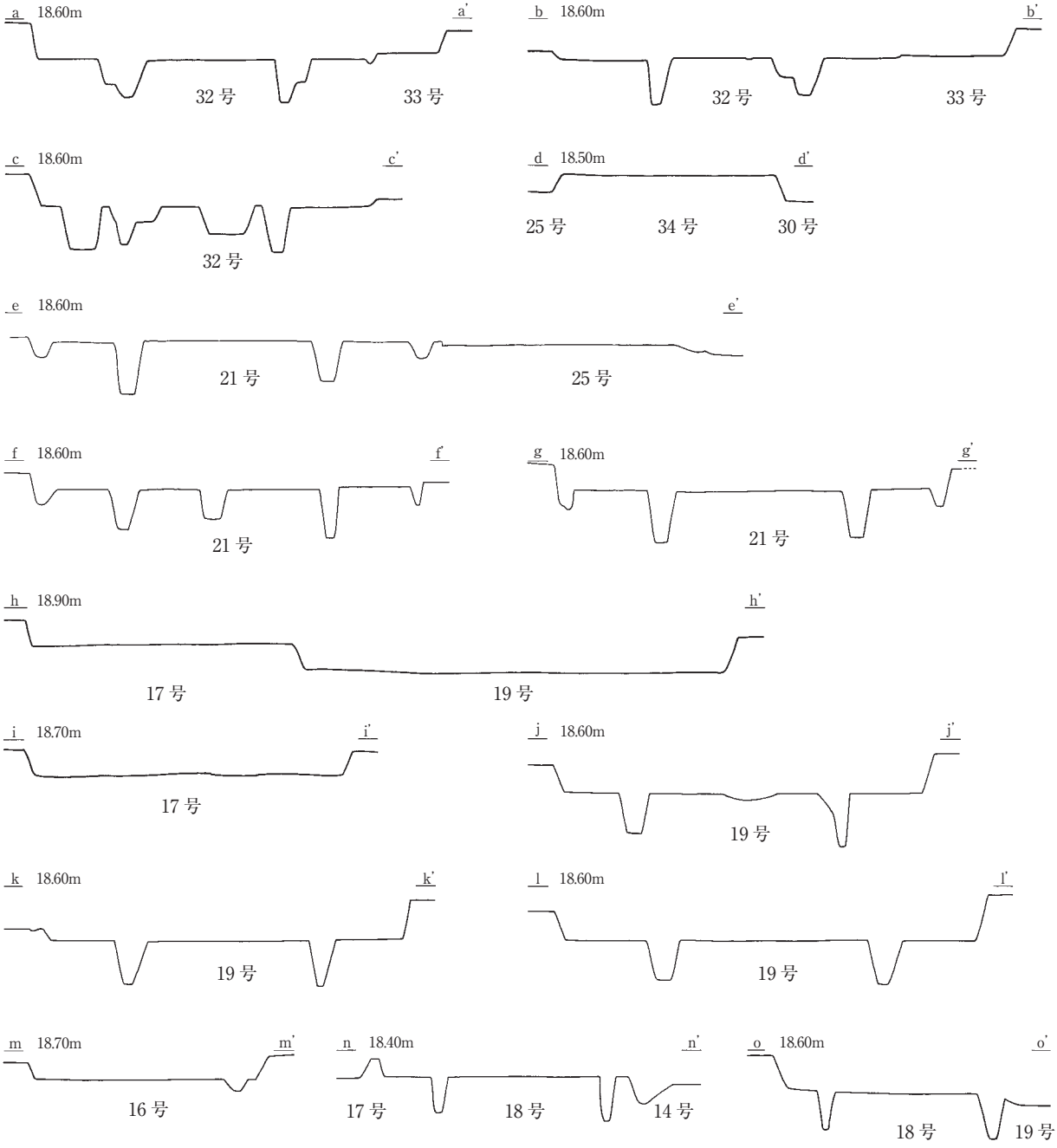


第17図　9・13～15・29・30・47・49・50・147・407号 遺構実測図

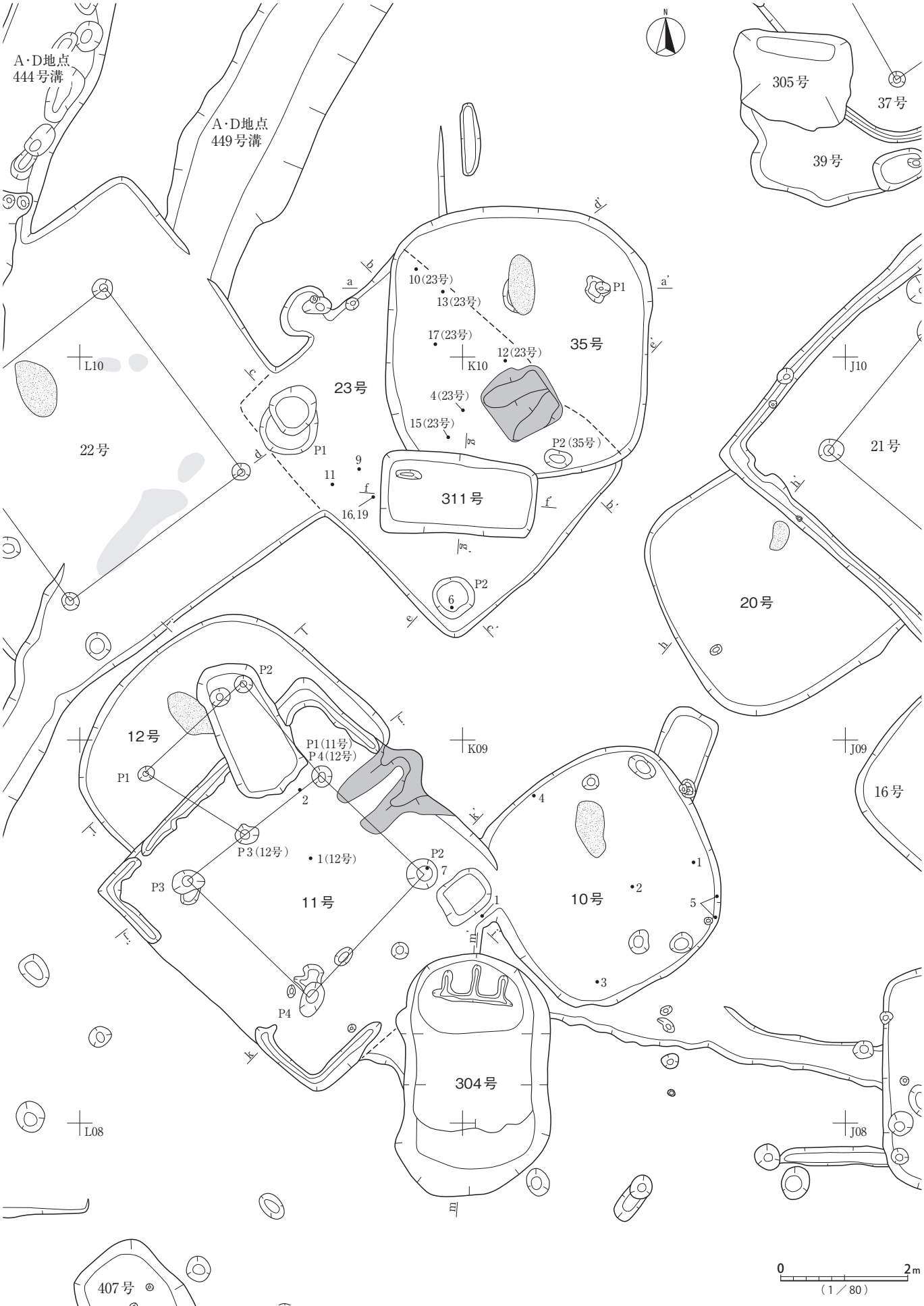
26・27号



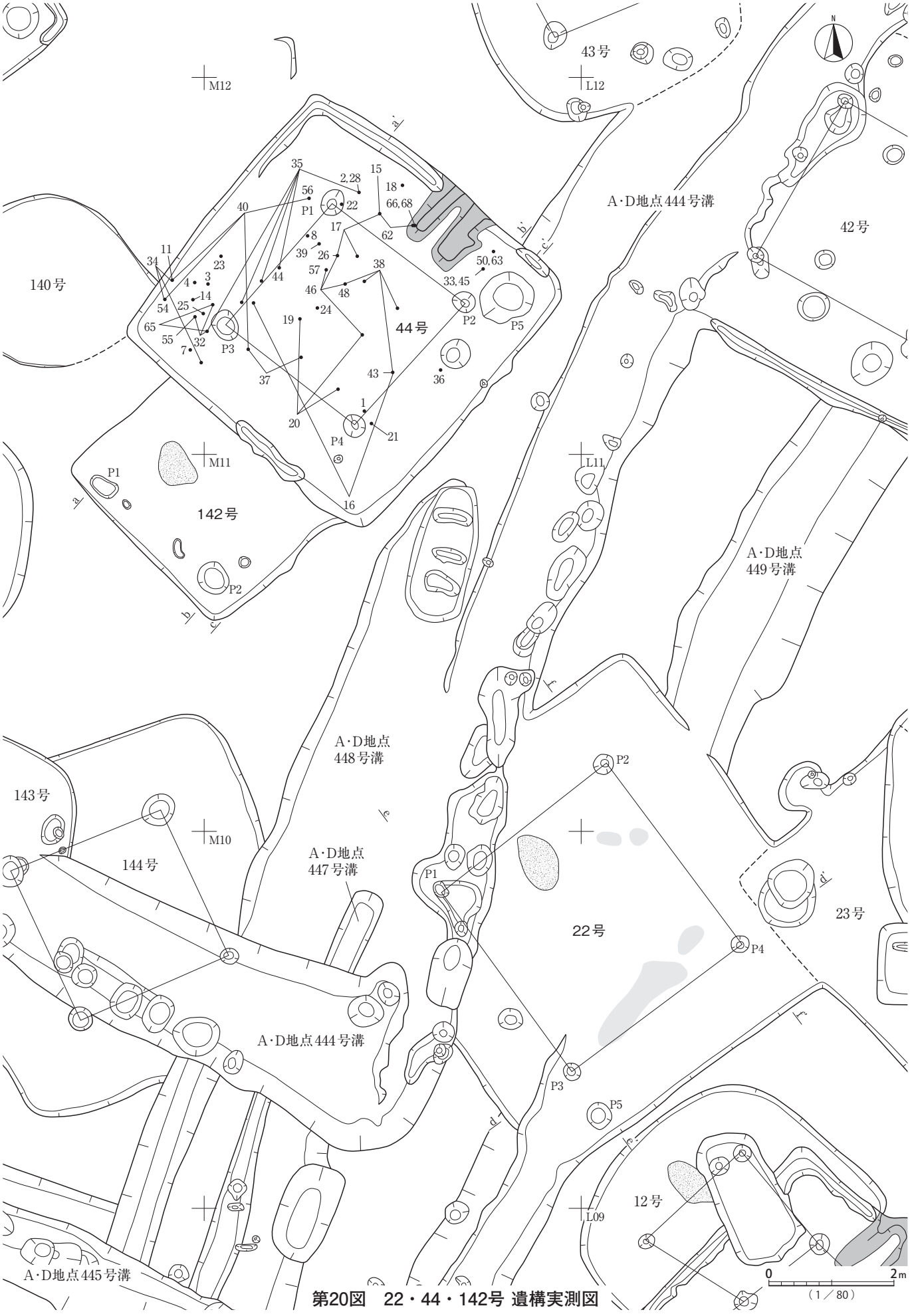
16～19・21・25・32～34号



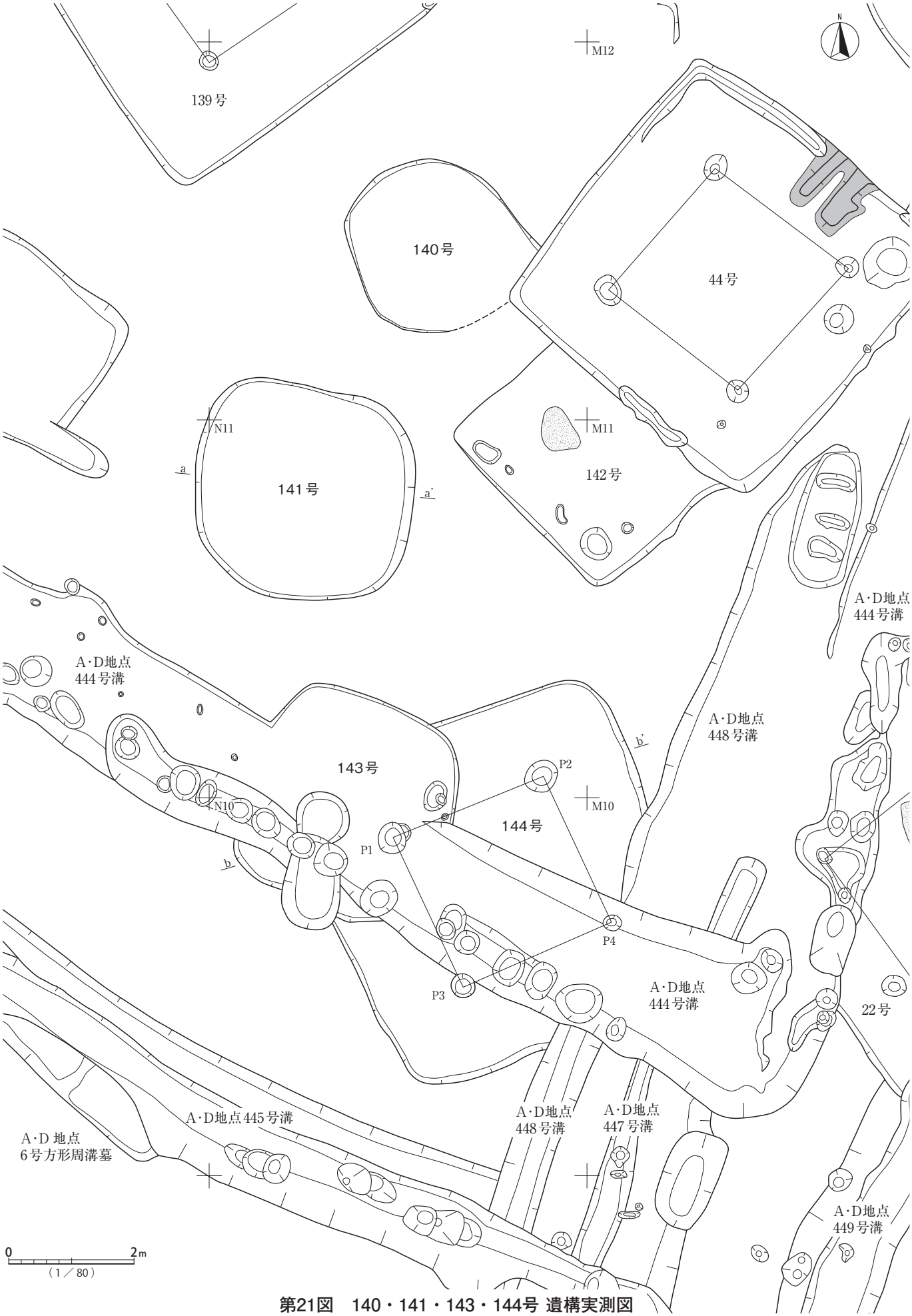
第18図　16～19・21・25～27・32～34号 遺構実測図



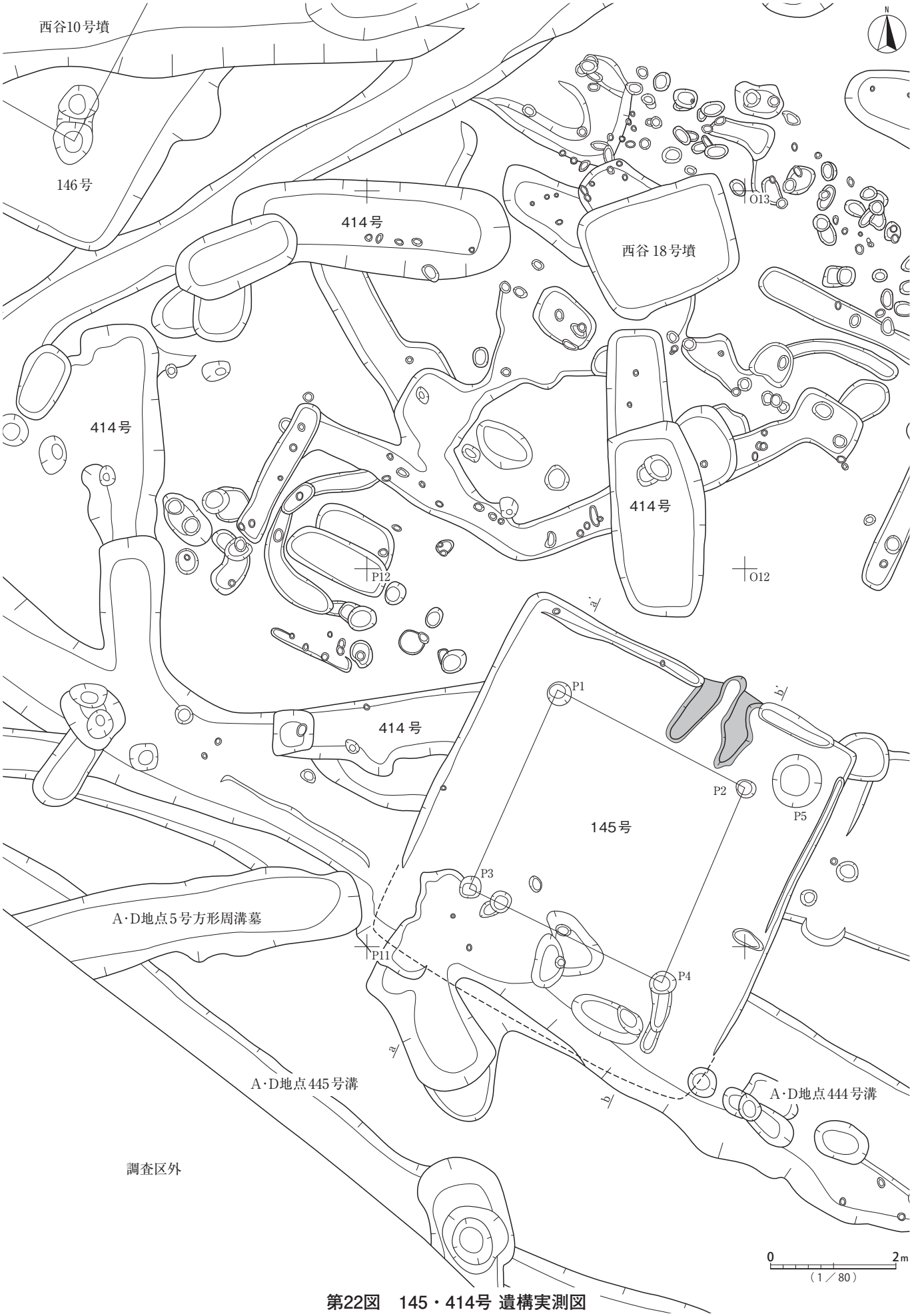
第19図　10～12・20・23・35・304・311号 遺構実測図



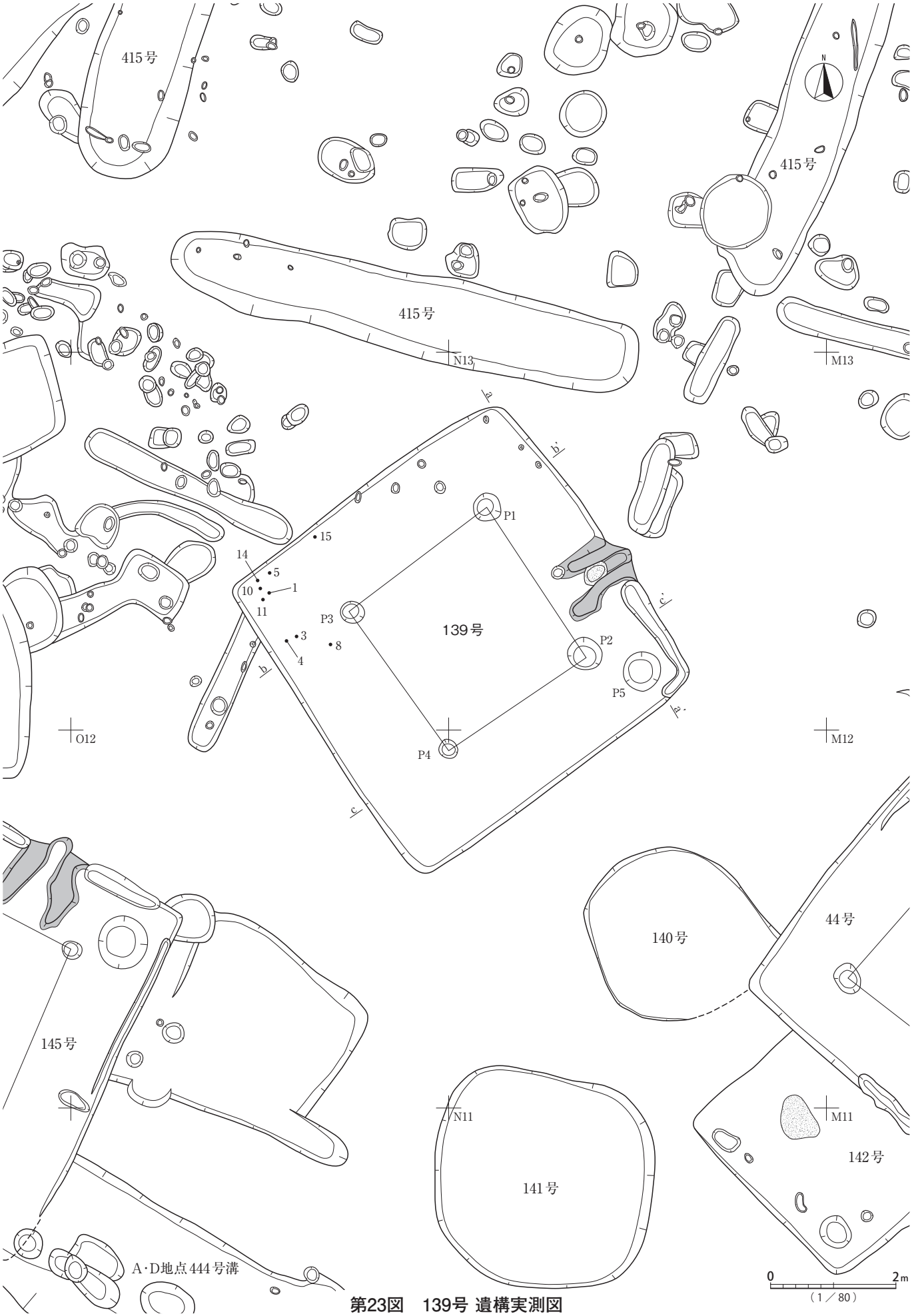
第20図　22・44・142号 遺構実測図



第21図　140・141・143・144号 遺構実測図



第22図　145・414号 遺構実測図

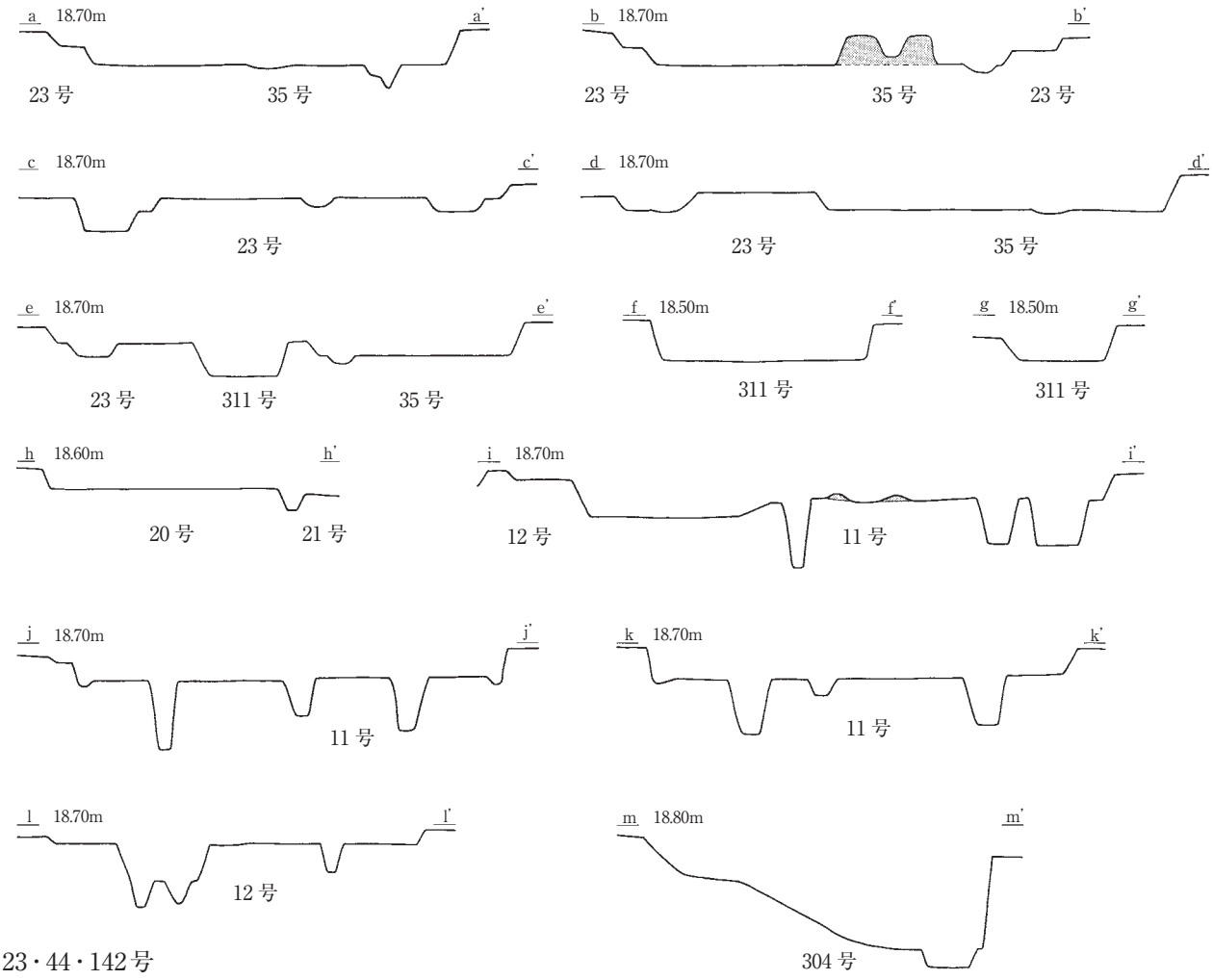


第23図　139号 遺構実測図

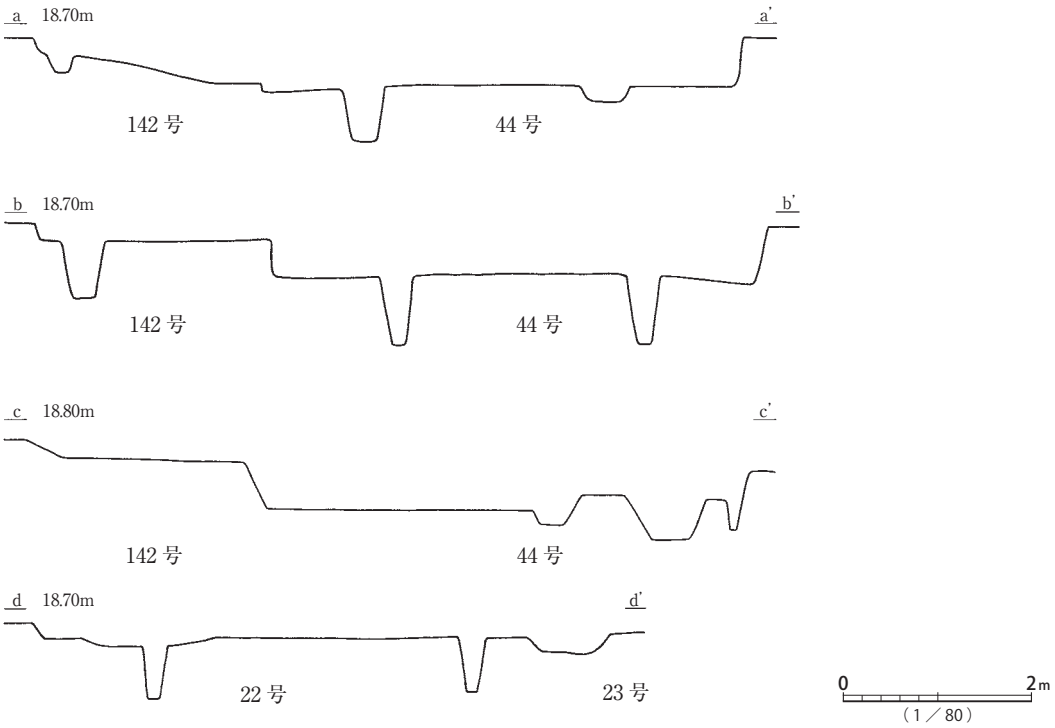


第24図　42号 遺構実測図

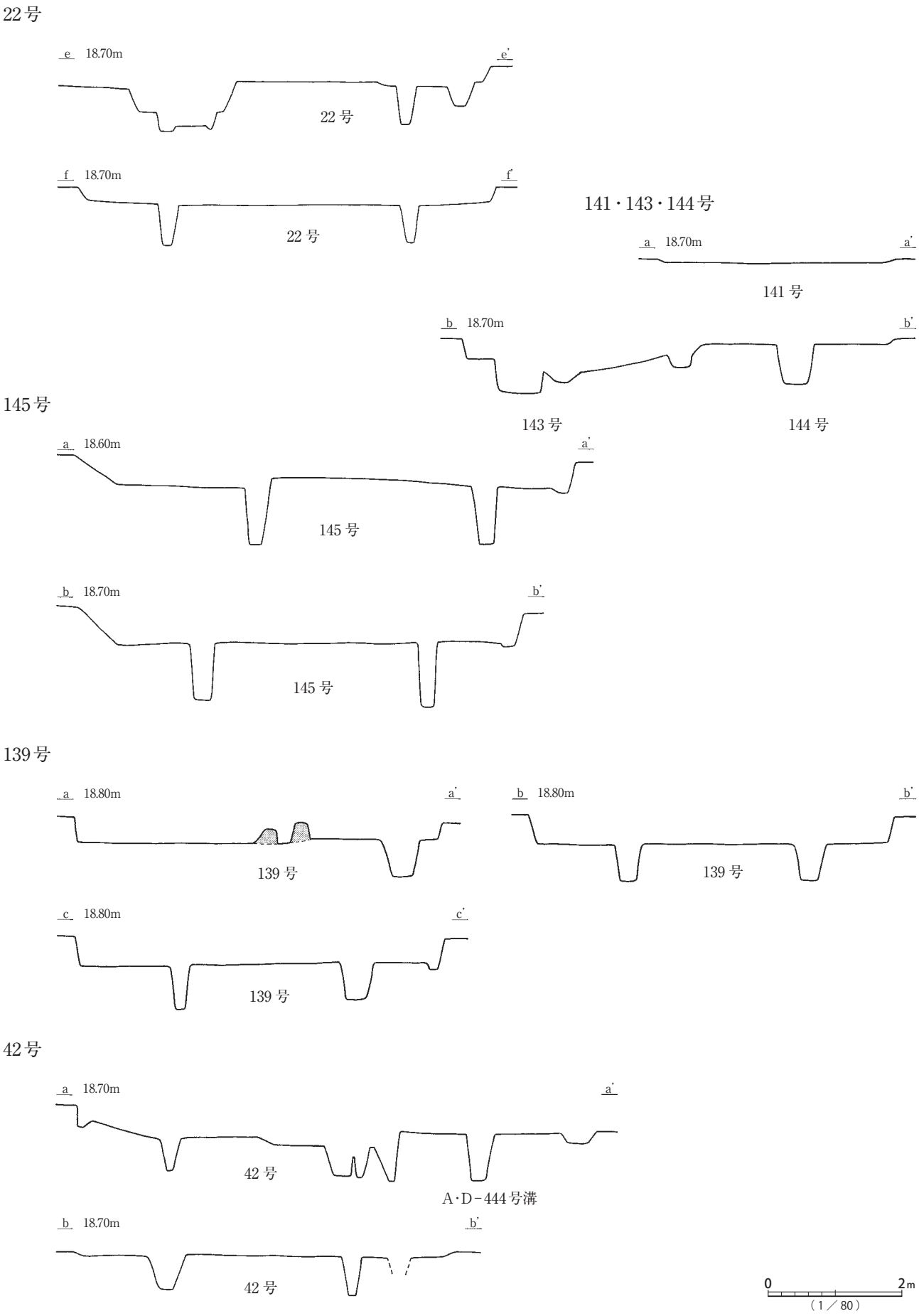
11・12・20・23・35・304・311号



22・23・44・142号



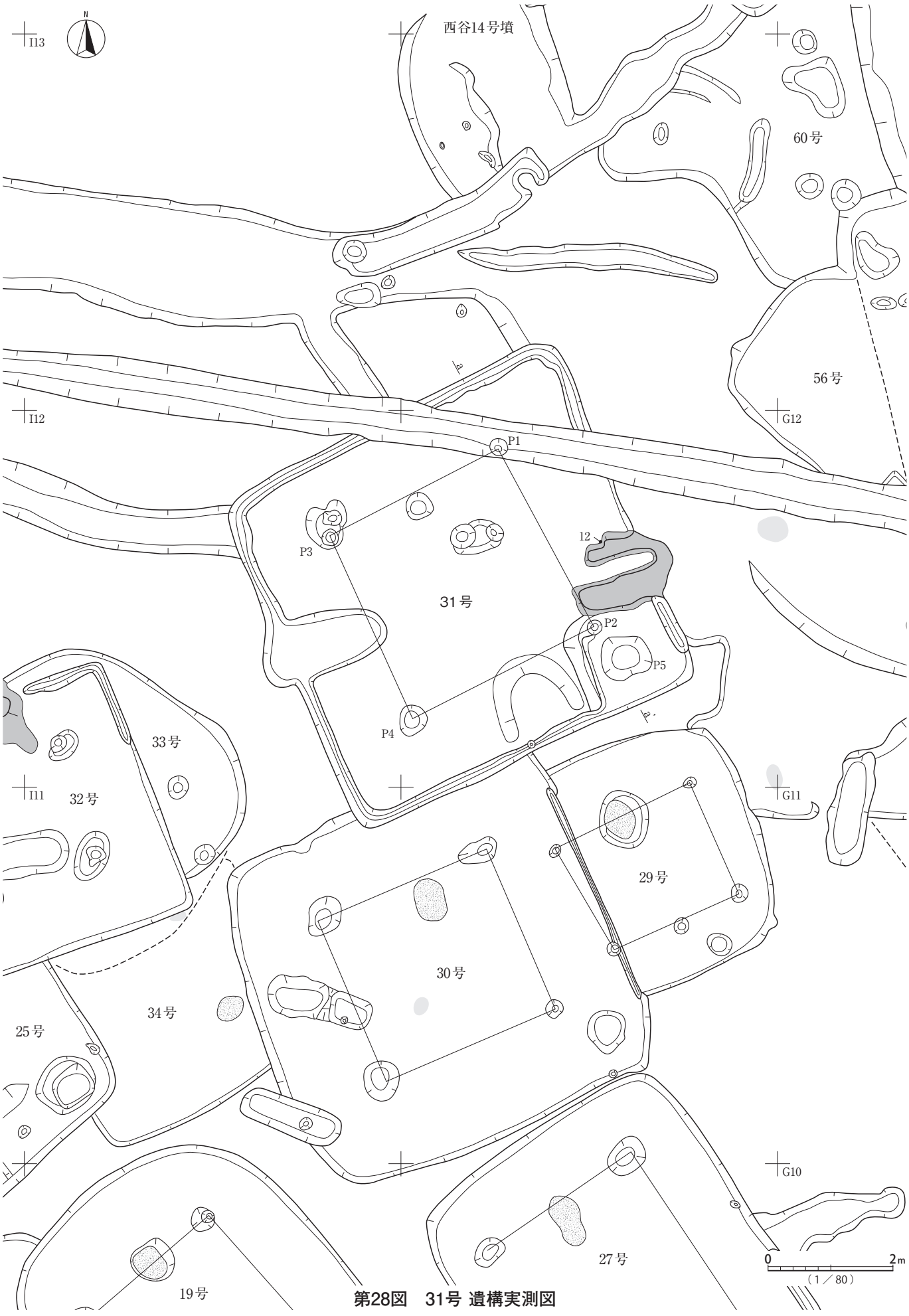
第25図　11・12・20・22・23・35・44・142・304・311号 遺構実測図



第26図　22・42・139・141・143～145号 遺構実測図

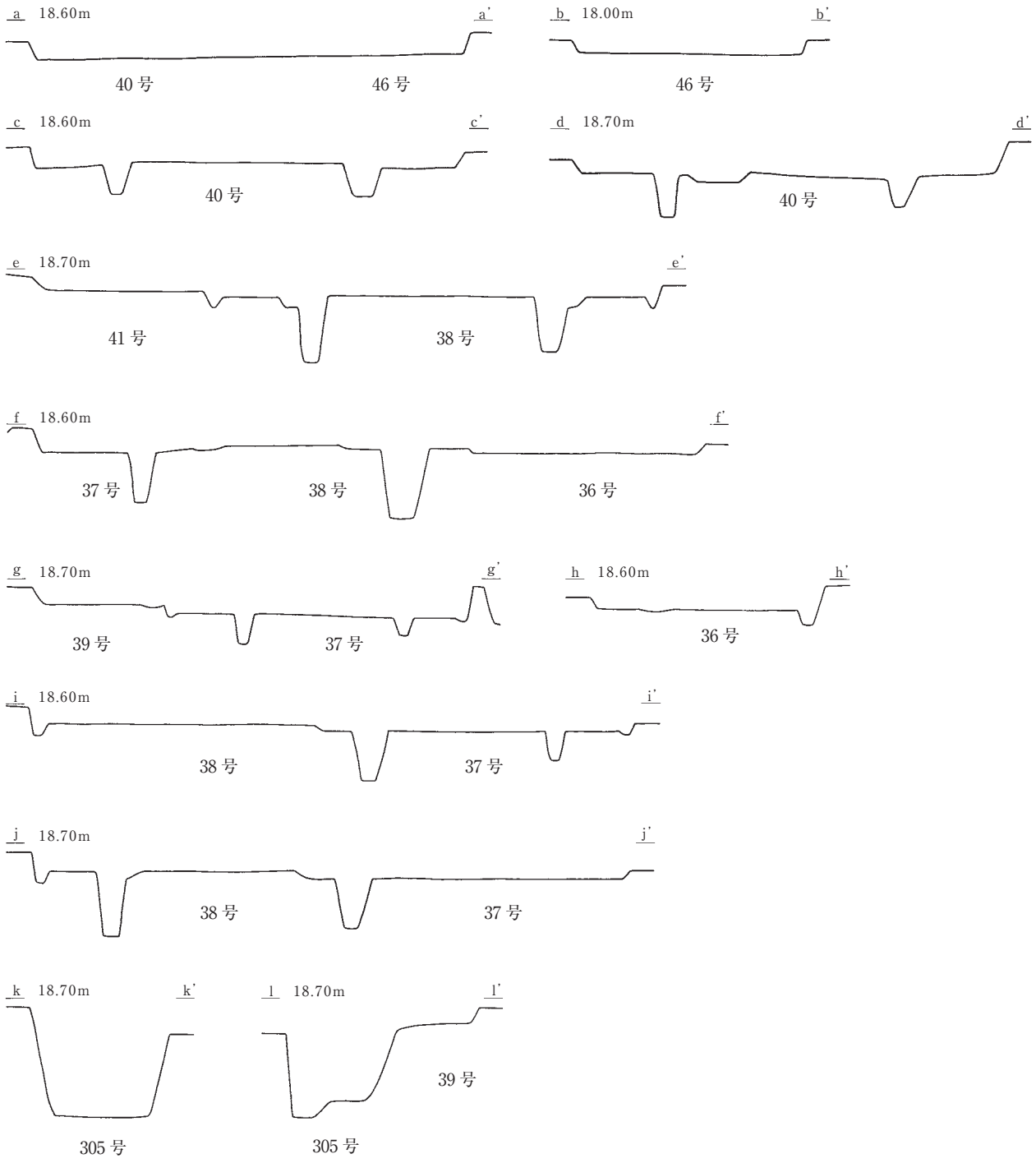


第27図　36～41・46・153・305号 遺構実測図

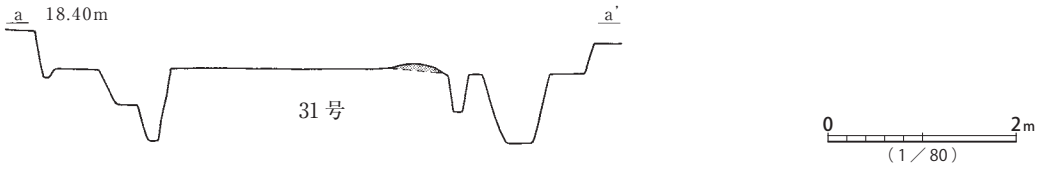


第28図　31号 遺構実測図

36～41・46・305号



31号



第29図　31・36～41・46・305号 遺構実測図



第30図　52・53・55・56・152・156号 遺構実測図

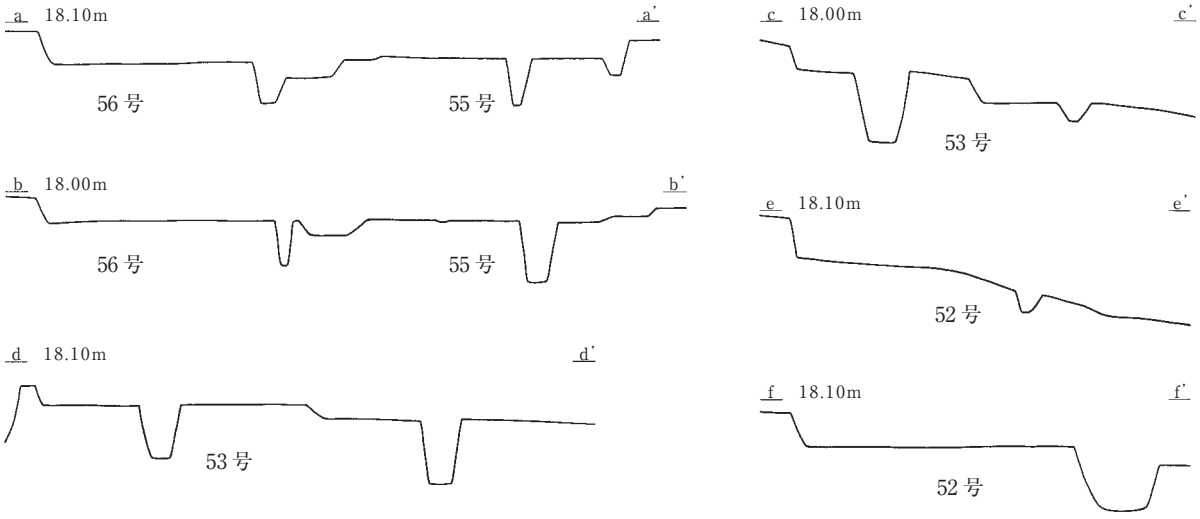


第31図　54・58号 遺構実測図

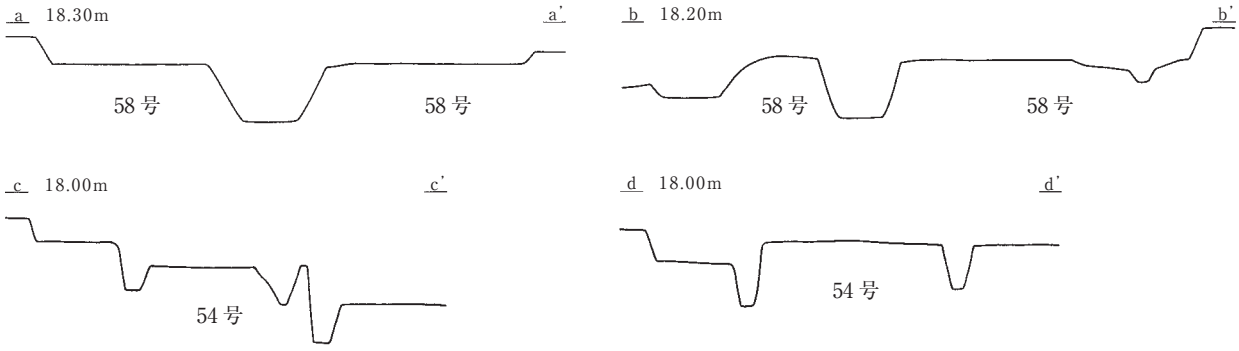


第32図　57・60～64号 遺構実測図

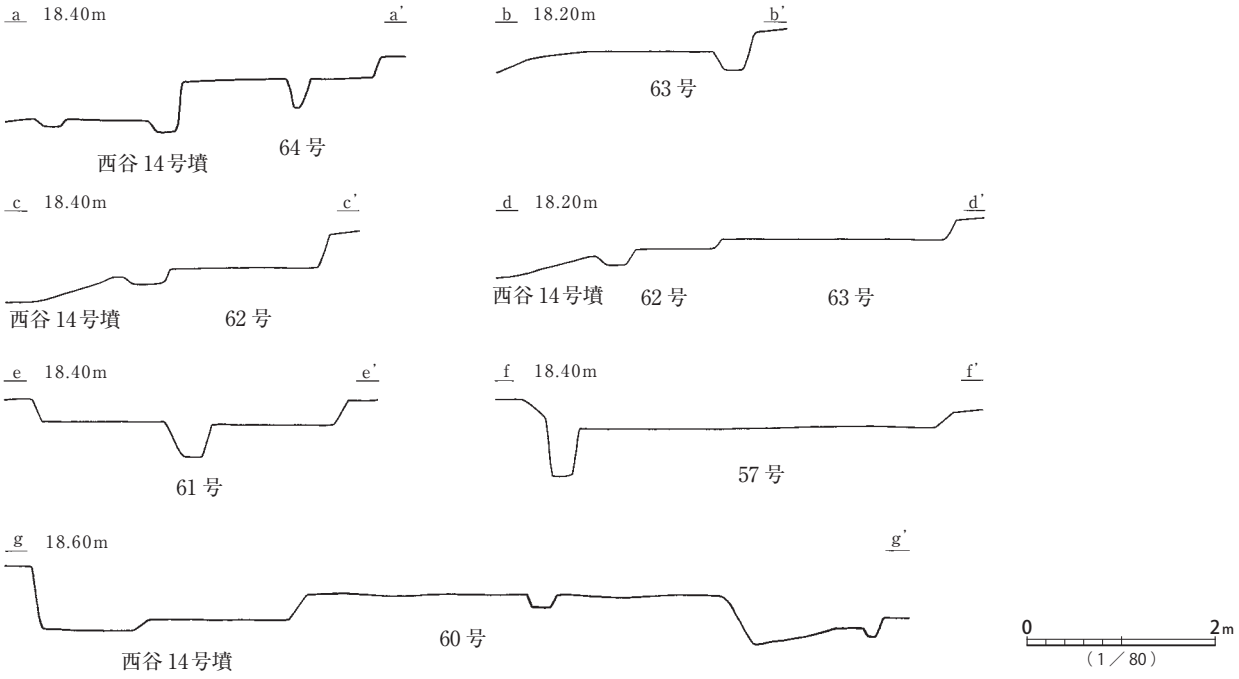
52・53・55・56号



54・58号



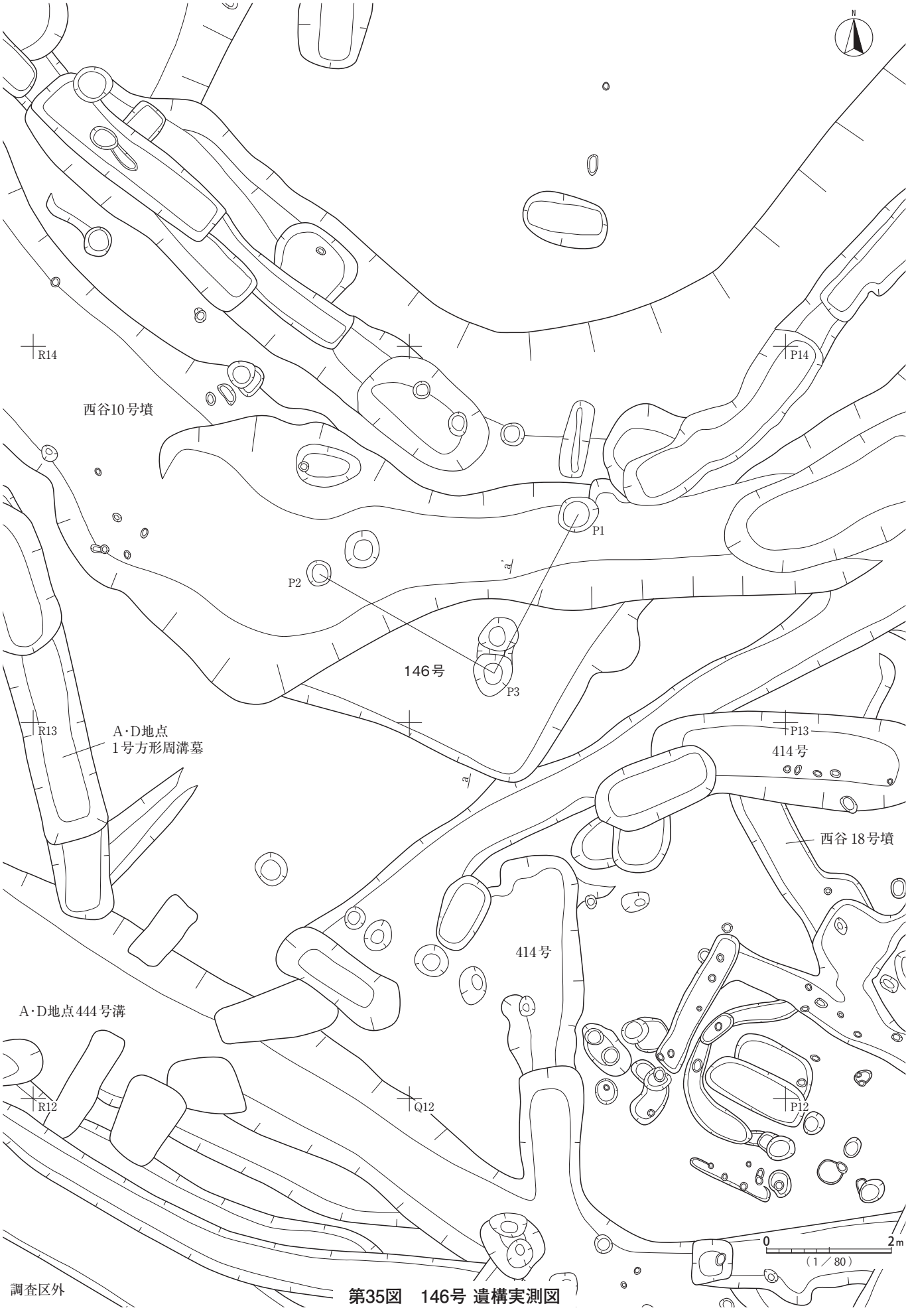
57・60～64号



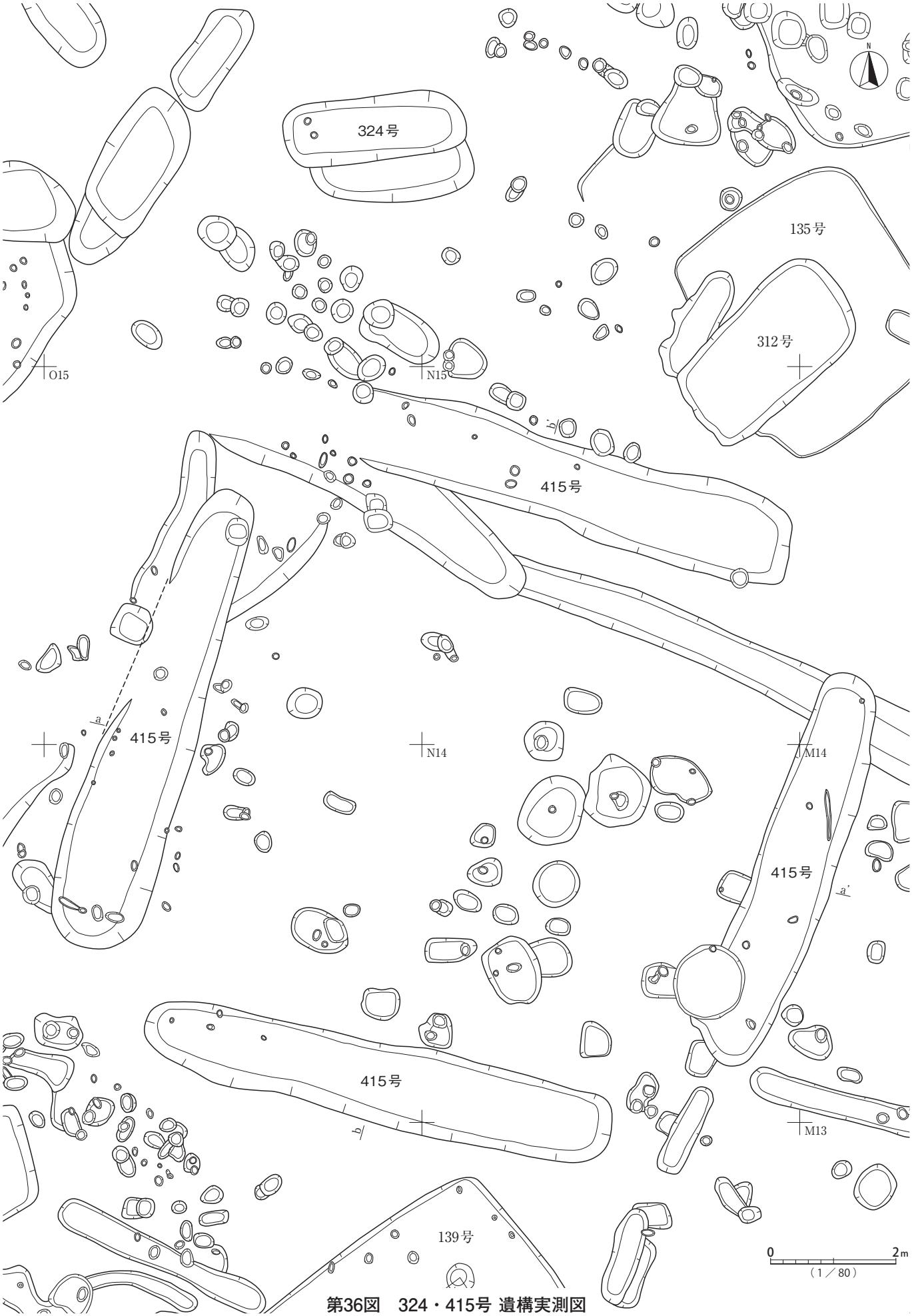
第33図　52～58・60～64号 遺構実測図



第34図　43・45・136～138号 遺構実測図



第35図　146号 遺構実測図

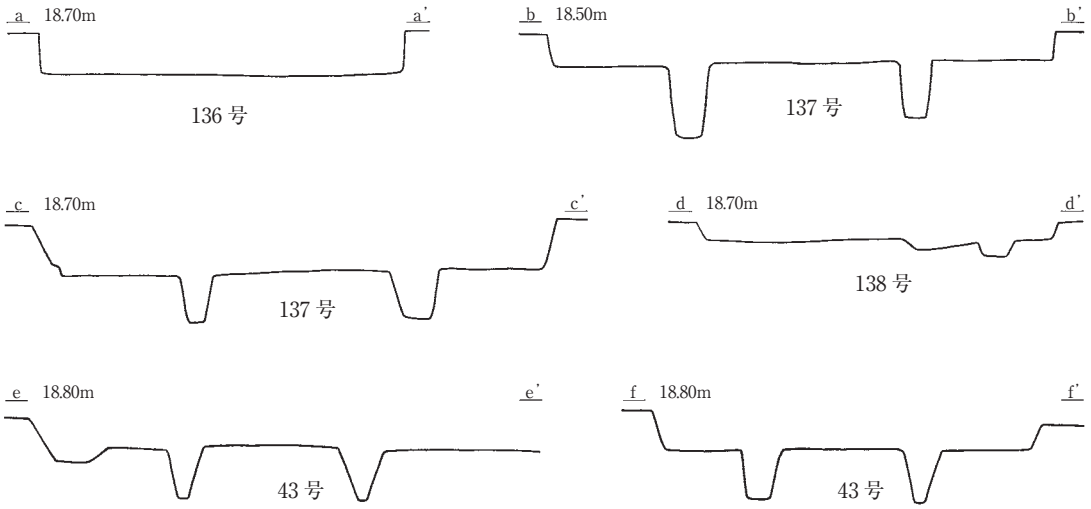


第36図　324・415号 遺構実測図

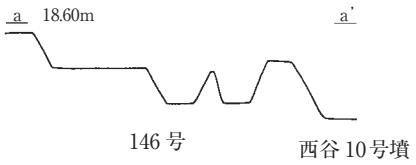


第37図　130・134・151号 遺構実測図

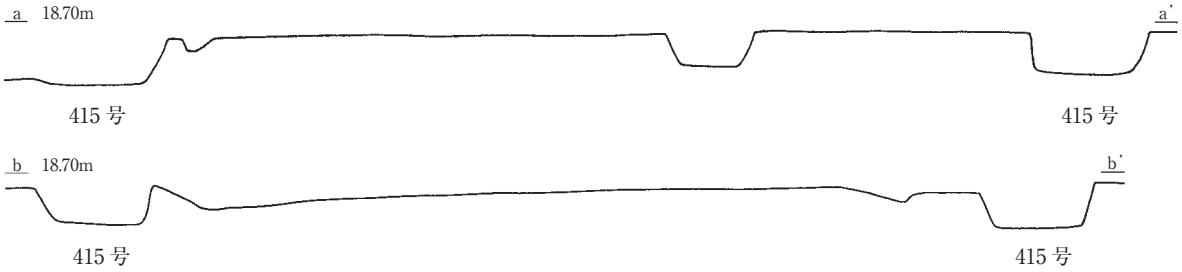
43・136～138号



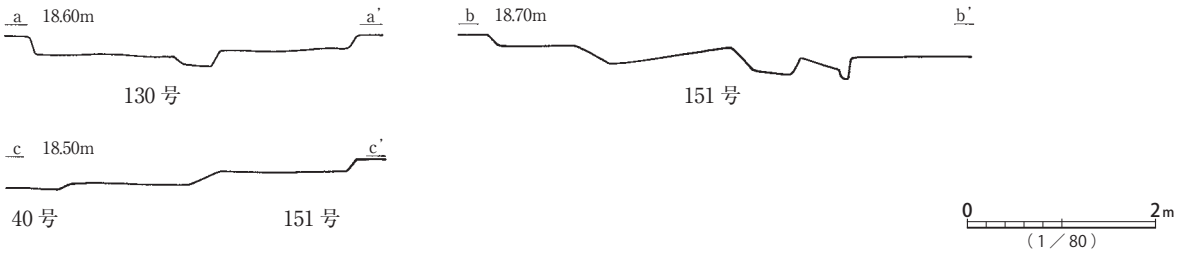
146号



415号



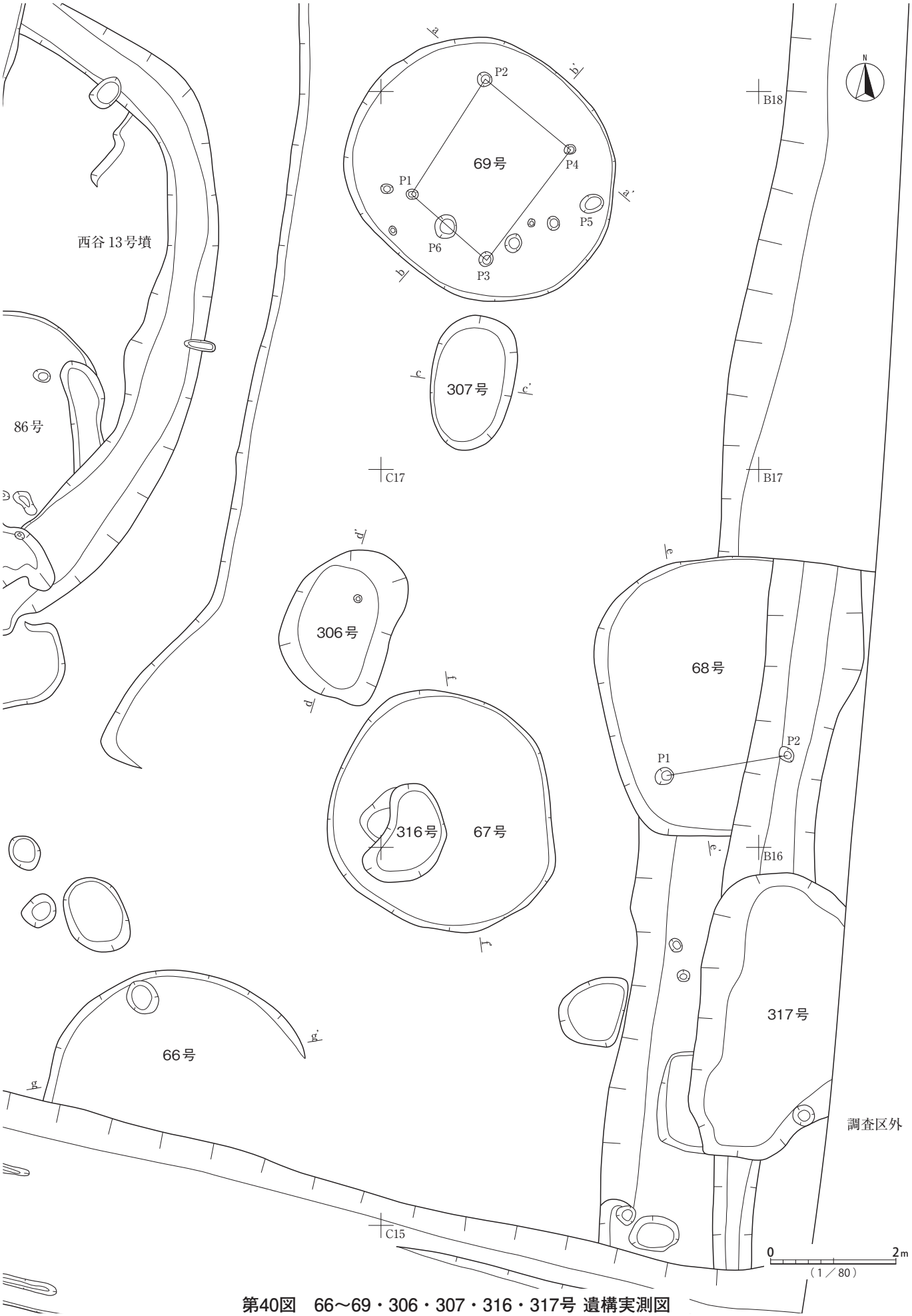
130・151号



第38図　43・130・136～138・146・151・415号 遺構実測図



第39図　131・132号 遺構実測図

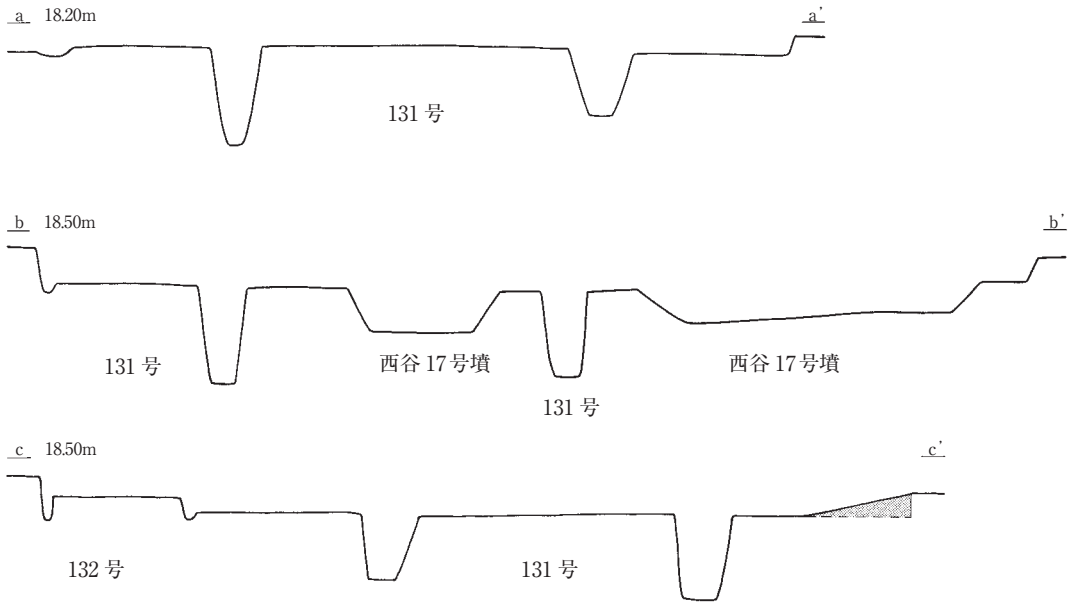


第40図　66～69・306・307・316・317号 遺構実測図

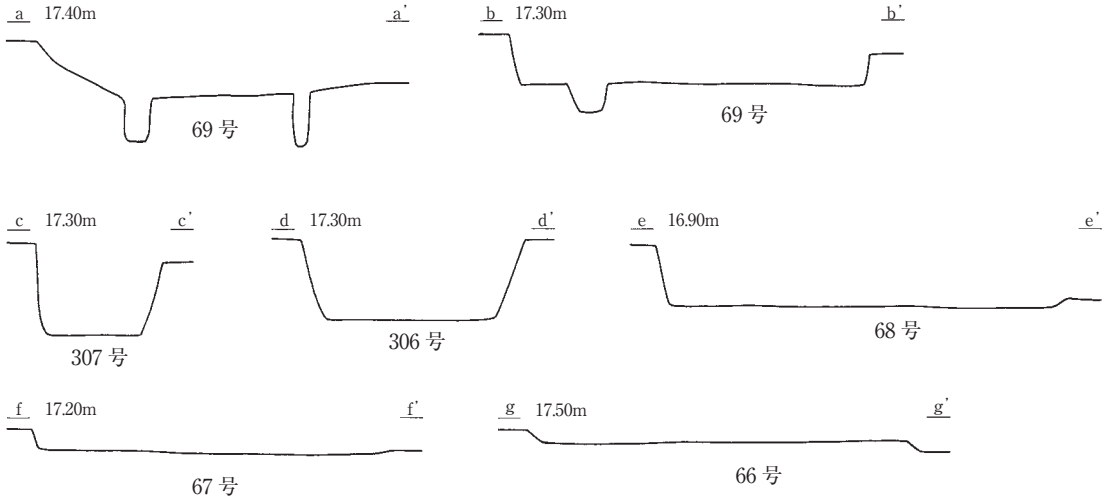


第41図　82・83・86・87号 遺構実測図

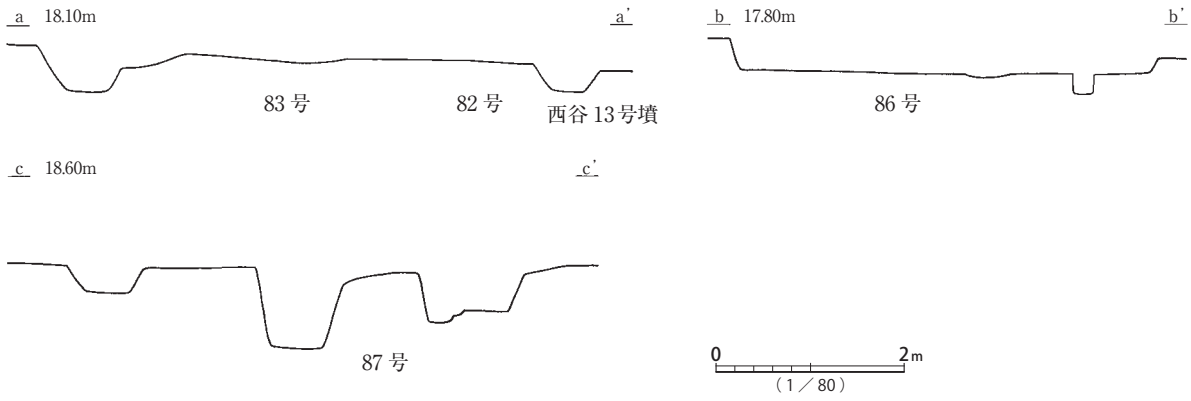
131・132号



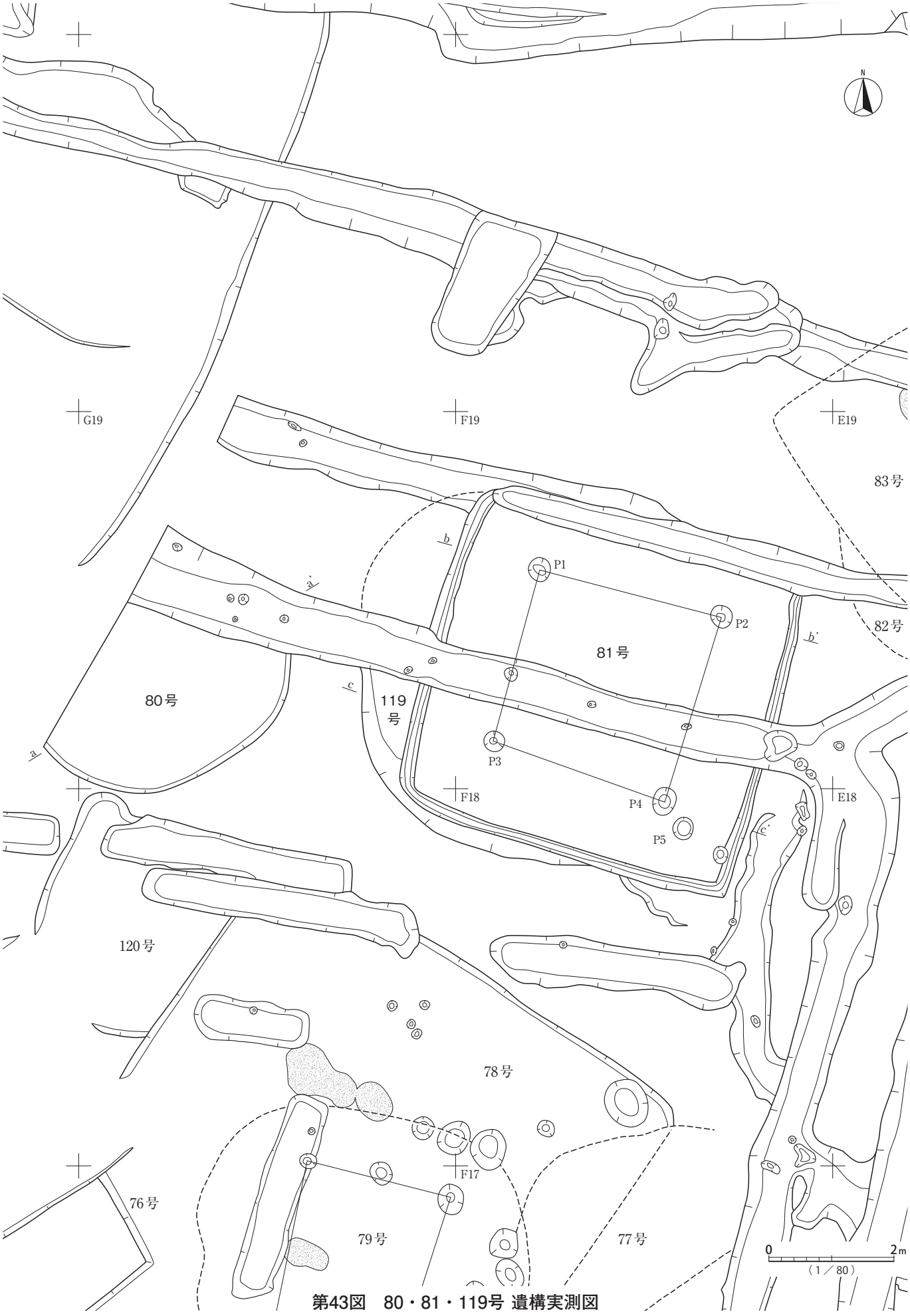
66 ～ 69・306・307号



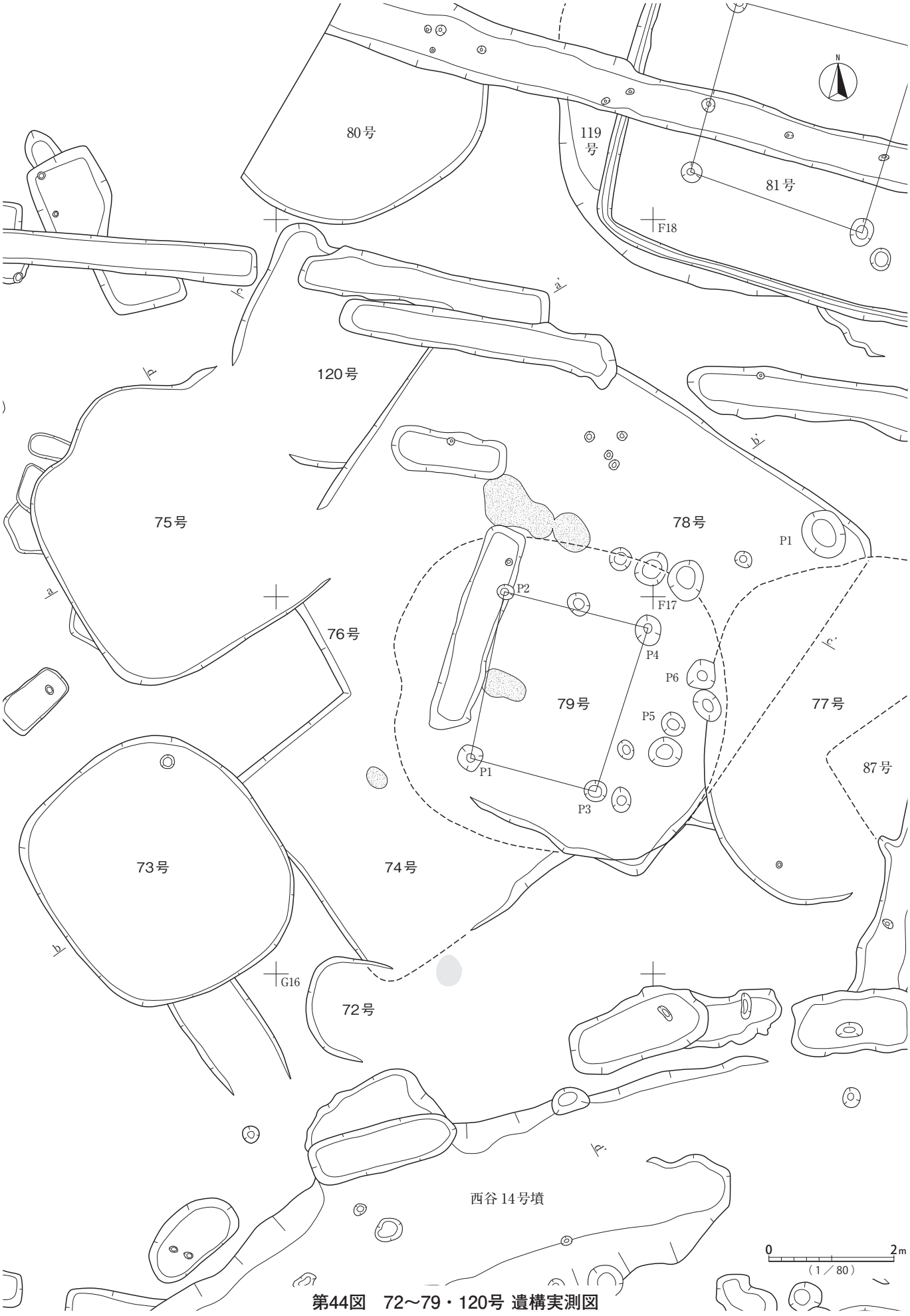
82・83・86・87号



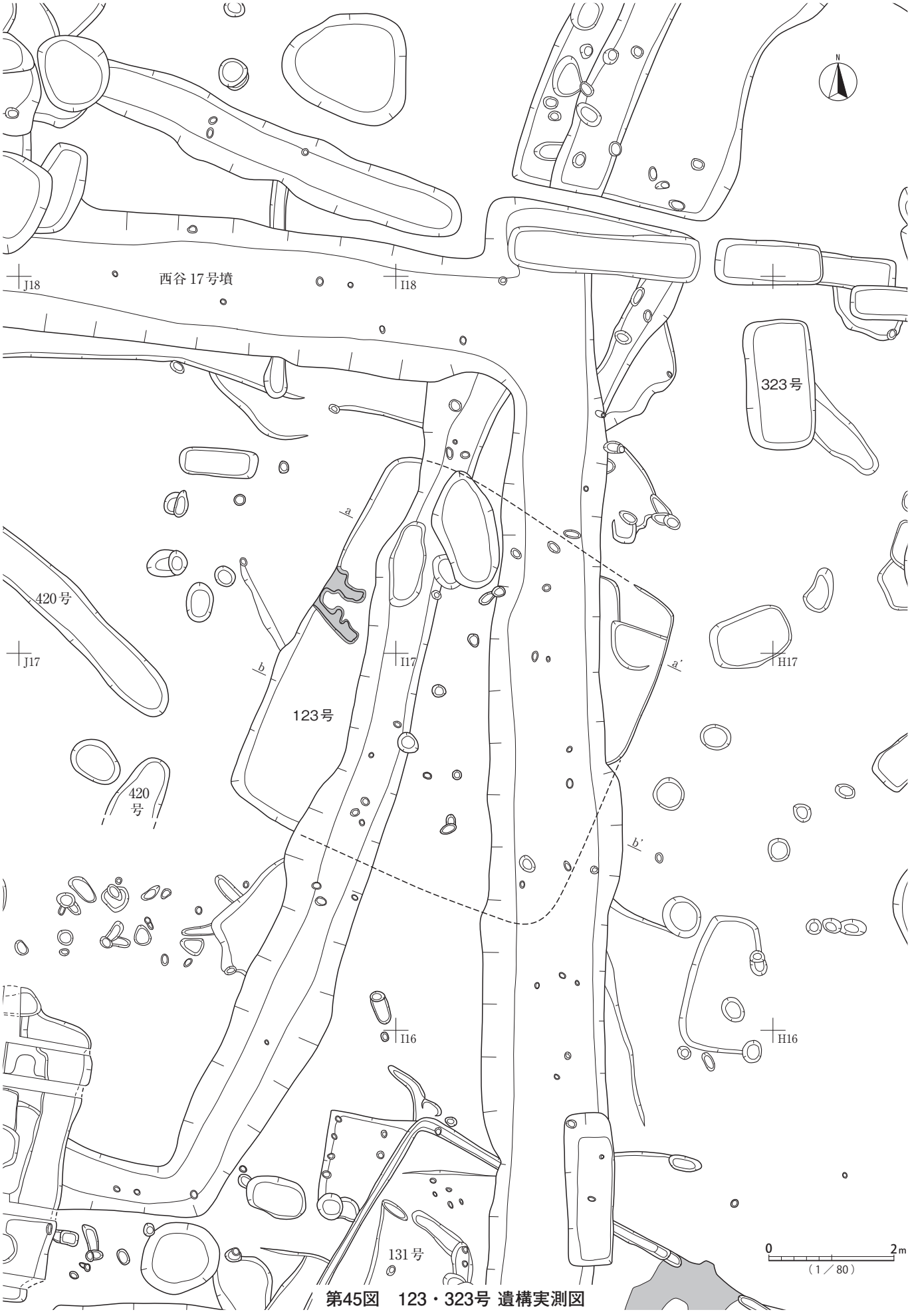
第42図　66～69・82・83・86・87・131・132・306・307号 遺構実測図



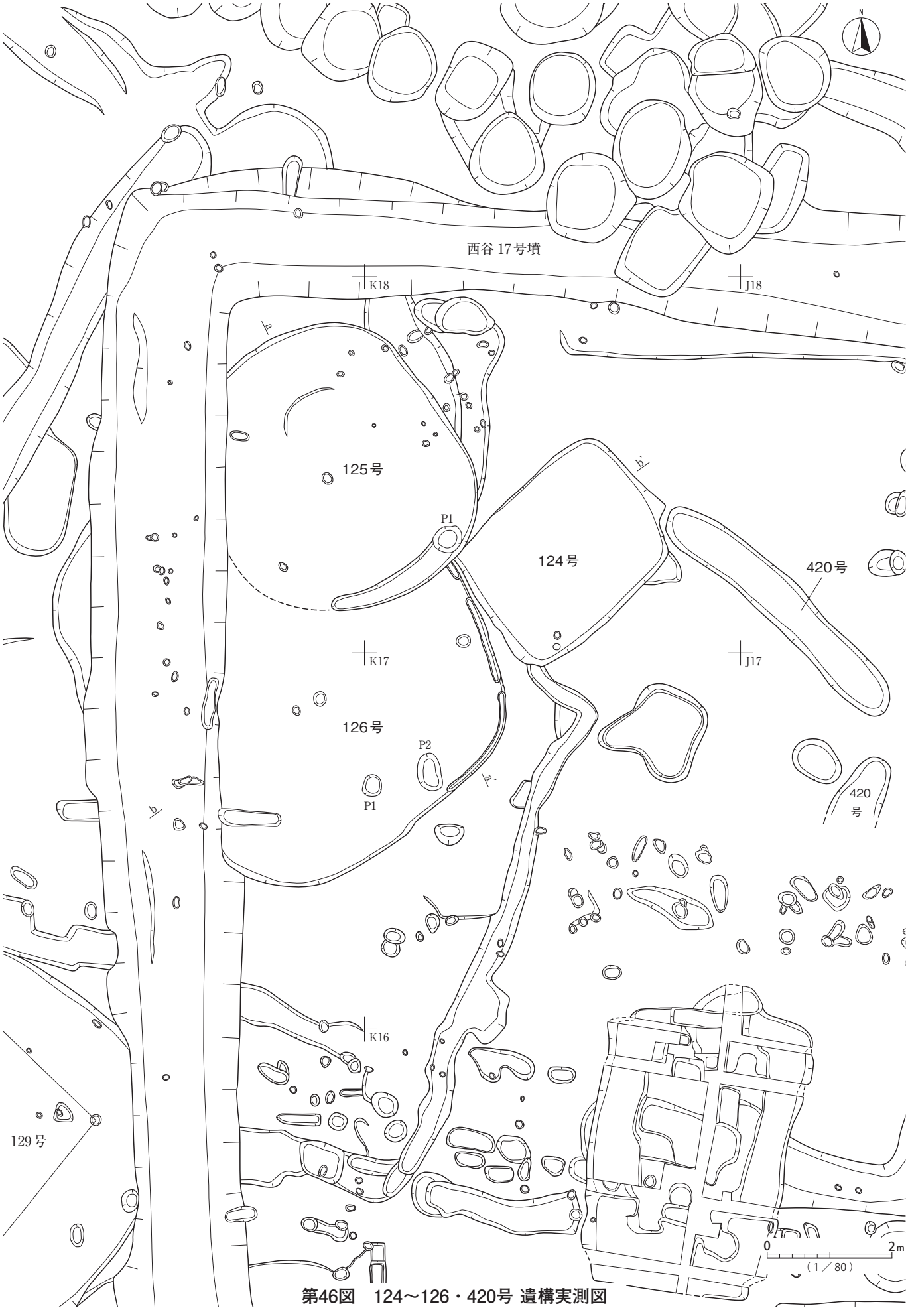
第43図　80・81・119号 遺構実測図



第44図　72～79・120号 遺構実測図

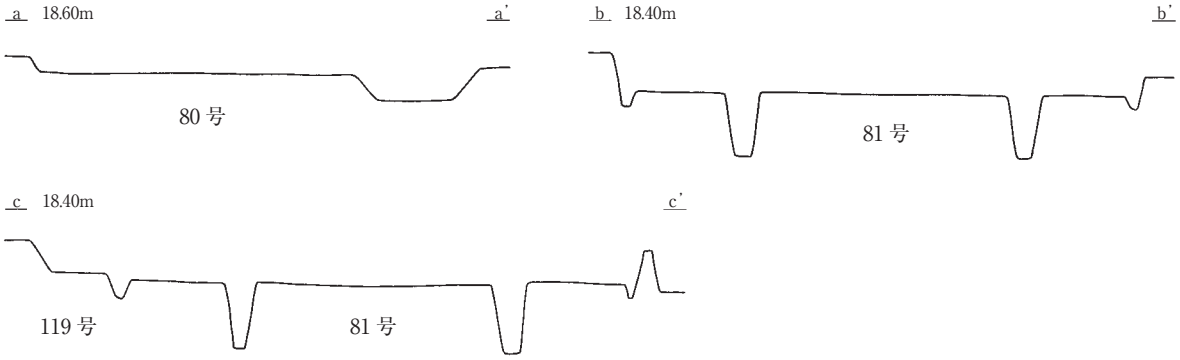


第45図　123・323号 遺構実測図

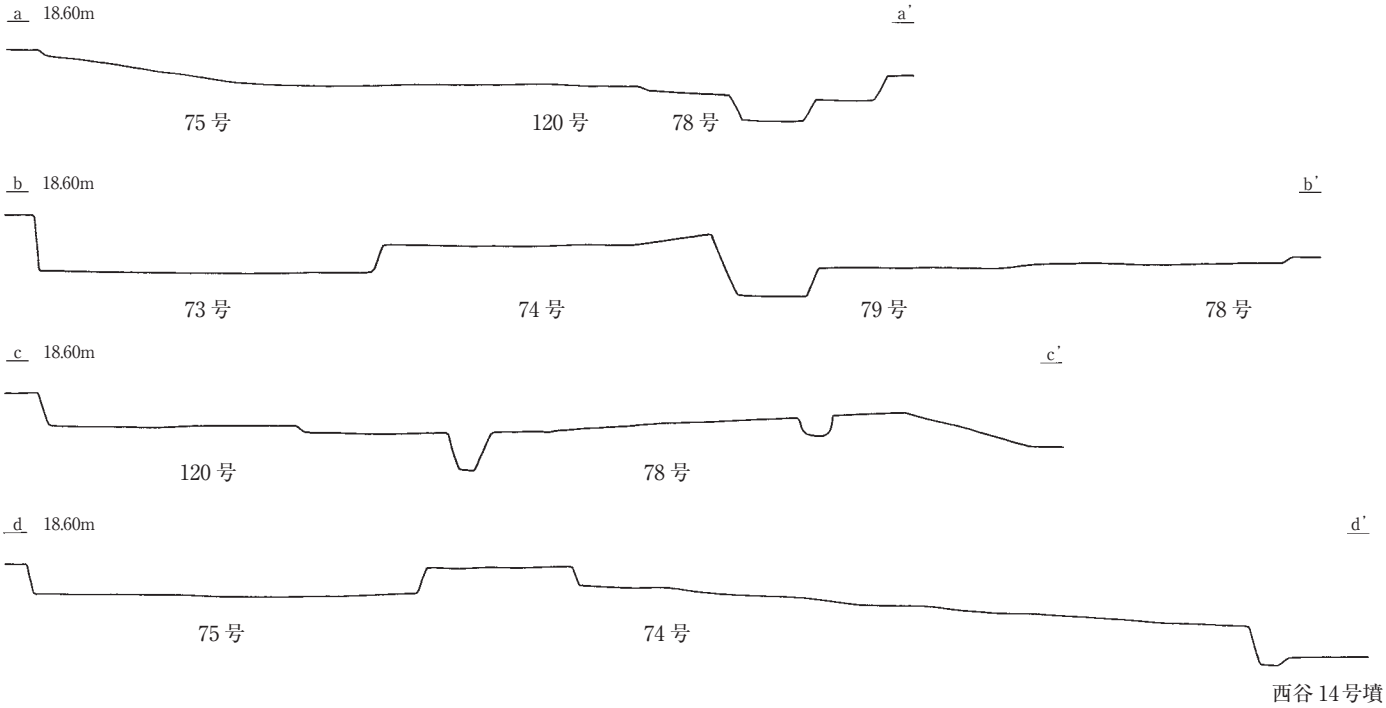


第46図　124～126・420号 遺構実測図

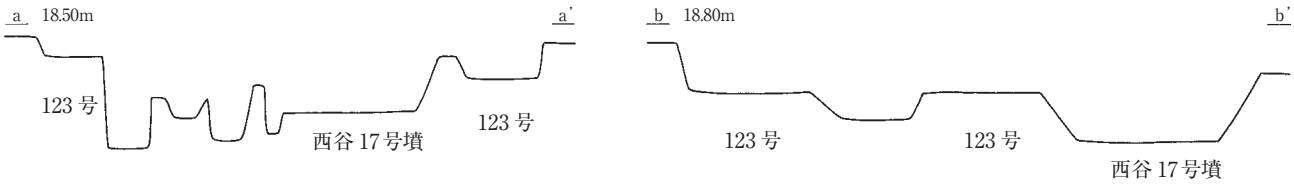
80・81・119号



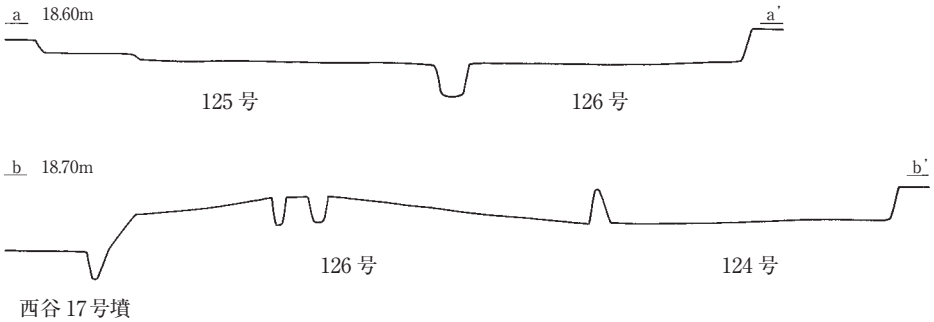
73～75・78・79・120号



123号



124～126号

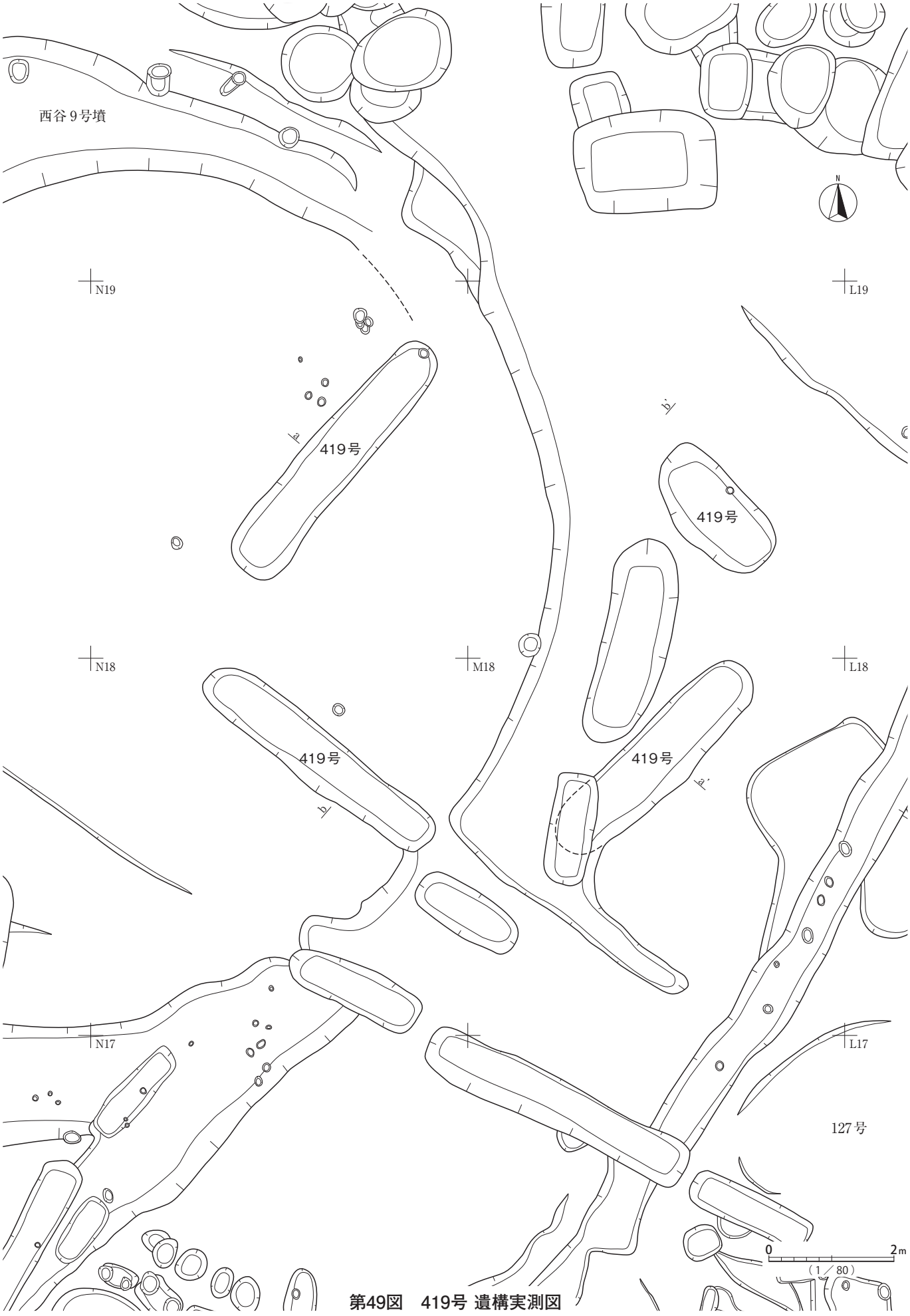


0 2m
（1／80）

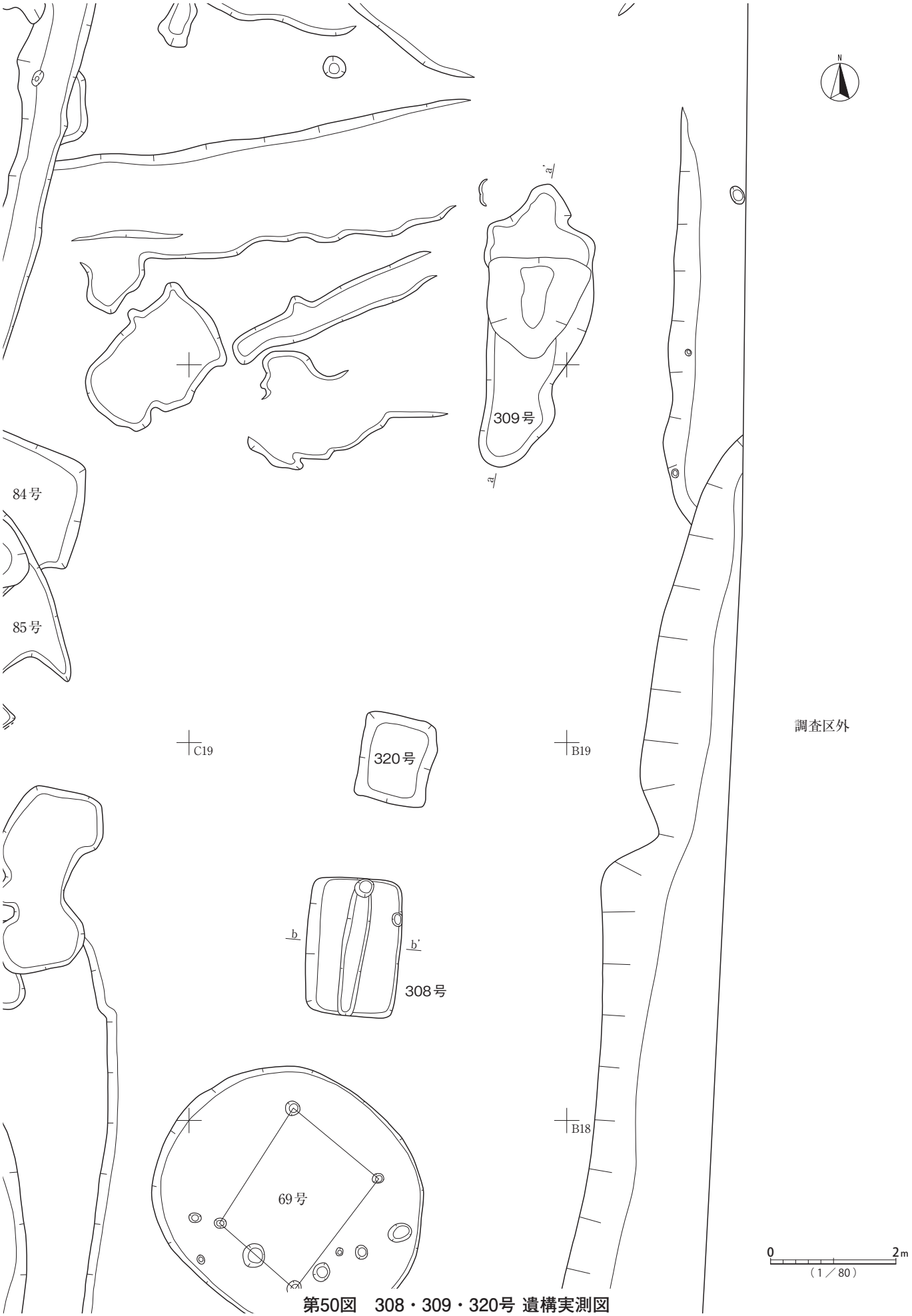
第47図　73～75・78～81・119・120・123～126号 遺構実測図



第48図　127～129・135・312号 遺構実測図

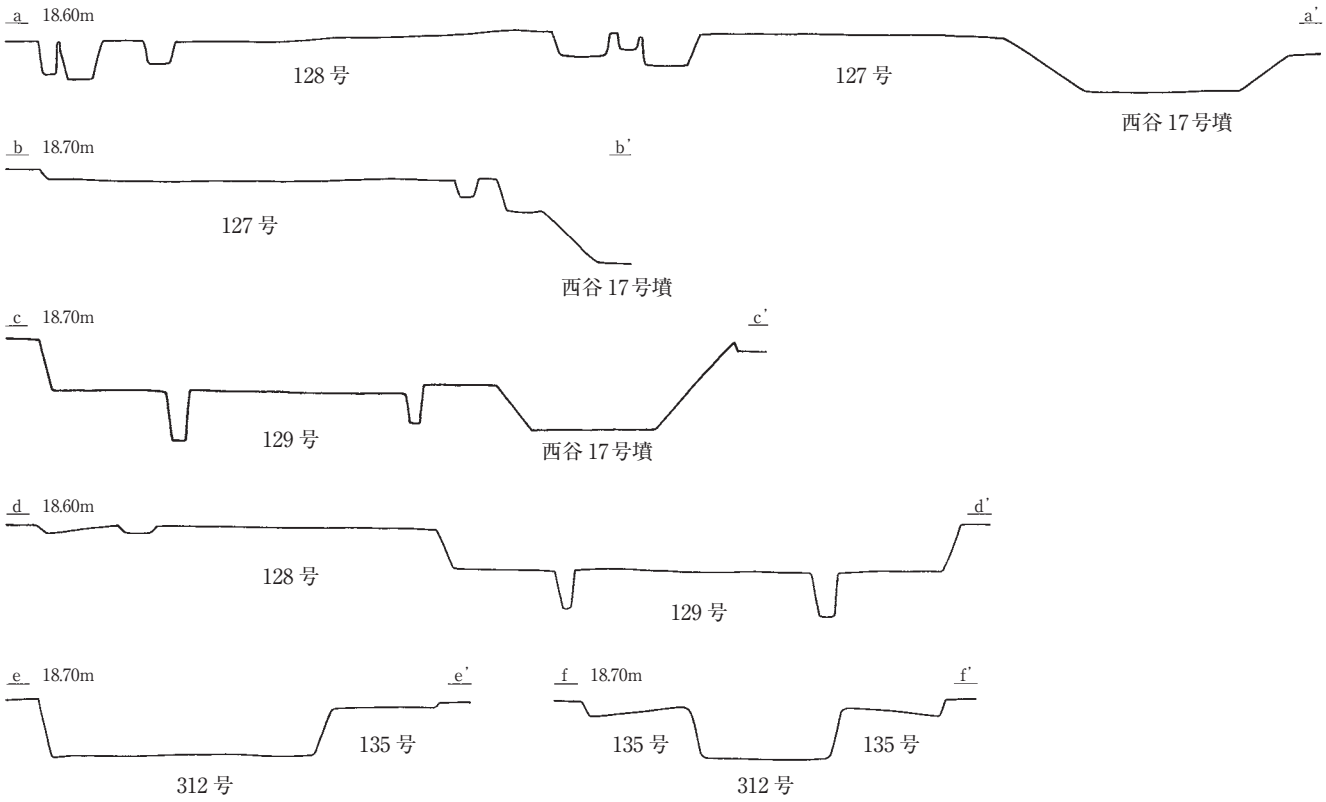


第49図　419号 遺構実測図

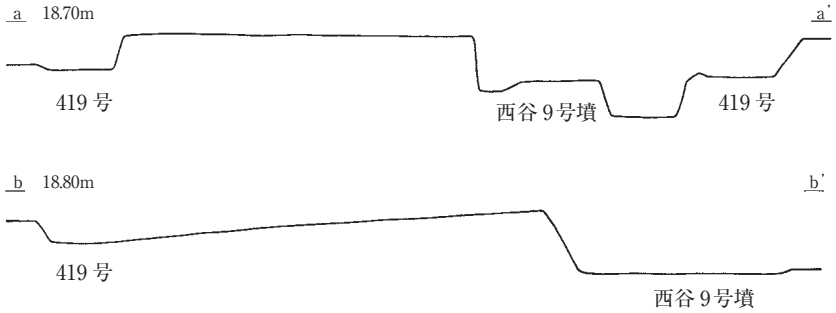


第50図　308・309・320号 遺構実測図

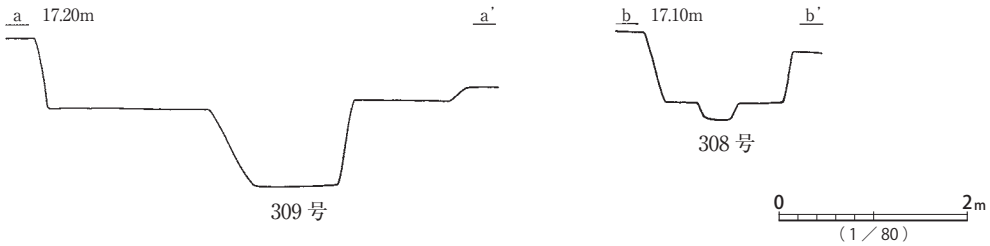
127～129・135・312号



419号



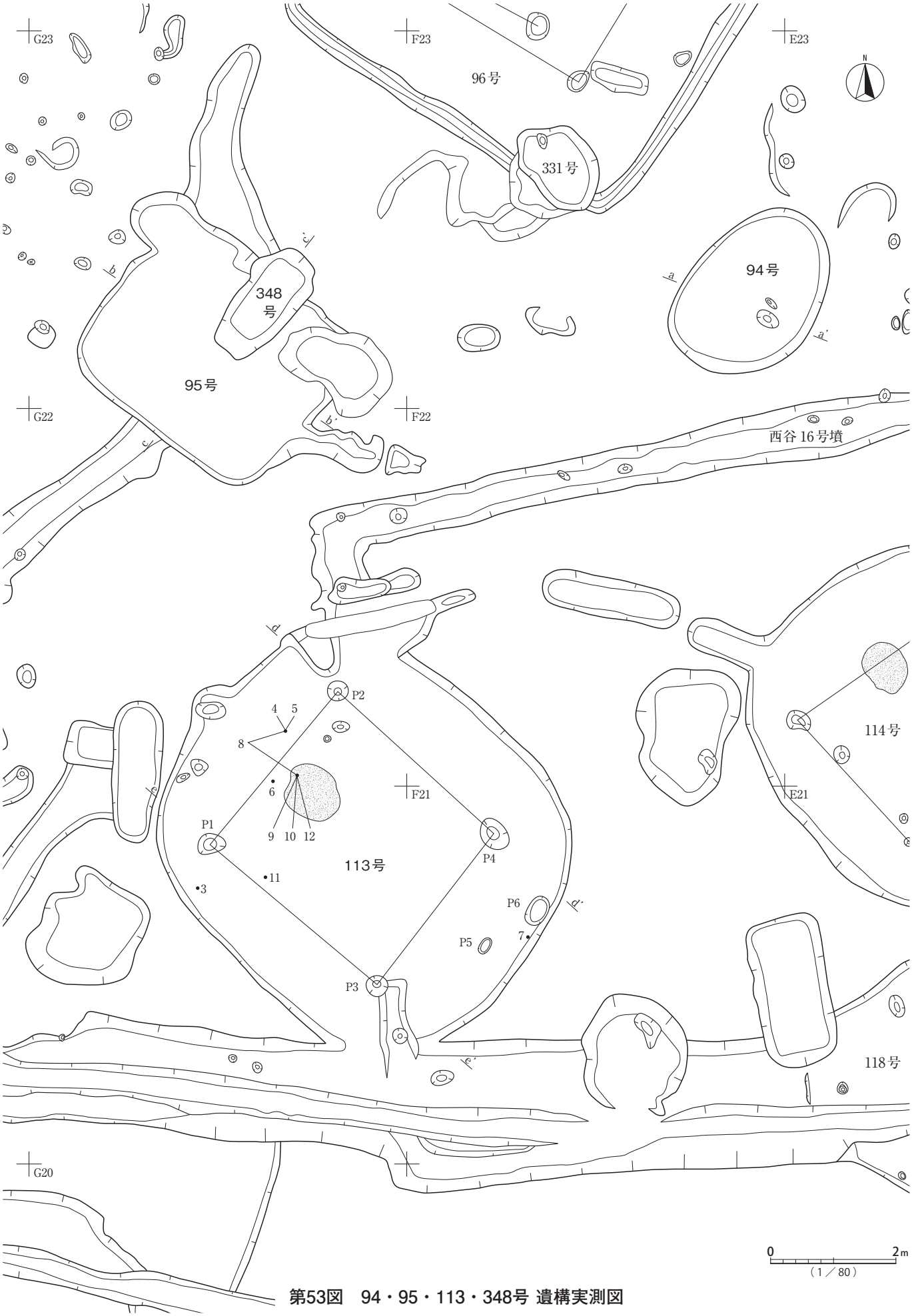
308・309号



第51図　127～129・135・308・309・312・419号 遺構実測図



第52図　84・85・114・116～118・318・319・472号 遺構実測図

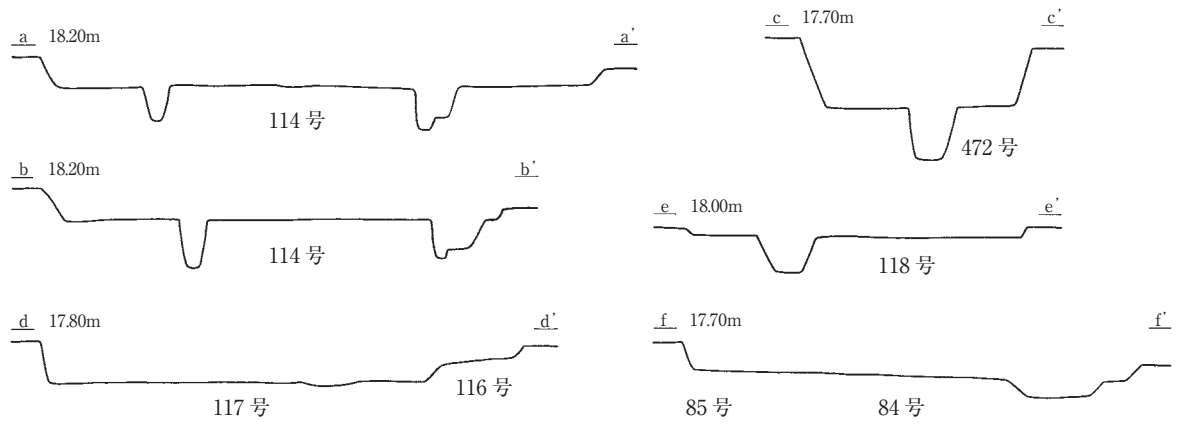


第53図　94・95・113・348号 遺構実測図

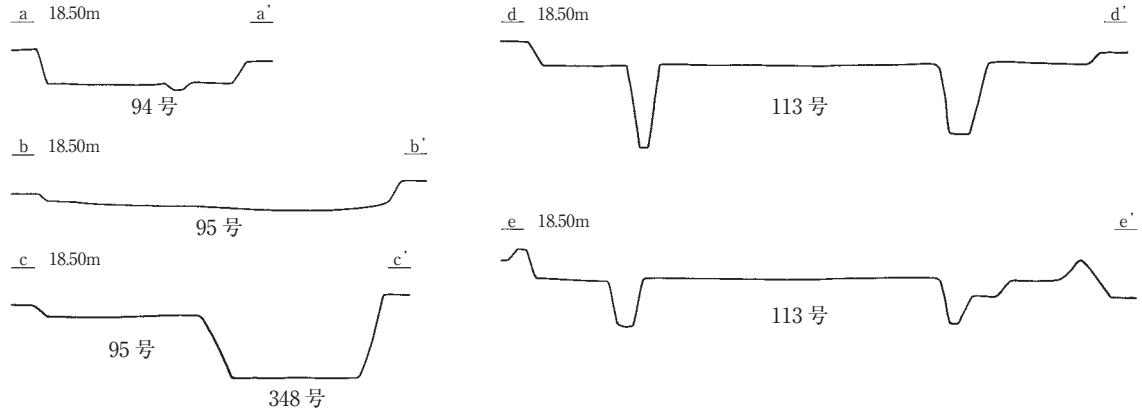


第54図　96・97・106・107・326・331号 遺構実測図

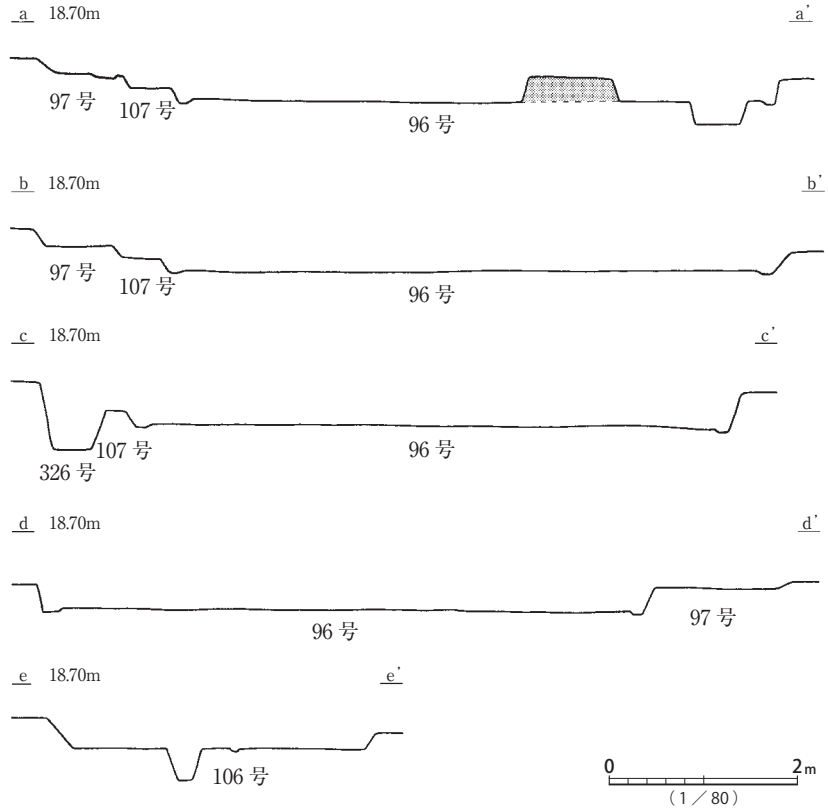
84・85・114・116～118・472号



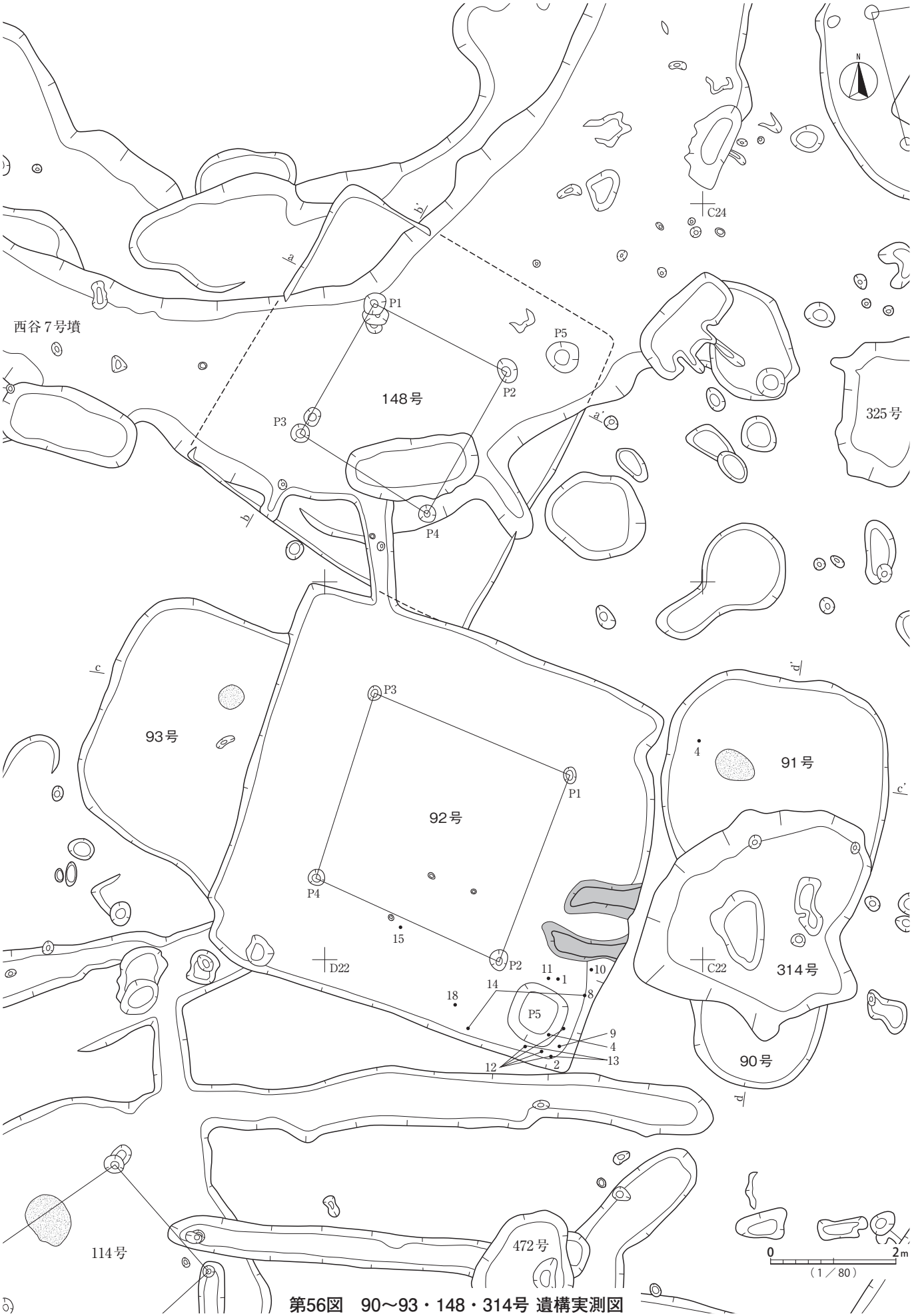
94・95・113・348号



96・97・106・107・326号



第55図　84・85・94～97・106・107・113・114・116～118・326・348・472号 遺構実測図



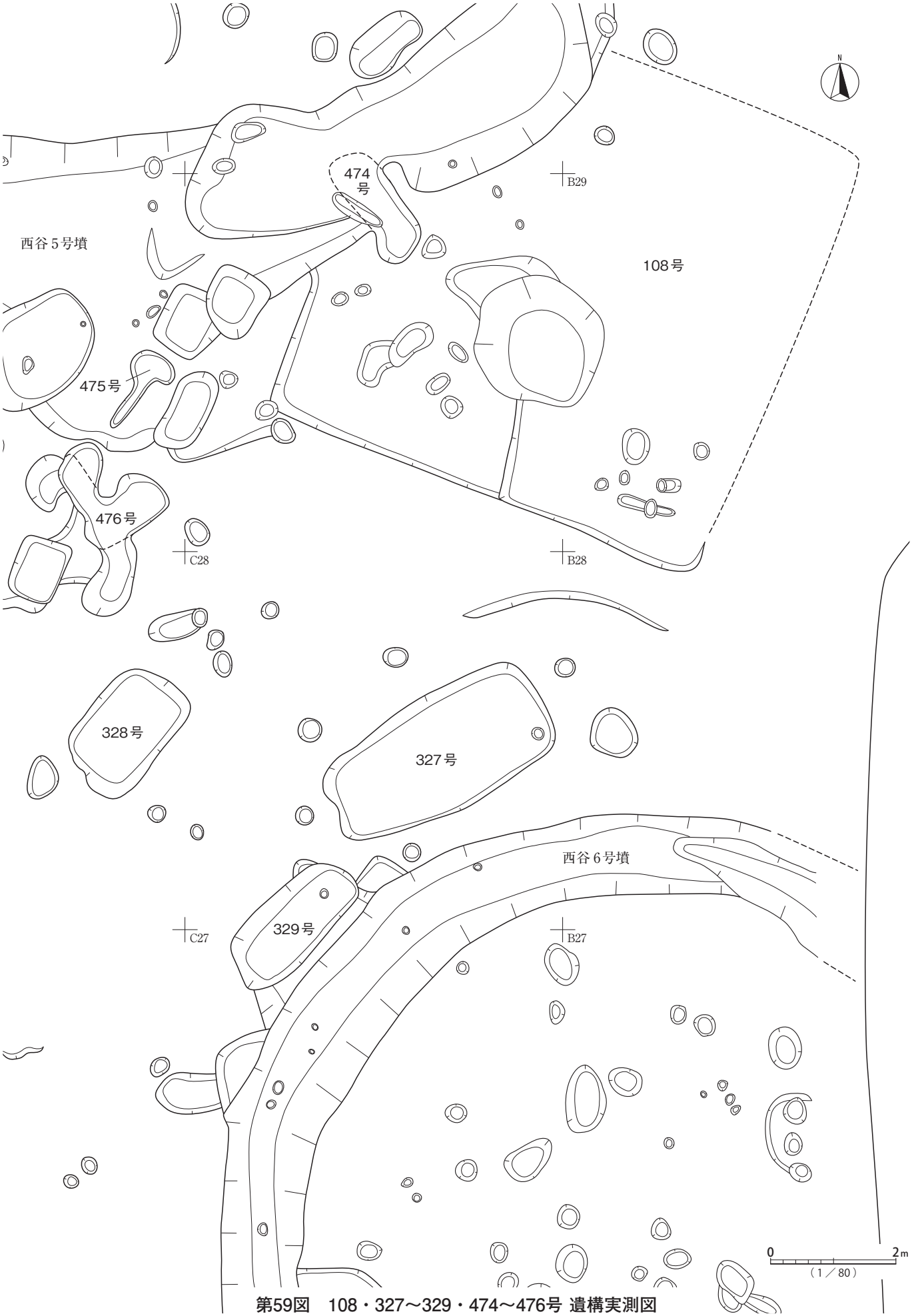
第56図　90～93・148・314号 遺構実測図



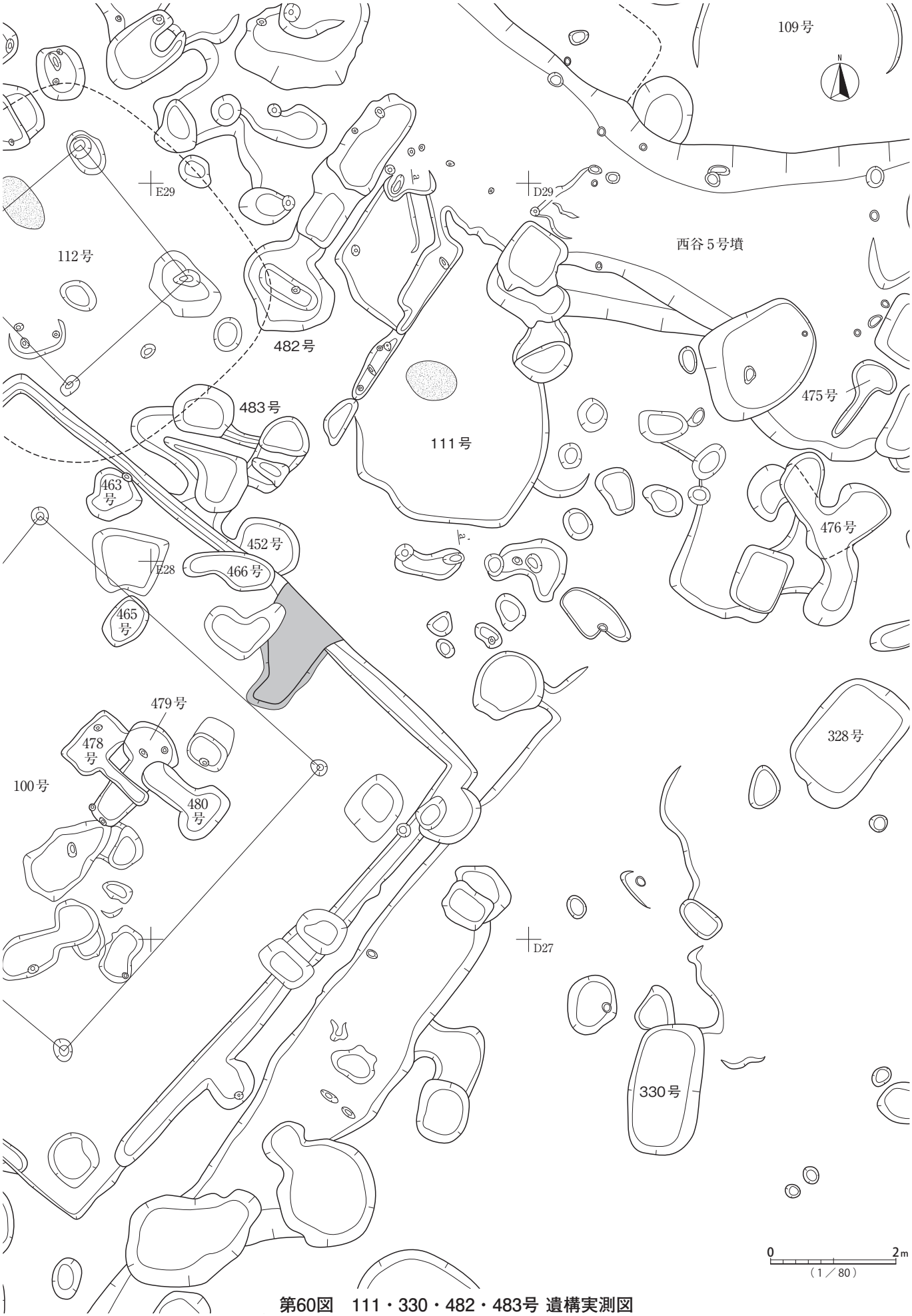
第57図　71・88・89・313・325号 遺構実測図



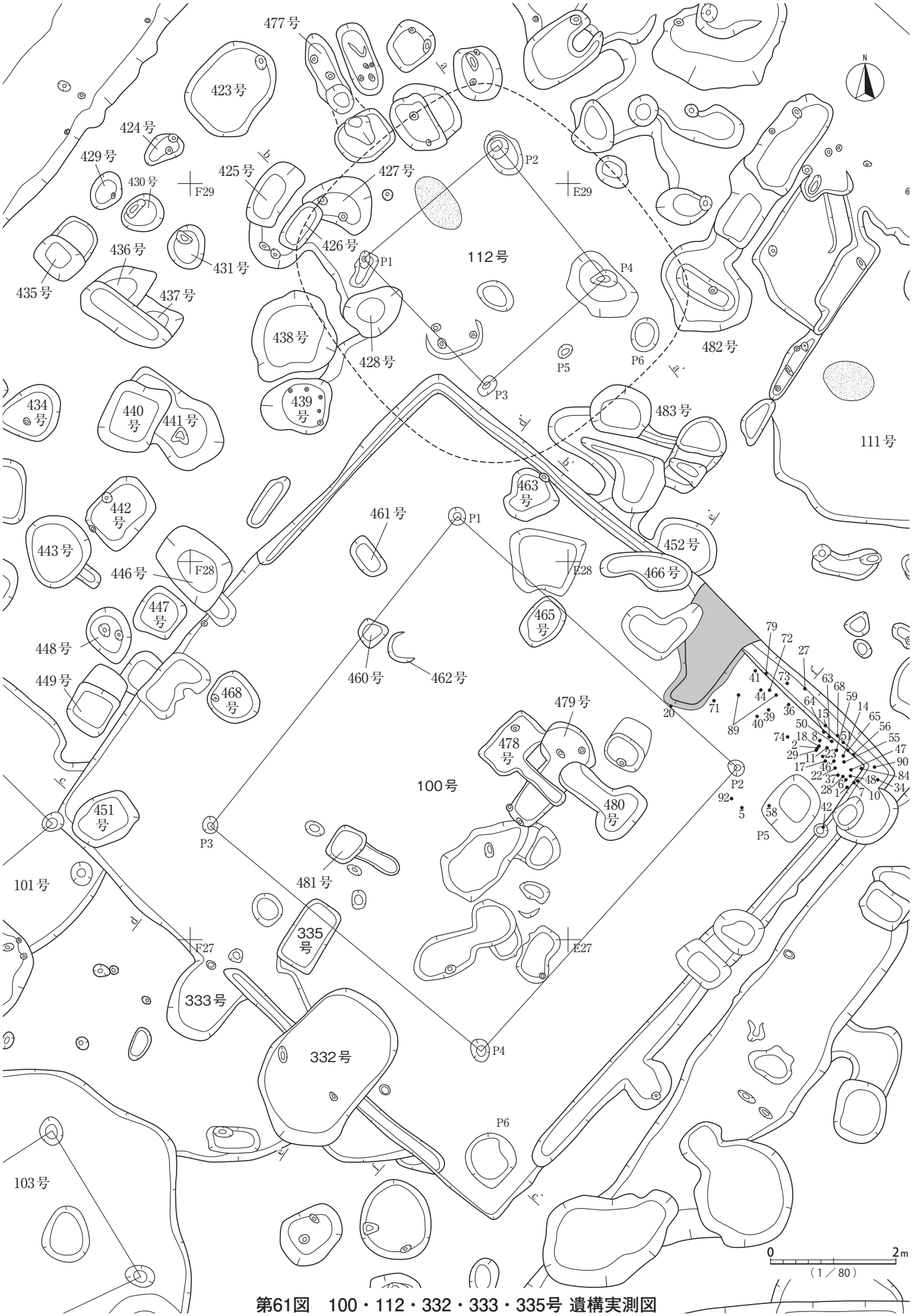
第58図　98・99号 遺構実測図



第59図　108・327～329・474～476号 遺構実測図

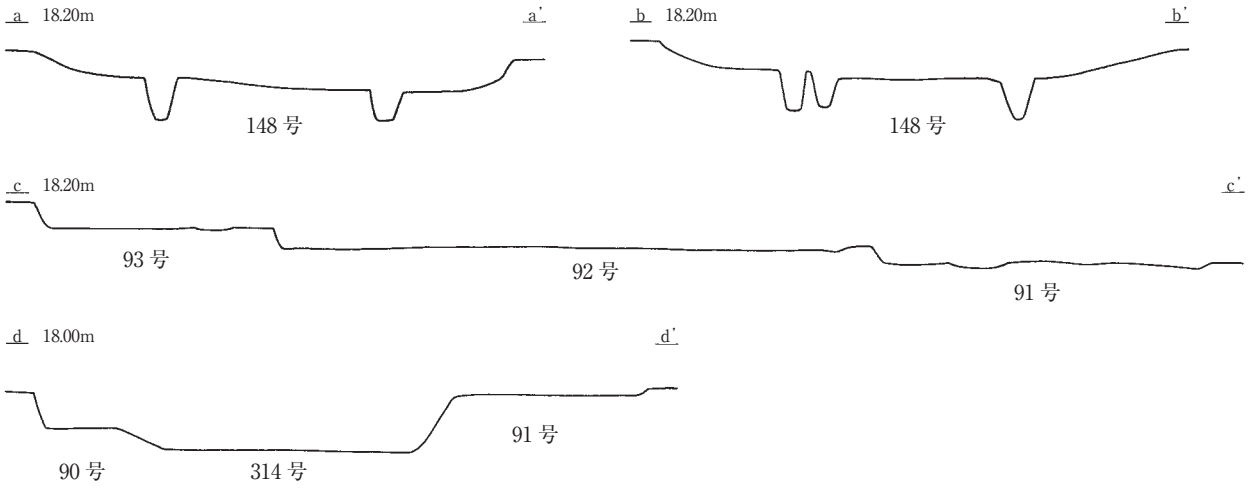


第60図　111・330・482・483号 遺構実測図

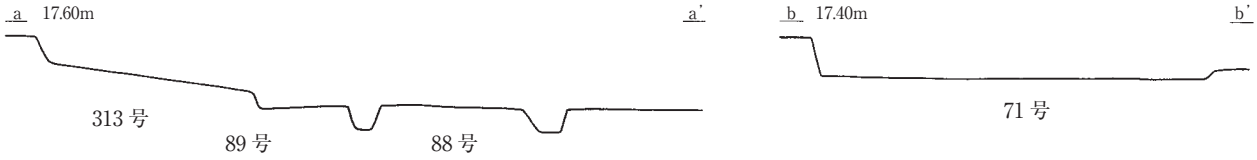


第61図　100・112・332・333・335号 遺構実測図

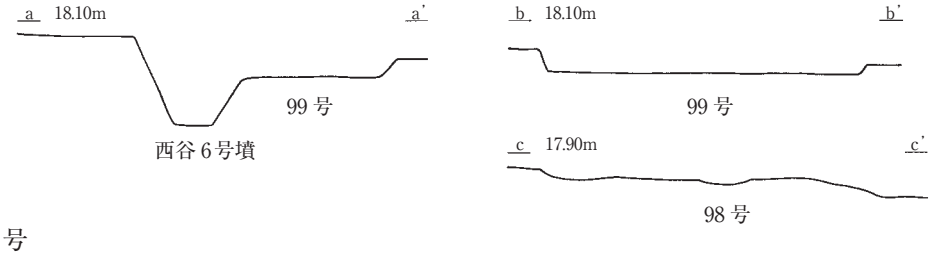
90～93・148・314号



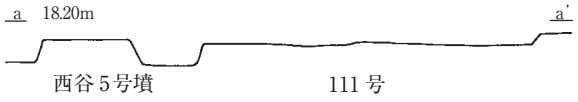
71・88・89・313号



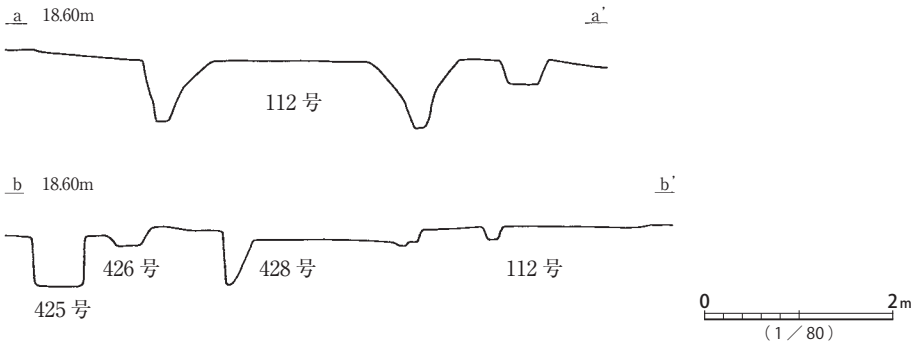
98・99号



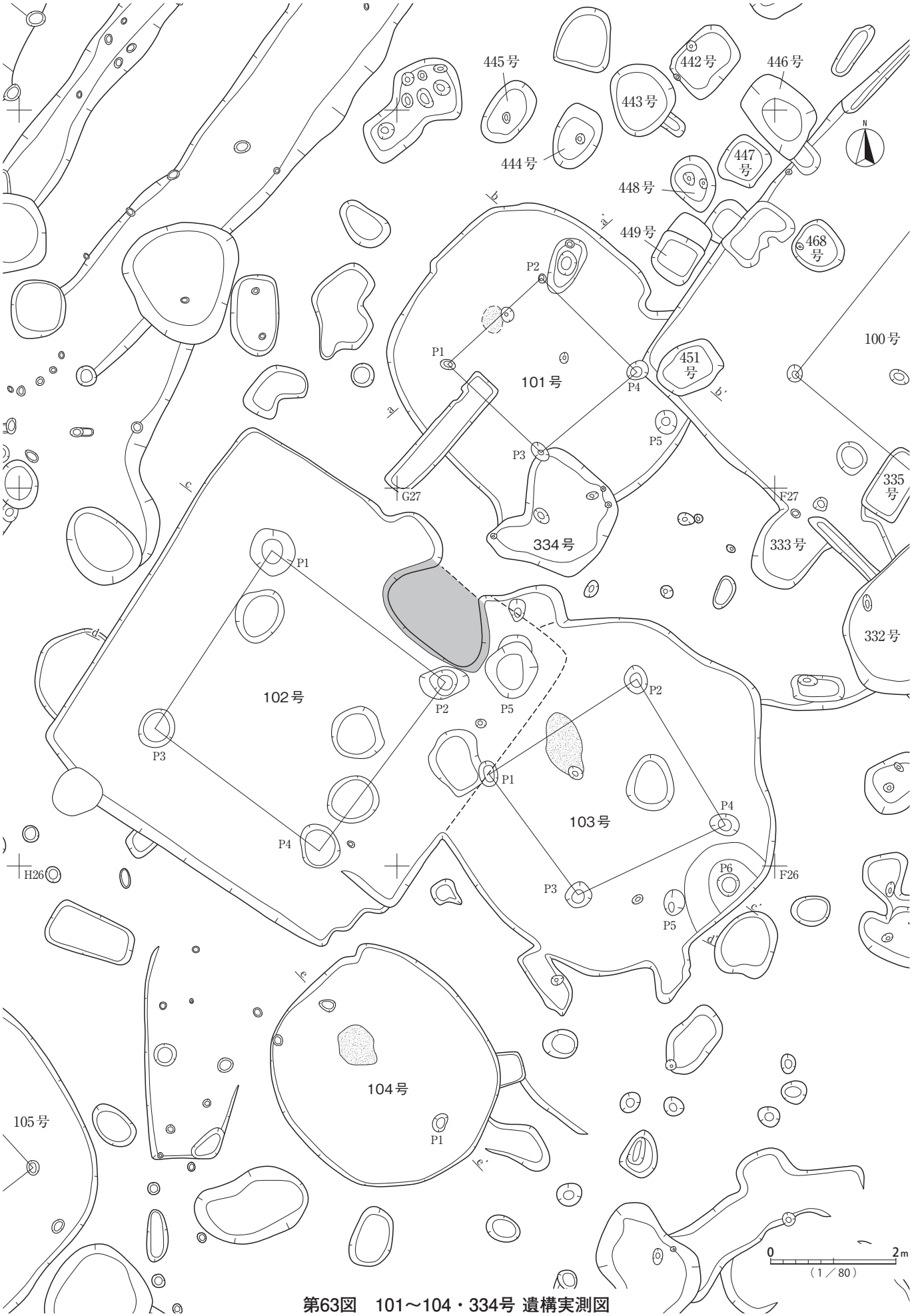
111号



112号

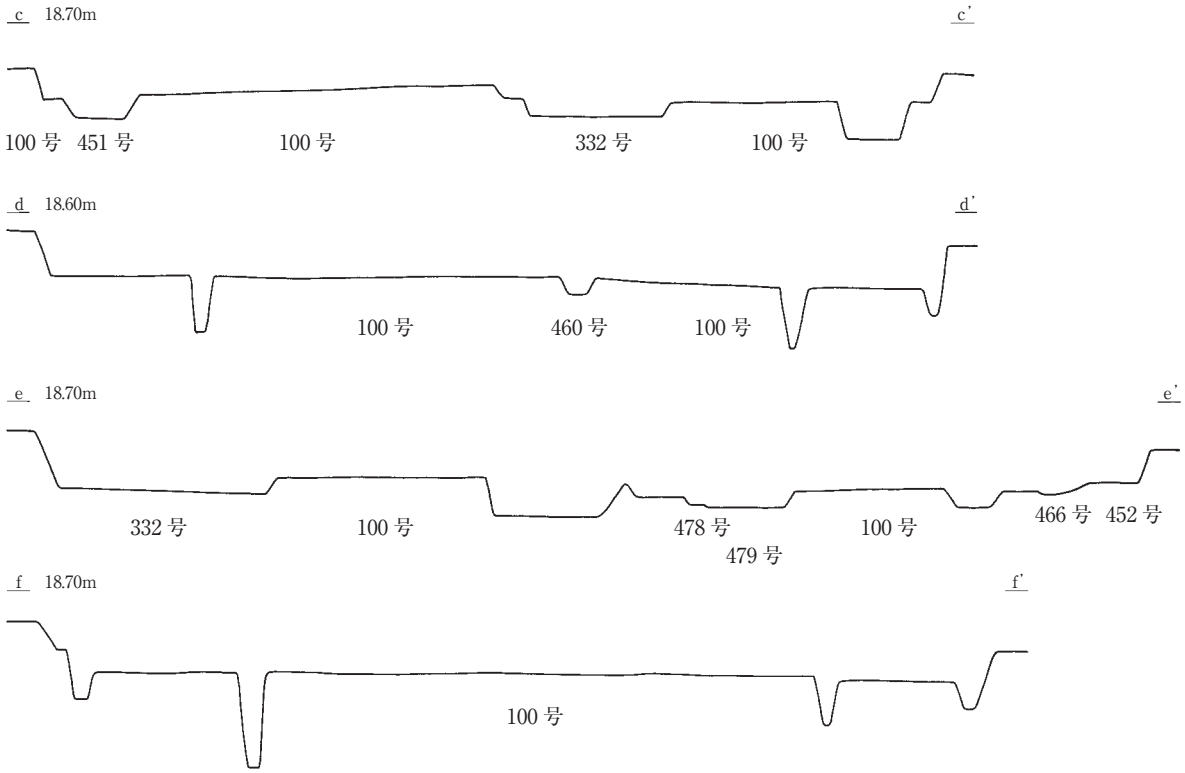


第62図　71・88～93・98・99・111・112・148・313・314号 遺構実測図

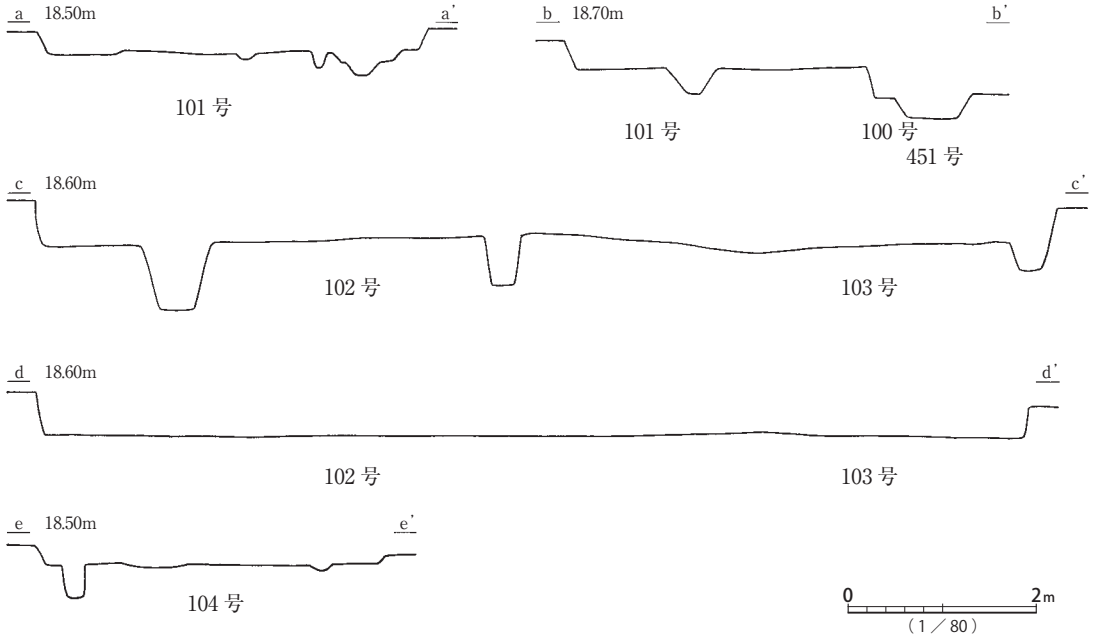


第63図　101～104・334号 遺構実測図

100・332・452・466・478・479号



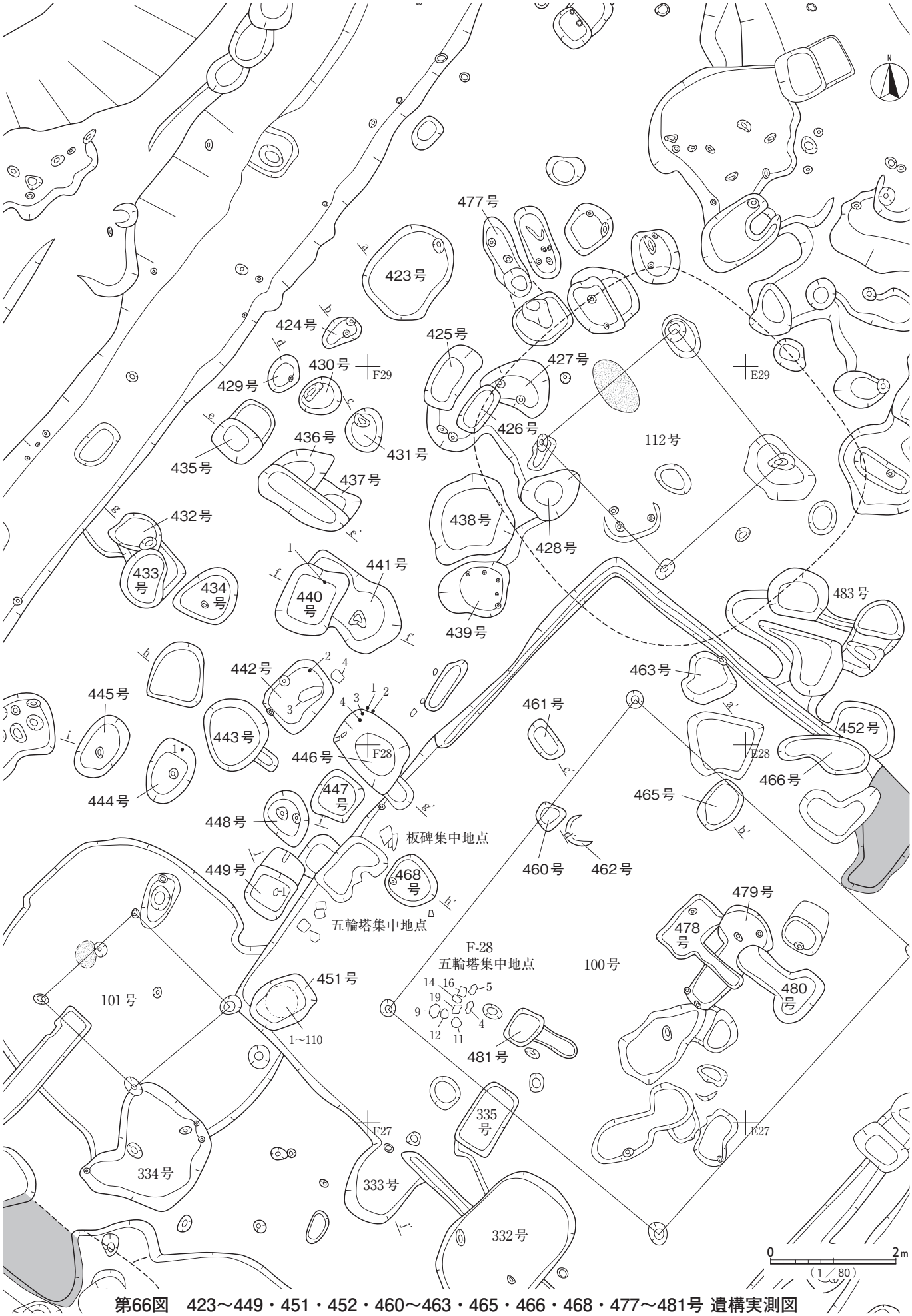
101～104号



第64図　100～104・332・452・466・478・479号 遺構実測図



第65図　105号 遺構実測図



第66図　423～449・451・452・460～463・465・466・468・477～481号 遺構実測図

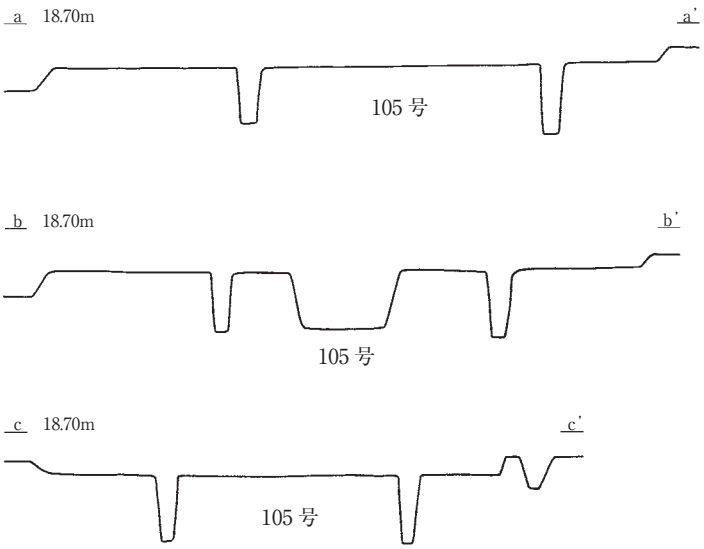


第67図　110・336～346・473号 遺構実測図

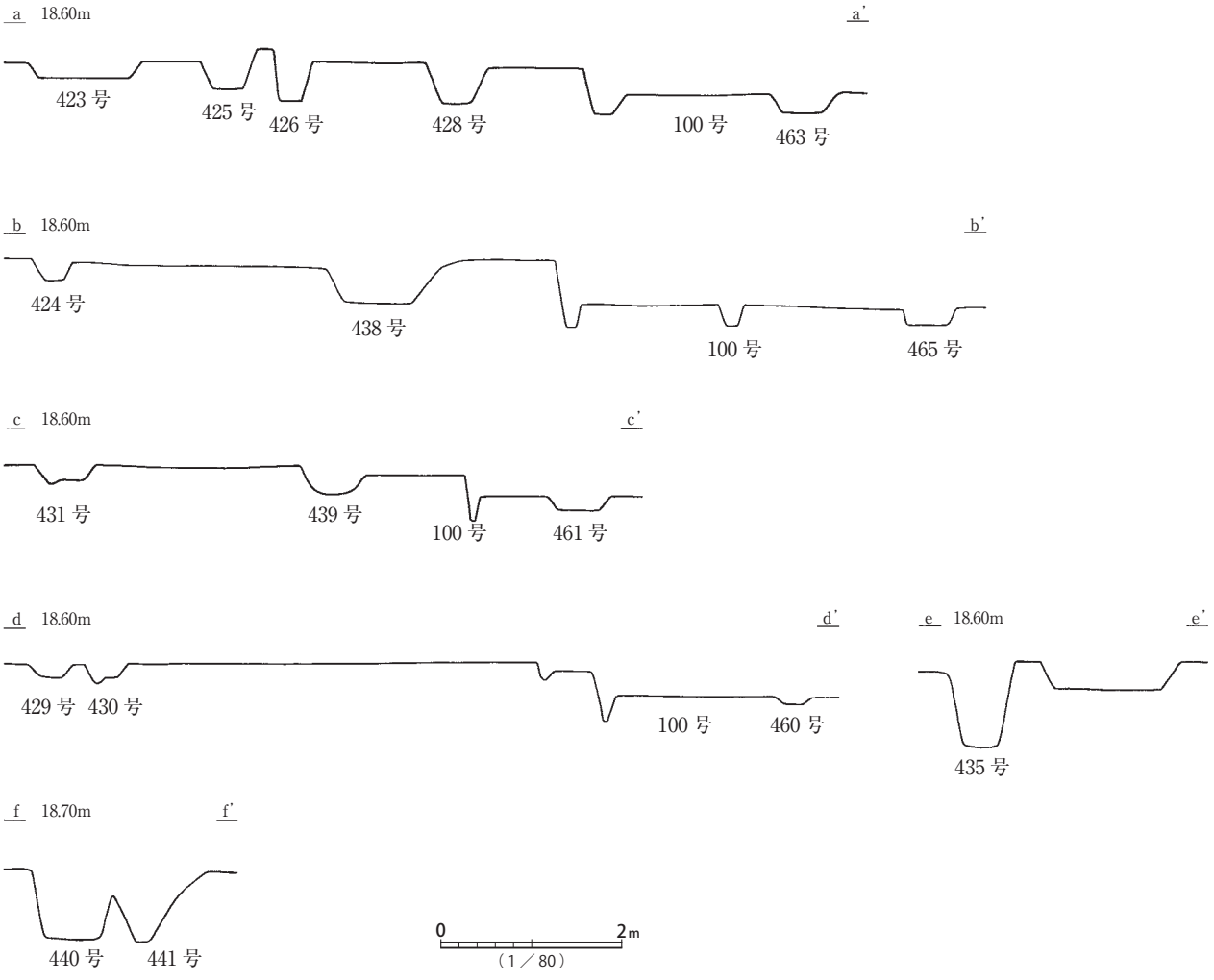


第68図　109・149・347号 遺構実測図

105号

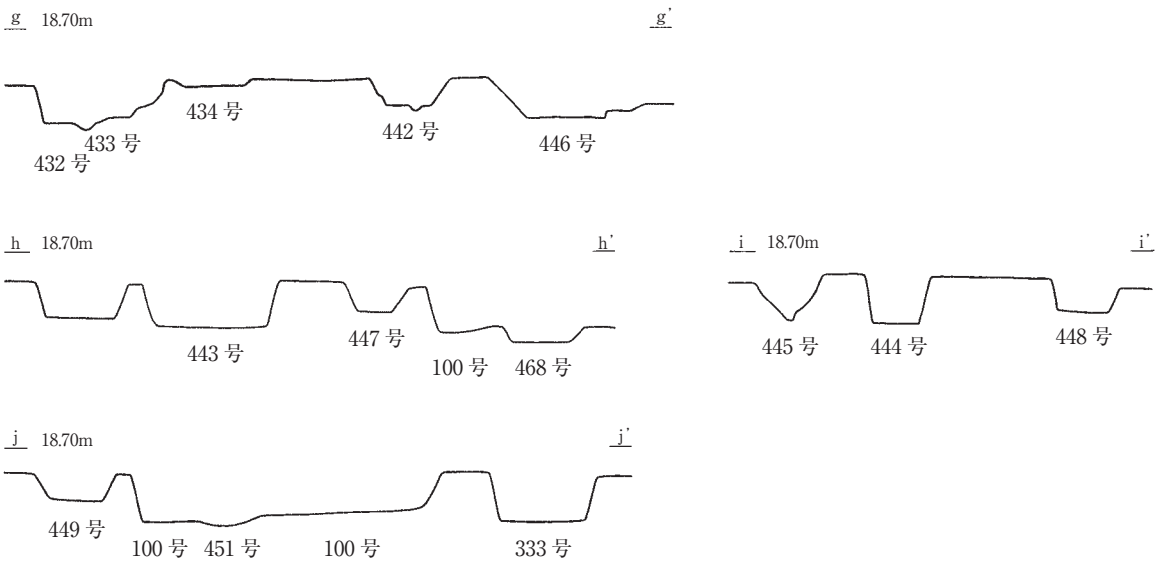


423～426・428～431・435・438～441・460・461・463・465号

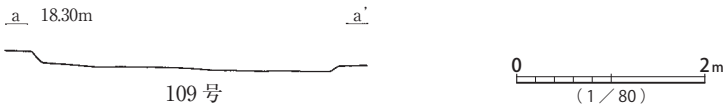


第69図　105・423～426・428～431・435・438～441・460・461・463・465号 遺構実測図

333・432～434・442～449・451・468号

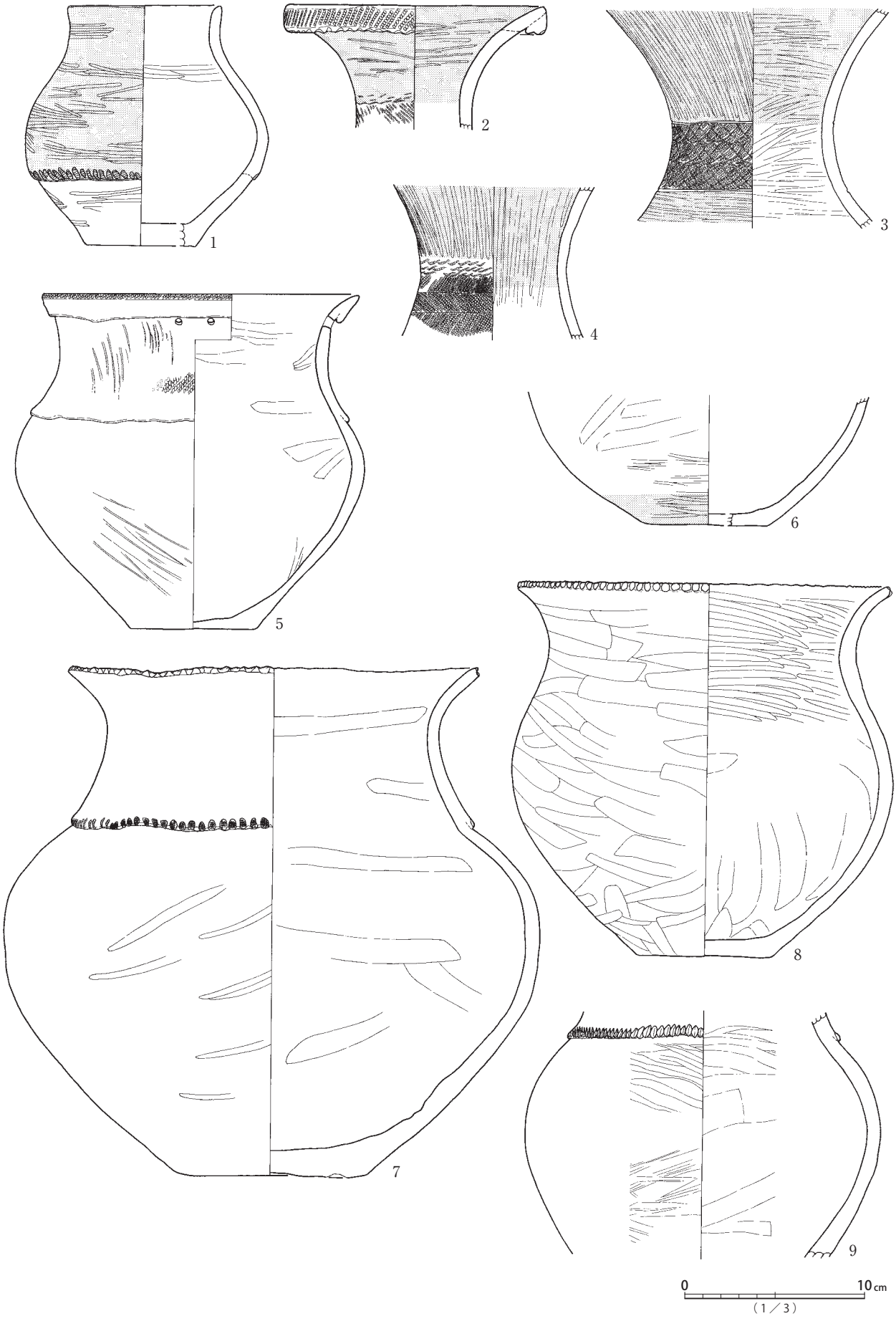


109号



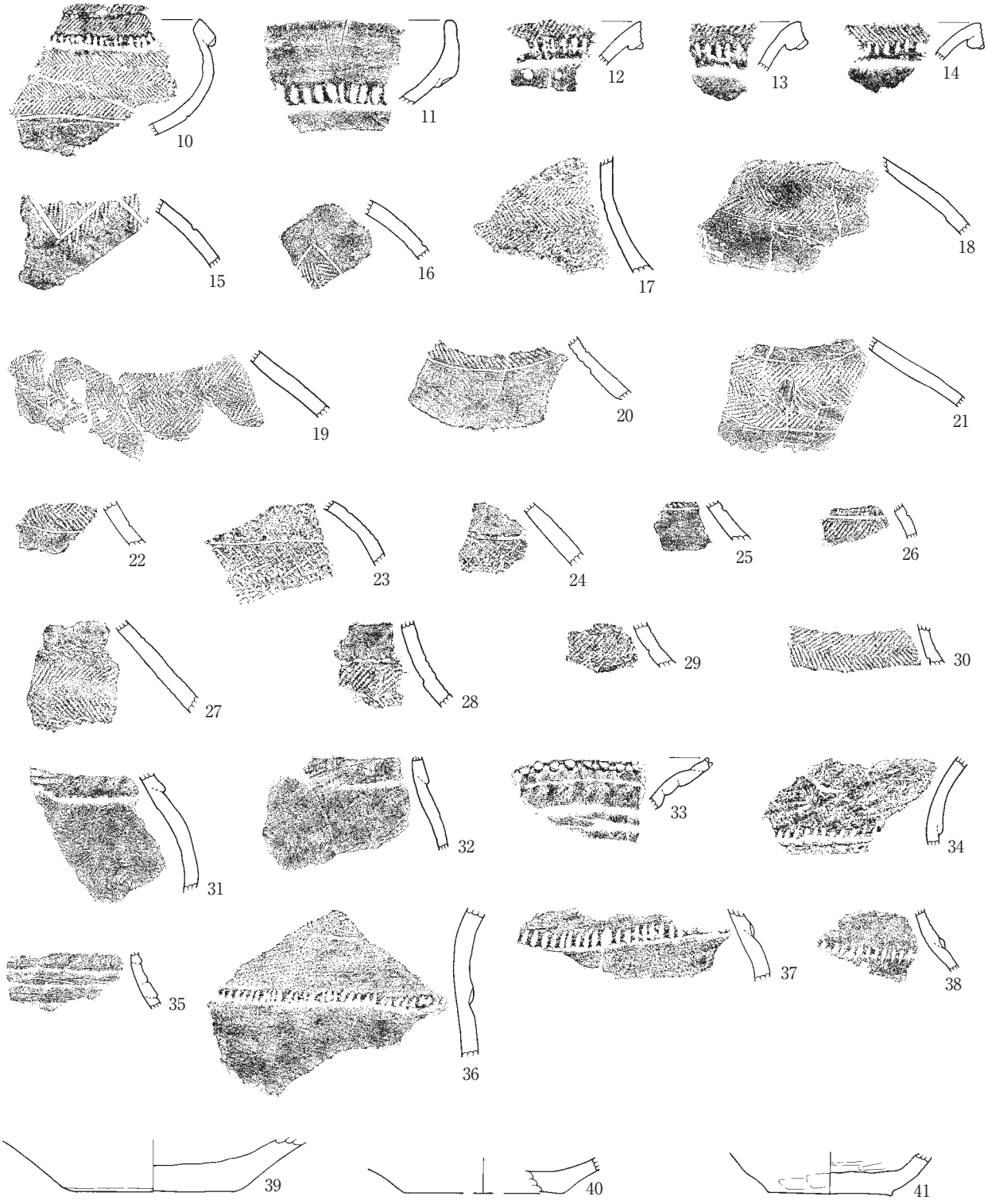
第70図　109・333・432～434・442～449・451・468号 遺構実測図

2号

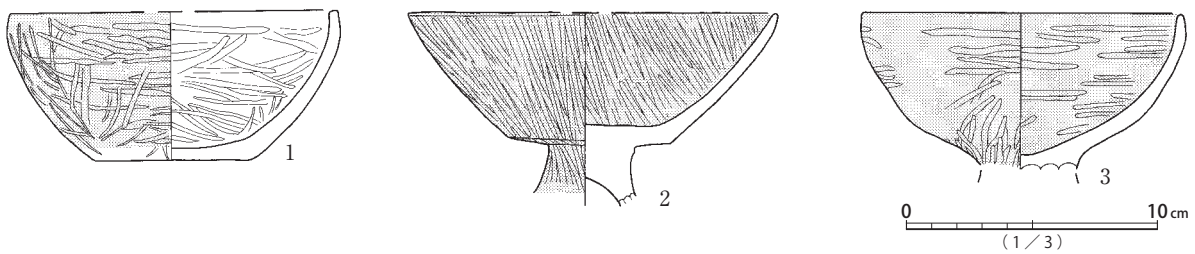


第71図　2号(1) 遺構出土遺物実測図

2号

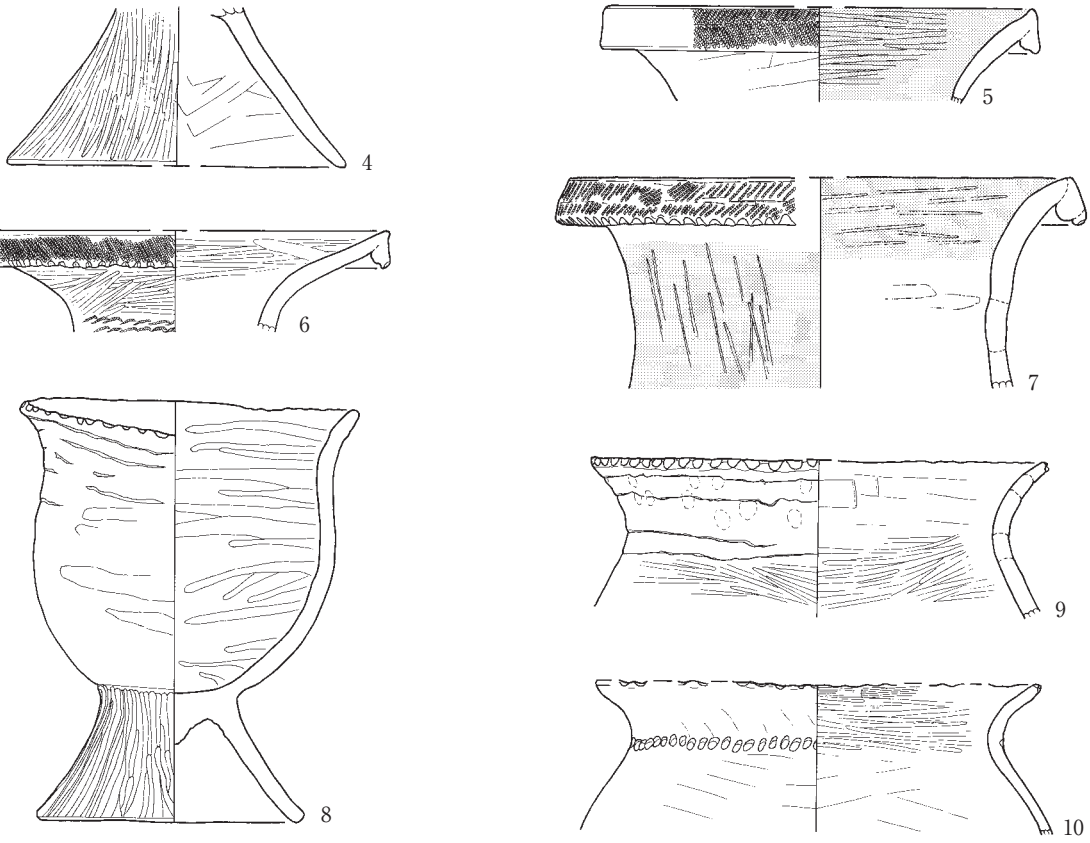


3号

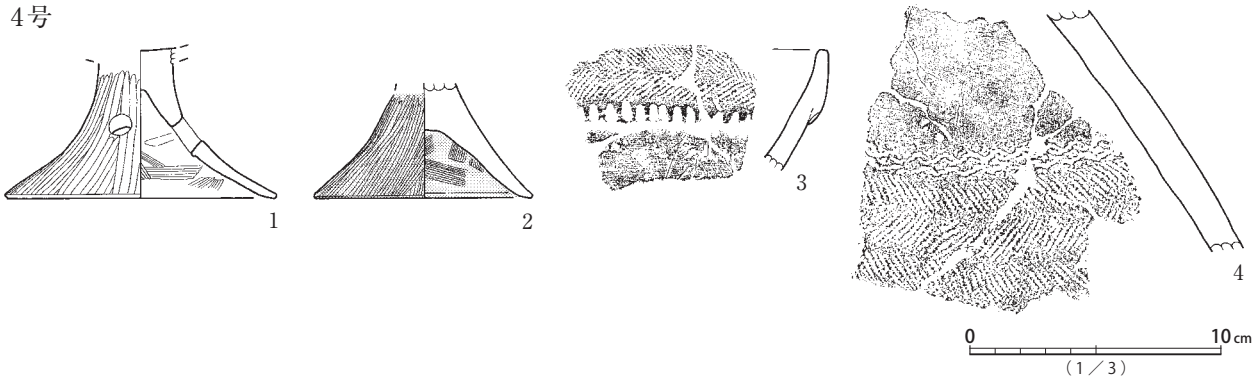


第72図　2号(2)・3号(1) 遺構出土遺物実測図

3号

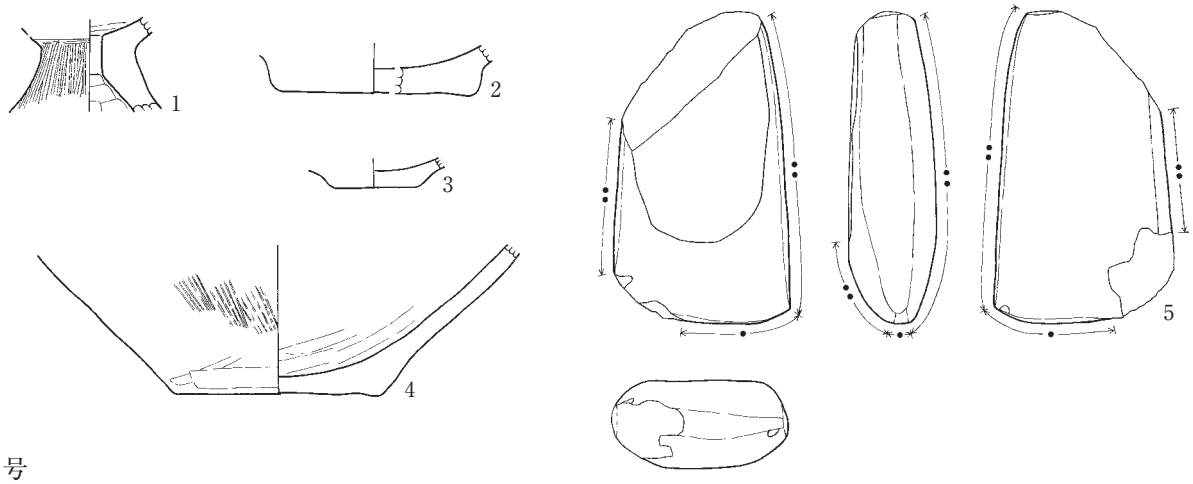


4号

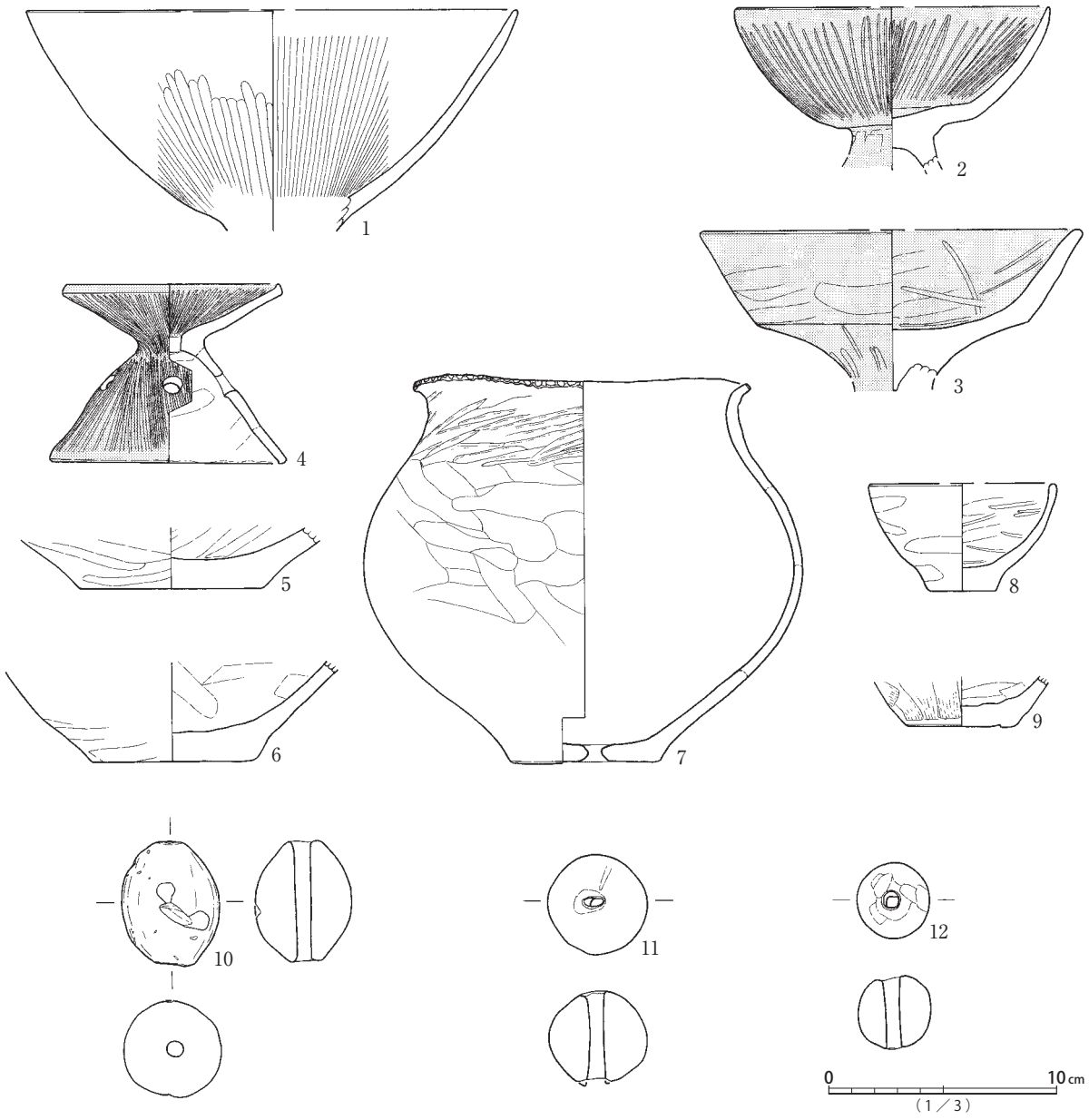


第73図　3号(2)・4号 遺構出土遺物実測図

5号

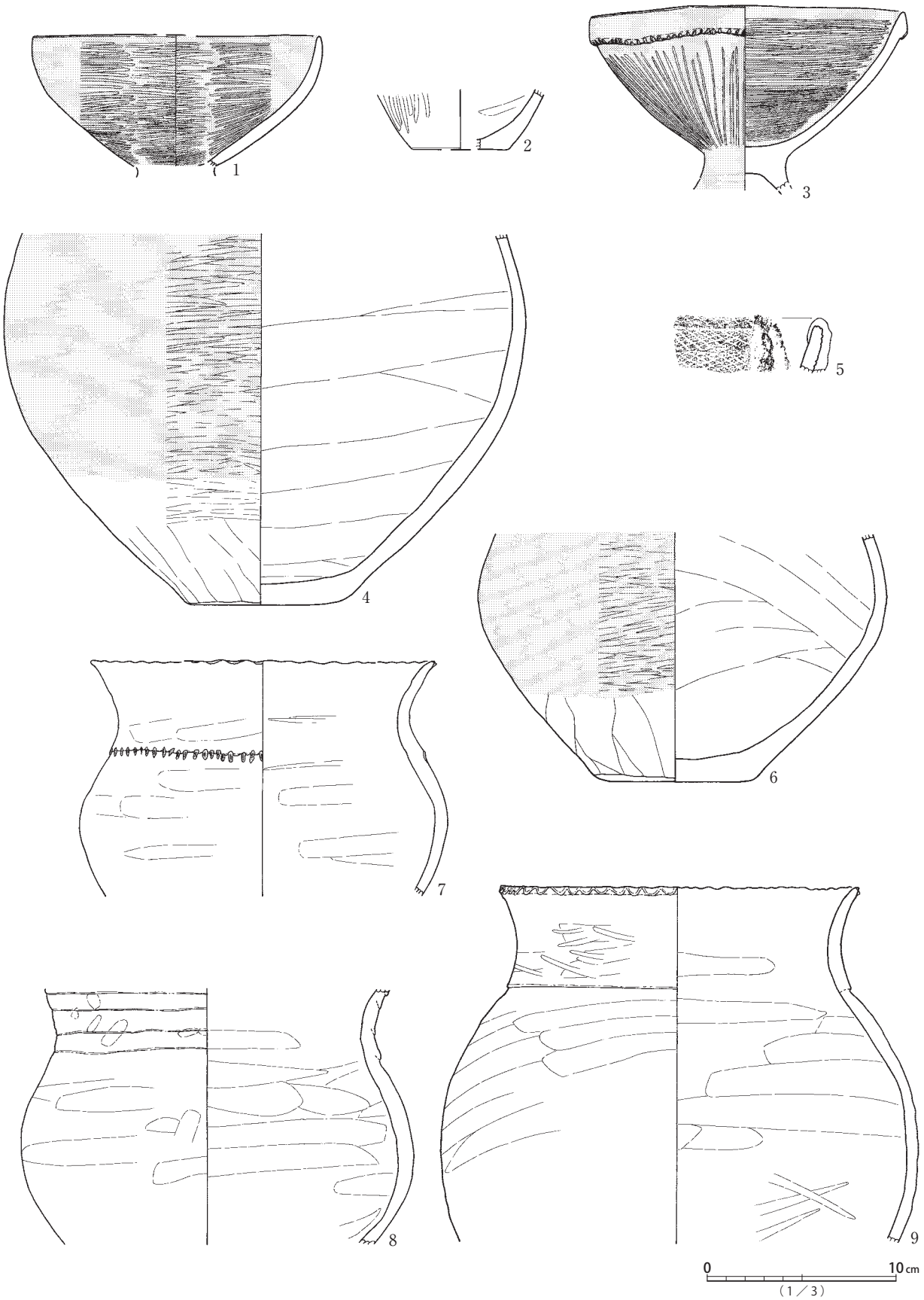


6号



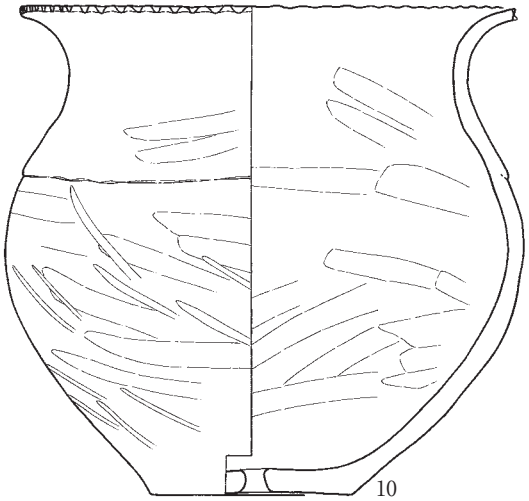
第74図　5号・6号 遺構出土遺物実測図

7号

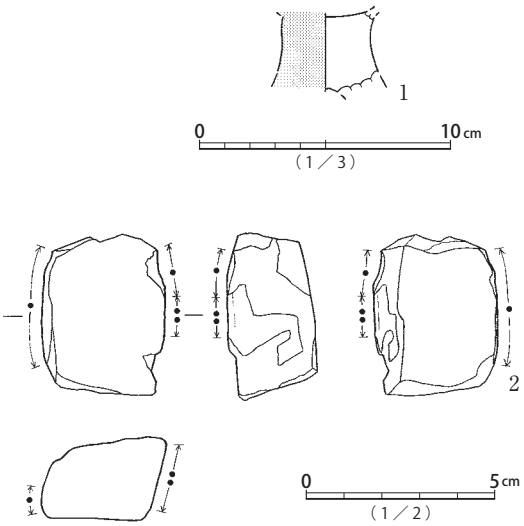


第75図　7号(1) 遺構出土遺物実測図

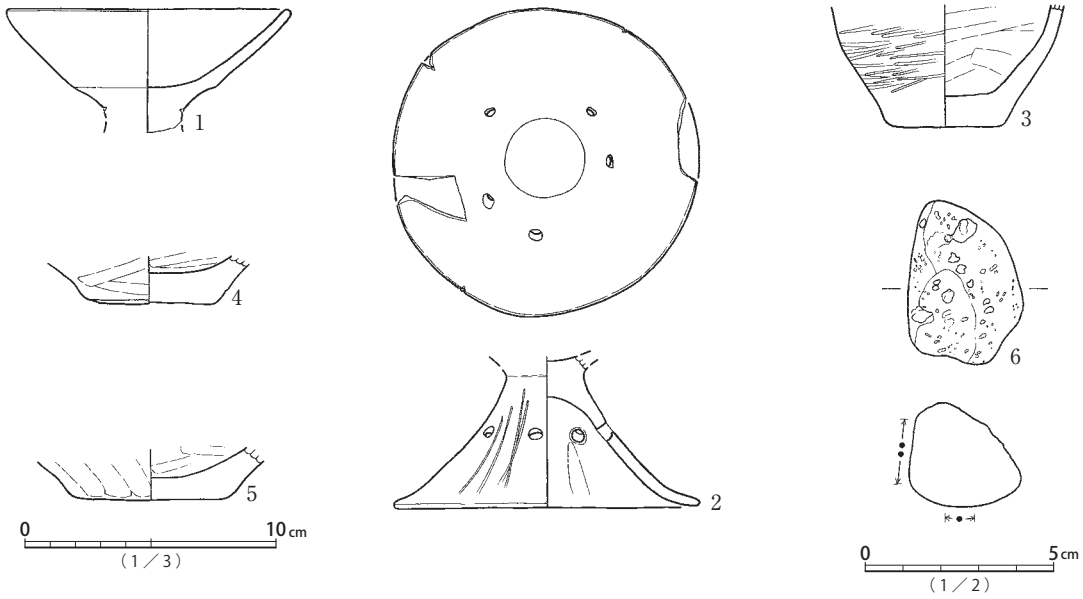
7号



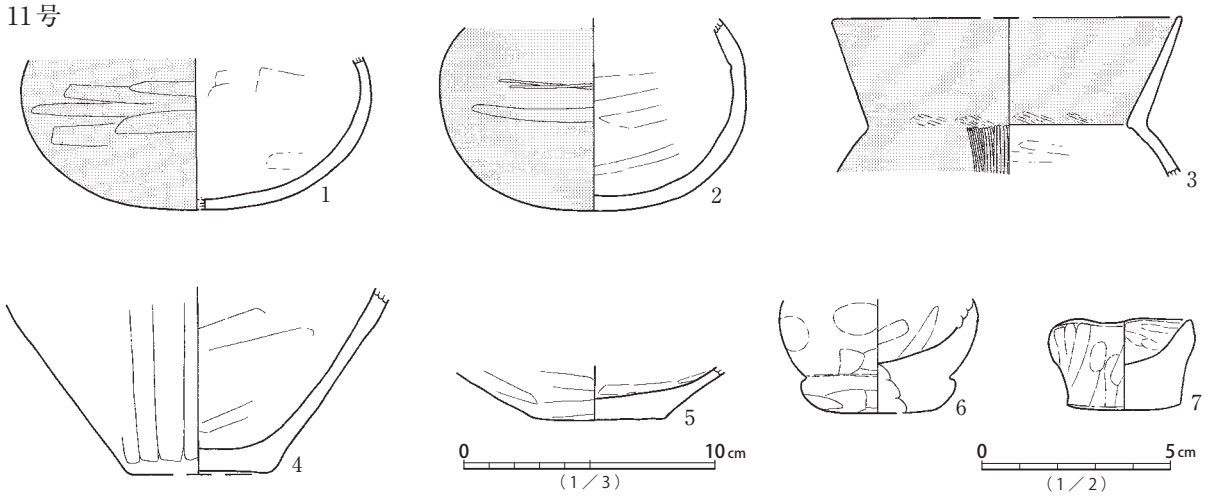
8号



10号

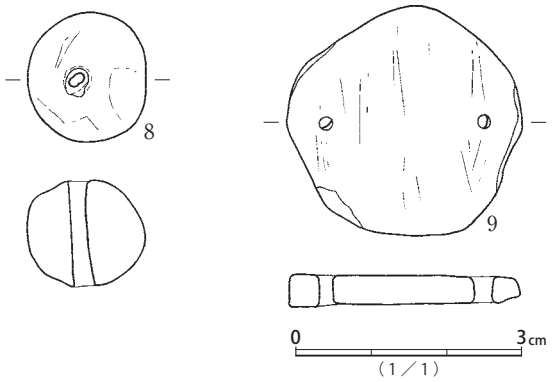


11号

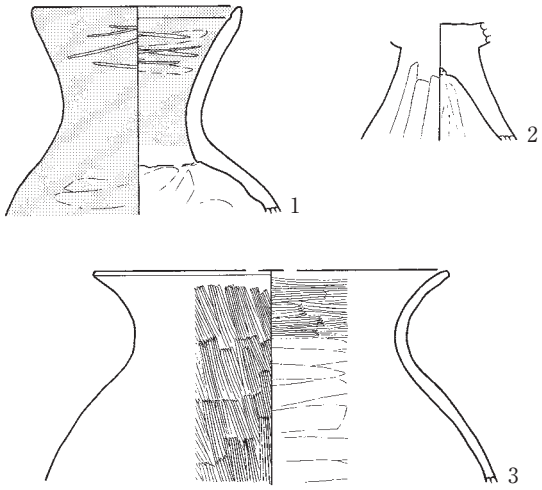


第76図　7号(2)・8号・10号・11号(1) 遺構出土遺物実測図

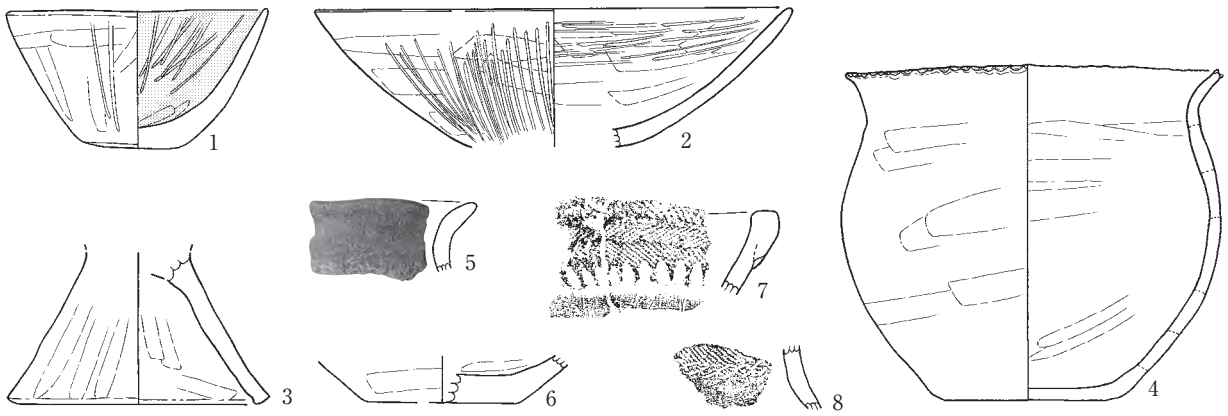
11号



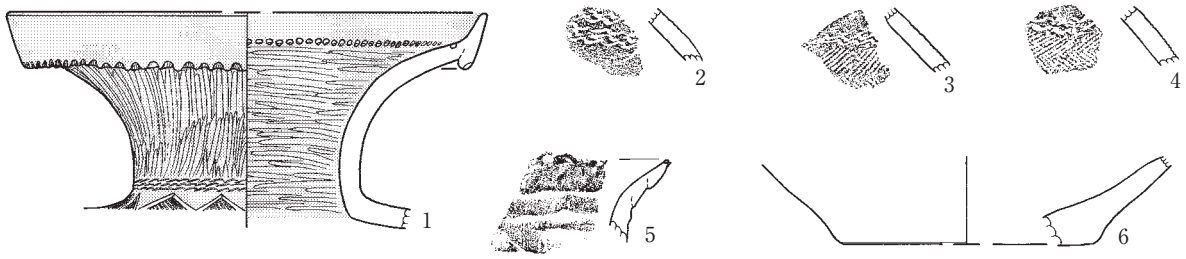
12号



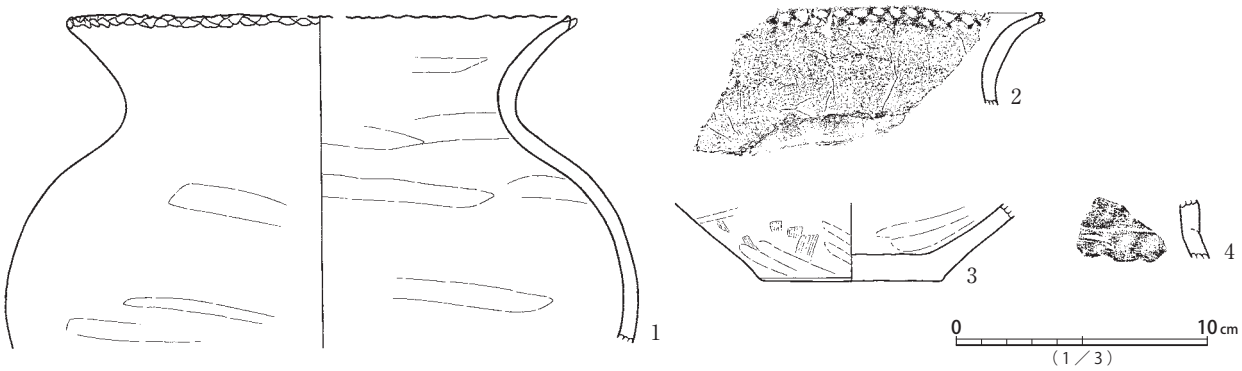
13号



14号

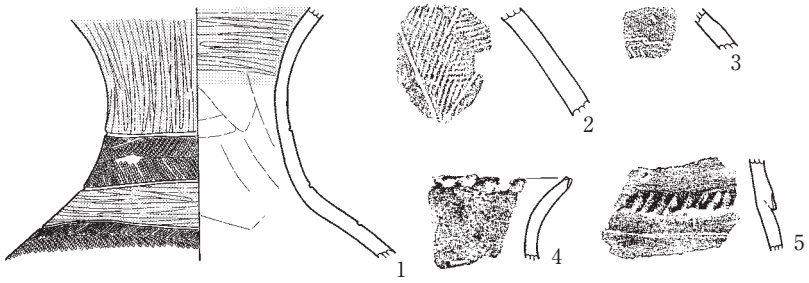


15号

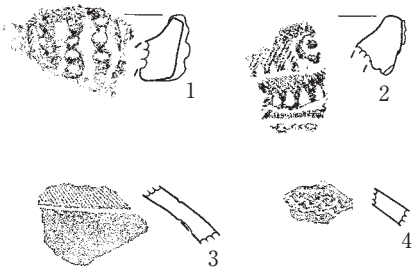


第77図　11号(2)・12～15号 遺構出土遺物実測図

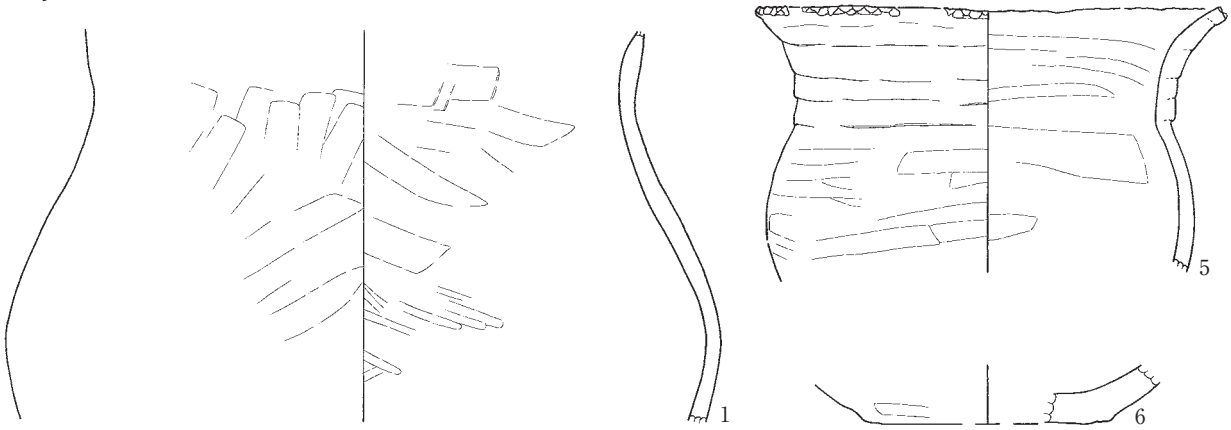
16号



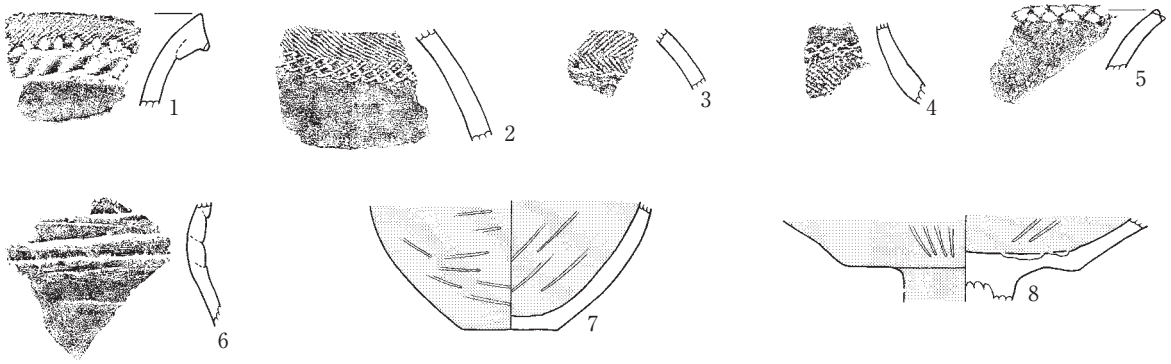
18号



17号

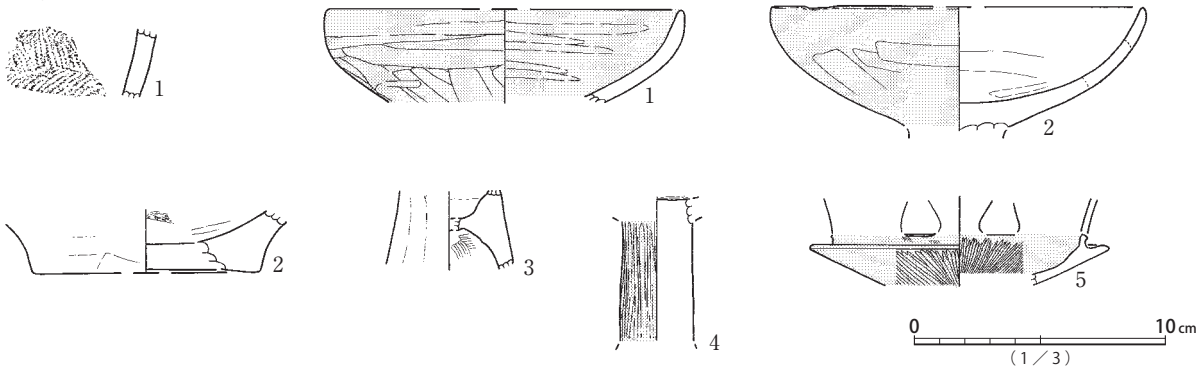


19号



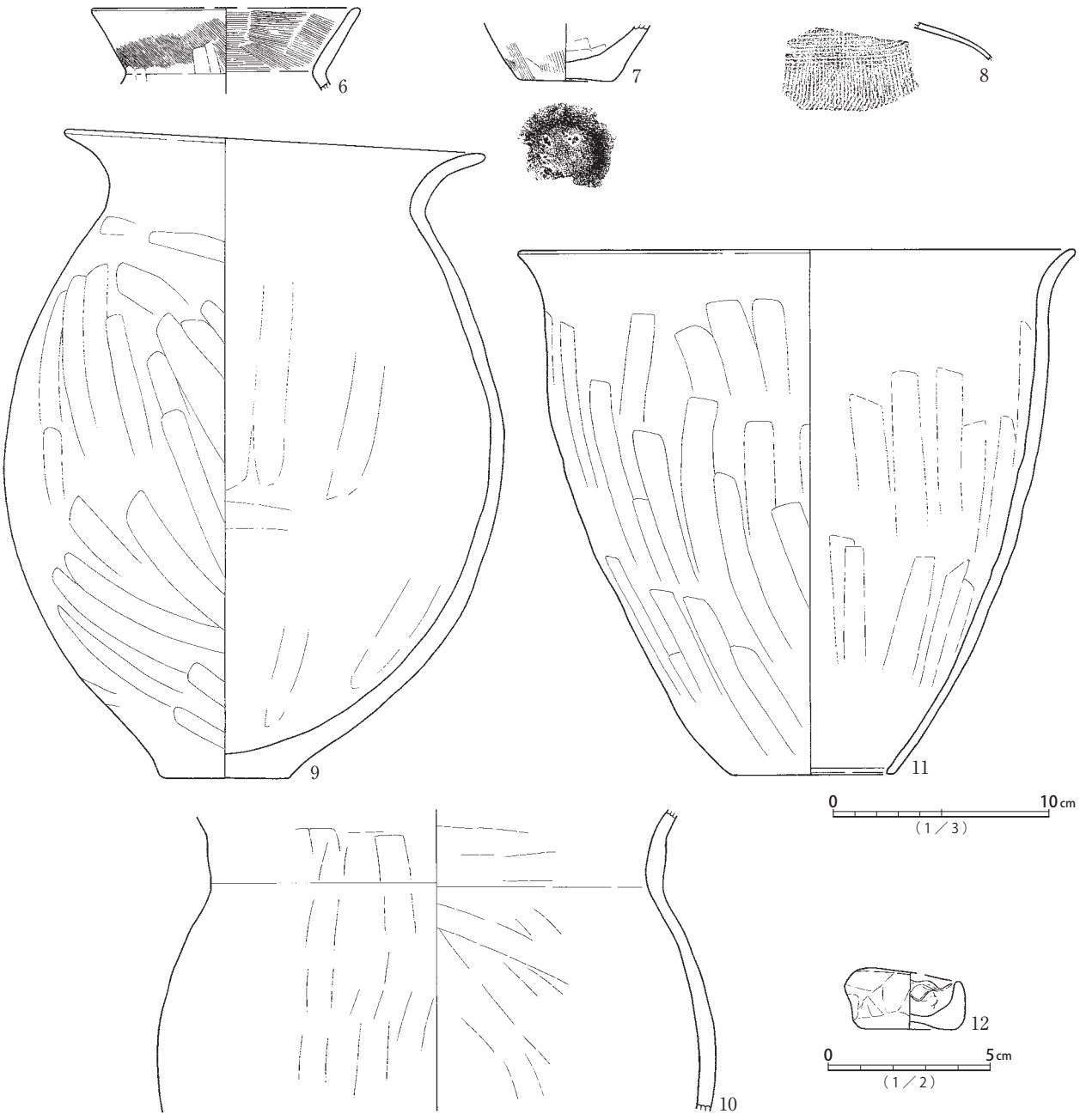
20号

21号

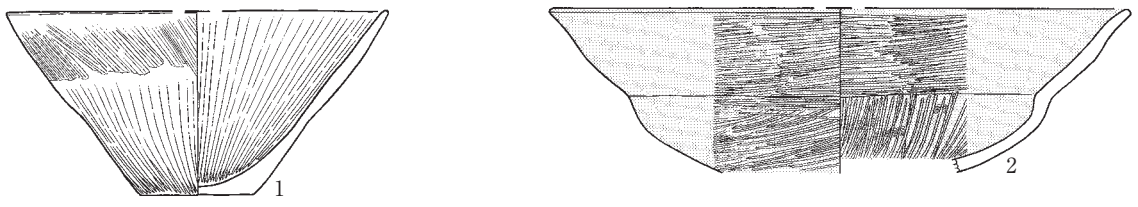


第78図　16～20号・21号(1) 遺構出土遺物実測図

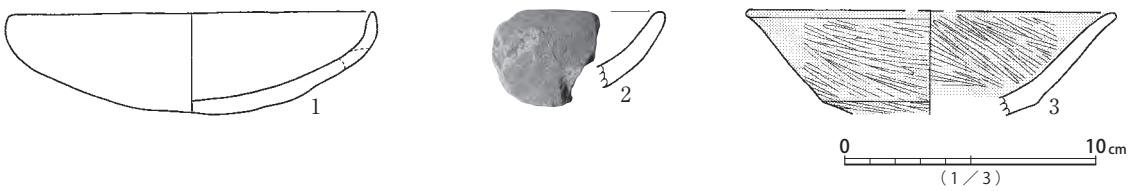
21号



22号

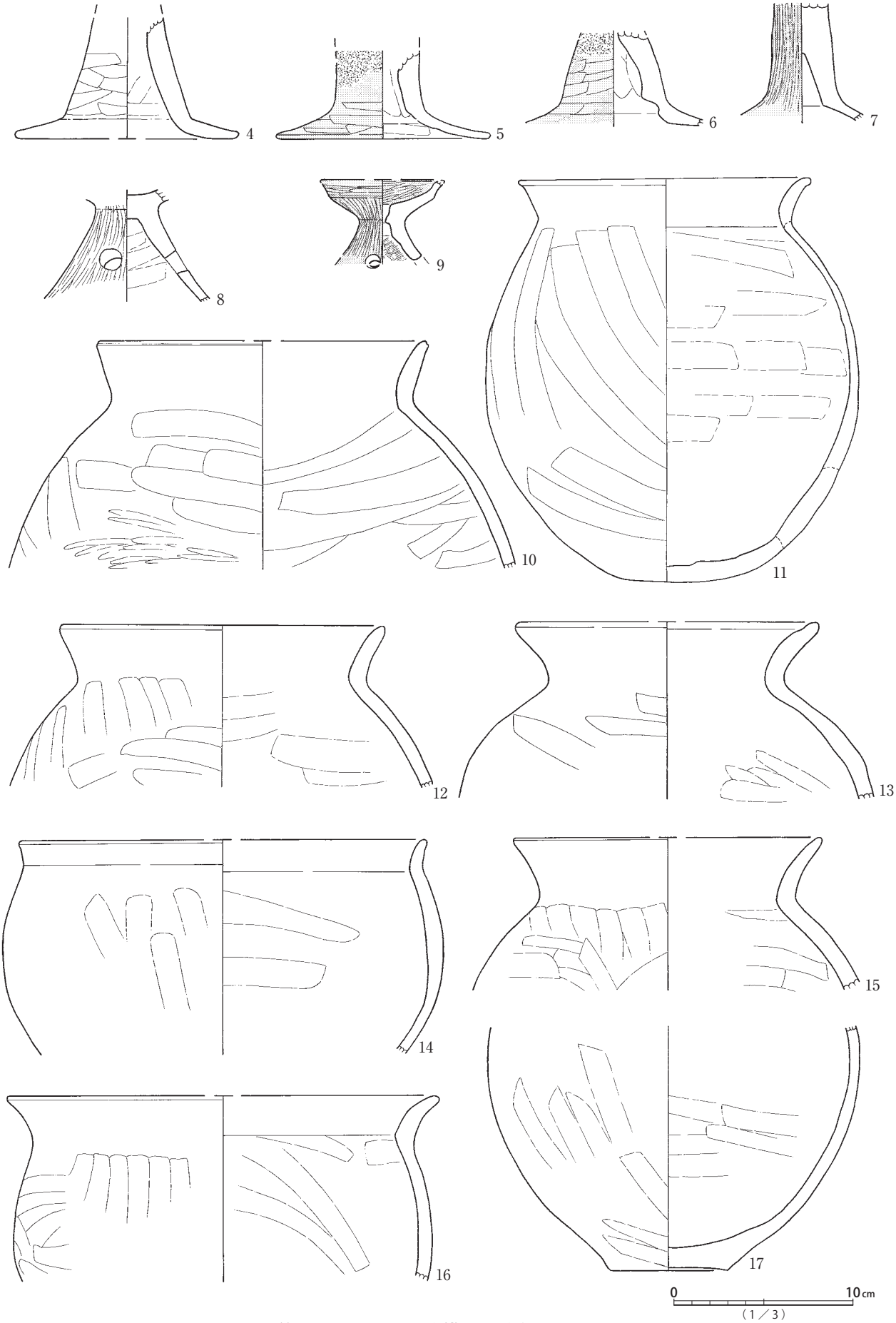


23号



第79図　21号(2)・22号・23号(1) 遺構出土遺物実測図

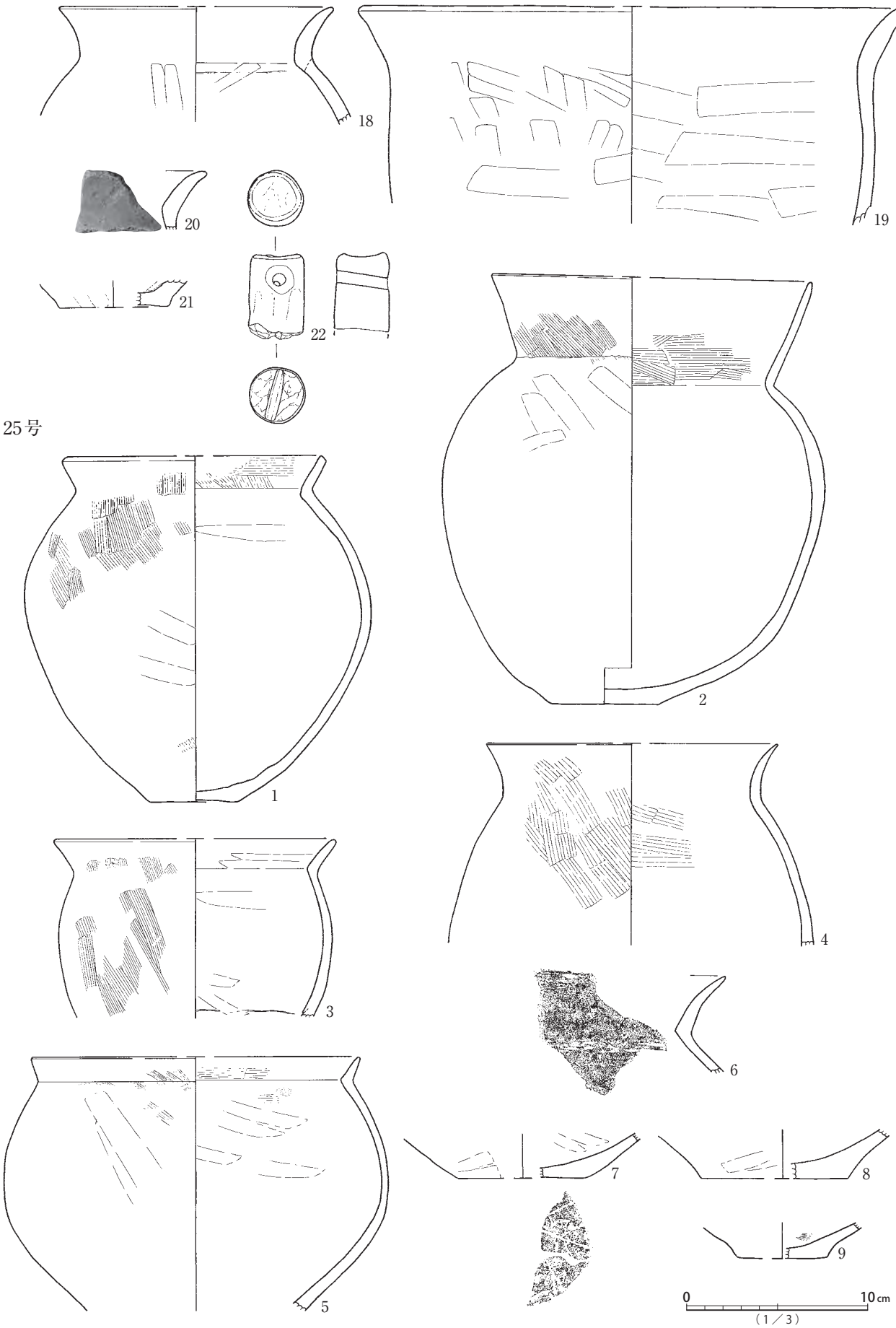
23号



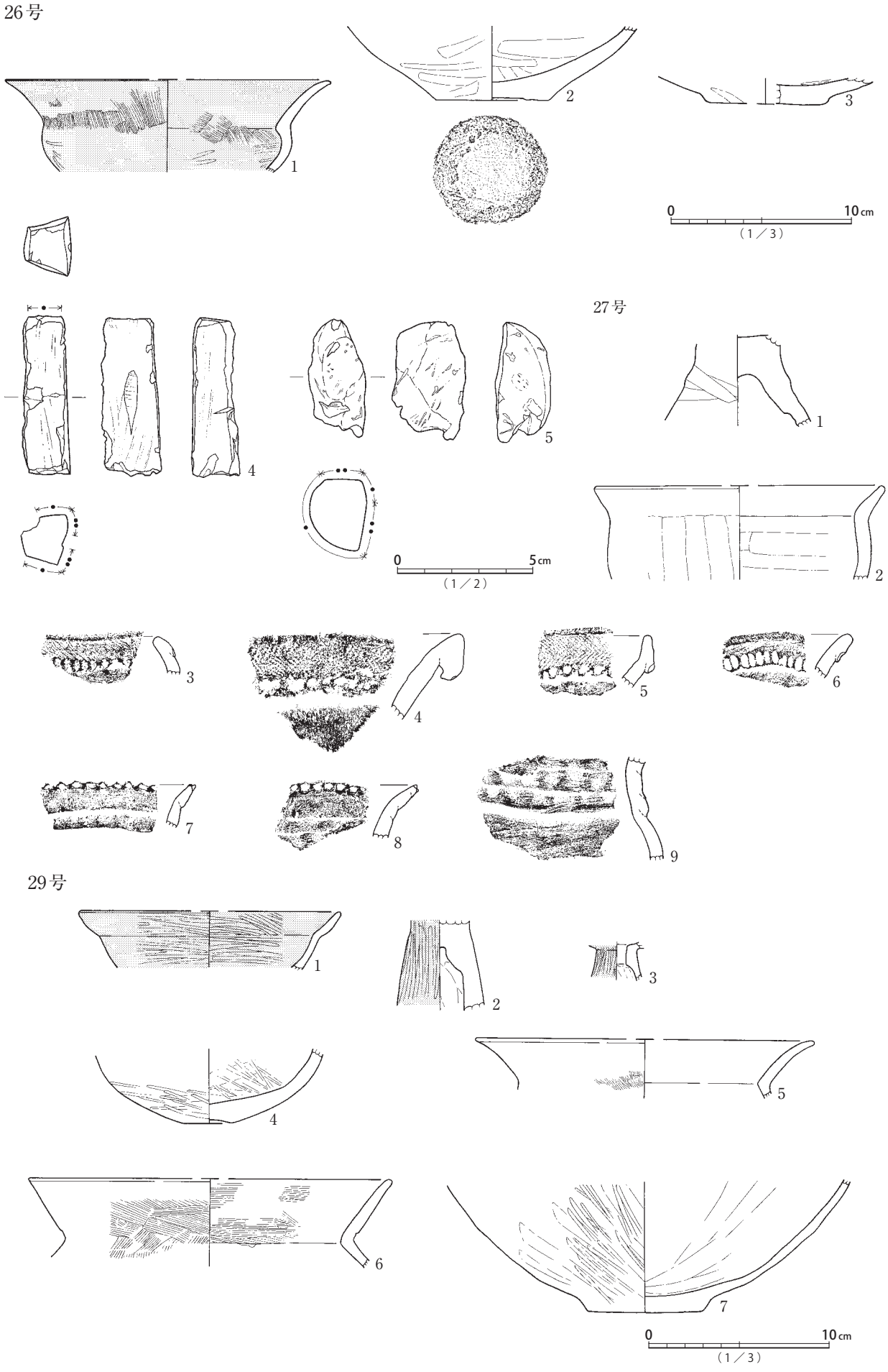
第80図　23号(2) 遺構出土遺物実測図

23号

25号



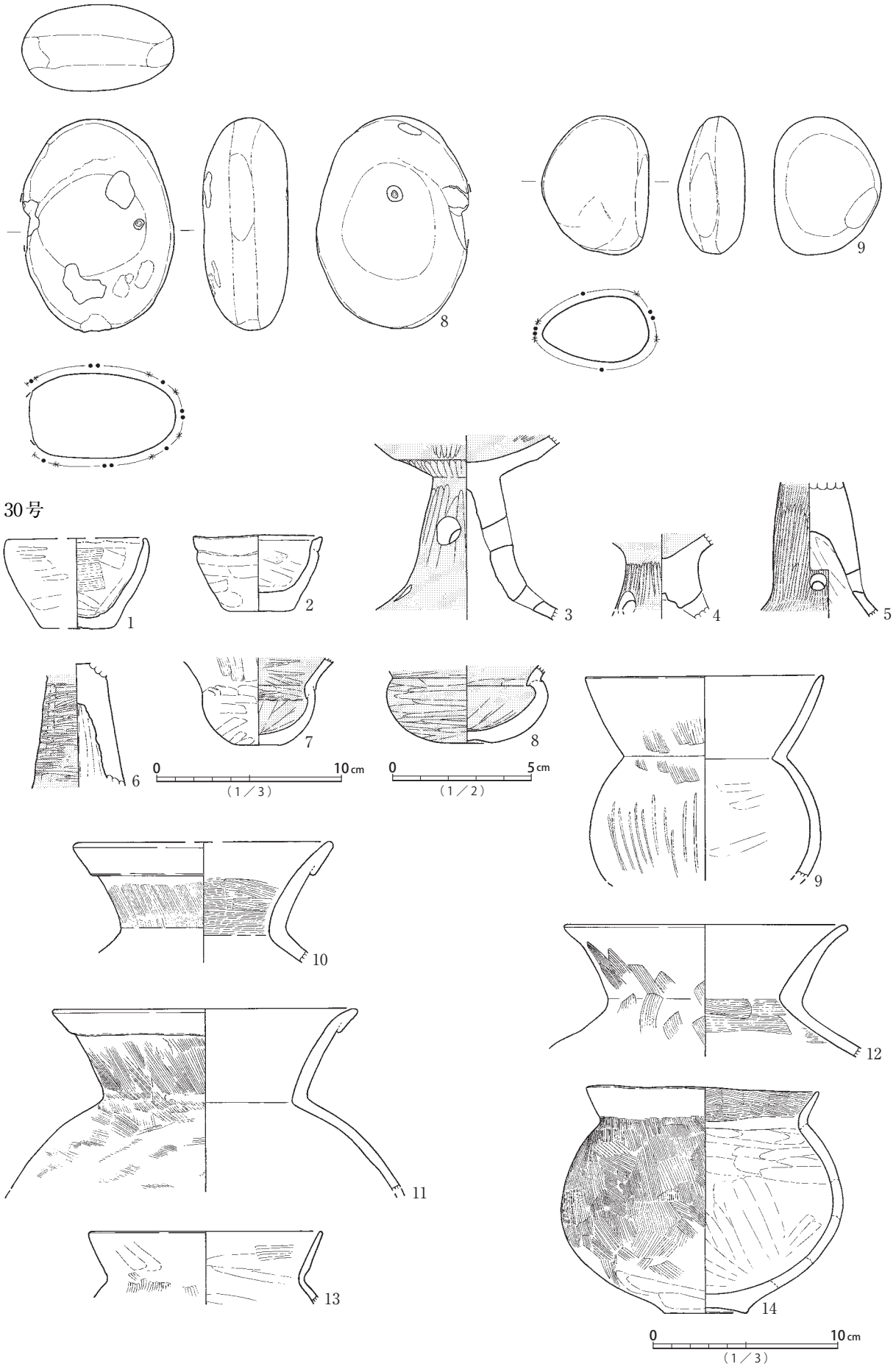
第81図　23号(3)・25号 遺構出土遺物実測図



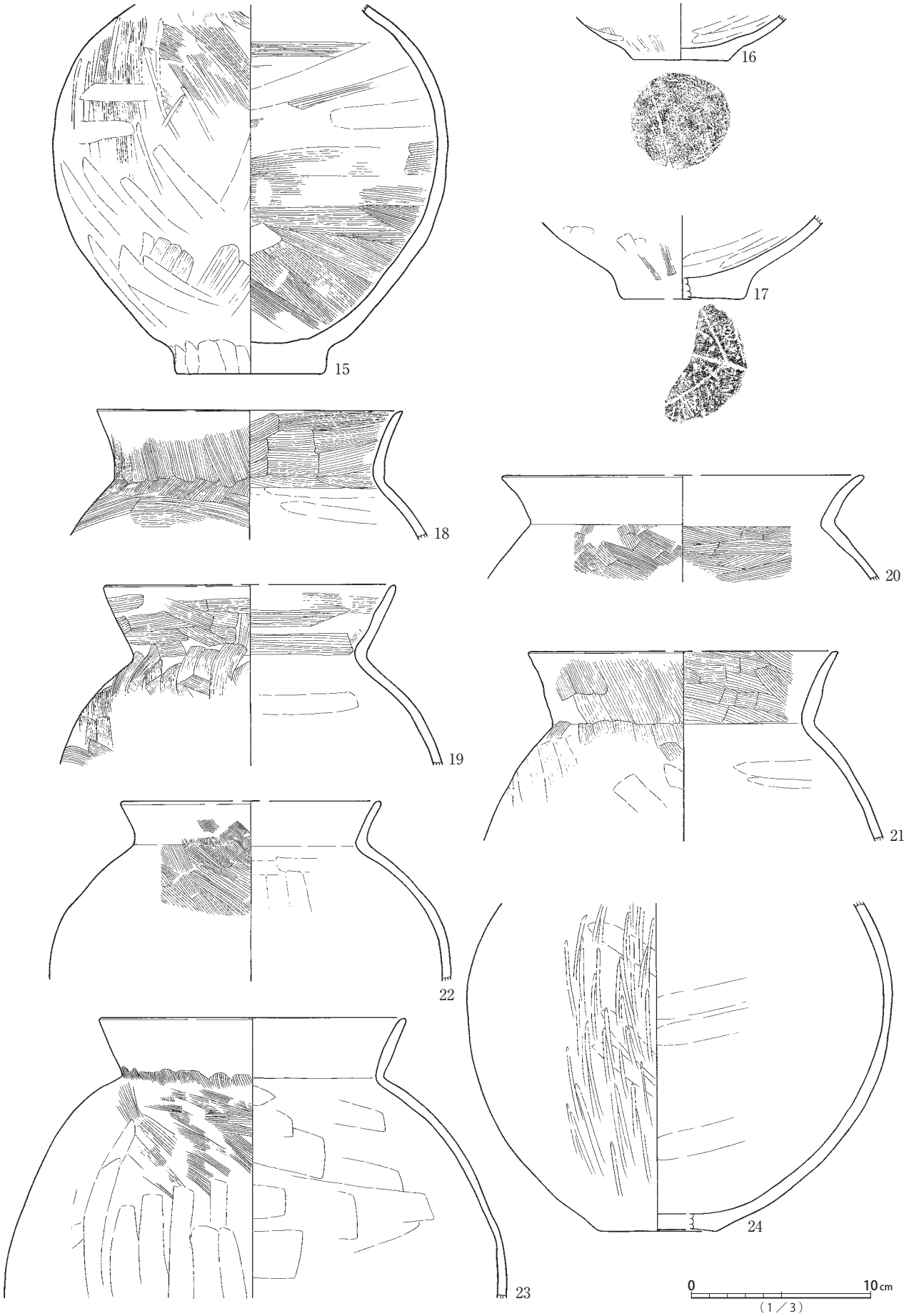
第82図　26号・27号・29号(1) 遺構出土遺物実測図

29号

30号

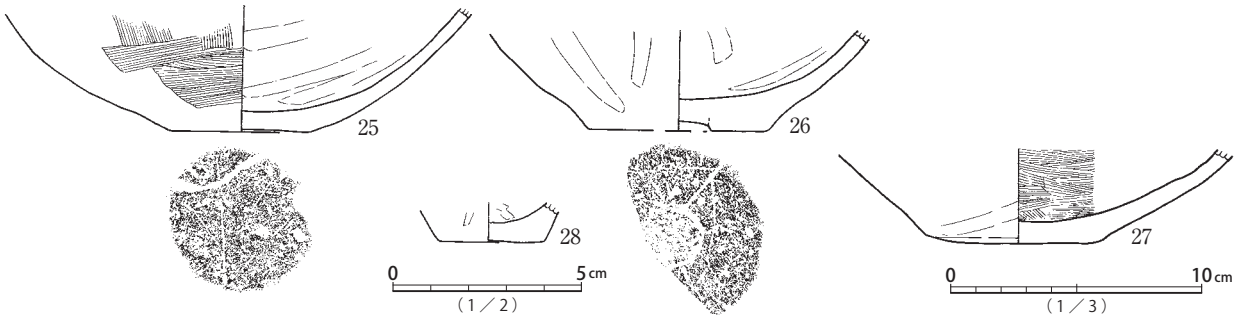


第83図　29号(2)・30号(1) 遺構出土遺物実測図

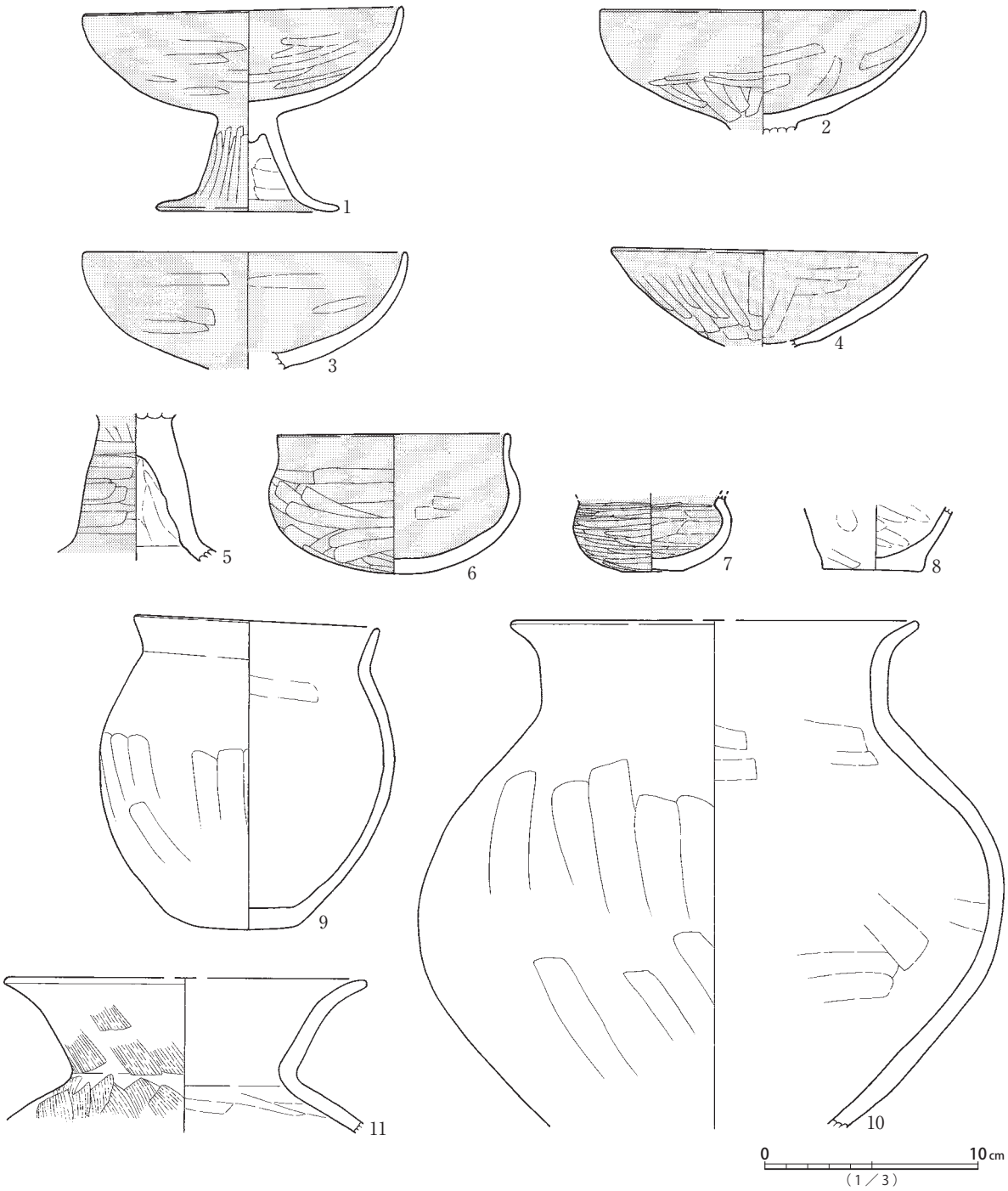


第84図　30号(2) 遺構出土遺物実測図

30号

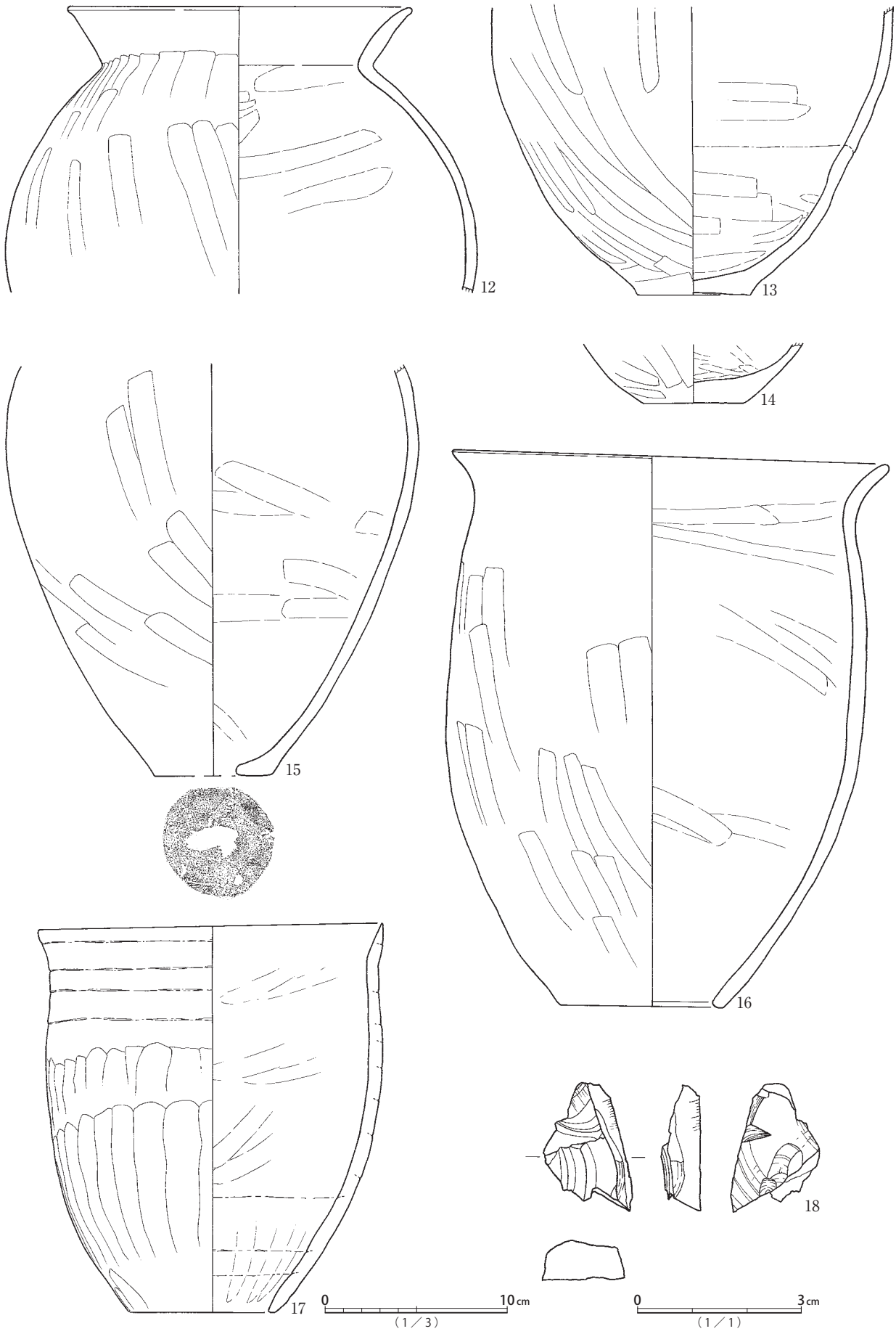


31号



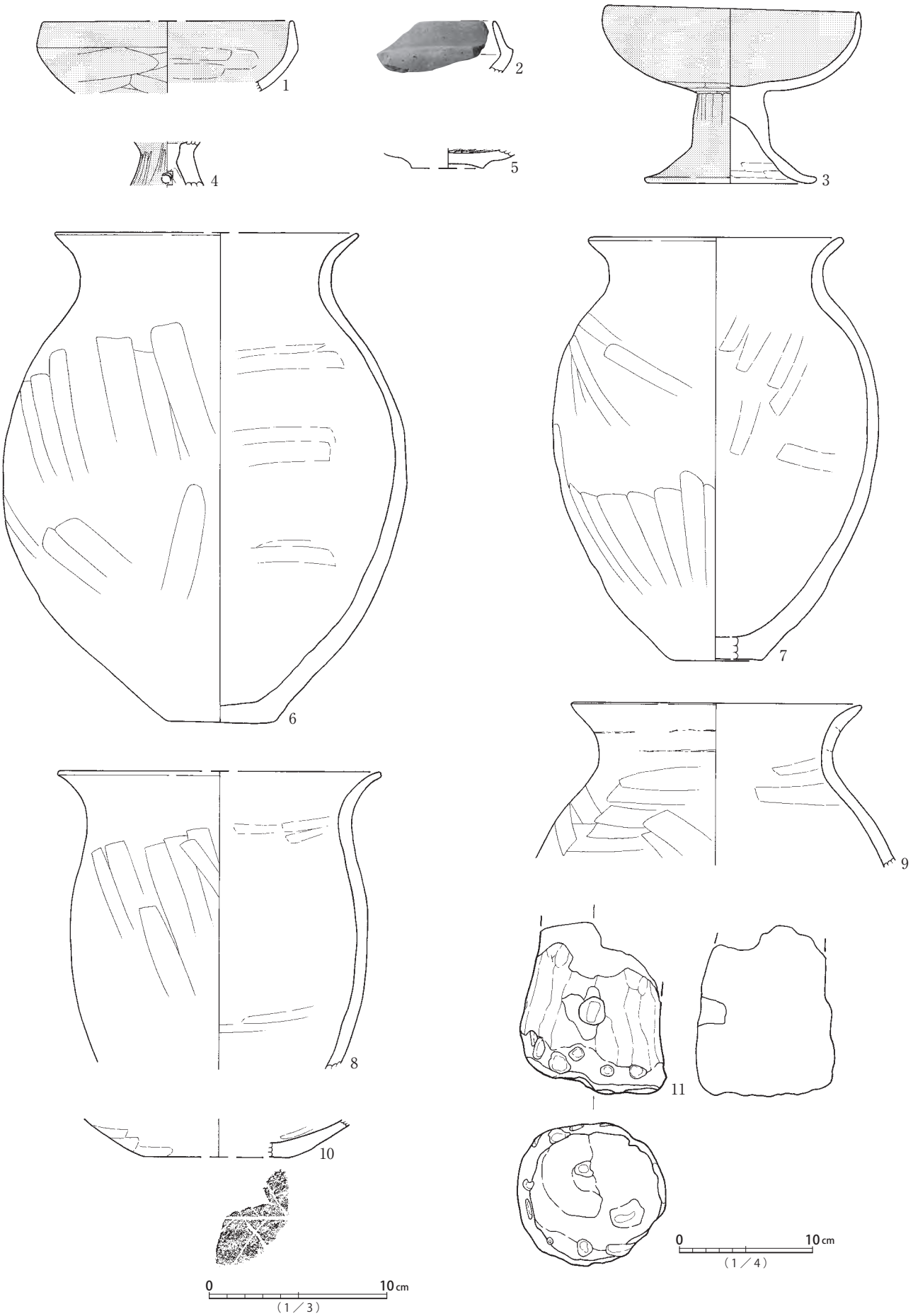
第85図　30号(3)・31号(1) 遺構出土遺物実測図

31号



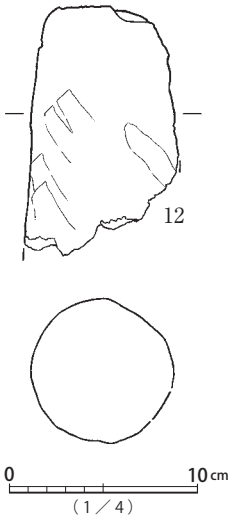
第86図　31号(2) 遺構出土遺物実測図

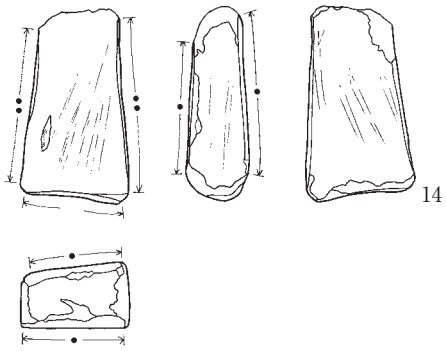
32号



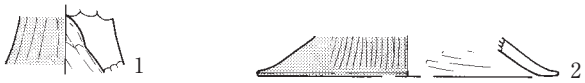
第87図　32号(1) 遺構出土遺物実測図

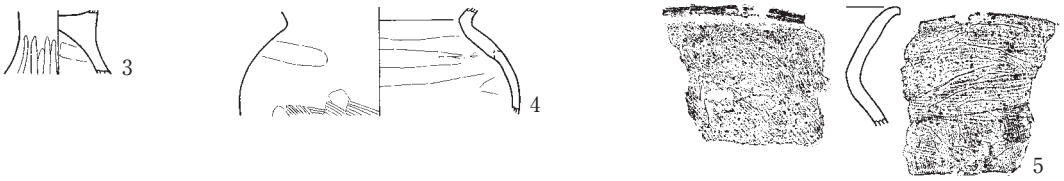
32号





34号

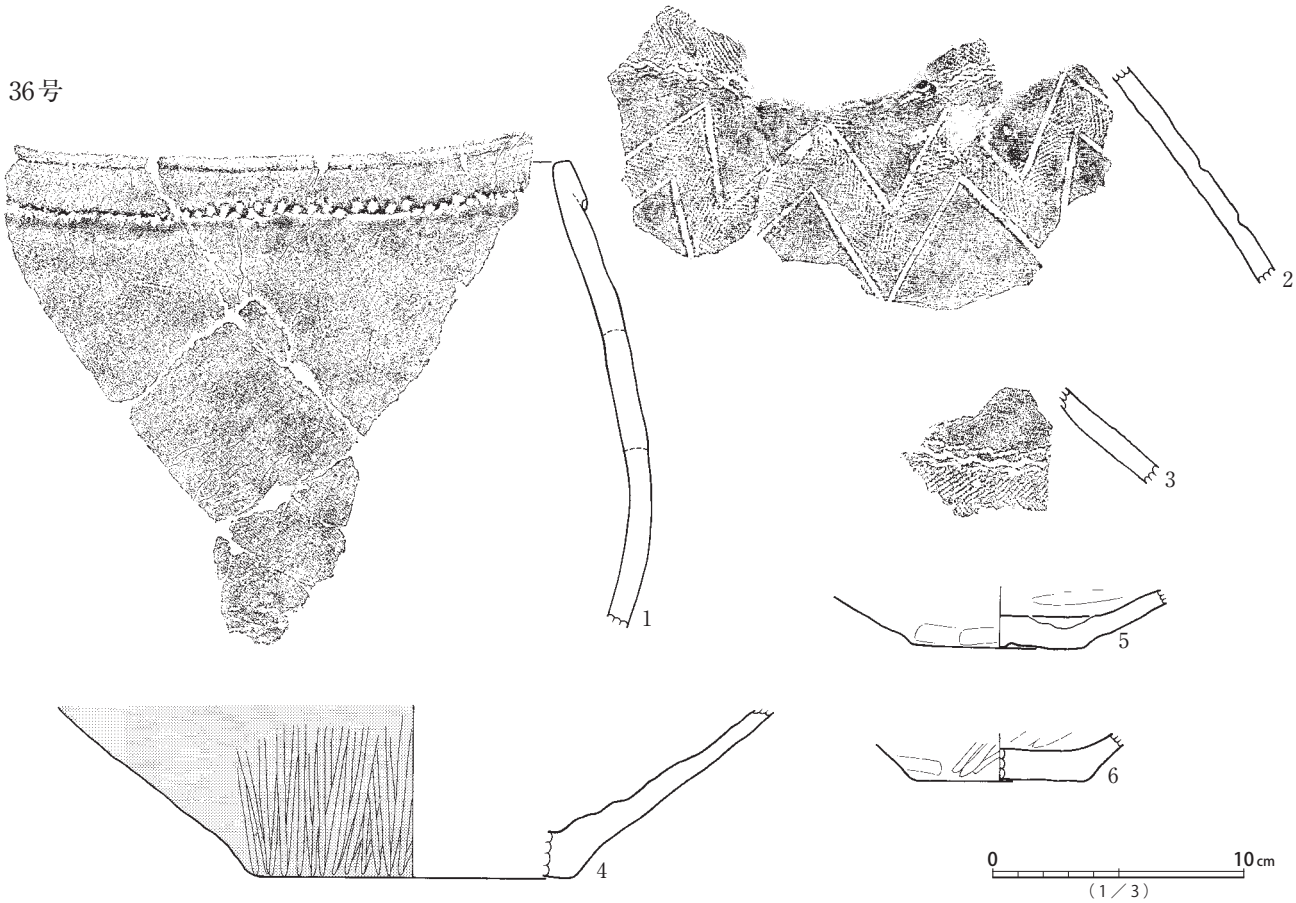




35号

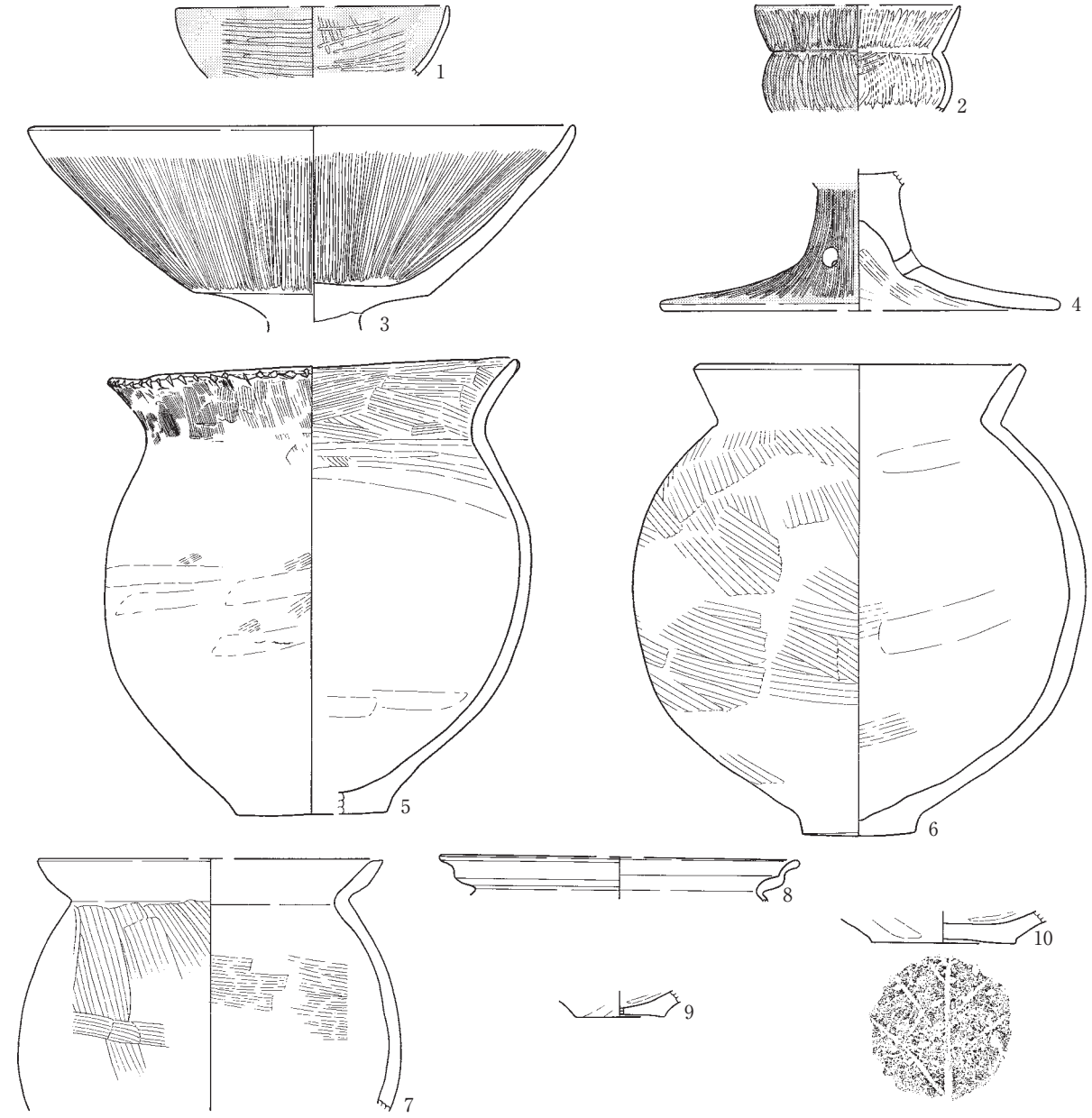


36号

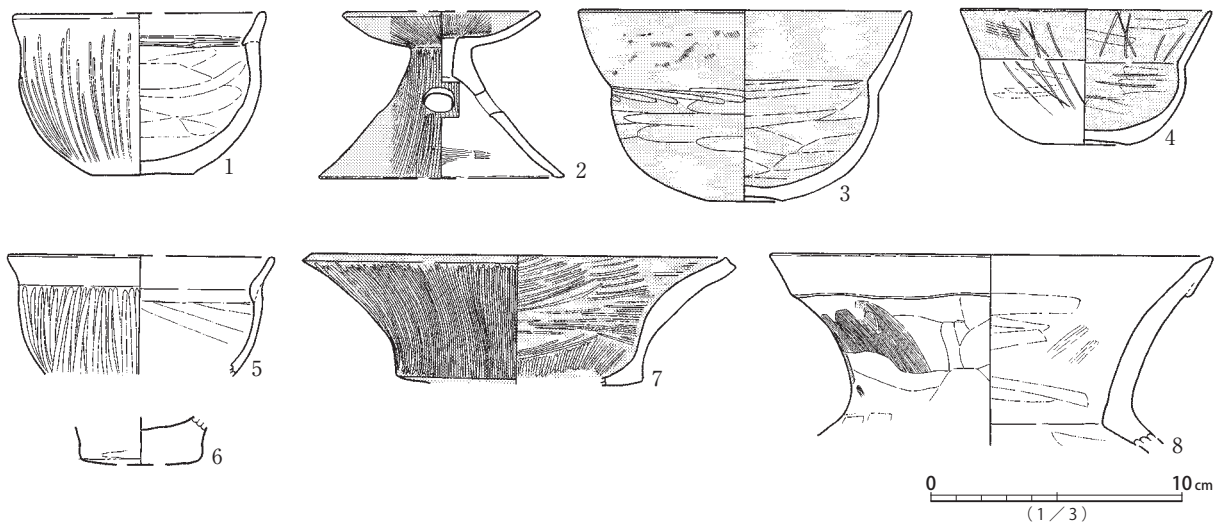


第88図　32号(2)・34～36号 遺構出土遺物実測図

37号

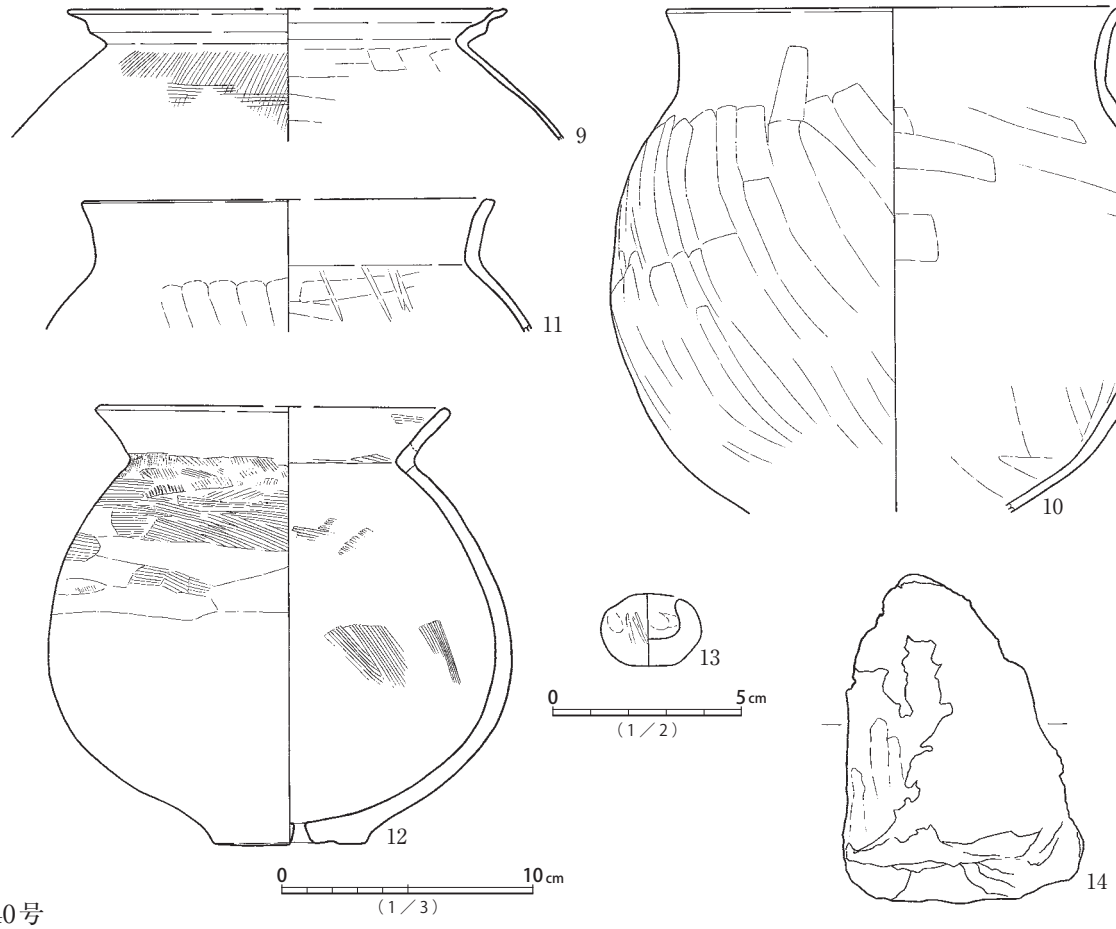


38号

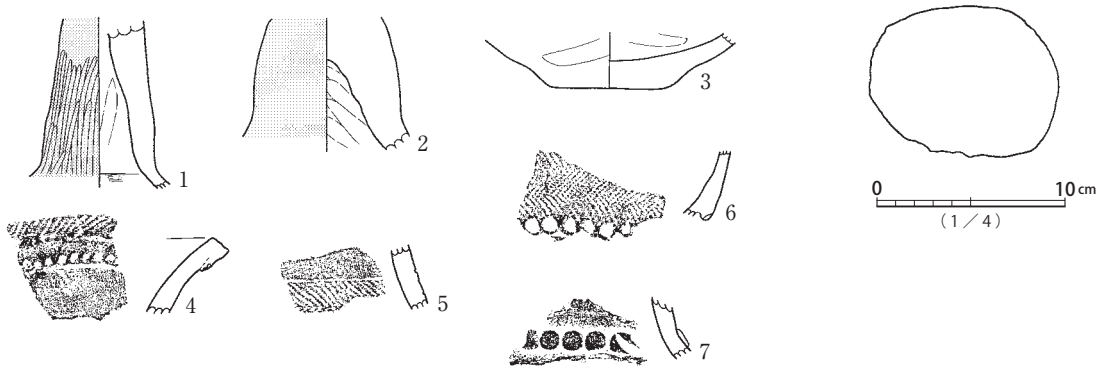


第89図　37号・38号(1) 遺構出土遺物実測図

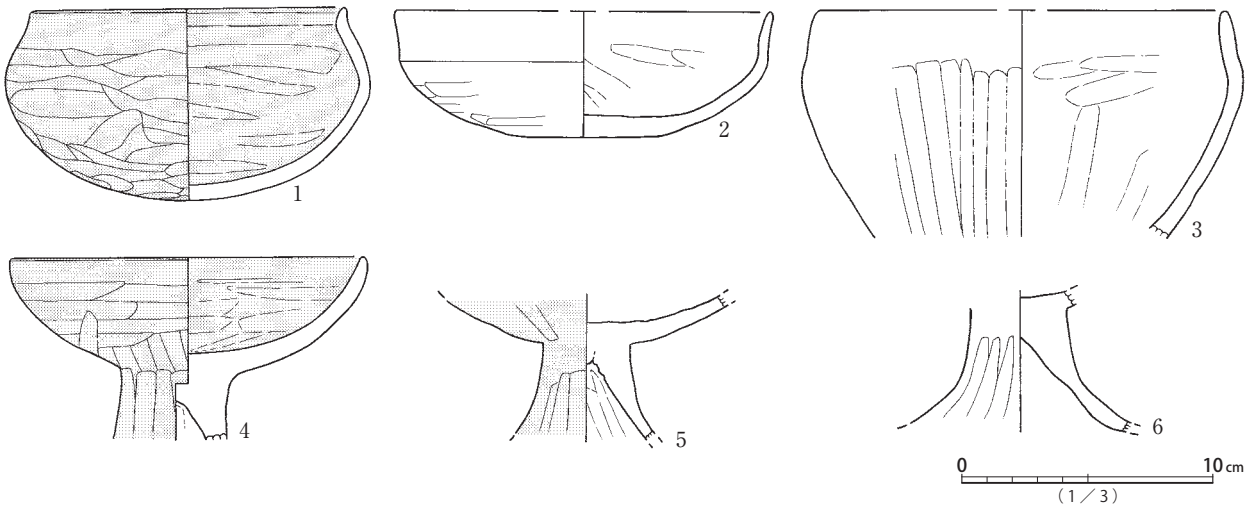
38号



40号

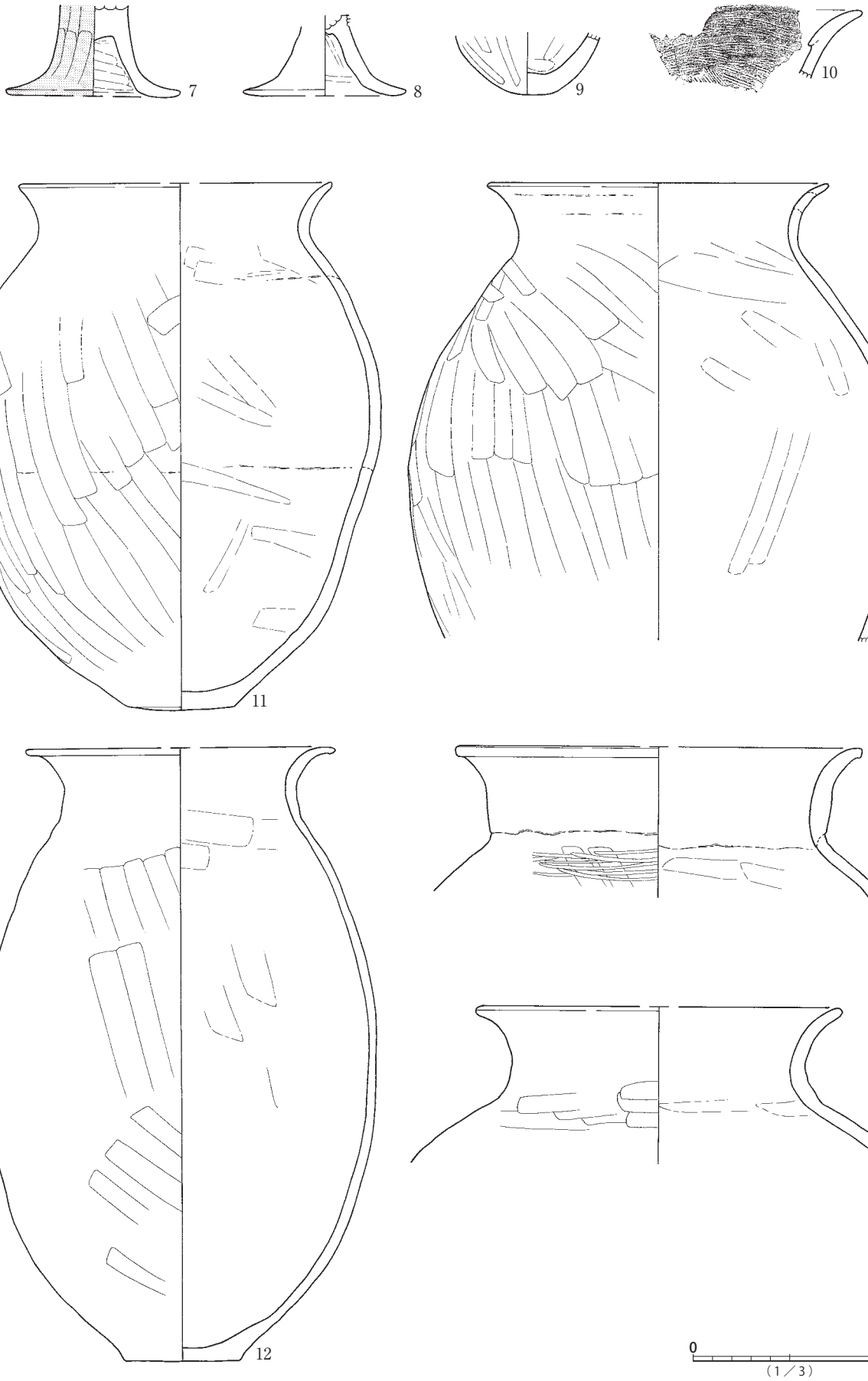


42号



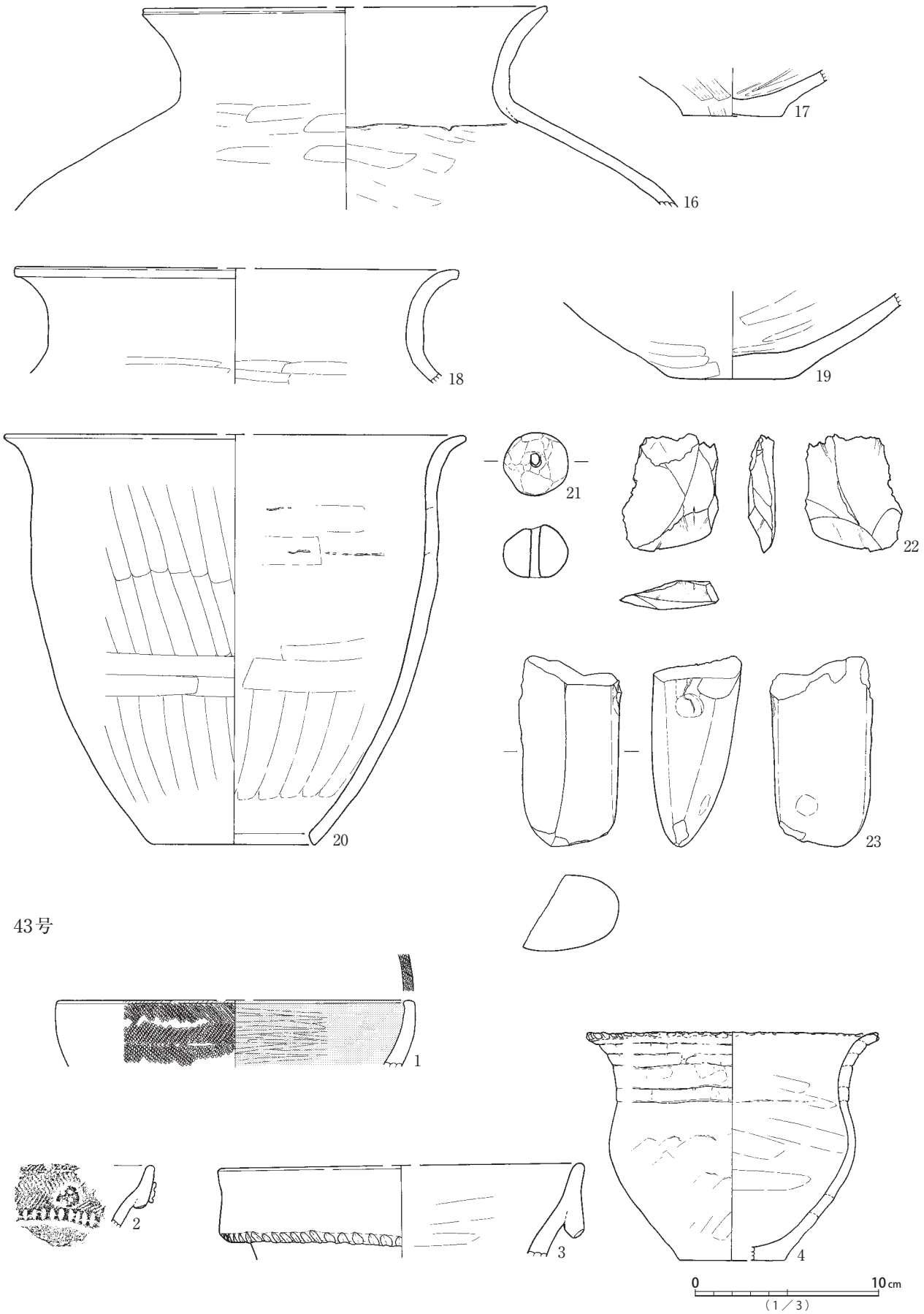
第90図　38号(2)・40号・42号(1) 遺構出土遺物実測図

42号



第91図　42号(2) 遺構出土遺物実測図

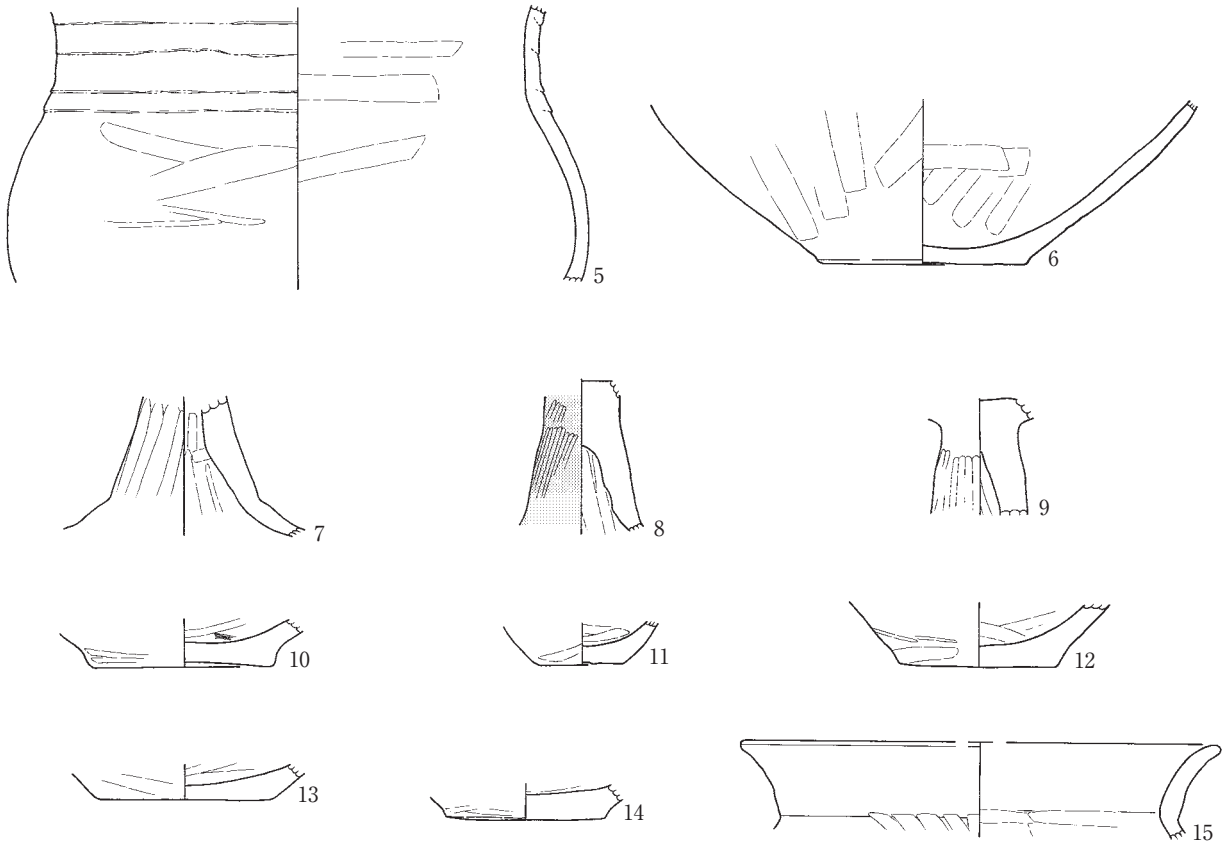
42号



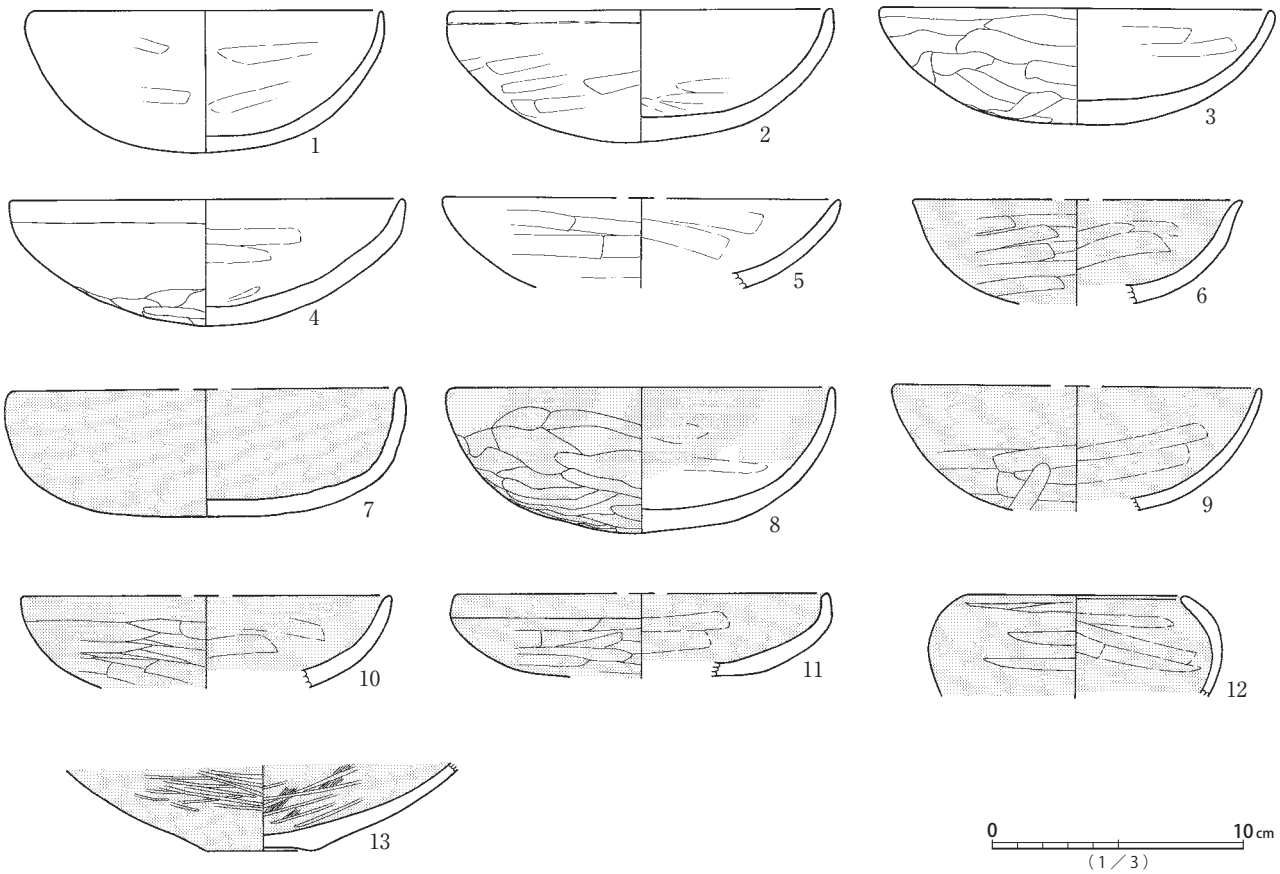
43号

第92図　42号(3)・43号(1) 遺構出土遺物実測図

43号



44号



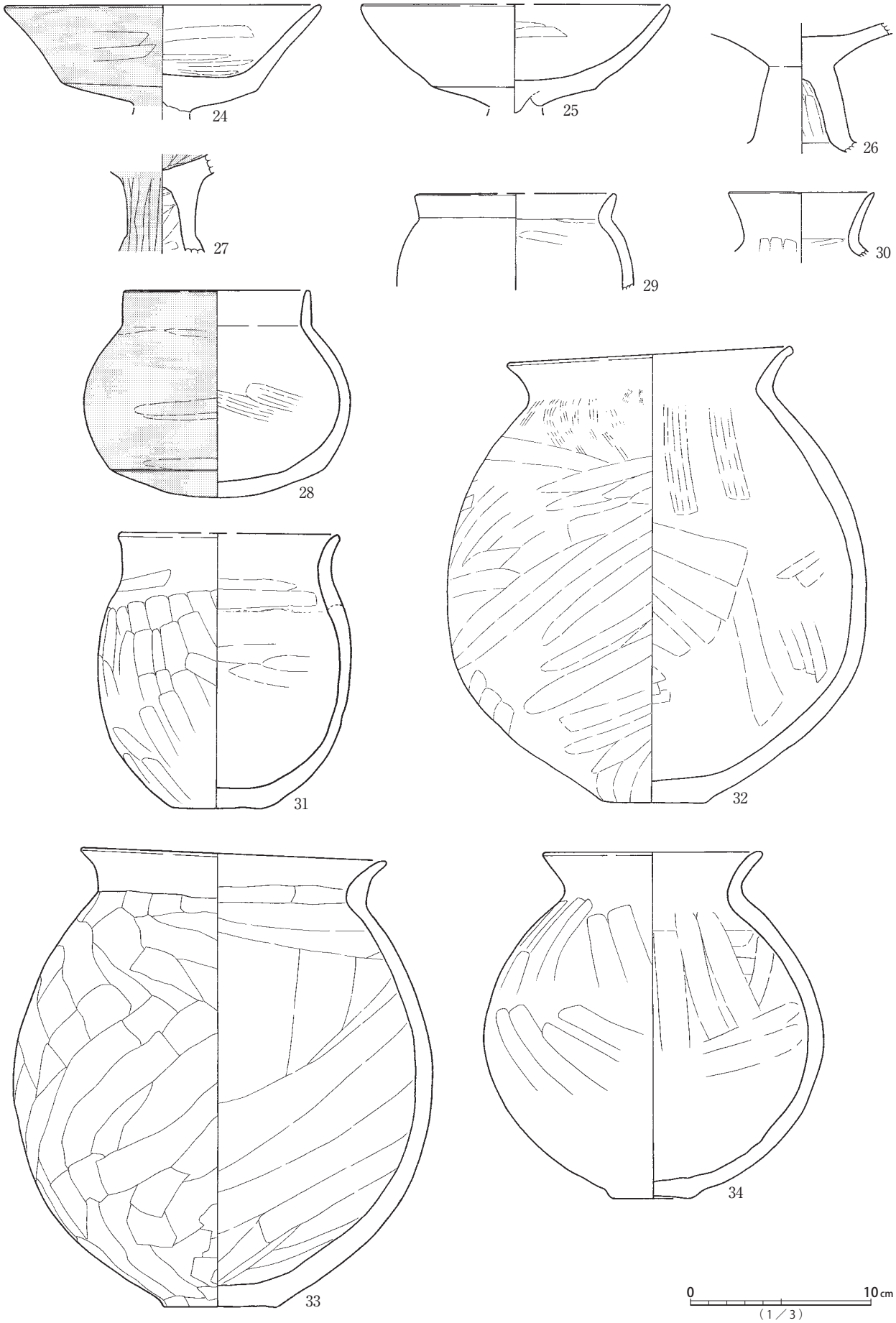
第93図　43号(2)・44号(1) 遺構出土遺物実測図

44号



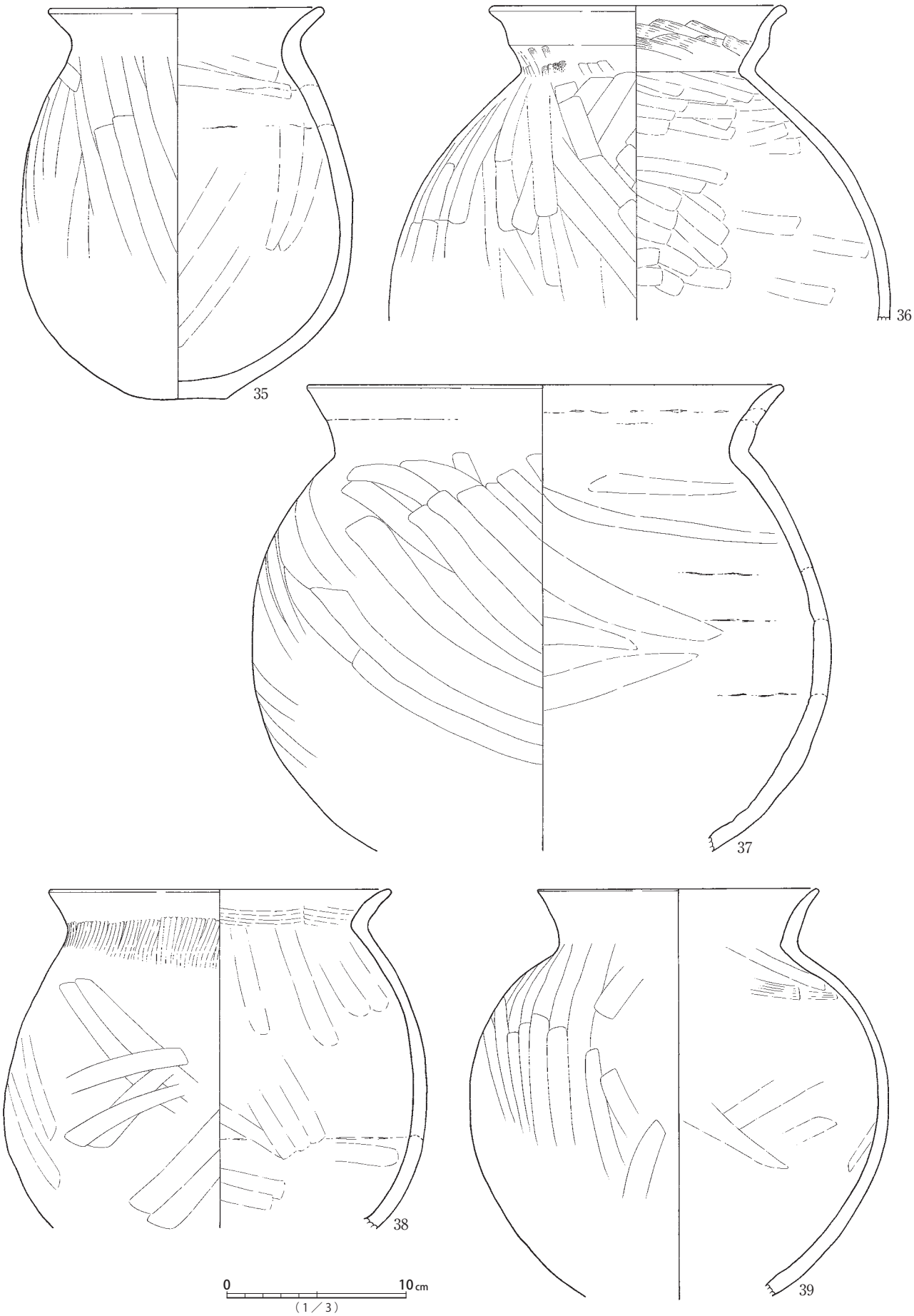
第94図　44号(2) 遺構出土遺物実測図

44号



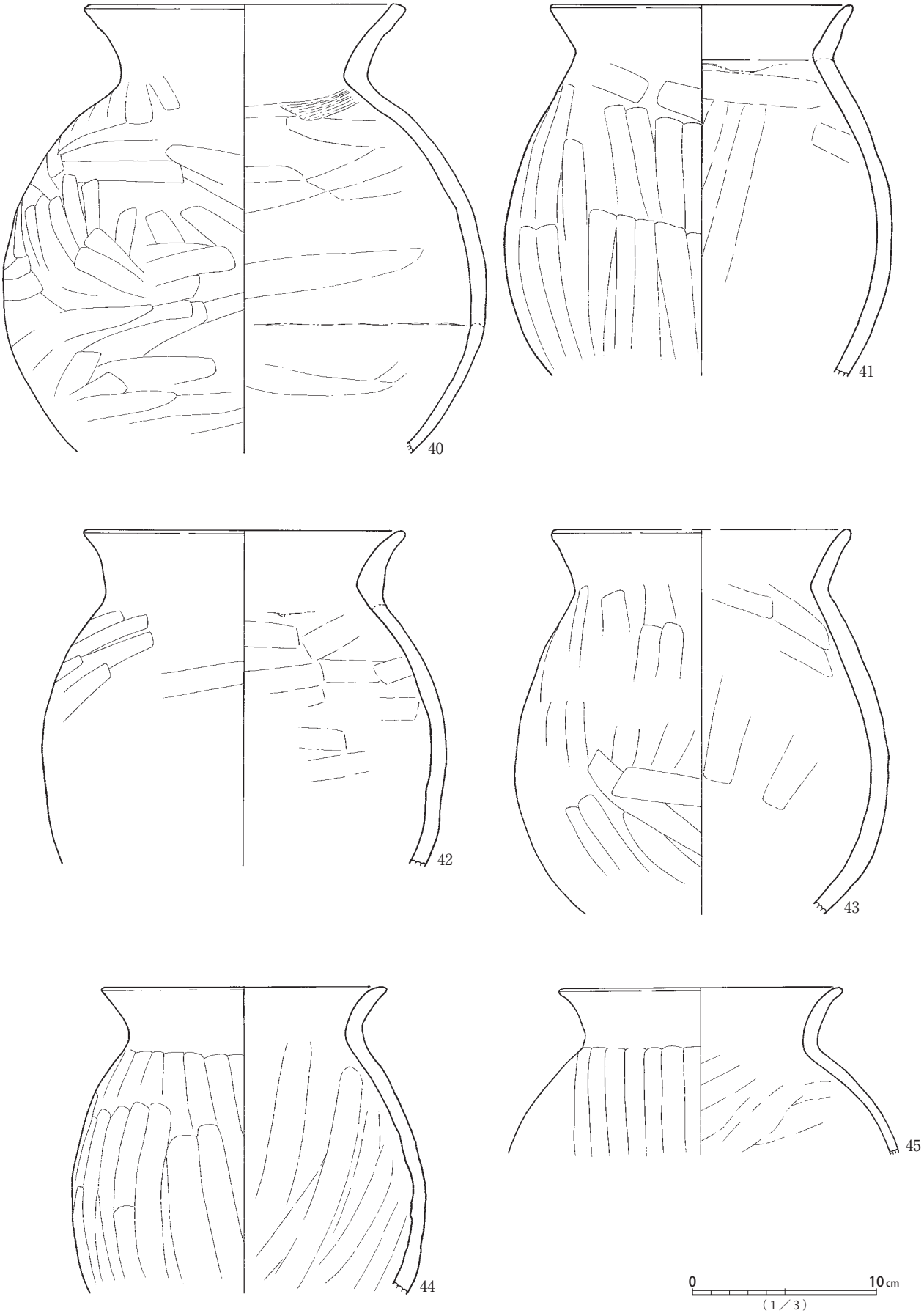
第95図　44号(3) 遺構出土遺物実測図

44号



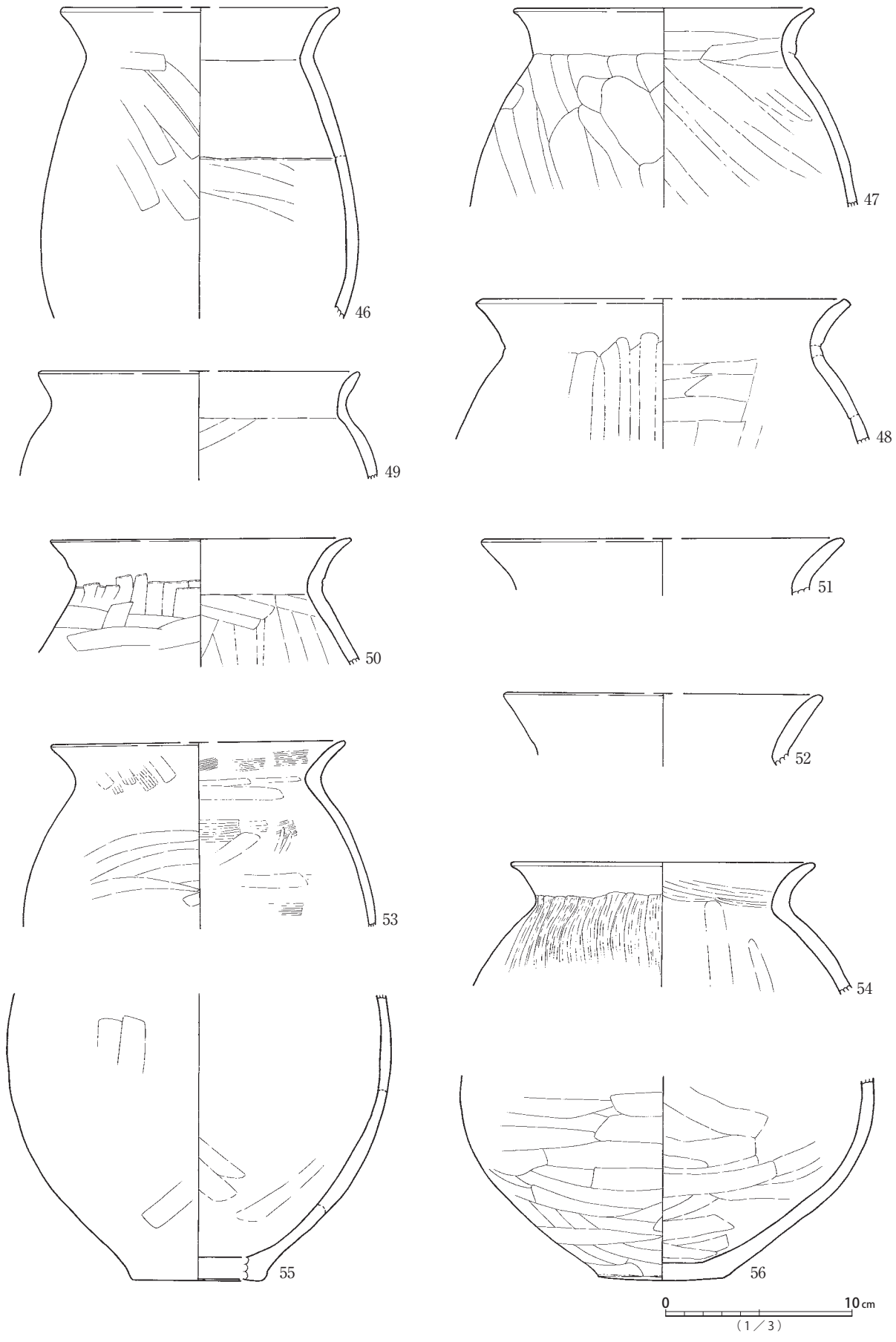
第96図　44号(4) 遺構出土遺物実測図

44 号



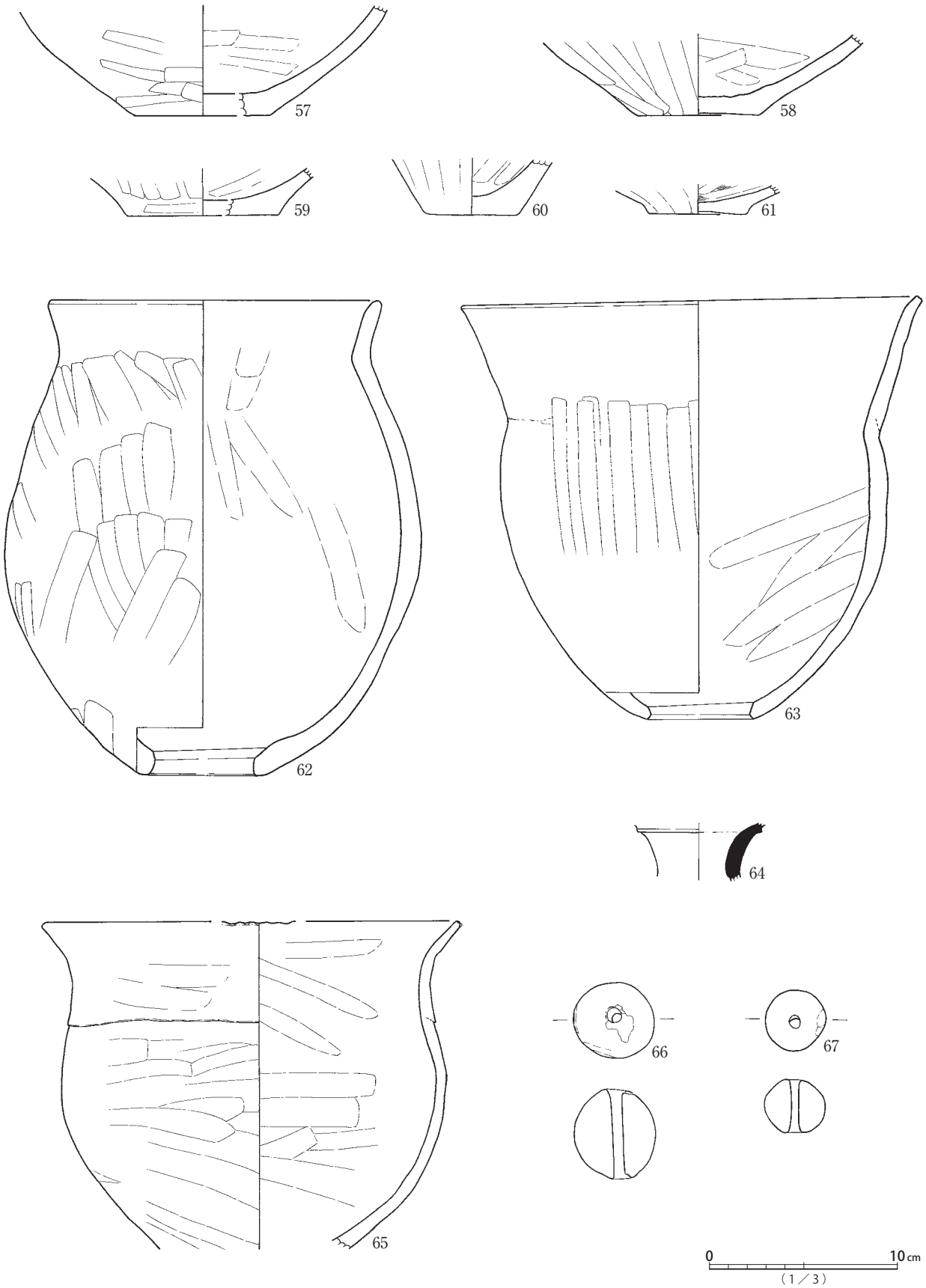
第97図　44号(5) 遺構出土遺物実測図

44号



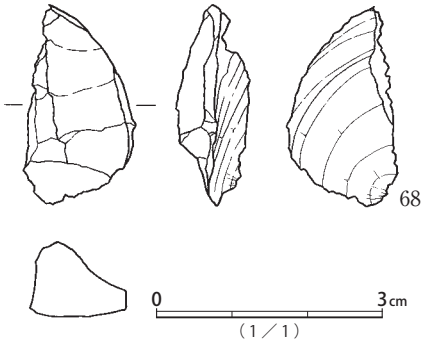
第98図　44号(6) 遺構出土遺物実測図

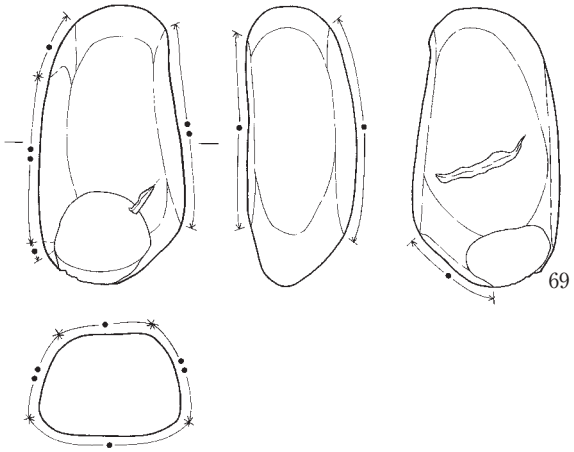
44号



第99図　44号(7) 遺構出土遺物実測図

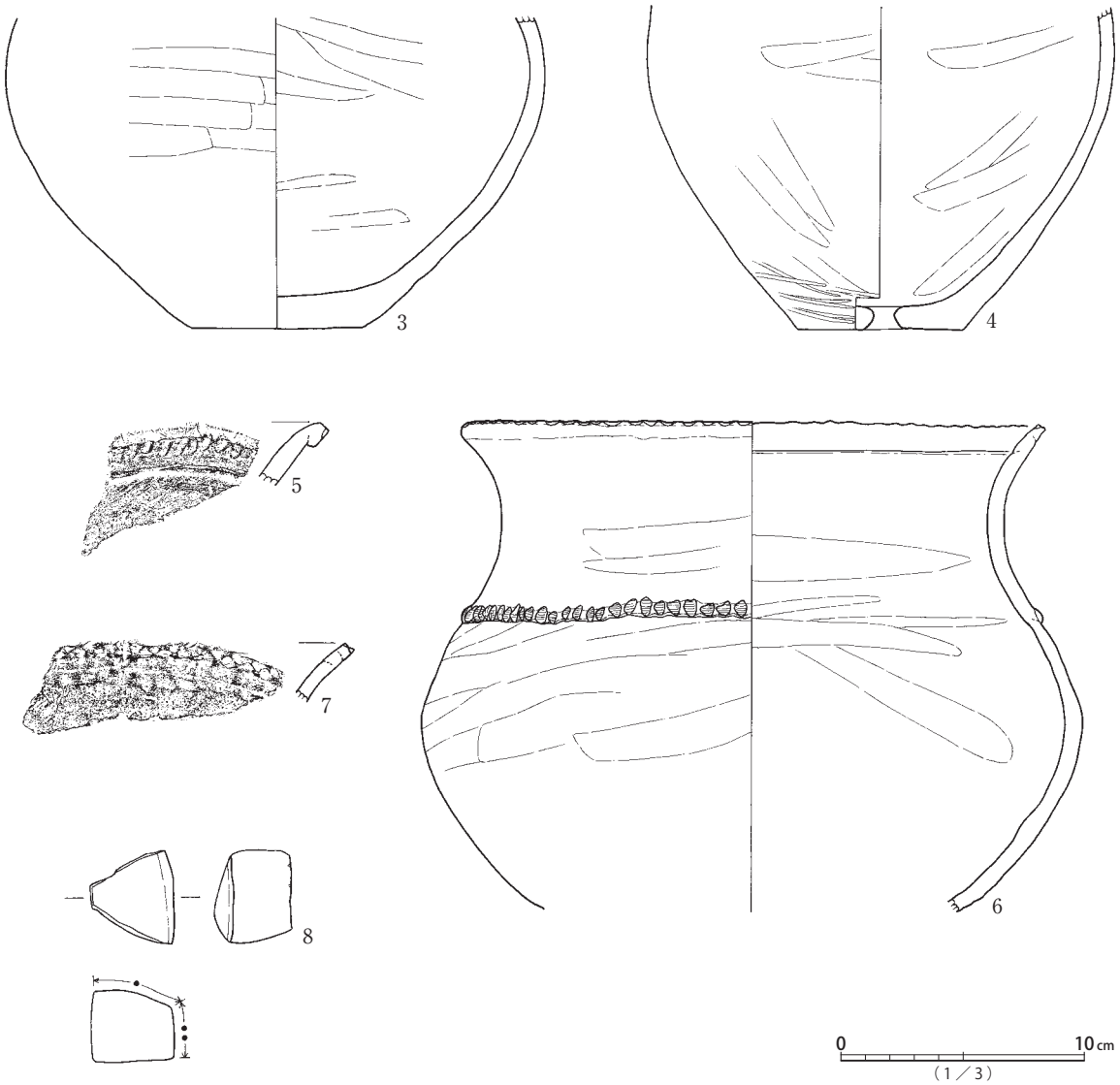
44号





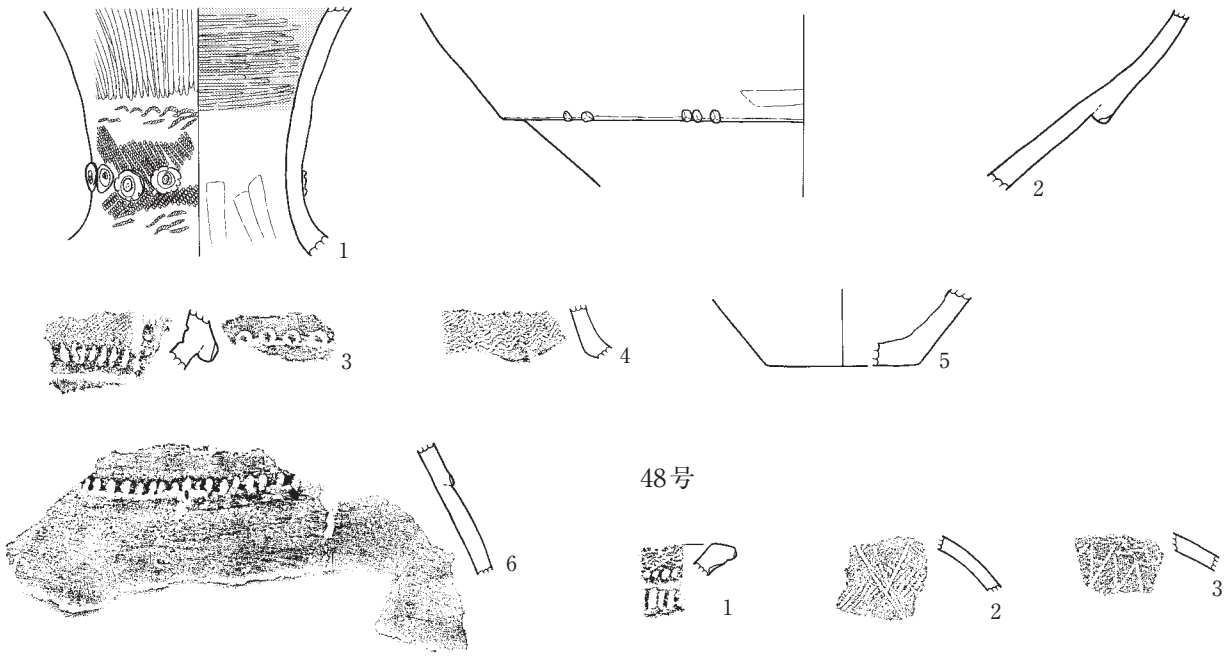
45号





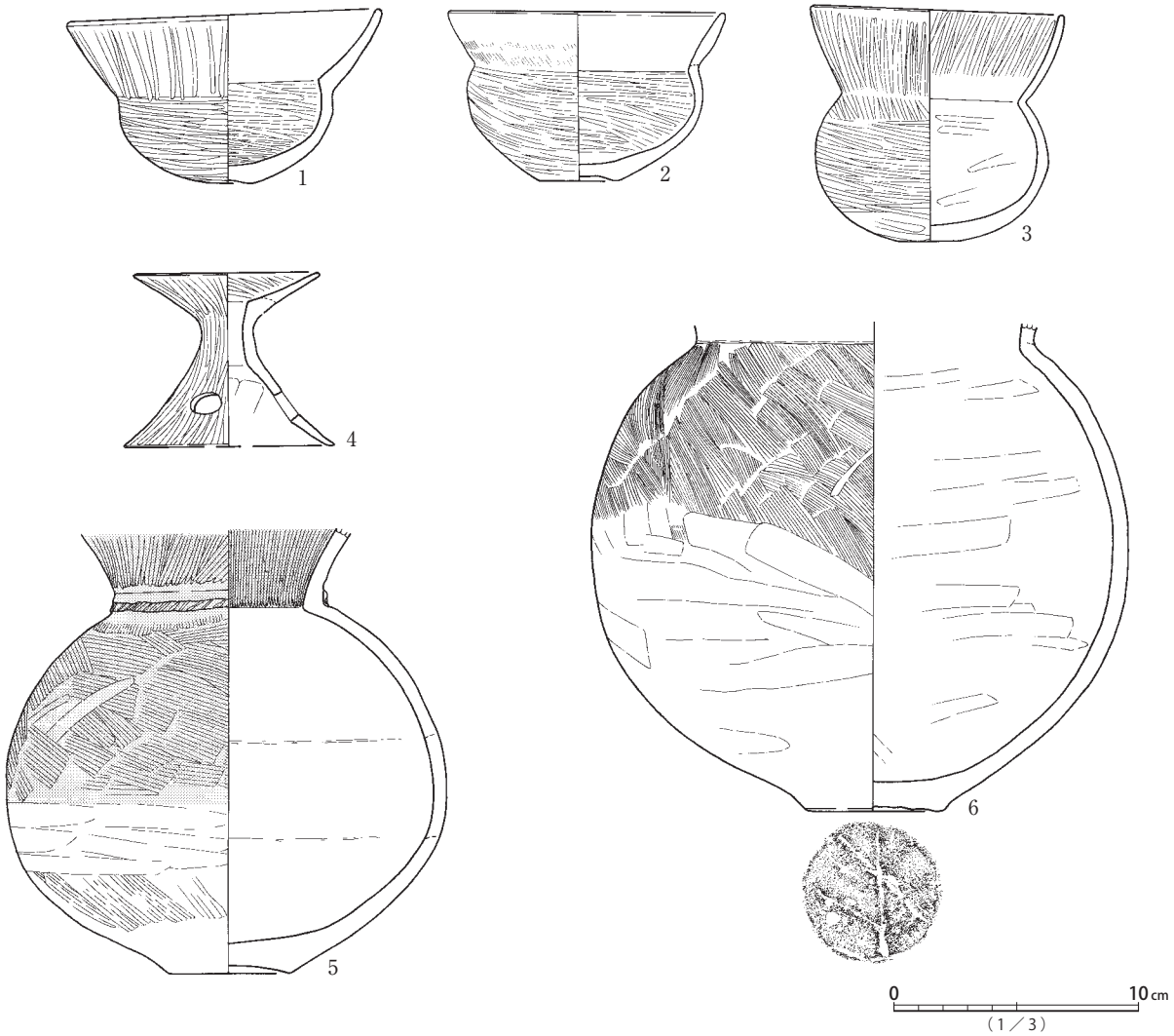
第100図　44号(8)・45号 遺構出土遺物実測図

47号

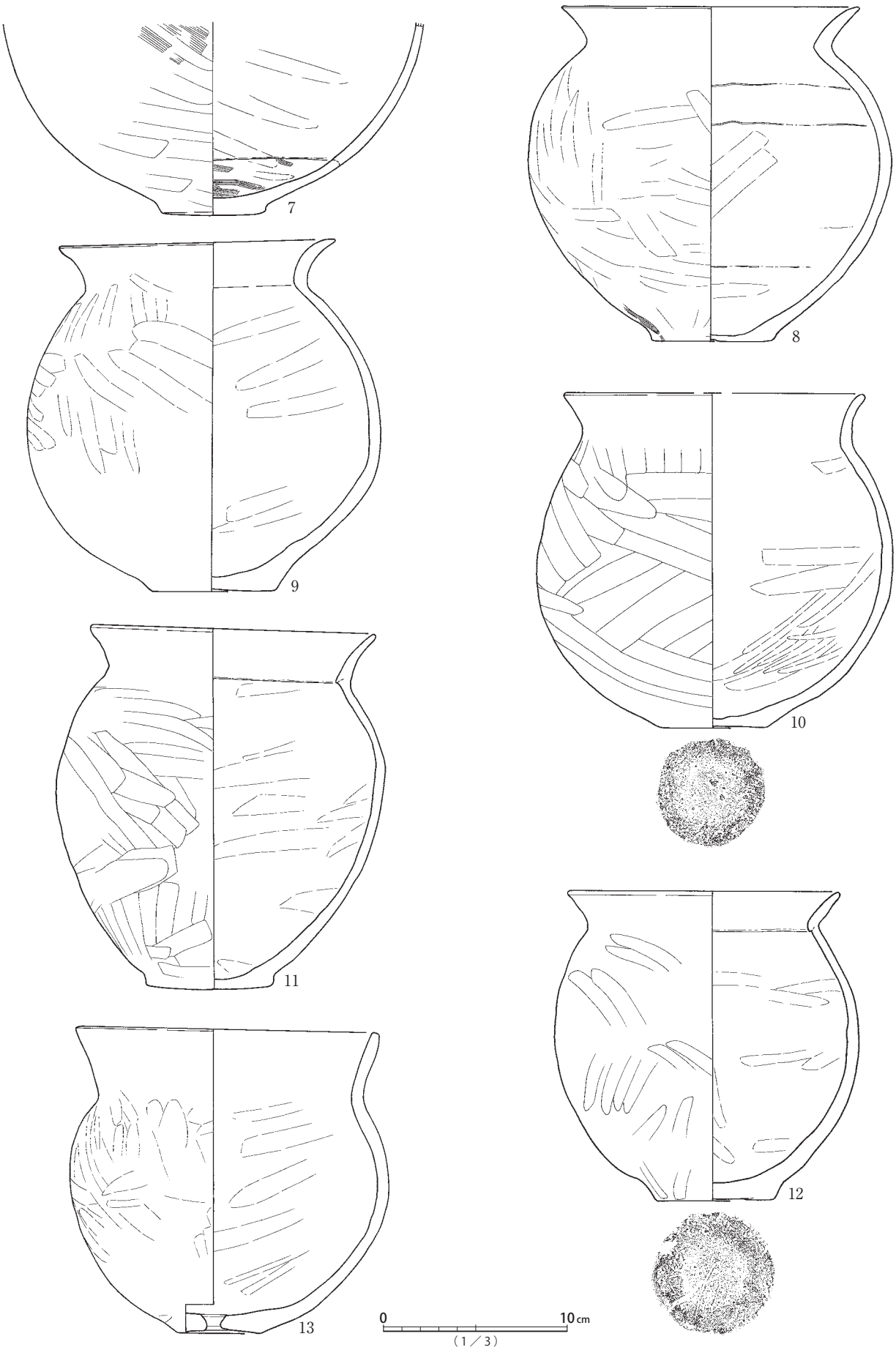


48号

49号

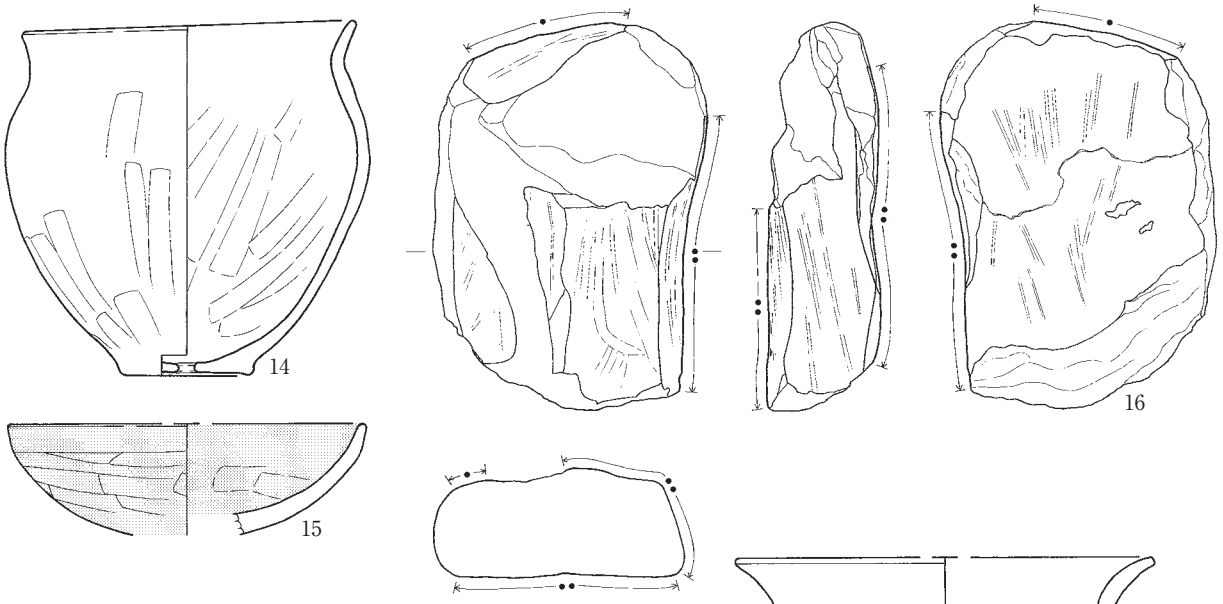


第101図　47号・48号・49号(1) 遺構出土遺物実測図

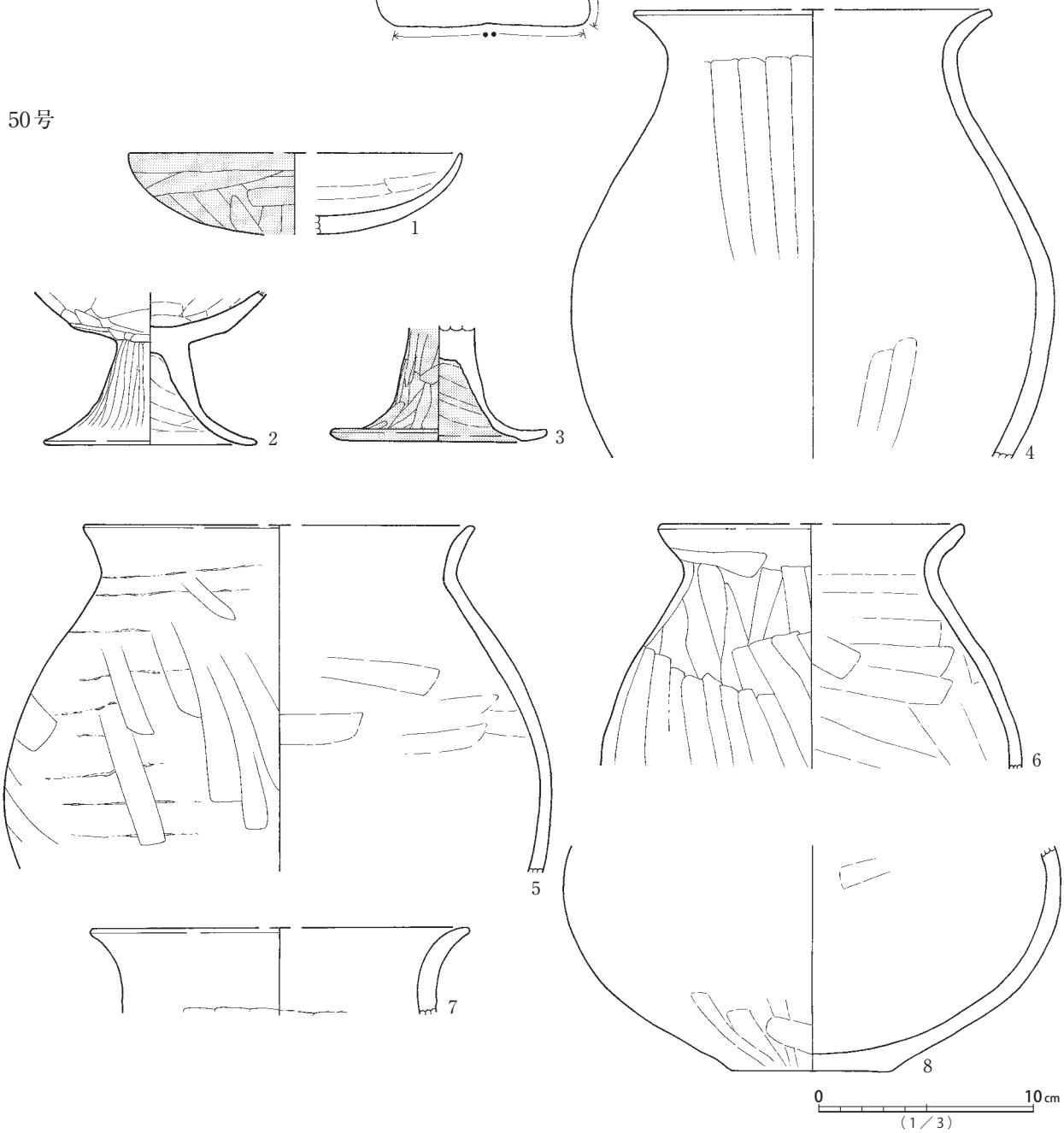


第102図　49号(2) 遺構出土遺物実測図

49号

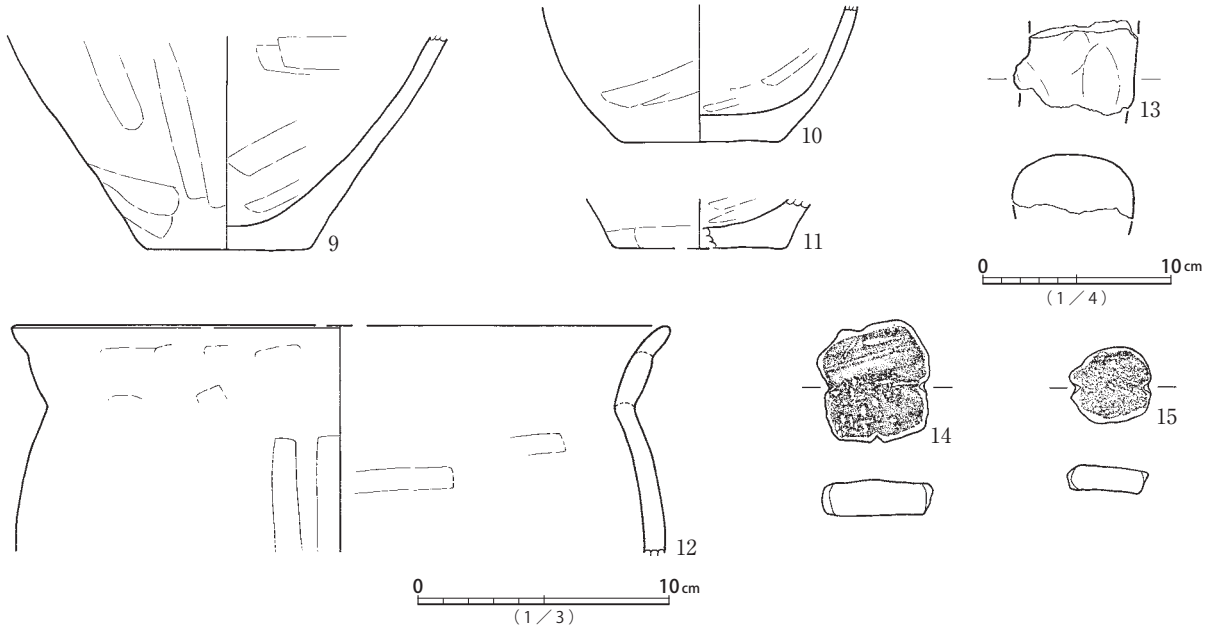


50号

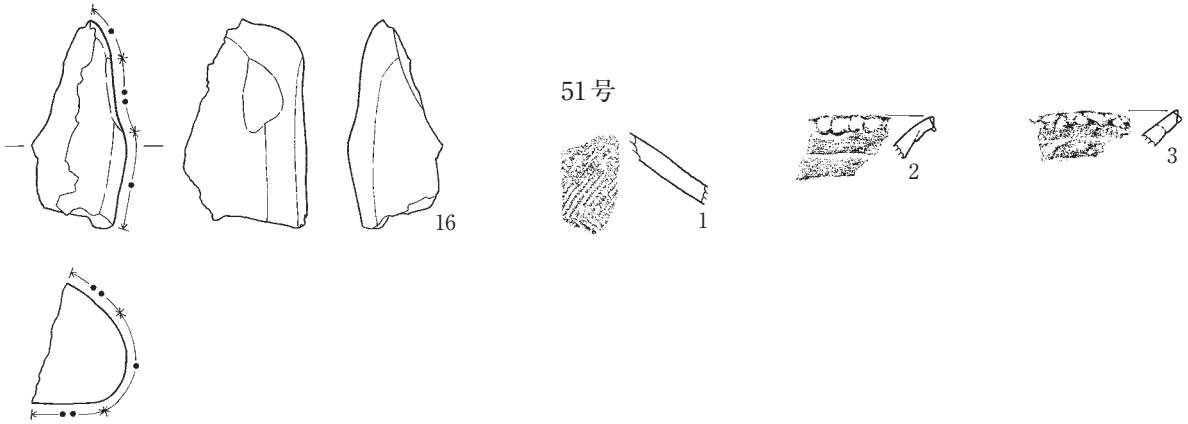


第103図　49号(3)・50号(1) 遺構出土遺物実測図

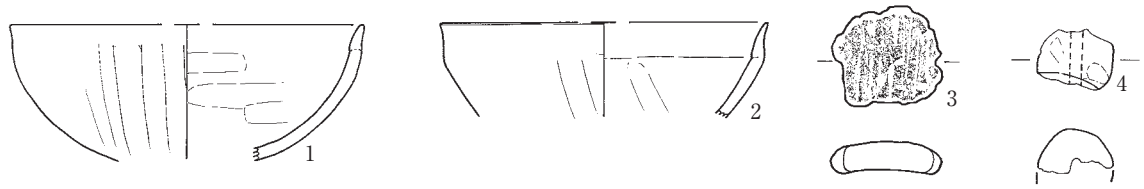
50号



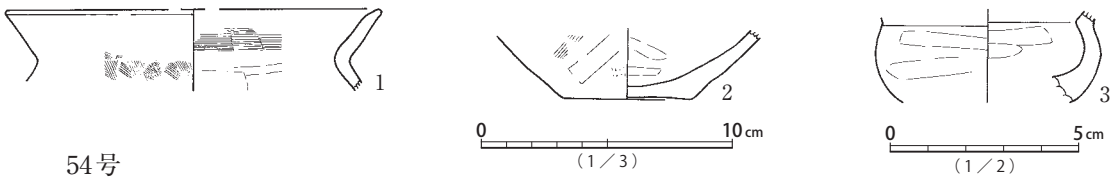
51号



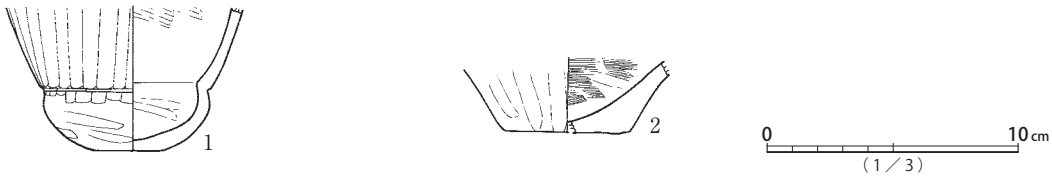
52号



53号

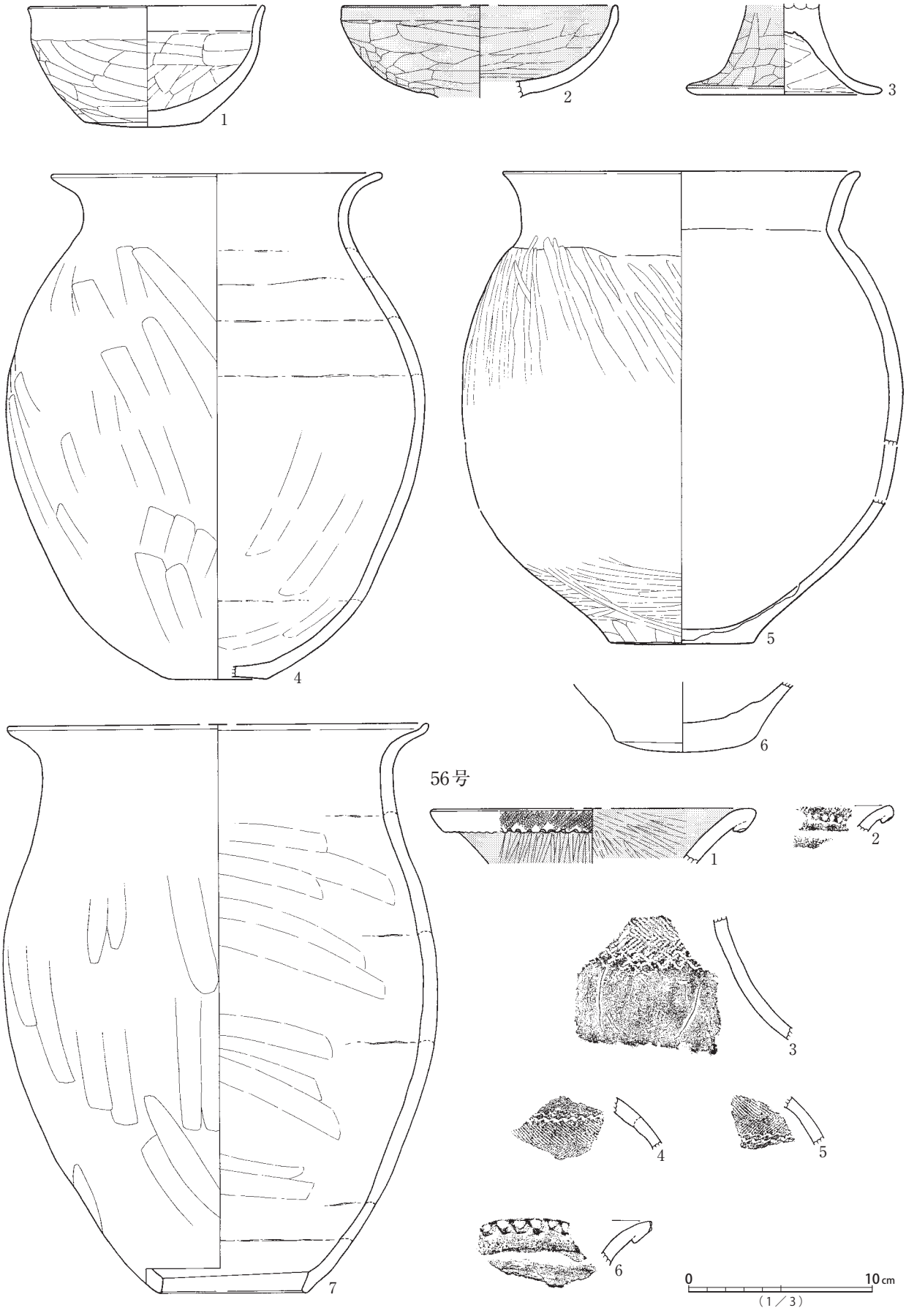


54号



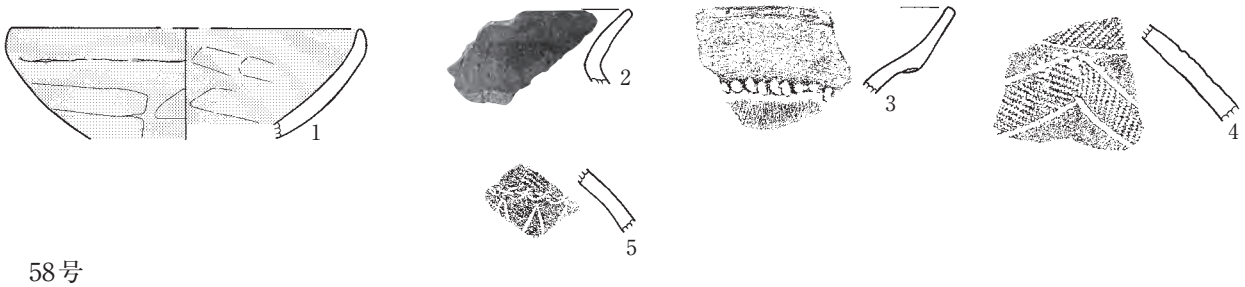
第104図　50号(2)・51～54号 遺構出土遺物実測図

55号

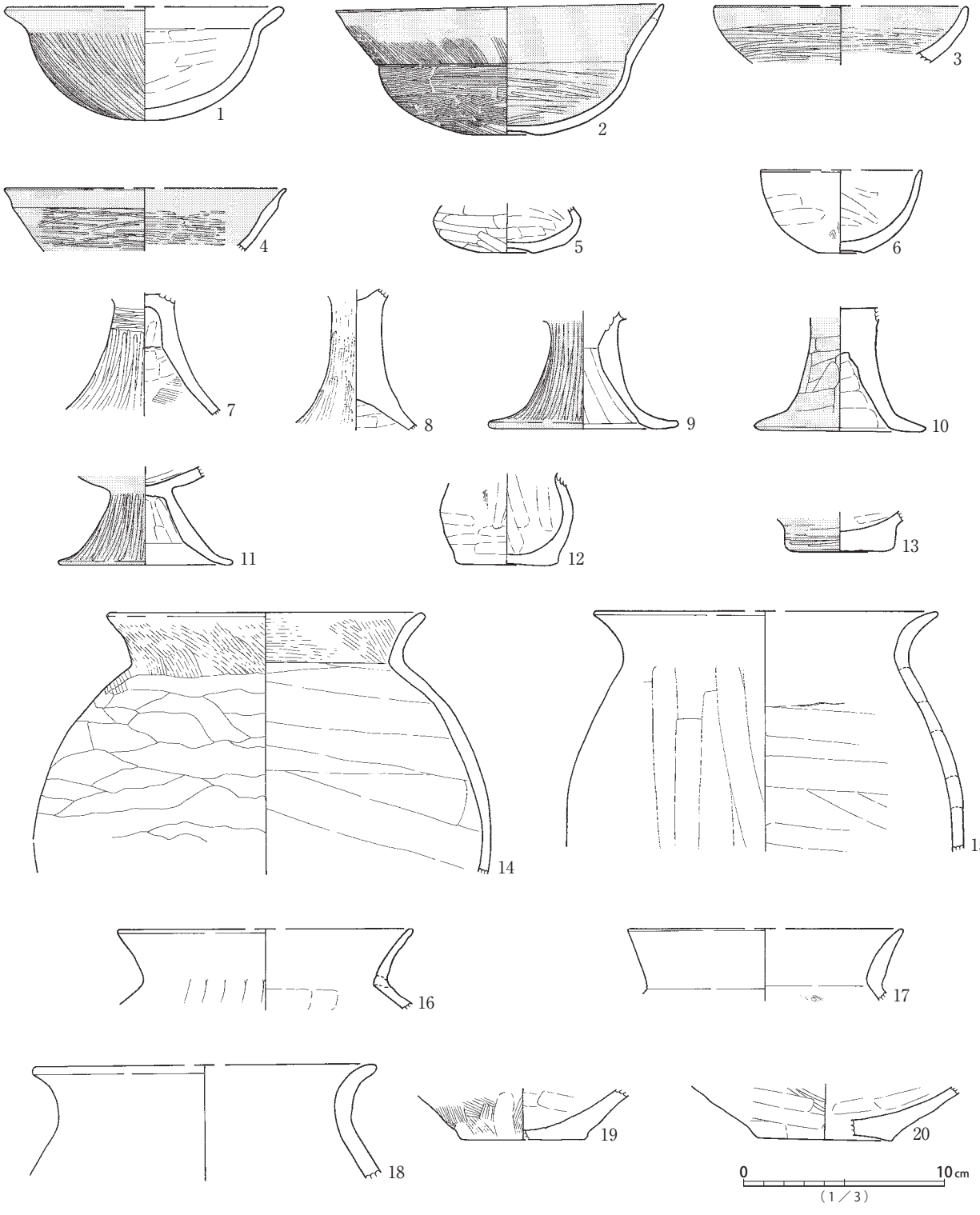


第105図　55号・56号 遺構出土遺物実測図

57号

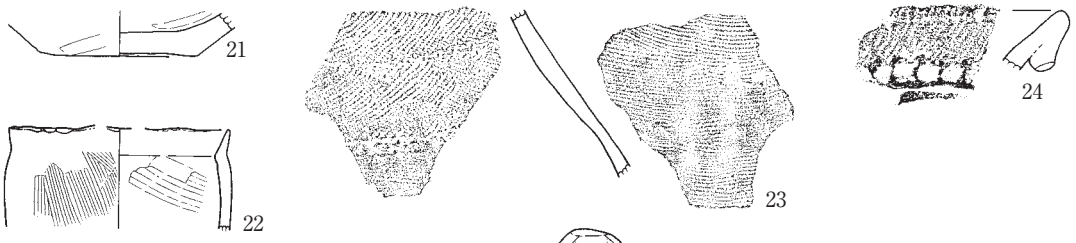


58号

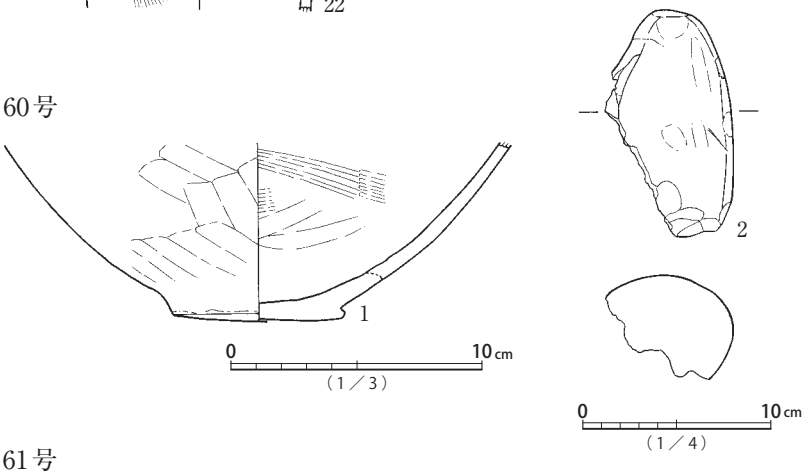


第106図　57号・58号(1) 遺構出土遺物実測図

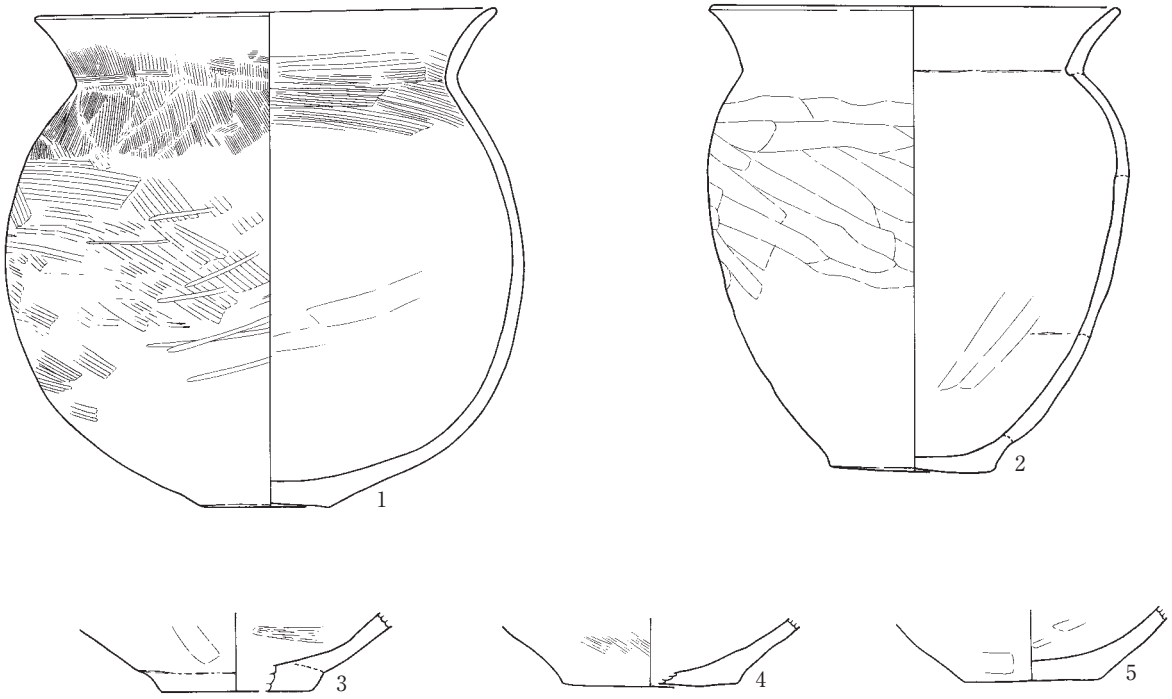
58号



60号



61号

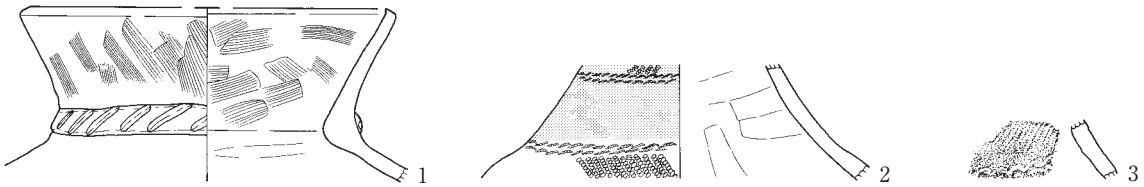


62号

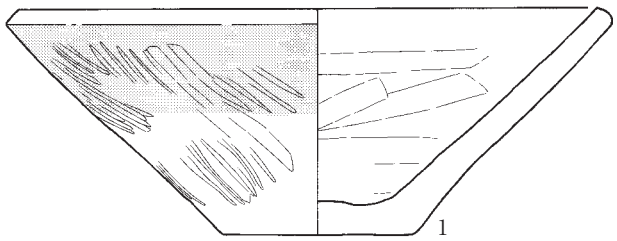


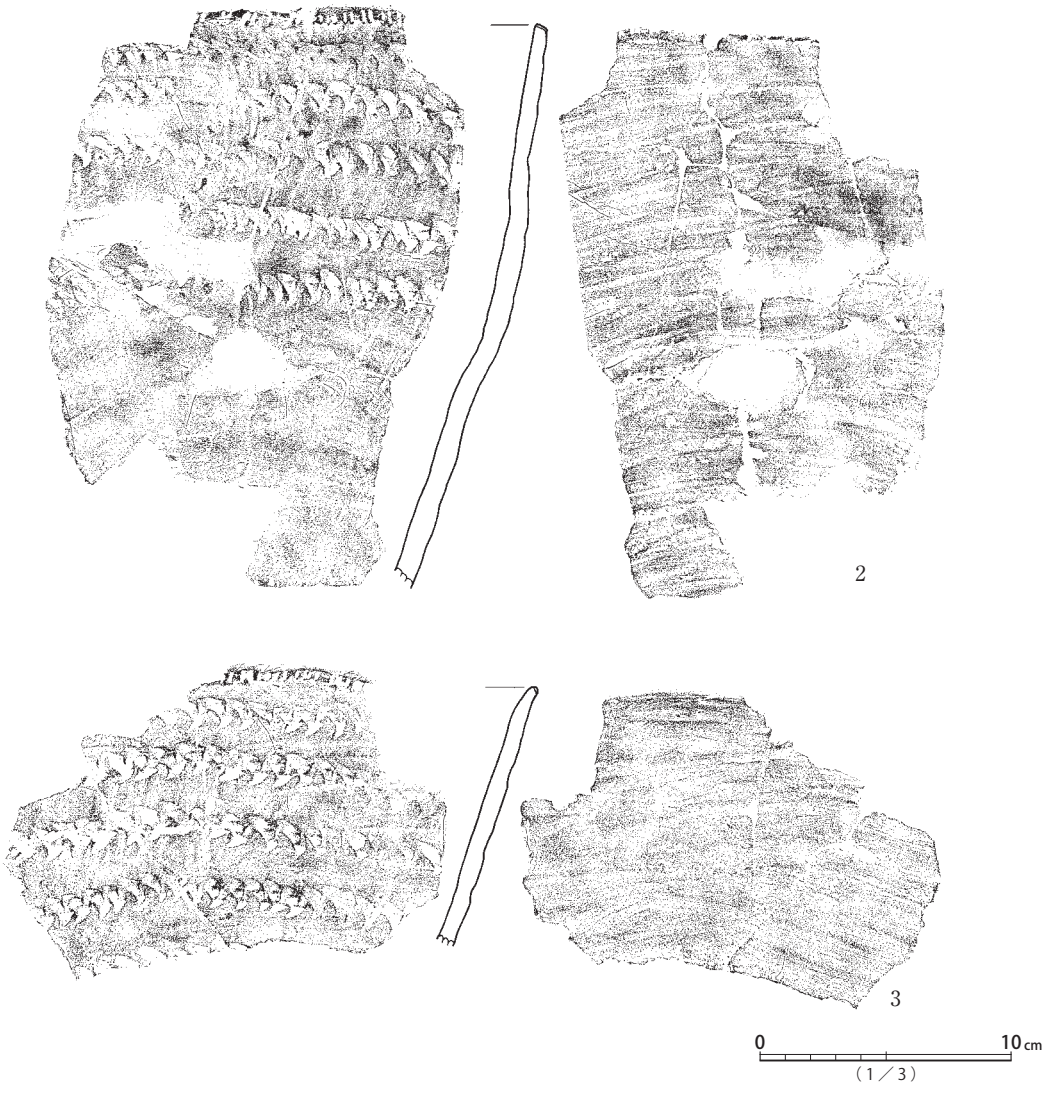
第107図　58号(2)・60～62号 遺構出土遺物実測図

64号



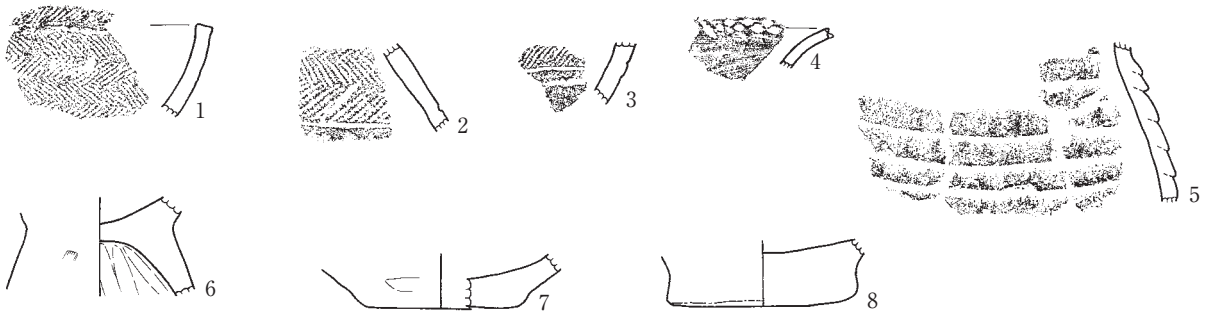
67号



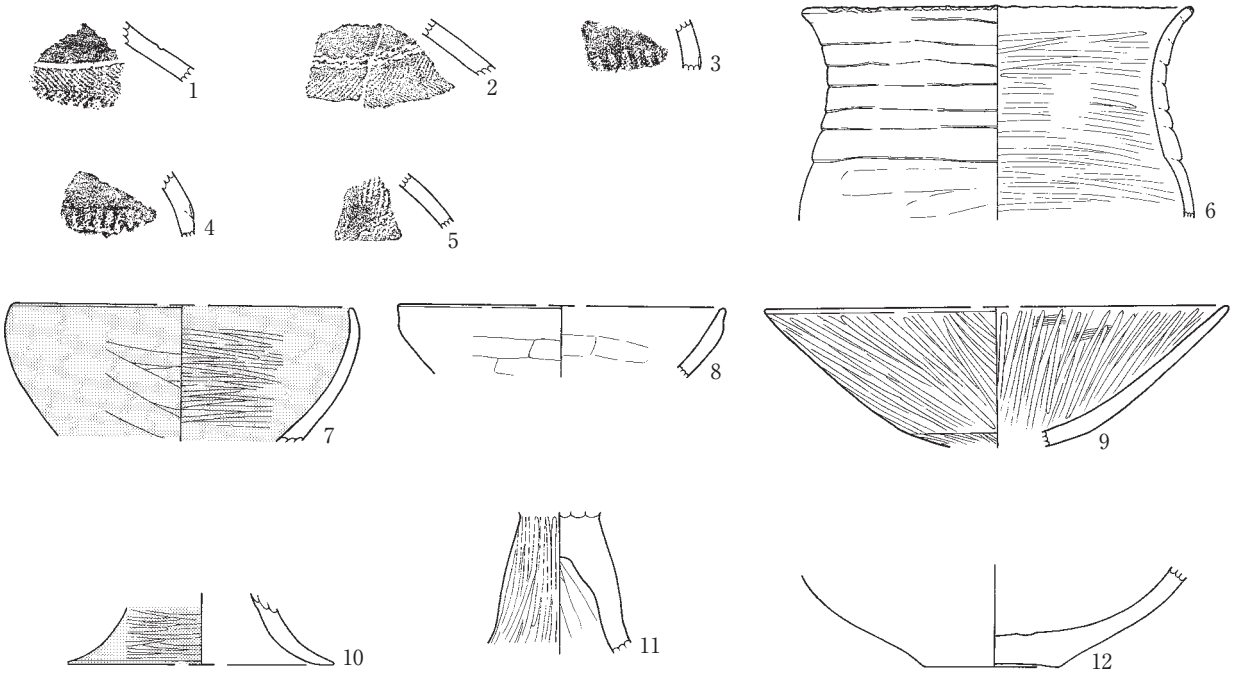


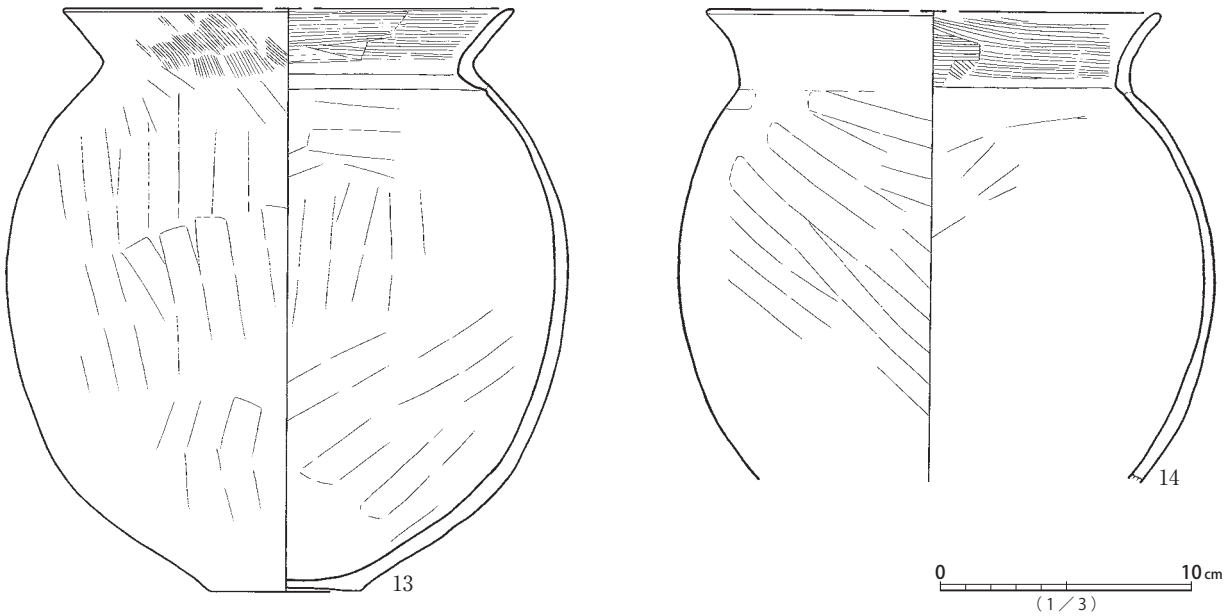
第108図　64号・67号 遺構出土遺物実測図

68号



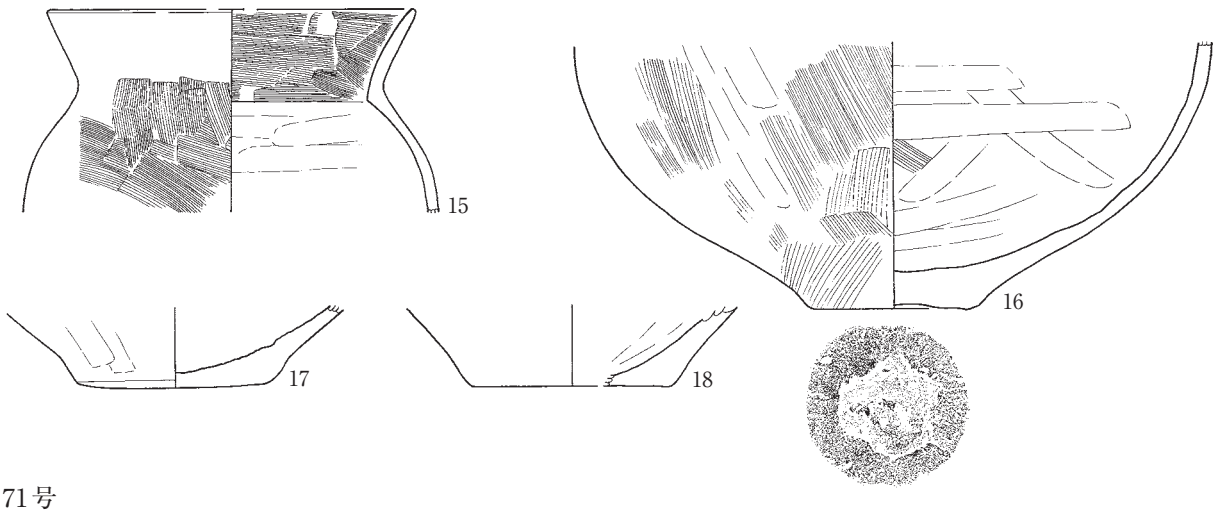
69号



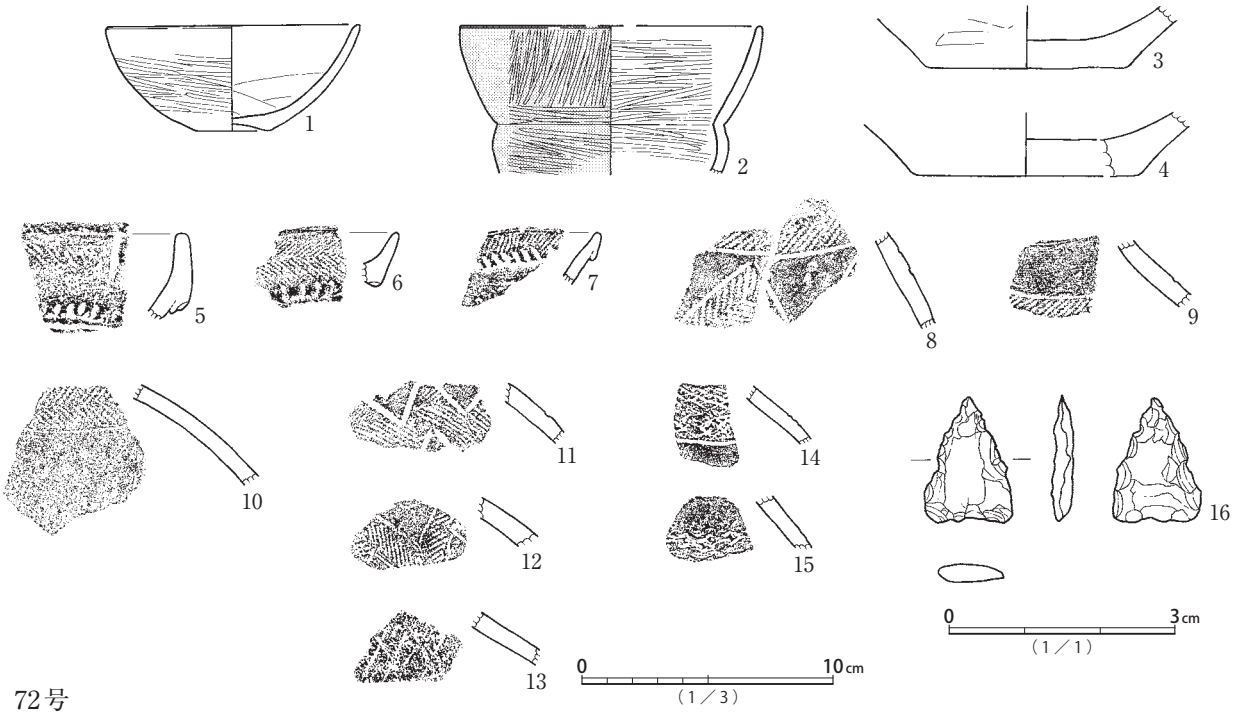


第109図　68号・69号(1) 遺構出土遺物実測図

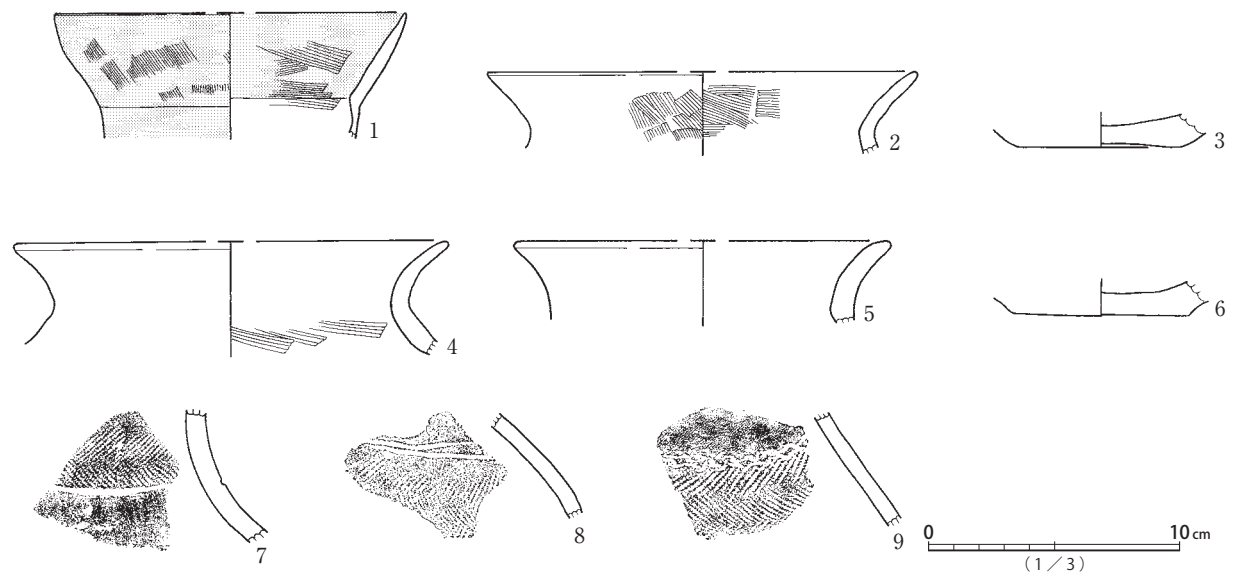
69号



71号

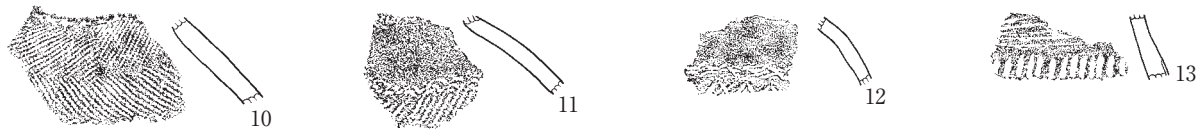


72号

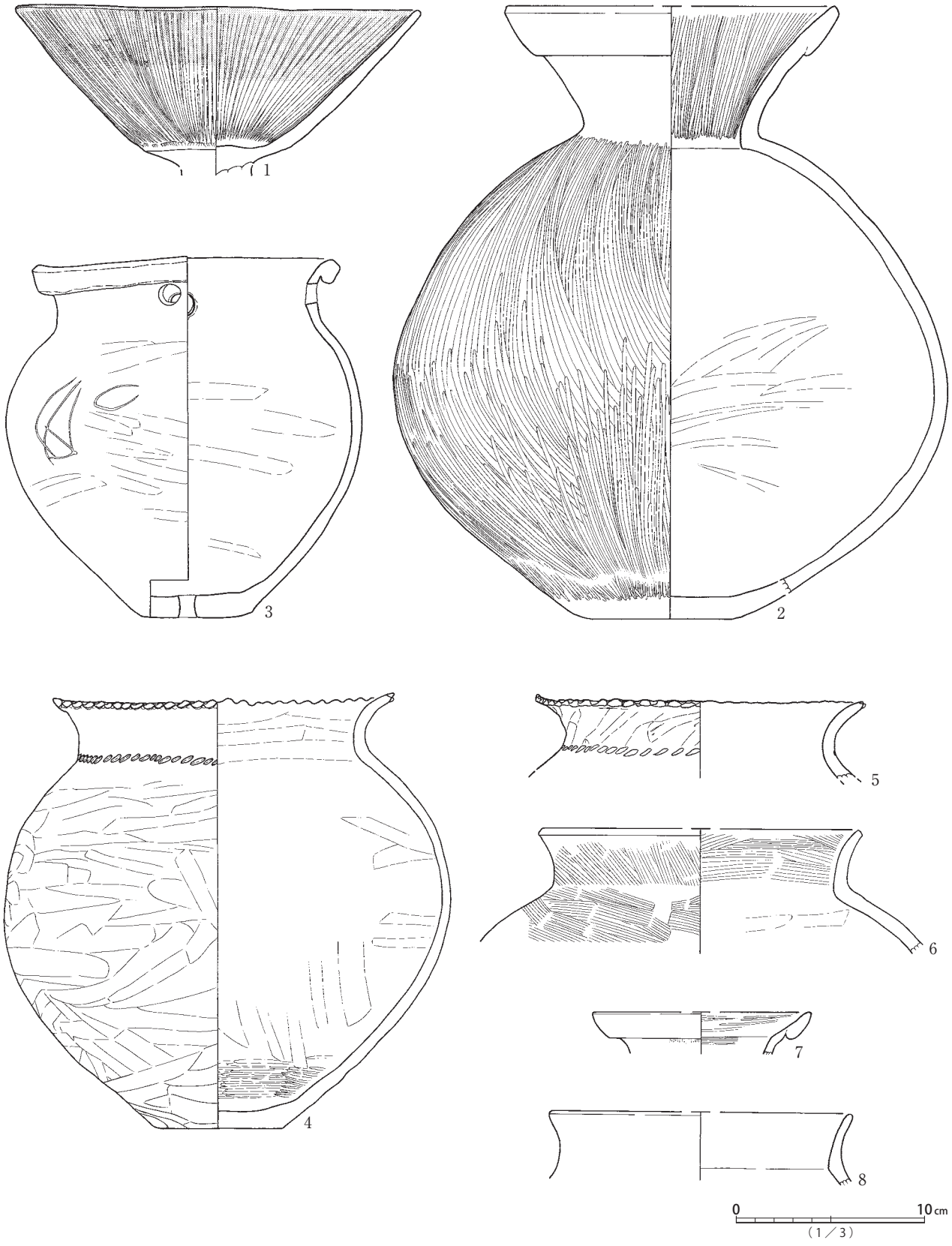


第110図　69号(2)・71号・72号(1) 遺構出土遺物実測図

72号

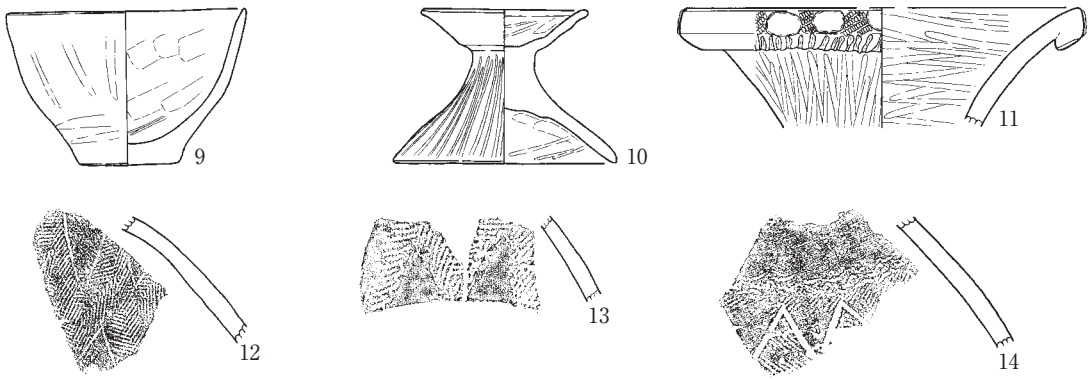


73号

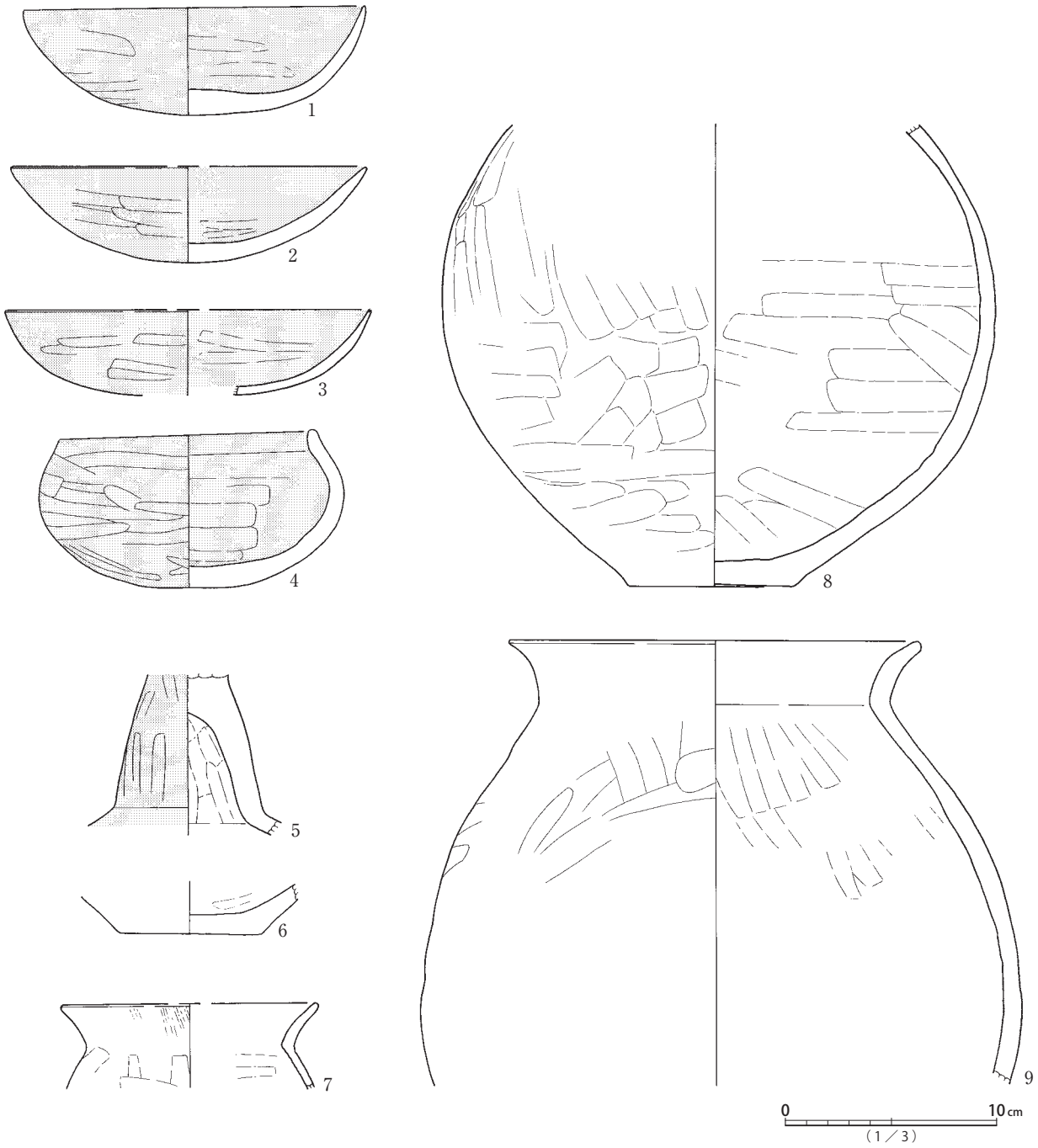


第111図　72号(2)・73号(1) 遺構出土遺物実測図

73号

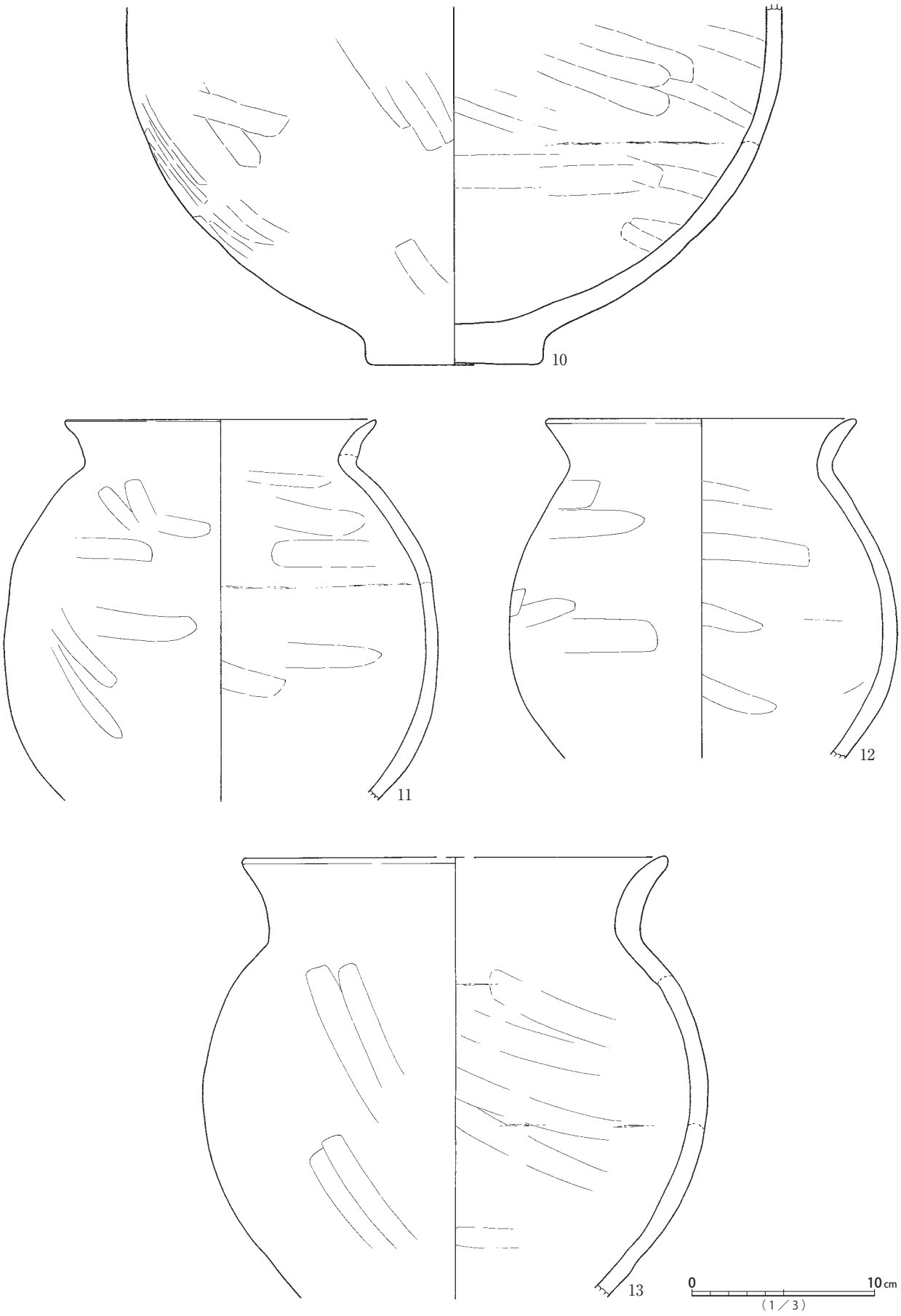


74号



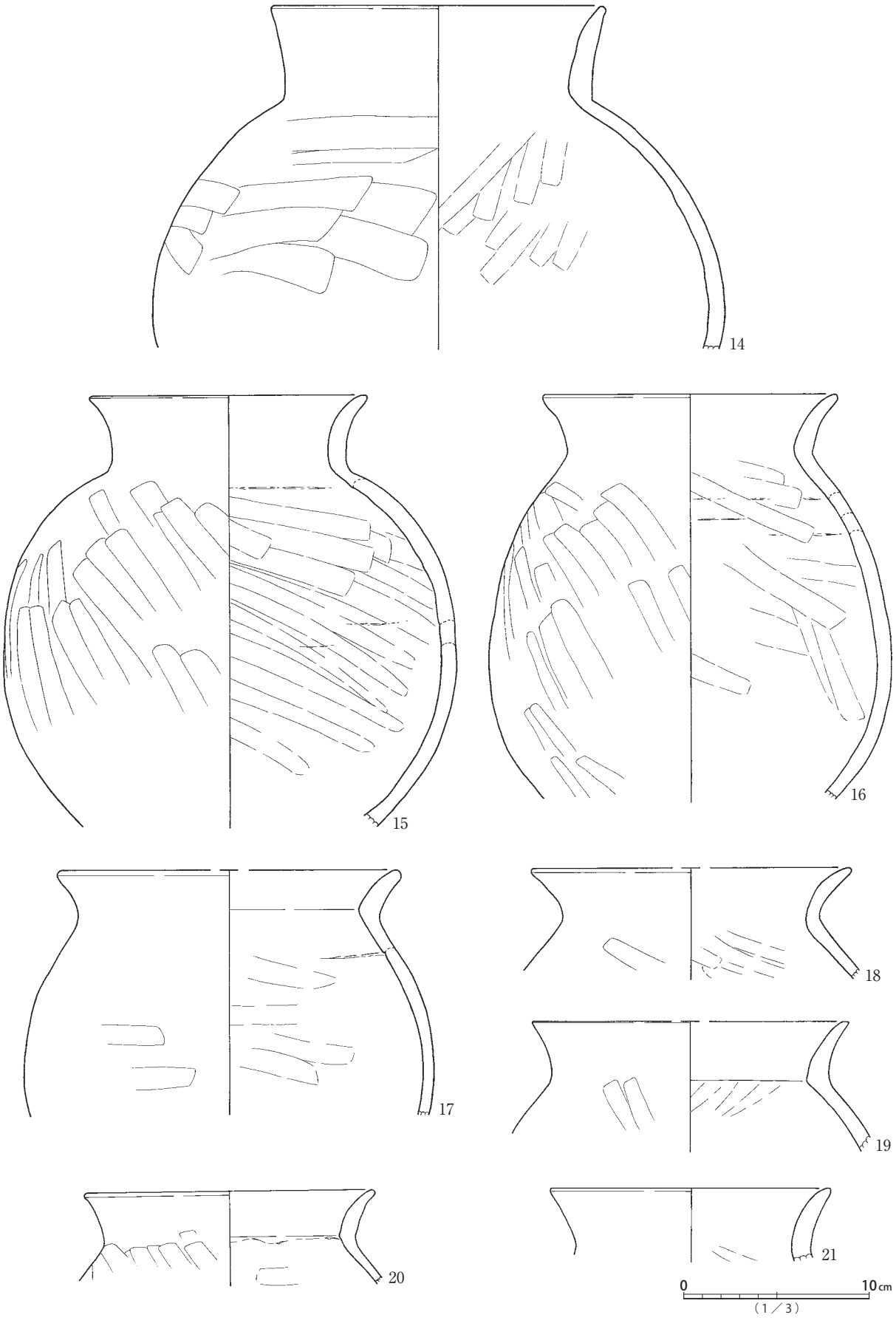
第112図　73号(2)・74号(1) 遺構出土遺物実測図

74号



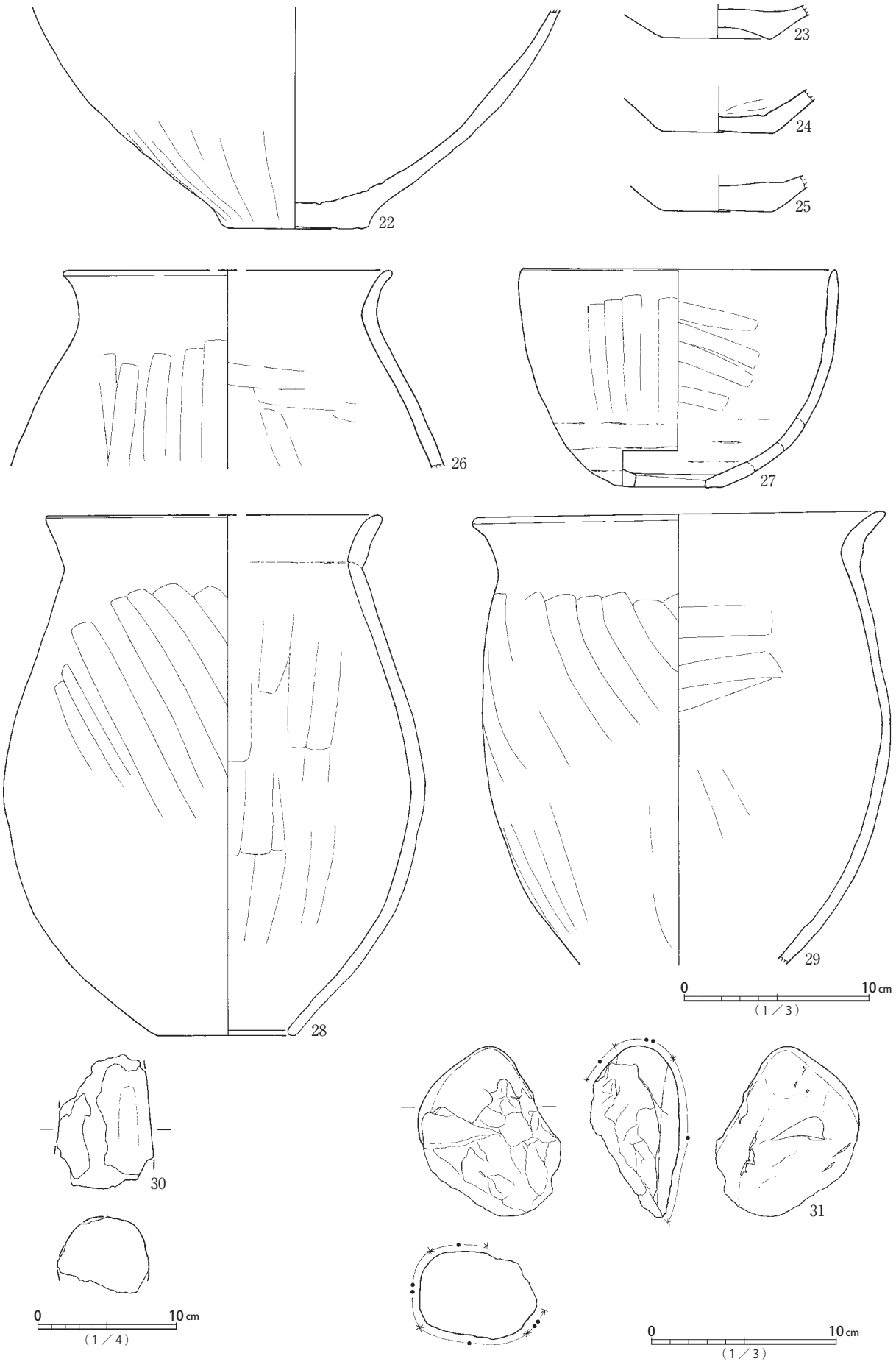
第113図　74号(2) 遺構出土遺物実測図

74号

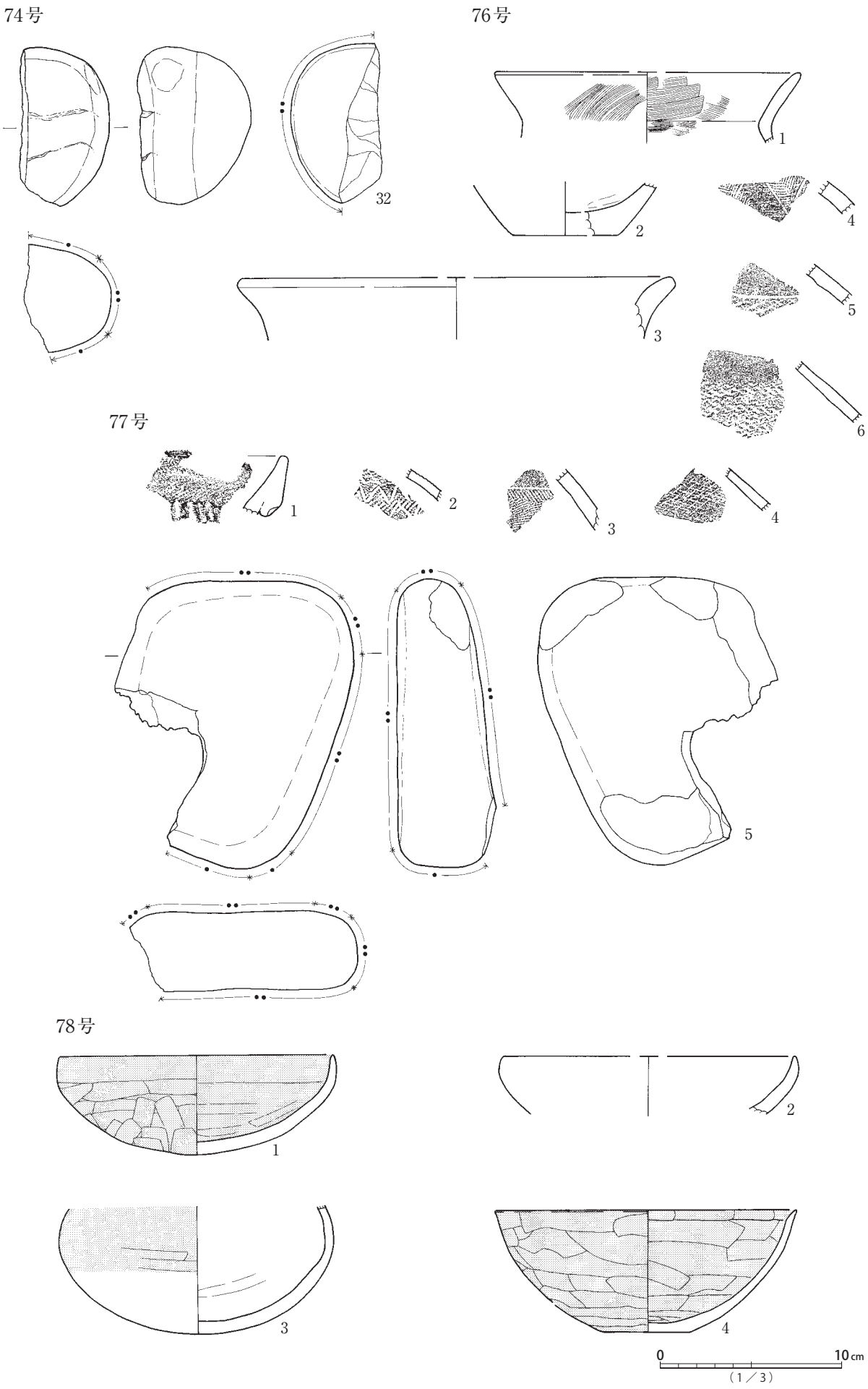


第114図　74号(3) 遺構出土遺物実測図

74号

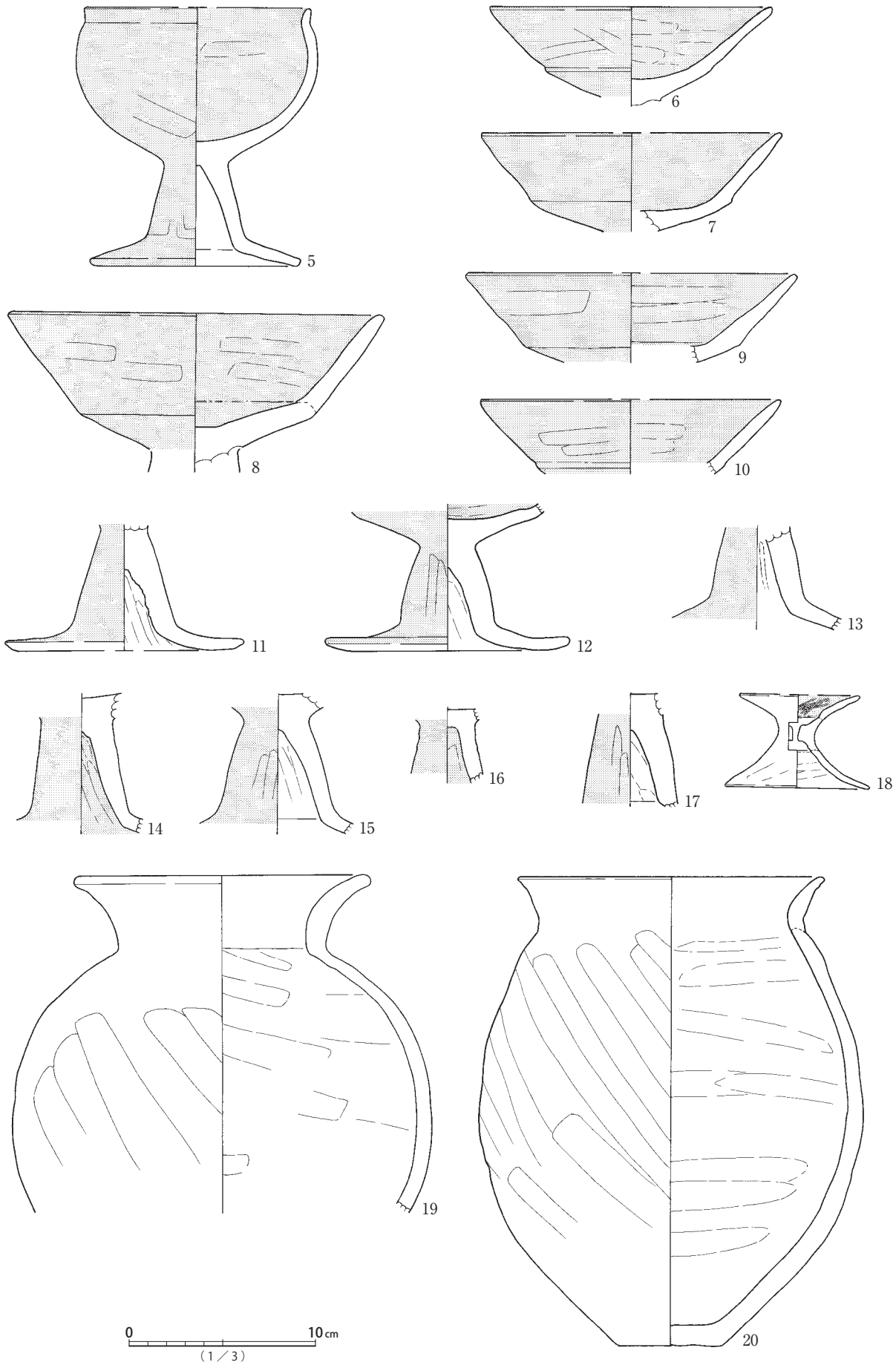


第115図　74号(4) 遺構出土遺物実測図



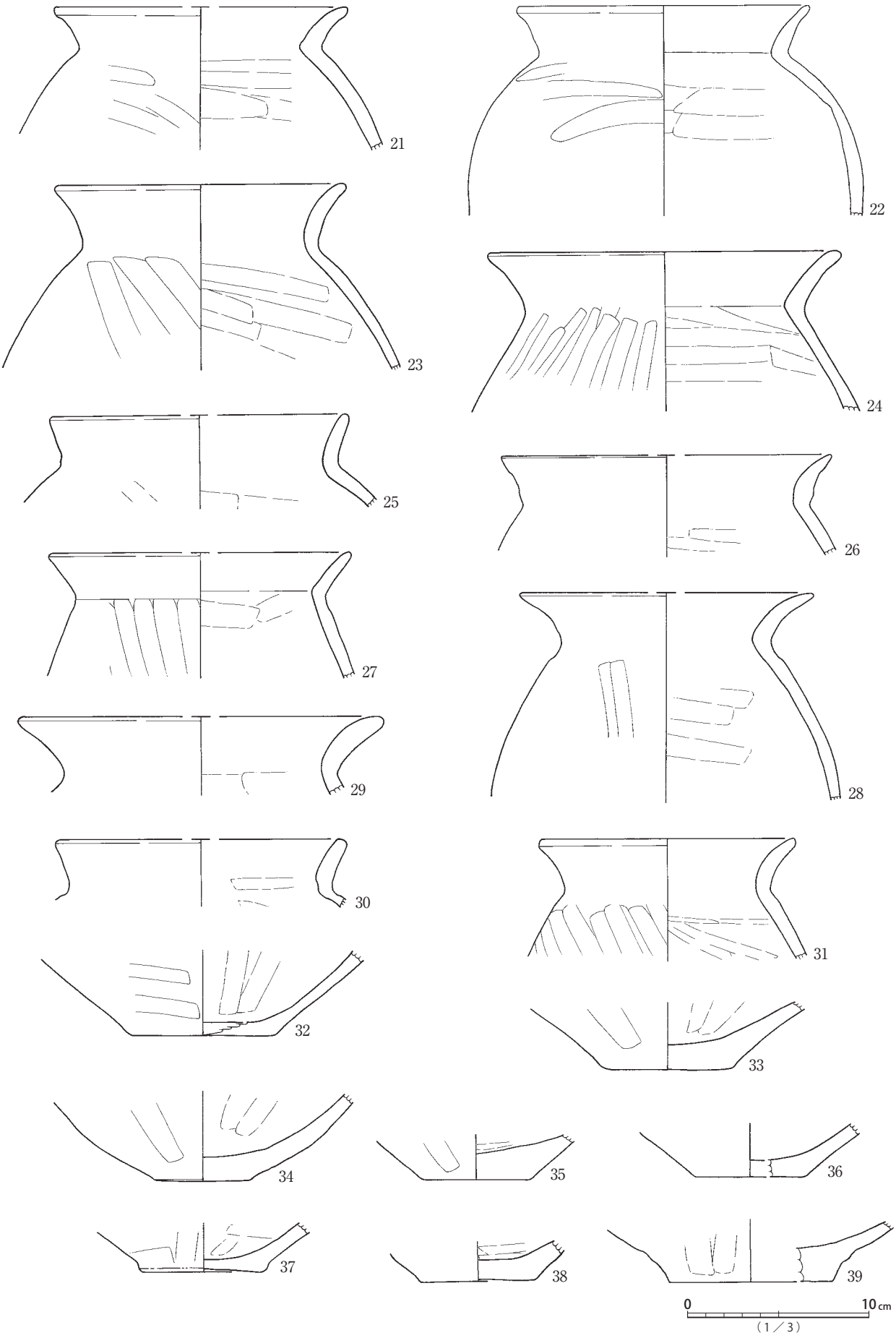
第116図　74号(5)・76号・77号・78号(1) 遺構出土遺物実測図

78号



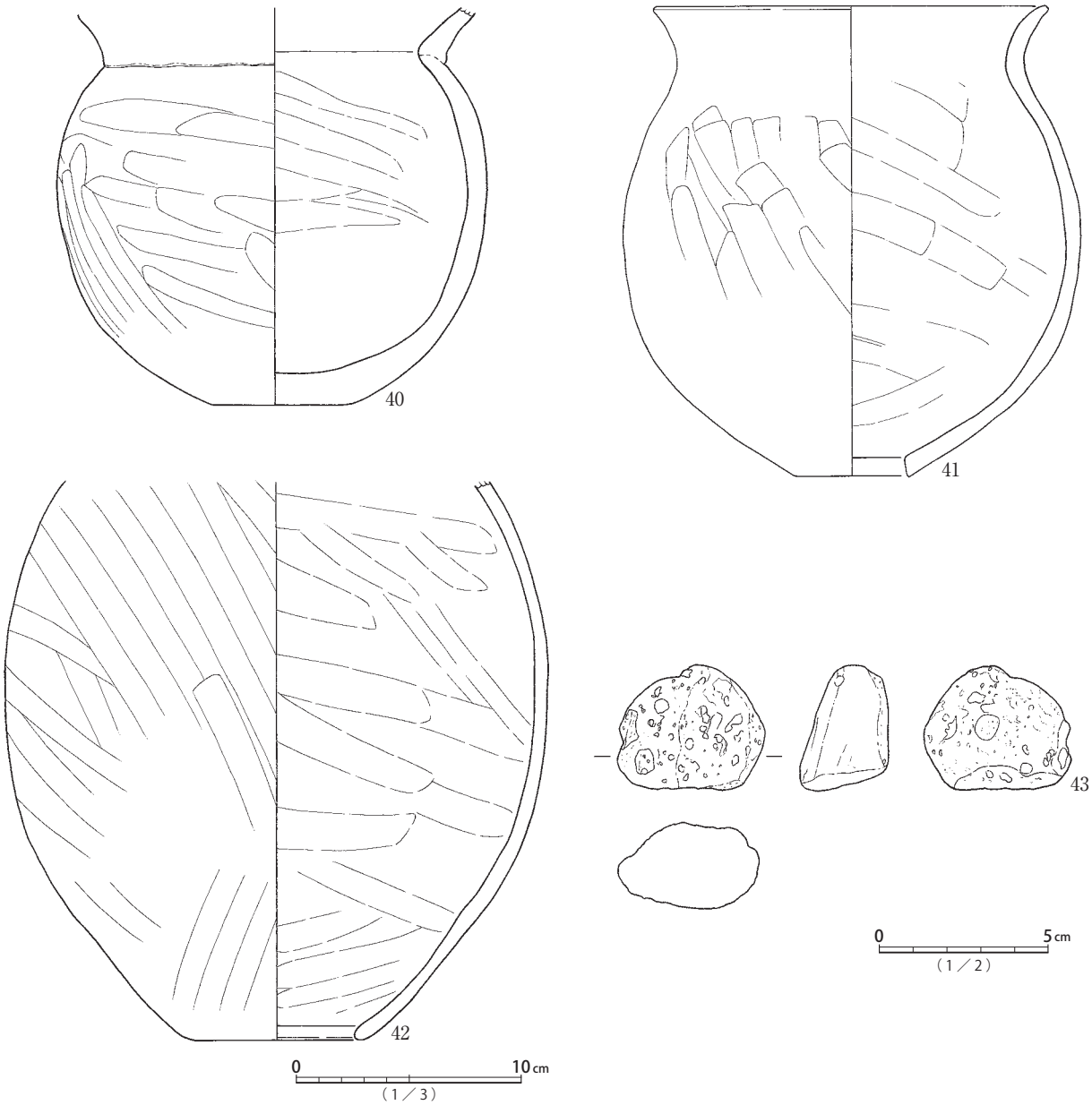
第117図　78号(2) 遺構出土遺物実測図

78号

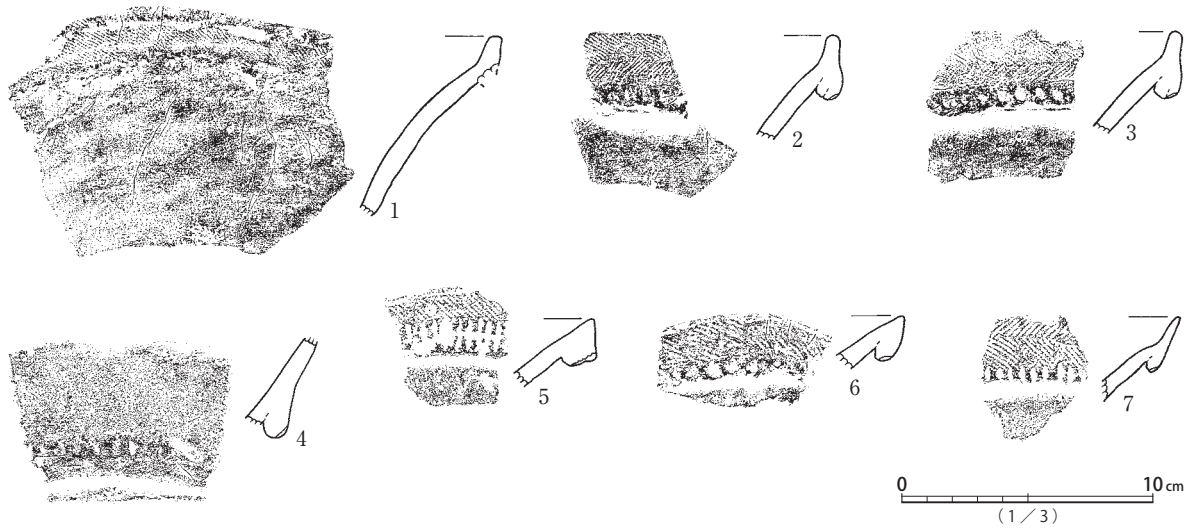


第118図　78号(3) 遺構出土遺物実測図

78号

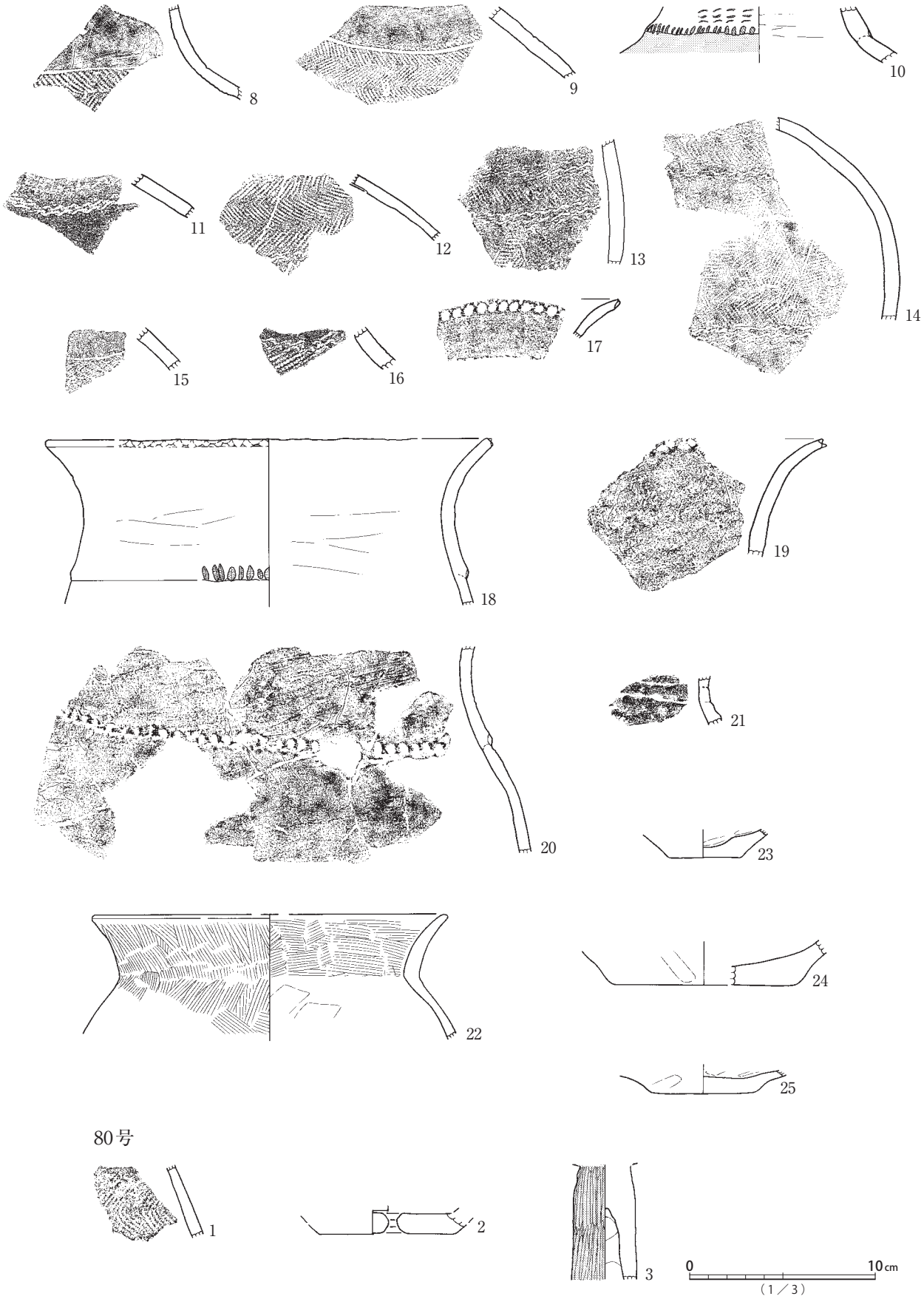


79号



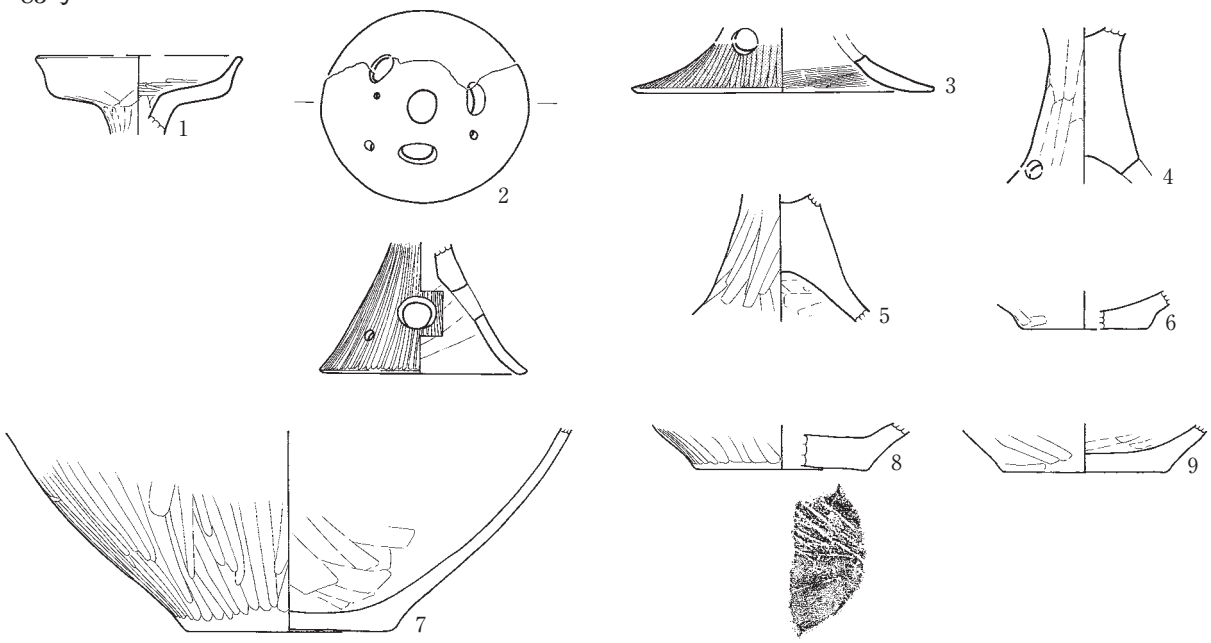
第119図　78号(4)・79号(1) 遺構出土遺物実測図

79号

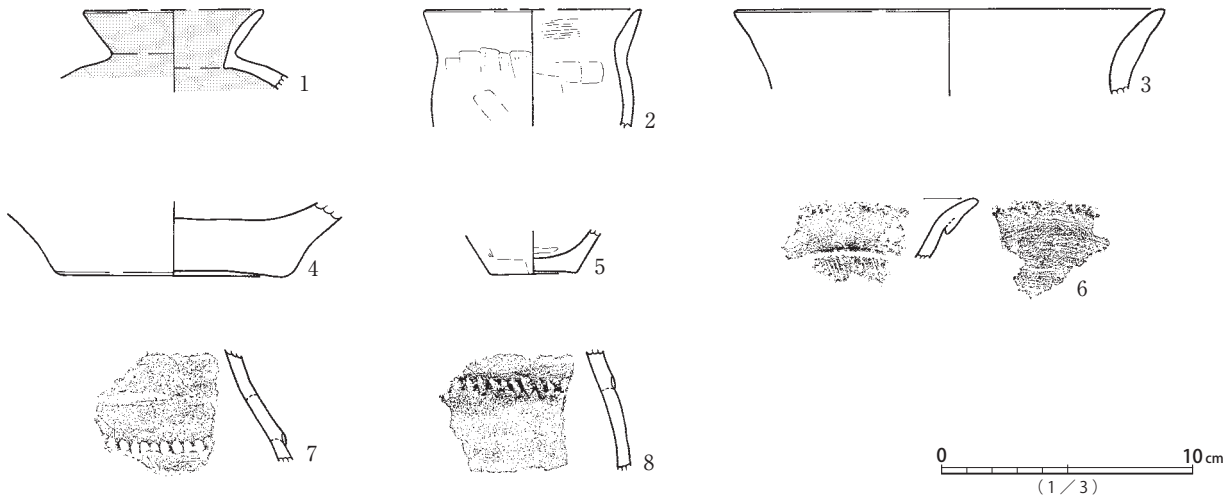


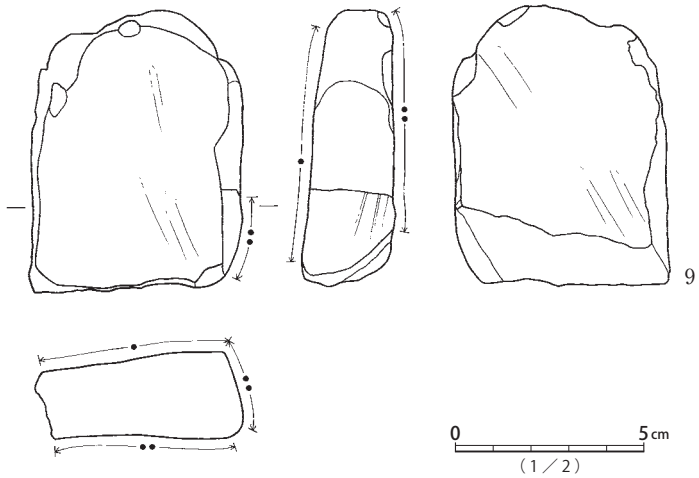
第120図　79号(2)・80号 遺構出土遺物実測図

83号



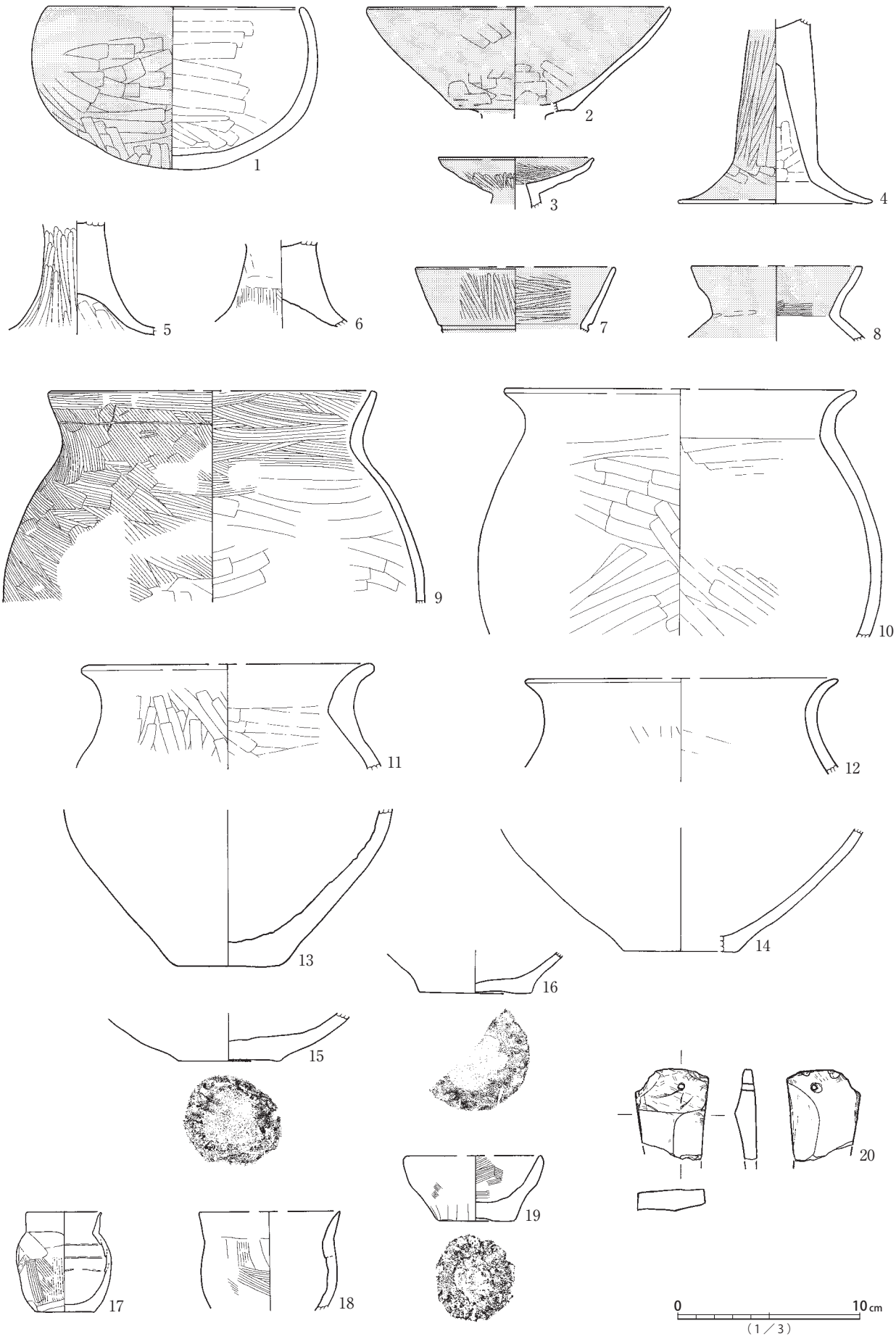
84号





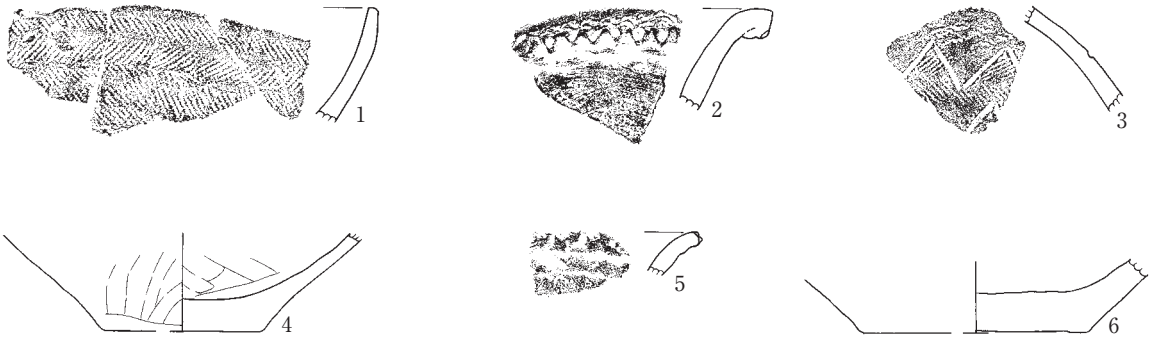
第121図　83号・84号 遺構出土遺物実測図

85号

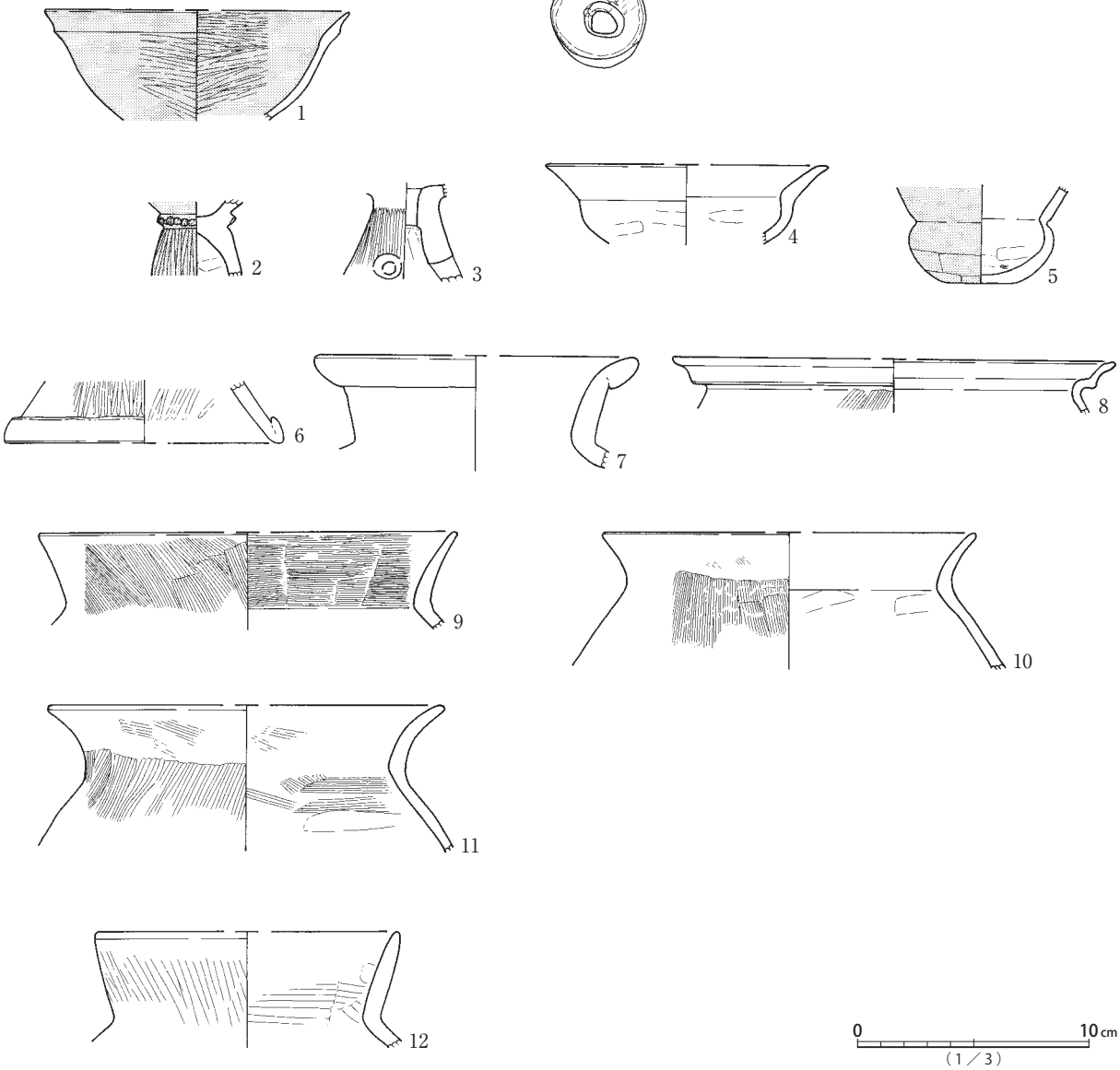


第122図　85号 遺構出土遺物実測図

86号

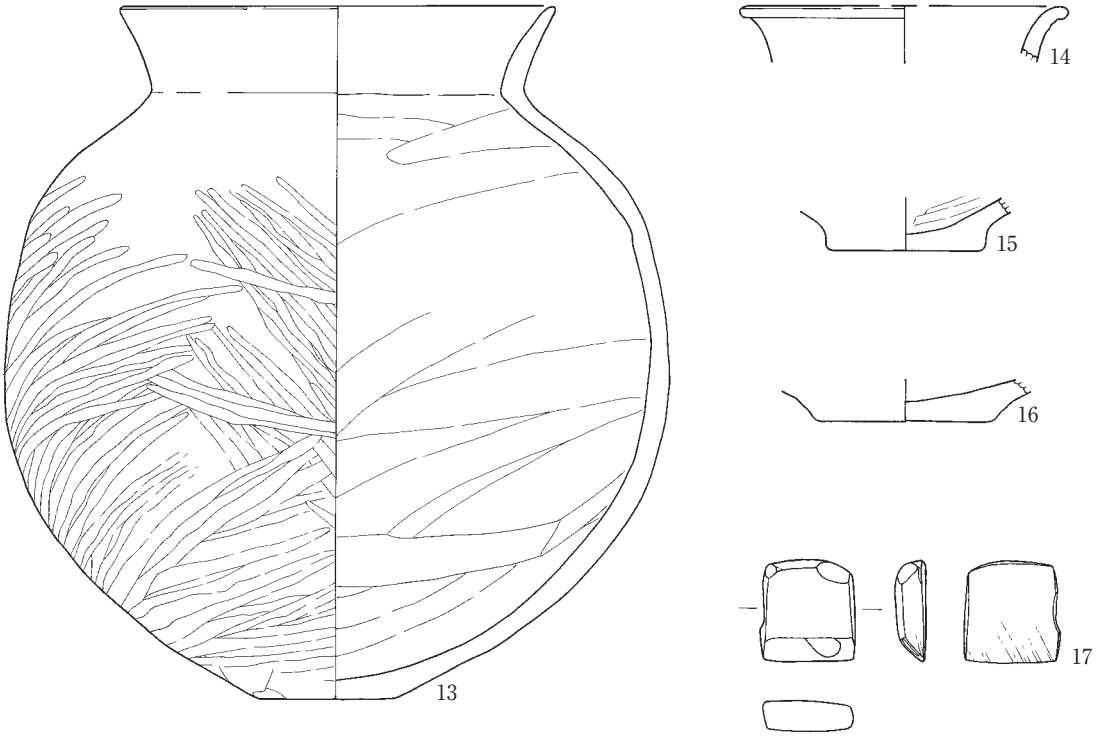


87号

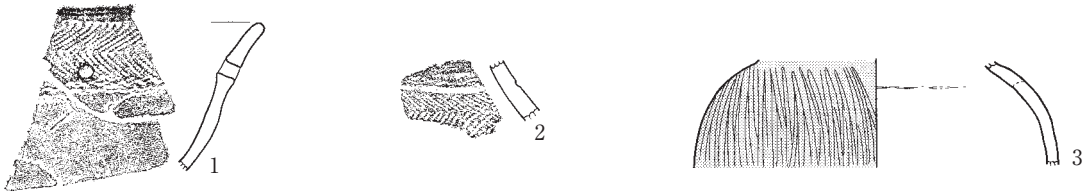


第123図　86号・87号(1) 遺構出土遺物実測図

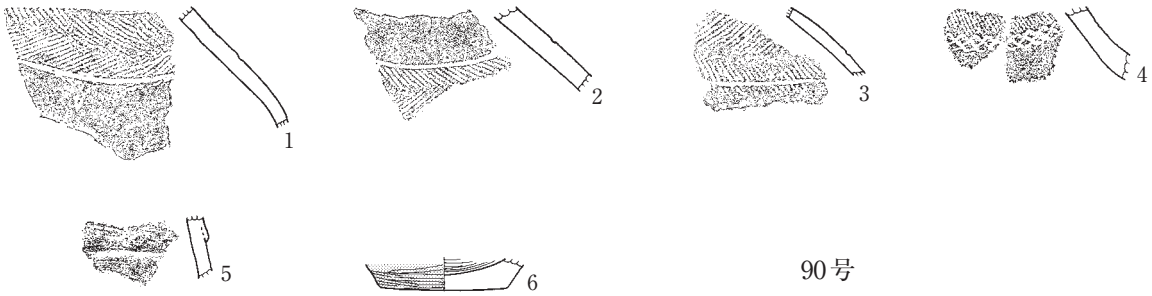
87号



88号



89号

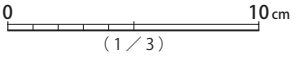


90号



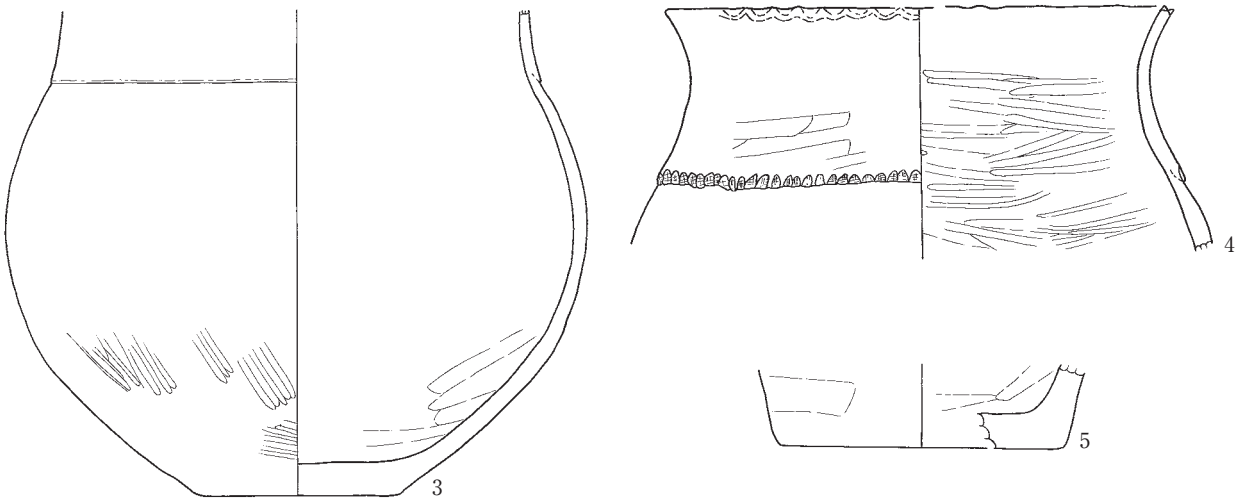
91号



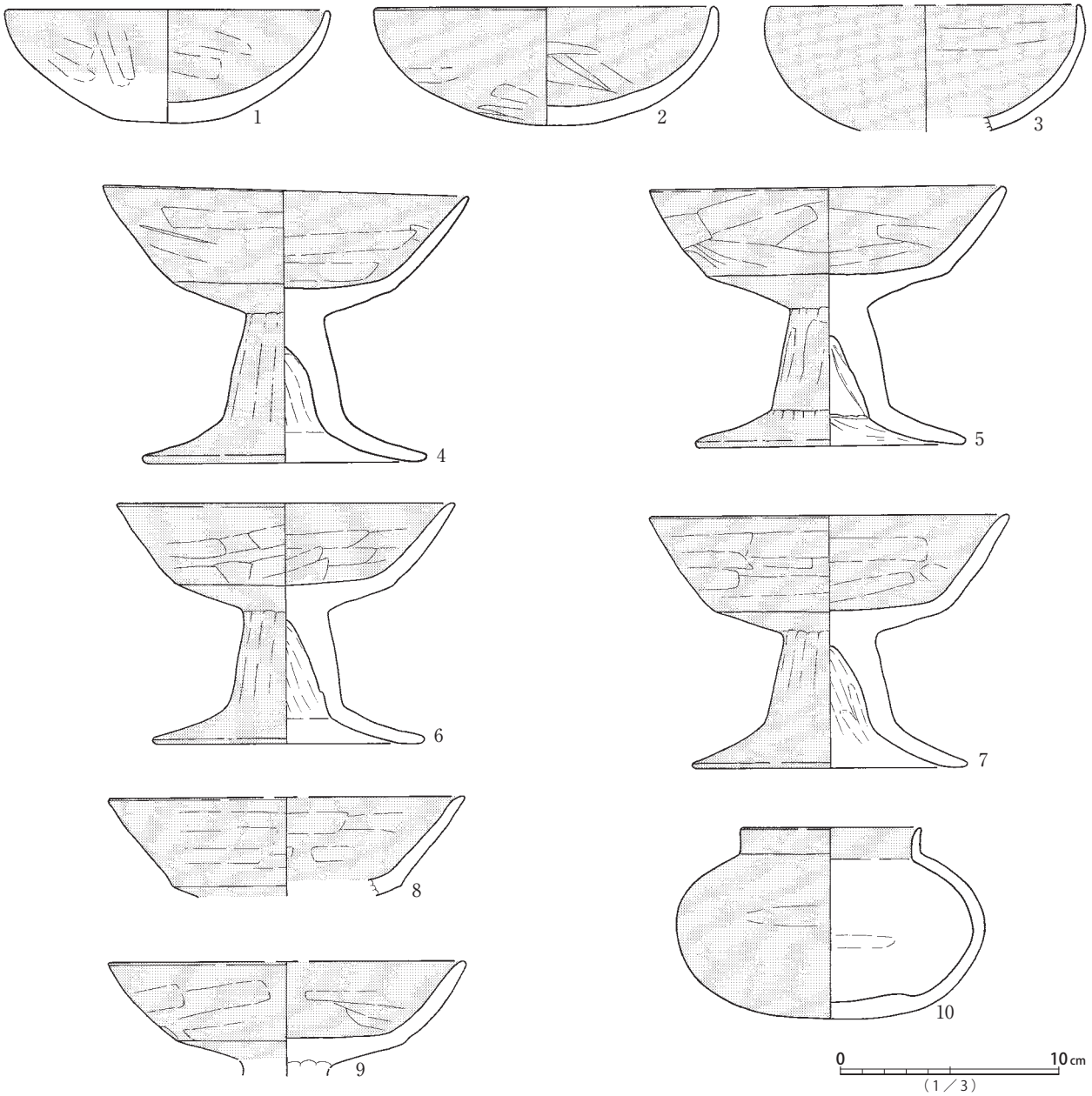


第124図　87号(2)・88～90号・91号(1) 遺構出土遺物実測図

91号

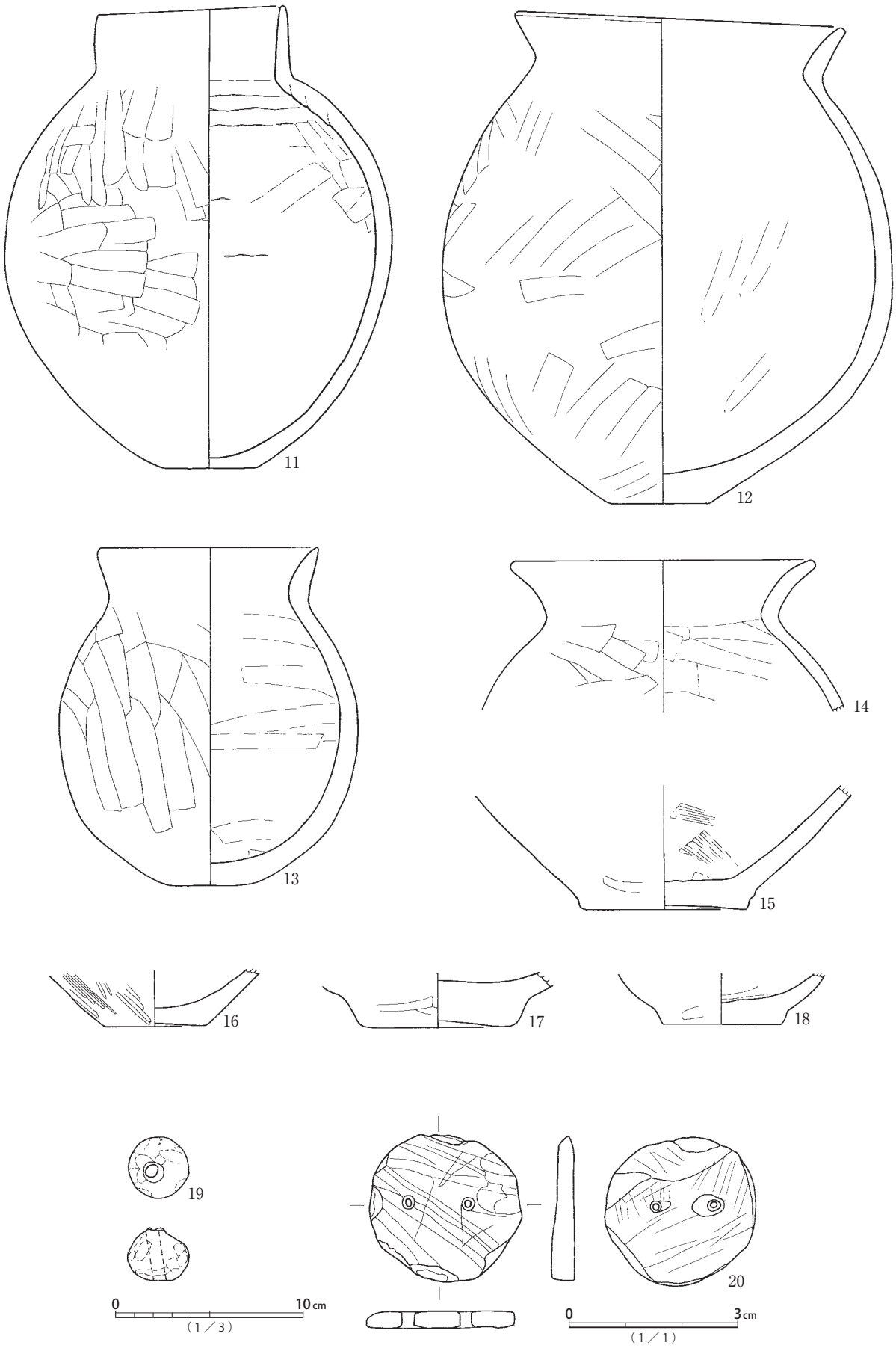


92号



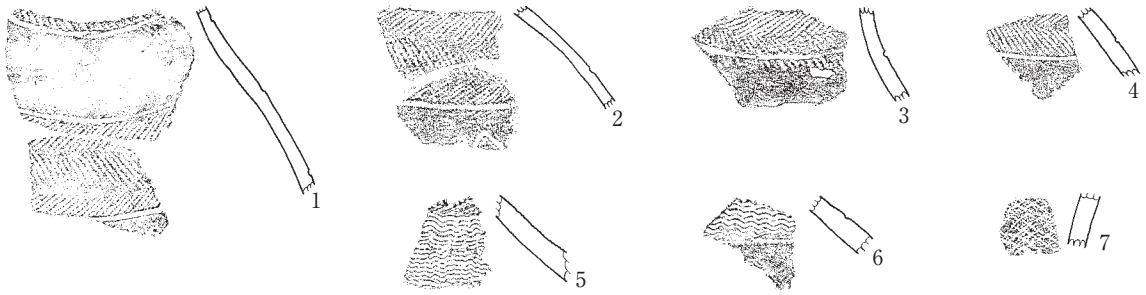
第125図　91号(2)・92号(1) 遺構出土遺物実測図

92号

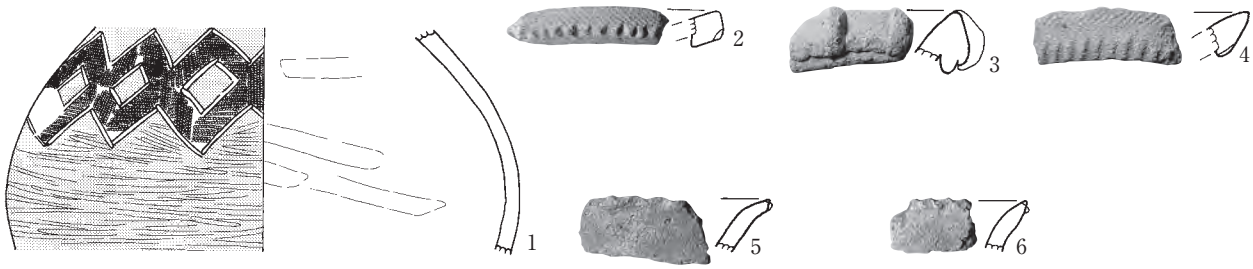


第126図　92号(2) 遺構出土遺物実測図

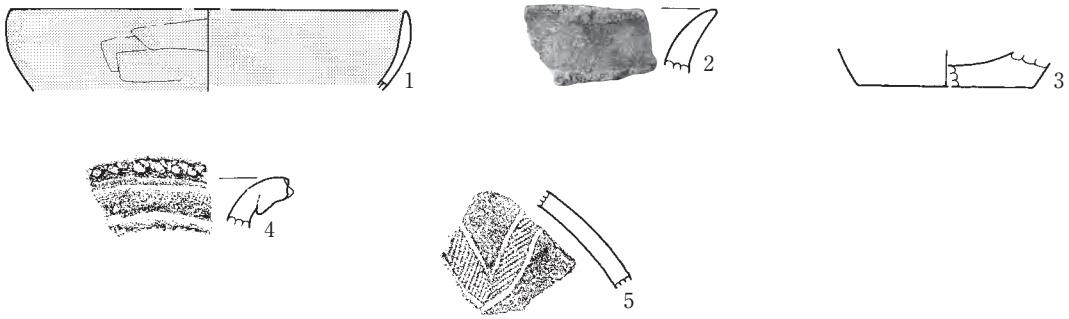
93号



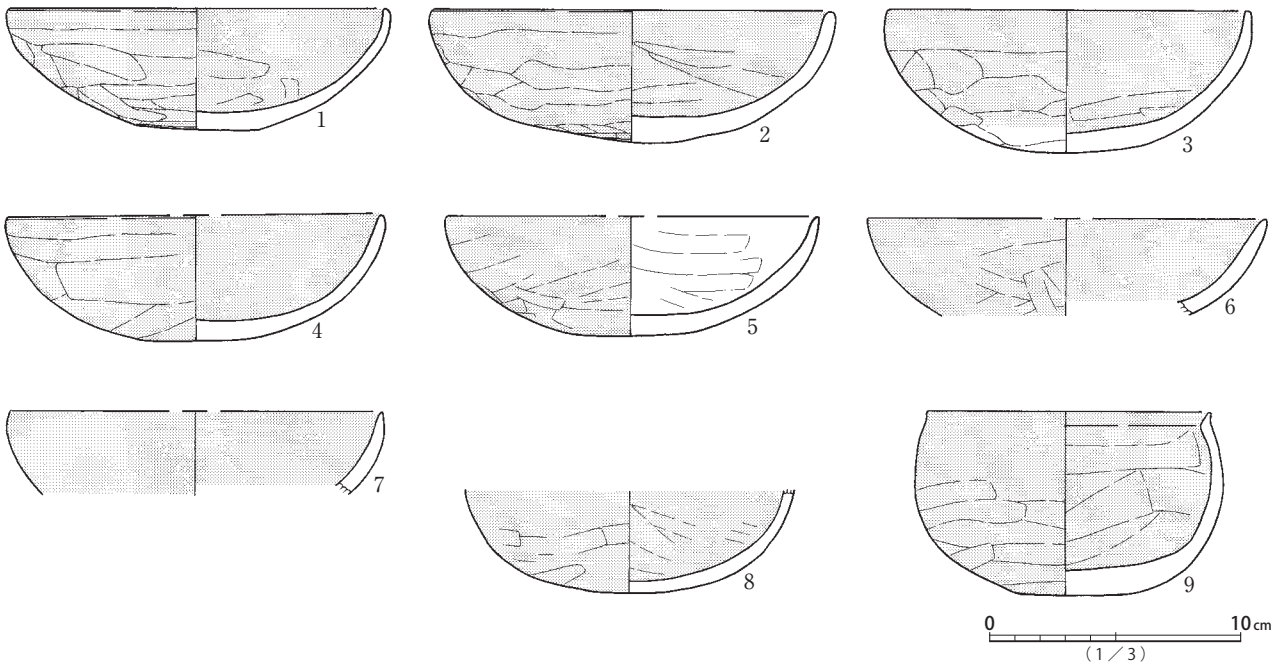
94号



95号

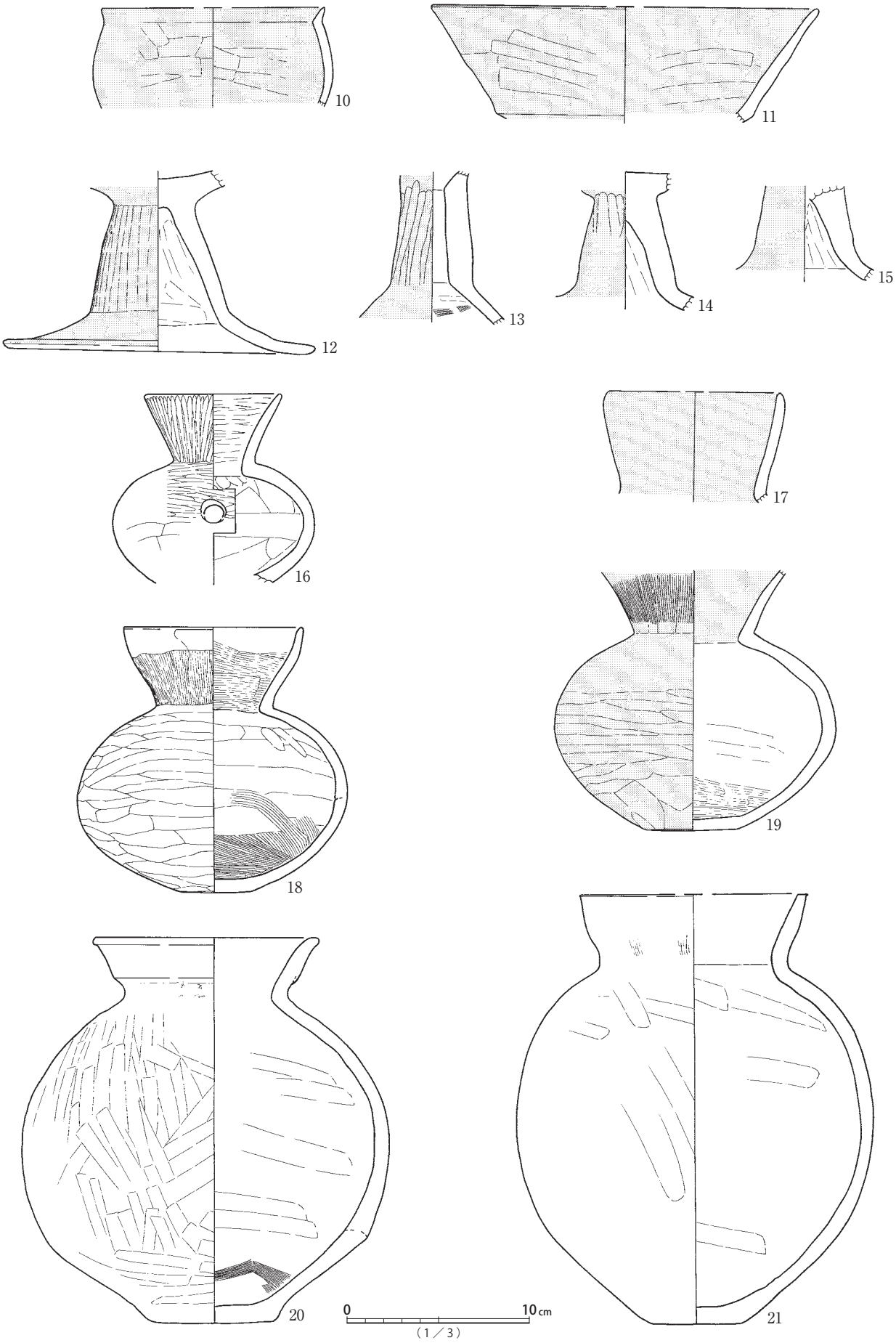


96号



第127図　93～95号・96号(1) 遺構出土遺物実測図

96号



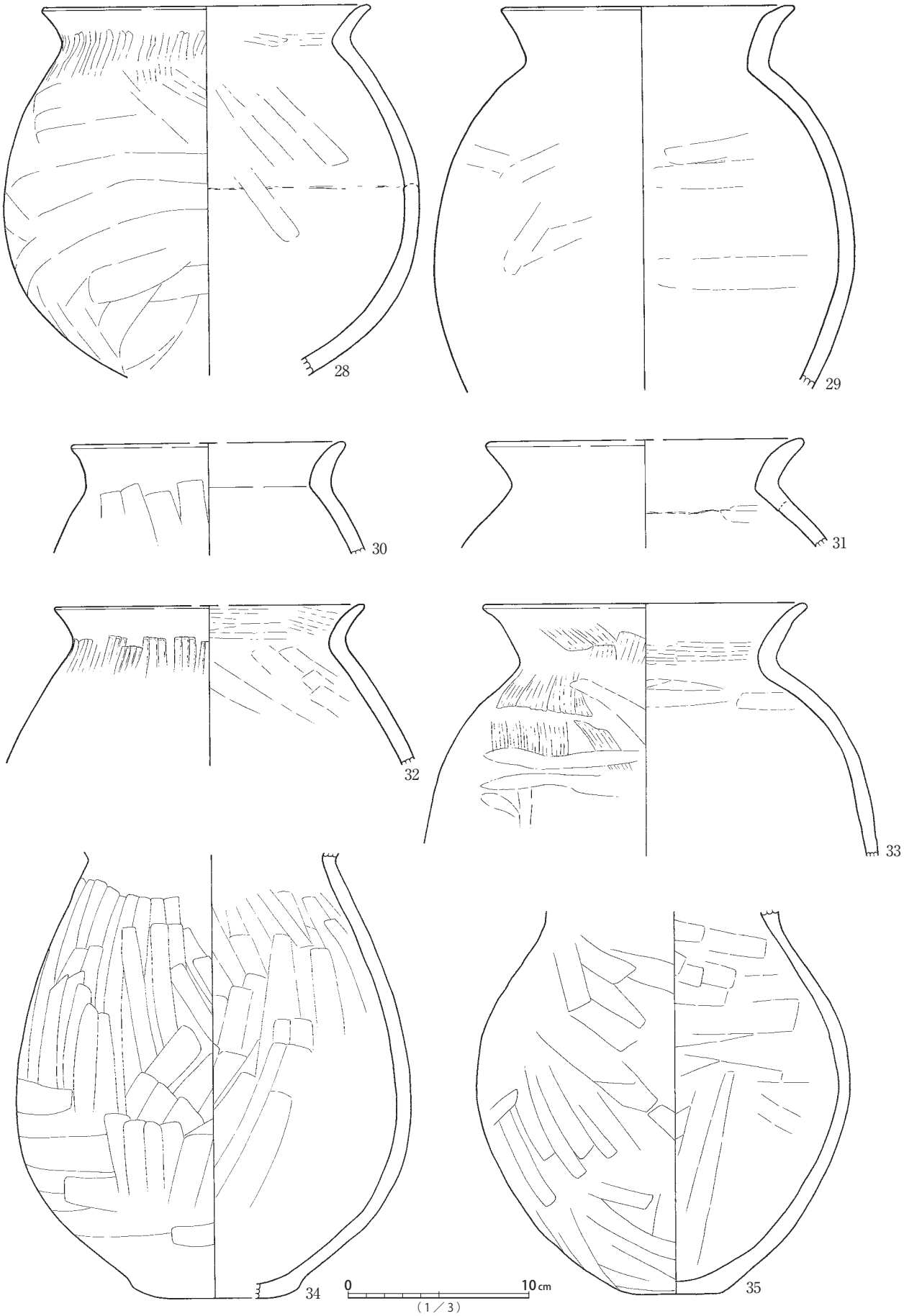
第128図　96号(2) 遺構出土遺物実測図

96号



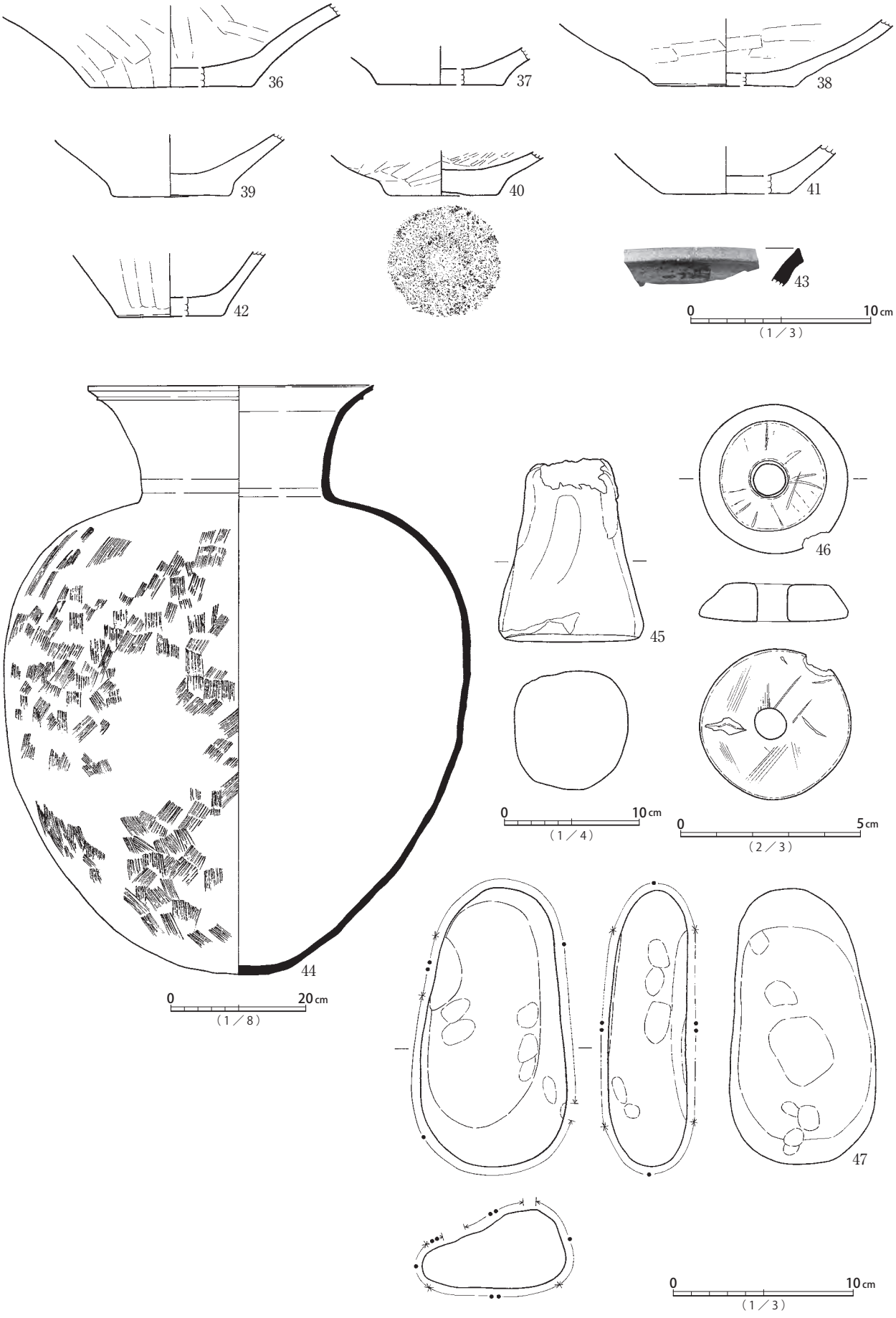
第129図　96号(3) 遺構出土遺物実測図

96号



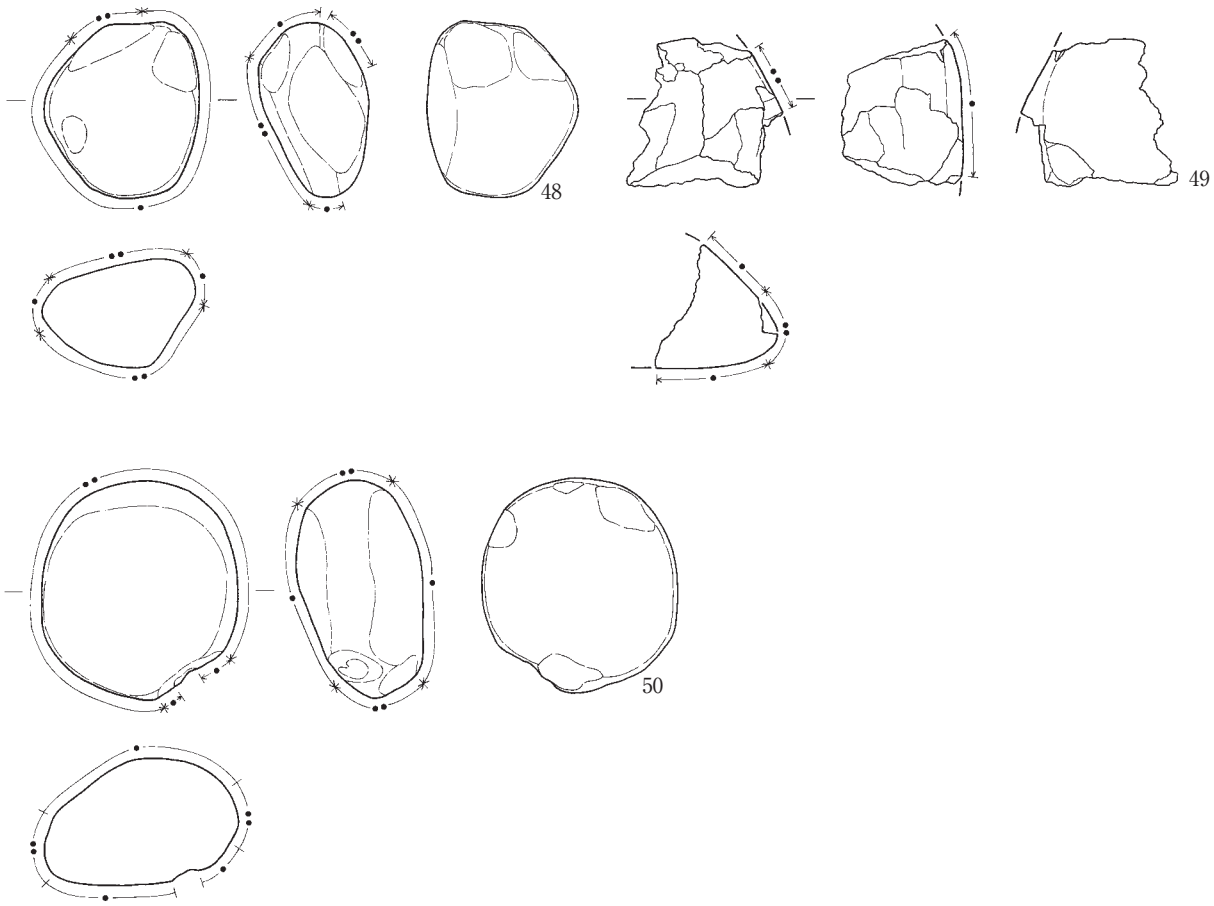
第130図　96号(4) 遺構出土遺物実測図

96号

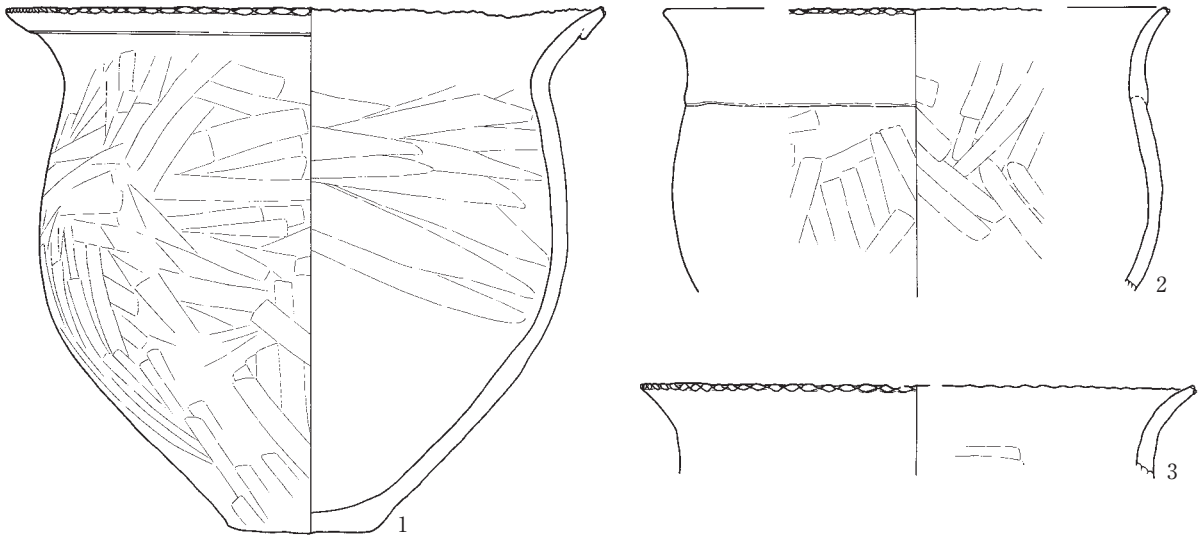


第131図　96号(5) 遺構出土遺物実測図

96号



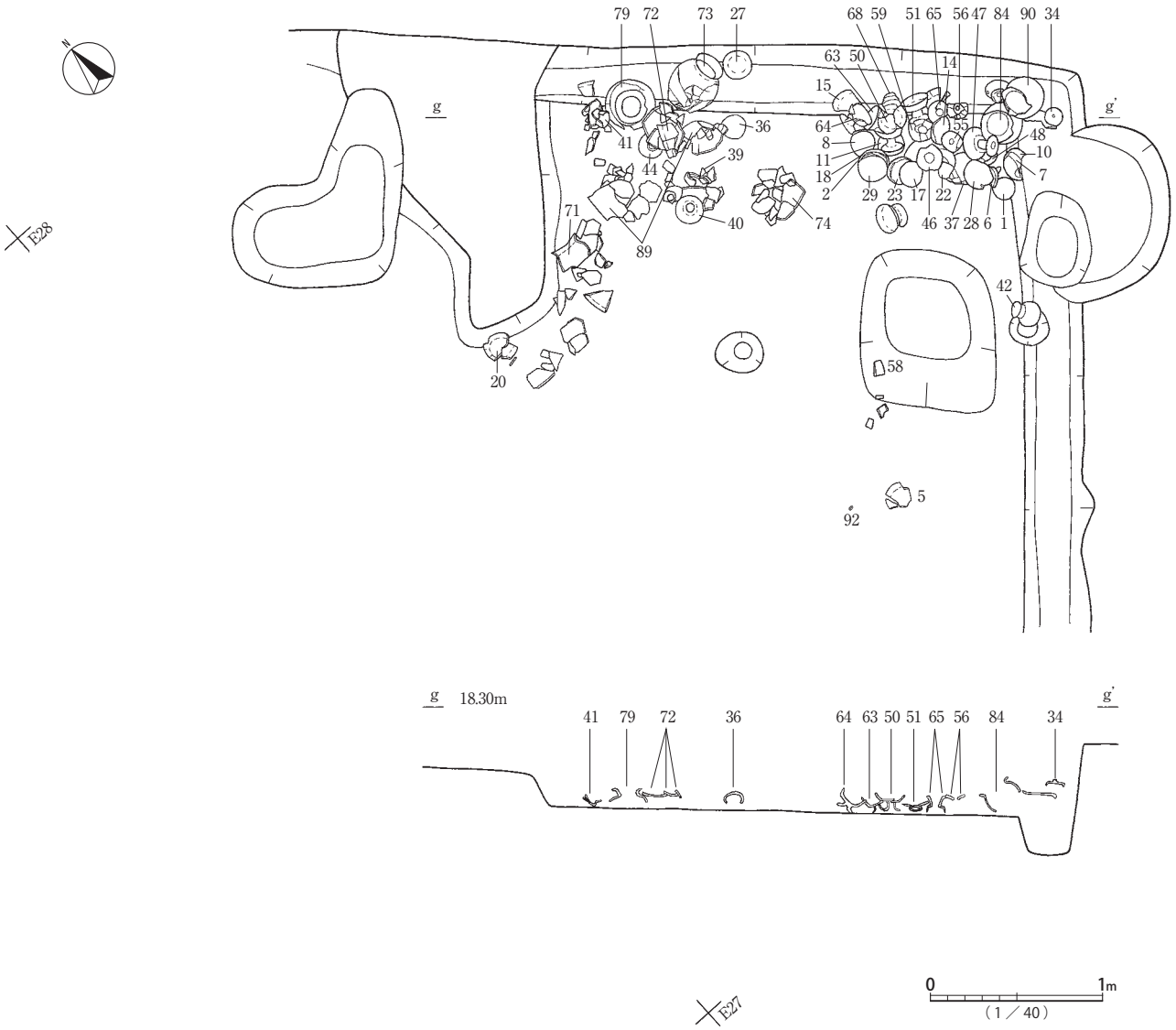
97号



98号



第132図　96号(6)・97号・98号 遺構出土遺物実測図





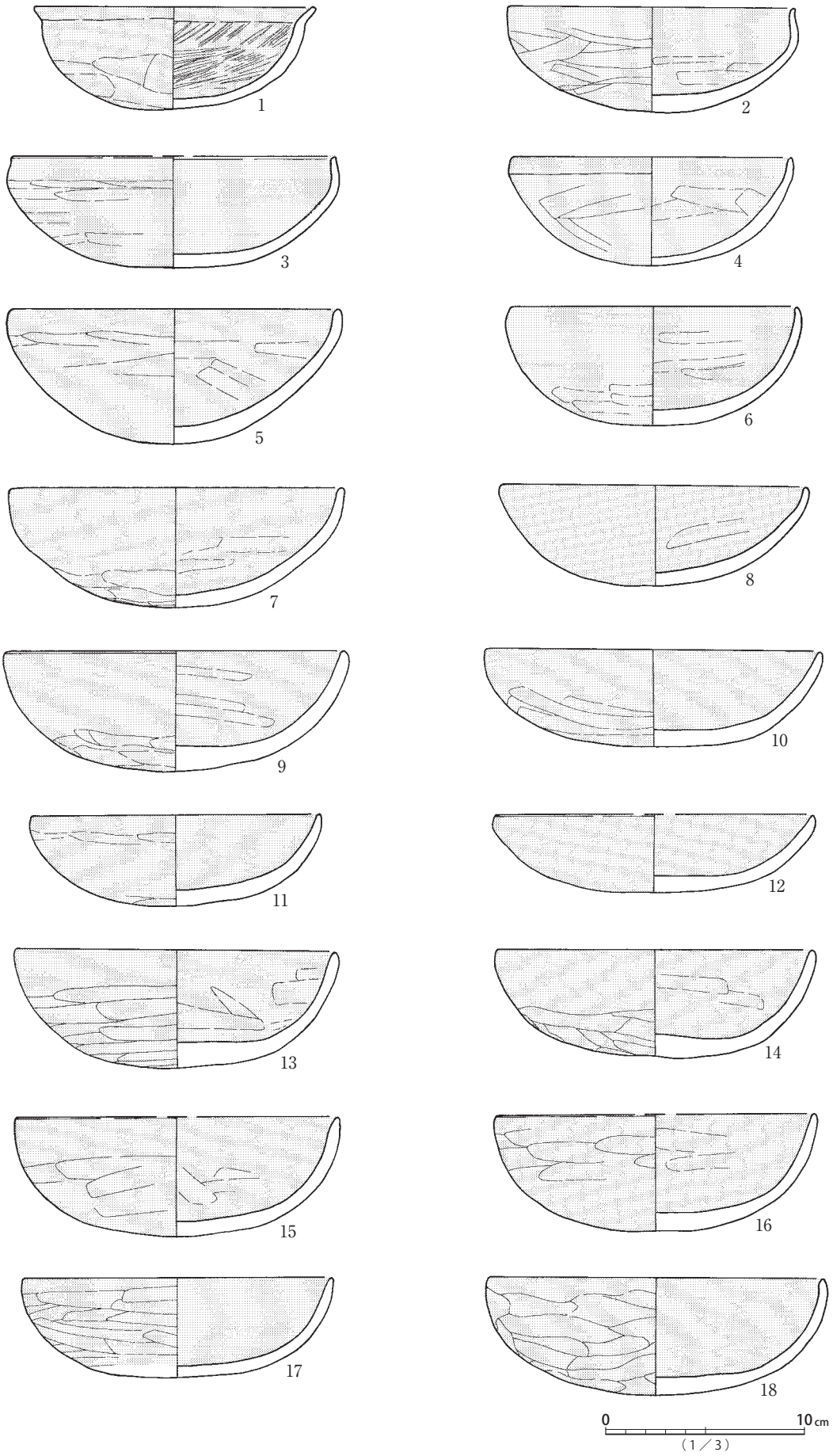
100号　遺物（南西から）



100号　遺物（北東から）

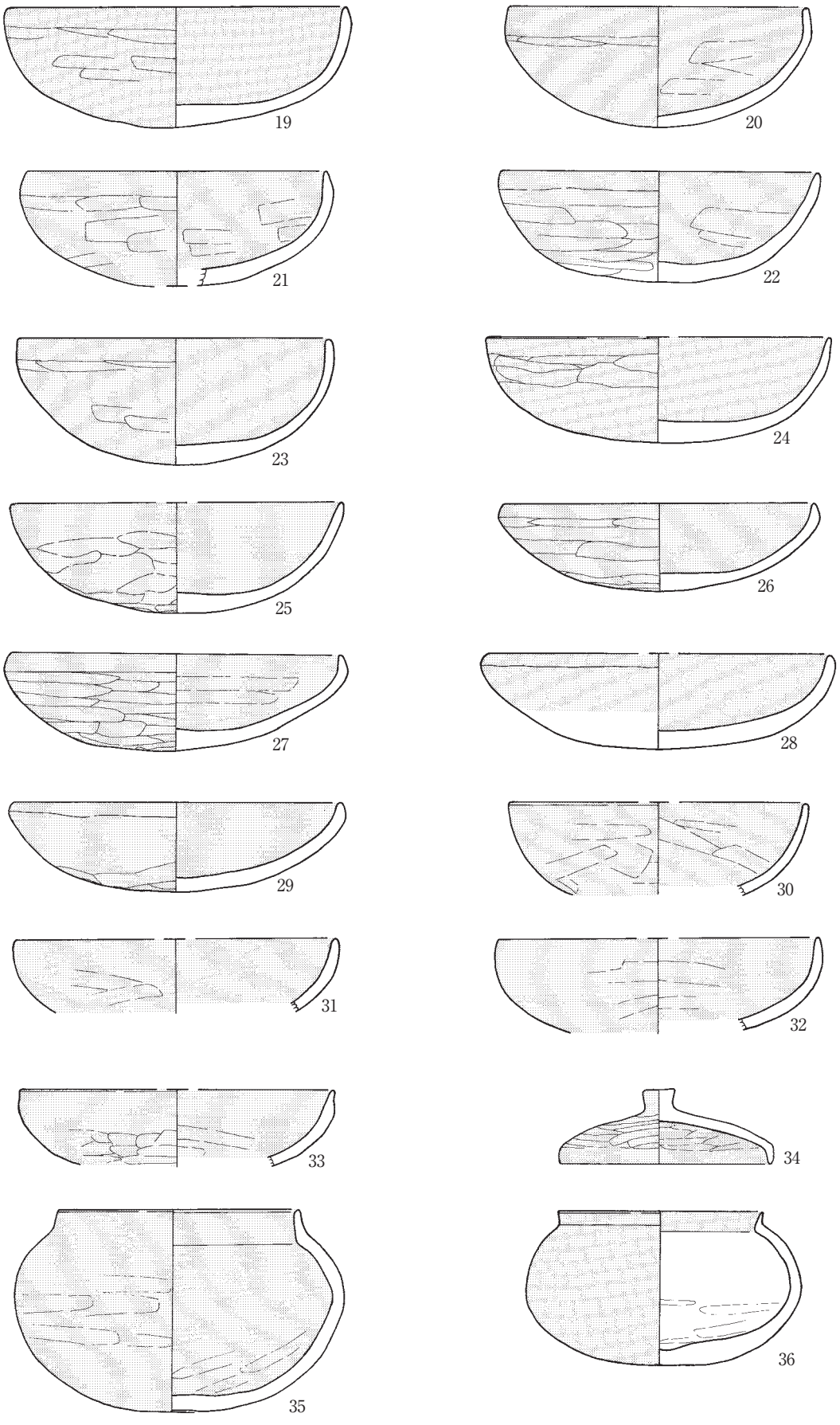
第133図　100号遺構遺物出土状況図

100号

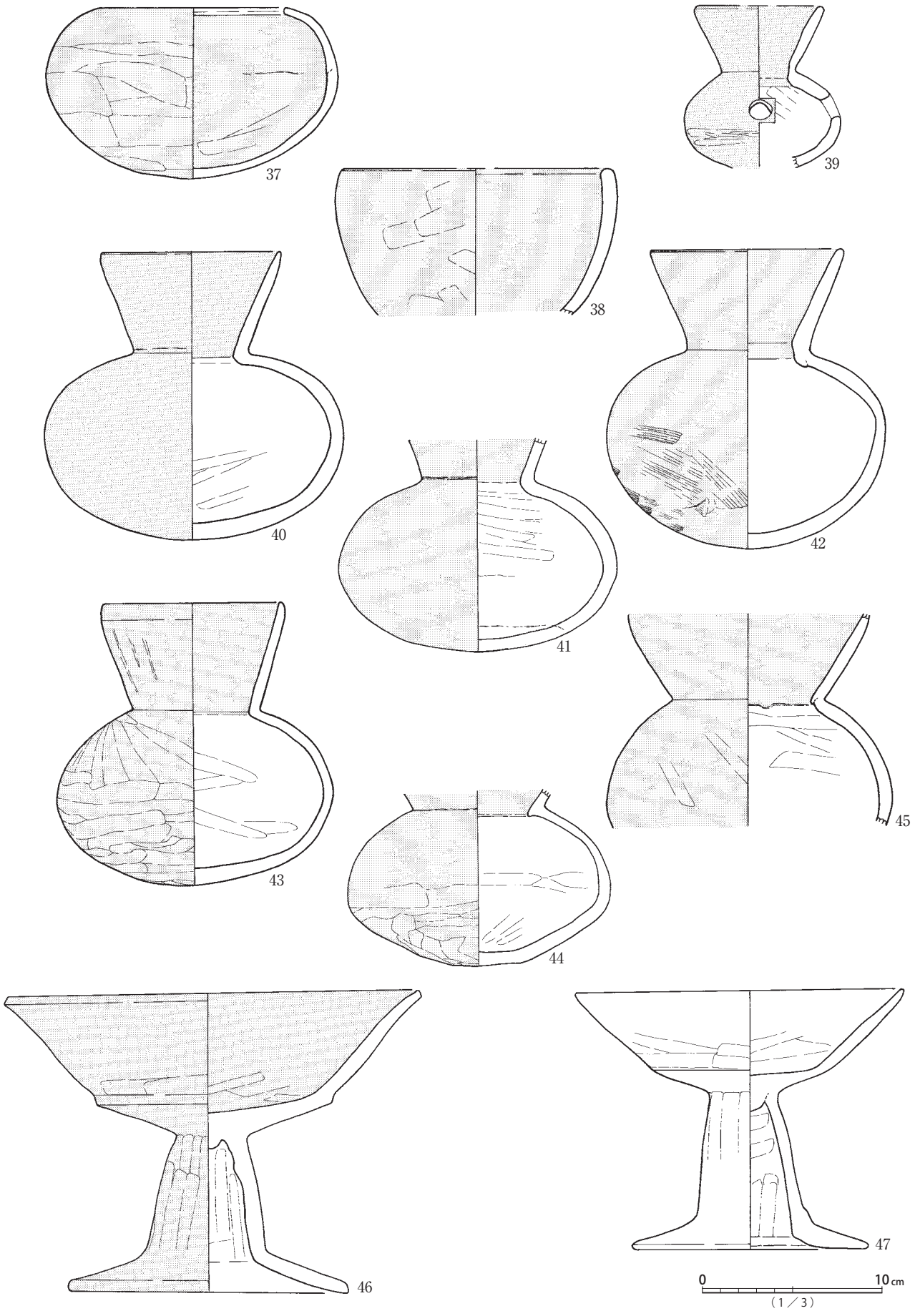


第134図　100号(1) 遺構出土遺物実測図

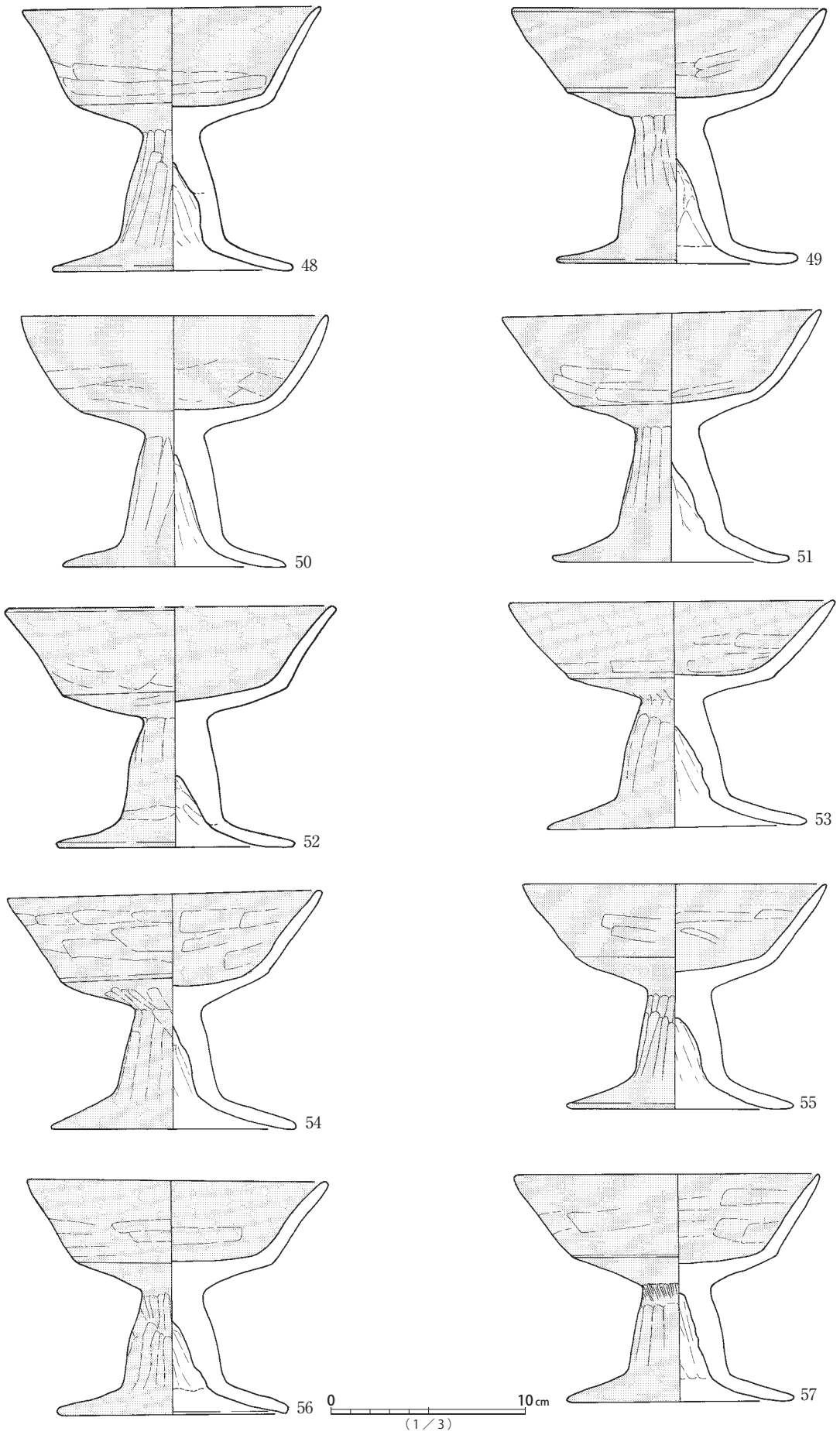
100号



第135図　100号(2) 遺構出土遺物実測図

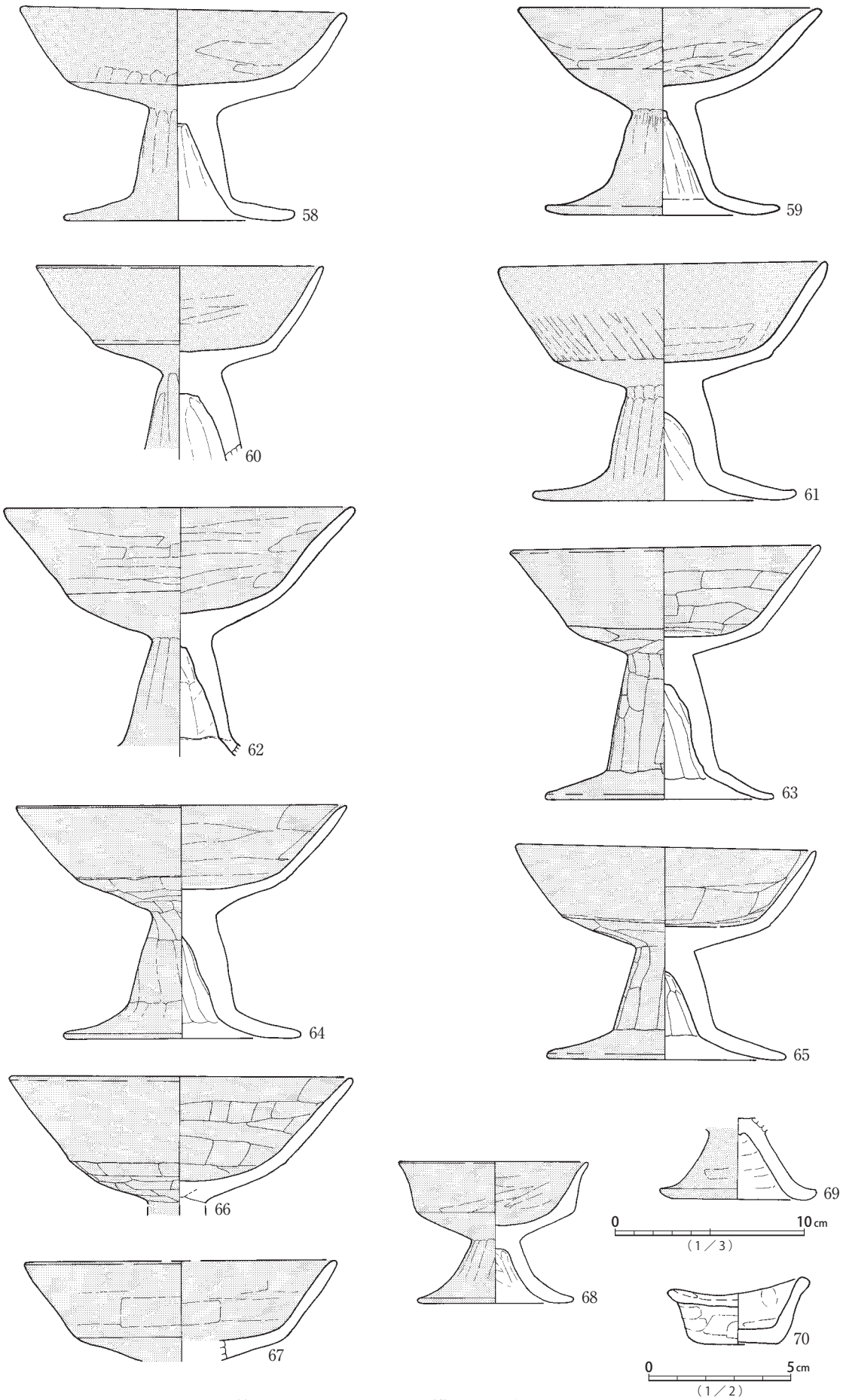


第136図　100号(3) 遺構出土遺物実測図

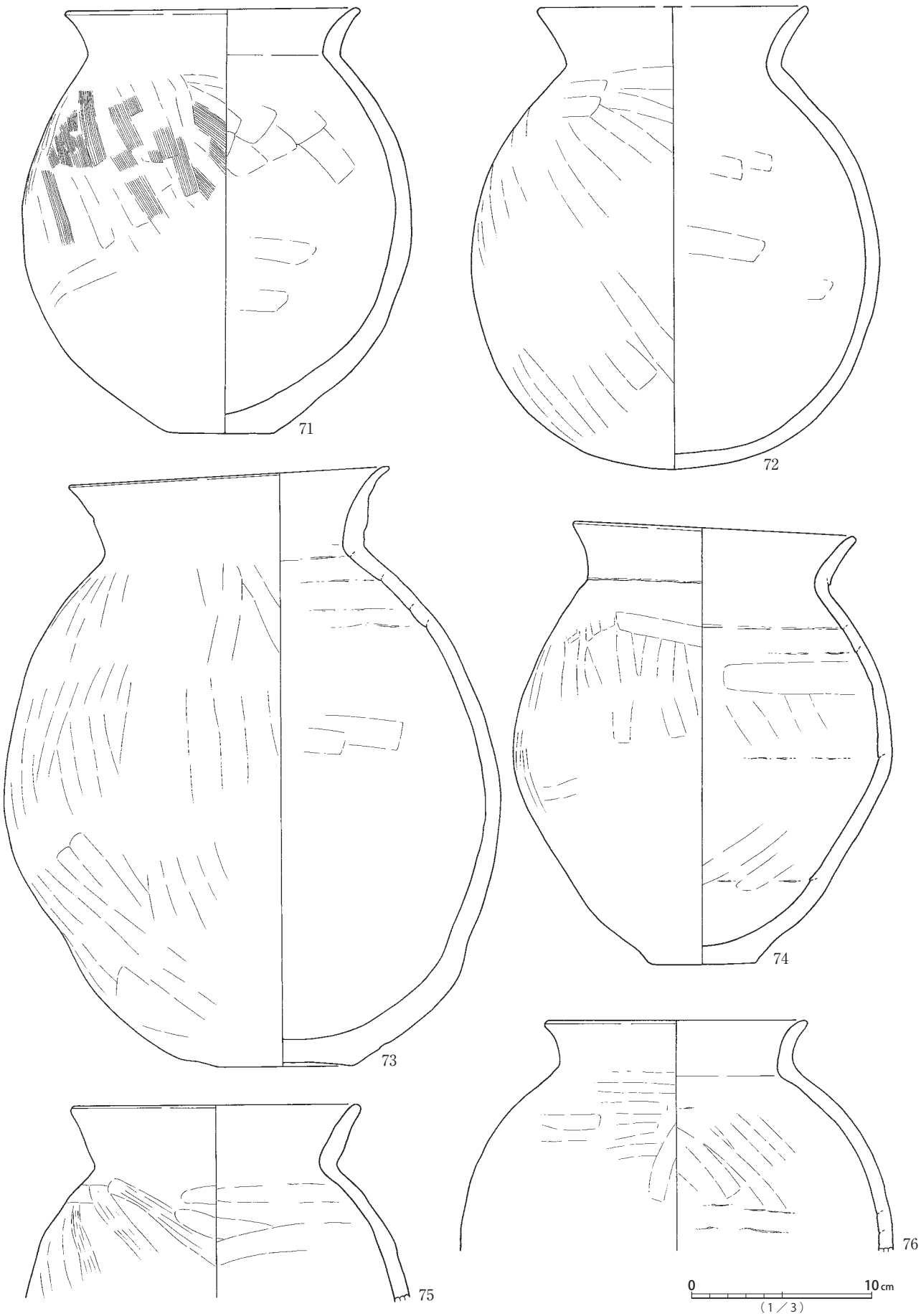


第137図　100号(4) 遺構出土遺物実測図

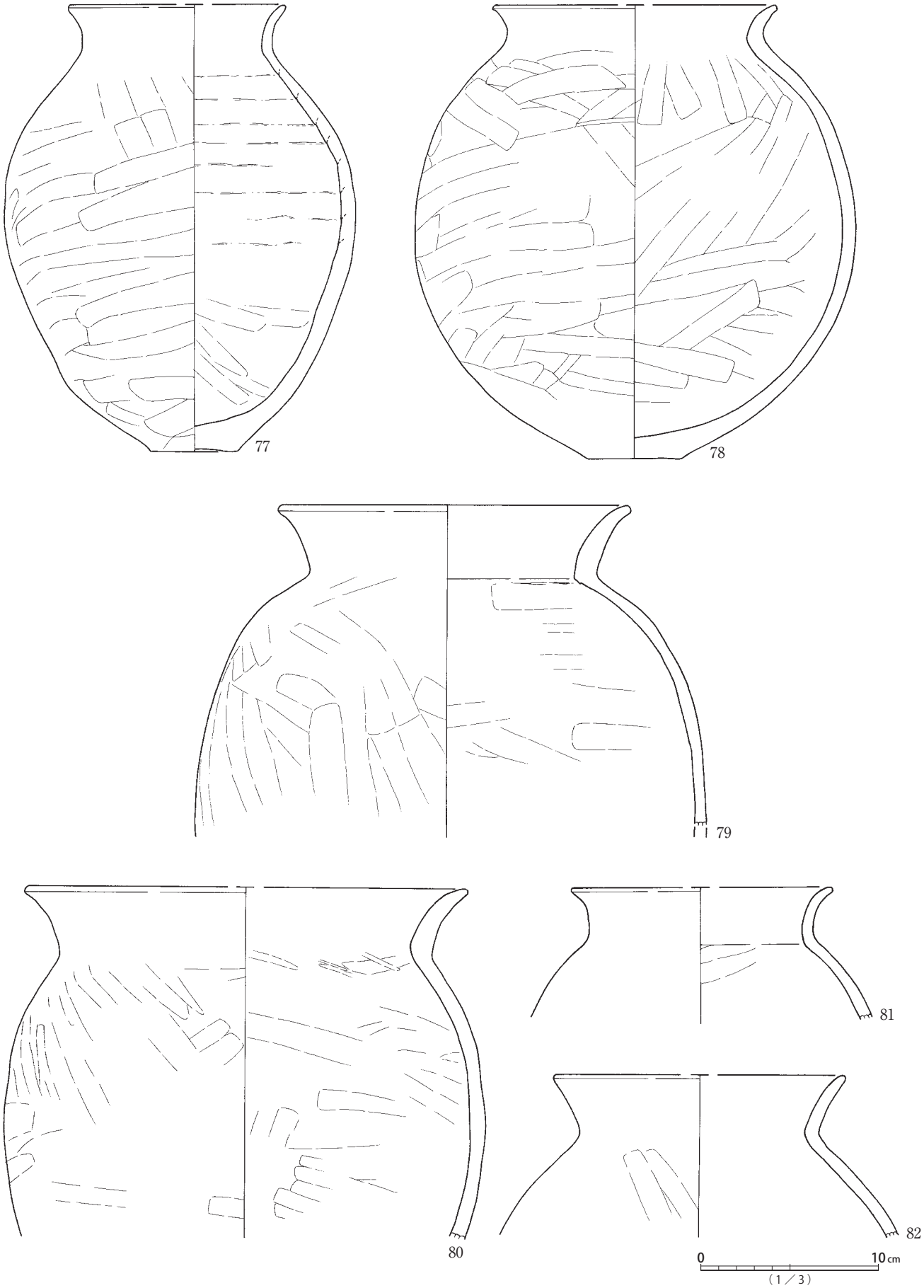
100号



第138図　100号(5) 遺構出土遺物実測図

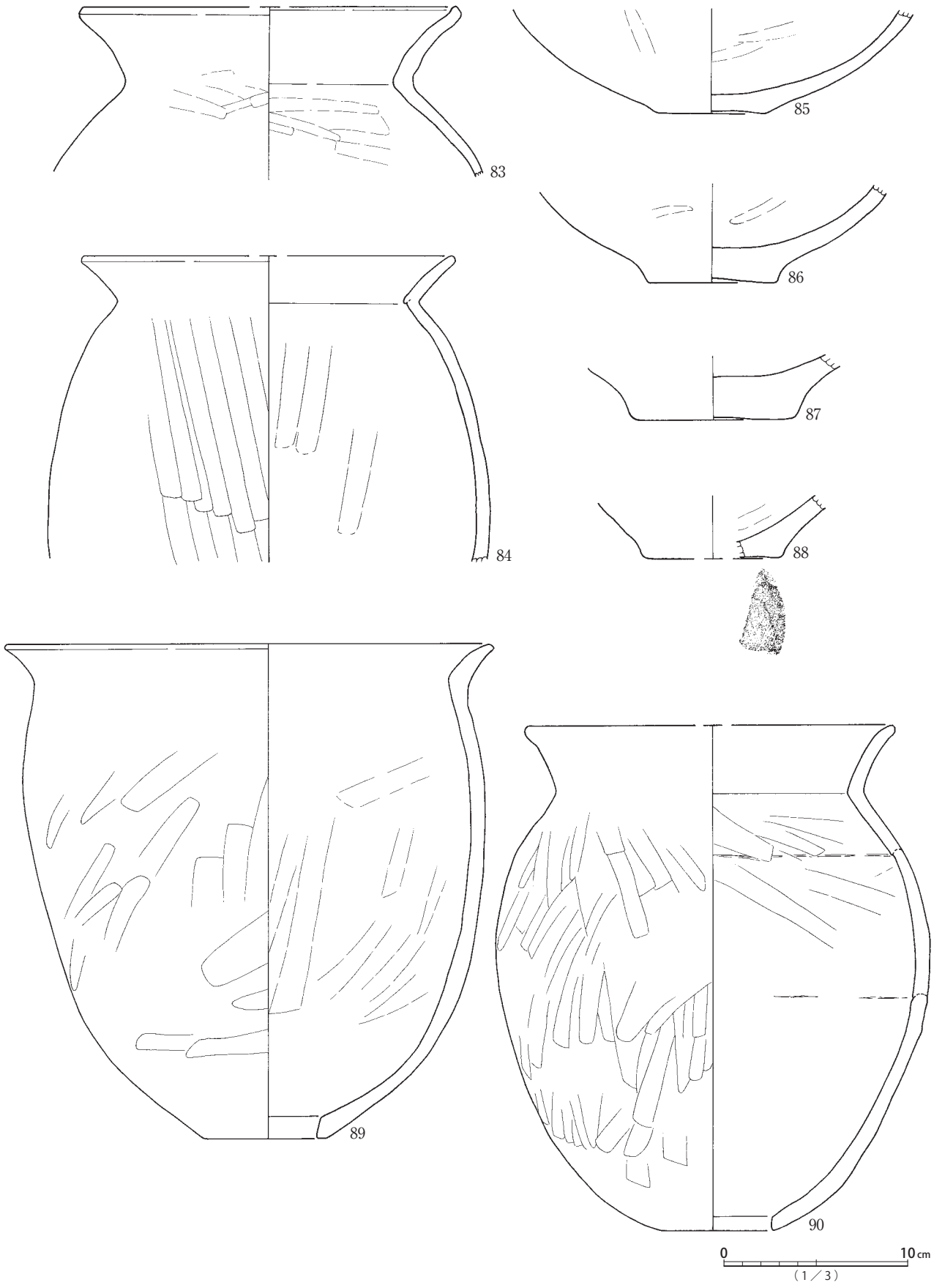


第139図　100号(6) 遺構出土遺物実測図



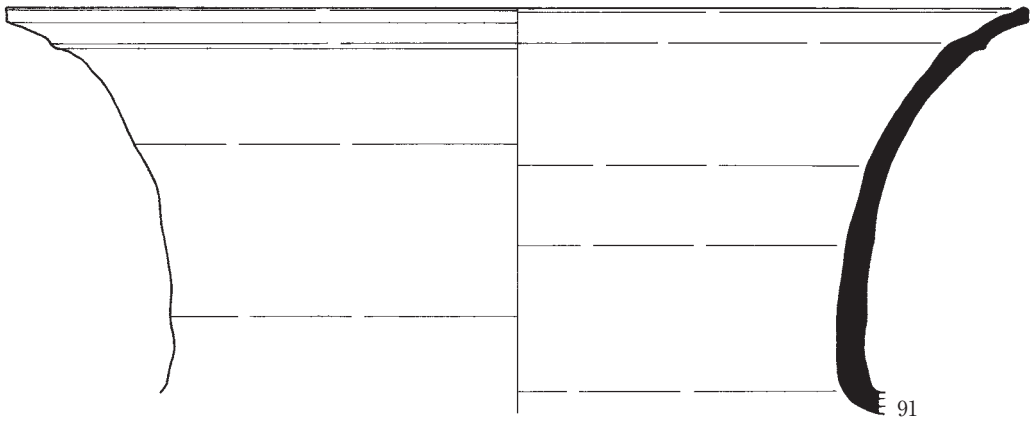
第140図　100号(7) 遺構出土遺物実測図

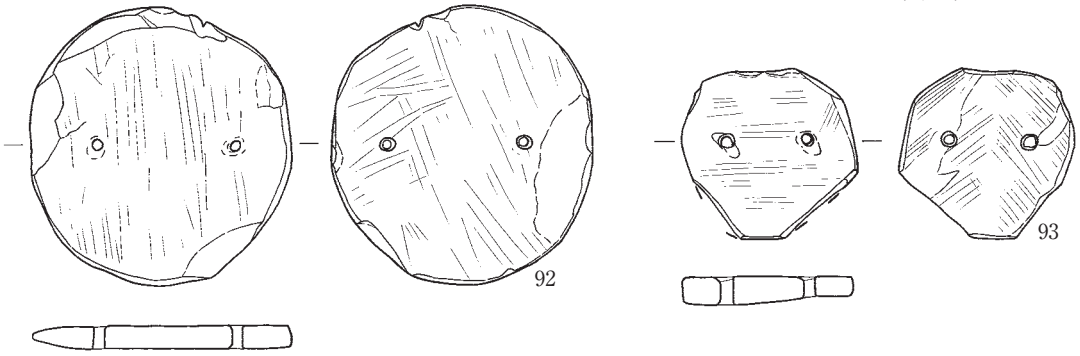
100号

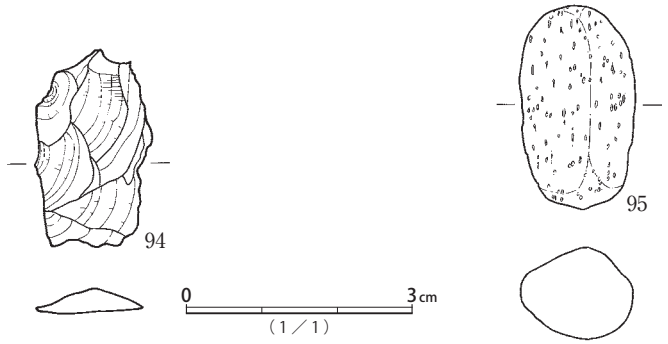


第141図　100号(8) 遺構出土遺物実測図

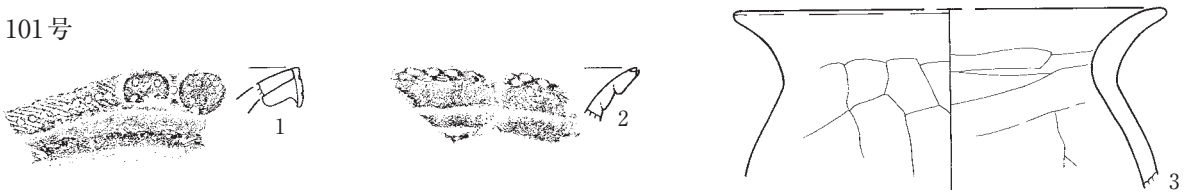
100号



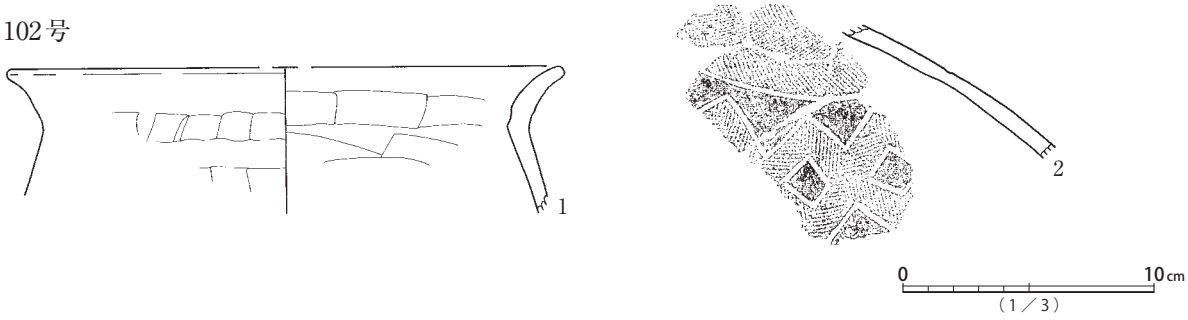




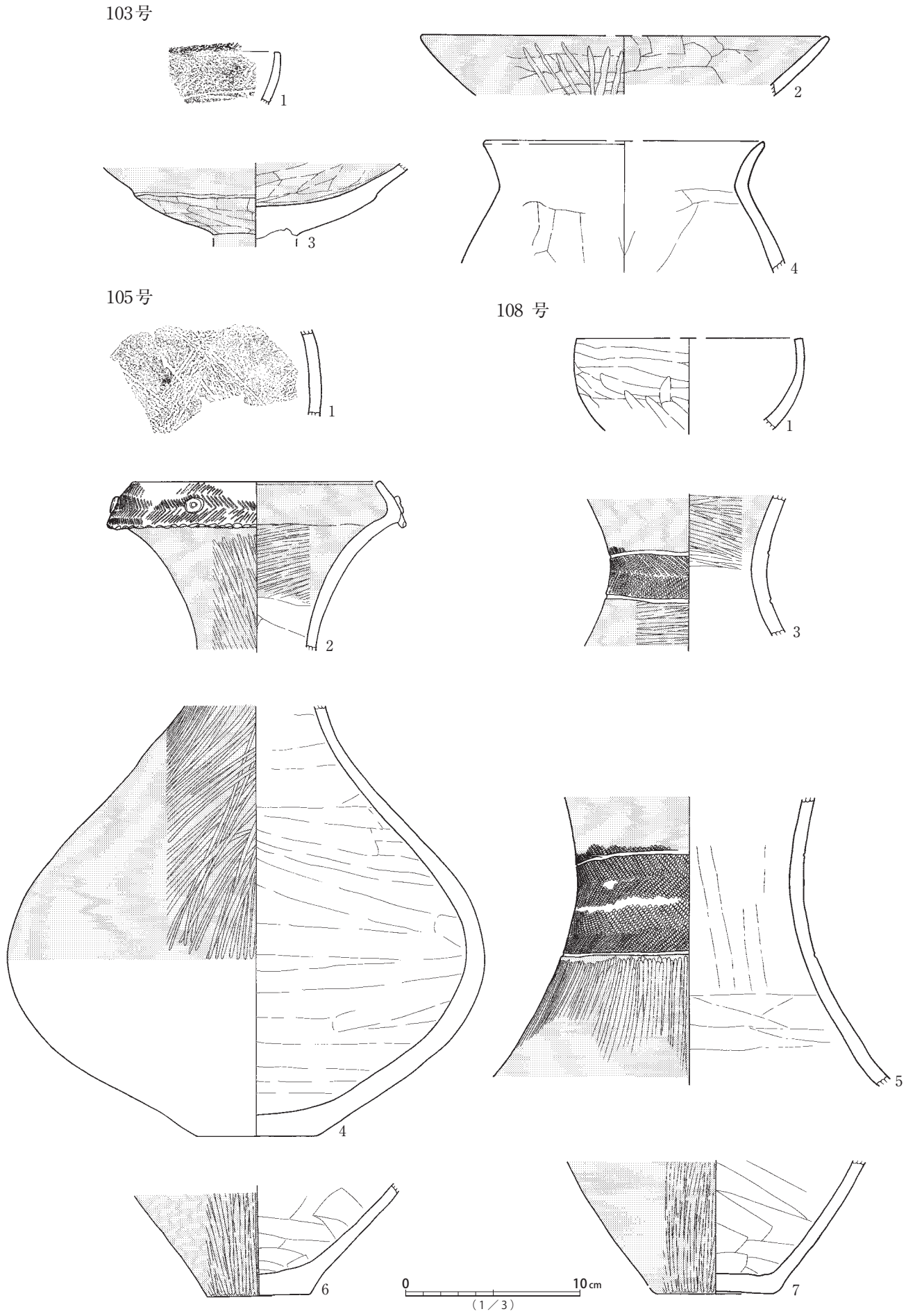
101号



102号

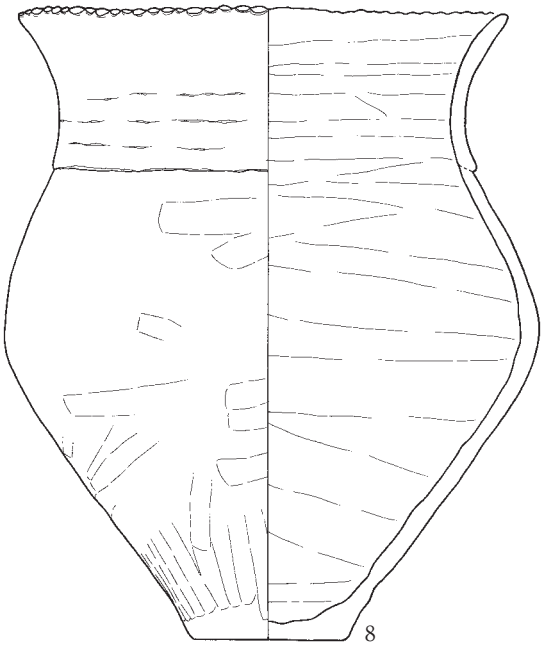


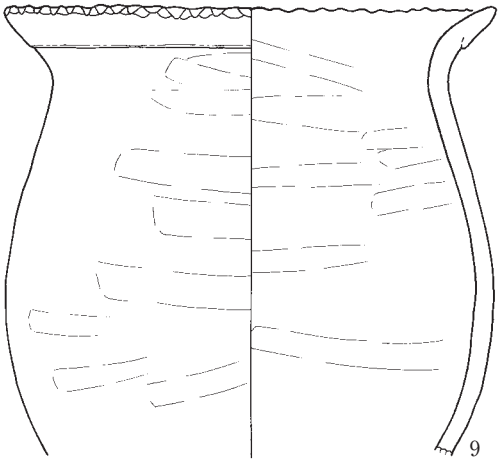
第142図　100号(9)・101号・102号 遺構出土遺物実測図

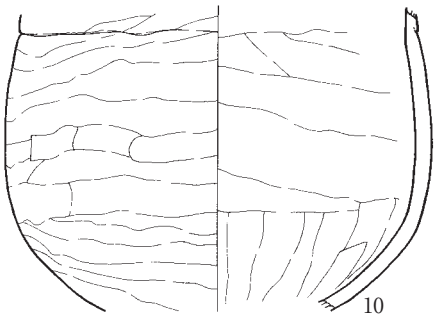


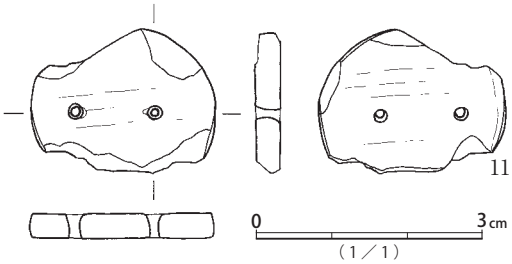
第143図　103号・105号・108号(1) 遺構出土遺物実測図

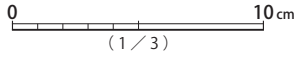
108号



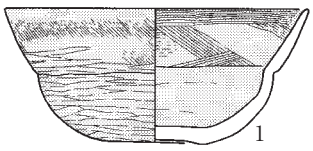


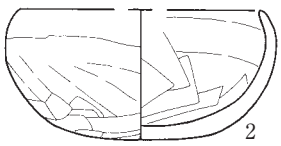


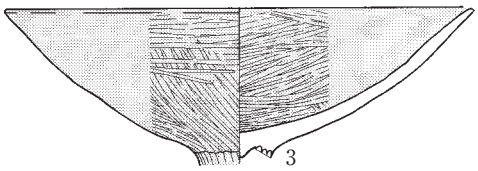


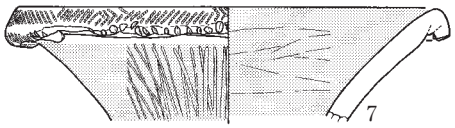


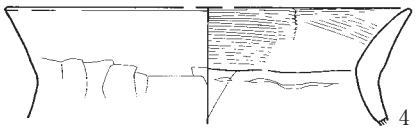
109号

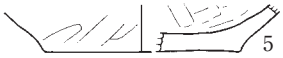


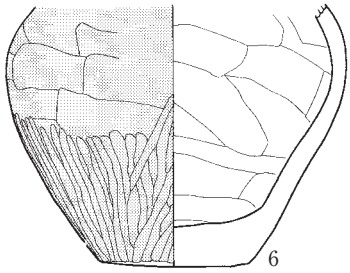


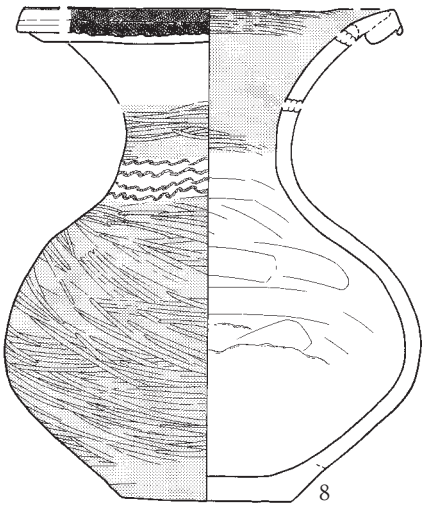


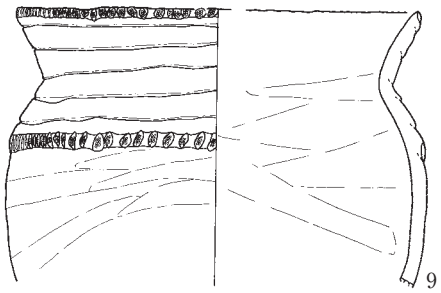




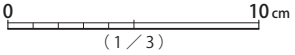






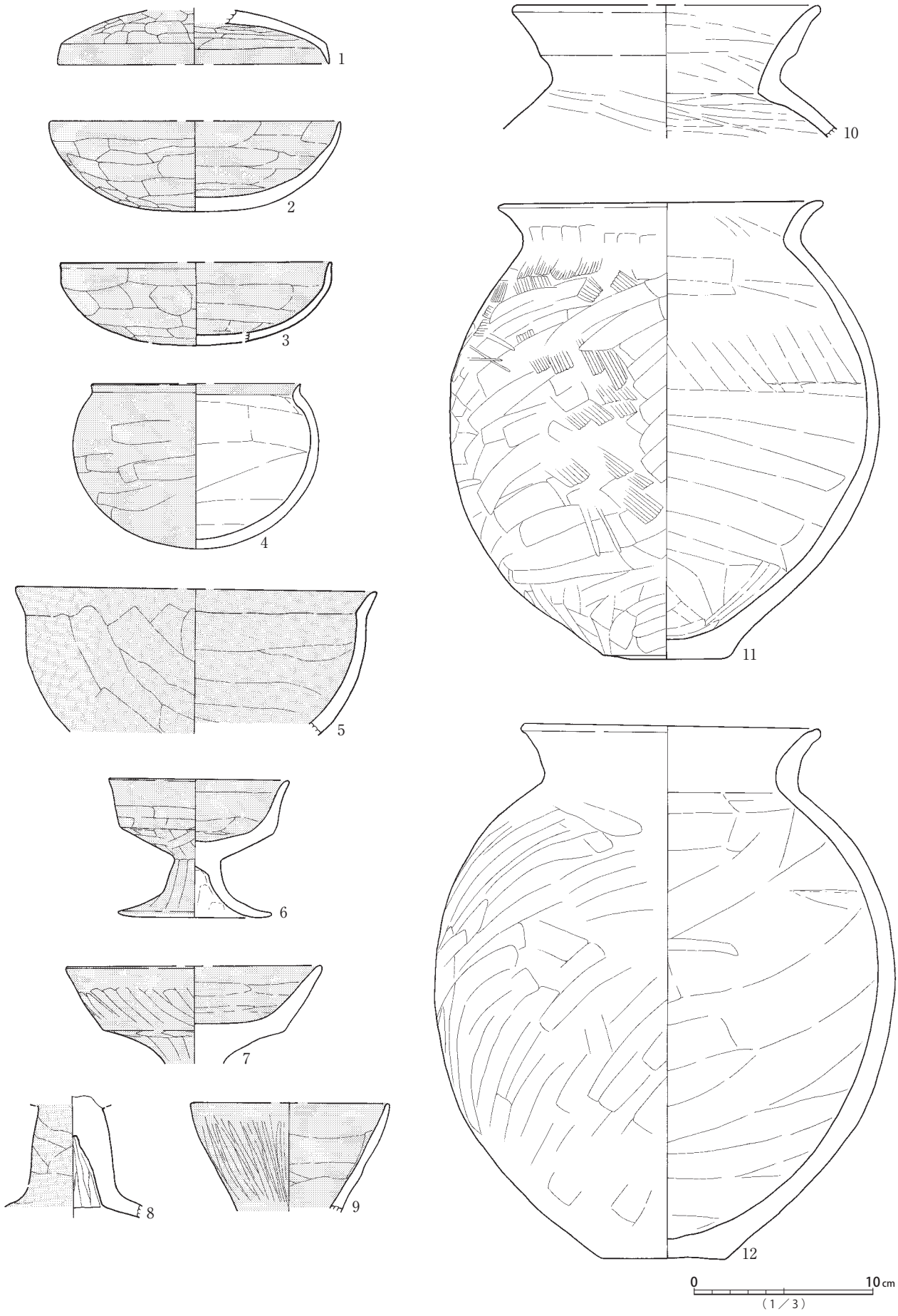






第144図　108号(2)・109号 遺構出土遺物実測図

110号

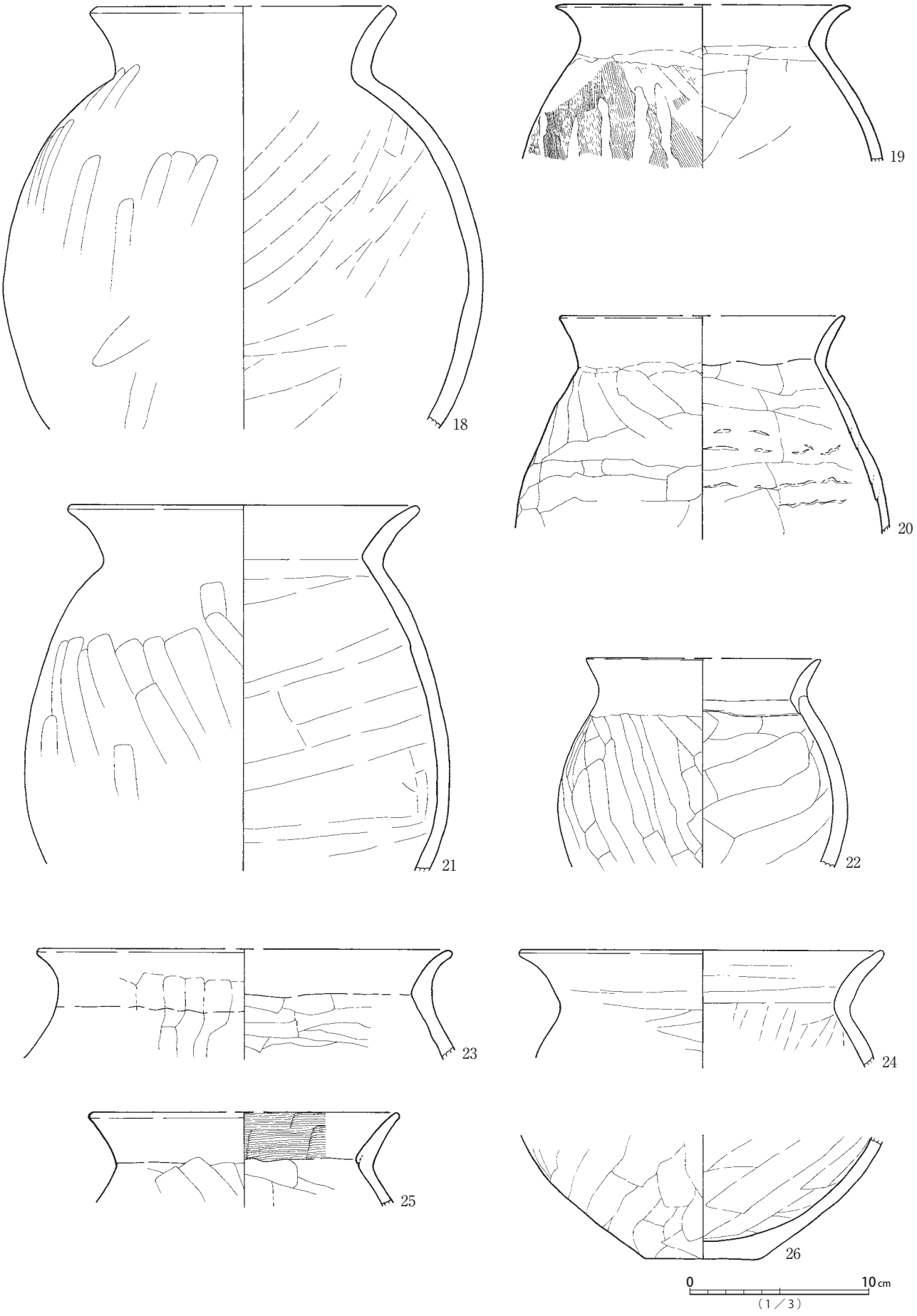


第145図　110号(1) 遺構出土遺物実測図



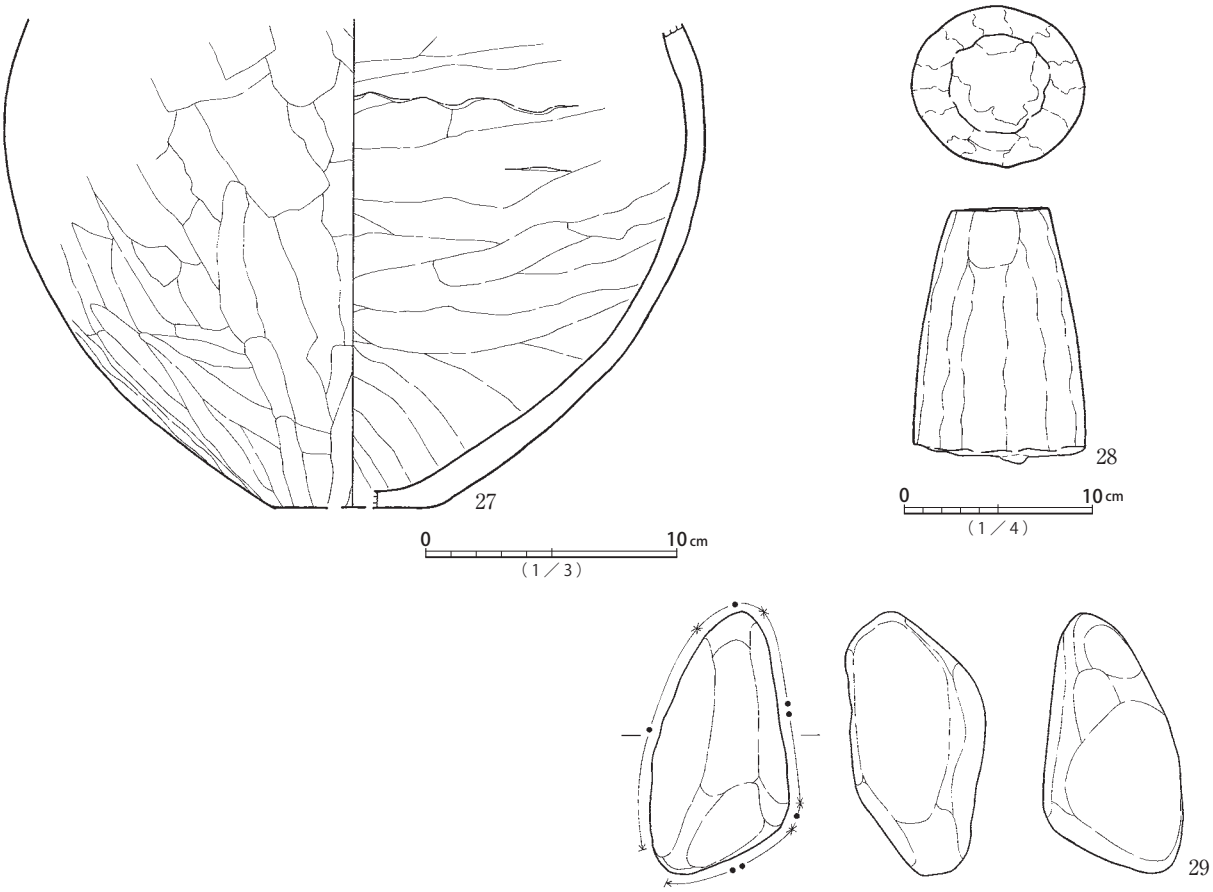
第146図　110号(2) 遺構出土遺物実測図

110号

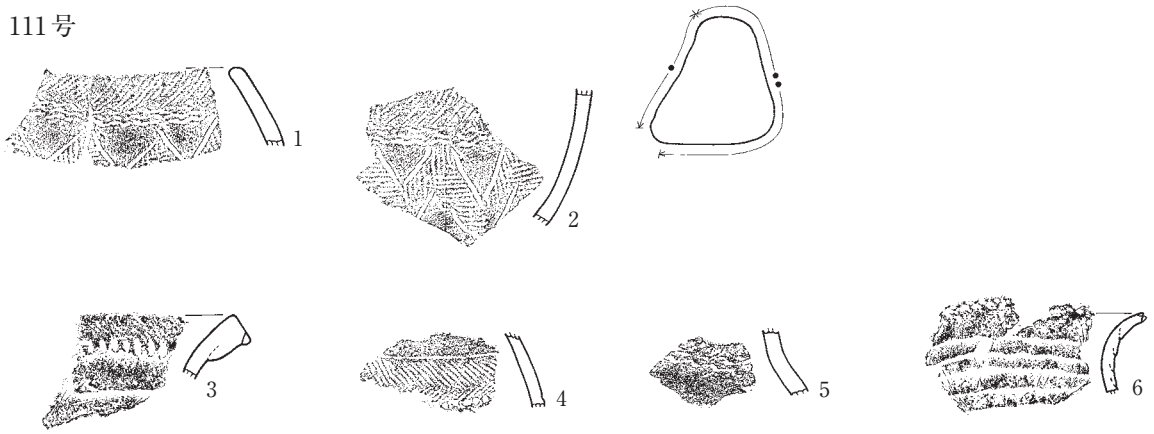


第147図　110号(3) 遺構出土遺物実測図

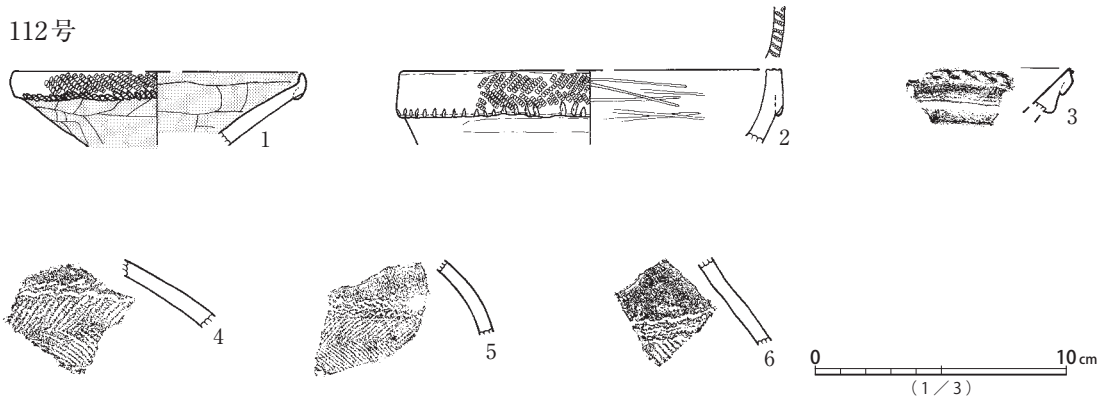
110号



111号

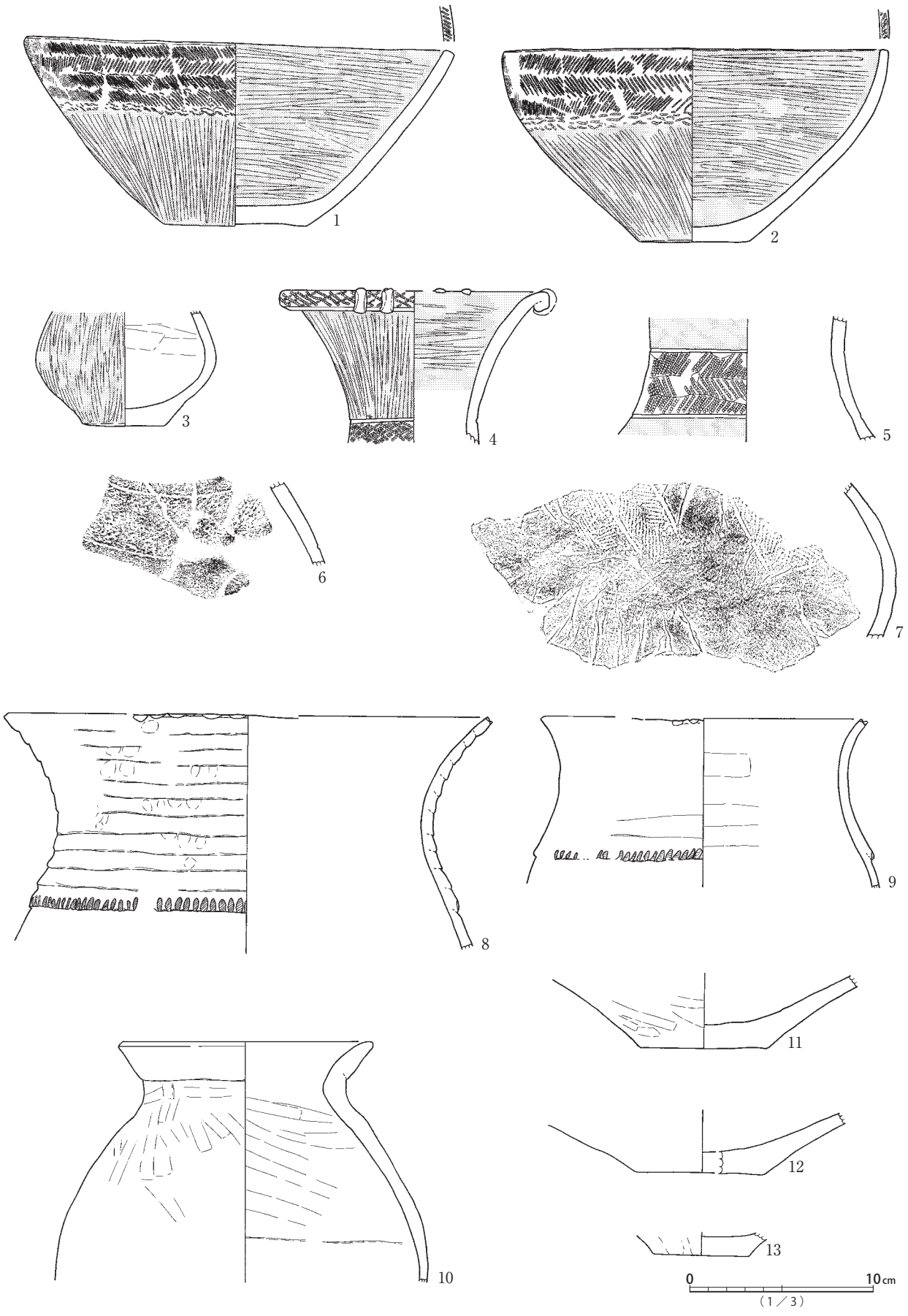


112号



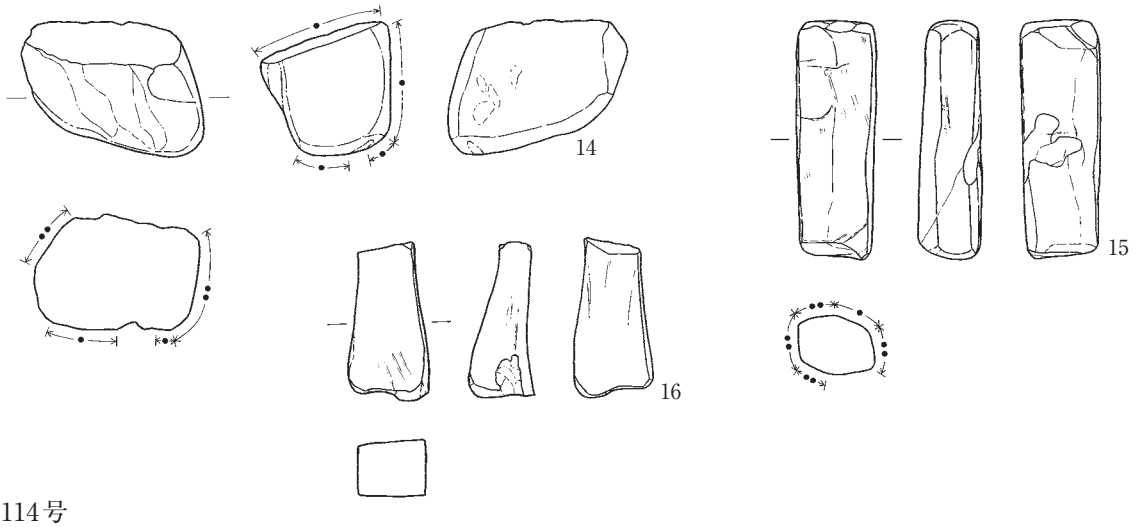
第148図　110号(4)・111号・112号 遺構出土遺物実測図

113号

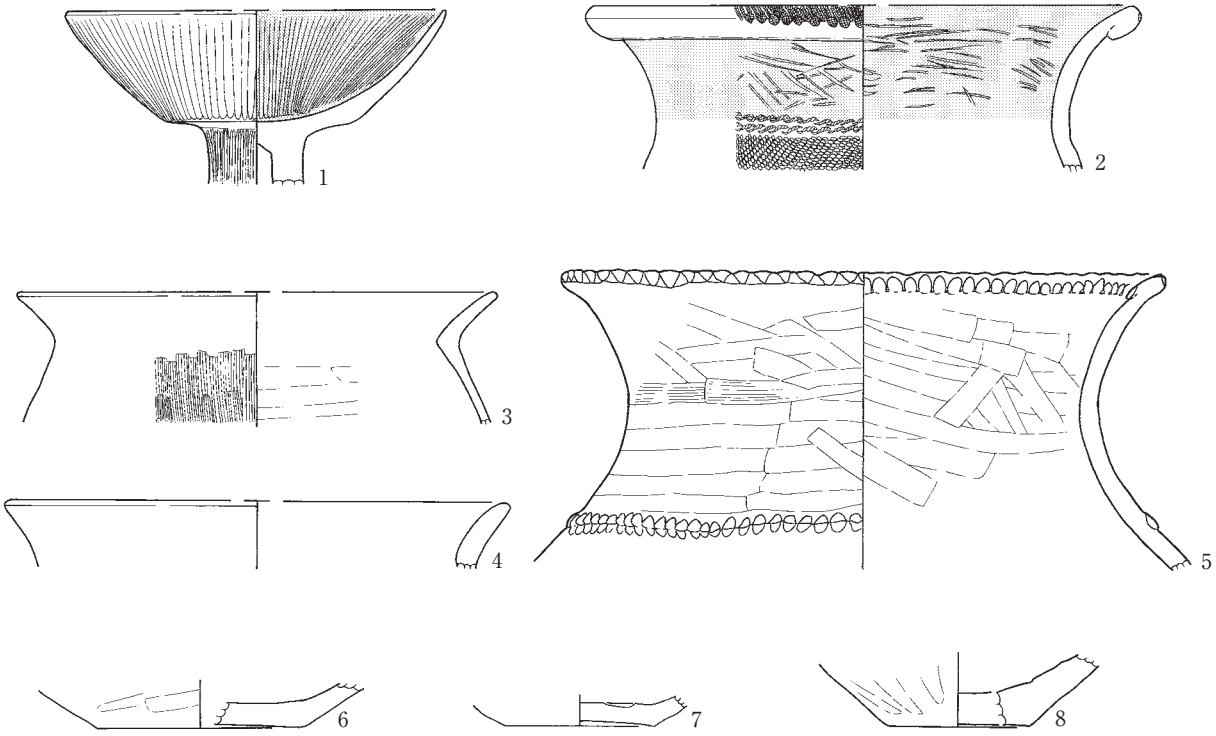


第149図　113号(1) 遺構出土遺物実測図

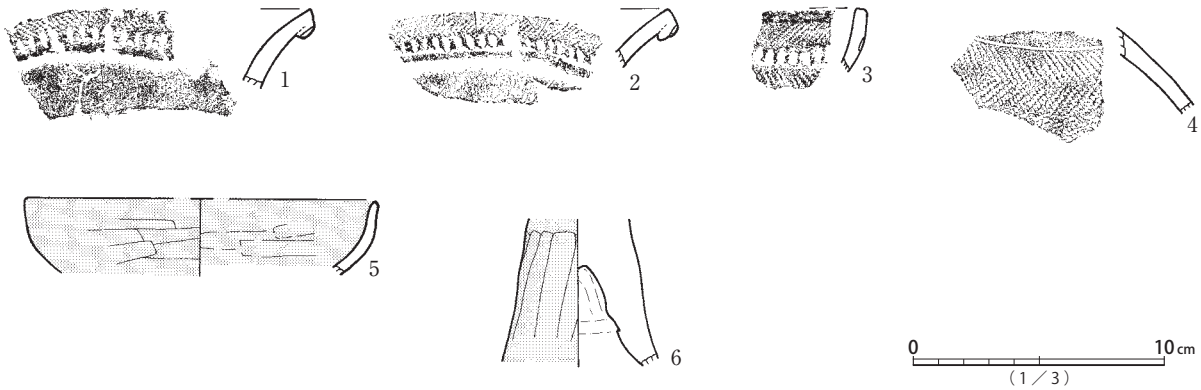
113 号



114号

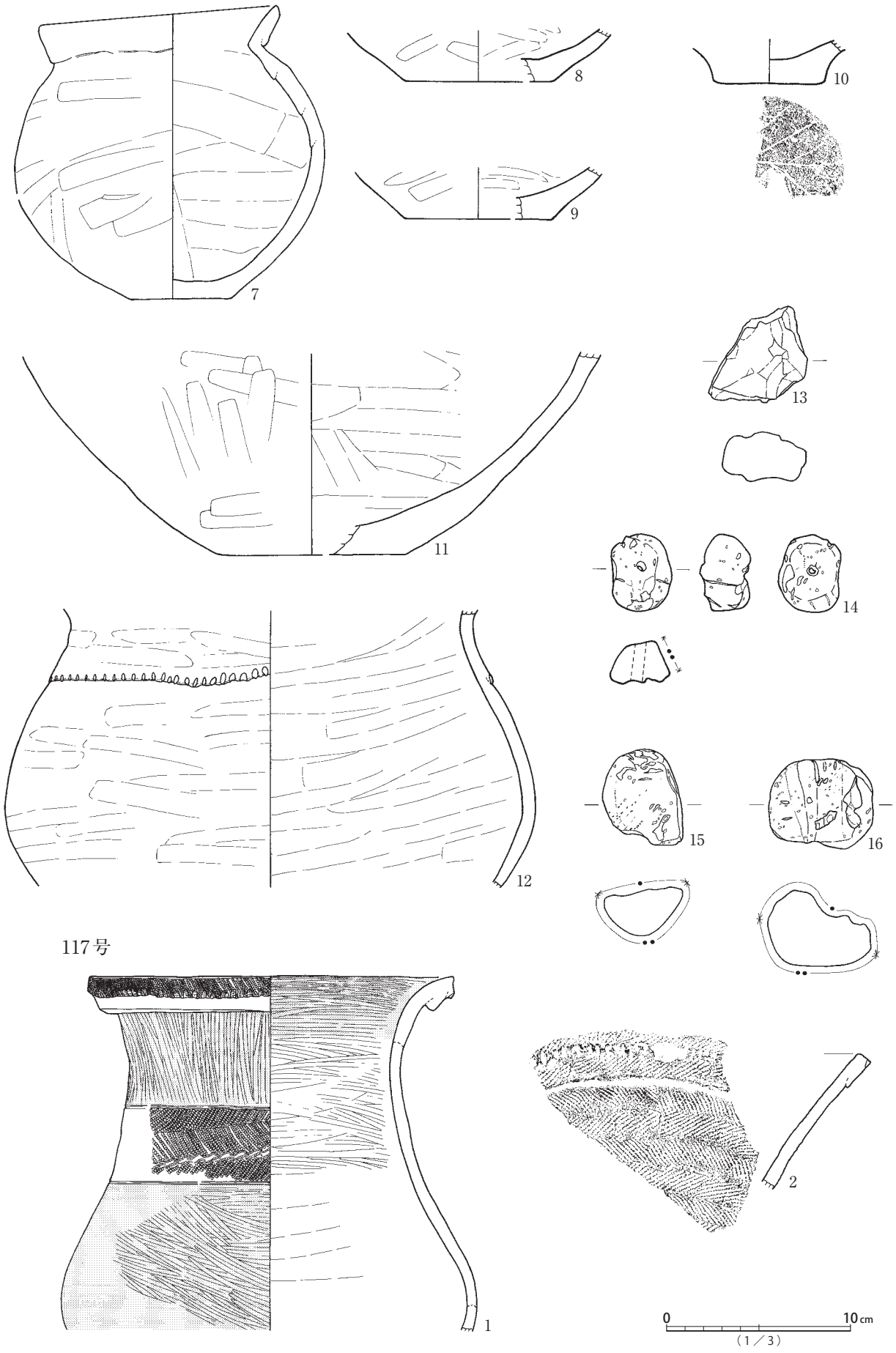


116 号



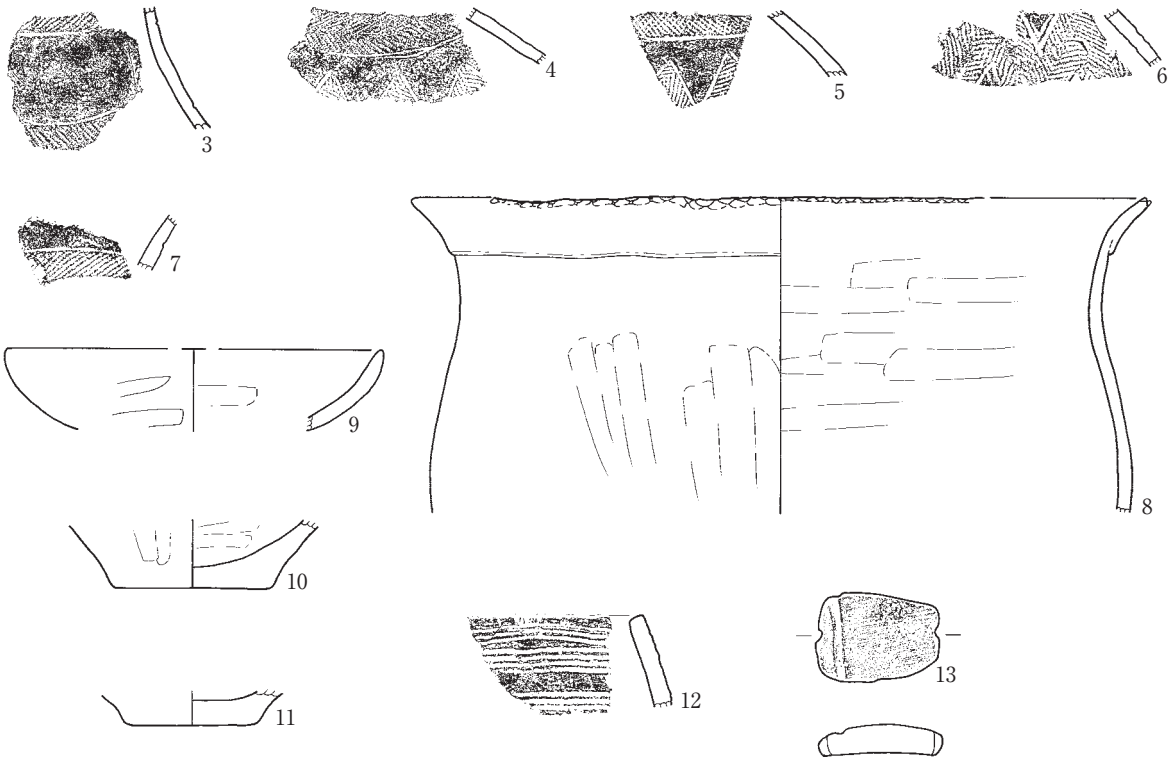
第150図　113号(2)・114号・116号(1) 遺構出土遺物実測図

116号

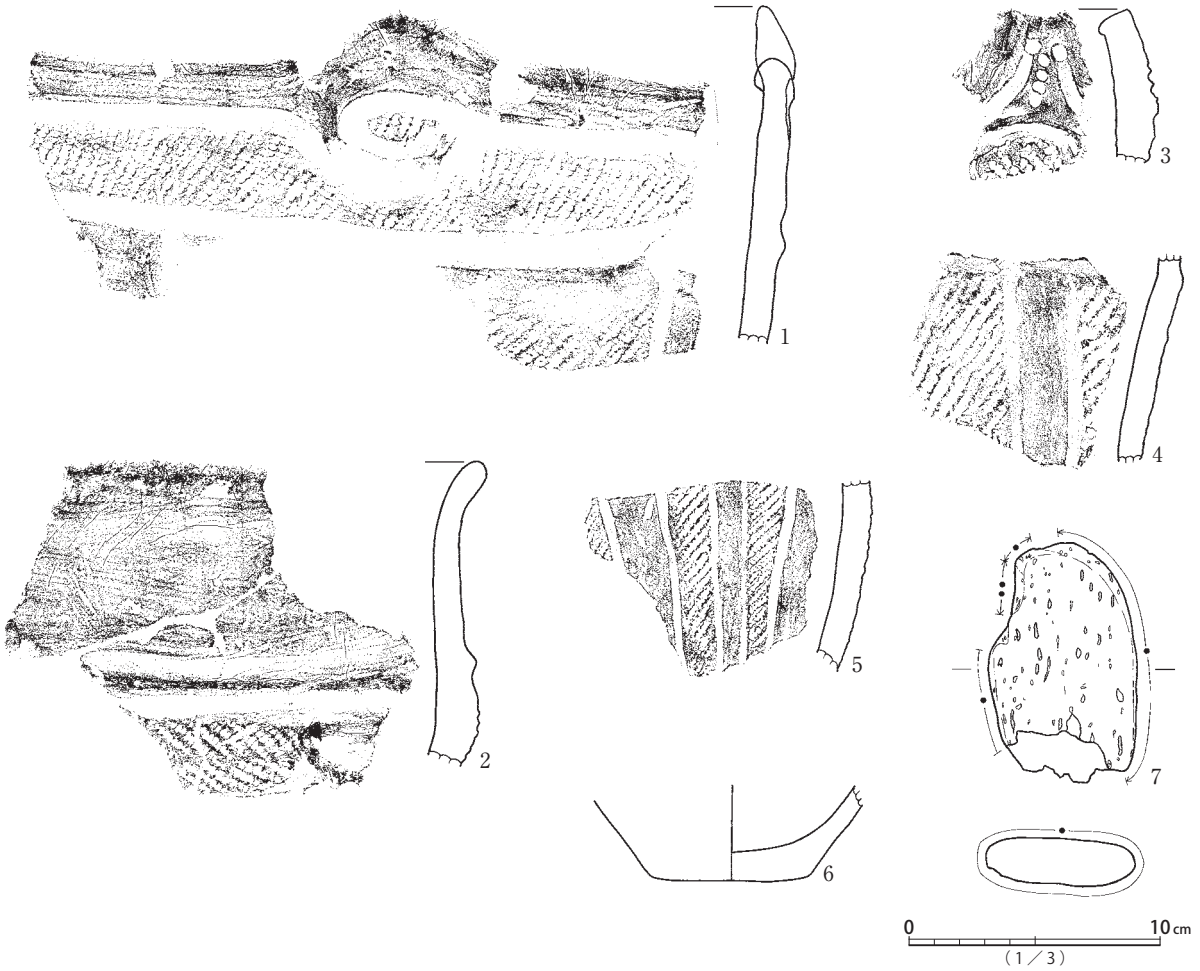


第151図　116号(2)・117号(1) 遺構出土遺物実測図

117号

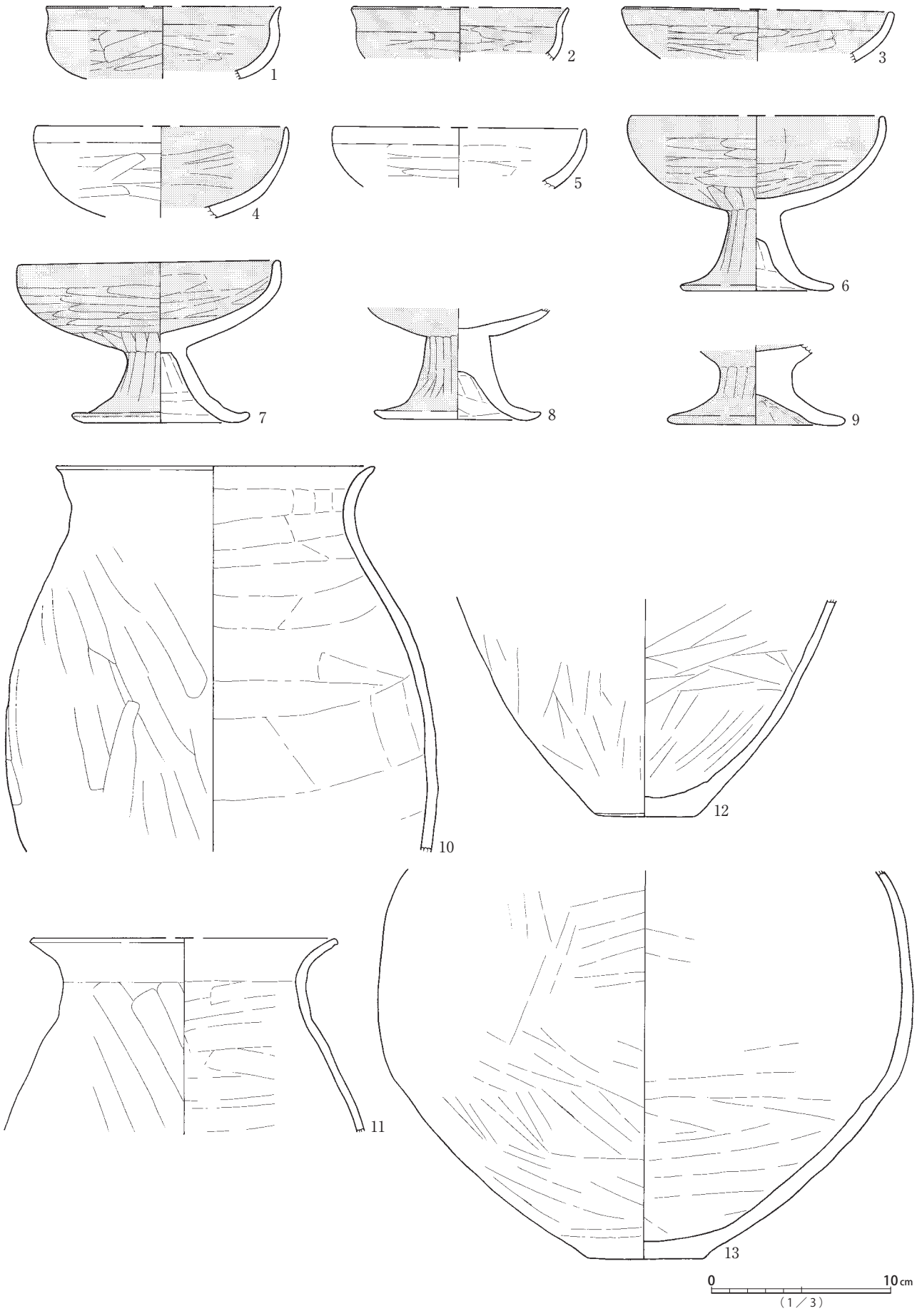


119号



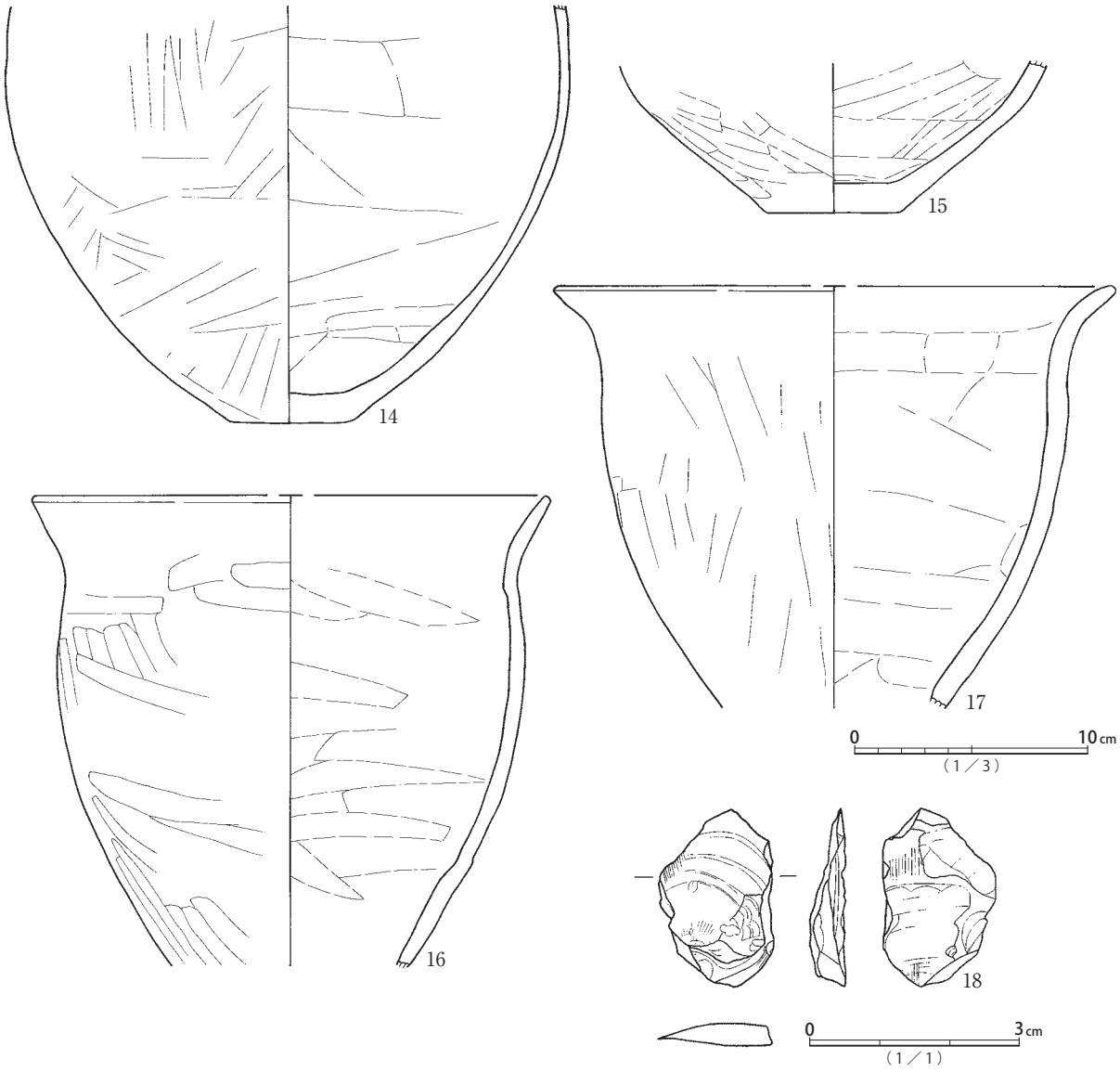
第152図　117号(2)・119号 遺構出土遺物実測図

120号

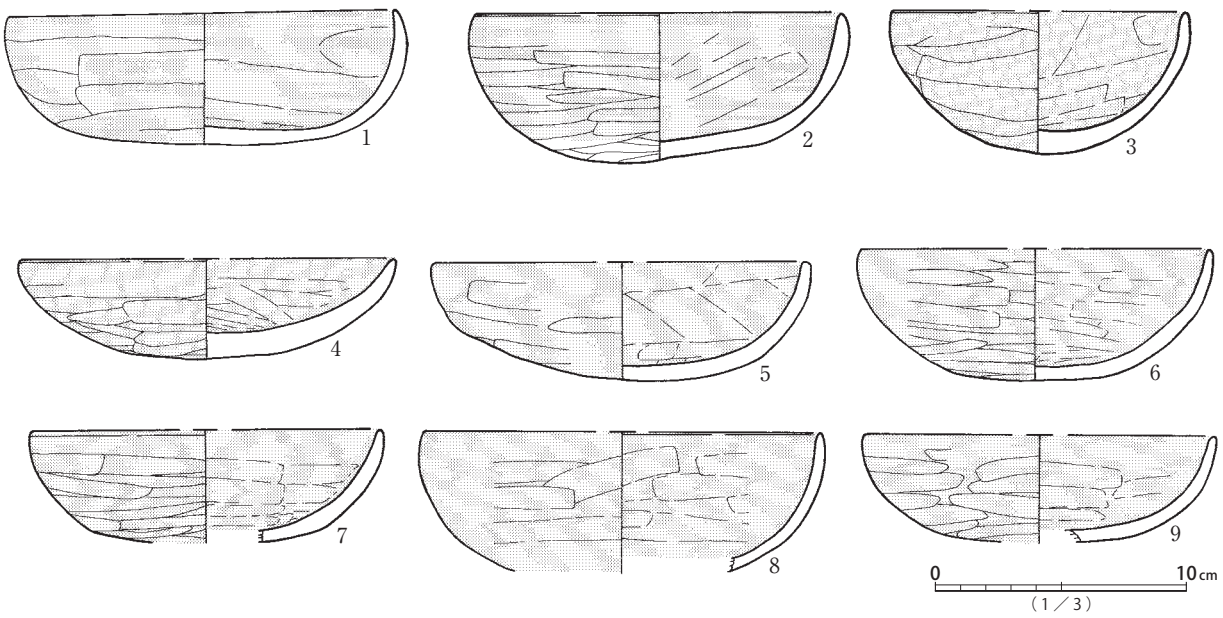


第153図　120号(1) 遺構出土遺物実測図

120号

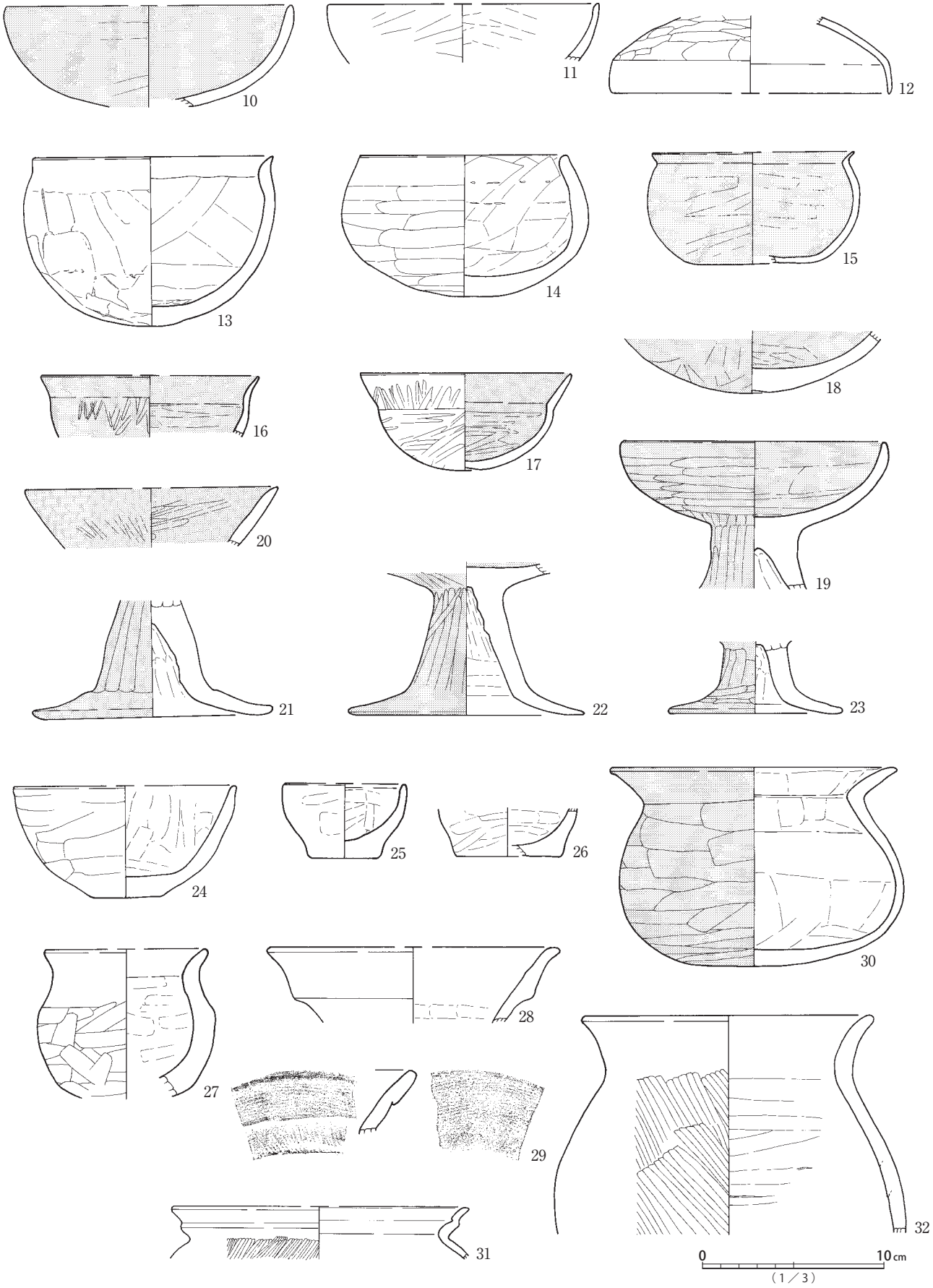


123号



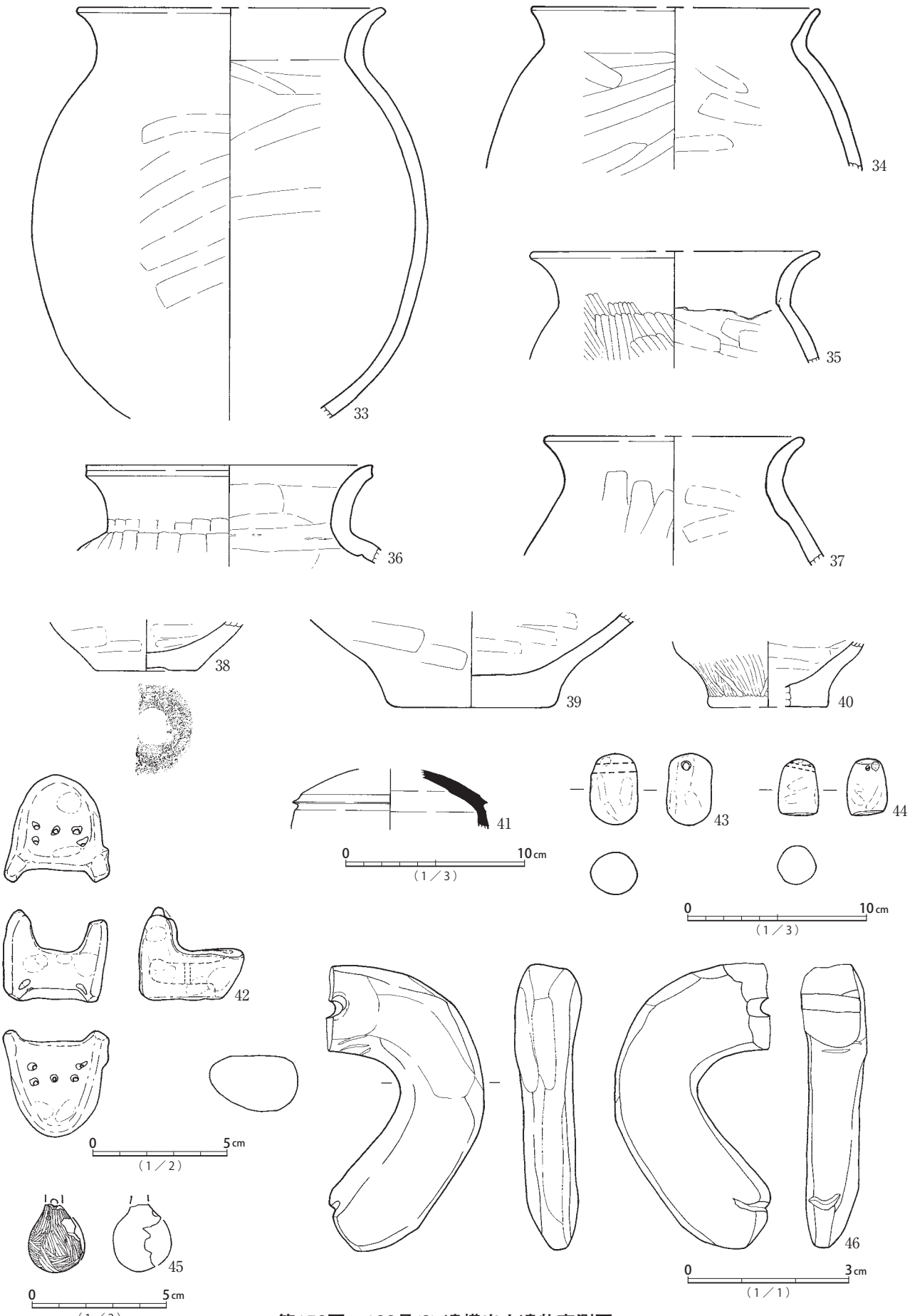
第154図　120号(2)・123号(1) 遺構出土遺物実測図

123号



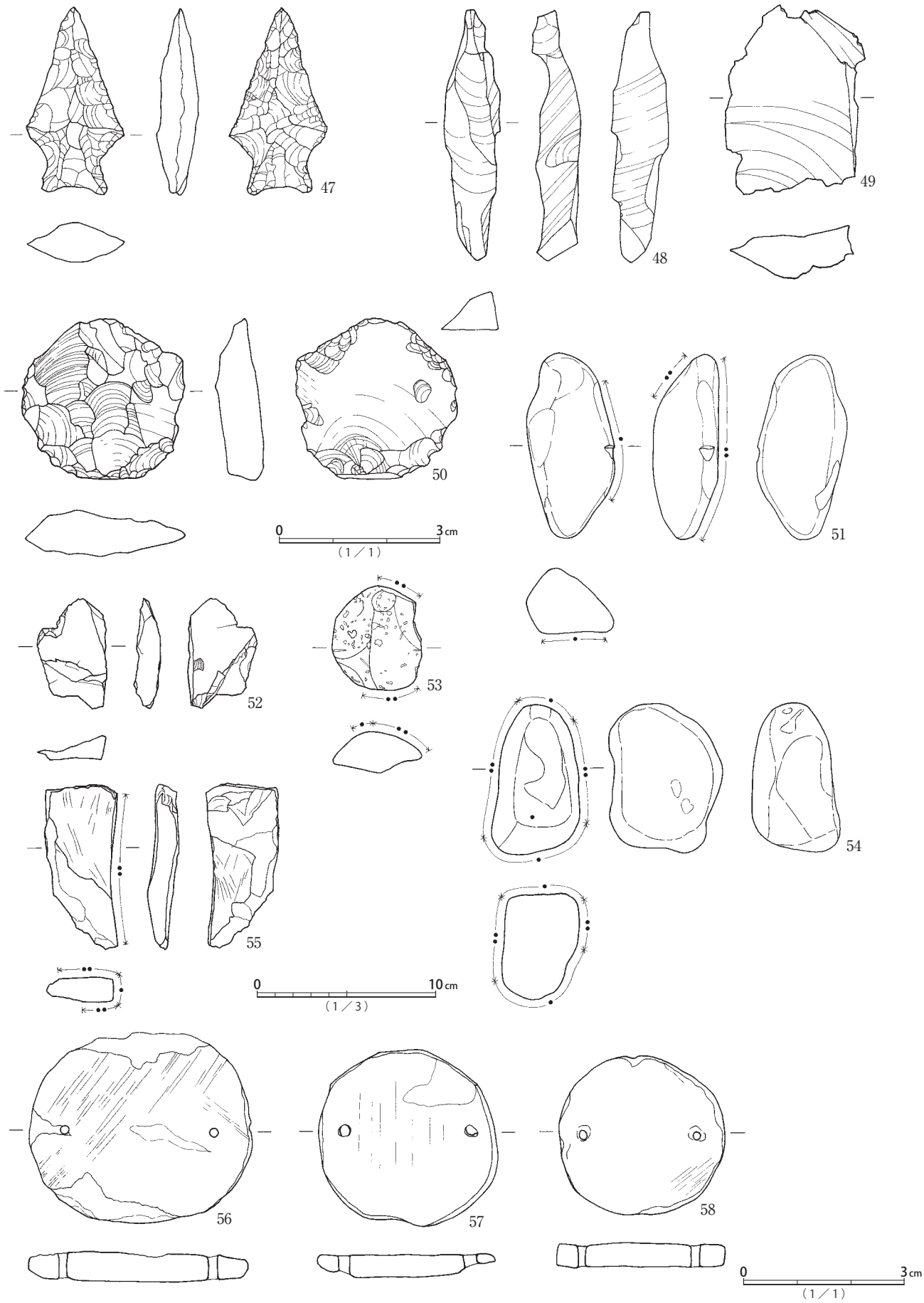
第155図　123号(2) 遺構出土遺物実測図

123号

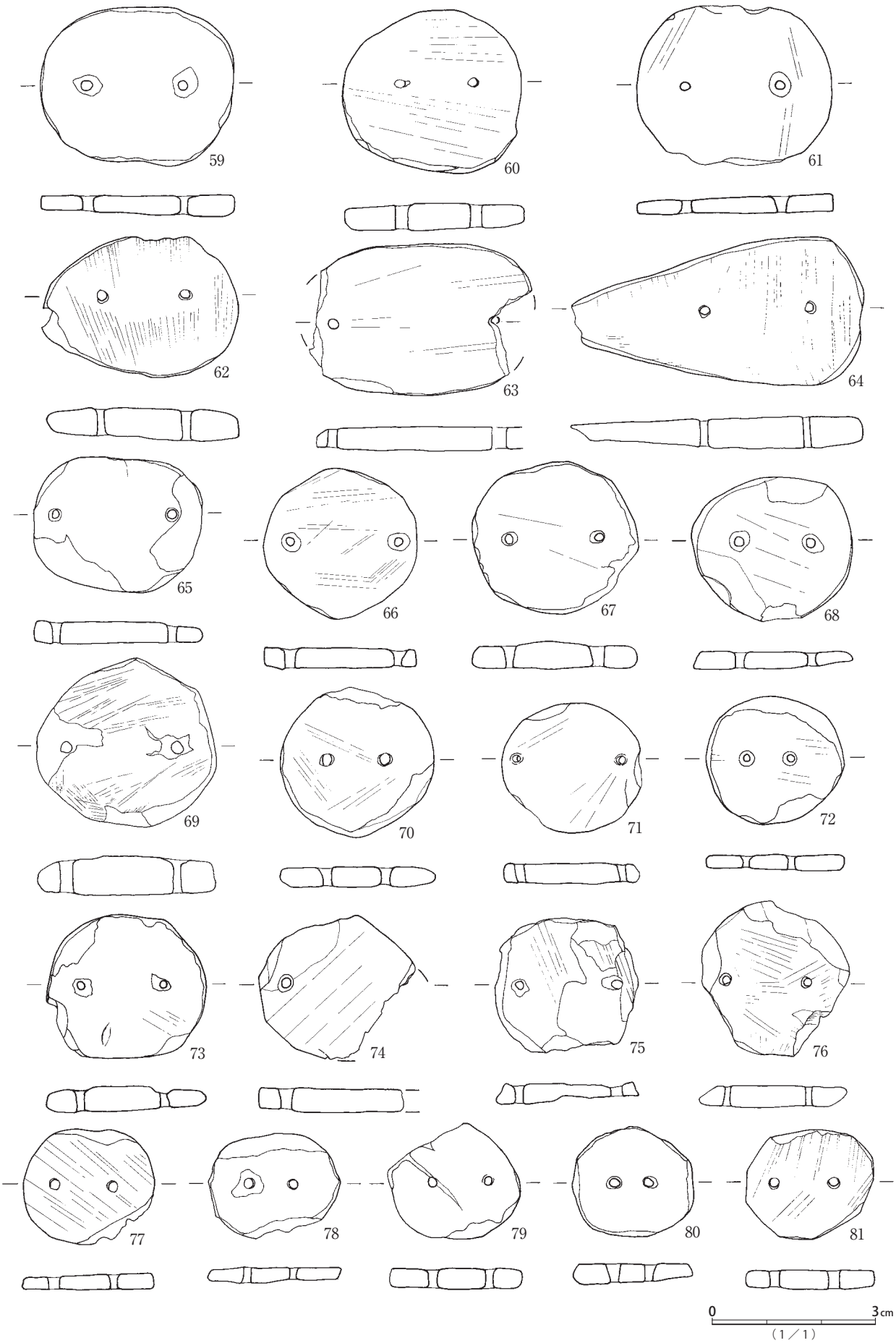


第156図　123号(3) 遺構出土遺物実測図

123号

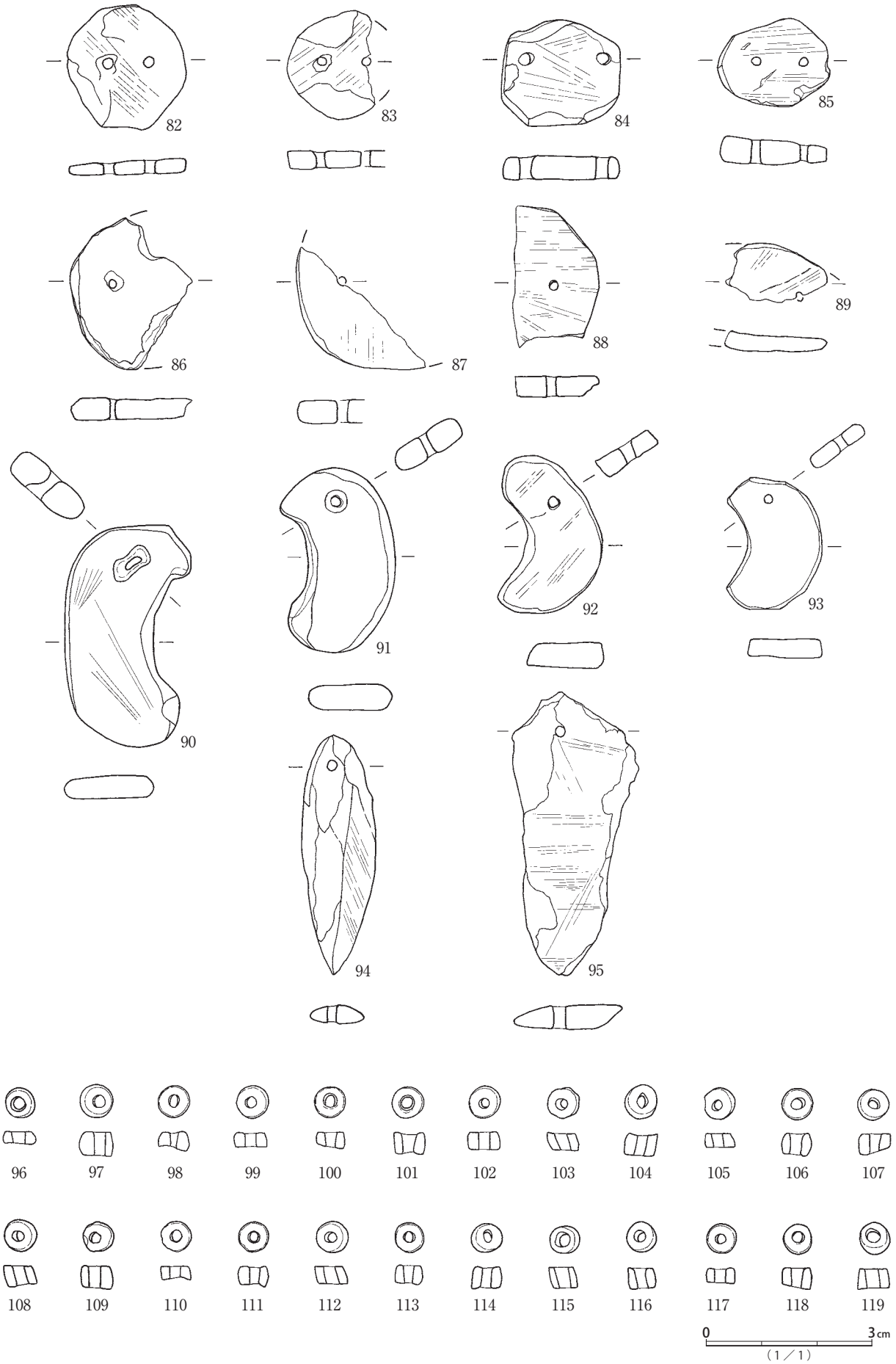


第157 図　123号(4) 遺構出土遺物実測図



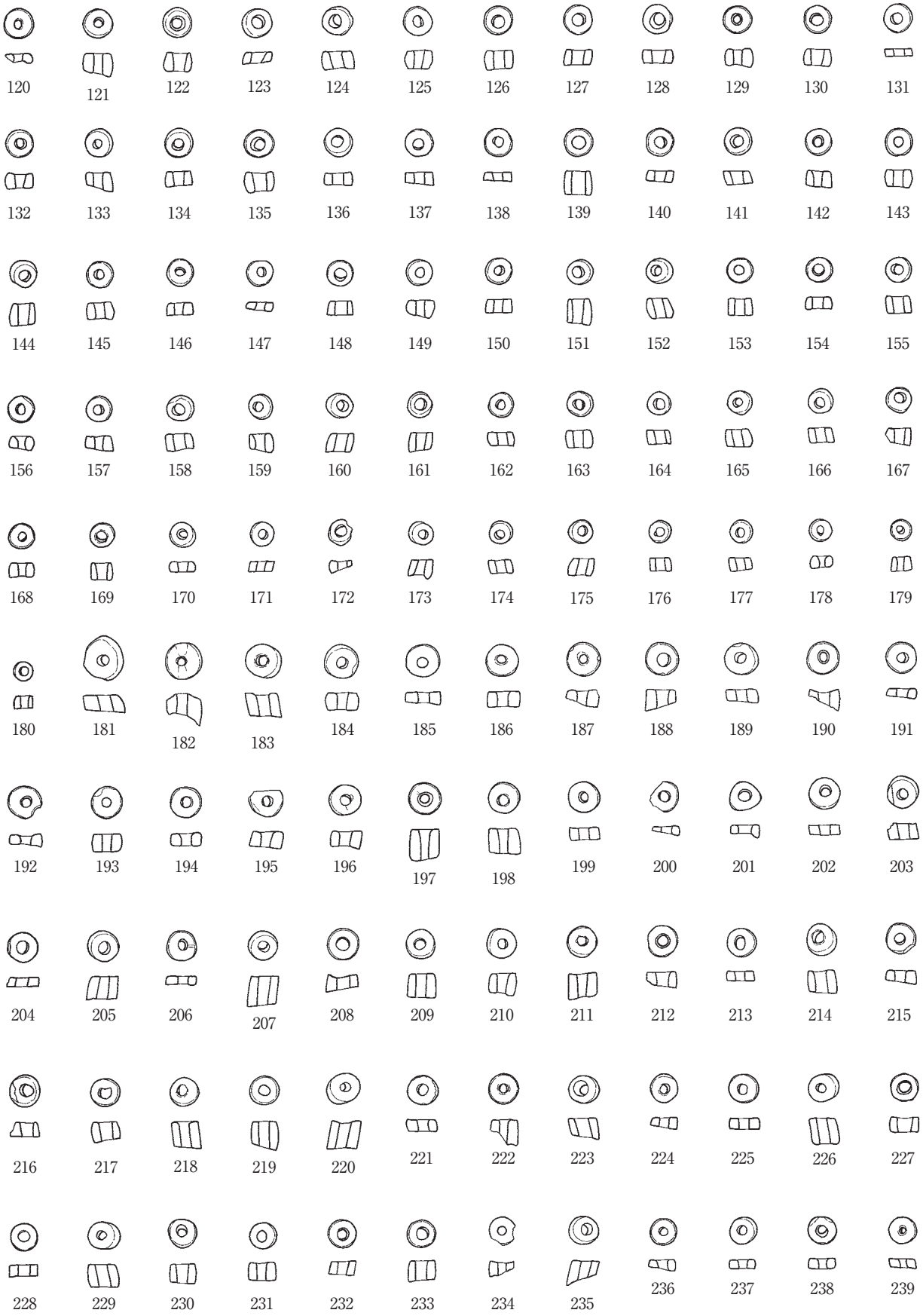
第158図　123号(5) 遺構出土遺物実測図

123号



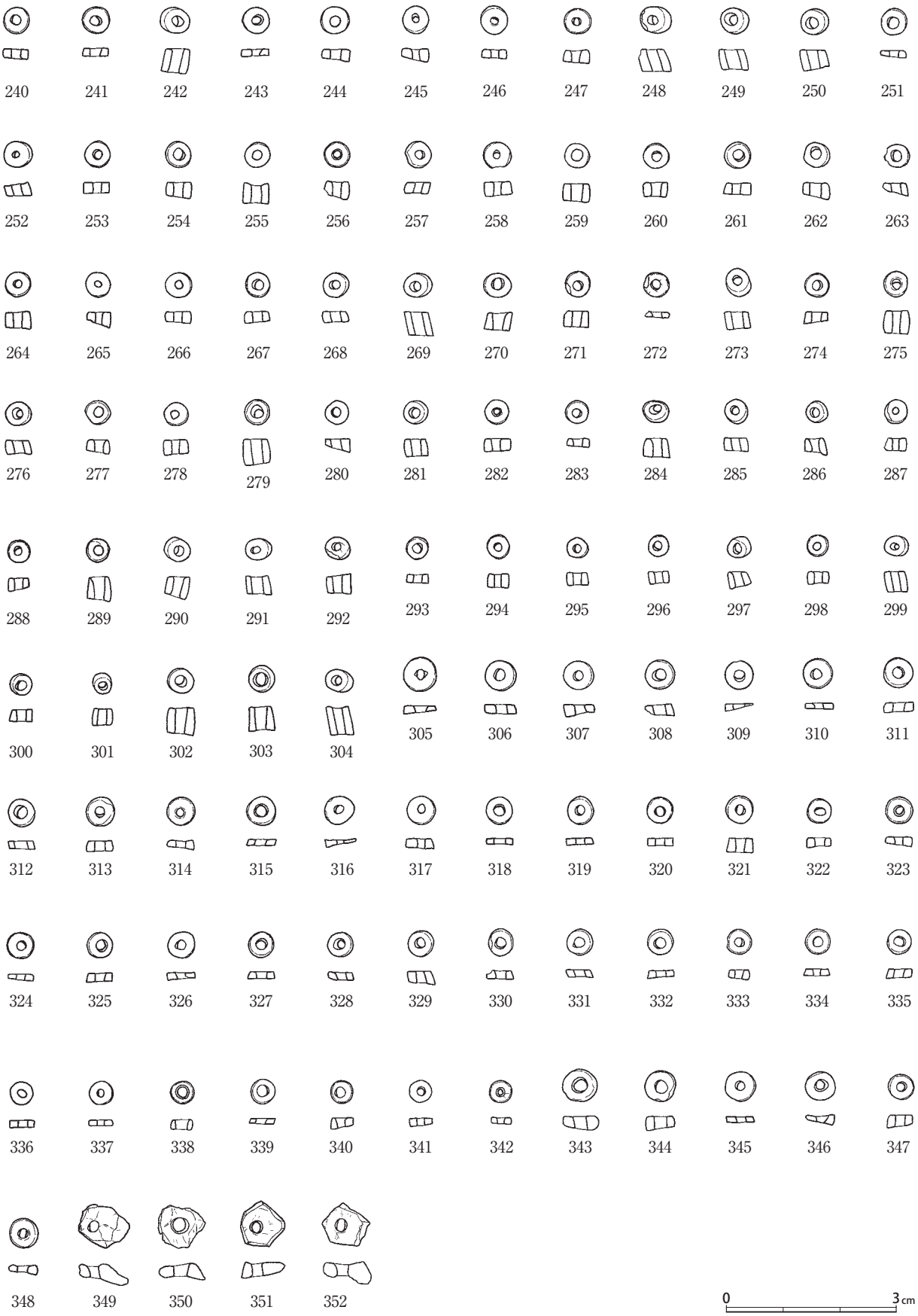
第159図　123号(6) 遺構出土遺物実測図

123号



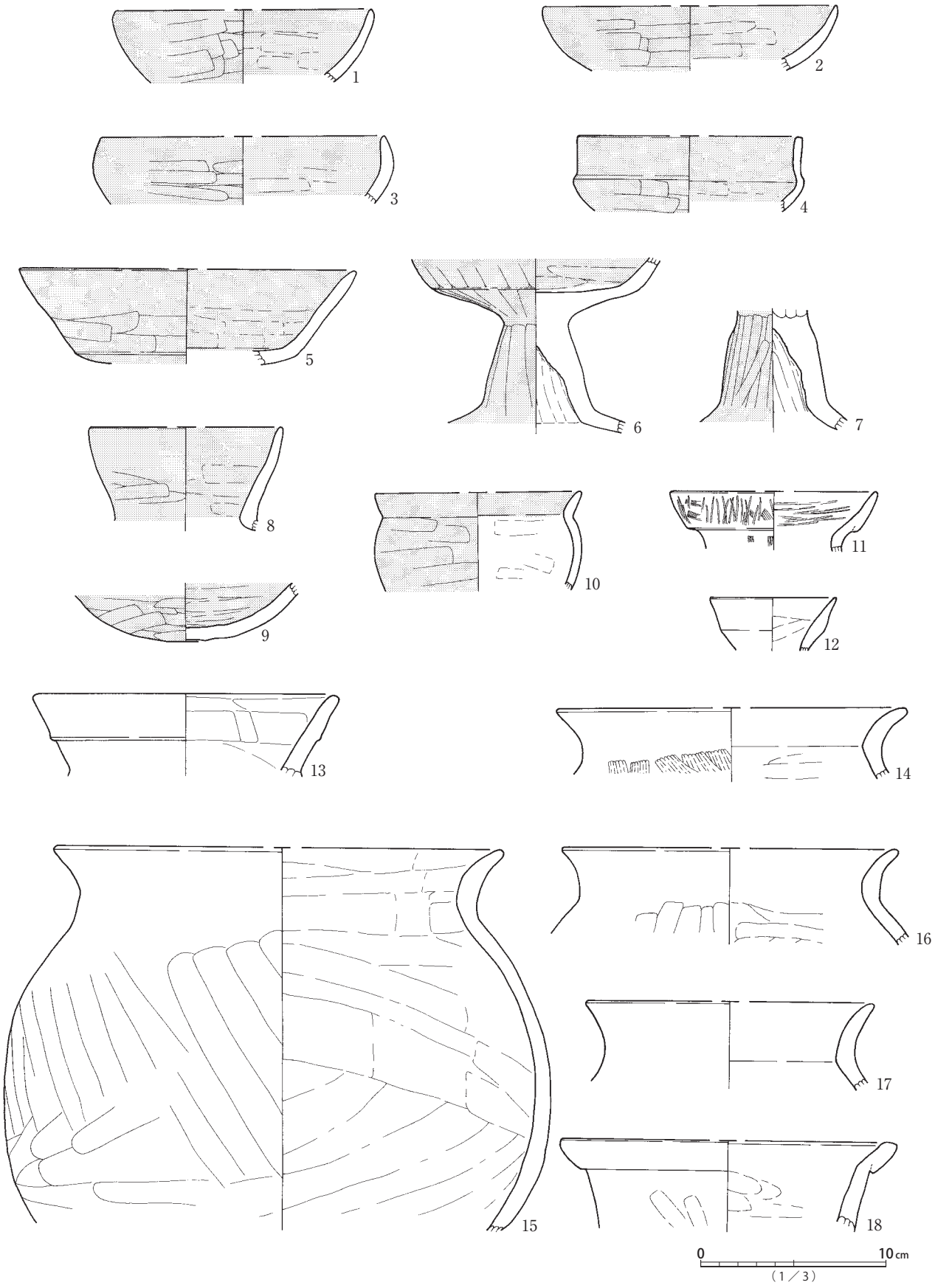
第160図　123号(7) 遺構出土遺物実測図

123号



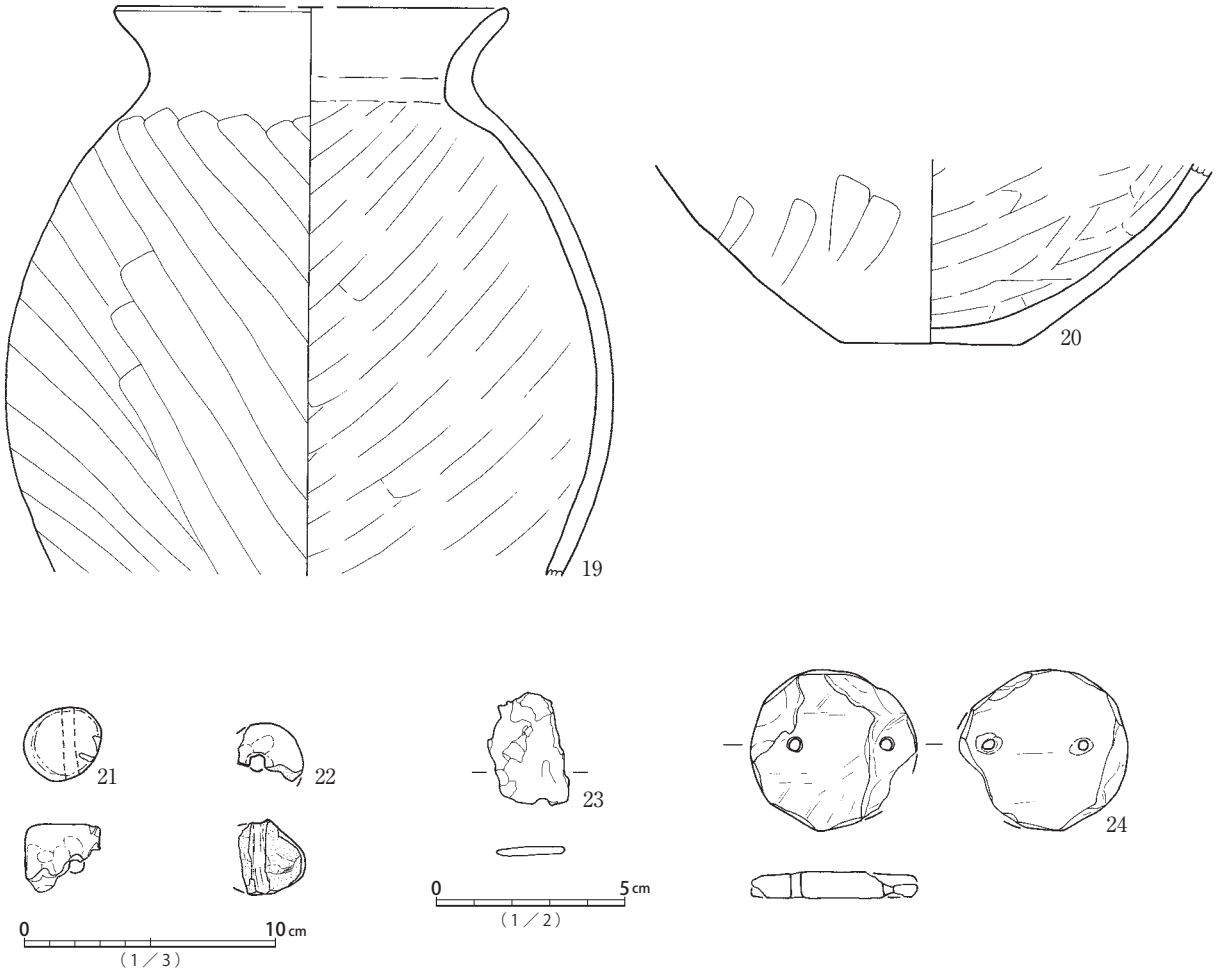
第161図　123号(8) 遺構出土遺物実測図

124号

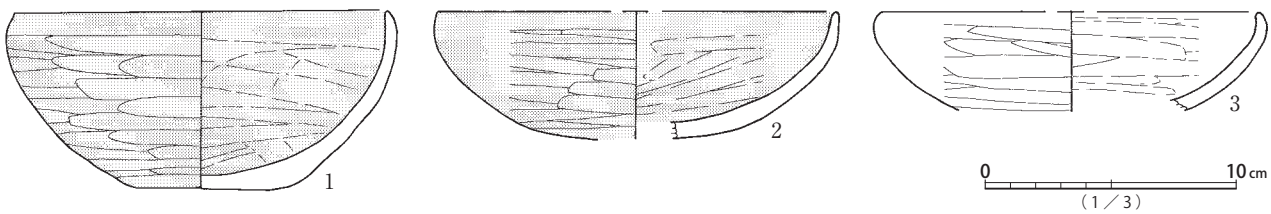


第162図　124号(1) 遺構出土遺物実測図

124号

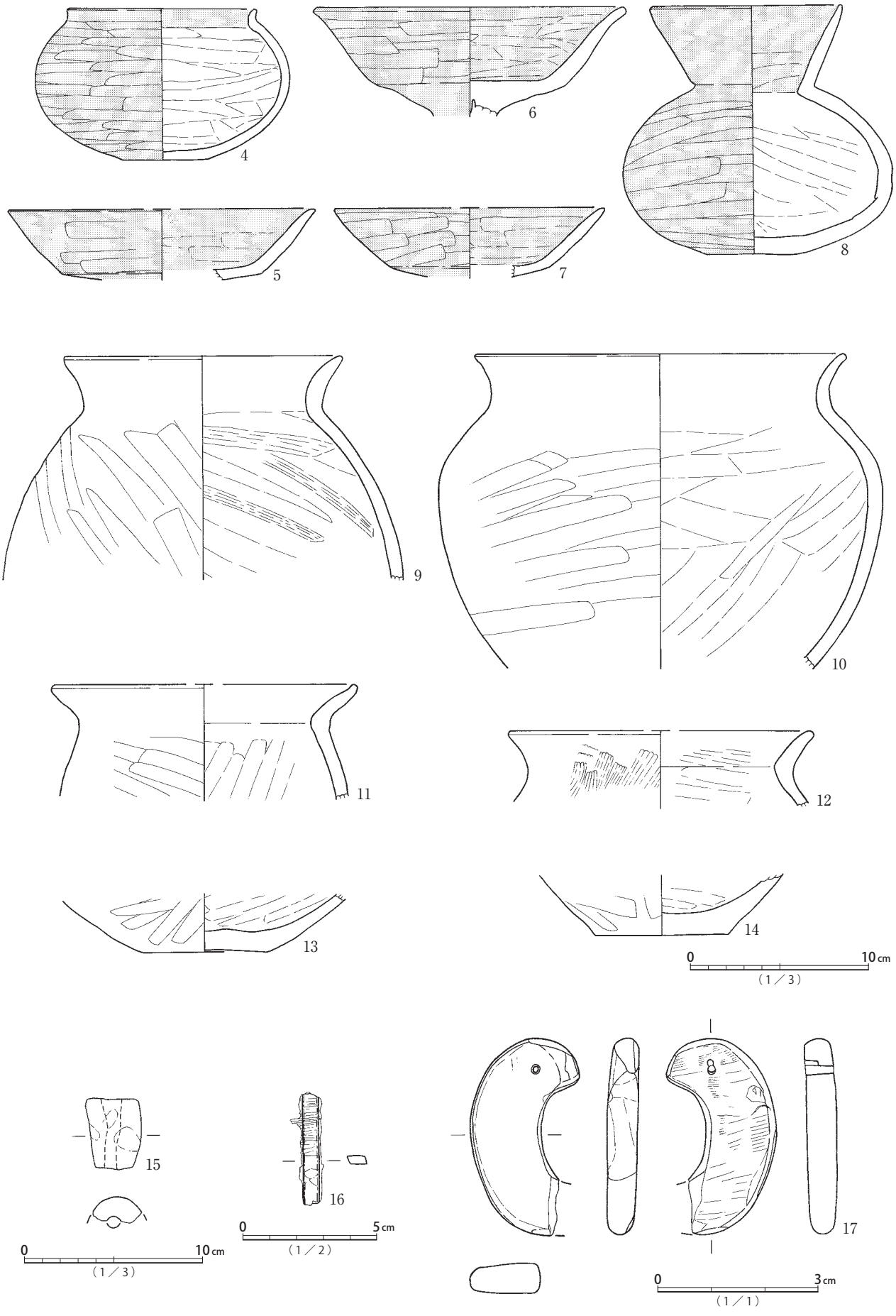


131号



第163図　124号(2)・131号(1) 遺構出土遺物実測図

131号

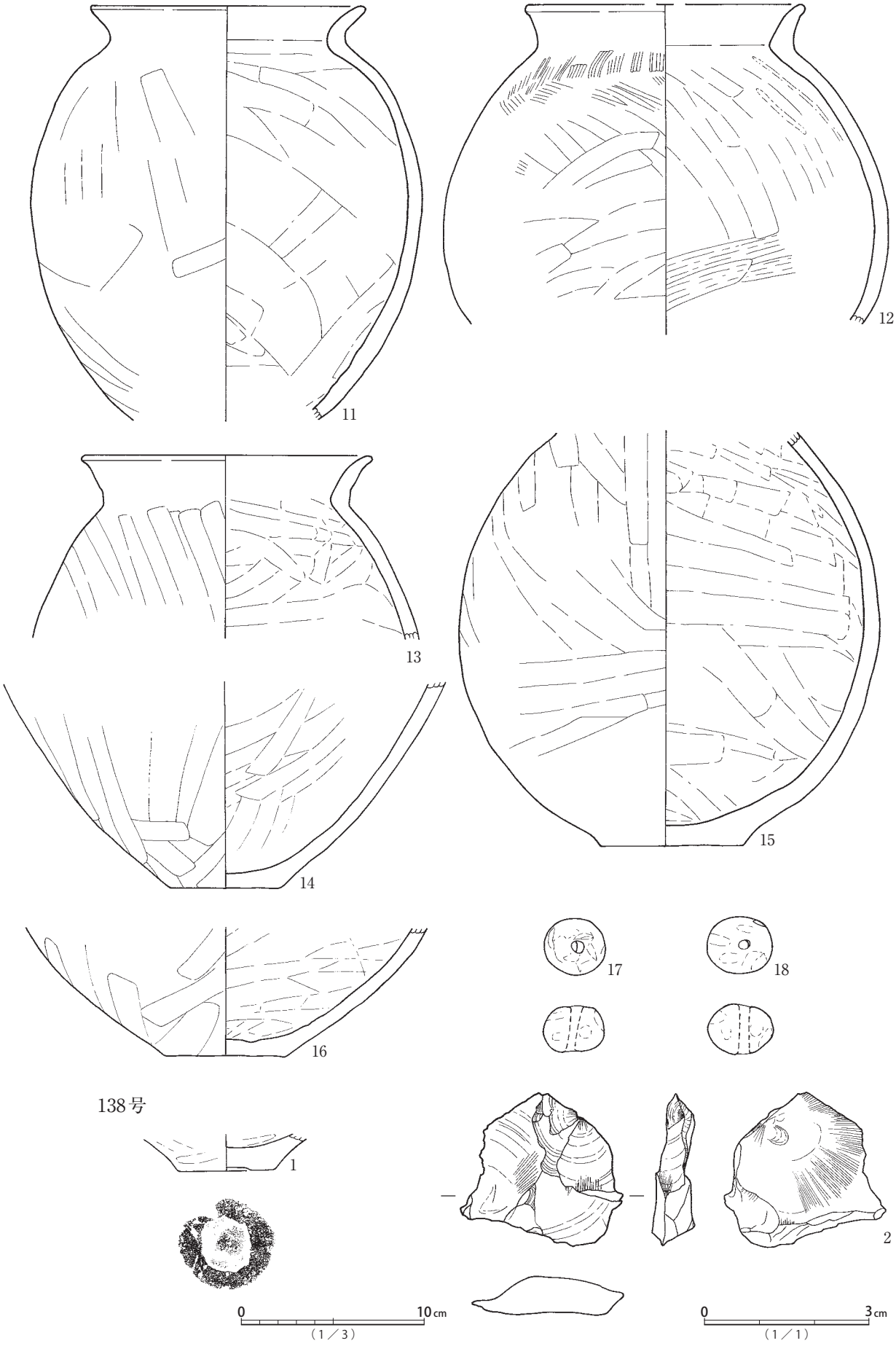


第164図　131号(2) 遺構出土遺物実測図



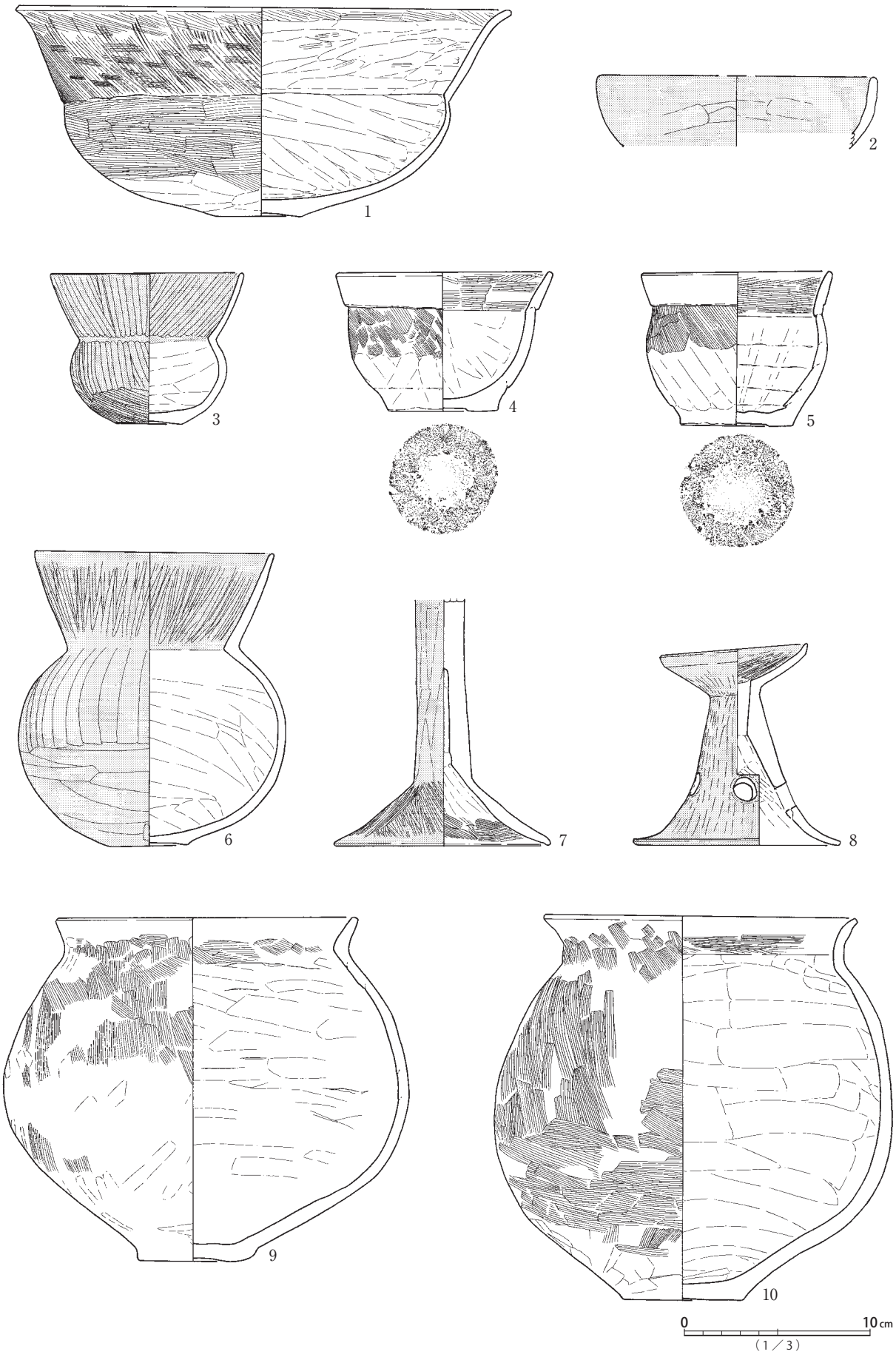
第165図　132号・137号(1) 遺構出土遺物実測図

137号



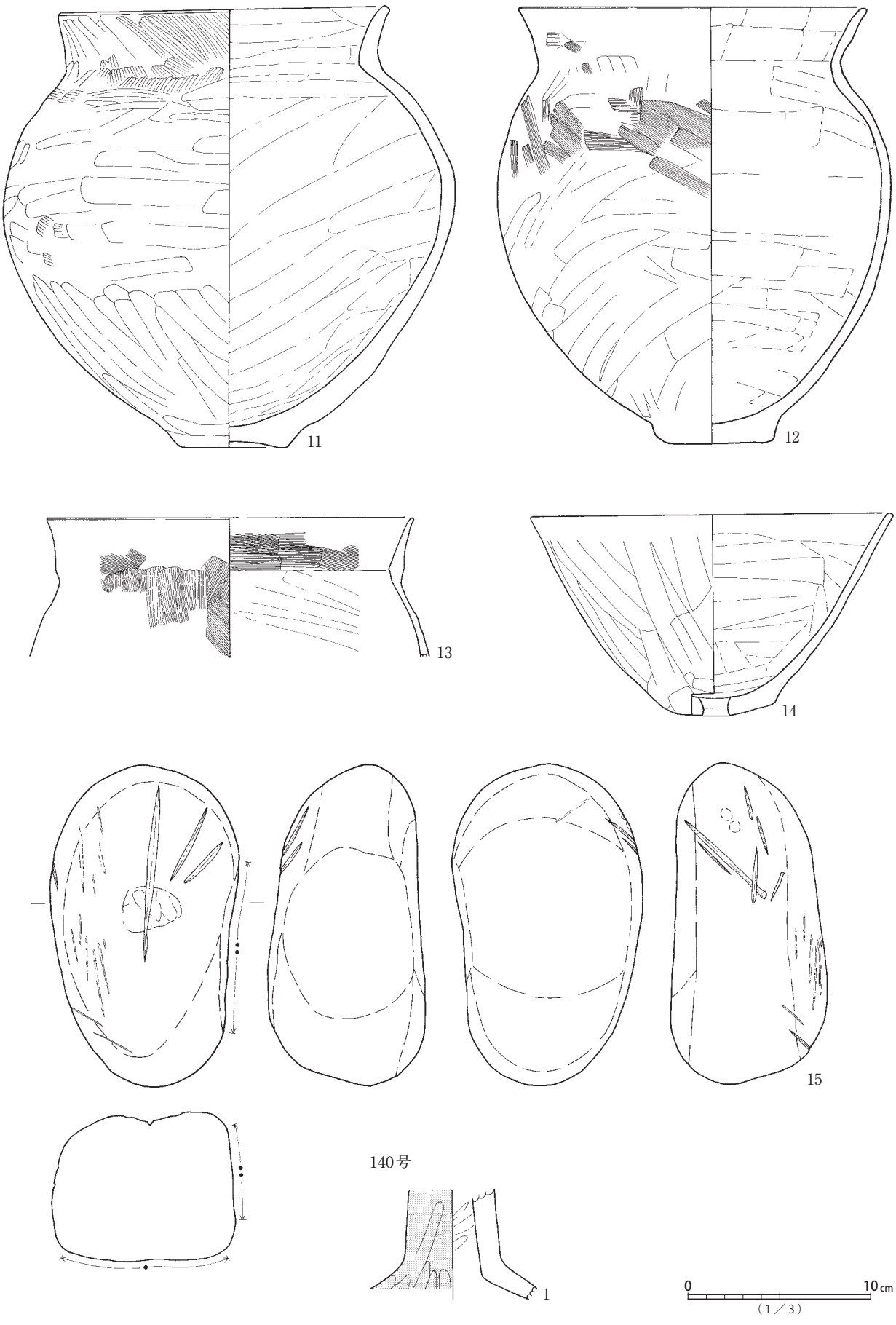
第166図　137号(2)・138号 遺構出土遺物実測図

139号



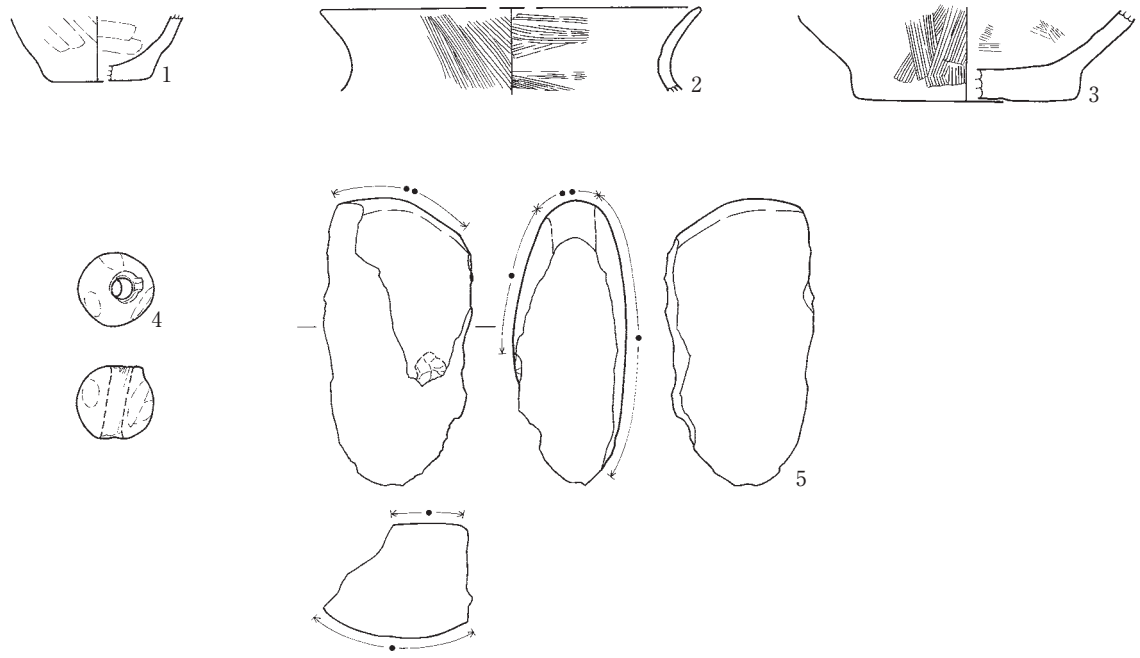
第167図　139号(1) 遺構出土遺物実測図

139号

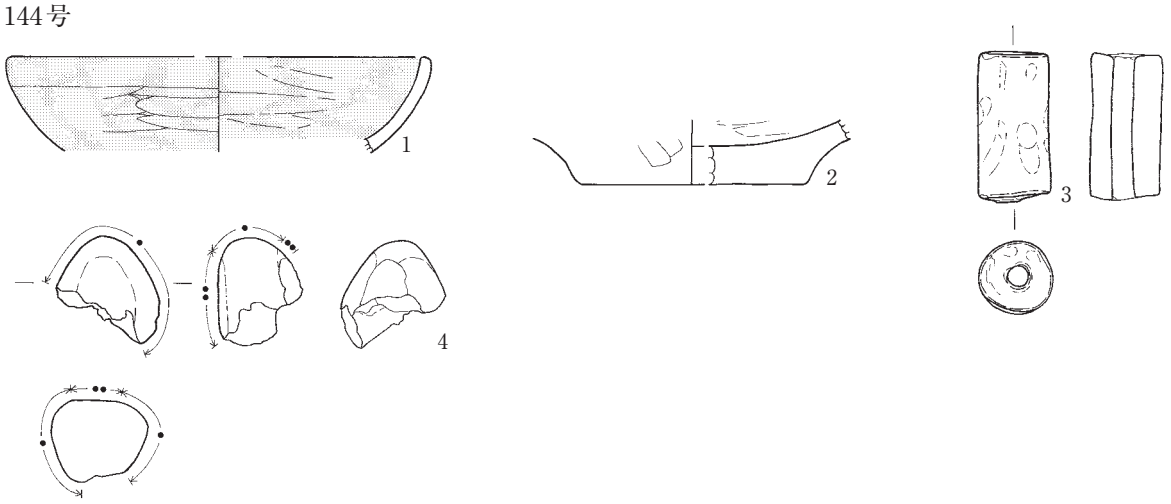


第168図　139号(2)・140号 遺構出土遺物実測図

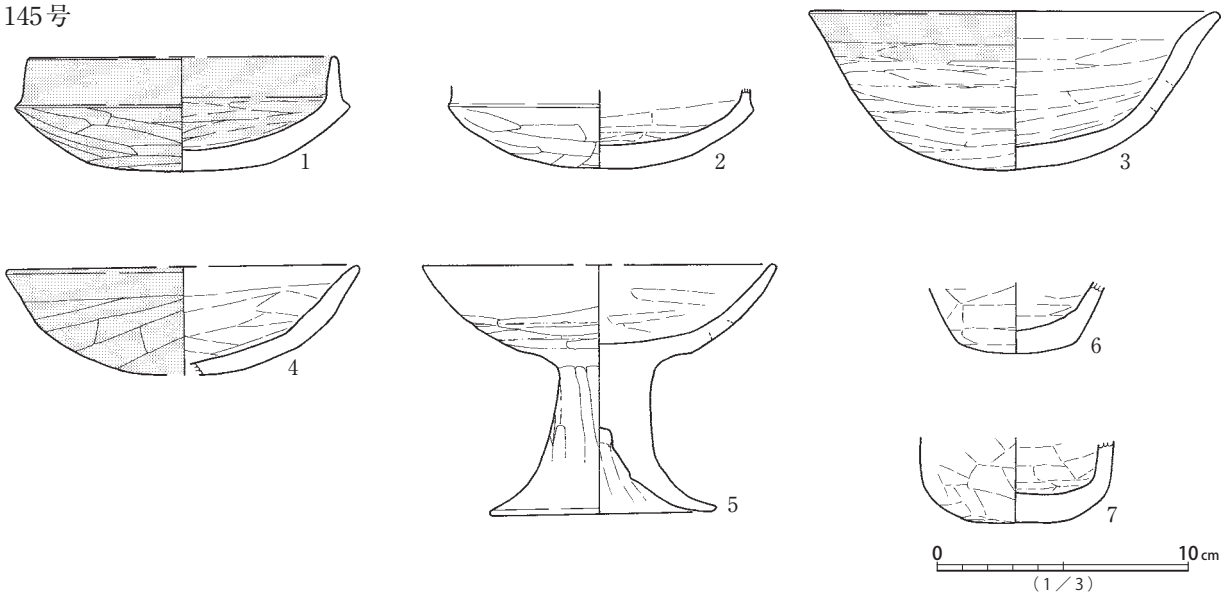
143号



144号

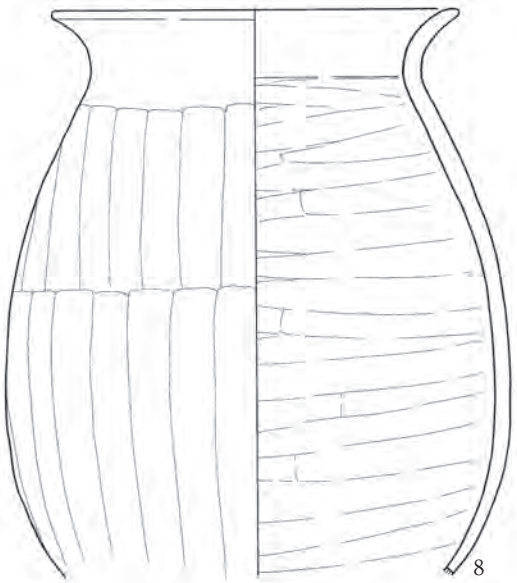


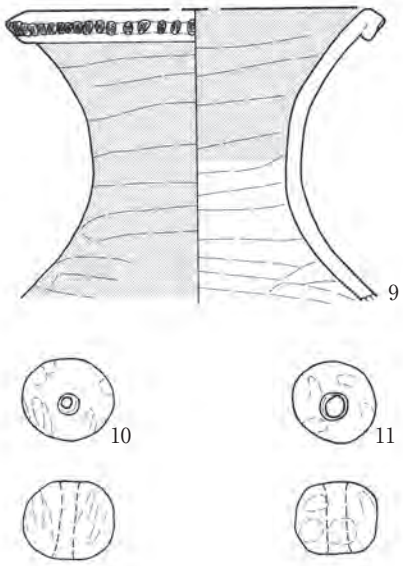
145号



第169図　143号・144号・145号(1) 遺構出土遺物実測図

145号





149号





304号

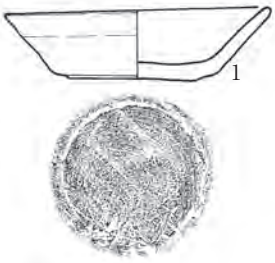


407号

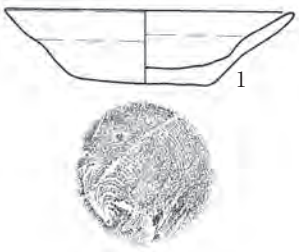


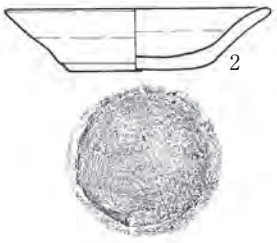


430号

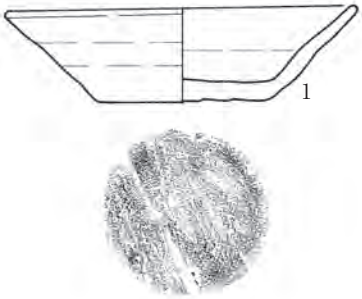


436号



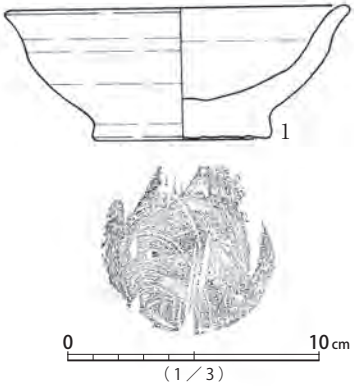


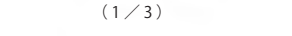
439号



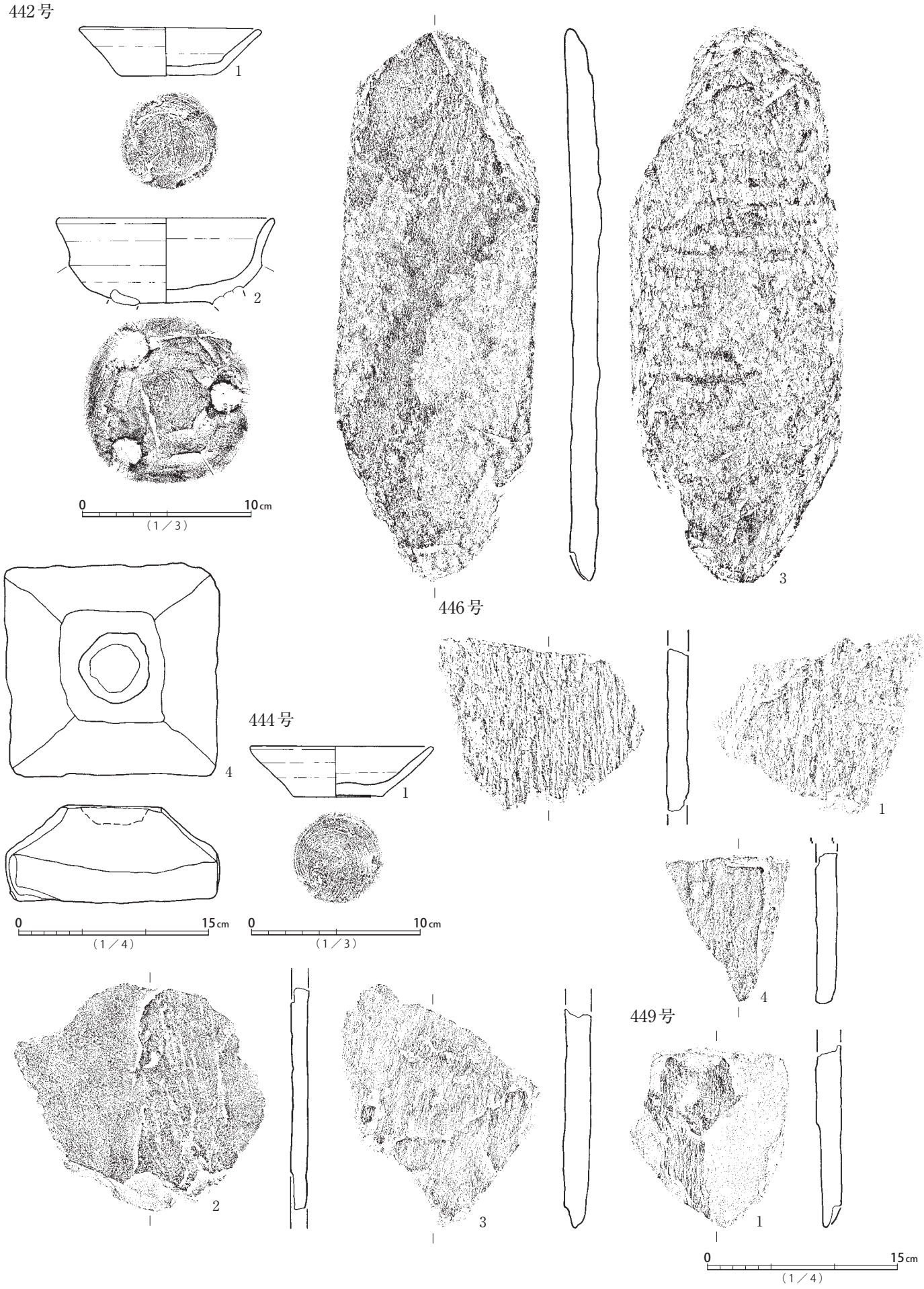


440号



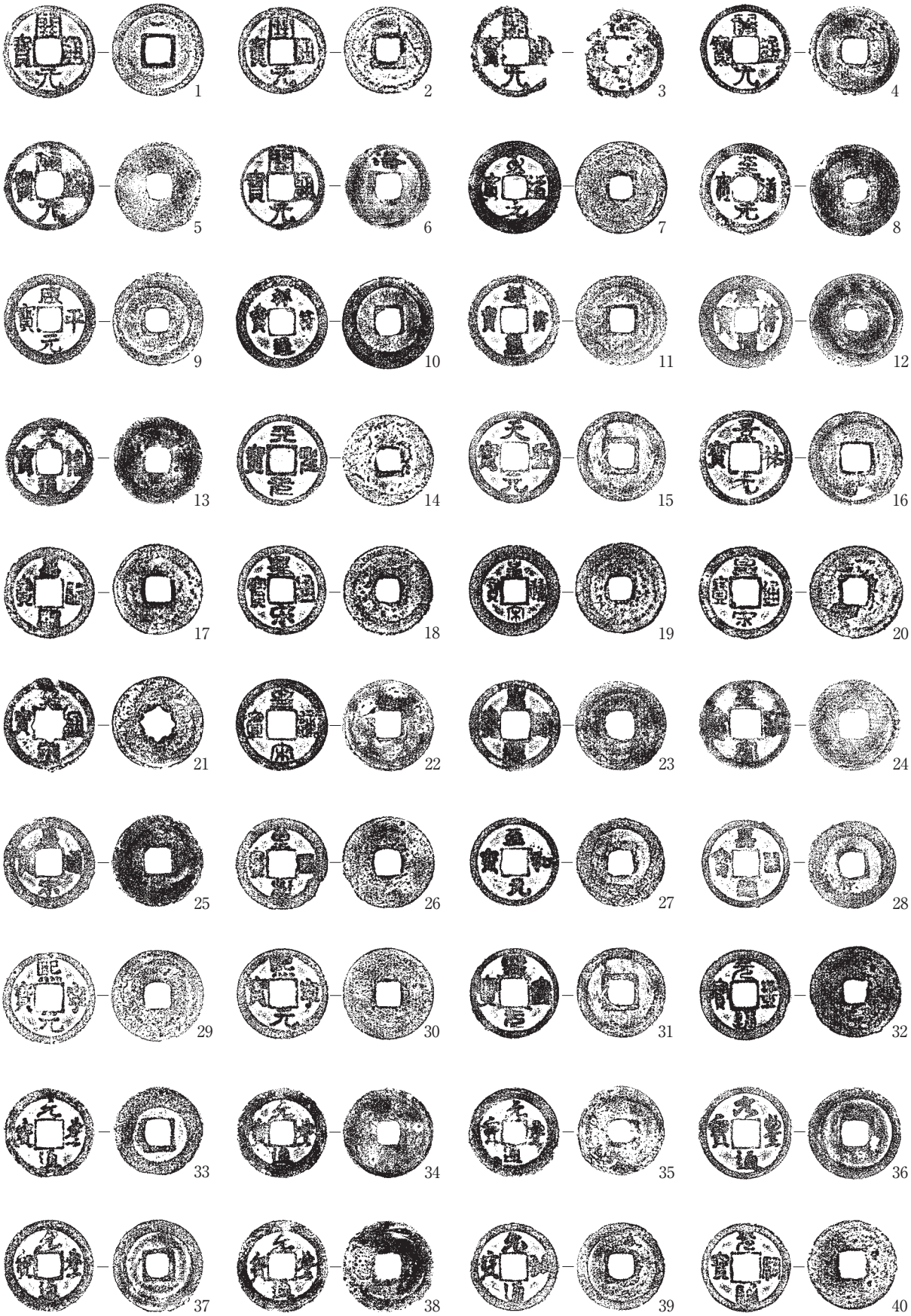


第170図　145号(2)・149号・304号・407号・430号・436号・439号・440号 遺構出土遺物実測図



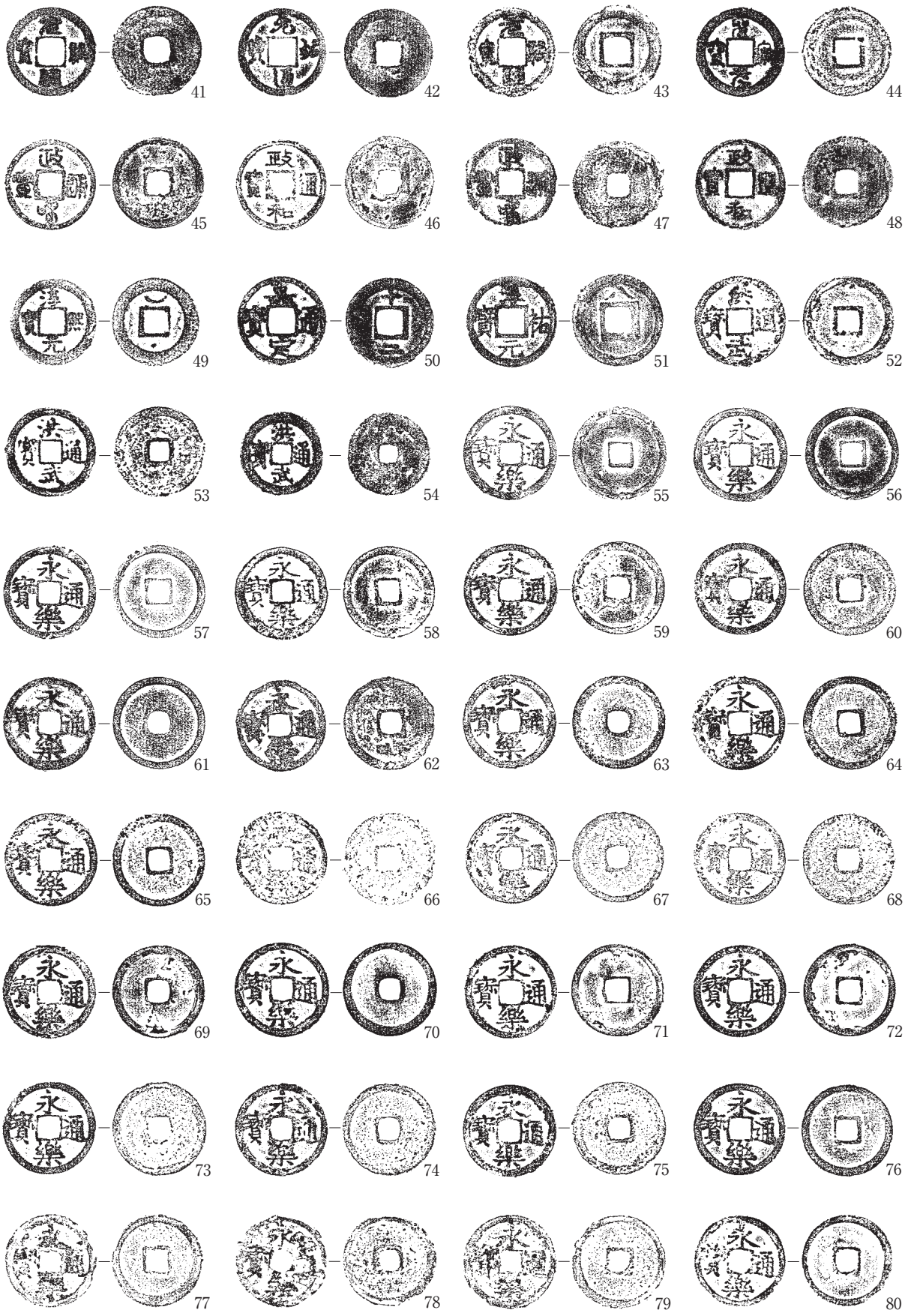
第171図　442号・444号・446号・449号 遺構出土遺物実測図

451号



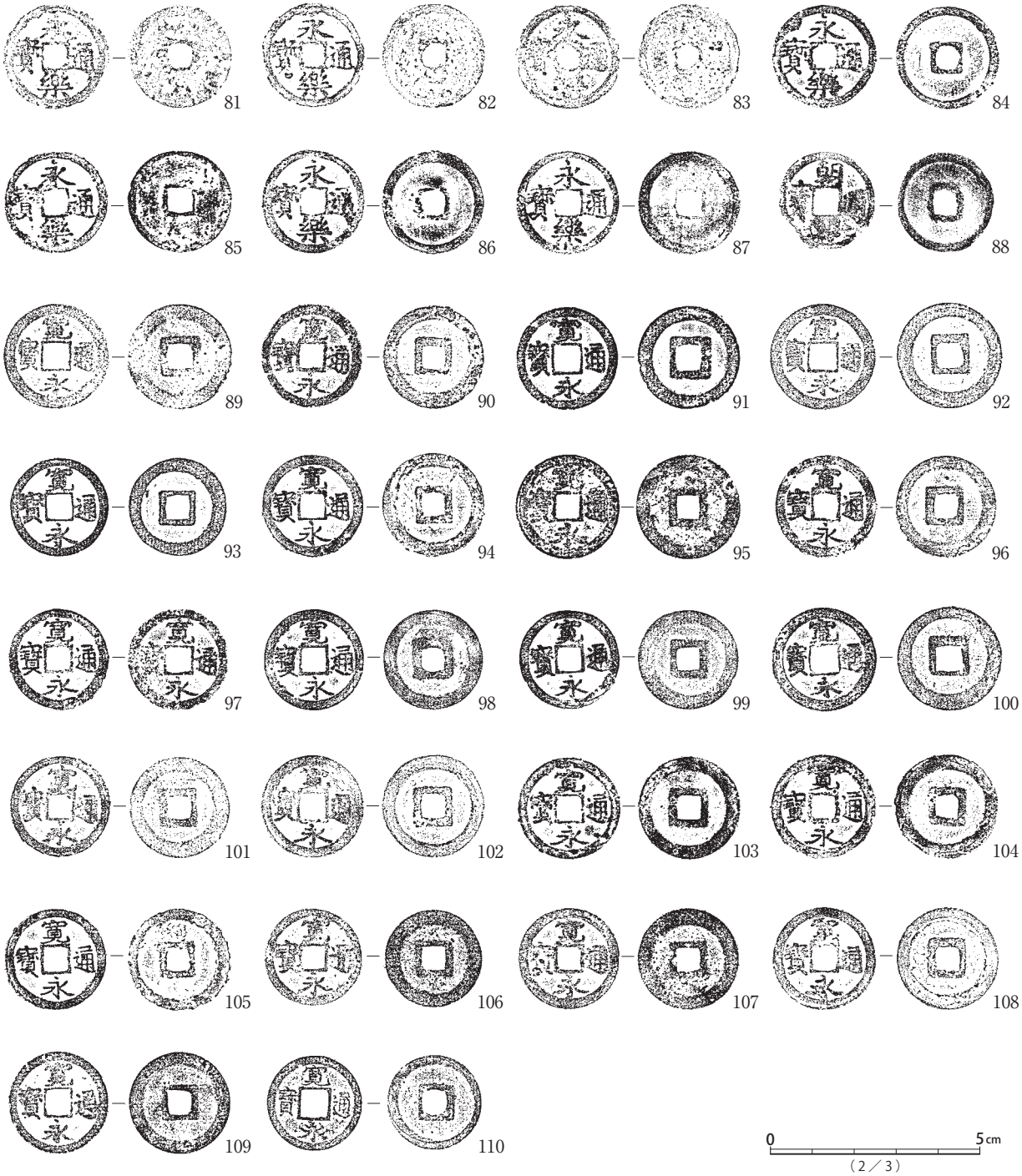
第172図　451号(1) 遺構出土遺物実測図

451号



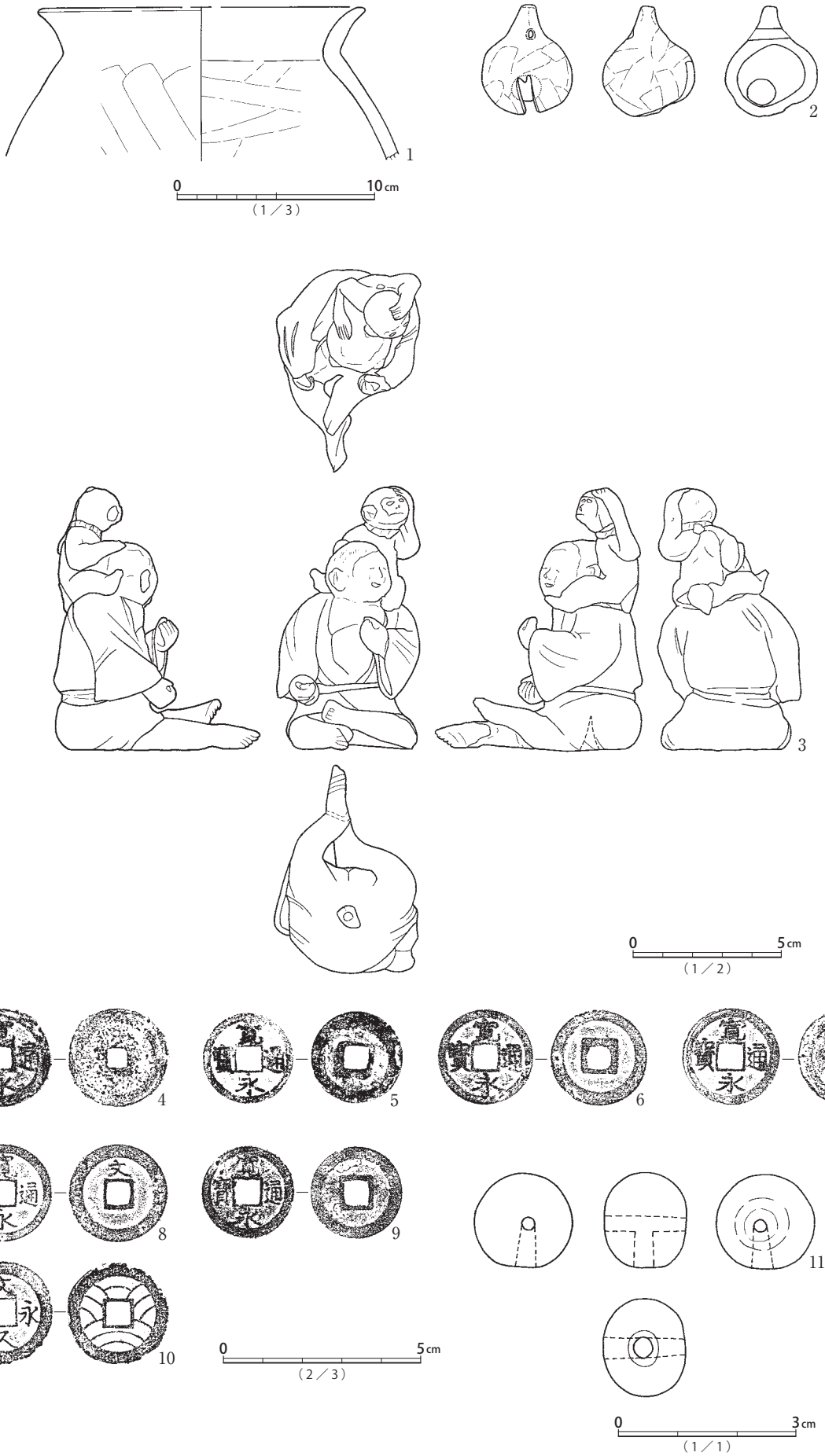
第173図　451号(2) 遺構出土遺物実測図

451号



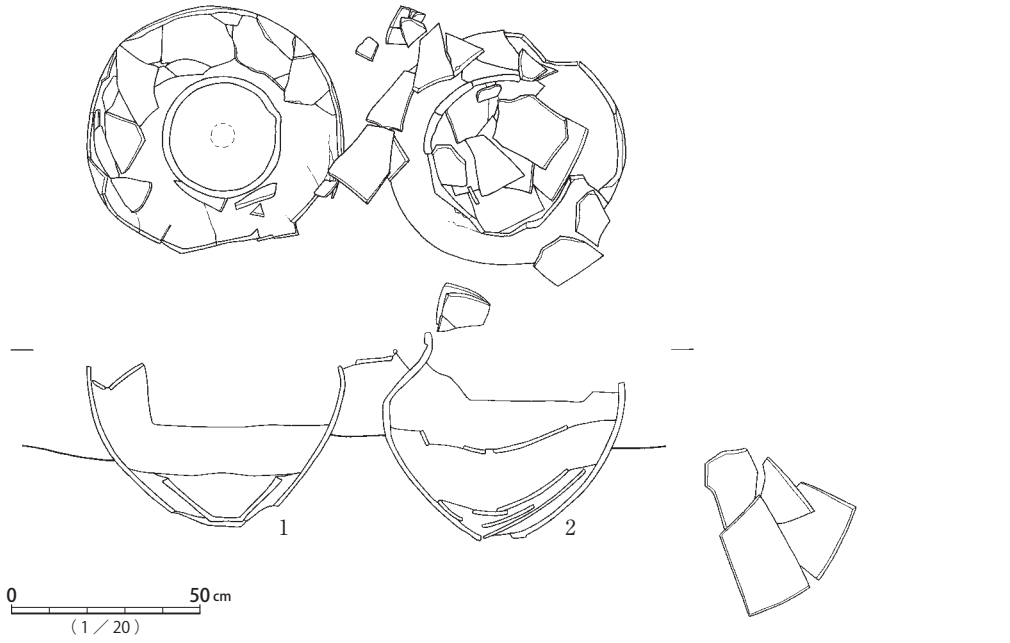
第174図　451号(3) 遺構出土遺物実測図

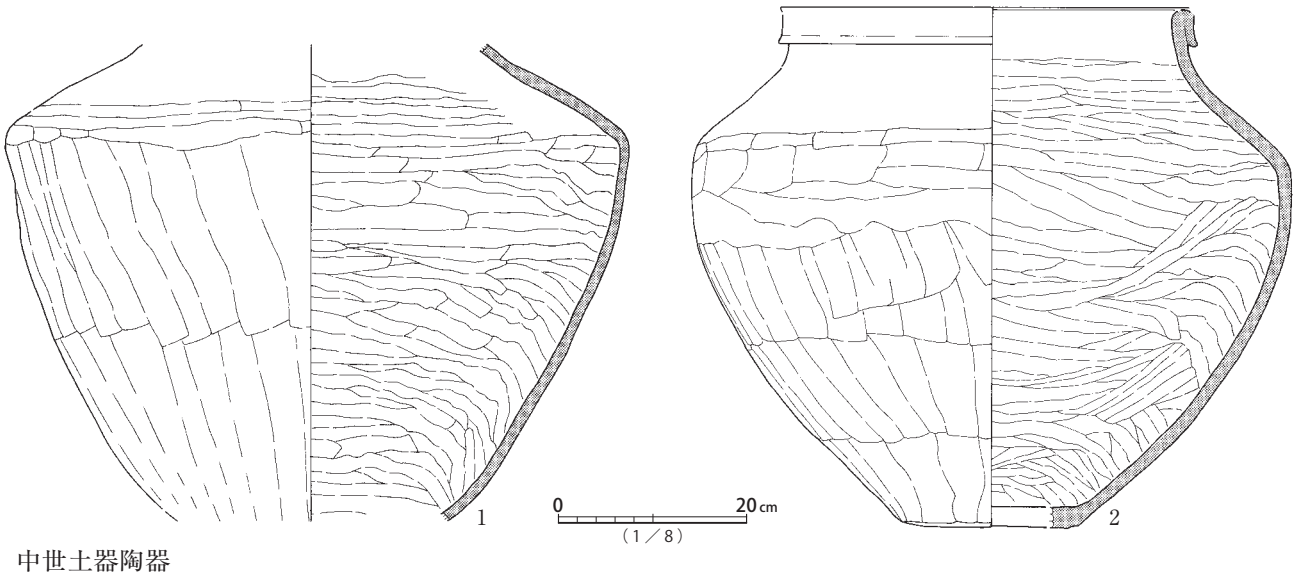
472号



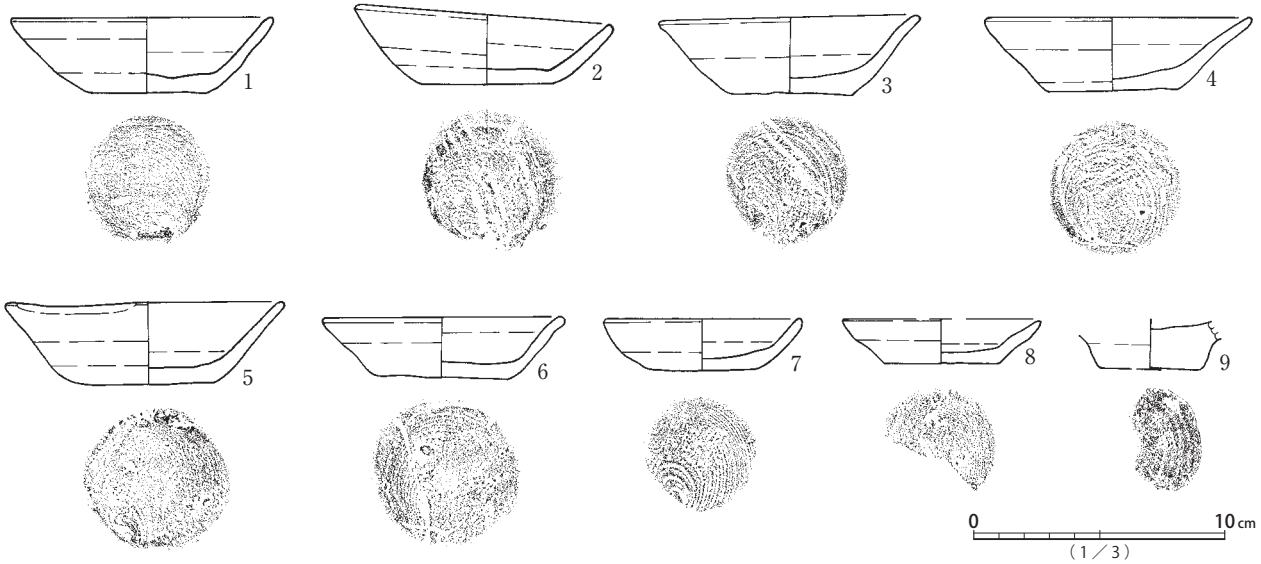
第175図　472号 遺構出土遺物実測図

473号

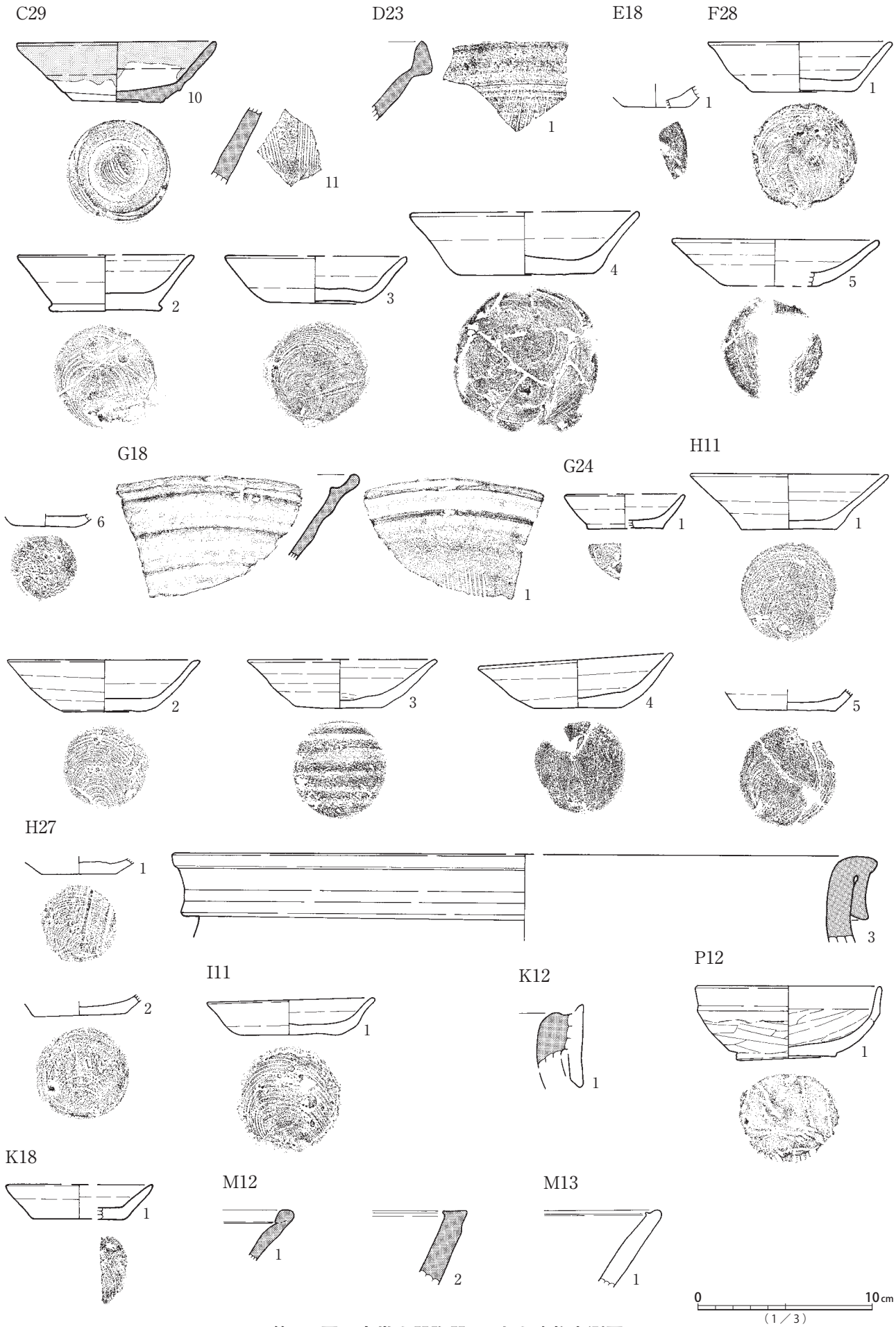




中世土器陶器
C29

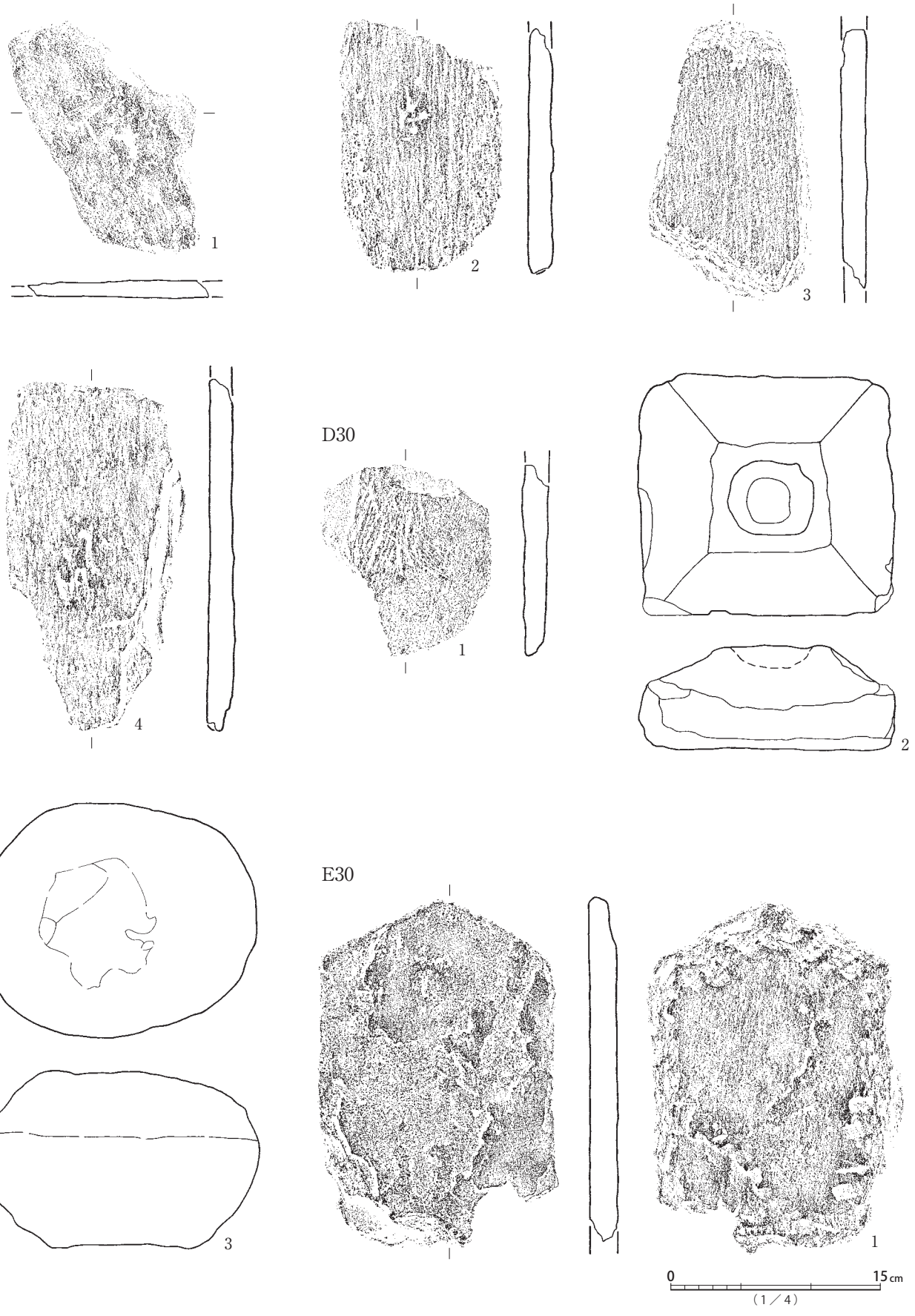


第176図　473号遺構・中世土器陶器(1) 出土遺物実測図



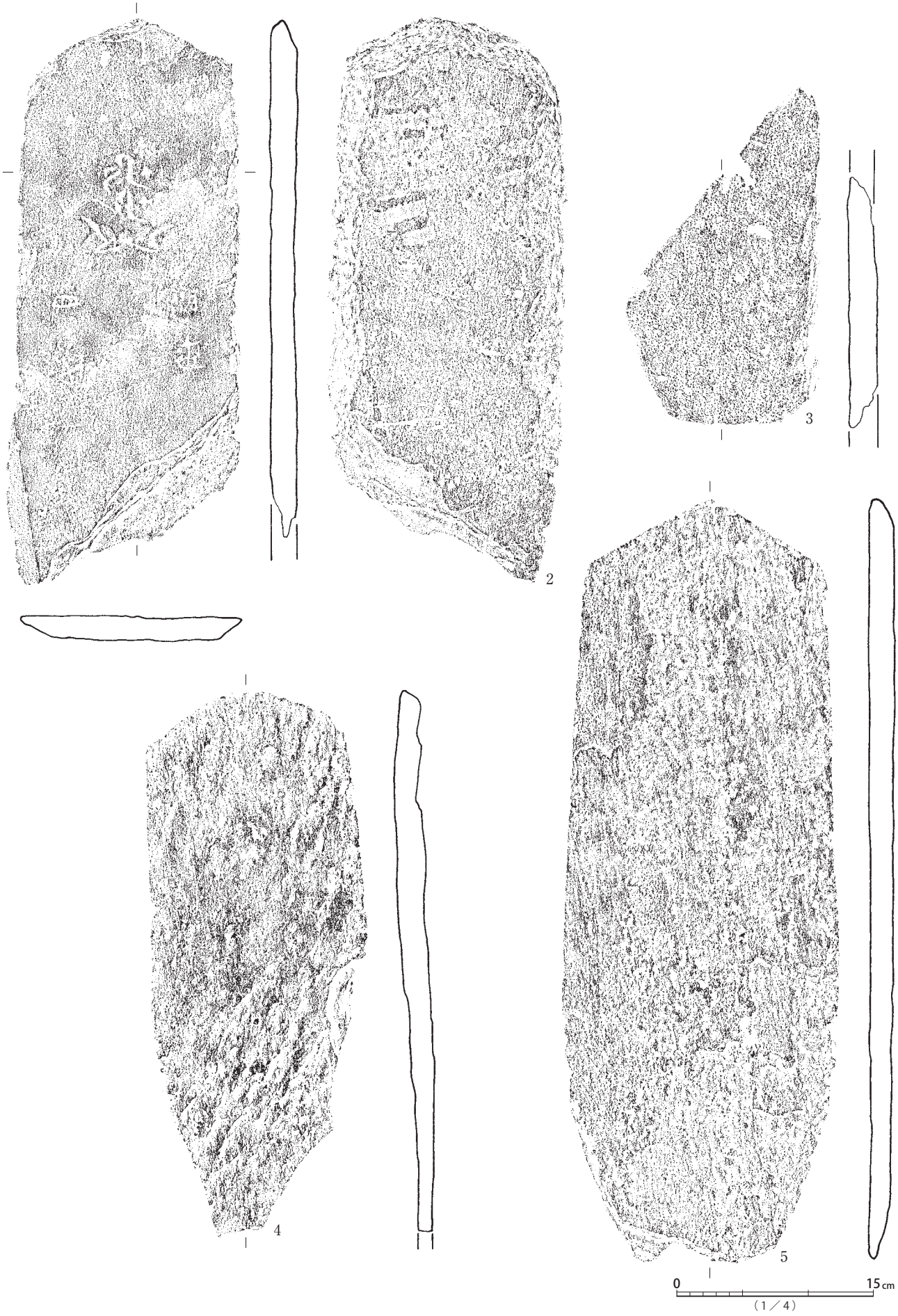
第177図　中世土器陶器(2) 出土遺物実測図

石造物
C29



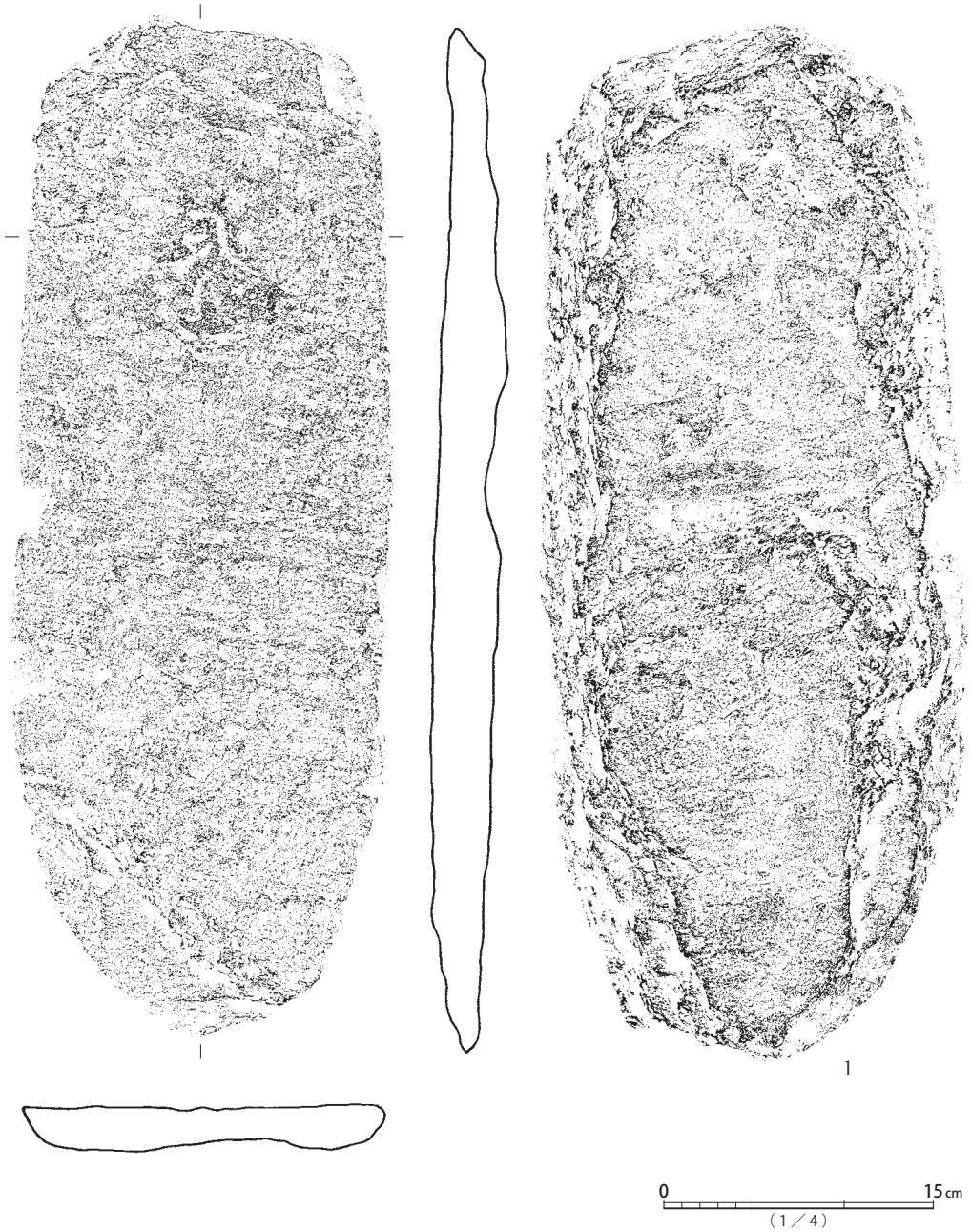
第178図　石造物(1) 出土遺物実測図

E30



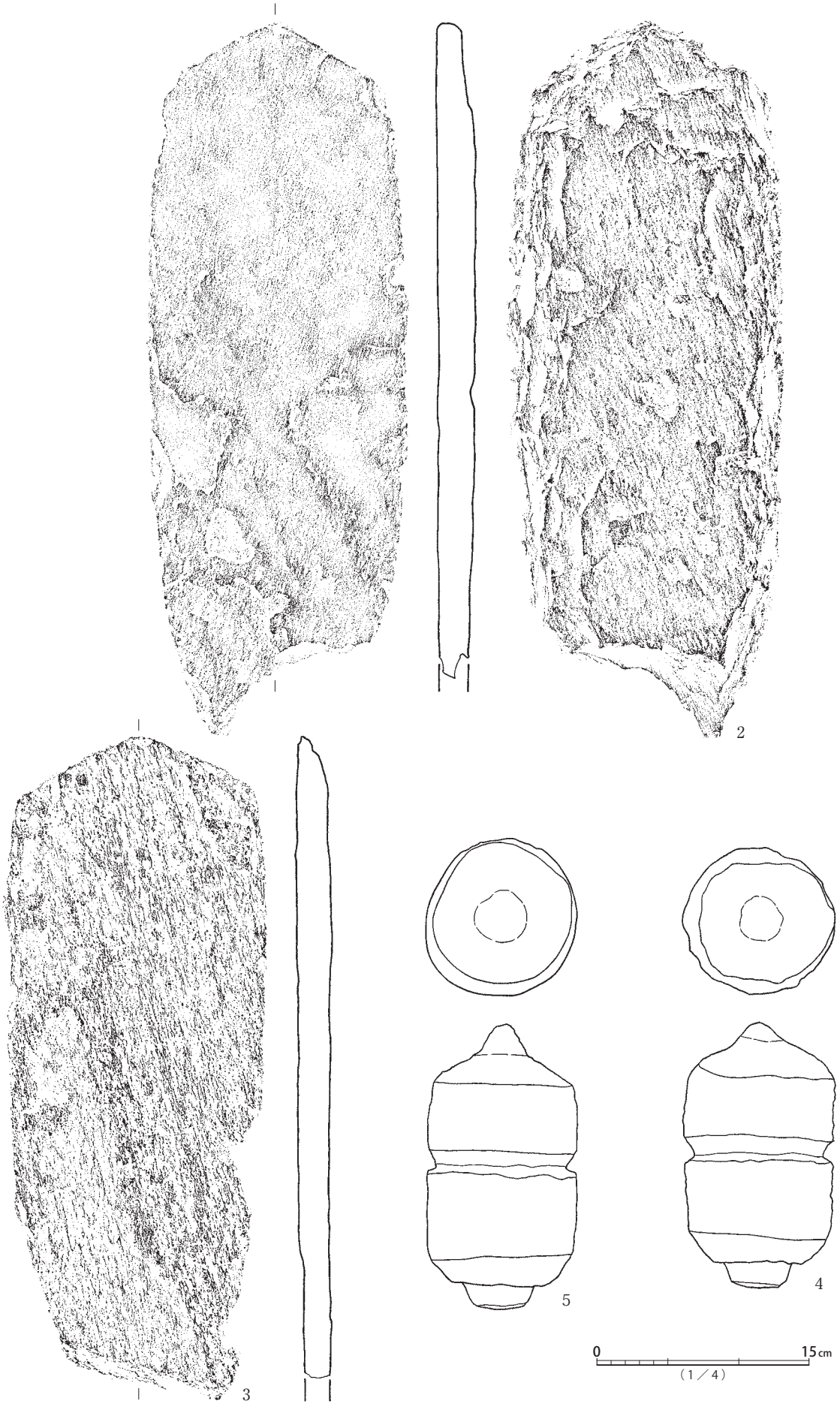
第179図　石造物(2) 出土遺物実測図

F28



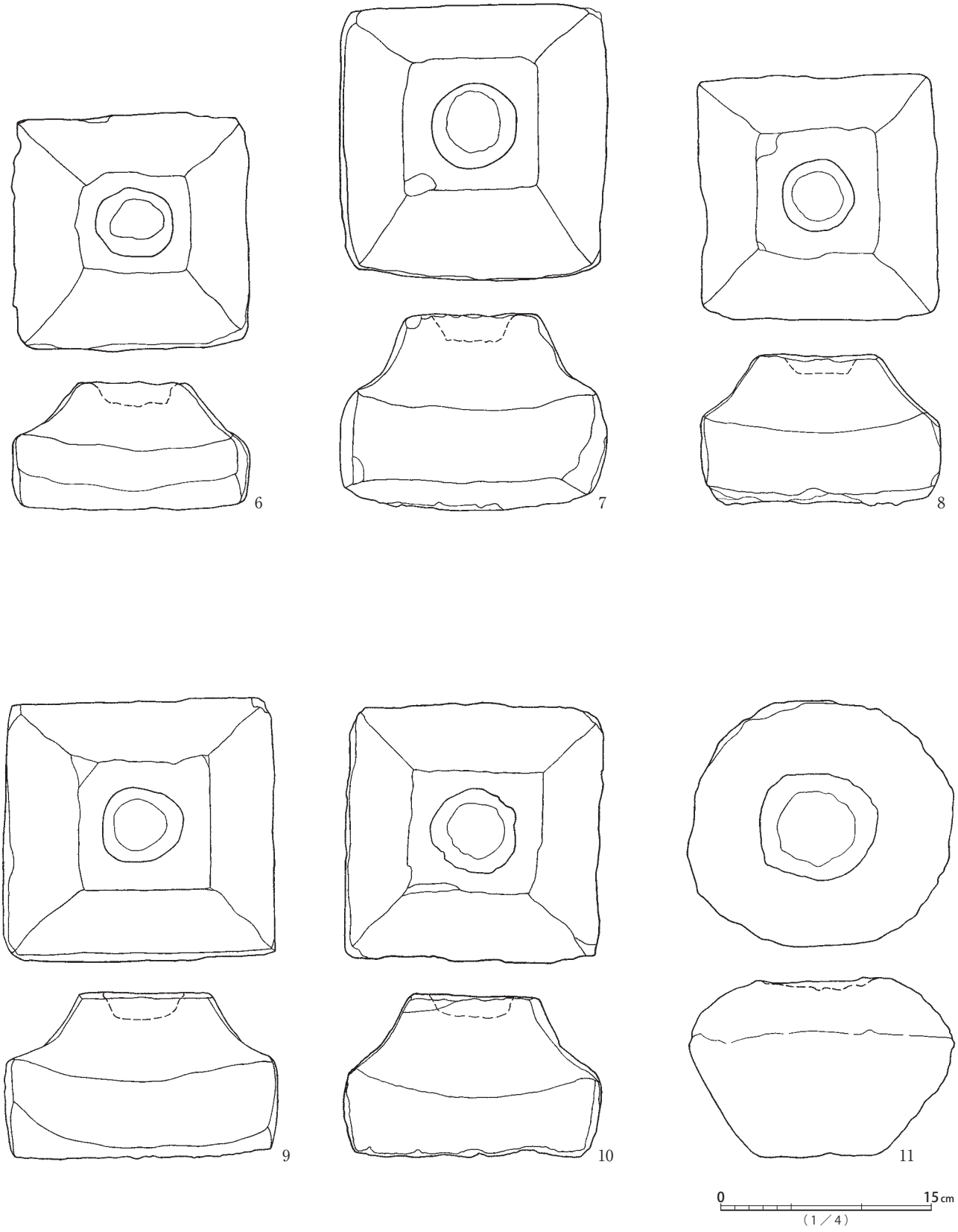
第180図　石造物(3) 出土遺物実測図

F28



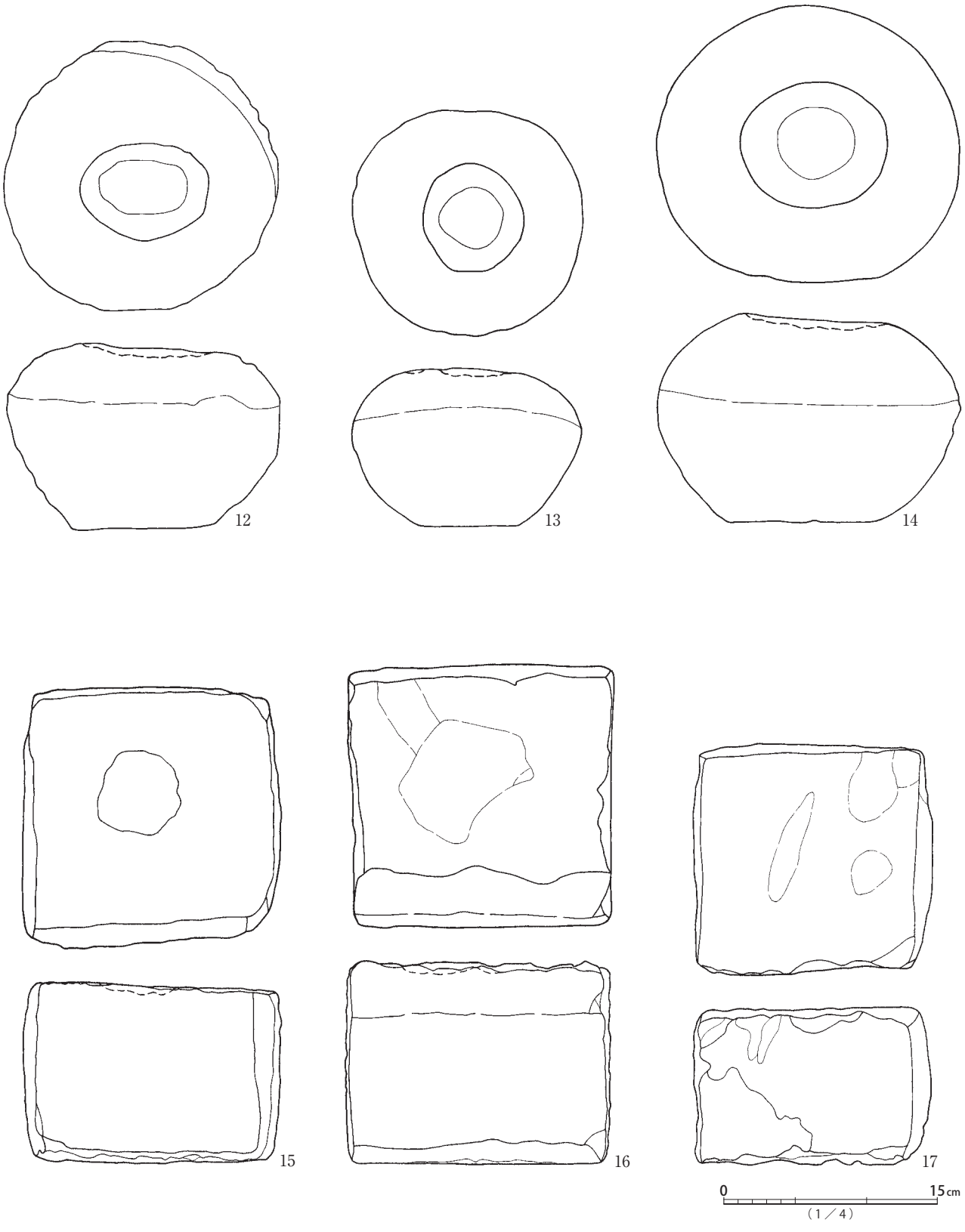
第181図　石造物(4) 出土遺物実測図

F28



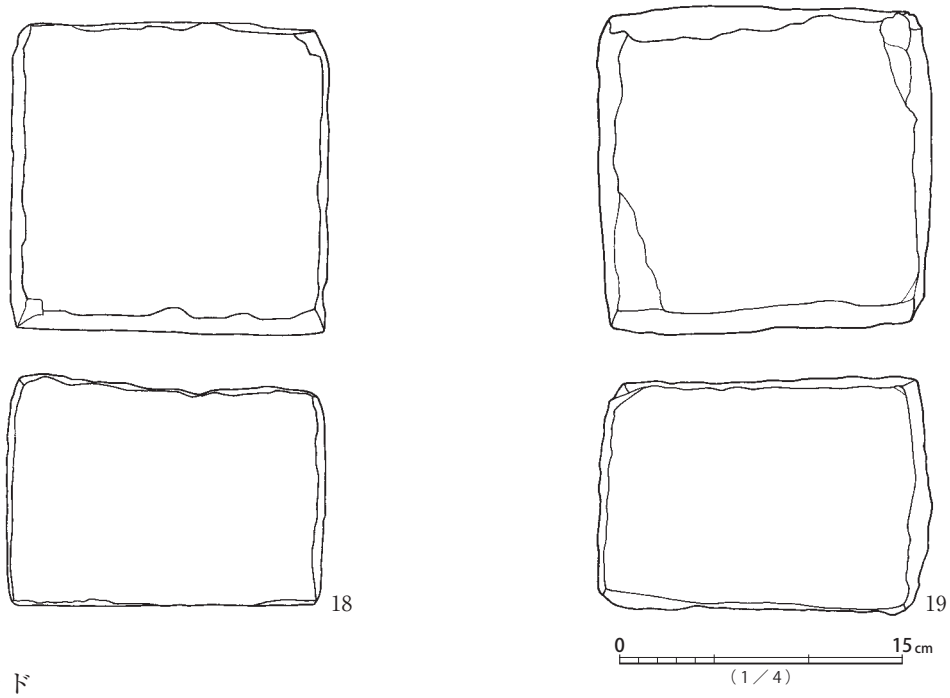
第182図　石造物(5) 出土遺物実測図

F28



第183図　石造物(6) 出土遺物実測図

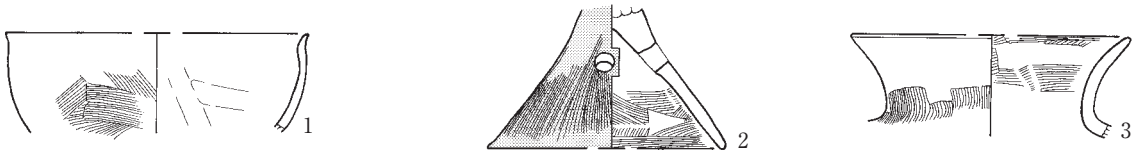
F28

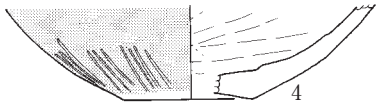


グリッド
C21

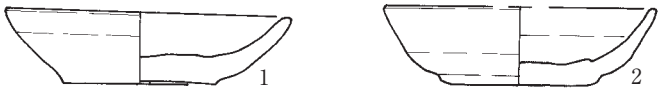


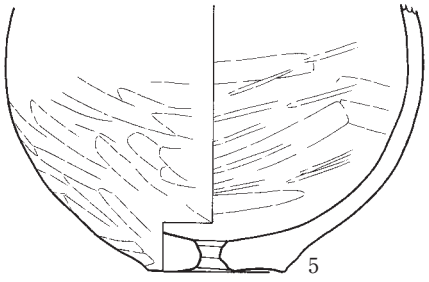
F15





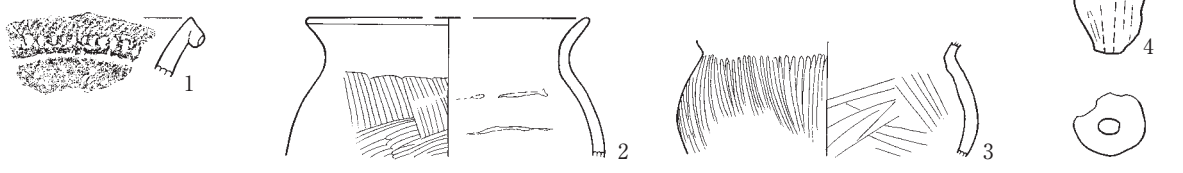
F29



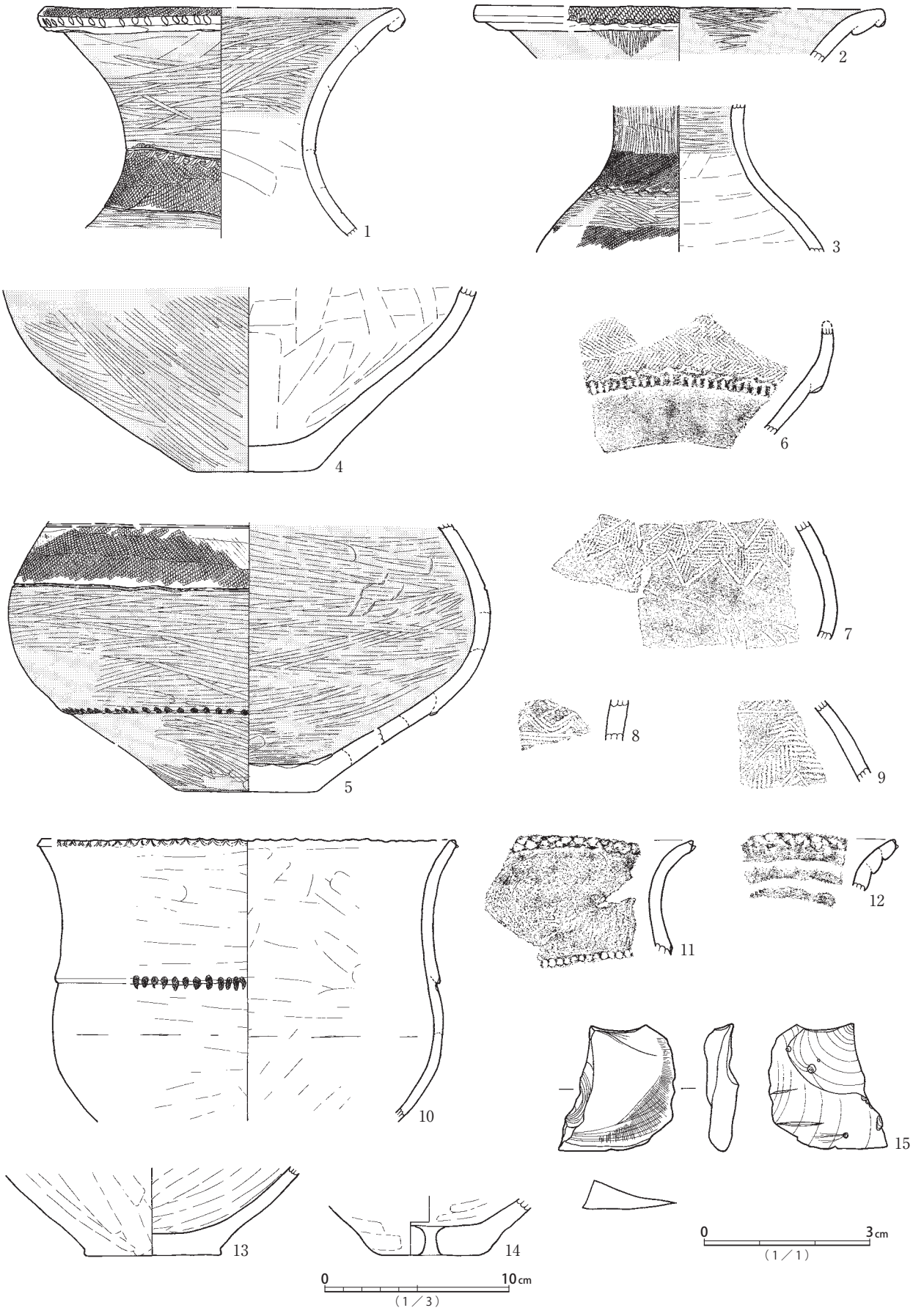




H13

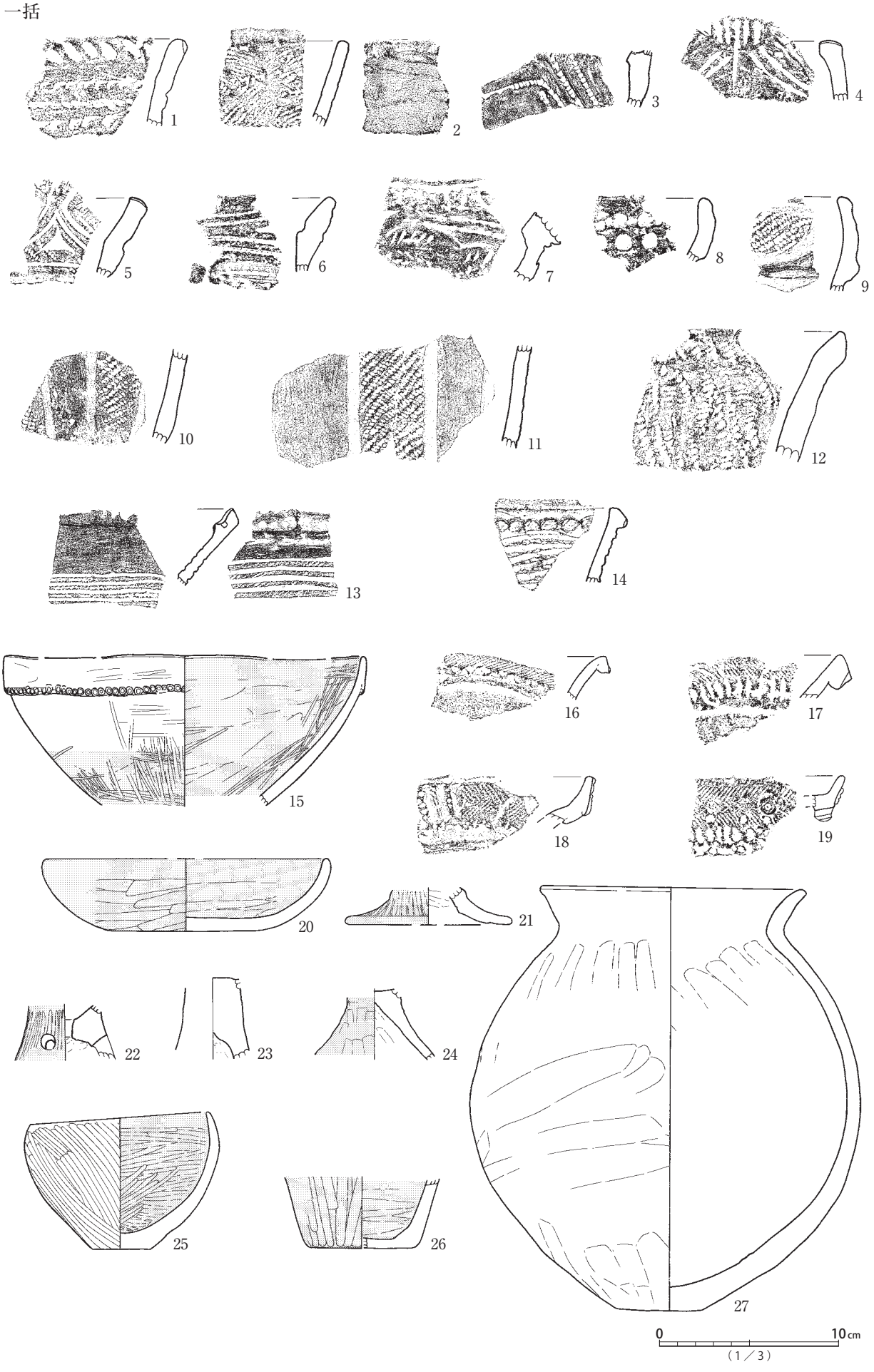


第184図　石造物(7)・グリッド(1) 出土遺物実測図



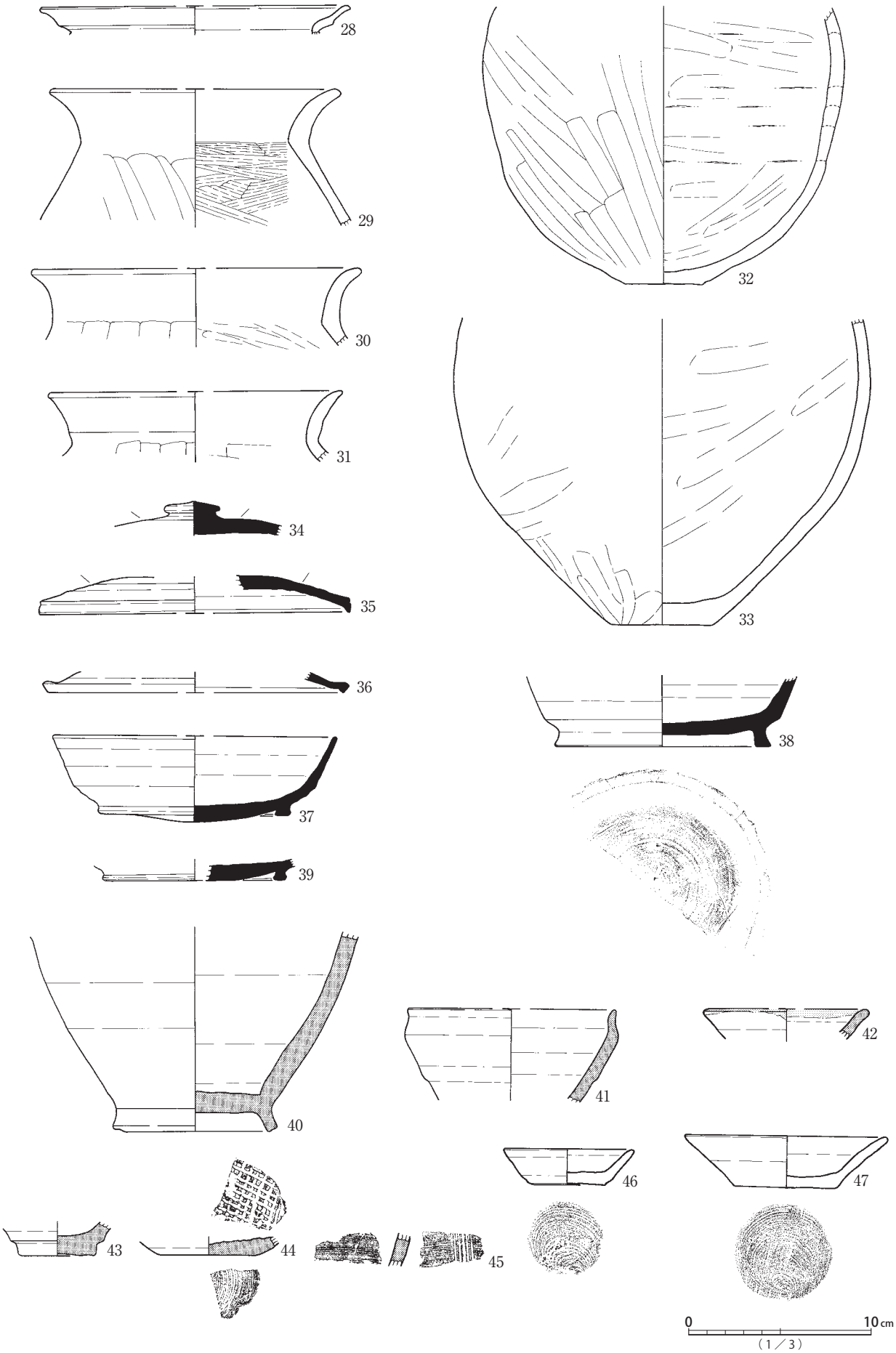
第185図　グリッド(2) 出土遺物実測図

一括



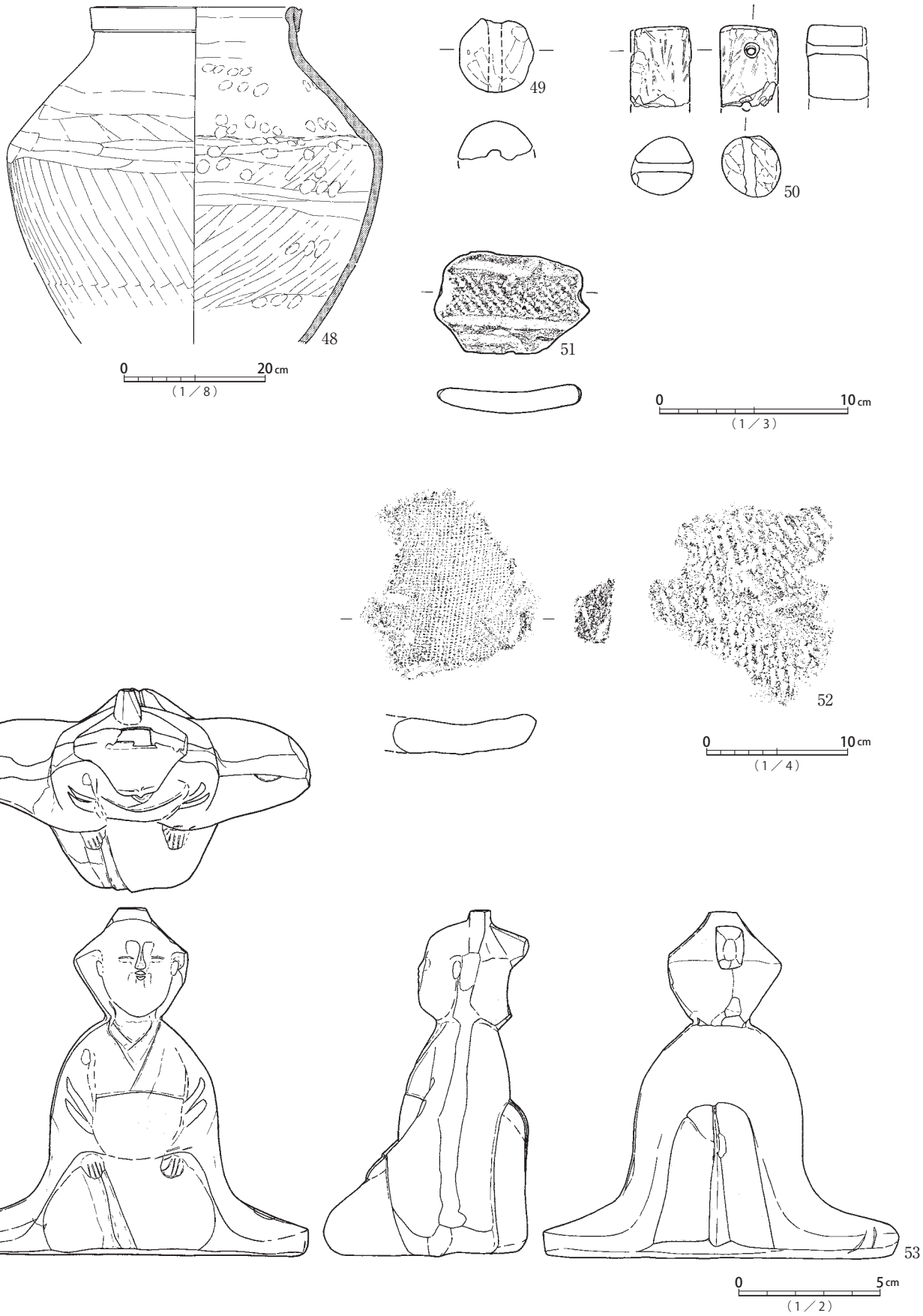
第186図　E地点一括(1) 出土遺物実測図

一括



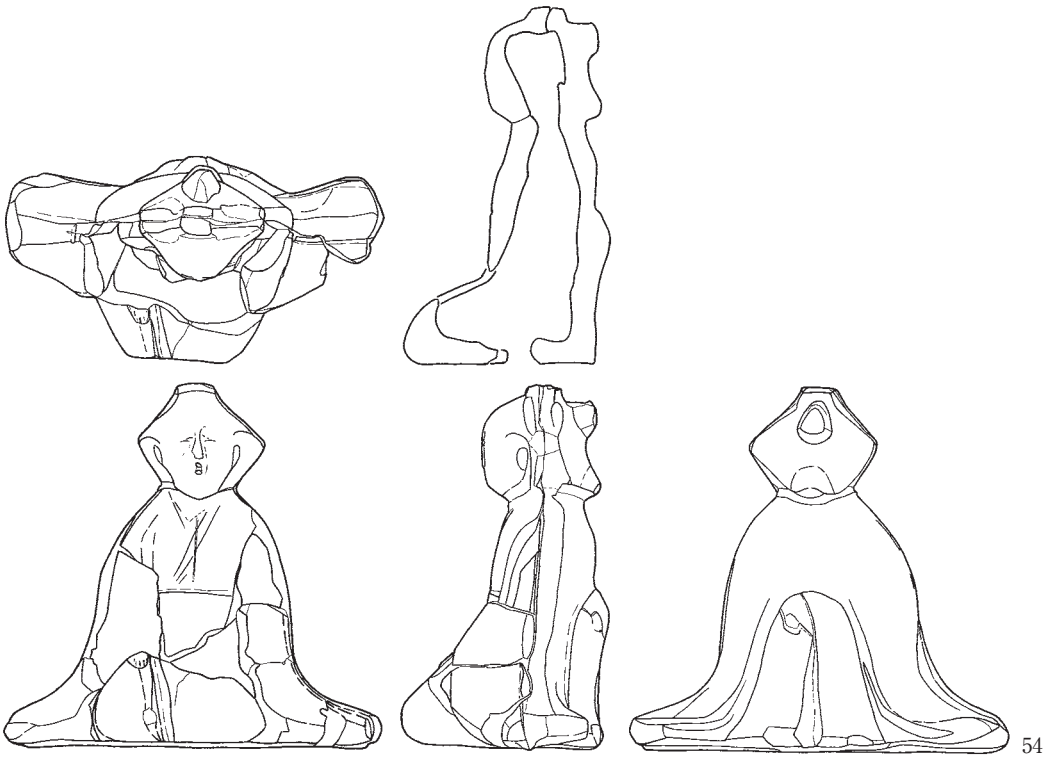
第187図　E地点一括(2) 出土遺物実測図

一括



第188図　E地点一括(3) 出土遺物実測図

一括





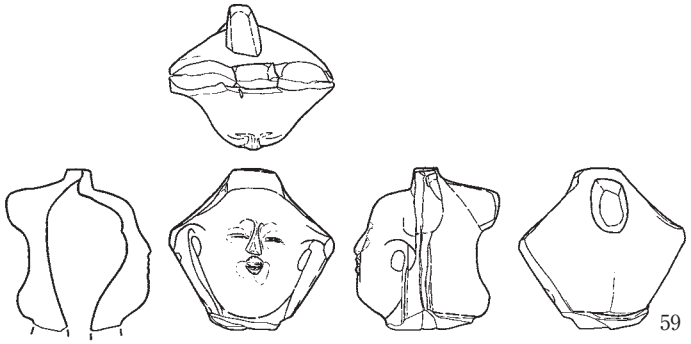
第189図　E地点一括(4) 出土遺物実測図

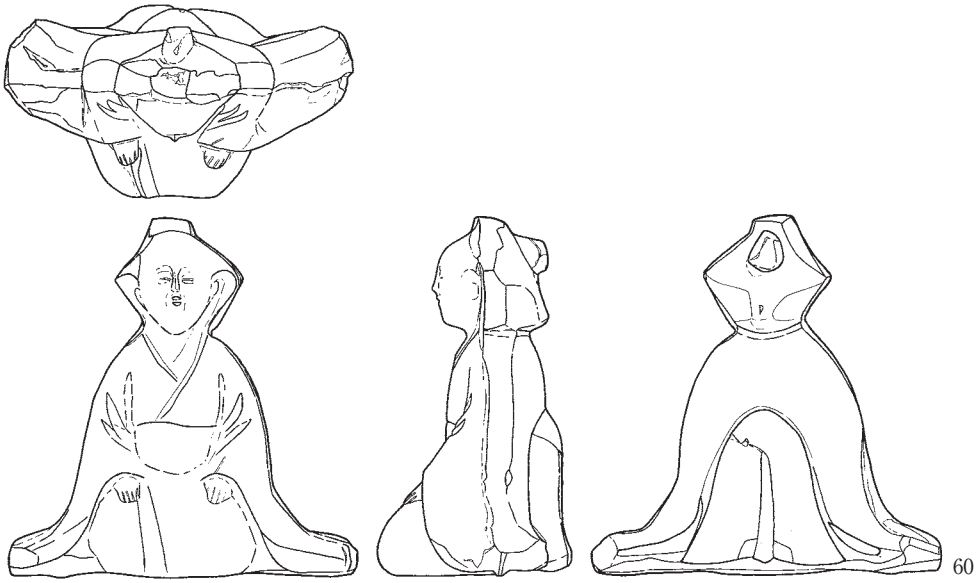
一括

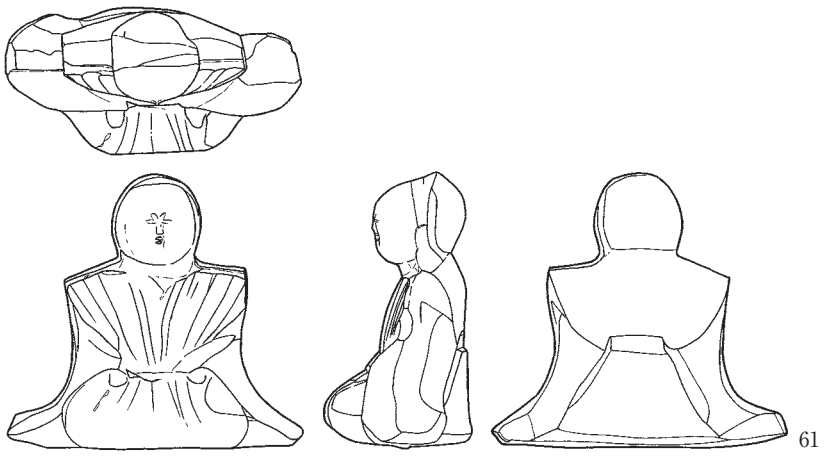


第190図　E地点一括(5) 出土遺物実測図

一括

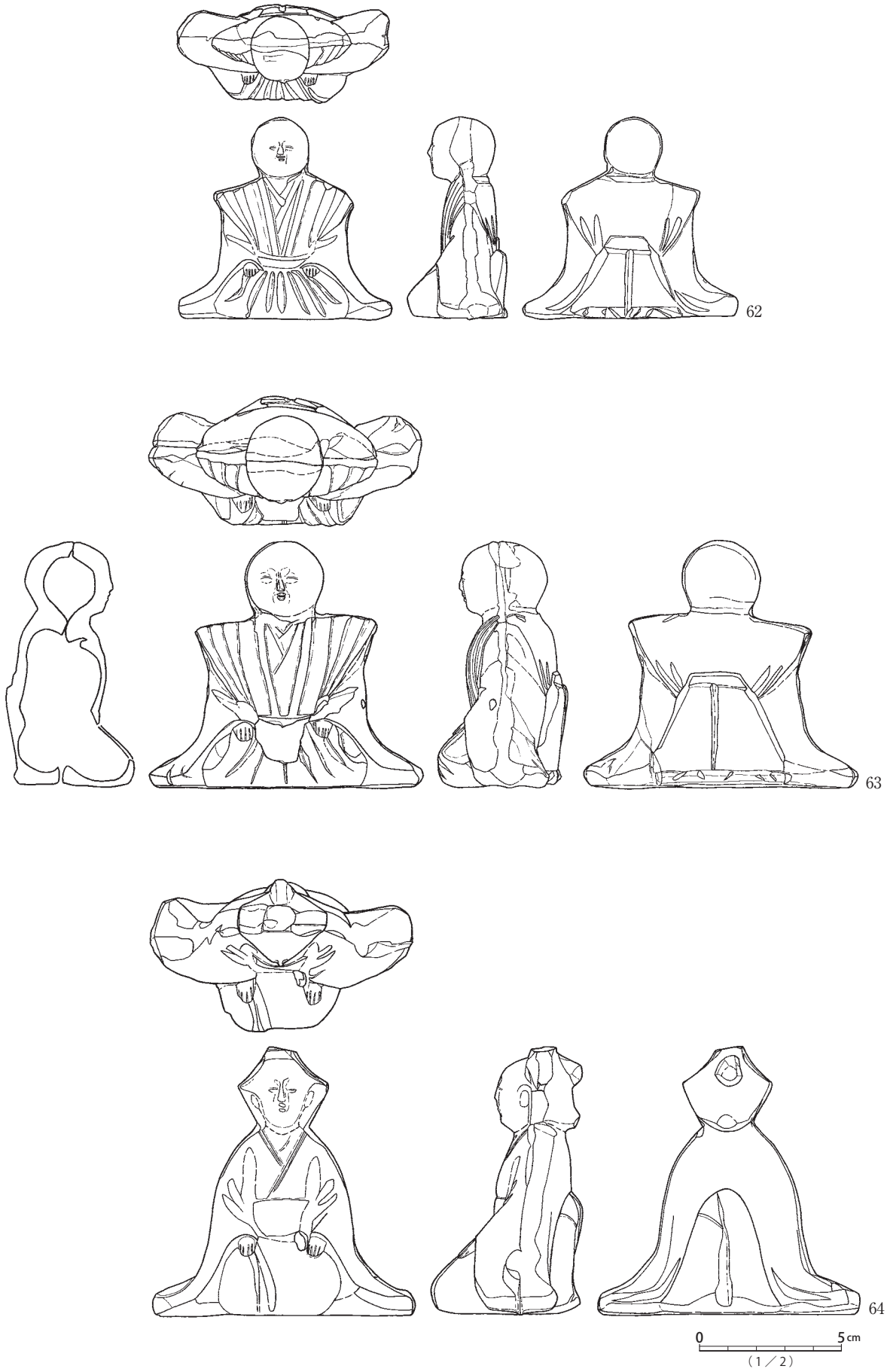






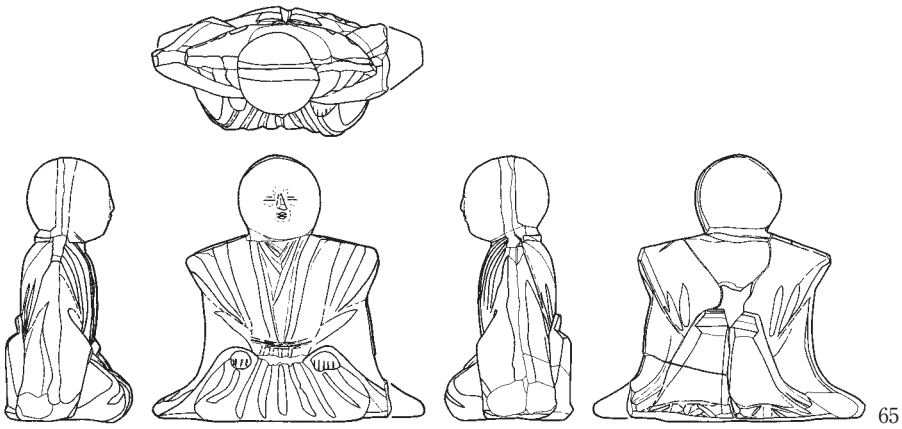
第191図　E地点一括(6) 出土遺物実測図

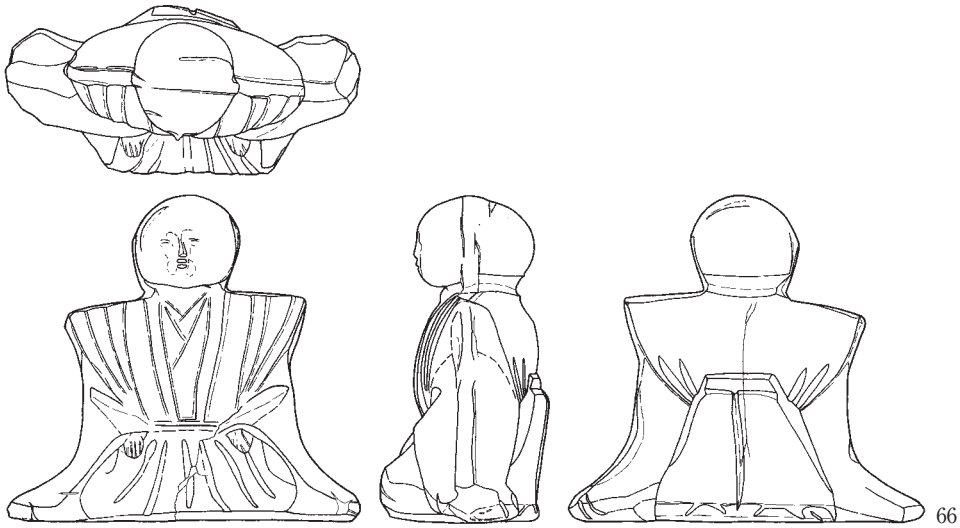
一括

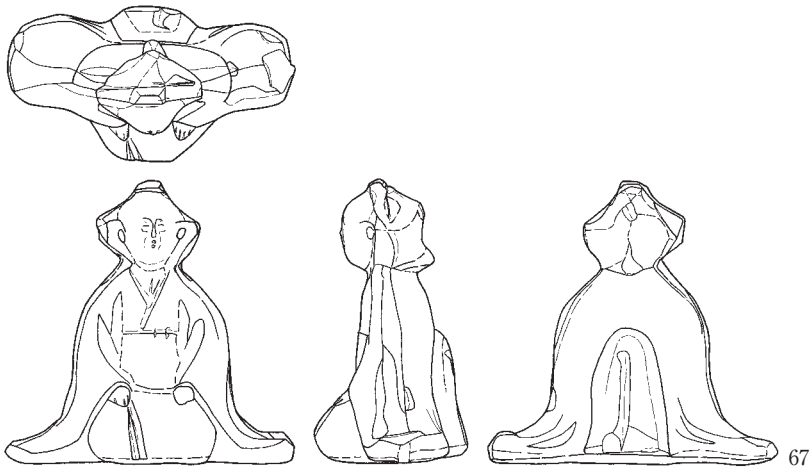


第192図　E地点一括(7) 出土遺物実測図

一括

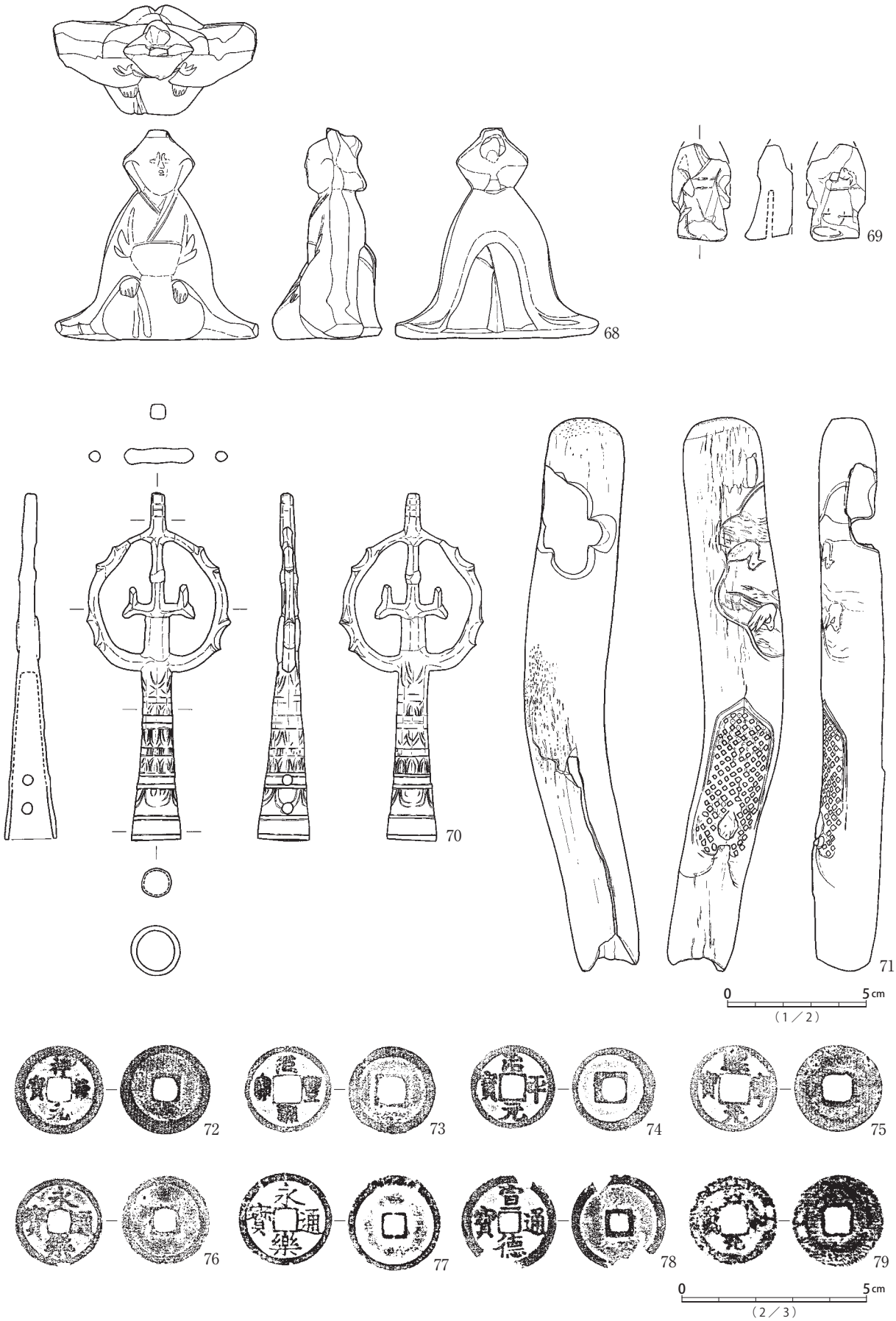






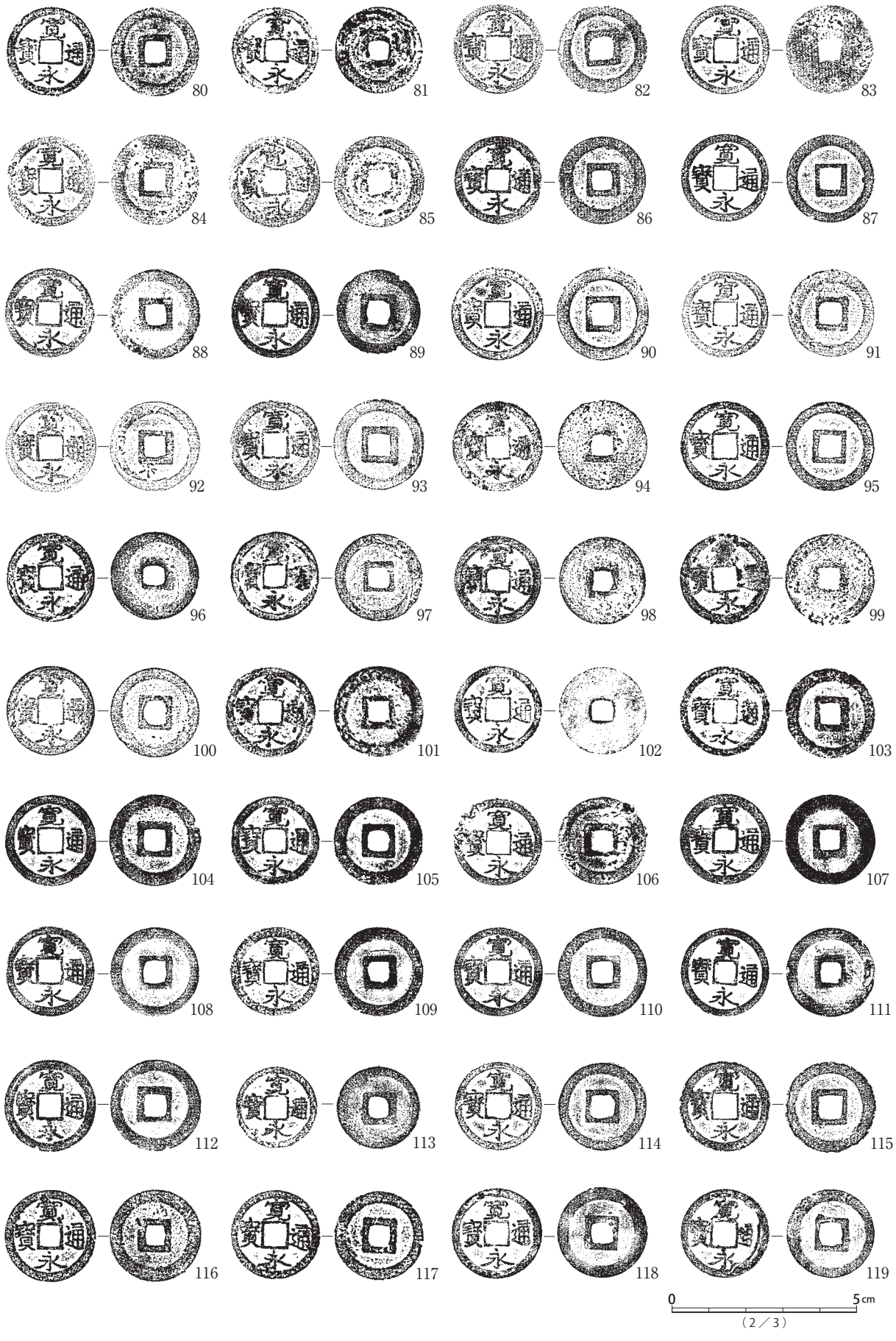
第193図　E地点一括(8) 出土遺物実測図

一括



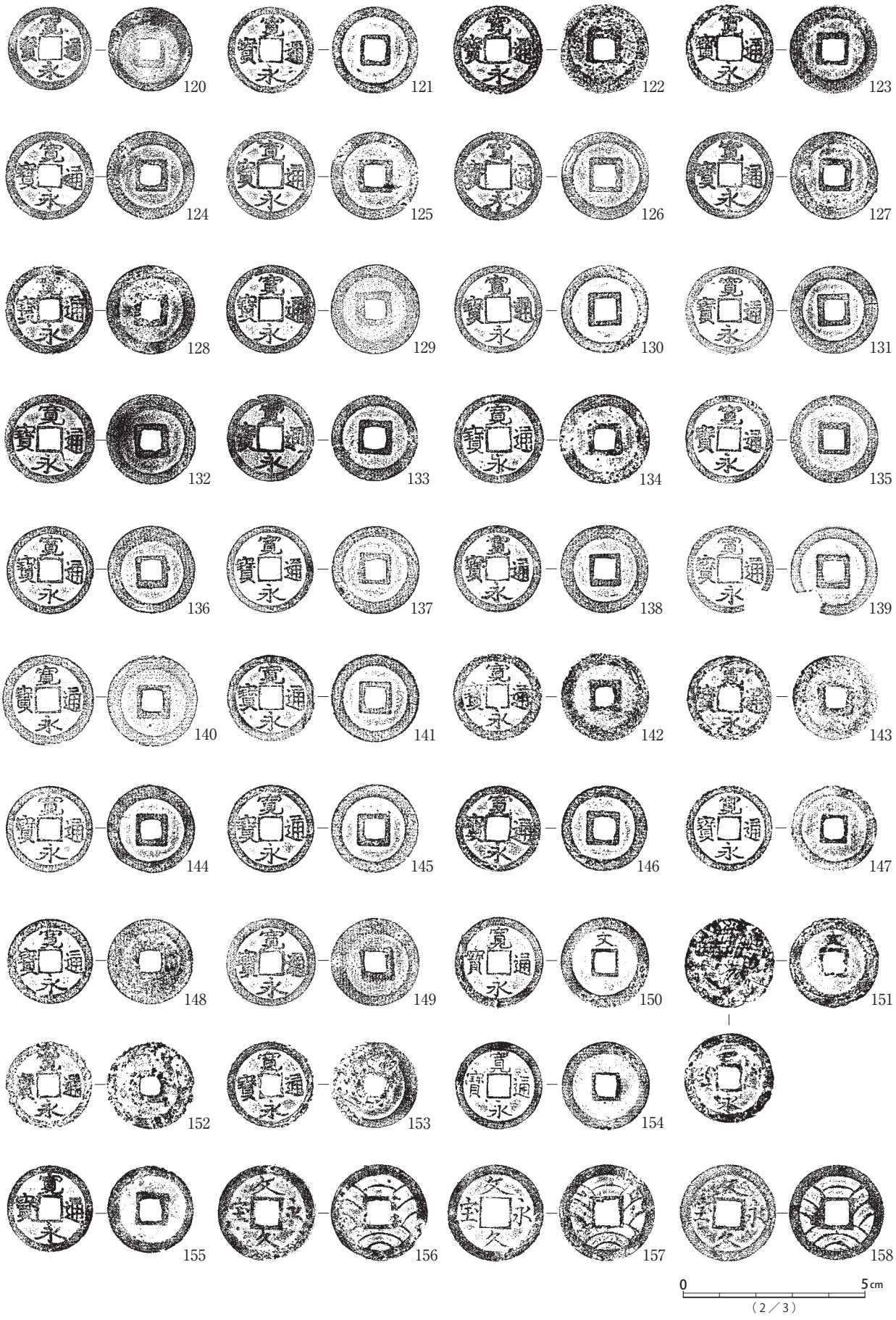
第194図　E地点一括(9) 出土遺物実測図

一括



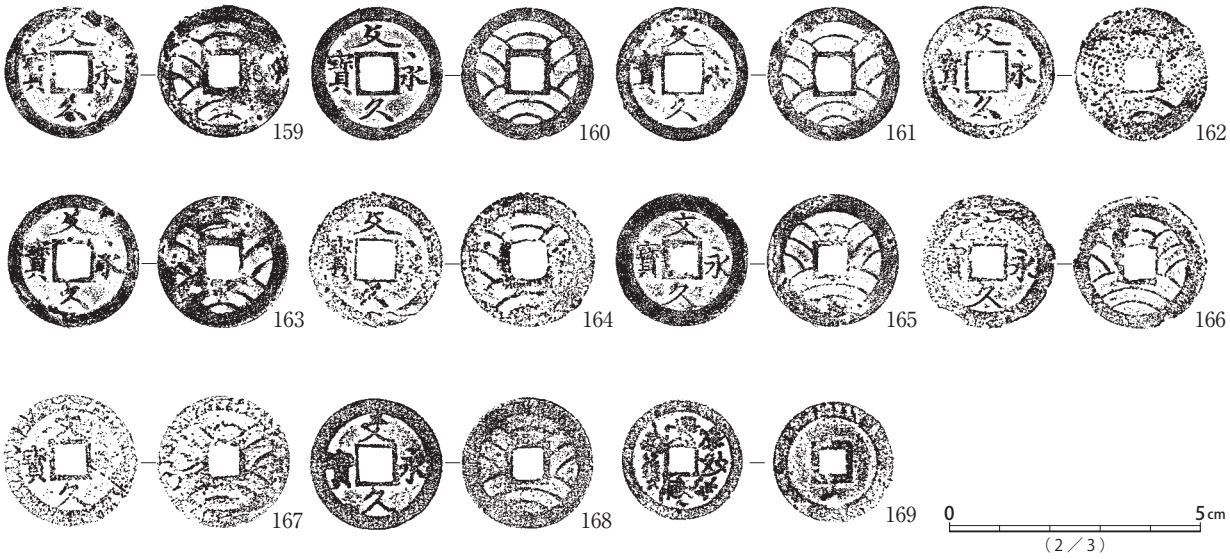
第195図　E地点一括(10) 出土遺物実測図

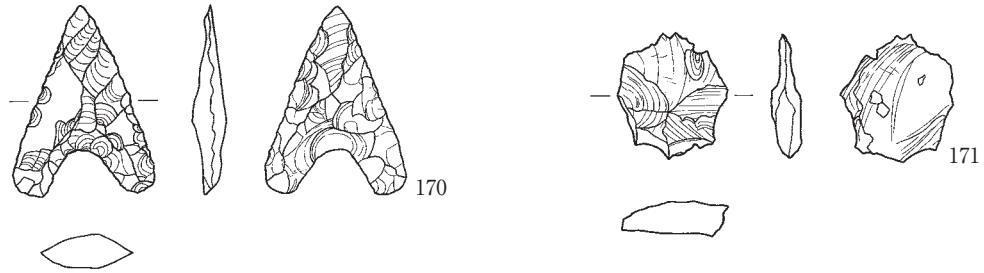
一括

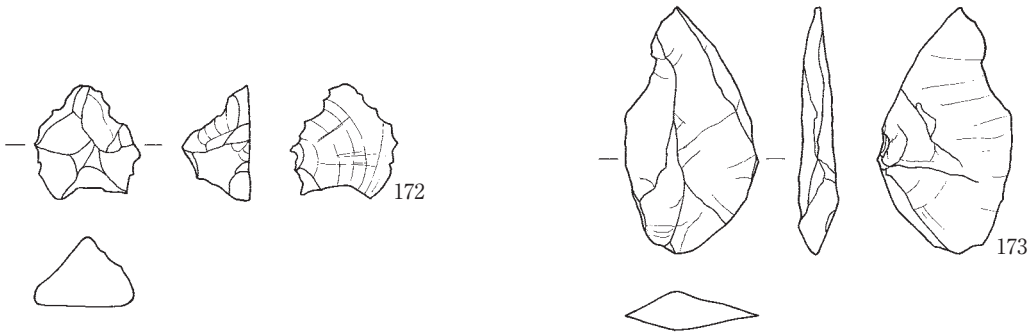


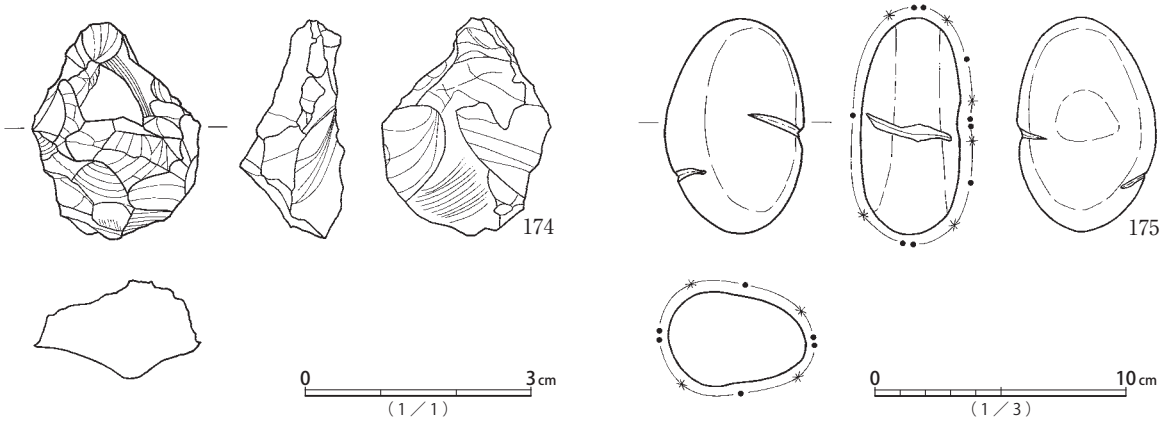
第196図　E地点一括(11) 出土遺物実測図

一括



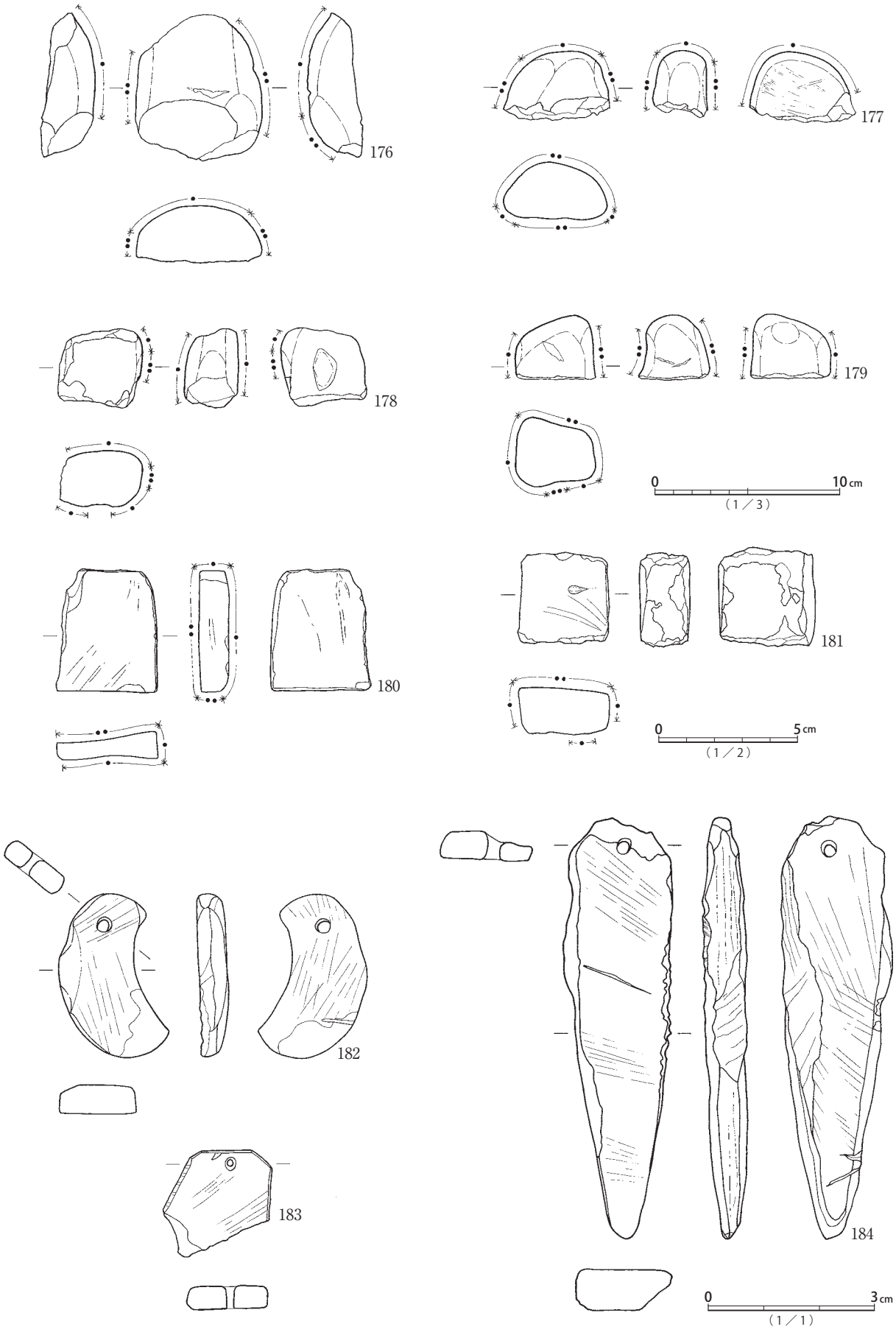






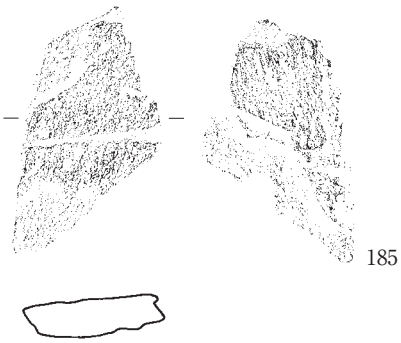
第197図　E地点一括(12) 出土遺物実測図

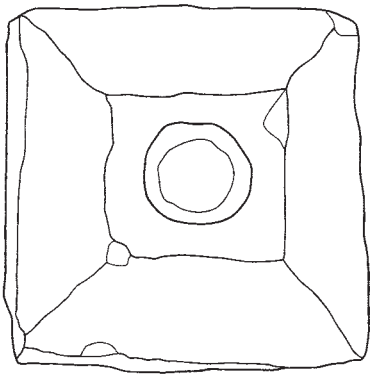
一括

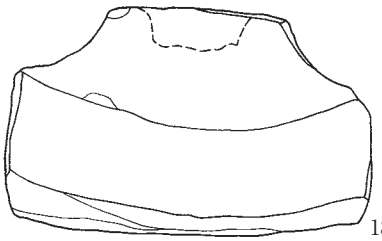


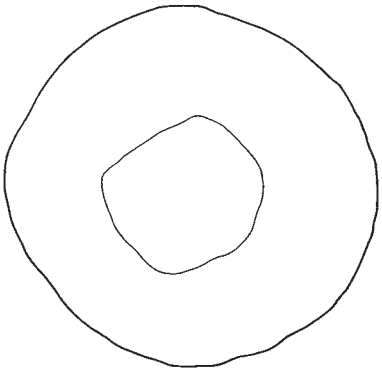
第198図　E地点一括(13) 出土遺物実測図

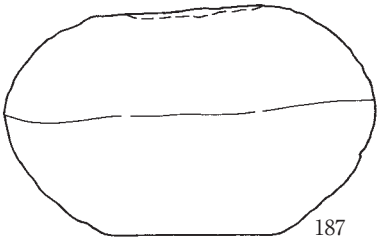
一括

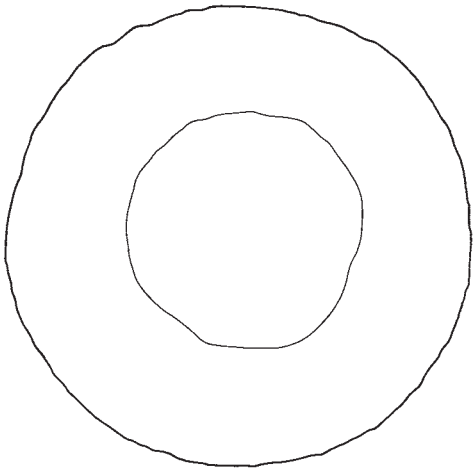

185

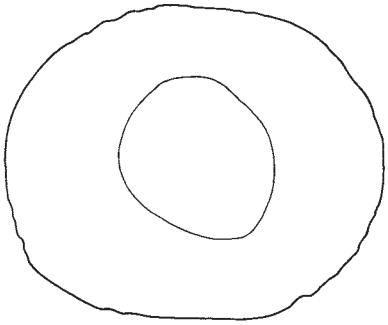


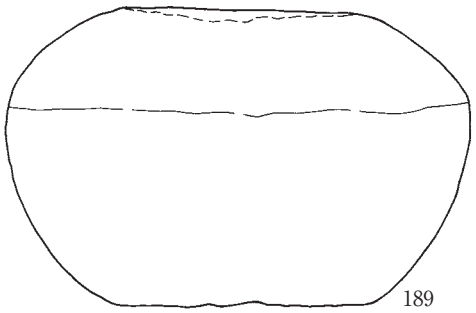

186

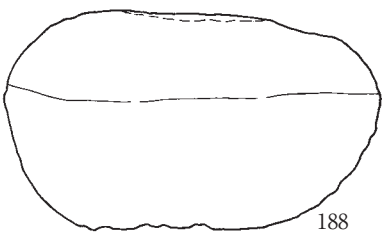


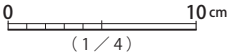

187





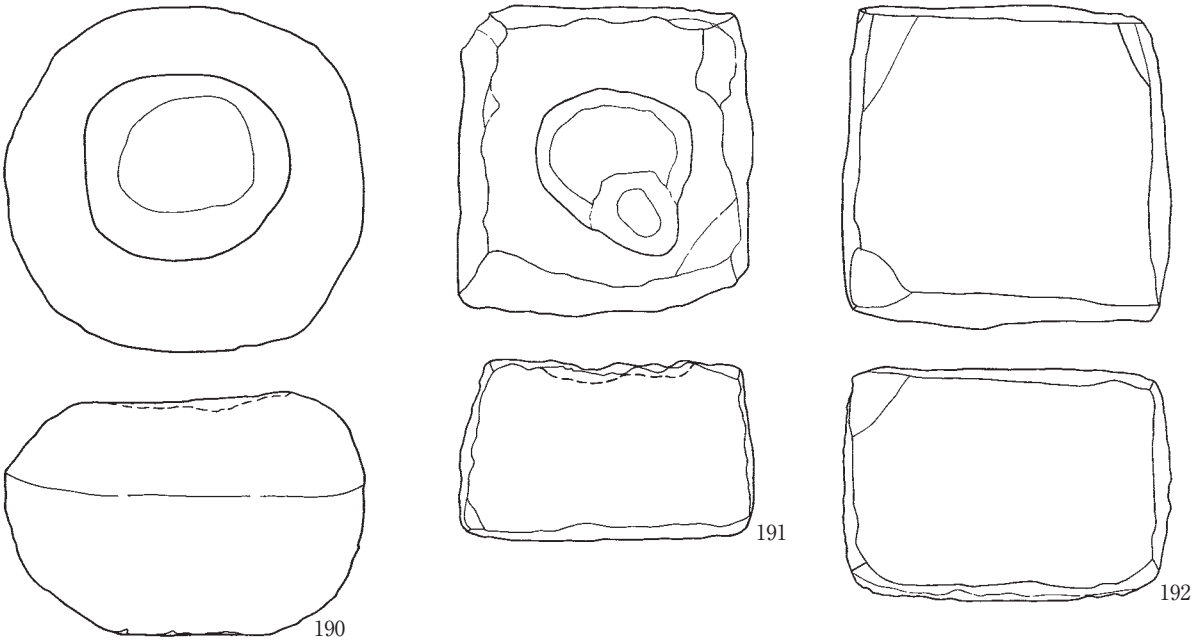

189

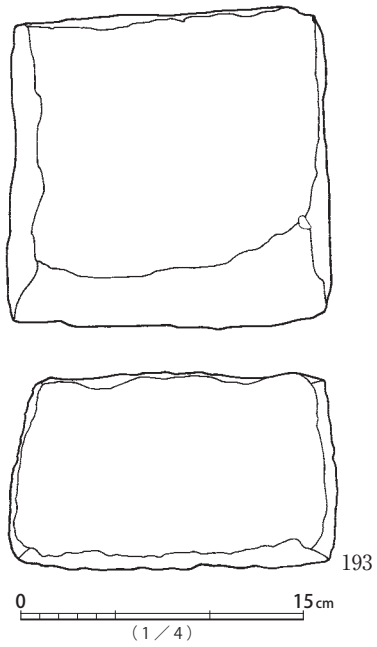

188



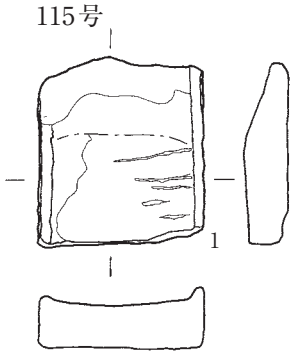
第199図　E地点一括(14) 出土遺物実測図

一括

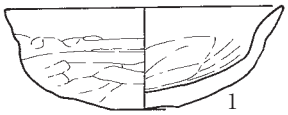




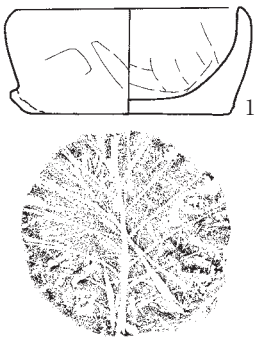
A地点
115号



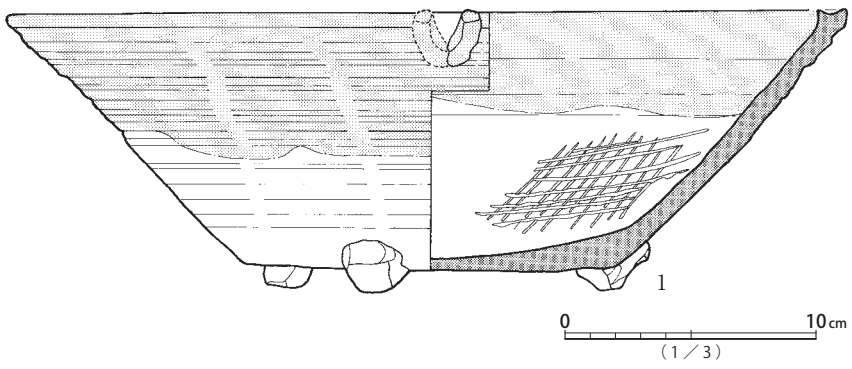
125号



217号

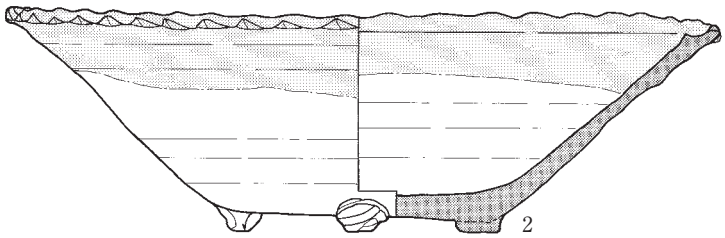


231号

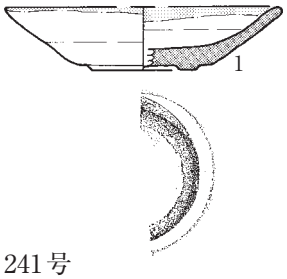


第200図　E地点一括(15)・A地点(1) 出土遺物実測図

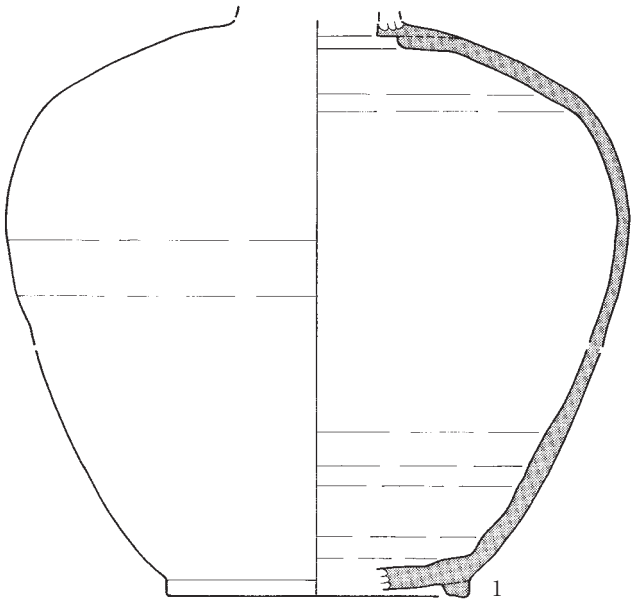
231号



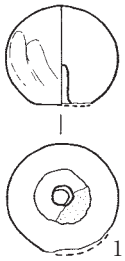
233号



232号

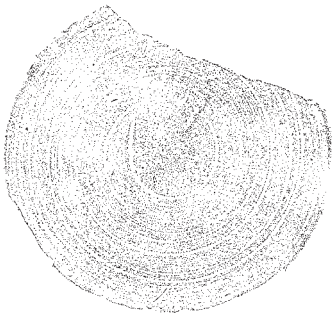


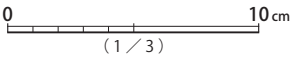
241号



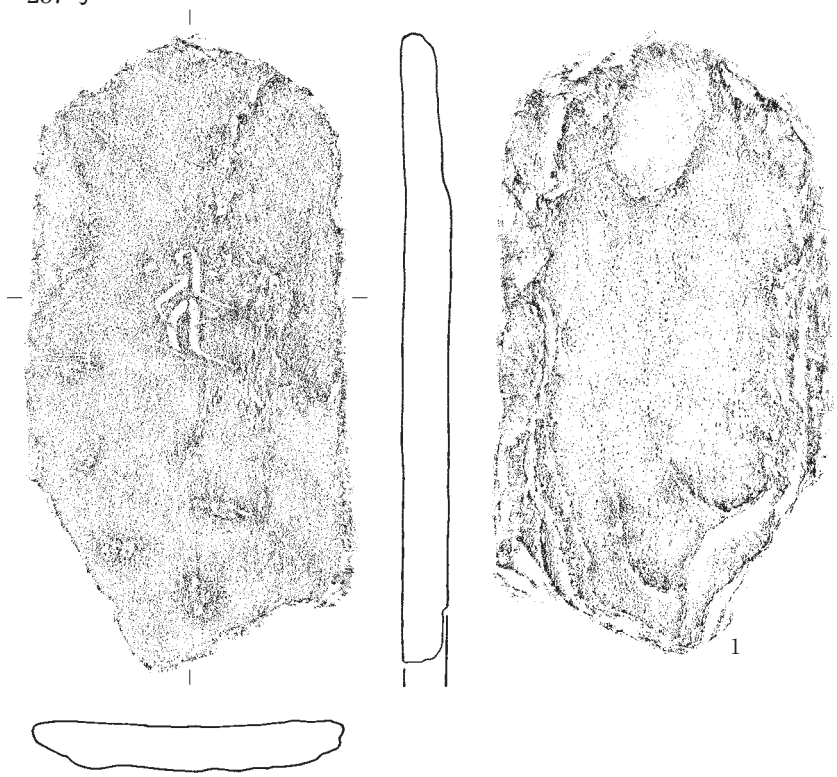
250号



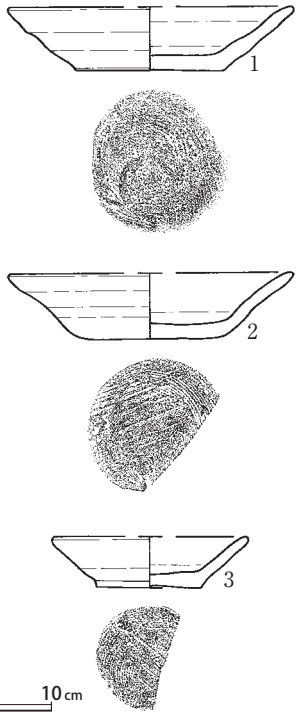


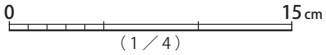


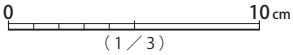
257号



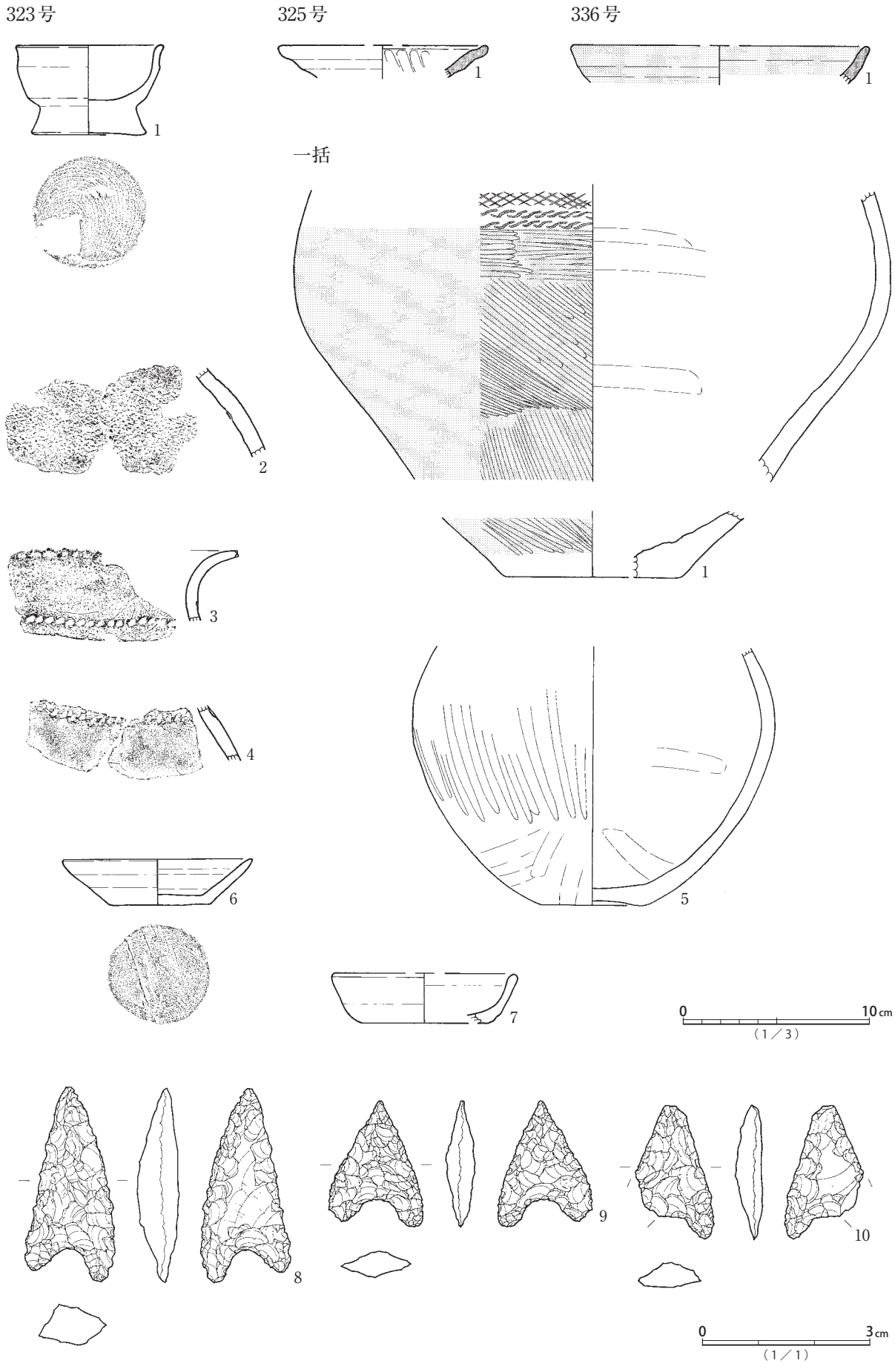
303号





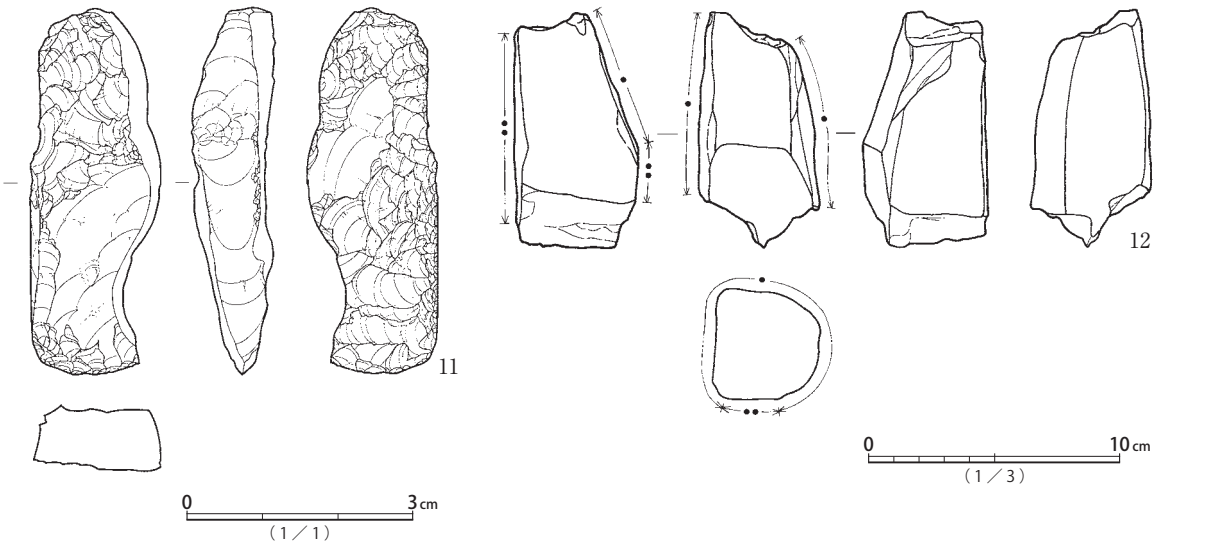


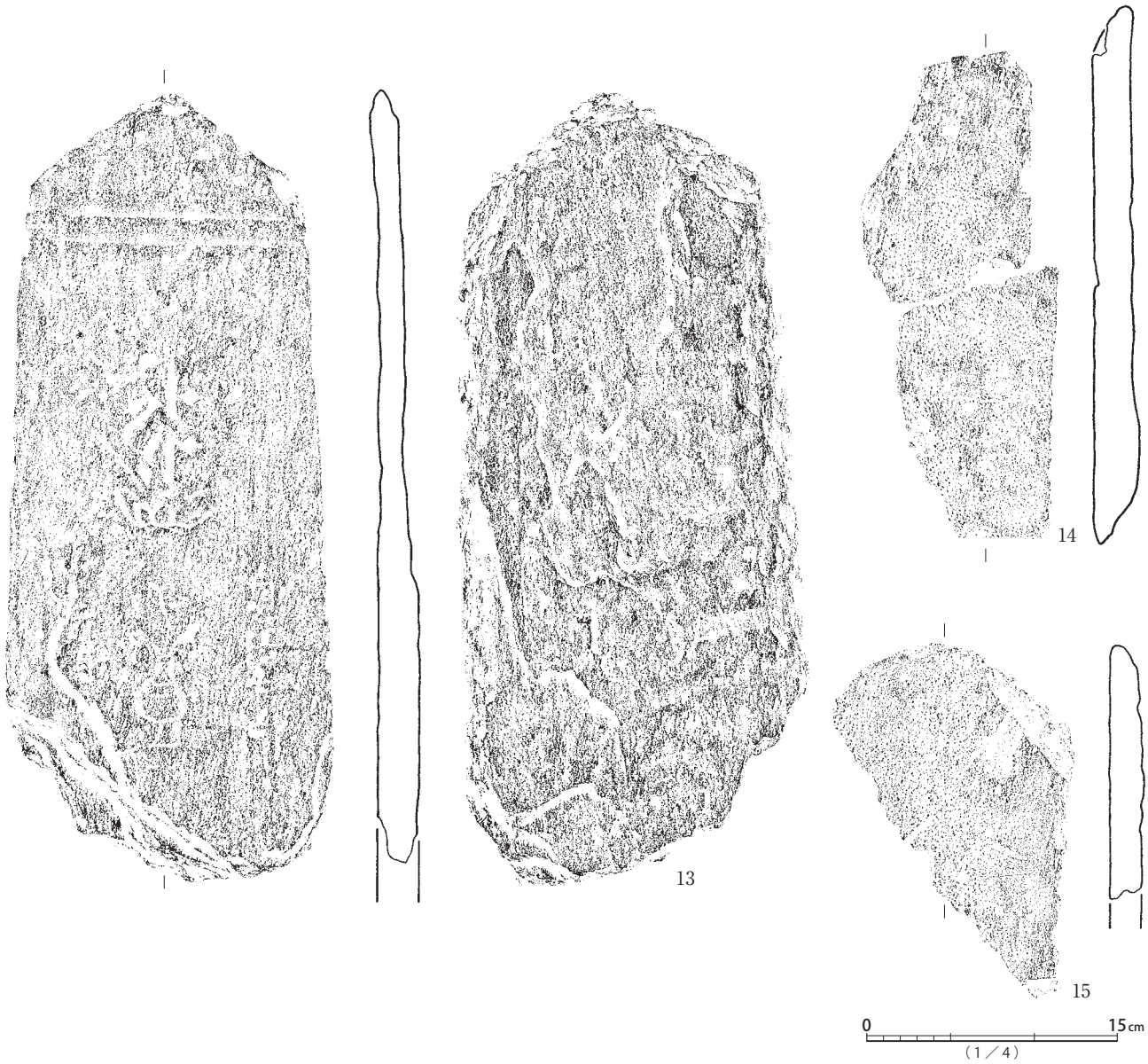
第201図　A地点(2) 出土遺物実測図



第202図　A地点(3) 出土遺物実測図

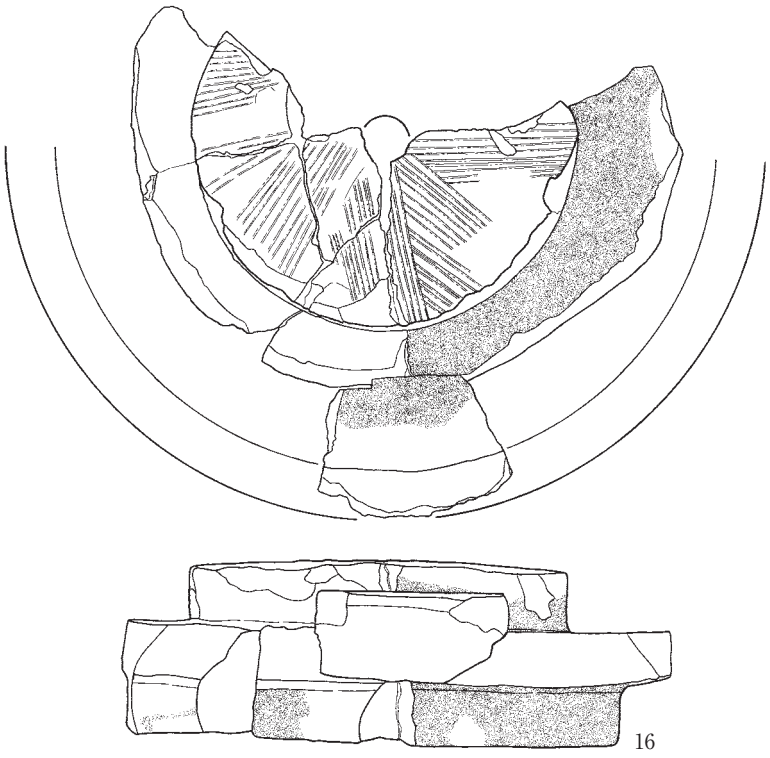
一括

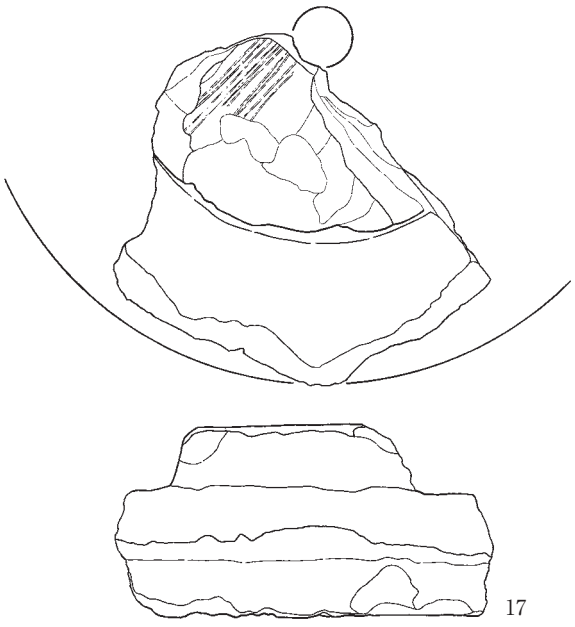


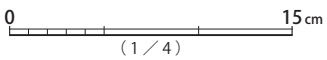


第203図　A地点(4) 出土遺物実測図

一括

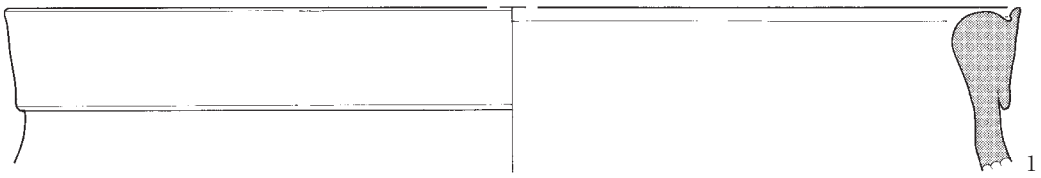




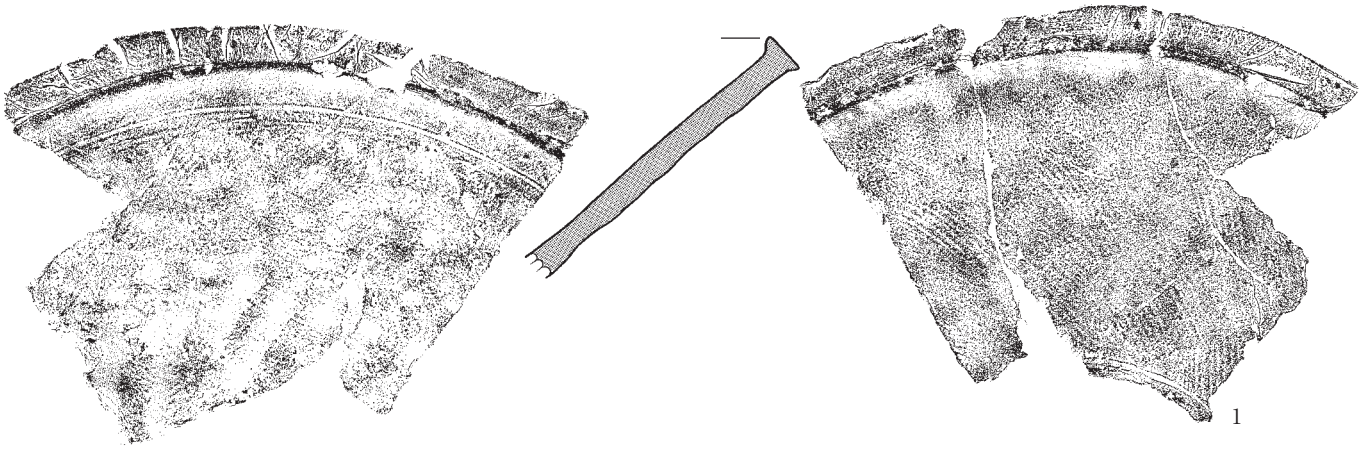


第204図　A地点(5) 出土遺物実測図

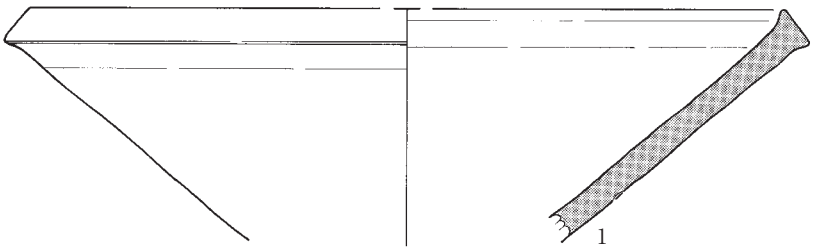
B地点
6号溝



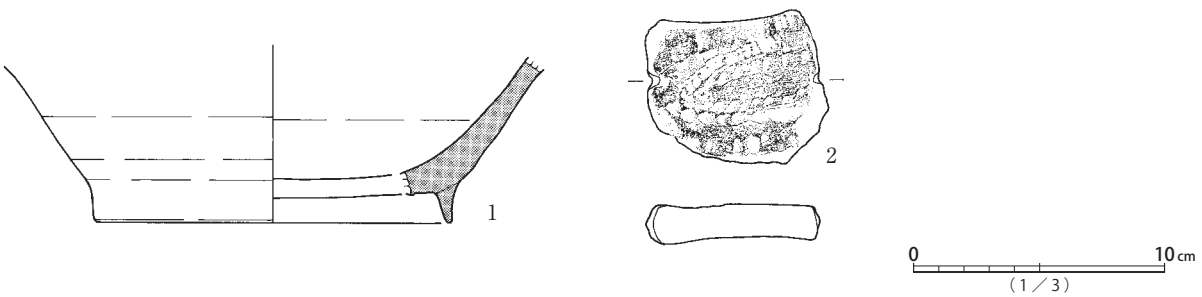
1号地下式坑



3号台地整形区画

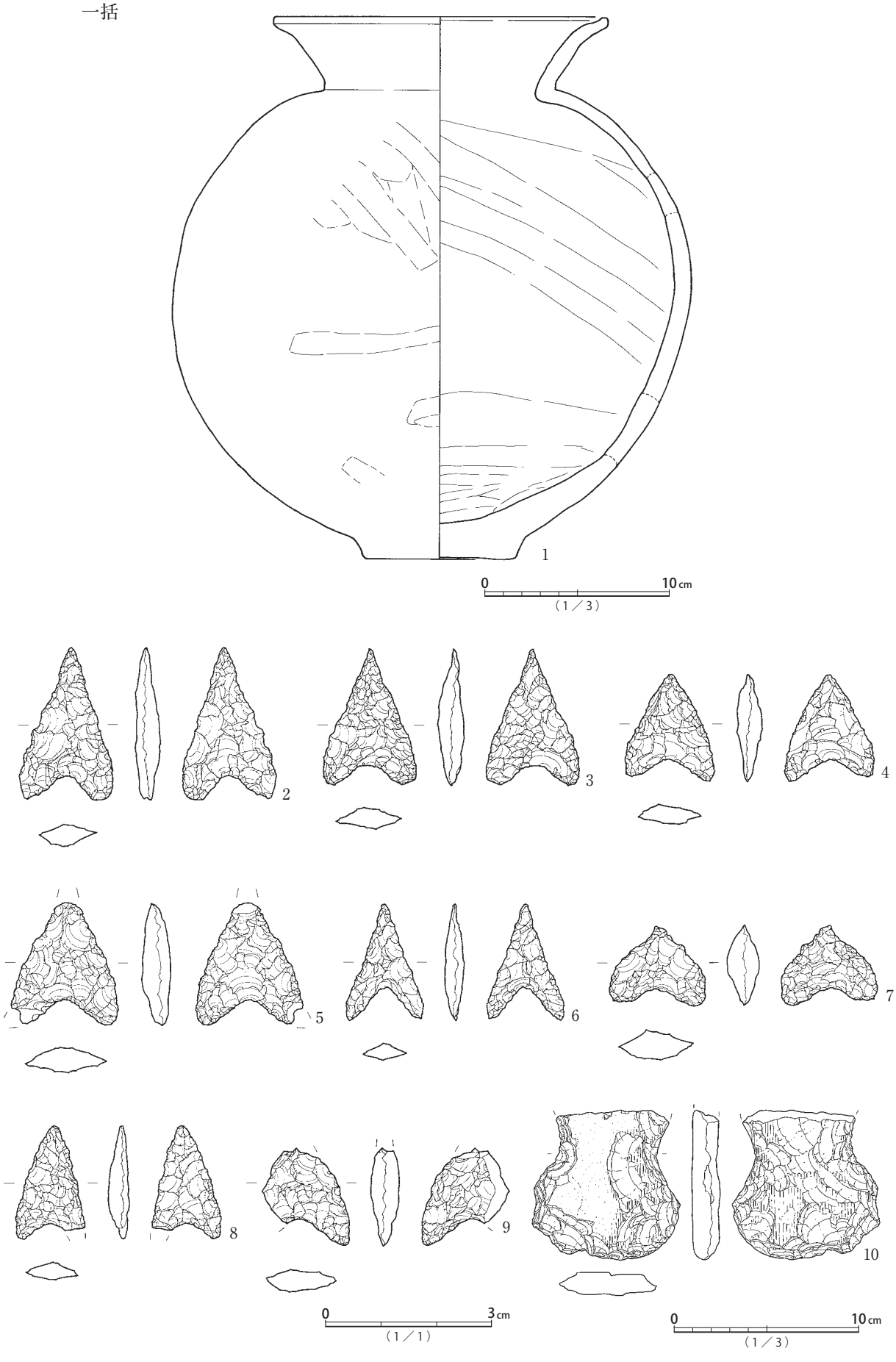


一括



第205図　B地点 出土遺物実測図

D地点
一括



第206図　D地点 出土遺物実測図

Ⅲ　自然遺物および自然科学分析

1　台遺跡Ｅ地点出土石器等石材鑑定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

国分寺台地区に位置する台遺跡は、縄文時代中期の遺構をはじめ、弥生時代中期の環濠集落と方形周溝墓群、弥生時代後期から古墳時代の集落、及び中世の遺構などが検出されており、弥生時代から古墳時代にかけての集落が遺跡の主体となっている。台遺跡の北東部に位置するＥ地点からは、臼玉、板碑、五輪塔などの石製品が多数出土している。本報告では、それらの石製品を中心として、石材鑑定を実施し、石材の産地について検討した。以下にその結果を報告する。

１．試料

鑑定の対象とした試料は、石鏃14点、チップ４点、フレーク19点、磨石24点、磨石・凹石１点、砥石22点、敲石１点、石皿１点、石臼２点、打製石斧４点、片刃石斧１点、磨製石斧４点、剣形４点、石製紡錘車１点、勾玉６点、臼玉1105点、臼玉（未製品）４点、有孔円板44点、数珠玉１点、硯１点、板碑114点、五輪塔（空風輪）２点、五輪塔（火輪）８点、五輪塔（水輪）９点、五輪塔（地輪）８点、滑石破片26点、ヘラ状石器１点、浮子１点の計1432点である。遺構、実測Ｎｏ.などの詳細は、鑑定結果とともに第15表 台遺跡石材鑑定表（ＤＶＤ-ＲＯＭ収録）に記される通りである。

２．分析方法

平成28年３月22日～23日に当社技師二名が市原市埋蔵文化財調査センターに赴き、石材鑑定を実施した。石材鑑定は、野外用ルーペを用いて行い、石材表面の鉱物や組織を観察し、肉眼で鑑定できる範囲の岩石名を付した。なお、正確な岩石名の決定には、岩石薄片作成観察や、蛍光Ｘ線分析、Ｘ線解析分析などを併用するが、今回は実施していないため、鑑定された岩石名は概査的な岩石名である点に留意されたい。

３．結果

石材鑑定により明らかになった各石器・石製品の岩石名を第15表（ＤＶＤ-ＲＯＭ収録）に、各石器・石製品別の石材組成を第16表 台遺跡石器・石製品別石質組成（ＤＶＤ-ＲＯＭ収録）に示す。

出土石材は、半深成岩類のドレライト２点、火山岩類の黒曜石31点、流紋岩９点、デイサイト３点、多孔質安山岩１点、多孔質輝石安山岩１点、輝石安山岩35点、無斑晶質安山岩１点、緻密質安山岩２点、緻密質輝石安山岩１点、火山砕屑岩類の軽石11点、流紋岩質凝灰岩４点、火山礫凝灰岩３点、砂質凝灰岩１点、スコリア１点、堆積岩類の凝灰質砂岩１点、砂岩45点、砂質泥岩１点、泥岩124点、頁岩７点、珪質頁岩１点、泥質チャート４点、チャート11点、変成岩類の粘板岩８点、緑色粘板岩１点、ホルンフェルス10点、菫青石ホルンフェルス２点、緑色片岩104点、滑石片岩27点、雲母片岩36点、緑泥石岩63点、変質岩類の蛇紋岩162点、蛇紋岩（斑れい岩）１点、鉱物の滑石714点、石英１点、玉髄２点、瑪瑙１点と、鑑定された。第15表（ＤＶＤ-ＲＯＭ収録）の備考欄には、由来となる地質もしくは地質年代などを、典型的な石材を対象として記載した。

第16表(ＤＶＤ-ＲＯＭ収録)に示されるように、臼玉の出土点数がもっとも多く、滑石、蛇紋岩、泥岩などが多く使用される傾向が認められるほか、緑泥石岩、滑石片岩、雲母片岩、緑色片岩などの多様な変質岩類や変成岩類が使用される傾向を示す(図１)。

中世の遺構からまとまって出土するとされる板碑や五輪塔は、変成岩類の緑色片岩や火山岩類の輝石安山岩などが使用されている。

なお、参考資料として、代表的な石材の接写写真を図版１～３に示した。

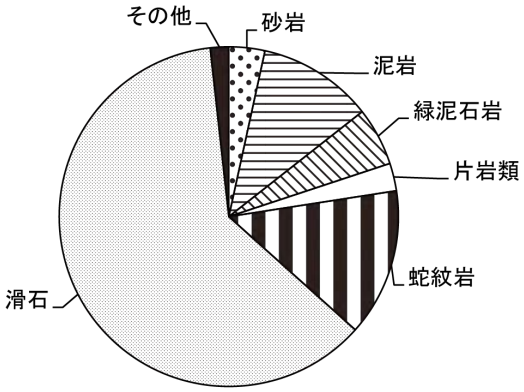


図1. 臼玉の石質組成

４．考察

台遺跡Ｅ地点から出土した石材には、第16表(ＤＶＤ-ＲＯＭ収録)に示されるように多様な石材が使用されている。国分寺台地区の遺跡周辺では、石材の入手元となるのは、市原市に広く分布する新第三紀～第四紀の砂礫層が考えられる。遺跡周辺の地質については、地域地質研究報告５万分の１地質図幅「姉崎地域の地質」(徳橋・遠藤,1984)に詳細が記されている。本遺跡が立地する台地は、姉崎層および市原Ⅱ段丘堆積層からなる。姉崎層は、シルト岩の円礫が多い中礫(４-64ｍｍ)混じりの砂層と泥層を挟む細粒砂層の互層である。市原Ⅱ段丘堆積層は、中礫混じりの砂礫層からなり、上部はクラックの発達した暗褐色の粘土質泥層である。礫種は、シルト岩の円礫と硬質礫からなり、後者は下位の姉崎層と比較してチャート、砂岩、石英斑岩などが多い。また、本遺跡より南東方向の笠森付近に分布する笠森層下部を構成する万田野砂礫層は、中礫の古期岩類を頻繁に含み、ときには径10cm以上の古期岩円礫も認められる。上述のように、徳橋・遠藤(1984)は、市原Ⅱ段丘堆積層に含まれる礫種について、チャート、砂岩、石英斑岩が多いとしている。これらの礫種の由来となる地質について簡潔に述べると以下のようになる。チャートおよび砂岩は、足尾山地を構成する足尾帯の構成岩体である。一方、石英斑岩は、鬼怒川源流域に分布する奥日光流紋岩類に由来すると考えられる。このような地質背景を考慮し、以下では使用石材の産地について述べる。

出土石材の中で、在地性の石材の可能性があるものは、火山岩類の流紋岩、火山砕屑岩類の流紋岩質凝灰岩および火山礫凝灰岩(第15表の備考欄に「奥日光」と記したもの)、堆積岩類の砂岩、泥岩類、チャート類、変成岩類のホルンフェルス類などである。

流紋岩は、褐色を帯びる岩相を呈し、いずれの試料も類似した岩相を示している(図版１-２)。遺跡周辺の新第三紀の砂礫層より採取可能と考えられる。火山礫凝灰岩は、ソロバン玉状を呈する石英の鉱物片を多含し、石基が脱ガラス化しており、堅硬な岩相を示す。岩相より、鬼怒川源流域に分布する奥日光流紋岩類に由来すると考えられる。堆積岩類の砂岩(図版２-７)、泥岩(図版２-８)、チャート類(図版２-10)および変成岩類のホルンフェルス類は、堅硬緻密質で足尾山地の足尾帯を構成する古期堆積岩類に関連する石材である。

一方で、非在地性とみられる石材は、半深成岩類のドレライト、火山岩類の黒曜石、輝石安山岩、火山砕屑岩類の軽石、変成岩類の緑色片岩、滑石片岩、雲母片岩、緑泥石岩、変質岩類の蛇紋岩、鉱物の滑石、石英(水晶)などである。このうち、変成岩類、変質岩類および鉱物は、出土点数が多い石

材であり、荒川上流域の三波川帯の地質とほぼ整合する結果となっている。

半深成岩類のドレライト(図版１－１)は、各所の新第三系の地質に分布することから、産地の判定は困難であるが、房総半島嶺岡山地に分布が知られている。

火山岩類の黒曜石は、第15表の備考欄に、肉眼で推定できる範囲の産地を記しているが、より正確な産地判定には、成分分析を実施することが望まれる。輝石安山岩は、全体に散含する斜長石斑晶が未変質であることから、第四紀火山の噴出物に由来すると推定される。斜長石斑晶以外の特徴として、半自形状の輝石斑晶に富み、石基は、赤色～灰色を呈し、まれに捕獲岩を含有するものが認められる(図版１－４～５)。北関東に分布する赤城火山や浅間火山などの第四紀火山周辺の水系で入手されたと考えられる。上記の北関東系と推定される岩相を有する石材のほか、輝石斑晶が自形状を呈し、石基が灰色を呈する、伊豆半島に産するいわゆる伊豆石に類似する岩相を示す石材も認められる(図版１－６)。

火山砕屑岩類の軽石は、褐色～白色を帯びており、輝石や黒雲母の斑晶鉱物を含む多様な岩相を示す。北関東の第四紀火山を給源とするものや、伊豆諸島の火山島を給源とする漂着軽石あるいは人為的に持ち込まれた軽石が混在している可能性がある。そのため、軽石を構成する火山ガラスの屈折率測定などによる給源の推定が今後望まれる。

変成岩類の緑色片岩、滑石片岩、雲母片岩、緑泥石岩は、荒川源流域～上流域に分布する三波川帯を構成する結晶片岩に由来すると考えられる(図版２-12、３-13)。緑色片岩は、斜長石斑晶の点紋が多含する岩相を呈する。滑石片岩、雲母片岩および緑泥石岩は、滑石や雲母鉱物に富む岩相を示し、臼玉に多く使用されている(図版３-14)。

変質岩類の蛇紋岩は、滑石に次いで臼玉に使用されており、黒色を帯びる(図版３-16)。磨製石斧に使用される蛇紋岩は、源岩の斑れい岩の組織が残存している(図版３-15)。蛇紋岩は、荒川の源流域～上流域付近に小規模な岩体が知られている。

鉱物の滑石は、臼玉に多く使用されている(図版３-17)。滑石は、日本国内では蛇紋岩に伴って産する鉱物であり、蛇紋岩と同様の産地が想定される。

石英(水晶)は、数珠玉に使用される(図版３-18)。石英(水晶)は、良質な岩相を示し、各所の地質に細脈として産出するため、産地の推定は困難であるが、特定産地から移入されたものと推測される。

５．まとめ

三波川帯由来の滑石および蛇紋岩が多産しており、出土数の多い臼玉に選択的に使用されている傾向を示す。他方、中世の遺構より出土している板碑に使用されている緑色片岩は三波川帯由来、および五輪塔に使用されている輝石安山岩は北関東系の第四紀火山に由来するものが主体となっているが、輝石安山岩は、伊豆半島のいわゆる伊豆石に類似する岩相を示すものが混在して使用される傾向が認められる。このように在地系よりも非在地系の石材が多く使用されており、今回調査した遺物は、交易・流通等によって得られたと推測される。

引用文献

徳橋秀一・遠藤秀典　1984　地域地質研究報告　５万分の１地質図幅「姉崎地域の地質」 地質調査所　136ｐ

図版１　石材（１）



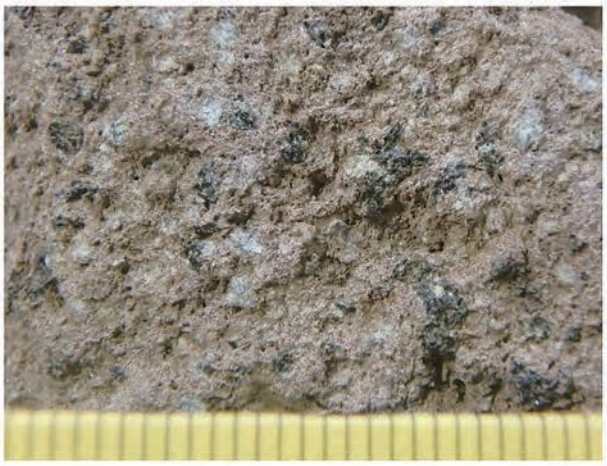
1 .ドレライト（磨製石斧　遺物番号 005-5　No.9）



2 .流紋岩（砥石　遺物番号 E一括-180　No.218）



3 .緻密質安山岩（砥石　遺物番号 026-4　No.13）



4 .多孔質輝石安山岩（五輪塔・火輪　遺物番号 E一括-186　No.215）



5 .輝石安山岩（捕獲岩含有 北関東）（五輪塔・水輪　遺物番号 E一括-189　No.225）

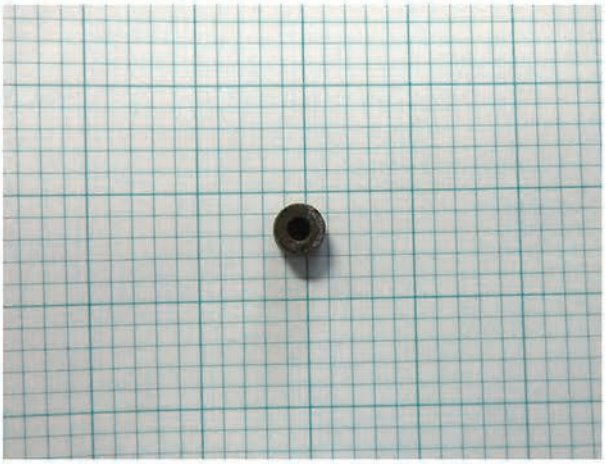


6 .輝石安山岩（伊豆）（五輪塔・火輪　遺物番号 D30-2　No.122）

図版２　石材（２）



7 .砂岩（砥石　遺物番号 139-15　No.201）



8 .泥岩（臼玉　実測番号123-2650　No.929）



9 .珪質頁岩（石鏃　遺物番号 123-47　No.161）



10.チャート（フレーク　遺物番号 E一括-173　No.240）



11.粘板岩（剣形　遺物番号 E一括-184　No.232）



12.緑色片岩（板碑　実測番号 D30-25　No.124）

図版３　石材（３）



13.雲母片岩（板碑　実測番号 E30-58-1　No.139）



14.緑泥石岩（臼玉　遺物番号 123-224　No.838）



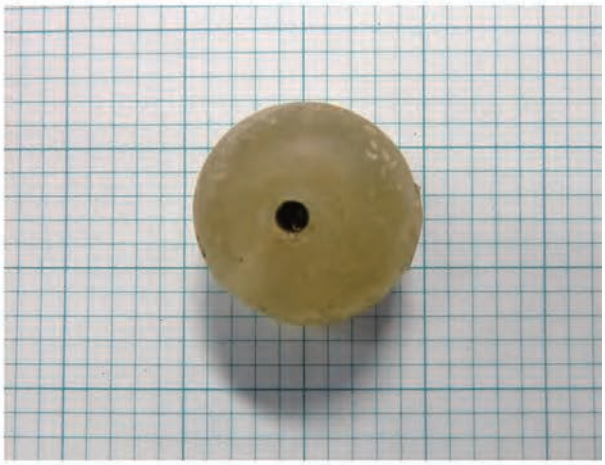
15.蛇紋岩（斑れい岩）（磨製石斧　実測番号 E一括-68　No.242）



16.蛇紋岩（臼玉　遺物番号 123-291　No.797）



17.滑石（有孔円板　遺物番号 123-64　No.157）



18.石英（水晶）（数珠玉　遺物番号 472-11　No.152）

Ⅳ　まとめ

台遺跡は、東京湾に面する海岸平野を北西に望む国分寺台遺跡群の北部に位置し、標高18～20m前後の三角形の台地上に、弥生時代中期から古墳時代後期初頭を中心とした遺構が濃密に展開する。

南部のＢ及びＣ地点では、弥生時代中期における環濠や、弥生時代から古墳時代にかけての多数の竪穴建物跡が検出され、中部に位置するＡ及びＤ地点では、弥生時代後期から古墳時代前期を中心とする竪穴建物跡群の中に、中世期まで下る地下式坑跡や土坑跡がまとまって検出されており、南東部を中心に、土地利用が行われていたと考えられる。そして、北部に位置するＥ地点においても、複数の帰属時期にわたる、多くの遺構が検出されている。

本遺跡の周辺を見ると、弥生時代中期末の環濠集落が検出された根田代遺跡や、弥生時代中期から古墳時代中期後半を中心とした多くの竪穴建物跡が検出された御林跡遺跡が、谷を挟んだ南部に展開しており、密接な関係にあったと考えられる。

具体的には、根田代遺跡の環濠集落の墓域として、本遺跡南部のＢ及びＣ地点の方形周溝墓が考えられると共に、Ｂ及びＣ地点で検出された環濠内の集落の墓域が、本遺跡中部から北部にあるＡ・Ｄ及びＥ地点の方形周溝墓に該当すると考えられる。

また、御林跡遺跡においては、Ｅ地点の臼玉集中検出地点である123号遺跡と、帰属時期が近似すると考えられる竪穴建物跡である50号遺構から、229点の臼玉が出土している。出土状況は、御林跡遺跡50号遺構では、南東隅部に集中して出土している状況を示し、首飾り状の製品が存在していたことを示唆する。一方、本遺跡123号遺構については、出土状況図に定点等の情報がないため、報告書に掲載することができなかったが、臼玉の出土状況を示したと考えられる平面図が存在しており、遺構全体に臼玉が散布している状況が見られた。出土状況は異なる可能性があるものの、御林跡遺跡と台遺跡Ｅ地点の臼玉集中検出遺構は、何らかの臼玉祭祀が執り行われた場所として、関連性が想起される。

これらのことを踏まえ、台遺跡Ｅ地点の整理作業を通して、各遺構の調査区における位置的な変遷を辿りながら、本遺跡の歴史的変遷を概観したい。

Ｅ地点は、縄文時代中期に土地利用がされ始め、弥生時代中期と考えられる方形周溝墓や、弥生時代後期から古墳時代後期初頭までの竪穴建物跡が複雑に重複しながら、調査区北側まで続いていく。その中に西谷古墳群が点在しており、墳丘を持たない単独の土坑墓を始めとした地下式系墓が展開していて、それらと竪穴建物跡との関係も重要な視点となるものである。

その中で、特に重要な位置を占めるものが、遺跡北半部に展開する古墳時代中期～後期初頭の竪穴建物跡の存在であり、これらの中で、ひときわ注目される遺構が、多量の土器を出土した100号遺構（竪穴建物跡）と、1,000点を超える石製模造品である臼玉が出土した123号遺構（竪穴建物跡）である。

100号遺構は、極めて大型の竪穴建物跡であり、ここで出土した土器群は、単なる廃棄遺物ではなく、何らかの土器祭祀を行うために使用された可能性が極めて高い。そして、南方へ下った123号遺構では、石製模造品の臼玉による祭祀が行われた可能性が高い。これらは、当該期の首長層が執り行う祭祀の場として、密接な関係にあった可能性がある。今後、類例を検討していかなければならない事例であると考える。

ちなみに、123号遺構で執り行われた臼玉祭祀に使われた臼玉は、石材鑑定を行った結果、今までの先入観で考えられていた臼玉＝滑石ばかりではなく、泥岩、砂岩といった石材も素材として柔軟に利用されていることが、明らかとなった。

本遺構は、一部であるが、製作途上の未製品のような石製模造品及び臼玉が出土しており、石製模造品及び臼玉祭祀の場だけでなく、その場において、応急的に臼玉等を生産する「工房」としての側面も併せ持っていたのではないだろうか。「工房」的な側面も一部に併せ持つのであれば、周辺から、製作時に出る屑であるチップがある程度の量、出土するはずであるが、それは少量の出土にとどまっている。発掘調査時に、掘削土を篩う作業を行っていなかった可能性が高いが、古墳調査担当者が上層の土を篩にかけていた可能性も考えられ、実態は不明である。

石製模造品及び臼玉の未成品が、大量の臼玉等に混在して出土する状況は、木更津市小浜遺跡群Ⅱマミヤク遺跡の祭祀遺構と共通する特徴であるが、マミヤク遺跡の場合、大量の土器に混在して、石製模造品及び大量の臼玉が出土しているのに対し、台遺跡Ｅ地点の祭祀遺構は、土器祭祀の場と、石製模造品及び臼玉祭祀の場が分かれていることが、相違点として上げられる。

また、土器祭祀の点では、マミヤク遺跡では、高杯の出土が殆ど見られないのに対し、台遺跡Ｅ地点では、100号遺構において、大量の高杯が出土しており、その点も相違点として上げられる。

そして、マミヤク遺跡では、鉄鏃や鎌、鋤先などの鉄製品と共に、刀子や鋤先、鎌の雛形と考えられる「鉄製模造品」が出土しているのに対し、台遺跡Ｅ地点の祭祀遺構と考えられる100号及び123号遺構では、鉄製品が出土していないことも、相違点として上げられる。

マミヤク遺跡と台遺跡Ｅ地点の祭祀遺構における共通点と相違点は、祭祀行為の性格を異にするものなのかどうか、今後の類例及び出土遺物の増加を待って、改めて検討していく必要がある。

いずれにしても、このような遺構に恵まれていながら、現場調査で得られた手掛かりが限られること、及び本遺跡上に展開する西谷古墳群の詳細が全く不明なことにより、推測の域を出ない要素があまりにも多過ぎるというのが、整理作業を通して感じた実感である。

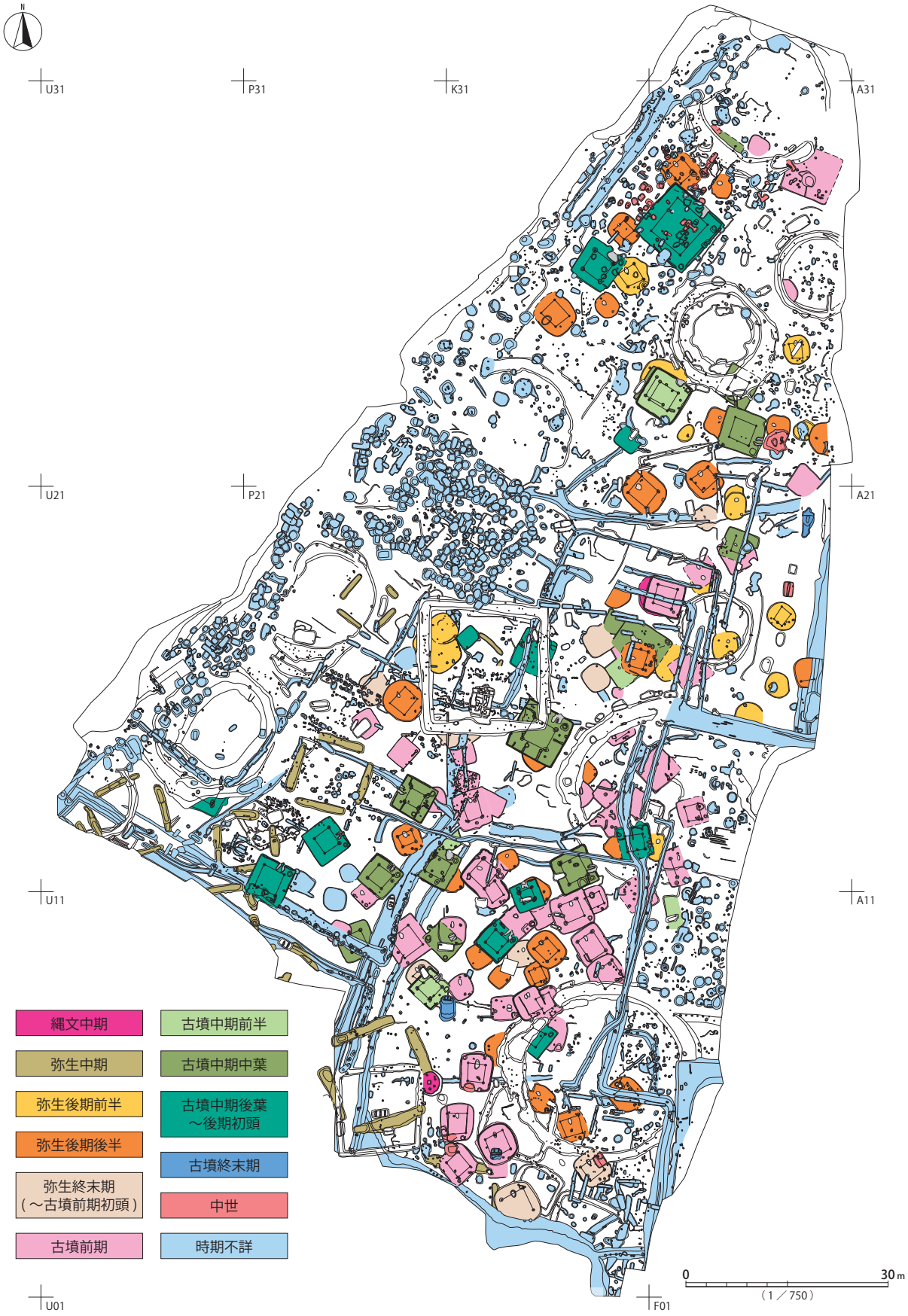
参考文献(註３)によると、西谷古墳群では、古墳墳丘部分など広範囲にわたって、滑石製の臼玉が出土していたと読み取れる記述があり、そうであるならば、「居住域」的な土地利用が終わり、西谷古墳群として、墓域としての土地利用が行われるようになった後も、臼玉を使った祭祀・葬送行為が行われていたことを示している可能性が考えられる。

西谷古墳群を形成した成員の居住域は、どこに存在するのか。臼玉の供給過程は、どのようになっていたのか。解明すべき課題は多い。

本遺跡の歴史的土地利用の変遷を概観すると、縄文時代中期後半にわずかな土地利用がなされたのち、永い空白期を経て、弥生時代中期に調査区南部を中心に墓域が形成された。その後、南部を中心に後期の竪穴建物跡が数軒建てられ、引き続いて弥生時代終末期～古墳時代前期の竪穴建物跡が南半部を中心に建てられる中で、西谷古墳群の前期古墳が南東部及び南西部に築造された。

そして、古墳時代中期以降、竪穴建物跡は、北へ移動していき、北半部を中心に古墳時代中期後葉～後期初頭の竪穴建物跡が建てられるようになる。その動きの中で、首長層による祭祀が100号遺構及び123号遺構で執り行われたと考えられる。

その後は、古墳時代後期前葉以降になると、古墳群が展開する墓域として土地利用されるようにな



第207図　台遺跡E地点時期別全体図

り、当該期の竪穴建物は突如建てられなくなる。具体的には、後期前半～終末期にかけて、古墳及び、墳丘を持たない土坑墓や地下式横穴墓などの地下式系墓が展開するようになり、墓域として強く意識されるようになったと考えられる。

その後は、また永い空白期を経て、中世後期及び戦国期に再び土坑墓群が北西部を中心に展開するようになり、近世以降の墓域群も隣接する北西部に展開していったものと考えられる。

以上が、台遺跡Ｅ地点の歴史的な遺構の変遷である。

しかしながら、各遺構の調査の実態を見ると、北側に行く程、柱穴や貯蔵穴が掘り込まれていない建物跡が存在し、床面まで掘削深度が到達していないと考えざるを得ない遺構が散見された。このことは、床面付近に存在したであろう遺物が取り上げられなかったことを意味しており、それらを整理作業の対象資料に含めることができなかった。

また、集落の消長と密接な関係を持つはずの西谷古墳群が未整理のため、実態が解明されていない中での整理報告となってしまった。これらが、整っていれば、より詳細に遺構の実像及び本遺跡の歴史的変遷の復原にアプローチできたであろうと考えられる。

つまり、整理報告をするのに足りる充分な基本情報が欠けていたと言わざるを得ない。現場発掘調査の水準以上の整理成果は得られないというのが、台遺跡Ｅ地点の整理作業を行った実感である。

今後の遺跡調査の戒めとしなければならない。

（参考文献（註））

（註３）田中新史「古墳時代終末期の地域色－東国の地下式系土壙墓を中心として－」『古代探叢Ⅱ』
早稲田大学出版部　1985
小沢　洋ほか「小浜遺跡群Ⅱ　マミヤク遺跡」（財）君津郡市文化財センター発掘調査報告書第44集
（財）君津郡市文化財センター　1989
半田堅三「台遺跡」『千葉県の歴史　資料編　中世1　考古資料』　（財）千葉県史料研究財団　1998
田中新史「上総市原台の光芒－市原古墳群調査と上総国分寺台遺跡調査団－」市原古墳群刊行会　2000
半田堅三「千葉県　市原市台遺跡Ｂ地点」財団法人市原市文化財センター調査報告書第84集
上総国分寺台遺跡調査報告Ⅹ　財団法人　市原市文化財センター　2003
大村　直ほか「千葉県　市原市根田代遺跡」財団法人市原市文化財センター調査報告書第92集
上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅢ　財団法人　市原市文化財センター　2005
（註１）篠原祐一「滑石の生産と使用をつなぐ視点」『古墳時代の滑石製品－その生産と消費』第54回
埋蔵文化財研究集会発表要旨・資料集　埋蔵文化財研究会　2005
木對和紀ほか「千葉県　市原市御林跡遺跡Ⅱ」市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第５集
上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅧ　市原市教育委員会　2008
木對和紀ほか「千葉県　市原市台遺跡Ｃ地点」市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第12集
上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅩⅡ　市原市教育委員会　2010
（註２）篠原祐一「五世紀における石製祭具と沖ノ島の石材」『宗像・沖ノ島と関連遺産群』研究報告Ⅰ　2011
木對和紀ほか「千葉県　市原市台遺跡Ａ・Ｄ地点」市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第29集
上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅩⅤ　市原市教育委員会　2013

第2表　台遺跡E地点出土土器観察表

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量（復元値）（cm）			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
71	002	1	86	点	弥生土器	広口壺	口縁～底部	8.4	6.0	13.3	5/7残	密・黒色粒（0.2～0.4㎜）少量だが均等	良	外：10R4/8赤 内：5YR5/6明赤褐	外：体部下半に一段の輪積み痕残し、縄文原体による刻み目施す。輪積み痕部より上部、ヘラミガキ。赤彩。下部、ヘラミガキ。 内：ヘラナデ。	
71	002	2	82	点	弥生土器	壺	口縁～頸部	14.2	—	—	1/2残	密・黒色粒（0.2～0.3㎜）少量だが均等	良	外：2.5YR4/8赤褐 内：10R4/8赤	外：折り返し口縁、LRの斜縄文施す。口縁下端部、縄文原体押捺による刻み目施す。赤彩。 内：ヘラナデ、ヘラミガキ。上半部、赤彩。	
71	002	3	3	点	弥生土器	壺	頸部	—	—	—	頸部のみ完形	密・黒色粒少、石英粒少量だが均等	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：沈線で区画された中に、附加条縄文3種を施す。無文部、ヘラミガキ、赤彩。 内：頸部上半、ヘラミガキ・赤彩。頸部下半、ヘラナデ。赤彩か。	
71	002	4	83	一括	弥生土器	壺	頸部	—	—	—	頸部のみ3/4残	粗・白色粒・黒色粒（1～2㎜）均等	良	外：10R4/6赤 内：10R4/8赤	外：頸部下位に、結節文で区画された羽状縄文帯巡る。無文部、縦位のヘラミガキ、赤彩。 内：頸部上位、縦位のやや強いヘラナデ、赤彩。頸部下位、ナデ、ヘラナデ。	
71	002	5	1	点	弥生土器	広口壺	完形	17.5	7.0	18.5	完形	密・白色粒（0.5㎜）微量	良	外：7.5YR7/6橙色 内：7.5YR7/6橙色	外：口縁部、折り返し口縁部に、LRの斜縄文施す。折り返し口縁直下に、計4ヵ所、焼成前穿孔施す。また、焼成後にも一部、穿孔を再度調整している箇所あり。 内：ナデ、ヘラナデ。頸部～胴部上半、やや強いナデ。	
71	002	6	85	一括	弥生・土師器	甕	底部	—	6.6	—	体部下半～底部3/4残	やや粗・黒色粒（1㎜）均等	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：5YR5/3にぶい赤褐	外：ヘラナデ。底部付近、強いヘラナデ、ヘラミガキ、赤彩。 内：ナデ。	
71	002	7	80	点	弥生土器	甕	ほぼ完形	22.7	10.6	28.2	ほぼ完形	やや粗・小礫（0.5～0.8㎜）均等	良	外：5YR7/8橙 内：5YR7/8橙	外：肩部、一段の輪積み痕あり。縄文原体押捺による刻み目施す。口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。ナデ、やや強いヘラナデ。 内：ナデ、ヘラナデ。	
71	002	8	2	点	弥生土器	甕	ほぼ完形	（21.1）	7.5	20.6	ほぼ完形	密・黒色粒（0.2～0.4㎜）少量だが均等	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：口縁部、ヘラ状工具による刻み目施す。胴部、ヘラナデ。外面上半、煤の付着により黒色化している。 内：胴部、ヘラナデ。胴部上半～口縁部内面、強いヘラナデ。ヘラミガキ。	
71	002	9	84	点	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部1/4残	やや粗・白色粒（0.3～1.0㎜）少量だが均等	良	外：2.5YR4/6赤褐 内：5YR6/4にぶい橙	外：輪積み部、ヘラ状工具による刻み目施す。胴部、やや強いヘラナデ、ヘラミガキ。赤彩か。 内：ヘラナデ。	
72	002	10	8	一括	弥生土器	鉢	口縁～胴部	—	—	—	口縁部～胴部片	密・白色粒（0.5㎜）少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：折り返し口縁及び口唇内面に、LRの斜縄文巡る。口縁下端部に、ヘラ状工具による刻み目施す。 内：ナデ、ヘラナデ。	
72	002	11	27	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・雲母粒（0.2～0.3㎜）少量だが均等、黒色粒（0.2～0.4㎜）少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR5/3にぶい褐	外：折り返し口縁下端部に、ヘラ状工具による刻み目施す。 内：ナデ、ヘラナデ。	
72	002	12	7	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒（0.5㎜）微量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：5YR5/6明赤褐	外：折り返し口縁に、LRの斜縄文巡る。口縁下端部に、縄文原体による刻み目施す。 内：ヘラナデ。	
72	002	13	6	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒（0.3㎜）微量	良	外：7.5YR4/6褐色 内：7.5YR5/6明褐	外：折り返し口縁に、LRの斜縄文巡り、口縁下端部に、縄文原体による刻み目施す。 内：ナデ。	
72	002	14	5	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒（0.2～0.3㎜）少量	良	外：7.5YR4/6にぶい橙 内：10R4/6赤	外：折り返し口縁に、RLの斜縄文巡り、口縁下端部に、ヘラ状工具による刻み目施す。 内：ヘラミガキ、赤彩。	
72	002	15	14	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒（0.1～0.2㎜）少量だが均等	良	外：10YR4/3にぶい黄褐 内：10YR5/3にぶい黄褐	外：沈線で山形文状に区画されたRLの縄文帯巡る。 内：ナデ、ヘラナデ。	
72	002	16	15	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒（0.3～0.4㎜）均等	良	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：10YR5/4にぶい黄褐	外：沈線で山形文状に区画されたLRの縄文帯巡る。 内：ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
72	002	17	91	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	やや粗・白色粒(0.2～0.5㎜)少量だが均等	やや不良	外：5YR5/6明赤褐 内：5YR4/4にぶい赤褐	外：結節文で区画された羽状縄文巡る。 内：ナデ。	
72	002	18	89	点	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・褐色粒(0.3～0.8㎜)少量だが均等	良	外：10YR4/2灰黄褐 内：10YR4/6褐	外：沈線で区画された羽状縄文巡る。無文部、ヘラミガキ。赤彩。 内：ナデ、ヘラナデ。	
72	002	19	90	点	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・褐色粒(0.3～1.0㎜)少量	良	外：10R3/6暗赤 内：7.5YR6/6橙	外：沈線で区画された羽状縄文巡る。無文部、ヘラミガキ。赤彩。 内：ナデ、ヘラナデ。	
72	002	20	9	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・赤色粒(0.5㎜)微量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：10YR6/6明黄褐	外：沈線で区画されたRLの斜縄文巡る。無文部、ヘラミガキ。赤彩。 内：ナデ、ヘラナデ。	
72	002	21	88	点	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・赤褐色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：2.5YR4/6赤褐 内：5YR4/6赤褐	外：沈線で区画された羽状縄文巡る。無文部、ヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラナデ。	
72	002	22	12	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.2㎜)微量	良	外：7.5YR6/6橙 内：10YR6/6明黄褐色	外：沈線で区画された羽状縄文帯巡る。無文部、赤彩。 内：ナデ。	
72	002	23	19	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	やや粗・黒色粒(0.1～0.2㎜)少	やや不良	外：10YR4/2灰黄褐 内：10YR6/6明黄褐	外：沈線で区画された中に附加条縄文3種巡る。 内：ナデ、ヘラナデ。	
72	002	24	16	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：7.5YR6/8橙	外：沈線で区画された網目状の結節文巡る。 内：ナデ。	
72	002	25	13	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：2.5YR4/3にぶい赤褐 内：10YR6/6明黄褐色	外：沈線で区画されたRLの斜縄文帯巡る。無文部、ヘラミガキ。赤彩。 内：ナデ。	
72	002	26	11	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.3㎜)微量	良	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：7.5YR5/6明褐色	外：沈線で区画された羽状縄文帯巡る。 内：ナデ。	
72	002	27	21	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：10YR6/6明黄褐 内：10YR5/6黄褐	外：結節文で区画された羽状縄文巡る。無文部、ヘラミガキ。赤彩。 内：ナデ、ヘラナデ。	
72	002	28	22	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・赤色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：7.5YR6/8橙	外：結節文で区画された羽状縄文巡る。無文部、赤彩。 内：ナデ。	
72	002	29	23	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・灰色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：7.5YR5/6明褐 内：7.5YR6/6橙	外：結節文で区画された羽状縄文巡る。 内：ナデ。	
72	002	30	10	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・赤色粒(0.5㎜)微量	良	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：7.5YR4/3褐色	外：羽状縄文帯、頸部に巡る。 内：ナデ。	
72	002	31	57	一括	弥生土器	甕	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.5㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR5/8明褐 内：7.5YR5/6明褐	外：頸部、一段の輪積み痕残す。ナデ、ヘラナデ。 内：ナデ、ヘラナデ。	
72	002	32	56	一括	弥生土器	甕	胴部	—	—	—	胴部片	やや粗・小石粒(1.0～2.0㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR5/6明褐 内：10YR5/6黄褐	外：頸部、一段の輪積み痕残す。ヘラナデ。 内：ナデ。	
72	002	33	28	一括	弥生土器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	やや粗・小石粒(0.5～1.2㎜)少量だが均等	良	外：10YR6/6明黄褐 内：10YR6/6明黄褐	外：口縁部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、輪積み痕残しナデを加える。 内：口縁直下部、一段の輪積み痕残す。ナデ、ヘラナデ。	
72	002	34	93	点	弥生土器	甕	胴部	—	—	—	胴部片	粗・石英粒(0.5～1.0㎜)小石粒(1.0～2.0㎜)均等	良	外：5YR6/8橙 内：7.5YR6/8橙	外：輪積み痕残し、ヘラ状工具による刻み目施す。ヘラナデ。 内：ナデ、ヘラナデ。	
72	002	35	53	一括	弥生土器	甕	頸部	—	—	—	頸部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：7.5YR5/6明褐 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：頸部、輪積み痕残し、ヘラナデを加える。 内：ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
72	002	36	41	一括	弥生土器	甕	胴部	—	—	—	胴部片	密・石英粒(0.4～0.6㎜)少量	良	外：10YR3/3暗褐 内：10YR5/4にぶい黄褐	外：胴部中央に、一段の輪積み痕残し、ヘラ状工具による刻み目施す。輪積み痕より上部、ヘラナデ。輪積み痕より下部、強いヘラナデ。 内：やや強いヘラナデ。	
72	002	37	47	一括	弥生土器	甕	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.5～1.0㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR3/3暗褐 内：10YR5/4にぶい黄褐	外：胴部、一段の輪積み痕残し、縄文原体による刻み目施す。ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
72	002	38	48	一括	弥生土器	甕	胴部	—	—	—	胴部片	密・赤色粒(0.5㎜)微量	良	外：10YR3/1黒褐 内：2.5YR4/2暗灰黄	外：胴部、輪積み痕残し、ヘラ状工具による刻み目施す。 内：ヘラナデ。	
72	002	39	76	一括	縄文土器	深鉢	底部	(15.0)	(8.4)	(2.6)	底部1/3残	粗・黒色粒(0.3㎜)、小石粒(1.0～2.0㎜)少量だが均等	良	外：5YR4/8赤褐 内：5YR4/8赤褐	外：ナデ。 内：ナデ。	
72	002	40	77	一括	縄文土器	深鉢	底部	(11.3)	(8.0)	(1.8)	底部1/6残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR4/6褐 内：10YR4/6褐	外：ナデ。 内：ナデ。	
72	002	41	58	一括	土師器	甕	底部	(10.0)	6.0	(2.1)	底部4/5残	やや粗・小石粒(0.5～1.5㎜)少量だが均等	良	外：10YR5/6黄褐 内：5YR4/6赤褐	外：ナデ、ヘラナデ。 内：ナデ、やや強いヘラナデ。	
72	003	1	1	一括	弥生土器	鉢	口縁～底部	(13.0)	6.0	(5.9)	3/7残	やや粗・白色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：7.5YR4/4褐 内：5YR4/6赤褐	外：ヘラナデ、ヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラミガキ。赤彩か。	
72	003	2	4	点	弥生土器	高杯	杯部～脚部上半	(14.4)	—	—	2/5残	密・小礫(0.2～1.0㎜)微量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：杯部、ヘラナデ、ヘラミガキ。脚部、ヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラナデ、ヘラミガキ。赤彩。	
72	003	3	2	点	弥生土器	高杯	杯部	12.7	—	—	4/5残	やや粗・小礫(0.3～0.8㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：10R4/6赤	外：ヘラナデ、ヘラミガキ。一部、赤色化しており、赤彩。 内：ヘラナデののち、ヘラミガキ。赤彩。	
73	003	4	5	一括	弥生土器	高杯	脚部	—	(13.4)	—	3/7残	密・灰色粒(0.3～0.7㎜)少量	良	外：5YR6/8橙 内：5YR6/6橙	外：ヘラナデののち、ヘラミガキ。ヘラミガキ部分、一部赤色化。 内：ナデ、ヘラナデ。	
73	003	5	8	点	弥生土器	壺	口縁～頸部	(16.8)	—	—	1/4残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：10R4/6赤	外：折り返し口縁部に、羽状縄文帯巡る。頸部、ヘラナデ。 内：ヘラナデ、ヘラミガキ。赤彩。	
73	003	6	7	一括	弥生土器	壺	口縁～頸部	(16.6)	—	—	1/3残	密・赤褐色粒(0.3～0.7㎜)微量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：折り返し口縁部に、RLの斜縄文帯巡る。口縁下端部に縄文原体押捺による刻み目施す。頸部、ヘラナデ、ヘラミガキ。結節文が巡る。 内：ヘラナデ、ヘラミガキ。	
73	003	7	6	点	弥生土器	壺	口縁～頸部	(19.8)	—	—	1/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/6赤	外：折り返し口縁、LRの斜縄文施す。口縁下端部ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、ヘラミガキ、赤彩。 内：強いヘラナデ。上半部、赤彩。	
73	003	8	3	点	弥生土器	台付甕	ほぼ完形	13.4	10.6	16.7	ほぼ完形	やや粗・赤色粒(3.0～7.0㎜)少量だが均等	やや不良	外：7.5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、輪積み痕残し、ヘラナデ。台部、タテ方向のヘラミガキ。 内：ヘラナデののち、ヘラミガキ。台部内面、ヘラナデ。	
73	003	9	10	点	弥生土器	甕	口縁～頸部	(17.8)	—	—	2/5残	密・小礫(0.4～0.7㎜)微量	良	外：5YR6/8橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヘラ状工具による刻み目施す。4段の輪積み痕残す。ユビオサエ痕あり。ヘラナデ、ヘラミガキ。 内：口縁～頸部、ヘラナデ。胴部、ヘラミガキ。	
73	003	10	9	点	弥生土器	甕	口縁～頸部	(17.2)	—	—	2/3残	やや粗・小礫(0.8～1.2㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/6橙 内：5YR4/2灰褐	外：口縁部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部にヘラ状工具による連続刺突巡る。ナデ、ヘラナデ。 内：口縁部、ヘラミガキ。頸部、ヘラナデ。口唇部にハケメ痕が残る。	
73	003	11	11	点	土師器	小型甕	口縁～胴部上半	(11.6)	—	—	2/5残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量、白色針状物(0.3㎜)微量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR5/4にぶい褐	外：口縁部、ハケメ。一部、輪積み痕残る。 内：ヘラナデ。	
73	003	12	13	点	土師器	甕	底部	—	8.2	—	ほぼ完形	やや粗・小礫(0.5～1.2㎜)少量	やや不良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR4/1褐灰	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。やや強いヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
73	003	13	15	一括	土師器	甕	底部	—	7.6	—	ほぼ完形	密・白色粒(0.4～0.6㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR4/1褐灰	外：ナデ、ヘラナデ。 内：ナデ、ヘラナデ。	
73	003	14	14	一括	土師器	甕	底部	—	8.5	—	ほぼ完形	やや粗・白色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
73	003	15	12	一括	土師器	甕	底部	—	8.0	—	ほぼ完形	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ヘラナデ、強いヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
73	003	16	16	点	土師器	甕(ミニチュア土器)	胴部中位～底部	—	2.3	—	3/4残	密・赤色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：7.5YR7/3にぶい橙	外：ナデ、ヘラナデ。胴部下端、ハケメの痕跡残る。 内：ナデ、ヘラナデ。胴部下端～底部、ヘラミガキ。	
73	003	17	17	一括	土師器	甕(ミニチュア土器)	胴部下半～底部	—	3.7	—	2/3残	密・白色粒(0.3～0.6㎜)均等	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：7.5YR4/1褐灰	外：ユビナデ、ヘラナデ。 内：ユビナデ、ヘラナデ。	
73	003	18	18	一括	土師器	甕(ミニチュア土器)	胴部上半～底部	—	1.5	—	3/4残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR5/8明赤褐 内：5YR5/6明赤褐	外：ユビナデ、ユビオサエ。 内：ユビナデ。	
73	004	1	1	一括	土師器	高杯	脚部	—	10.8	—	ほぼ完形	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：脚部中位に焼成前穿孔､3ヵ所施す。縦位のヘラミガキ。 内：ヨコ方向のハケののち、ナデ、ヘラナデ。一部、ハケメ痕残る。	
73	004	2	2	一括	土師器	高杯	脚部	—	8.7	—	9/10残	密・白色粒(0.1～0.4㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/6赤	外：縦位のヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラナデ、ハケメ。赤彩。	
73	004	3	3	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：10R4/6赤	外：折り返し口縁下端部に、ヘラ状工具による刻み目施す。口縁部、羽状縄文巡る。頸部、赤彩施す。 内：ヘラミガキ、赤彩。	
73	004	4	4	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・褐色粒(0.3～0.7㎜)均等	良	外：7.5R4/8赤 内：5YR4/2灰褐	外：結節文によって区画された羽状縄文巡る。無文部、ヘラミガキ。赤彩。 内：ナデ、ヘラナデ。	
74	005	1	1	一括	土師器	器台	器受部下半～脚部上半	—	—	—	ほぼ完形	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR7/6橙	外：脚部、縦位のヘラミガキ。 内：器受部内面中央、径1.0cm程度の焼成前穿孔施す。ナデ、ヘラナデ。脚部、ヘラナデ。	
74	005	2	3	一括	土師器	壺か	底部	—	8.0	—	1/2残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：10R5/6赤 内：10R4/1暗赤灰	外：ナデ、ヘラナデ。 内：ナデ、強いヘラナデ。	
74	005	3	4	一括	土師器	小型甕か	底部	—	3.3	—	4/5残	やや粗・赤色粒(0.3～1.0㎜)微量	良	外：10YR4/1褐灰 内：7.5YR6/6橙	外：ナデ、ヘラナデ。 内：ナデ、ヘラナデ。	
74	005	4	2	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	8.4	—	4/5残	粗・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：2.5YR4/8赤褐 内：2.5YR3/1暗赤灰	外：ナデ、ヘラナデ。胴部下位に、タタキ目痕残るか。 内：ヘラナデ、やや強いヘラナデ。	
74	006	1	12	点	土師器	高杯	口縁～杯部下端	(21.4)	—	—	3/7残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：2.5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。体部、縦位のヘラミガキ。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、縦位のヘラミガキ。赤彩か。	
74	006	2	10	点	土師器	高杯	杯部	(13.6)	—	—	2/5残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：杯部、縦位のヘラミガキ。脚部、ヘラナデ。赤彩。 内：杯部、縦～斜位のヘラミガキ。脚部、ヘラナデ。赤彩。	
74	006	3	1	点	土師器	高杯	杯部	(16.7)	—	—	1/4残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：10R4/6赤 内：10R5/8赤	外：杯部口縁付近、ヨコナデ。杯部上半、ヘラナデ、強いヘラナデ。杯部下半、ヘラナデ、ヘラミガキ。赤彩。 内：口縁付近、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ、ヘラミガキ。赤彩。	
74	006	4	11	点	土師器	小型器台	器受部～脚部	9.2	10.4	7.8	ほぼ完形	密・褐色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：縦位のヘラミガキ。赤彩。脚部に4ヵ所、焼成前穿孔施す。 内：杯部、縦位のヘラミガキ。赤彩。底部中央に、焼成前穿孔施す。 脚部、ナデ、ヘラナデ。	
74	006	5	4	点	土師器	甕	胴部下端～底部	—	8.0	—	ほぼ完形	やや粗・白色粒(0.3～0.7㎜)少量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：5YR2/1黒褐	外：ナデ、ヘラナデ、やや強いヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
74	006	6	3	点	土師器	甕	胴部下半～底部	—	7.0	—	ほぼ完形	粗・小礫(1.0～1.2㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR4/2灰褐	外：ヘラナデ。 内：ナデ、ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
74	006	7	2	点	土師器	甑	口縁～底部	14.6	6.6	16.6	2/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR4/2灰褐 内：7.5YR5/4にぶい褐	外：口縁部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、強いヘラナデ、ヘラミガキ。胴部、ヘラナデ。底部、中央からやや右に径6.0㎜程度の焼成後穿孔施す。 内：ヘラナデ。	
74	006	8	6	点	土師器	小型鉢(椀)	口縁～底部	(8.3)	3.0	4.7	3/7残	密・褐色粒(0.4～0.7㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：ナデ、ヘラナデ、やや強いヘラナデ。 内：ヘラナデ、ヘラミガキ。	
74	006	9	5	一括	土師器	小型甕	胴部下半～底部	—	4.6	—	ほぼ完形	密・石英粒(0.3～0.4㎜)微量	良	外：7.5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：ハケメ、ヘラナデ。 内：ヘラナデ、ナデ。	
75	007	1	2	点	弥生土器	高杯	杯部	(15.0)	—	—	3/7残	密・白色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：10R4/6赤	外：ヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラミガキ。赤彩。	
75	007	2	8	一括	土師器	小型甕	胴部下半～底部	—	(5.2)	—	1/4残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：5YR6/6橙	外：先端が鋭利なヘラ状工具による、ケズリ痕あり。 内：ナデ、ヘラナデ。	
75	007	3	1	点	弥生土器	高杯	杯部～脚部上端	16.6	—	—	3/4残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量だが均等	良	外：10R4/6赤 内：10R4/8赤	外：折り返し口縁下端部に、縄文原体押捺による刻み目施す。体部、ヘラミガキ。赤彩。 内：杯部、ヘラミガキ。赤彩。脚部、ヘラナデ。	
75	007	4	7	一括	土師器	壺	胴部上半～底部	—	8.2	—	3/7残	粗・長石小粒、石英微粒含む	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ヘラナデ後、横方向ヘラミガキ。ヘラミガキ部を赤彩。 内：ヘラ状工具で横方向ナデ。	
75	007	5	9	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.3～0.7㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：10R4/6赤	外：折り返し口縁部の口唇～口縁にかけて、斜格子文巡り、刻み目を有する棒状浮文を貼り付ける。 内：ヘラミガキ。赤彩。	
75	007	6	6	点	土師器	壺	胴部上位～底部	—	8.2	—	1/2残	やや粗・長石粒含む	良	外：5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：底部境から斜方向にヘラナデ後、体部中位をヘラミガキ。ヘラミガキ部を赤彩。 内：斜方向にナデ。	
75	007	7	4	点	弥生土器	甕	口縁～胴部下半	18.2	—	—	4/7残	密・白色粒(0.5～1.5㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヘラ状工具による刻み目施す。胴部上位、輪積み痕残し、縄文原体押捺による刻み目施す。胴部、ヘラナデ。 内：頸部、ヘラナデ。一部、ヘラミガキ。脚部、ヘラナデ。	
75	007	8	5	点	弥生土器	甕	胴部上半～胴部下半	—	—	—	4/5残	やや粗・赤褐色粒(5.0～8.0㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：5YR6/6橙	外：胴部上半、輪積み痕残る。一部、ユビオサエ痕あり。胴部下半、ヘラナデ、ナデ。 内：ナデ、ヘラナデ。一部、やや強いヘラナデ。	
75	007	9	3	点	弥生土器	甕	口縁～胴部下半	18.9	—	—	2/3残	密・黒色粒(0.2～0.5㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/8橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部下端に一段の輪積み痕残す。頸部、ヘラナデ。一部やや強いヘラナデ。胴部、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
76	007	10	10	点	弥生土器	甑	口縁～底部	19.6	8.0	14.3	2/3残	やや粗・白色粒(0.5～1.0㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR6/6橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。一段の輪積み痕残す。ヘラナデ、一部ヘラミガキ。底部、中央やや右寄りに、焼成後、径7㎜程度の穿孔施す。 内：ヘラナデ。	
76	008	1	1	一括	土師器	高杯	脚部	—	—	—	ほぼ完形	密・白色粒(0.2～0.4㎜)微量	良	外：10R5/8赤 内：2.5YR6/8橙	外：ヘラミガキ、赤彩。 内：ヘラナデ、ヘラミガキ。	
76	010	1	2	点	土師器	高杯	杯部	11.0	—	—	4/5残	やや粗・褐色粒(1.0～4.0㎜)少量だが均等	やや不良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/8橙	外：ヘラナデ、ヘラミガキ。 内：ヘラナデ、ヘラミガキ。	器面状態不良
76	010	2	1	点	土師器	器台	器受部下端～脚部	—	12.1	—	9/10残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR5/6明赤褐	外：ヘラナデ、ヘラミガキ。脚部中央付近に、5ヵ所の焼成前穿孔施す。 内：ナデ、ヘラナデ。	
76	010	3	5	点	土師器	小型甕(椀)か	胴部中位～底部	—	4.6	—	3/5残	やや粗・小礫(2.0～3.0㎜)微量、赤褐粒(0.6～1.0㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：ナデ、ヘラミガキ。 内：ナデ、ヘラミガキ。	
76	010	4	4	点	土師器	小型甕か	底部	—	5.4	—	ほぼ完形	密・白色粒(0.2～0.6㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR3/1黒褐	外：ヘラナデ。底部、ヘラナデ。 内：ナデ、ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
76	010	5	3	点	土師器	甕	底部	—	6.3	—	ほぼ完形	密・白色粒(0.2～0.5㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR4/1褐灰	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
76	011	1	1	点	土師器	杯	体部上半～底部	—	—	—	1/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：10R4/6赤 内：7.5YR6/6橙	外：ヘラケズリ。赤彩。 内：ヘラナデ。やや強いヘラナデ。	
76	011	2	2	点	土師器	杯	体部上半～底部	—	—	—	9/10残	やや粗・白色粒(0.2～1.0㎜)少量だが均等	良	外：10R5/8赤 内：2.5YR3/1暗赤灰	外：ヘラケズリ。一部、ヘラミガキ。一部、赤色顔料の痕跡あり。 内：ヘラナデ。	
76	011	3	3	一括	土師器	坩	口縁～体部上半	(13.6)	—	—	1/6残	密・黒色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ハケメののち、ヨコナデ、ナデ。体部、ハケメ。赤彩。 内：口縁部、ハケメののち、ヨコナデ、ナデ、赤彩。胴部、ヘラナデ。	
76	011	4	4	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	(5.8)	—	1/3残	密・白色粒(0.3～0.5㎜)微量	良	外：7.5YR4/1褐灰 内：5YR7/8橙	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
76	011	5	5	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	5.2	—	ほぼ完形	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量、白色針状物(0.2～0.4㎜)微量	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：7.5YR5/3にぶい褐	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
76	011	6	6	一括	土師器	坩か(ミニチュア土器)	体部中位～底部	—	(3.0)	—	1/4残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：体部、ナデ、ユビナデ、ユビオサエ。底部、ヘラケズリ、ナデ。 内：ナデ、ユビナデ。一部、ヘラナデ。	
76	011	7	7	点	土師器	鉢か(ミニチュア土器)	口縁～底部	3.8	3.0	2.9	ほぼ完形	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量、白色針状物(0.2～0.3㎜)微量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/8橙	外：ナデ、ヘラナデ。一部、ユビオサエ。 内：ナデ、ユビナデ。	
77	012	1	3	点	弥生土器	直口壺か	口縁～胴部上半	8.4	—	—	2/3残	やや粗・小礫(1.0～4.0㎜)少量	良	外：2.5YR4/6赤褐 内：2.5YR4/8赤褐	外：頸部、ヘラミガキ。胴部、ヘラナデ。赤彩。 内：頸部、ヘラナデののち、ヘラミガキ。胴部、ナデ、ヘラナデ。一部、ユビオサエ。口縁～頸部、赤彩。	
77	012	2	2	一括	土師器	高杯	杯部下端～脚部下半	—	—	—	1/2残	密・黒色粒(0.2～0.5㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/8橙 内：5YR6/6橙	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
77	012	3	4	一括	弥生土器	甕	口縁～胴部上半	(14.0)	—	—	1/8残	密・白色粒(0.3～1.0㎜)均等	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。頸部～胴部、タテ方向のハケメ。 内：口縁部、ヨコ方向のハケメ。胴部、ヘラナデ。	
77	013	1	8	一括	土師器	小型鉢(椀)	口縁～底部	10.2	4.0	5.4	口縁部一部欠他はほぼ完形	密・白色粒(0.3～0.4㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR4/6赤褐 内：10R4/8赤	外：ナデ、ヘラナデののち、ヘラミガキ。 内：ヘラミガキ。底部、ヘラナデ。赤彩。	
77	013	2	2	一括	土師器	高杯	杯部	18.0	—	—	3/4残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：5YR6/6橙	外：ヘラナデののち、やや強いヘラナデ、ヘラミガキ。 内：ヘラナデののち、強いヘラナデ、ヘラミガキ。	
77	013	3	3	一括	土師器	台付甕	台部	—	9.4	—	7/10残	密・褐色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：7.5YR4/1褐灰 内：7.5YR4/2灰褐	外：ナデ、ヘラナデ。 内：ナデ、ヘラナデ。	
77	013	4	1	一括	弥生土器	小口甕	口縁～底部	14.7	6.3	13.4	ほぼ完形	密・褐色粒(0.7～1.2㎜)均等	良	外：7.5YR5/3にぶい褐 内：7.5YR6/6橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。胴部、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
77	013	5	4	一括	土師器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：7.5YR5/3にぶい褐	外：ヨコナデ。 内：ヨコナデ。	
77	013	6	5	一括	土師器	甕	底部	—	(6.0)	—	1/3残	粗・白色粒(0.3～1.0㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR3/1黒褐	外：ナデ、ヘラナデ。 内：ナデ、ヘラナデ。	
77	013	7	6	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR6/6橙 内：10R4/6赤	外：口唇部、斜縄文巡る。口縁部、羽状縄文巡る。折り返し口縁下端部、縄文原体押捺による刻み目施す。 内：ヘラミガキ。赤彩。	
77	013	8	7	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：2.5YR6/8橙 内：5YR6/8橙	外：結節文で区画された斜縄文巡る。無文部、赤彩か。 内：ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
77	014	1	1	一括	弥生土器	壺	口縁～肩部	19.0	—	—	ほぼ完形	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/6赤	外：折り返し口縁下端部、縄文原体押捺による刻み目施す。頸部、ヘラミガキ。頸部下端､3条1単位の結節文巡る。肩部、沈線によって鋸歯状に区画された、RLの斜縄文巡る。無文部、赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。口縁部下に、棒状工具による連続刺突文巡る。頸部、ヘラミガキ。赤彩。	
77	014	2	5	一括	弥生土器	壺	肩部	—	—	—	肩部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR6/8橙 内：7.5YR6/6橙	外：結節文巡る。無文部、赤彩か。 内：ナデ。	
77	014	3	6	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・赤褐色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：結節文で区画された羽状縄文巡る。無文部、赤彩。 内：ナデ。	
77	014	4	7	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.3～0.4㎜)微量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：結節文で区画された羽状縄文巡る。 内：ヘラナデ。	
77	014	5	4	一括	弥生土器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR6/8橙 内：2.5YR6/8橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。口縁部､3段の輪積み痕残す。 内：ヘラナデ。	
77	014	6	3	一括	土師器	甕	底部	—	(10.0)	—	1/10残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	やや不良	外：10YR7/6明黄褐 内：10YR7/6明黄褐	外：ナデ、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
77	015	1	1	一括	土師器	甕	口縁～胴部中位	(20.2)	—	—	1/3残	密・赤褐色粒(0.4～1.0㎜)少量	良	外：2.5YR4/8赤褐 内：5YR5/6明赤褐	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。頸～胴部、ヘラナデ。	外面、被熱よく受け、赤色化する。
77	015	2	3	一括	弥生土器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR6/8橙 内：5YR6/8橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
77	015	3	4	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	7.0	—	4/5残	やや粗・小礫(1.0～2.0㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：10R3/1暗赤灰	外：ハケメ痕、一部残る。ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
77	015	4	5	一括	弥生土器	甕	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色針状粒(0.5㎜)微量	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：輪積み痕、残す。ナデ、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
78	016	1	1	一括	弥生土器	壺	頸部～胴部上端	—	—	—	ほぼ完形	密・白色粒(0.3～0.5㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：10R4/6赤	外：沈線で区画された中に、羽状縄文帯巡る。無文部、ヘラミガキ、赤彩。 内：頸部、ヘラミガキ、赤彩。胴部、ナデ、ヘラナデ。	
78	016	2	2	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：10R5/6赤 内：5YR6/6橙	外：沈線で鋸歯状に区画された中に、RLの斜縄文施す。無文部、赤彩。 内：ナデ。	
78	016	3	3	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：2.5YR6/8橙	外：結節文で区画された羽状縄文巡る。無文部、赤彩。 内：ナデ。	
78	016	4	5	一括	弥生土器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.2～0.4㎜)微量	良	外：2.5YR6/8橙 内：5YR6/6橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
78	016	5	4	一括	弥生土器	甕	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：輪積み痕残し、縄文原体押捺による刻み目施す。 内：ヘラナデ。	
78	017	1	1	一括	弥生土器	甕	胴部	—	—	—	1/6残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR6/6橙	外：ヘラナデ、ナデ。 内：ナデ、ヘラナデ。胴部下半部分、強いヘラナデ。	
78	018	1	5	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：10R4/8赤	外：折り返し口縁。口唇部に斜縄文巡る。口縁部、羽状縄文巡り､3本の棒状浮文を貼り付け、ヘラ状工具による刻み目施す。 内：ヘラミガキ、赤彩。	
78	018	2	6	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.2～0.5㎜)微量	良	外：10R5/8赤 内：10R4/8赤	外：折り返し口縁。口唇部に斜縄文巡る。口縁部、羽状縄文巡り、円形浮文を貼り付ける。口縁下端部、縄文原体押捺による刻み目施す。 内：ヘラミガキ、赤彩。	
78	018	3	4	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：7.5YR4/2灰褐	外：沈線によって区画された斜縄文巡る。無文部、赤彩。 内：ナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
78	018	4	3	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：2.5YR4/8赤褐 内：5YR6/6橙	外：3条1単位の結節文帯巡る。 内：ナデ。	
78	018	5	1	一括	弥生土器	甕	口縁～胴部中位	18.6	—	—	2/3残	密・灰色粒(0.5～2.0㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部､5段の輪積み痕残す。 胴部、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
78	018	6	2	一括	弥生土器	甕	底部	—	(9.7)	—	1/3残	やや粗・黒色粒(0.2～0.3㎜)微量	やや不良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/8橙	外：ナデ、ヘラナデ。 内：ナデ。	
78	019	1	4	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色針状物(0.3㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：10R4/8赤	外：口縁部、斜縄文巡る。口縁端部、縄文原体押捺による刻み目施す。 胴部、ヘラミガキ、赤彩。 内：ヘラミガキ、赤彩。	
78	019	2	5	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.3～0.4㎜)微量	良	外：10R5/8赤 内：5YR5/6明赤褐	外：結節文で区画された斜縄文帯巡る。無文部、ヘラミガキ、赤彩。 内：ヘラナデ。	
78	019	3	8	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：結節文で区画された羽状縄文帯巡る。 内：ナデ、ヘラナデ。	
78	019	4	7	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：5YR6/8橙 内：2.5YR6/8橙	外：結節文で区画された斜縄文帯巡る。 内：ヘラナデ。	
78	019	5	6	一括	弥生土器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：5YR2/1黒褐 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。ナデ。 内：ナデ、ヘラナデ。	
78	019	6	3	一括	弥生土器	甕	胴部	—	—	—	胴部片	密・小礫(1.0～2.0㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR7/6橙	外：胴部上半、数段の輪積み痕残す。ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
78	019	7	2	一括	弥生土器	小型鉢(椀)	体部中位～底部	—	(3.6)	—	2/3残	密・白色粒(0.3～0.7㎜)少量	良	外：2.5YR4/6赤褐 内：2.5YR4/8赤褐	外：ヘラミガキ、赤彩。 内：ヘラミガキ、赤彩。	
78	019	8	1	一括	土師器	高杯	杯部下半～脚部上端	—	—	—	3/4残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/6赤	外：ヘラミガキ、赤彩。 内：ヘラミガキ、赤彩。	
78	020	1	2	一括	弥生土器	壺	体部	—	—	—	体部片	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：10R4/8赤	外：羽状縄文巡る。 内：ヘラミガキ、赤彩。	
78	020	2	3	一括	土師器	甕	底部	—	(9.0)	—	1/8残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：5YR6/8橙 内：2.5YR5/8明赤褐	外：ナデ、ヘラナデ。 内：ナデ、ヘラナデ。一部、ハケメか。	
78	021	1	12	一括	土師器	杯	口縁～体部下半	14.0	—	—	ほぼ完形	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ、体部、ヘラケズリ、赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ、体部、ヘラナデ、赤彩。	
78	021	2	11	点	土師器	高杯	杯部	14.8	—	—	2/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：2.5YR5/8明赤褐	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	
78	021	3	8	一括	土師器	高杯か	脚部	—	—	—	ほぼ完形	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ヘラナデ。 内：杯部、ナデ、ヘラナデ。脚部、ヘラナデ。一部、ハケメ痕か。	
78	021	4	6	一括	土師器	高杯	脚部	—	—	—	下端部欠	密・白色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：ヘラミガキ、赤彩。 内：ヘラミガキ。脚上部、赤彩。	
78	021	5	9	一括	土師器	器台	結合部～器受部下端	—	—	—	1/10残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：10R4/6赤 内：10R4/6赤	外：体部、ヘラミガキ。結合部、ヨコナデ、一部、ハケメ痕残る。赤彩。 内：ヘラミガキ、赤彩。	北陸系
79	021	6	4	一括	土師器	小型甕	口縁部	(12.0)	—	—	1/4残	密・白色粒(0.2～0.5㎜)微量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：口縁部、ヨコナデ、ハケメ。口縁下端～脚部上端、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ、ハケメ。	
79	021	7	5	一括	土師器	小型甕(椀)か	胴部下半～底部	—	4.6	—	4/5残	密・白色針状粒(0.2㎜)微量	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：7.5YR5/3にぶい褐	外：ナデ、ヘラナデ、ハケメ。 内：ヘラナデ、ナデ。	底部、輪台技法

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
79	021	8	10	一括	土師器	S字甕	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：平行及び縦・斜方向のハケメ入る。 内：ナデ、ヘラナデ。一部、ハケメ状のヘラナデ。	胎土、白く、器壁が薄い。
79	021	9	1	点	土師器	甕	口縁～底部	17.4	6.2	29.8	4/5残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
79	021	10	3	一括	弥生土器	甕	頸部～胴部上半	—	—	—	1/4残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR4/1褐灰	外：ヘラナデ、ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
79	021	11	2	点	土師器	甑	口縁～底部	25.7	7.7	24.2	2/3残	密・白色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
79	021	12	7	一括	土師器	鉢(ミニチュア土器)	口縁～底部	3.2	2.9	1.8	ほぼ完形	密・赤褐色粒(0.4～0.6㎜)微量	良	外：7.5YR5/3にぶい褐 内：7.5YR6/3にぶい褐	外：ユビナデ、ユビオサエ、ヘラナデ。 内：ユビナデ、ユビオサエ、ヘラナデ。	
79	022	1	1	一括	土師器	小型鉢(椀)	口縁～底部	(15.0)	(4.5)	(7.3)	3/7残	密・白色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：5YR7/8橙	外：体部上半、ハケメ。体部下半、ヘラミガキ。 内：ヘラミガキ。	
79	022	2	2	一括	土師器	大型鉢	口縁～体部下半	(23.0)	—	—	1/3残	密・白色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：体部上半、横位のヘラミガキ。体部下半、斜位のヘラミガキ。赤彩。 内：体部上半、横位のヘラミガキ。体部下半、一部ハケメののち、縦位のヘラミガキ。赤彩。	
79	023	1	1	一括	土師器	杯	口縁～底部	14.3	—	4.0	4/5残	密・白色粒(0.2～0.6㎜)少量	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ、体部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ、体部、ヘラナデ。	
79	023	2	21	一括	土師器	鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色針状粒(0.4㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ、体部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ、体部、ヘラナデ。	
79	023	3	16	一括	土師器	高杯	杯部	(14.4)	—	—	1/4残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデののち、ヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラミガキ。赤彩。	
80	023	4	2	点	土師器	高杯	脚部	—	(12.4)	—	1/3残	密・赤色粒(0.5～3.0㎜)均等	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：5YR5/6明赤褐	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
80	023	5	3	一括	土師器	高杯	脚部	—	(11.8)	—	4/5残	密・黒色粒(0.2～0.8㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：ヘラミガキ、赤彩。 内：ヘラナデ、ナデ。	外面上半部、火熱激しく受け黒色化。羽口として再利用か。
80	023	6	4	点	土師器	高杯	脚部	—	—	—	1/2残	密・白色粒(0.2～0.25㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：5YR5/8明赤褐	外：ヘラケズリ、一部ナデ。赤彩。 内：ヘラナデ。	外面上端部、火熱激しく受け黒色化。羽口として再利用か。
80	023	7	18	一括	土師器	高杯	脚部	—	—	—	4/5残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：5YR6/6橙	外：縦位のヘラミガキ、赤彩。 内：やや強いヘラナデか。	
80	023	8	17	一括	土師器	高杯	杯部下端～脚部下半	—	—	—	3/4残	密・小礫(1.0～2.0㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/6橙	外：ヘラミガキ。脚部中位に3ヵ所の焼成前穿孔施す。 内：杯部、ヘラミガキ。脚部、ナデ、ヘラナデ。	
80	023	9	5	点	土師器	小型器台	器受部～脚部中位	(6.8)	—	—	3/7残	密・黒色粒(0.3～0.4㎜)微量	良	外：10R4/6赤 内：7.5YR6/6橙	外：丁寧なヘラミガキ、赤彩。器受部底面中央に1ヵ所、脚部裾中央3ヵ所に焼成前穿孔施す。 内：ハケ状工具によるヘラナデ。	
80	023	10	10	点	土師器	甕	口縁～胴部中位	(18.4)	—	—	1/3残	やや粗・小礫(1.0～2.0㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR4/8赤褐 内：5YR4/2灰褐	外:口縁部、ヨコナデ、胴部、ヘラケズリ。胴部中位、ヘラミガキ状のヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ、胴部、ヘラナデ。	
80	023	11	6	点	土師器	甕	口縁～底部	15.8	6.0	22.4	ほぼ完形	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ、胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ、胴部、ヘラナデ。	
80	023	12	9	点	土師器	甕	口縁～胴部上位	18.0	—	—	4/5残	密・白色粒(0.5～1.0㎜)少量	良	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ、胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ、胴部、ヘラナデ。	
80	023	13	7	点	土師器	甕	口縁～胴部上半	16.8	—	—	4/5残	密・白色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：10R5/6赤 内：2.5YR3/1暗赤灰	外：口縁部、ヨコナデ、胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ、胴部、ヘラナデ。	外面、被熱よく受け、赤色化する。
80	023	14	12	一括	土師器	甕	口縁～胴部中位	(22.2)	—	—	1/6残	密・赤色粒(1.0～2.5㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：2.5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ、胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ、胴部、ヘラナデ。	甑の可能性あり。

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量（復元値）（cm）			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
80	023	15	11	点	土師器	甕	口縁～胴部上位	(17.2)	—	—	1/4残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：2.5YR4/8赤褐	外：口縁部、ヨコナデ、胴部、ヘラナデ、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ、胴部、ヘラナデ。	
80	023	16	8	点	土師器	甕	口縁～胴部中位	(24.0)	—	—	1/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ、胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ、胴部、ヘラナデ。	
80	023	17	15	点	土師器	甕	胴部上端～底部	—	(6.5)	—	3/7残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)均等	良	外：2.5YR4/6赤褐 内：2.5YR3/1暗赤灰	外：ヘラナデ。 内：ナデ、ヘラナデ。	
81	023	18	13	一括	土師器	甕	口縁～胴部上位	(14.8)	—	—	1/10残	密・赤褐色粒(1.0～2.0㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ、胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ、胴部、ヘラナデ。	
81	023	19	14	点	土師器	甑	口縁～胴部上半	(29.6)	—	—	1/8残	密・白色粒(0.4～0.8㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/8橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ、胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ、胴部、ヘラナデ。	
81	023	20	22	一括	土師器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR6/8橙 内：5YR6/8橙	外：ヨコナデ。 内：ヨコナデ。	
81	023	21	23	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	(6.2)	—	1/8残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：ナデ、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
81	025	1	10	一括	土師器	甕	口縁～底部	(14.4)	5.0	19.0	口縁部1/4残、頸部～底部2/3残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：7.5YR4/1褐灰 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。頸部～胴部上位、ハケメ。胴部中位～底部、ヘラナデ、一部、ハケメ。 内：口縁部、ハケメ。胴部、ヘラナデ。	
81	025	2	1	点	土師器	甕	口縁～底部	(17.4)	(6.0)	(23.4)	3/7残	やや粗・小礫(1.0～2.5㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ハケメ、ヘラナデ。 内：ハケメ、ヘラナデ。	
81	025	3	2	一括	土師器	小型甕	口縁～胴部下半	(15.5)	—	—	1/4残	密・白色粒(0.3～0.7㎜)少量	良	外：10R5/6赤 内：10R5/6赤	外：口縁部、ヨコナデ、頸部～胴部、ハケメ。一部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ、胴部、ヘラナデ。	
81	025	4	4	点	土師器	甕	口縁～胴部中位	(16.0)	—	—	1/6残	密・白色針状粒(0.5㎜)微量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR3/1黒褐	外：口縁部、ヨコナデ、ハケメののち、ヘラナデ。一部、ハケメ痕残る。 内：口縁部、ヨコナデ、ハケメののち、ヘラナデ。一部、ハケメ痕残る。	
81	025	5	3.5	点	土師器	甕	口縁～胴部下半	(17.8)	—	—	1/4残	密・白色粒(0.5～1.0㎜)少量	良	外：7.5YR5/6明褐 内：7.5YR2/1黒	外：口縁部、ヨコナデ、胴部、ヘラナデ。一部、ハケメ痕残る。 内：口縁部、ヨコナデ、胴部、ヘラナデ。一部、ハケメ痕残る。	
81	025	6	6	一括	土師器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・褐色粒(0.5～1.5㎜)微量	良	外：10YR3/1黒褐 内：10YR3/1黒褐	外：口縁部、ヨコナデ、胴部、ハケメ。 内：口縁部、ヨコナデ、胴部、ヘラナデ。	
81	025	7	7	点	土師器	甕	胴部下端～底部	—	(7.0)	—	2/5残	やや粗・白色粒(0.5～1.0㎜)少量	良	外：7.5YR5/6明赤褐 内：5YR3/1黒褐	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	底部、木葉痕あり。
81	025	8	8	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	(8.0)	—	1/3残	密・白色粒(0.5～1.0㎜)少量	良	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：7.5YR3/1黒褐	外：ヘラナデ、ナデ。 内：ヘラナデ、やや強いヘラナデ。	
81	025	9	9	一括	土師器	小型甕か	胴部下端～底部	—	(5.0)	—	1/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR5/3にぶい褐 内：5YR4/4にぶい赤褐	外：ナデ、ヘラナデ。 内：ナデ、ヘラナデ。一部に、ハケメ痕残る。	
82	026	1	1	一括	土師器	鉢	口縁～体部下半	(18.0)	—	—	2/5残	密・白色針状粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：10R4/6赤 内：10R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。頸部、ハケメ。体部、ヘラミガキ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、ハケメ。体部、ヘラミガキ。赤彩。	
82	026	2	4	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	6.0	—	2/3残	密・白色粒(0.3～1.0㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：5YR6/8橙	外：胴部、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	底部、凹み底を呈す。 外面、被熱よく受け、赤色化する。
82	026	3	5	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	(6.0)	—	1/6残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)微量	良	外：5YR3/1黒褐 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
82	027	1	1	一括	土師器	高杯	脚部	—	—	—	2/3残	やや粗・赤色粒(0.2～1.0㎜)均等	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ヘラケズリ。器面状態、不良。 内：ヘラナデ。器面剥落、著しい。	
82	027	2	2	一括	土師器	甕	口縁～胴部中位	(16.0)	—	—	1/8残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：10YR3/2黒褐 内：10YR3/2黒褐	外：口縁部、ヨコナデ、胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ、胴部、ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
82	027	3	10	一括	弥生土器	椀	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.2～0.4㎜)微量	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：折り返し口縁部、斜縄文巡る。口縁下端部縄文原体押捺による刻み目施す。 内：ヘラナデ。	
82	027	4	7	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	やや粗・白色粒(1.0～1.5㎜)少量だが均等	やや不良	外：5YR6/6橙 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：折り返し口縁部、羽状縄文巡る。口縁下端部、ヘラ状工具による刻み目施す。無文部、赤彩。 内：ヘラナデ。赤彩か。器面剥落著しい。	
82	027	5	8	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：10R4/8赤	外：折り返し口縁部、羽状縄文巡る。口縁下端部、縄文原体押捺による刻み目施す。無文部、赤彩。 内：ヘラミガキ。赤彩。	
82	027	6	9	一括	弥生土器	広口壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：10R4/6赤	外：折り返し口縁下端部、ヘラ状工具による刻み目施す。 内：ヘラミガキ。赤彩。	
82	027	7	4	一括	弥生土器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR6/8橙 内：5YR6/6橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、輪積み痕残す。 内：ヘラナデ。	
82	027	8	5	一括	弥生土器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：7.5YR4/2灰褐 内：7.5YR7/6橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、輪積み痕残す。 内：ヘラナデ。	
82	027	9	6	一括	弥生土器	甕	胴部	—	—	—	胴部片	やや粗・小礫(0.5～2.0㎜)少量	良	外：5YR4/3にぶい赤褐 内：5YR6/8橙	外：頸部、数段の輪積み痕残す。ユビオサエ、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
82	029	1	14	一括	土師器	鉢	口縁～体部中位	(14.0)	—	—	1/8残	密・白色粒(0.3～0.4㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：10R4/4赤褐	外：ヘラミガキ、赤彩。 内：ヘラミガキ、赤彩。	
82	029	2	1	一括	土師器	高杯	脚部	—	—	—	ほぼ完形	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：5YR5/6明赤褐	外：ヘラミガキ、赤彩。 内：ヘラナデ。	
82	029	3	2	一括	土師器	小型器台	器受部下端～脚部上半	—	—	—	ほぼ完形	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：10R5/6赤 内：2.5YR5/6明赤褐	外：ヘラミガキ、赤彩。 内：器受部底面中央に径1.1cm程度の焼成前穿孔(上→下)施す。 脚部内面、ヘラナデ。	
82	029	4	5	一括	土師器	大型椀(小型甕)か	胴部下半～底部	—	2.5	—	2/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR2/1黒 内：7.5YR3/1黒褐	外：ヘラナデ、ヘラミガキ。 内：ヘラナデ、ヘラミガキ。	
82	029	5	4	一括	土師器	甕	口縁～胴部上端	(18.0)	—	—	1/8残	密・白色針状粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：7.5YR4/2灰褐 内：7.5YR5/6明褐	外：口縁部、ヨコナデ。口縁下端～頸部、ハケメ残る。 内：口縁部、ハケメ。胴部上端、ヘラナデ。	
82	029	6	3	一括	土師器	甕	口縁～胴部上端	(19.8)	—	—	1/8残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：7.5YR6/6橙	外：口唇部、ヨコナデ。口縁～胴部上端、ハケメ。 内：口唇部、ヨコナデ。口縁部、ハケメ。胴部上端、ヘラナデ。	
82	029	7	6	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	6.4	—	2/3残	密・褐色粒(0.3～1.0㎜)少量	やや不良	外：7.5YR2/1黒 内：5YR6/6橙	外：ヘラナデののち、一部ヘラミガキ。 内：ヘラナデ。	
83	030	1	23	一括	土師器	小型鉢(椀)	口縁～底部	(7.6)	(4.0)	(4.9)	1/3残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR4/4にぶい赤褐 内：10R3/6暗赤	外：ナデ、ユビナデ、ヘラナデ。一部、ヘラミガキ。 内：ハケメ状のヘラナデ、ナデ。	
83	030	2	24	一括	土師器	小型鉢(椀)	口縁～底部	7.0	4.0	4.1	1/2残	密・白色粒(0.3～0.4㎜)少量	良	外：2.5YR4/4にぶい赤褐 内：2.5YR4/6赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ、ユビナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。一部、ハケメ痕残る。	
83	030	3	1	一括	土師器	高杯	杯部下半～脚部下半	—	—	—	3/4残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：脚部中央に3ヵ所、下半部に3ヵ所の焼成前穿孔(外→内)施す。 ヘラミガキ、赤彩。一部、ヘラ状工具で強く擦った痕跡あり。 内：杯部、ヘラミガキ、赤彩。脚部、ヘラナデ。	
83	030	4	2	一括	土師器	高杯	杯部下端～脚部上半	—	—	—	ほぼ完形	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/6赤	外：脚部中央3ヵ所に、焼成後穿孔。ヘラミガキ、赤彩。 内：杯部、ヘラミガキ、赤彩。脚部、天井部中央に焼成前穿孔痕(途中まで穿孔されている)。	
83	030	5	30	一括	土師器	高杯	脚部	—	—	—	4/5残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：10R5/6赤 内：2.5YR6/8橙	外：ヘラミガキ。赤彩。脚部下半寄りに、焼成後穿孔3ヵ所施す。 内：ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
83	030	6	3	一括	土師器	高杯	杯部下端～脚部下半	—	—	—	3/4残	密・白色粒(0.4～0.7㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：5YR6/6橙	外：ヘラミガキ、赤彩。 内：杯部、ヘラミガキ、赤彩。脚部、ヘラナデ。	
83	030	7	22	一括	土師器	小型坩	頸部～底部	—	2.5	—	2/3残	やや粗・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：5YR4/6赤褐 内：10R5/8赤	外：頸部、ヘラナデ。一部、ハケメ痕残る。体部、ヘラナデ。一部、強いヘラナデ。 内：頸部、ヘラナデ、ヘラミガキ。体部上半、ヘラナデ、ヘラミガキ。 体部下半、ヘラナデ。赤彩。	
83	030	8	21	一括	土師器	坩(ミニチュア土器)	頸部～底部	—	1.7	—	ほぼ完形	密・白色粒(0.3～0.8㎜)少量	良	外：7.5YR4/6赤 内：5YR6/8橙	外：ヘラナデ、一部、ヘラミガキ。赤彩。 内：頸部、強いヘラナデ。赤彩。体部、ヘラナデ。	
83	030	9	4	一括	土師器	坩	口縁～体部下半	12.8	—	—	2/3残	密・白色針状粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。頸部～体部上半、ハケメ。体部中～下位、ヘラミガキ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
83	030	10	15	一括	土師器	壺	口縁～胴部上端	(13.6)	—	—	1/6残	密・白色粒(0.3～1.0㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：2.5YR5/6明赤褐	外：折り返し口縁部、ヨコナデ。口縁部直下、ヨコナデ。頸部、ハケメ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ハケメ。胴部、ヘラナデ。	
83	030	11	8	一括	土師器	壺	口縁～胴部上半	16.1	—	—	2/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：2.5YR4/6赤褐	外：折り返し口縁部、ヨコナデ。頸部、ハケメ。胴部、ヘラナデ、ハケメ。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部～胴部、ヘラナデ。	
83	030	12	9	一括	土師器	壺	口縁～胴部上半	15.0	—	—	3/4残	密・白色針状粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。一部、ハケメ。胴部、ハケメ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ハケメ。	
83	030	13	28	一括	土師器	小型甕	口縁～胴部上端	12.6	—	—	3/5残	密・黒色粒(0.3～0.5㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR5/3にぶい褐 内：7.5YR6/6橙	外：口唇部、ヨコナデ。口縁部、一部、ヘラナデ。頸部～胴部、ハケメ。 内：口唇部、ヨコナデ。口縁部、ヘラナデ、一部、ハケメ痕残る。 胴部、ヘラナデ。	
83	030	14	5	一括	土師器	甕	口縁～底部	12.5	4.3	12.2	4/5残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量だが均等	良	外：5YR2/1黒褐 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ハケメ。胴部下端、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ状のハケメ。胴部、ヘラナデ。	
84	030	15	7	一括	土師器	壺か	胴部上半～底部	—	8.0	—	4/5残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)微量、白色針状物(0.3～0.4㎜)少量	良	外：5YR6/8橙 内：5YR6/4にぶい橙	外：ハケメののち、ヘラナデ。一部、強いヘラナデ。 内：ハケメののち、一部、ヘラナデ。	
84	030	16	18	一括	土師器	壺	胴部下半～底部	—	5.3	—	2/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR3/1暗赤灰 内：7.5YR6/6橙	外：ヘラナデ、一部、ハケメ痕残る。 内：ヘラナデ。	
84	030	17	20	一括	土師器	壺	胴部下半～底部	—	(7.0)	—	1/3残	密・白色粒(0.4～0.6㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/4にぶい赤褐	外：ヘラナデ、一部、ハケメ痕残る。 内：ヘラナデ。	底部、木葉痕あり。
84	030	18	11	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	17.0	—	—	1/2残	密・小礫(0.5～2.0㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。口縁下半～胴部、ハケメ。 内：口縁部、ハケメ。胴部、ヘラナデ。	
84	030	19	10	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(15.6)	—	—	1/3残	密・白色粒(0.2～0.5㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。口縁下半～胴部、ハケメ。 内：口縁部、ヨコナデ。口縁下半部、ハケメ。胴部、ヘラナデ。	
84	030	20	13	一括	土師器	甕	口縁～胴部上端	(19.6)	—	—	1/4残	密・白色粒(0.5～1.0㎜)少量	良	外：2.5YR6/6橙 内：2.5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ハケメ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ハケメ。	
84	030	21	12	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(17.0)	—	—	1/3残	密・黒色粒(0.3～1.0㎜)微量	良	外：7.5YR5/3にぶい褐 内：5YR6/6橙	外：口唇部、ヨコナデ。口縁部、ハケメ。胴部、ハケメ、ヘラナデ。 内：口縁部、ハケメ。胴部、ヘラナデ。	
84	030	22	14	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(14.0)	—	—	1/6残	密・白色粒(0.2～0.5㎜)微量	良	外：5YR3/1黒褐 内：5YR4/2灰褐	外：口縁部、ヨコナデ。一部、ハケメ痕残る。胴部、ハケメ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
84	030	23	6	一括	土師器	甕	口縁～胴部中位	16.9	—	—	2/3残	密・赤褐色粒(0.2～0.5㎜)微量、白色針状物(0.2～0.3㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部上半、ハケメ痕残る。胴部中位、ヘラナデ。一部、ヘラケズリ状。 内：口縁部、ヨコナデ。一部、ハケメ状のナデ。胴部、ヘラナデ。	
84	030	24	16	一括	土師器	甕	胴部上半～底部	—	6.4	—	2/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR3/1黒褐 内：5YR4/2灰褐	外：ヘラナデののち、ヘラミガキ。 内：ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
85	030	25	17	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	5.6	—	3/7残	やや粗・小礫(0.3～1.0㎜)少量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR3/1暗赤灰	外：ハケメ、一部、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	底部、木葉痕あり。
85	030	26	19	一括	弥生土器	壺	胴部下半～底部	—	(7.2)	—	1/3残	やや粗・小礫(0.5～3.0㎜)微量	良	外：10R5/6赤 内：10R5/8赤	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	底部、輪台状呈す。木葉痕あり。
85	030	27	29	一括	弥生土器	壺	胴部下半～底部	—	7.0	—	2/3残	やや粗・小礫(1.0～3.0㎜)少量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR6/6橙	外：ヘラナデ、やや強いヘラナデ。 内：ハケメ。	
85	030	28	25	一括	土師器	小型鉢(ミニチュア土器)	体部下半～底部	—	2.8	—	ほぼ完形	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：2.5YR4/4にぶい赤褐 内：2.5YR4/6赤褐	外：ナデ、ヘラナデ。 内：ナデ、ヘラナデ。	
85	031	1	1	一括	土師器	高杯	口縁～脚部	14.9	8.0	9.4	ほぼ完形	密・白色粒(0.3～0.4㎜)少量だが均等	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体～脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体～脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。 杯部内面及び、脚部内面の下端部、赤彩。	
85	031	2	2	一括	土師器	高杯	杯部	15.2	—	—	ほぼ完形	密・黒色粒(0.4～0.8㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
85	031	3	3	一括	土師器	高杯	杯部	15.2	—	—	4/5残	やや粗・赤褐色粒(1.5～2.0㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	内・外面共、赤色顔料がわずかに残存しており、赤彩と考えられる。
85	031	4	4	一括	土師器	高杯	杯部	14.6	—	—	4/5残	やや粗・赤色粒(2.0～4.0㎜)微量	良	外：10R4/8赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	内面、赤色顔料がわずかに残存しており、赤彩と考えられる。
85	031	5	7	一括	土師器	高杯	脚部	—	—	—	4/5残	密・白色粒(0.4～0.8㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：7.5YR6/6橙	外：脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
85	031	6	5	一括	土師器	坩	口縁～底部	10.8	—	6.5	2/3残	やや粗・小礫(2.0～4.0㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。一部、強いヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
85	031	7	8	一括	土師器	坩	頸部～底部	—	2.6	—	ほぼ完形	密・灰色粒(0.5～0.8㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：10R5/8赤	外：ヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラナデ、ヘラミガキ。赤彩。	内面、ヘラミガキ部に赤色顔料がわずかに残存し、赤彩と考えられる。
85	031	8	9	一括	土師器	小型甕	胴部下半～底部	—	4.6	—	ほぼ完形	やや粗・赤色粒(1.0～1.5㎜)微量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：5YR5/6明赤褐	外：ナデ、ヘラケズリ。一部、ユビオサエ。 内：ナデ、ヘラナデ。	
85	031	9	17	一括	土師器	小型甕	口縁～底部	11.4	4.6	14.7	3/4残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	二次焼成を激しく受け、器面の内・外面著しく剥落。
85	031	10	20	一括	土師器	甕	口縁～胴部下半	(18.8)	—	—	3/7残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
86	031	11	19	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(16.6)	—	—	1/4残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ、ハケメ。胴部、ハケメ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
86	031	12	14	点	土師器	甕	口縁～胴部中位	18.8	—	—	9/10残	密・黒色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
86	031	13	15	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	6.2	—	2/3残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：5YR4/2灰褐 内：5YR5/6明赤褐	外：胴部、ヘラケズリ。底部、ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。胴部下半、輪積み痕残る。	外面下端部のヘラケズリ激しく、底部平面形が四角形状を呈す。
86	031	14	16	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	5.4	—	ほぼ完形	密・黒色粒(0.3～0.5㎜)少量、白色針状物(0.5㎜)微量	良	外：7.5YR4/2灰褐 内：7.5YR6/6橙	外：胴部、ヘラケズリ。底部、ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
86	031	15	13	一括	土師器	甑	胴部上位～底部	—	6.4	—	3/4残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：胴部、ヘラケズリ。 内：胴部、ヘラナデ。	底部、楕円形状に焼成後穿孔施す。甕の底部を焼成後穿孔し、甑に転用したと考えられる。
86	031	16	11	一括	土師器	甑	口縁～底部	23.6	9.0	30.5	ほぼ完形	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
86	031	17	18	一括	土師器	甑	口縁～底部	18.8	8.0	21.0	4/5残	密・褐色粒(2.0～3.0㎜)少量	良	外：5YR7/6橙 内：2.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	外面上半部、数段の輪積み痕残る。

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
87	032	1	4	一括	土師器	杯	口縁～体部下半	(14.0)	—	—	1/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：10R5/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
87	032	2	5	一括	土師器	杯	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：10R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
87	032	3	2	一括	土師器	高杯	口縁～脚部	14.0	9.0	9.8	4/5残	やや粗・小礫(1.0～3.0㎜)微量	良	外：10R5/6赤 内：10R6/8赤橙	外：体部、ヘラケズリ。脚部下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：体部、ヘラナデ。脚部、ヘラナデ。脚部下端部、ヨコナデ。 杯部、ヘラミガキ、赤彩。	
87	032	4	3	一括	土師器	小型器台	器受部下端～脚部中位	—	—	—	2/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：10R5/6赤 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：脚部中央に、焼成前穿孔(上→下)、1ヵ所施す。ヘラミガキ、赤彩。 内：器受部、ヘラミガキ、赤彩。脚部、ヘラナデ。	脚部、計3ヵ所に穿孔か。
87	032	5	7	一括	土師器	甕	体部下端～底部	—	4.0	—	4/5残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR2/1黒褐 内：10R4/4赤褐	外：体部、ヘラナデ。底部、ヘラケズリか。 内：ヘラミガキ。	
87	032	6	1	一括	土師器	甕	口縁～底部	17.0	6.2	27.5	ほぼ完形	密・白色粒(0.2～0.5㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
87	032	7	14	一括	土師器	甕	口縁～底部	14.2	5.0	23.6	4/5残	密・白色粒(0.3～0.5㎜)少量だが均等	良	外：5YR7/8橙 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
87	032	8	13	一括	土師器	甕	口縁～胴部下半	(18.0)	—	—	1/4残	密・白色粒(0.2～1.5㎜)少量	良	外：7.5YR4/1褐灰 内：7.5YR4/2灰褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
87	032	9	6	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	16.4	—	—	9/10残	やや粗・白色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR5/3にぶい赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	外面頸部に、一部輪積み痕残る。
87	032	10	8	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	(8.0)	—	1/8残	やや粗・白色粒(0.3～0.5㎜)少量	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：5YR3/1黒褐	外：胴部、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	底部、木葉痕あり。
88	034	1	5	一括	土師器	高杯	脚部	—	—	—	3/7残	密・赤褐色粒(0.3～0.5㎜)微量	良	外：10R4/6赤 内：7.5YR3/1黒褐	外：ヘラケズリ。赤彩。 内：ヘラナデ。	
88	034	2	1	一括	土師器	高杯	脚部下半	—	(12.0)	—	1/8残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5YR6/6橙	外：縦位のヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラナデ。	
88	034	3	4	一括	土師器	高杯	杯部下端～脚部中位	—	—	—	3/7残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)均等	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/6橙	外：ナデ、ヘラナデ、ヘラミガキ。 内：ナデ、ヘラナデ。	
88	034	4	2	一括	土師器	小型(短頸)壺か	頸部～胴部下半	—	—	—	3/7残	やや粗・小礫(0.3～0.5㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ヘラナデ、ナデ。胴部下半部、ハケメ。 内：頸部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。胴部上半、一部輪積み痕あり。	
88	034	5	3	一括	土師器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.3～1.0㎜)少量	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。頸～胴部、ハケメ。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、ハケメ。胴部、ヘラナデ、ハケメ。	
88	035	1	1	一括	土師器	高杯	口縁～杯部下半	(18.0)	—	—	1/10残	密・白色粒(0.2～0.5㎜)少量だが均等	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラミガキ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。一部、強いヘラナデ。赤彩。	
88	035	2	2	一括	土師器	小型器台か	器受部	—	—	—	1/3残	密・褐色粒(0.2～0.8㎜)微量	良	外：10R4/6赤 内：7.5YR7/6橙	外：上半部、ヨコナデ。下半部、ヘラミガキ。赤彩。 内：上半部、ヨコナデ。下半部、ヘラナデ。	
88	035	3	3	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	(5.3)	—	4/5残	密・赤色粒(0.3～0.8㎜)均等	良	外：10R5/8赤 内：10R6/8赤橙	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	被熱受け、赤色化する。
88	036	1	1	点	土師器	大型鉢	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	不良	外：10R3/6暗赤 内：5YR7/8橙	外：結節文で区画された羽状縄文巡る。無文部、赤彩。 内：ヘラナデ。	内面剥落著しく、器面殆ど残存せず。
88	036	2	6	一括	弥生土器	壺	口縁～胴部下半	—	—	—	口縁～胴部下半片	密・小礫(0.3～0.5㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：口縁部、折り返し口縁下端部に、ヘラ状工具による刻み目、まだらに施す。ヘラナデ、やや強いヘラナデ。一部、ハケメ状の痕跡残る。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。やや強いヘラナデ。	
88	036	3	5	点	土師器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.4～0.8㎜)少量	良	外：10R3/4暗赤 内：5YR7/6橙	外：結節文で区画された羽状縄文巡り、下部に、沈線によって区切られた中に斜縄文を施した連続山形文巡る。無文部、赤彩。 内：ヘラナデ。	内面剥落著しく、器面殆ど残存せず。

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
88	036	4	2	点	弥生土器	壺	胴部下半～底部	—	12.8	—	2/3残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量だが均等	良	外：10R4/6赤 内：5YR6/6橙	外：ヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラナデ。	内面剥落著しく、器面殆ど残存せず。
88	036	5	4	点	弥生土器	甕	胴部下端～底部	—	7.2	—	2/3残	密・赤褐色粒(0.5～1.0㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR4/2灰褐	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
88	036	6	3	点	土師器	甕	胴部下端～底部	—	(6.8)	—	3/7残	密・白色粒(0.3～0.4㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR5/3にぶい褐	外：強いヘラナデ、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
89	037	1	1	一括	土師器	鉢	口縁～体部下半	(12.0)	—	—	1/6残	密・黒色粒(0.3～0.5㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラミガキ、赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
89	037	2	2	一括	土師器	坩	口縁～体部下半	(9.0)	—	—	1/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：2.5YR2/1赤黒	外：口縁部、ヨコナデ。頸～体部、ヘラミガキ、赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。頸～体部、ヘラナデ。	
89	037	3	10	点	土師器	高杯	杯部	24.0	—	—	4/5残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)均等	良	外：5YR6/8橙 内：2.5YR5/8明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラミガキ。赤彩か。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラミガキ。赤彩か。	
89	037	4	11	点	弥生土器	(開脚)高杯	脚部	—	(17.4)	—	1/3残	密・赤褐色粒(0.5～3.0㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：5YR7/8橙	外：脚部、タテ方向のヘラミガキ。中央に外→内への焼成前穿孔､3ヵ所施す。赤彩。 内：ヘラナデ。一部、ハケメ状の痕跡残る。	器面の磨耗著しいが、赤彩と考えられる。
89	037	5	5	点	土師器	甕	口縁～底部	17.8	6.6	19.0	4/5残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)微量	良	外：7.5YR7/6橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヘラ状工具による刻み目、施す。頸部、ハケメ。胴部、ヘラナデ。一部、ハケメ痕残る。 内：口縁部、ハケメ。一部、ハケメ状のヘラナデ。胴部、ヘラナデ。	
89	037	6	4	点	土師器	甕	口縁～底部	16.8	5.0	20.7	2/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ハケメ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。一部、ハケメ痕残る。	
89	037	7	7	点	土師器	甕	口縁～胴部中位	(15.0)	—	—	1/3残	密・灰褐色粒(0.5～0.8㎜)少量	良	外：5YR2/1黒褐 内：5YR3/1黒褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ハケメ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ハケメ。一部、ヘラナデ。	
89	037	8	3	一括	土師器	甕(S字甕)	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。	胎土粒子細かく、器厚薄い。
89	037	9	9	一括	土師器	小型甕か	底部	—	4.0	—	1/2残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：5YR4/2灰褐 内：5YR2/1黒褐	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
89	037	10	8	一括	土師器	甕	底部	—	6.4	—	ほぼ完形	密・白色粒(0.5～1.5㎜)少量	良	外：10R5/6赤 内：5YR3/1黒褐	外：胴部、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	底部、木葉痕あり。被熱よく受け、赤色化している。
89	038	1	15	点	土師器	鉢	口縁～底部	(10.0)	(4.0)	(6.4)	3/7残	密・赤色粒(0.5～1.0㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラミガキ。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、輪積み痕残し、ヘラミガキ施す。体部ヘラナデ。	5と同一個体の可能性あり。
89	038	2	1	点	土師器	小型器台	器受部～脚部	(7.6)	(9.7)	(6.6)	1/3残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：杯部、ヘラミガキ。赤彩。脚部、ヘラミガキ。赤彩。脚部中央に3ヵ所、焼成前穿孔(上→下)施す。 内：杯部、ヘラミガキ。赤彩。底部中央に、焼成前穿孔(上→下)施す。脚部、ハケメ残存。一部、ヘラナデ。	
89	038	3	16	点	土師器	坩	口縁～底部	13.2	2.8	7.7	3/4残	密・赤褐色粒(0.5～2.0㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ハケメののち、ヨコナデ。一部、ハケメ痕残る。体部上端、ヘラミガキ。体部、強いヘラナデ、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	外面、黒斑部分多いが、赤彩と考えられる。
89	038	4	2	点	土師器	坩	口縁～底部	9.9	3.3	5.3	4/5残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。一部、ハケメ痕ののち、粗いヘラミガキ施す。体部、ヘラナデ、やや強いヘラナデののち、粗いヘラミガキ。口縁～頸部、赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ、ヘラナデののち、粗いヘラミガキ。体部、ヘラナデののち、粗いヘラミガキ。赤彩。	
89	038	5	3	一括	土師器	坩	口縁～体部下半	(10.4)	—	—	1/6残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラミガキ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	1と同一個体の可能性あり。
89	038	6	9	一括	土師器	小型壺か	胴部下端～底部	—	(4.8)	—	3/7残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)均等	良	外：5YR6/6橙 内：5YR4/1褐灰	外：ナデ。ヘラナデ。 内：ナデ。ヘラナデ。	ボソボソしている。

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
89	038	7	14	点	土師器	壺	口縁部	17.2	—	—	9/10残	密・黒色粒(0.2～0.8㎜)少量、白色針状物(0.2～0.3㎜)微量	良	外：7.5R4/8赤 内：7.5R4/8赤	外：口唇部、ヨコナデ。口縁部、ヘラミガキ。赤彩。 内：口唇部、ヨコナデ。口縁部、ヘラミガキ。赤彩。	
89	038	8	4	点	土師器	壺	口縁～胴部上端	17.5	—	—	ほぼ完形	密・黒色粒(0.3～0.7㎜)均等	良	外：10R4/6赤 内：10R4/6赤	外：口縁部、折返し口縁、ヨコナデ。頸部、ハケメ、ヘラナデ。胴部上端、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、ヘラナデ、一部、ハケメ痕残る。胴部上端、ヘラナデ。	焼成良く、赤色味呈する。
90	038	9	8	点	土師器	S字甕	口縁～胴部上半	(17.0)	—	—	1/8残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ハケメ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	器厚極めて薄いが、在地の胎土で作られていると考えられる。
90	038	10	6	点	土師器	甕	口縁～胴部下半	18.0	—	—	4/5残	密・白色粒(0.3～0.5㎜)少量	良	外：10R4/4赤 内：2.5YR4/4にぶい赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ、やや強いヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
90	038	11	7	点	土師器	甕	口縁～胴部上半	(15.8)	—	—	3/7残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：2.5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデののち、一部、ヘラミガキ。	外面、被熱よく受け、赤色化する。
90	038	12	5	点	土師器	甑	口縁～底部	13.6	6.1	17.3	4/5残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ハケメ、ヘラナデ。底部、中央やや右寄りに焼成前穿孔(下→上)施す。 内：口縁部、ヨコナデ、一部、ハケメ。胴部、ハケメ、ヘラナデ。	
90	040	1	1	一括	土師器	高杯	脚部	—	—	—	4/5残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：10R4/8赤 内：5YR6/6橙	外：ヘラミガキ。赤彩。 内：脚部、ヘラナデ。脚下端部、一部、ハケメ痕残る。	
90	040	2	2	一括	土師器	高杯	脚部	—	—	—	2/3残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量、白色針状物(0.2～0.3㎜)微量	良	外：10R5/6赤 内：5YR6/8橙	外：ヘラケズリか。赤彩。 内：ヘラナデ。	外面磨耗しており、調整痕よく見えず。
90	040	3	3	一括	土師器	甕(壺か)	胴部下半～底部	—	4.6	—	2/3残	やや粗・小礫(0.8～1.0㎜)少量	やや不良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR4/2灰褐	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
90	040	4	4	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.5～0.8㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：7.5YR5/4にぶい褐	外：口縁部、折り返し口縁。口唇部に、斜縄文巡る。口縁下端部に、棒状工具による連続刺突文施す。無文部、赤彩か。 内：ヘラナデ。無文部、赤彩か。	
90	040	5	5	一括	弥生土器	壺	頸部	—	—	—	頸部片	密・白色粒(0.3～0.7㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：7.5YR5/4にぶい褐	外：沈線で区画された斜縄文帯巡る。無文部、赤彩。 内：ヘラナデ。	
90	040	6	7	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、折り返し口縁。口縁部に、羽状縄文巡る。折り返し口縁下端部に、ヘラ状工具による刻み目施す。 内：ヘラナデ。	
90	040	7	6	一括	弥生土器	壺	頸部	—	—	—	頸部片	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：5YR6/6橙	外：頸部、貼付された小円板巡る。無文部、赤彩。 内：ヘラナデ。	小円板に一部、指頭痕残る。
90	042	1	1	点	土師器	杯	口縁～底部	12.4	—	(7.7)	ほぼ完形	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR4/8赤 内：7.5YR4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
90	042	2	2	点	土師器	杯	口縁～底部	(15.0)	(5.4)	(5.0)	1/3残	密・褐色粒(0.5～1.0㎜)微量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
90	042	3	9	点	土師器	鉢	口縁～体部下半	(16.0)	—	—	1/6残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)均等	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
90	042	4	3	点	土師器	高杯	口縁～脚部中位	13.8	—	—	9/10残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。脚部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。一部、強いヘラナデ。脚部、ナデ、ヘラナデ。赤彩。	
90	042	5	4	点	土師器	高杯	杯部下半～脚部下半	—	—	—	1/2残	密・赤褐粒(1.0～2.0㎜)微量	良	外：10R4/6赤 内：5YR6/6橙	外：ヘラケズリ。脚部、赤彩施す。 内：ヘラナデ。	杯部内面、磨耗著しく判別できず。

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
90	042	6	5	点	土師器	高杯	杯部下端～脚部下端	—	—	—	1/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R5/6赤 内：10R5/8赤	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ、ナデ。	赤彩していないが、被熱よく受け赤色化。
91	042	7	7	一括	土師器	高杯	脚部	—	(9.0)	—	1/3残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)均等	良	外：7.5R4/6赤 内：10R5/6赤	外：ヘラケズリ。赤彩。 内：ヘラナデ。	脚部内面、被熱よく受け赤色化。
91	042	8	6	点	土師器	高杯	杯部下端～脚部	—	(8.4)	—	1/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR4/3にぶい赤褐 内：10R4/6赤	外：ヘラケズリ。磨耗著しく、調整痕、残存せず。 内：ヘラナデ。	脚部内面、被熱よく受け赤色化。
91	042	9	19	一括	土師器	小型甕	胴部下端～底部	—	—	—	2/3残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：10YR6/4にぶい黄橙 内：7.5YR7/6橙	外：ヘラケズリ、ヘラナデ。 内：ヘラナデ、ユビナデ。	
91	042	10	8	一括	土師器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：ハケメ。 内：口唇部、ヨコナデ。ハケメ。	
91	042	11	10	点	土師器	甕	口縁～底部	(16.0)	(5.8)	(27.3)	3/7残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。一部やや強いヘラナデ。	胴部輪積み痕、一部に残る。
91	042	12	11	一括	土師器	甕	口縁～底部	(14.0)	(6.0)	(31.7)	1/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR5/4にぶい赤褐 内：5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
91	042	13	12	一括	土師器	甕	口縁～胴部下半	17.2	—	—	2/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/8黄橙	外：口縁部、ヨコナデ。2段の輪積み痕、一部に残る。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
91	042	14	14	点	土師器	甕	口縁～胴部上半	(21.2)	—	—	1/3残	密・黒色粒(0.2～0.5㎜)均等	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデののち、ヘラミガキ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
91	042	15	25	点	土師器	甕	口縁～胴部上半	(19.0)	—	—	3/7残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR6/8橙 内：7.5YR7/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	外面、あまり明瞭なヘラケズリではない。
92	042	16	13	点	土師器	甕	口縁～胴部上半	(21.4)	—	—	1/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR6/8橙 内：2.5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
92	042	17	17	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	(5.4)	—	1/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR5/4にぶい褐	外：ヘラケズリ。ハケ状の痕跡あり。 内：ヘラナデ。一部、やや強いヘラナデ。	
92	042	18	15	点	土師器	甕	口縁～頸部	(23.2)	—	—	1/8残	密・灰色粒(0.3～0.8㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
92	042	19	16	点	土師器	甕	胴部下半～底部	—	6.5	—	2/3残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量だが均等、白色針状物(0.3㎜)微量	良	外：7.5R6/6橙 内：7.5R7/6橙	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
92	042	20	18	点	土師器	甑	口縁～底部	(25.0)	(8.8)	(22.2)	1/3残	密・白色粒(0.3～0.7㎜)少量	良	外：5YR2/1黒褐 内：5YR2/1黒褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
92	043	1	8	一括	弥生土器	鉢	口縁～体部上半	(19.4)	—	—	1/10残	密・灰色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：10R4/6赤	外：口唇部、RLの斜縄文巡る。口縁部、羽状縄文巡る。 内：口縁部、ヘラミガキ、赤彩。	
92	043	2	15	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：10R4/8赤	外：折り返し口縁。口縁下端部、縄文原体押捺による刻み目施す。口縁部、羽状縄文巡り、その上に円形浮文貼り付ける。 内：ヘラミガキ、赤彩。	
92	043	3	14	一括	弥生土器	壺	口縁～頸部	(19.2)	—	—	1/10残	粗・小礫(0.5～1.5㎜)均等	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR6/8橙	外：折り返し口縁。口縁下端部、ヘラ状工具による刻み目施す。口縁部、ヨコナデ。 内：ヨコナデののち、一部、ヘラナデ。	
92	043	4	6	一括	弥生土器	小型甕	口縁～底部	(15.8)	(5.7)	(12.4)	1/3残	やや粗・赤褐色粒(1.0～1.5㎜)少量	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：7.5YR7/6橙	外：口縁部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、数段の輪積み痕残す。一部、指頭痕あり。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。頸～胴部、ヘラナデ。	
93	043	5	4	一括	弥生土器	甕	胴部	—	—	—	ほぼ完形	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR6/8橙 内：7.5YR7/6橙	外：頸部、数段の輪積み痕残す。ヘラナデ。一部、やや強いヘラナデ。 内：ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
93	043	6	5	一括	弥生土器	甕	胴部下半～底部	—	8.0	—	2/3残	やや粗・黒色粒(0.3～1.0㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR6/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
93	043	7	3	一括	土師器	高杯	脚部	—	—	—	1/2残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR3/1黒褐	外：ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。 内：ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
93	043	8	1	一括	土師器	高杯	脚部	—	—	—	1/2残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR4/6赤 内：7.5YR7/6橙	外：ヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラナデ。	
93	043	9	2	一括	土師器	高杯	脚部	—	—	—	2/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR6/8橙	外：ヘラミガキ。 内：ヘラナデ。	
93	043	10	10	一括	土師器	壺	胴部下端～底部	—	7.2	—	2/3残	密・白色粒(0.3～0.5㎜)微量	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：5YR5/6明赤褐	外：ヘラナデ。 内：一部、ハケメののち、ヘラナデ。	
93	043	11	13	一括	土師器	小型土器	胴部下半～底部	—	3.3	—	ほぼ完形	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR7/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ。ヘラナデ。 内：ナデ。ヘラナデ。	
93	043	12	9	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	6.2	—	ほぼ完形	やや粗・小礫(0.3～0.8㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/8橙 内：7.5YR6/6橙	外：ヘラナデののち、一部、ヘラミガキ、強いヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
93	043	13	11	一括	土師器	甕	底部	—	7.0	—	4/5残	やや粗・白色粒(0.3～0.5㎜)少量	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：5YR3/1黒褐	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
93	043	14	12	一括	土師器	甕	底部	—	6.3	—	3/4残	密・白色粒(0.3～0.4㎜)微量	良	外：5YR4/4にぶい赤褐 内：5YR5/6明赤褐	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
93	043	15	7	一括	土師器	甕	口縁部	(18.6)	—	—	1/10残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR4/6赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
93	044	1	1	点	土師器	杯	口縁～底部	13.8	—	5.6	ほぼ完形	やや粗・赤褐色粒(1.0～2.0㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/6橙 内：2.5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	内外面共、磨耗著しい。
93	044	2	81	点	土師器	杯	口縁～底部	15.0	—	5.2	4/5残	やや粗・赤色粒(1.0～4.0㎜)少量	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：2.5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。一部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	内・外面共、被熱良く受け赤色化。剥離面多い。
93	044	3	3	点	土師器	杯	口縁～底部	15.2	—	4.6	ほぼ完形	やや粗・小礫(2.0～3.0㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：10R6/8赤橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	底部、黒斑あり。
93	044	4	4	点	土師器	杯	口縁～底部	15.4	—	5.0	ほぼ完形	やや粗・赤色粒(1.0～7.0㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：10R4/4赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
93	044	5	6	一括	土師器	杯	口縁～体部下半	(15.5)	—	—	1/4残	やや粗・小礫(1.0～2.0㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：2.5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
93	044	6	5	一括	土師器	杯	口縁～体部下半	(12.8)	—	—	1/6残	密・白色粒(0.3～0.5㎜)微量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。一部、やや強いヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
93	044	7	7	点	土師器	杯	口縁～底部	(15.4)	—	(5.0)	3/7残	やや粗・小礫(1.0～2.5㎜)少量だが均等	良	外：10R4/8赤 内：10R4/6赤	外：赤彩。 内：赤彩。	内外面共、器面が殆ど剥離。調整痕見えず。
93	044	8	2	点	土師器	杯	口縁～底部	15.0	—	5.8	ほぼ完形	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。口縁～体部中位、赤彩。	外面底部付近、黒斑化している。
93	044	9	8	一括	土師器	杯	口縁～体部下半	(14.4)	—	—	1/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：10R4/6赤 内：10R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
93	044	10	9	一括	土師器	杯	口縁～体部下半	(14.4)	—	—	1/8残	やや粗・赤褐色粒(2.0～4.0㎜)微量	良	外：10R5/6赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
93	044	11	10	点	土師器	杯	口縁～体部下半	(15.0)	—	—	1/3残	やや粗・赤褐色粒(1.5～3.0㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
93	044	12	11	一括	土師器	小型椀(鉢)	口縁～体部下半	8.6	—	—	2/3残	密・白色粒(0.3～0.5㎜)少量、白色針状物(0.8～1.2㎜)微量	良	外：10R4/6赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。一部、強いヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。一部、やや強いヘラナデ。赤彩。	
93	044	13	64	一括	土師器	大型(椀)鉢か	体部下半～底部	—	(4.3)	—	1/3残	やや粗・小礫(1.0～1.5㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：ヘラミガキ。赤彩。 内：ハケメののち、ヘラミガキ。赤彩。	内・外面共、磨耗激しい。
94	044	14	17	点	土師器	高杯	口縁～脚部	(18.3)	(10.8)	(13.6)	1/3残	密・黒色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。杯～脚部、ヘラケズリ。一部、ヘラナデか。 下端部、ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。杯～脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
94	044	15	13	点	土師器	高杯	口縁～脚部	(18.6)	(11.4)	(12.6)	3/7残	やや粗・赤色粒(0.3～0.5㎜)微量	良	外：2.5YR6/6橙 内：10R6/8赤橙	外：口縁部、ヨコナデ。杯～脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。杯～脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	器面の磨耗、著しい。
94	044	16	20,29	点	土師器	高杯	杯部～脚部	16.9	12.3	12.0	ほぼ完形	密・白色粒少、海綿骨針微量	良	外：10R4/8赤 内：10R5/8赤	外:脚部は縦方向ヘラナデ後横方向ナデ、杯部は下位を板状工具で横方向ナデ後、横方向ナデ。全面赤彩。 内：口縁部、横方向ナデ。脚内部は時計回りに横方向ヘラナデ。杯部のみ赤彩。	
94	044	17	22,28	点	土師器	高杯	口縁～脚部下端	16.9	13.6	11.3	ほぼ完形	白色小粒、褐鉄鉱多	やや不良	外：7.5YR4/8赤 内：10R4/8赤	外：脚部は支柱を縦方向ヘラナデ後、横方向ナデ。全面赤彩。 内：杯部は内面底部中央を同一方向にナデ、体部を斜方向ナデ、口縁部横方向ナデ。赤彩を施すが、内面底部中央を塗り残す。脚部は支柱部を横方向ヘラ削り。	杯部の内面は、器面磨耗著しい。
94	044	18	25,27	点	土師器	高杯	口縁～脚部下端	16.1	13.1	13.5	ほぼ完形	やや軟質で白色小粒多	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：5YR6/8橙	外：支柱部を縦方向ヘラ削り後、横方向ナデ。 内：ヘラ状工具で横方向ナデ。支柱部は横方向に幅広のヘラ削り。	胎土の色調が赤みが強いためか、赤彩を施した形跡がない。
94	044	19	14	点	土師器	高杯	口縁～脚部下端	16.2	—	—	4/7残	やや粗・白色粒(0.3～0.4㎜)少量だが均等	良	外：10R5/8赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯～脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯～脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。 杯部内面、赤彩。	内外面共、一部赤色顔料残り、赤彩と考えられる。 器面の磨耗著しい。
94	044	20	16	点	土師器	高杯	口縁～脚部下端	17.6	—	—	ほぼ完形	密・白色粒(0.3～1.0㎜)少量だが均等	良	外：10R5/8赤 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。杯～脚部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯～脚部、ヘラナデ。	器面の磨耗、著しい。
94	044	21	15	点	土師器	高杯	口縁～脚部下端	17.2	—	—	ほぼ完形	密・白色粒(0.3～0.4㎜)少量	良	外：7.5R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラケズリ。脚部、強いヘラナデ。 下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯～脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。 杯部内面、赤彩。	
94	044	22	18	点	土師器	高杯	杯部	18.0	—	—	2/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：10R5/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。赤彩。	
94	044	23	23	点	土師器	高杯	杯部	(16.2)	—	—	3/7残	密・赤褐色粒(0.5～2.0㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
95	044	24	21	点	土師器	高杯	杯部	16.8	—	—	ほぼ完形	密・赤褐色粒(1.0～3.0㎜)少量だが均等	良	外：10R4/8赤 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	外面、器面磨耗著しいが僅かに赤色顔料残り、赤彩していると考えられる。
95	044	25	24	点	土師器	高杯	杯部	(16.6)	—	—	1/3残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)微量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/8明赤褐	外：杯部、ヨコナデ。一部、ヘラナデ。 内：ヨコナデ。一部、ヘラナデ。	外面、器面状態不良。
95	044	26	30	点	土師器	高杯	杯部下半～脚部下半	—	—	—	2/3残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/6橙 内：2.5YR6/8橙	外：杯～脚部、ヘラケズリか。 内：杯部、ヘラナデか。脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	内外面共、器面状態不良。
95	044	27	31	一括	土師器	高杯	杯部下半～脚部下半	—	—	—	2/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：10R4/8赤	外：脚部、ヘラケズリ。赤彩。 内：脚部、ヘラナデ。杯部内面、赤彩。	
95	044	28	80	点	土師器	小型壺	口縁～底部	10.0	3.0	11.4	2/3残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：10R6/8赤橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。一部、ハケ状の痕跡あり。	外面、器面の磨耗著しい。
95	044	29	58	一括	土師器	小型壺	口縁～胴部中位	(10.8)	—	—	1/8残	密・白色粒(0.3～0.4㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：2.5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリか。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	外面、器面状態不良。
95	044	30	55	一括	土師器	壺	口縁～頸部	(8.0)	—	—	1/6残	密・黒色粒(0.2～0.6㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。頸～胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。頸～胴部、ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量（復元値）（cm）			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
95	044	31	78	一括	土師器	小型甕	口縁～底部	(12.0)	(5.0)	(15.1)	3/7残	やや粗・小礫(0.5～2.0㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
95	044	32	32	点	土師器	甕	口縁～底部	15.5	5.8	24.7	4/5残	密・赤色粒(0.8～1.5㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：2.5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。頸部、ハケメ痕僅かに残る。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部上半、ハケメ痕僅かに残る。胴部下半、ヘラナデ。	
95	044	33	34,54	点	土師器	甕	口縁～底部	16.5	6.2	25.0	7/8残	やや粗・黒色粒(0.3～0.5㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/4にぶい橙	外：体部、斜下方向にヘラケズリ。頸部横方向ナデ。 内：体部、斜方向及び縦方向にヘラナデ。一部にハケメ状痕跡残る。口縁部横方向ナデ。	使用時の被熱による外面の剥落あり。
95	044	34	45	点	土師器	甕	口縁～底部	12.0	4.5	19.1	2/3残	やや粗・赤褐色粒(0.5～1.0㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
96	044	35	36	点	土師器	甕	口縁～底部	15.0	4.4	21.7	4/5残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)微量、白色針状物(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。胴部上半、輪積み痕、一部残る。	
96	044	36	40	点	土師器	甕	口縁～胴部中位	16.0	—	—	4/5残	密・赤色粒(1.0～2.0㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。頸部、ハケメ痕、一部残る。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ハケメののち、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
96	044	37	38	点	土師器	甕	口縁～胴部下半	26.2	—	—	4/5残	密・白色粒(0.2～0.5㎜)少量だが均等、小礫(7.0㎜)一点含む	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。一部、輪積み痕残る。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。一部、輪積み痕残る。胴部、ヘラナデ。一部、輪積み痕残る。	
96	044	38	41	点	土師器	甕	口縁～胴部下半	19.0	—	—	4/5残	やや粗・赤褐色粒(0.5～1.0㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。頸部、ハケメ。胴部、ヘラケズリ。一部、ヘラナデか。 内：口縁部、ハケメののち、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
96	044	39	37	点	土師器	甕	口縁～胴部下端	15.4	—	—	4/5残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：10R5/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
97	044	40	39	点	土師器	甕	口縁～胴部下半	16.7	—	—	4/7残	密・黒灰色粒(0.3～0.5㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/8明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。一部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。一部、ハケメ状痕跡残る。	
97	044	41	42	一括	土師器	甕	口縁～胴部下半	16.0	—	—	2/3残	密・灰色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：10R5/6赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。頸部付近に、輪積み痕あり。	
97	044	42	44	一括	土師器	甕	口縁～胴部下半	16.8	—	—	2/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	外面、器面磨耗著しい。
97	044	43	46	点	土師器	甕	口縁～胴部下半	16.3	—	—	4/7残	やや粗・小礫(1.0～3.0㎜)少量	良	外：2.5YR7/8橙 内：2.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	内外面共、磨耗著しい。
97	044	44	43	点	土師器	甕	口縁～胴部下半	15.0	—	—	4/5残	密・赤色粒(0.5～1.5㎜)微量、白色粒(0.4～0.7㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：10R5/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	被熱受け、赤色化する。
97	044	45	47	点	土師器	甕	口縁～胴部上位	15.0	—	—	4/5残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
98	044	46	53	点	土師器	甕	口縁～胴部下半	(14.7)	—	—	1/3残	密・白色粒(0.3～1.0㎜)少量、白色針状物(0.2～0.5㎜)微量	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：2.5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
98	044	47	49	一括	土師器	甕	口縁～胴部中位	15.8	—	—	4/5残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：10R4/4赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。頸～胴部、ヘラナデ。	
98	044	48	82	点	土師器	甕	口縁～胴部上半	(19.2)	—	—	1/8残	やや粗・小礫(0.4～0.8㎜)少量だが均等、赤色粒(0.8～3.0㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。頸部下半～胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量（復元値）（cm）			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
98	044	49	52	一括	土師器	甕	口縁～胴部上位	(16.8)	—	—	1/3残	密・赤色粒(0.5～2.0㎜)少量	良	外：2.5YR6/6橙 内：2.5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	外面、頸～胴部の磨耗著しい。
98	044	50	48	点	土師器	甕	口縁～胴部上半	16.0	—	—	3/4残	密・白色粒(0.3～0.4㎜)少量、白色針状物(0.2～0.3㎜)極めて微量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
98	044	51	57	一括	土師器	甕	口縁～頸部	(19.0)	—	—	1/3残	密・赤色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：2.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。	
98	044	52	56	一括	土師器	甕	口縁～頸部	(16.8)	—	—	1/10残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：5YR6/8橙 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。	
98	044	53	51	一括	土師器	甕	口縁～胴部中位	15.6	—	—	4/5残	密・白色粒(0.3～1.5㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。頸部、一部ハケメ痕残る。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、一部ハケメ痕残る。胴部、ハケメののち、やや強いヘラナデ。ヘラナデ。	
98	044	54	79	点	土師器	甕	口縁～胴部上位	15.8	—	—	4/5残	密・白色粒(0.3～0.4㎜)微量	良	外：10R5/8赤 内：10R5/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。口縁下半部、ハケ状のヘラナデ。胴部、ヘラナデ。	被熱受け、赤色化する。
98	044	55	62	点	土師器	甕	胴部上半～底部	—	(7.0)	—	1/3残	やや粗・小礫(2.0～2.5㎜)少量	良	外：10R6/6赤橙 内：2.5YR7/6橙	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	内・外面共、被熱良く受け剥離面多い。
98	044	56	60	点	土師器	甕	胴部中位～底部	—	6.8	—	4/5残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR5/6明赤褐	外：胴部、ヘラケズリ。 内：胴部、ヘラナデ。	
99	044	57	63	点	土師器	甕	胴部下半～底部	—	(7.0)	—	1/3残	やや粗・小礫(2.0㎜)微量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：5YR6/6橙	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
99	044	58	61	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	6.3	—	2/3残	やや粗・小礫(1.0～2.0㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：5YR6/6橙	外：胴部、ヘラケズリ。底部、ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
99	044	59	66	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	(8.0)	—	1/3残	密・白色粒(0.5～1.0㎜)少量、白色針状物(0.3～0.5㎜)微量	良	外：10YR3/1黒褐 内：5YR6/6橙	外：ヘラケズリ。一部、やや強いヘラナデありか。 内：ヘラナデ。	
99	044	60	67	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	5.0	—	2/3残	密・黒色粒(0.4～0.7㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/6橙 内：5YR5/2灰褐	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
99	044	61	65	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	(5.2)	—	1/3残	密・小礫(0.5～1.5㎜)少量	良	外：2.5YR4/4にぶい赤褐 内：5YR4/2灰褐	外：ヘラナデ。 内：ハケメののち、ヘラナデ。	
99	044	62	68	点	土師器	甑	口縁～底部	17.2	6.2	25.1	4/5残	密・赤色粒(0.5～2.0㎜)少量	良	外：7.5YR7/8黄橙 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。底部、径5.2㎝の焼成前穿孔施す。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	器面の磨耗、著しい。
99	044	63	69	点	土師器	甑	口縁～底部	24.0	5.6	22.5	4/5残	密・黒灰色粒(0.2～0.5㎜)少量だが均等、赤色粒(0.3～0.4㎜)少量	良	外：10R6/8赤橙 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。底部、径5.2㎝の焼成前穿孔施す。頸部付近、輪積み痕一部に残る。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	被熱受け、赤色味帯びる。
99	044	64	70	一括	須恵器	壺	口縁下半～頸部	—	—	—	3/7残	緻密・白色粒(0.3～0.5㎜)少量	良好	外：5Y5/1灰 内：2.5Y6/2灰黄	外：ロクロ調整。 内：ロクロ調整。	
99	044	65	33	点	弥生土器	甕	口縁～胴部下半	21.7	—	—	4/5残	密・白色粒(0.4～1.0㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：5YR7/6橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。胴部上半に、一段の輪積み痕残す。ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
100	045	1	1	点	土師器	高杯	杯部下端～脚部	—	—	—	2/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：10R4/8赤 内：2.5YR5/8明赤褐	外：縦位のヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラナデ。	
100	045	2	2	一括	土師器	高杯	杯部下端～脚部	—	—	—	1/3残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：2.5YR5/6明赤褐	外：赤彩。 内：ヘラナデ。	外面、剥離面多い。

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量（復元値）（cm）			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
100	045	3	5	点	土師器	甕	胴部上位～底部	—	(7.0)	—	3/7残	やや粗・黒色粒(0.3～0.8㎜)均等	やや不良	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ヘラナデ。 内：ナデ、ヘラナデ。	
100	045	4	6	点	土師器	甑	胴部上半～底部	—	6.8	—	2/3残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)均等	良	外：7.5YR5/3にぶい褐 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ヘラナデののち、胴部下端部、ヘラミガキ、または強いヘラナデ。 底部中央に、径8.5㎜の焼成後穿孔施す。 内：ヘラナデ。	甕転用甑と考えられる。
100	045	5	7	点	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：2.5YR5/6明赤褐	外：折り返し口縁上端部に、縄文原体押捺による刻み目施す。 内：ヘラナデ。赤彩か。	
100	045	6	4	点	弥生土器	甕	口縁～胴部下半	23.8	—	—	2/3残	やや粗・黒色粒(0.3～0.7㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/8橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、ヘラナデ。口縁部付近に、一段の輪積み痕、僅かに残る。胴部上半、一段の輪積み痕残し、縄文原体による刻み目施す。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部直下、一段の輪積み痕残す。ヘラナデ。	
100	045	7	8	点	弥生土器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.3～0.5㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR7/6橙 内：5YR6/8橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。輪積み痕の痕跡あり。 内：ナデ。輪積み痕の痕跡あり。	
101	047	1	1	一括	弥生土器	壺	頸部	—	—	—	3/7残	密・白色粒(0.3～1.0㎜)少量だが均等	良	外：5YR4/3にぶい赤褐 内：10R4/8赤	外：頸部上半、縦位のヘラミガキ。頸部下半、結節文(S字撚りR)で区画された中に、羽状縄文配し、竹管状工具による刺突を施した円形浮文を貼り付ける。 内：頸部上半、横位のヘラミガキ。赤彩。頸部下半、ヘラナデ。	
101	047	2	5	一括	弥生土器	広口壺	口縁下半～頸部	—	—	—	1/4残	密・白色粒(0.2～0.5㎜)少量、白色針状物(0.3㎜)微量	良	外：7.5YR6/6橙 内：5YR7/8橙	外：折り返し口縁下端部に、まだらに(5ヵ所程)、ヘラ状工具による刻み目施す。 ヘラナデ、ナデ。 内：被熱よく受け、器面の剥離著しい。	
101	047	3	2	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.3～0.5㎜)均等	良	外：5YR4/2灰褐 内：10R4/6赤	外：折り返し口縁部、LRの斜縄文巡り、棒状浮文貼り付ける。口縁下端部、 ヘラ状工具による刻み目施す。一部、赤色顔料付着。 内：口縁下端部付近に、竹管状工具による連続刺突巡る。赤彩。	
101	047	4	3	一括	弥生土器	壺	頸部	—	—	—	頸部片	密・白色粒(0.2～0.8㎜)多量	良	外：5YR3/1黒褐 内：2.5YR4/6赤褐	外：結節文により区画された斜縄文巡る。 内：ヘラナデ。	
101	047	5	6	一括	弥生土器	甕	胴部下半～底部	—	(6.0)	—	1/10残	密・赤褐色粒(0.5～1.2㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	内外面共、器面状態不良。
101	047	6	4	一括	弥生土器	甕(広口壺)	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR4/8赤褐	外：胴部、一段の輪積み痕残し、ヘラ状工具による刻み目施す。ヘラナデ。 やや強いヘラナデ。強いヘラナデ部分、赤色化している。 内：ヘラナデ。ヘラナデ部分、赤色化している。	
101	048	1	1	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.3～0.4㎜)微量	良	外：7.5YR7/6橙 内：10R4/6赤	外：口唇部、斜格子沈線巡る。口唇端部、縄文原体による刻み目施す。 口縁下端部、ヘラ状工具による刻み目施す。 内：赤彩。	
101	048	2	2	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：7.5YR7/6橙	外：連続山形文状の沈線によって区画された斜縄文巡る。無文部、赤彩。 内：ヘラナデ。	
101	048	3	3	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.3～0.8㎜)均等	良	外：7.5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：結節文によって区画された連続山形文状の沈線巡る。 内：ナデ。	
101	049	1	6	点	土師器	坩	口縁～底部	12.6	2.0	6.9	ほぼ完形	密・白色粒(0.3～0.5㎜)少量、白色針状物(0.3㎜)微量	良	外：5YR5/8明赤褐 内：2.5YR5/8明赤褐	外：口縁部、ヨコナデののち、粗いヘラミガキ。体部、ヘラミガキ。 一部、ヘラケズリか。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラミガキ。	
101	049	2	4	点	土師器	坩	口縁～底部	11.1	3.1	6.9	4/5残	密・白色、橙色粒(0.5～0.8㎜)均等	良	外：5YR5/6明赤褐 内：7.5YR6/6橙	外：ヘラミガキ。 内：ヘラナデ。	
101	049	3	3	点	土師器	坩	口縁～底部	10.1	2.5	9.5	ほぼ完形	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量、白色針状物(0.3㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：2.5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。頸部、ヘラミガキ。体部、ヘラミガキ。 体部下端、ヘラケズリ。 内：口縁～頸部上半、ヘラミガキ。頸部下半、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
101	049	4	5	点	弥生土器	小型器台	器受部～脚部	7.6	(8.6)	(7.1)	口　縁1/2残・脚部3/7残	密・白色粒(0.3～0.5㎜)少量、白色針状物(0.3～0.4㎜)微量	良	外：2.5YR4/6赤褐 内：2.5YR4/8赤褐	外：ヘラミガキ。脚部3ヵ所に、焼成前穿孔(上→下)施す。 内：器受部、ヘラミガキ。脚部、ヘラナデ。	
101	049	5	1	点	土師器	壺	頸部～底部	—	5.0	—	ほぼ完形	密・白色粒(0.3～0.5㎜)微量	良	外：10R5/8赤 内：5YR3/1黒褐	外：頸部、ヘラミガキ。頸部下端、隆帯巡り、ヘラ状工具による刻み目、施す。胴部、ハケメ、一部、ヘラナデ。上半部、赤彩。 内：頸部、ヘラミガキ。赤彩。胴部、輪積み痕、一部残る。ヘラナデ。	
101	049	6	11	点	土師器	壺か	頸部～底部	—	5.8	—	2/3残	密・白色粒(0.3～0.5㎜)少量	良	外：5YR6/8橙 内：2.5YR6/8橙	外：胴部上半、ハケメ状のヘラナデ。胴部下半、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	底部、木葉痕あり。
102	049	7	15	点	土師器	壺か	胴部中位～底部	—	5.7	—	2/3残	粗・赤色粒(0.8～3.0㎜)均等	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：2.5YR6/8橙	外：ヘラナデ、ヘラケズリ。一部にハケメ痕残る。 内：ヘラナデ。一部にハケメ痕残る。	外面、被熱よく受け、赤色化する。
102	049	8	7	点	土師器	甕	口縁～底部	16.0	6.5	18.1	4/5残	密・白色粒(0.3～0.4㎜)微量	良	外：2.5YR5/4にぶい赤褐 内：2.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。胴部下端、ハケメ一部残存。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	内面、一部輪積み痕残る。
102	049	9	9	点	土師器	甕	口縁～底部	14.8	6.7	8.9	4/5残	密・黒色粒(0.3～0.4㎜)少量、赤褐色粒(0.7～3.0㎜)微量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
102	049	10	10	点	土師器	甕	口縁～底部	16.0	5.8	18.1	2/3残	密・白色粒(0.3～0.8㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。下半部、やや強いヘラナデを加える。	底部、やや凹み底気味。
102	049	11	8	点	土師器	甕	口縁～底部	15.2	6.9	19.5	ほぼ完形	密・白色粒(0.5～1.0㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
102	049	12	2	点	土師器	甕	口縁～底部	14.6	6.4	16.8	ほぼ完形	密・灰色粒(0.5～1.0㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ、ヘラケズリ。底部、凹み底を呈す。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、輪積み痕残る。胴部、ヘラナデ。	底部、輪台技法。
103	049	13	12	点	土師器	甑	口縁～底部	16.3	4.5	16.5	3/4残	密・白色粒(0.5～1.5㎜)少量、小礫(1.5～2.5㎜)微量	良	外：2.5YR3/2暗赤褐 内：10R4/4赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	底部、中央やや左寄りに径6.0～6.5㎜の焼成後穿孔施す。
103	049	14	13	点	土師器	甑	口縁～底部	13.3	5.0	13.9	4/5残	やや粗・赤橙色粒(1.0～1.8㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR3/1黒褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	底部、中央やや左寄りに径6.0～7.0㎜の焼成後穿孔施す。
103	049	15	17	一括	土師器	杯	口縁～体部下半	(14.0)	—	—	1/3残	やや粗・赤褐色粒(2.0～3.0㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
103	050	1	3	一括	土師器	杯	口縁～体部下半	(15.5)	—	—	3/7残	やや粗・小礫(0.5～2.0㎜)微量	良	外：7.5YR4/4にぶい赤 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	赤色顔料、一部残り赤彩と考えられる。
103	050	2	1	点	土師器	高杯	杯部中位～脚部	—	9.8	—	2/3残	密・白色粒(0.2～0.5㎜)微量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：10R5/6赤	外：杯部、ヘラケズリ。脚部、ヘラミガキ。下端部、ヨコナデ。 内：杯部、ヘラナデ。	
103	050	3	2	点	土師器	高杯	脚部	—	10.0	—	ほぼ完形	密・赤褐色粒(0.3～0.4㎜)微量、白色針状物(0.2～0.3㎜)微量	良	外：10R4/8赤 内：5YR5/6明赤褐	外：脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。一部、赤彩か。	内面下半部、赤色顔料付着。赤彩の可能性高い。
103	050	4	18	一括	土師器	甕	口縁～胴部下半	(16.4)	—	—	3/7残	密・白色粒(0.3～0.5㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR4/2灰褐 内：7.5YR5/3にぶい褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	器面、不明瞭。
103	050	5	4	点	土師器	甕	口縁～胴部中位	(18.0)	—	—	1/3残	やや粗・小礫(1.0～2.0㎜)微量	良	外：2.5YR6/8橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	外面、輪積み痕跡一部残る。
103	050	6	5	点	土師器	甕	口縁～胴部中位	(14.0)	—	—	1/3残	密・白色粒(0.3～0.5㎜)少量だが均等	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
103	050	7	7	一括	土師器	甕	口縁～胴部上端	(17.5)	—	—	1/8残	密・黒色粒(0.2～0.5㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
103	050	8	8	点	土師器	甕	胴部下半～底部	—	7.4	—	2/3残	粗・小礫(1.0～3.0㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：5YR7/8橙	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	内面、器面剥落著しい。
104	050	9	10	点	土師器	甕	胴部中位～底部	—	(6.4)	—	3/7残	やや粗・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：5YR6/8橙	外：ヘラナデ。一部、ヘラケズリのように、強いヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
104	050	10	9	点	土師器	甕	胴部下位～底部	—	6.2	—	2/3残	密・白色粒(0.3～0.7㎜)少量	良	外：5YR3/1黒褐 内：7.5YR3/1黒褐	外：ナデ、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
104	050	11	11	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	(6.8)	—	3/7残	やや粗・白色粒(0.5～2.0㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR4/2灰褐	外：ナデ、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
104	050	12	6	点	土師器	甑	口縁～胴部上位	(26.0)	—	—	1/6残	やや粗・赤褐色粒(0.8～1.5㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
104	051	1	3	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：5YR6/8橙	外：結節文で区画された羽状縄文帯巡る。 内：ナデ。	
104	051	2	1	一括	弥生土器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・小礫(0.3～0.5㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部､2段の輪積み痕残す。 ヘラナデ。 内：ヨコナデ。	
104	051	3	2	一括	弥生土器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・褐色粒(0.3～0.4㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：7.5YR7/6橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、輪積み痕残す。ナデ。 内：ナデ。	
104	052	1	1	一括	土師器	小型鉢	口縁～体部下半	(14.0)	—	—	3/7残	やや粗・褐色粒(0.4～1.5㎜)少量	良	外：7.5YR5/3にぶい褐 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
104	052	2	3	一括	土師器	小型鉢	口縁～体部下半	(13.0)	—	—	1/10残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR8/4浅黄橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
104	053	1	1	一括	土師器	甕	口縁～頸部	(14.8)	—	—	1/10残	やや粗・白色粒(0.3～1.8㎜)少量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/4にぶい赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。頸～胴部、ハケメ。 内：口縁部、ヨコナデ。口縁部下半、ハケメ痕残る。胴部、ヘラナデ。	
104	053	2	2	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	(5.0)	—	1/4残	密・白色粒(0.2～1.0㎜)少量	良	外：2.5YR4/2灰赤 内：2.5YR3/1暗赤灰	外：ヘラナデ。一部、ハケメ痕残る。 内：ヘラナデ。	
104	053	3	3	一括	土師器	坩(ミニチュア土器)	頸部～胴部下半	—	—	—	1/4残	密・灰白色粒(0.3～0.8㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：胴部、ナデ、ヘラナデ。 内：口縁～頸部、ヨコナデ。胴部、ナデ、ヘラナデ。	
104	054	1	1	一括	土師器	坩	頸部～底部	—	2.5	—	ほぼ完形	密・黒色粒(0.8～2.0㎜)微量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/4にぶい赤褐	外：口縁部、ヘラケズリ。口縁部と体部の接点、ヘラミガキ状の凹線巡る。 体部、ヘラケズリ、一部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヘラナデののち、ヨコナデ。一部、ハケメ状の痕跡残る。 体部、ヘラナデ。	
104	054	2	2	一括	土師器	壺	胴部下半～底部	—	(5.0)	—	1/4残	密・赤色粒(0.8㎜)微量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ヘラナデ。一部、ナデ。 内：ハケメ。一部、ヘラナデ。	
105	055	1	2	一括	土師器	鉢	口縁～底部	12.8	6.3	6.6	ほぼ完形	やや粗・小礫(1.0～1.5㎜)微量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：7.5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
105	055	2	1	一括	土師器	高杯	杯部	14.8	—	—	4/5残	密・白色粒(0.3～0.4㎜)微量、白色針状物(0.3㎜)微量	良	外：7.5R4/6赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
105	055	3	3	一括	土師器	高杯	脚部	—	10.5	—	4/5残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：5YR6/6橙	外：脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
105	055	4	4	一括	土師器	甕	口縁～底部	(18.0)	(5.4)	(27.4)	3/7残	密・白色粒(0.3～0.5㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。頸～胴部､5段の輪積み痕残る。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
105	055	5	5	一括	土師器	甕	口縁～胴部中位 胴部下半～底部	19.3	7.8	(25.6)	2/3残	密・白色粒(0.2～0.5㎜)微量	良	外：7.5YR3/2暗赤褐 内：5YR6/6橙	外：底部境から斜上方向にヘラケズリ整形後、胴部下位を横方向、上位を斜方向にヘラナデ。 内：剥落激しく詳細不明。	
105	055	6	8	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	7.6	—	ほぼ完形	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR5/2灰褐 内：5YR6/6橙	外：ヘラナデ、ナデ。 内：ナデ。	被熱受け、器面剥落著しい。
105	055	7	7	一括	土師器	甑	口縁～底部	(22.8)	(8.0)	(30.8)	3/7残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR7/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部、径7.6cm程度の焼成前穿孔施す。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。頸～胴部､4段の輪積み痕、一部残る。	
105	056	1	5	一括	弥生土器	壺	口縁部	(17.4)	—	—	1/8残	密・白色粒(0.2～0.8㎜)少量だが均等	良	外：7.5R4/6赤 内：10R4/8赤	外：折り返し口縁。口縁部、LRの斜縄文巡る。口縁下端部、縄文原体押捺による刻み目施す。無文部、ヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラミガキ。赤彩。	
105	056	2	6	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色針状物(0.2～0.3㎜)微量	良	外：2.5YR6/8橙 内：10R4/8赤	外：折り返し口縁。口縁上端、ヘラ状工具による刻み目施す。 内：ヘラナデ。赤彩。	
105	056	3	9	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色針状物(0.2～0.3㎜)微量	良	外：2.5YR6/8橙 内：5YR6/6橙	外：結節文により区画された羽状縄文帯巡る。無文部、ヘラミガキ。 内：ヘラミガキ。	
105	056	4	10	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.7～0.8㎜)微量	良	外：10R4/8赤 内：10YR3/2黒褐	外：結節文により区画された羽状縄文帯巡る。無文部、赤彩。 内：ヘラナデ。	5と同一個体の可能性あり。
105	056	5	7	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.3～0.4㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR4/2灰褐	外：結節文により区画された羽状縄文帯巡る。 内：ヘラナデ。	4と同一個体の可能性あり。
105	056	6	8	一括	弥生土器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・褐色粒(0.5～0.7㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：折り返し口縁。口縁上端、ヘラ状工具による刻み目施す。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、ヘラナデ。	
106	057	1	1	一括	土師器	杯	口縁～体部下半	(14.0)	—	—	1/4残	やや粗・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
106	057	2	2	一括	土師器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.2～0.4㎜)微量	良	外：5YR3/1黒褐 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。	
106	057	3	4	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：5YR5/6明赤褐	外:口縁部、ヨコナデ。口縁下端部、縄文原体による刻み目施す。頸部、ハケメ。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、強いヘラナデ。	
106	057	4	5	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	やや粗・白色粒(0.5～1.0㎜)少量だが均等	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：2.5YR5/8明赤褐	外：沈線により区画された斜縄文帯巡る。下部、沈線により山形に区画された中に、斜縄文施す。 内：ヘラナデ。	
106	057	5	3	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.1㎜)均等、白色針状物(0.2㎜)微量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：7.5YR6/6橙	外：結節文により区画された斜縄文帯巡る。下部に、沈線による連続山形文、巡る。 内：ナデ。	
106	058	1	1	一括	土師器	小型丸底鉢	口縁～底部	(13.2)	—	(5.6)	3/7残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量、白色針状物(0.3～0.4㎜)微量	良	外：10R5/8赤 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラミガキ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
106	058	2	2	一括	土師器	坩	口縁～底部	16.0	3.2	6.6	2/3残	密・灰色粒(0.2～0.4㎜)微量、白色針状物(0.2～0.3㎜)微量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口唇部、ヨコナデ。口縁部、ハケメ。体部、ハケメ。体部下端、一部、ヘラミガキ。赤彩。 内：口縁～頸部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
106	058	3	3,32	一括	土師器	杯	口縁～杯部下半	(12.5)	—	—	1/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：10R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラミガキ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラミガキ。赤彩。	
106	058	4	18	一括	土師器	有段口縁鉢	口縁部	(14.0)	—	—	1/10残	密・灰色粒(0.3～0.4㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラミガキ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラミガキ。赤彩。	
106	058	5	20	一括	土師器	小型鉢	体部上半～底部	—	2.8	—	2/3残	密・白色粒(0.5～1.5㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR3/1黒褐	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	一部、赤色化している。

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
106	058	6	19	一括	土師器	小型鉢	口縁～底部	(8.0)	(2.2)	(4.1)	3/7残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：7.5YR7/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
106	058	7	6	一括	土師器	高杯	杯部下端～脚部下端	—	—	—	4/5残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：ヘラミガキ。 内：ヘラナデ。脚下半部、ハケメ痕、僅かに残る。	
106	058	8	7	一括	土師器	高杯	杯部下端～脚部下端	—	—	—	ほぼ完形	密・白色粒(0.4～0.5㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：ハケメ、強いヘラナデ。ハケメの痕跡が、下部を中心に残る。 内：杯部、ヘラナデ。脚部、ヘラナデ。	
106	058	9	17	一括	土師器	高杯	脚部	—	9.4	—	4/5残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：7.5YR4/2灰褐	外：脚部、ヘラミガキ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	脚部中央に、径8～10㎜の焼成前穿孔施す。
106	058	10	16	一括	土師器	高杯	脚部	—	8.4	—	4/5残	やや粗・白色粒(0.3～0.5㎜)微量	良	外：10R5/8赤 内：5YR6/6橙	外：脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
106	058	11	5	一括	土師器	高杯	杯部下半～脚部	—	8.6	—	4/5残	密・赤色粒(0.3～0.4㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：5YR6/8橙	外：脚部、ヘラミガキ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：杯部、ヨコナデ。脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
106	058	12	21	一括	土師器	小型甕か	胴部上半～底部	—	(5.0)	—	3/7残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量、白色針状物(0.2～0.4㎜)少量	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：5YR3/1黒褐	外：ヘラナデ、ナデ。一部、ハケメ状の痕跡残る。 内：ヘラナデ、ナデ。	
106	058	13	30	一括	土師器	甕か	胴部下端～底部	—	(5.2)	—	3/7残	密・赤色粒(0.2～0.4㎜)少量だが均等、白色針状物(0.2～0.3㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR7/8橙	外：ヘラナデ、ヘラミガキ。赤彩か。 内：ヘラナデ。	
106	058	14	23,24	一括	土師器	甕	口縁～胴部中位	15.3	—	—	1/4残	やや粗・白色小粒含み、小礫(1.0～2.0㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：頸部を斜方向にヘラナデし、ハケメ状痕跡残る。胴部は横方向にヘラ削り調整。 内：胴部ヘラ状工具で横方向ナデ。口縁部横方向ナデによりハケメ状痕跡残る。	
106	058	15	25	一括	土師器	甕	口縁～胴部中位	(16.6)	—	—	1/8残	やや粗・白色粒(0.2～0.8㎜)少量だが均等	やや不良	外：10YR5/2灰黄褐 内：10YR6/3にぶい黄橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
106	058	16	26	一括	土師器	甕	口縁～胴部上端	(14.4)	—	—	1/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：7.5YR5/4にぶい褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
106	058	17	8	一括	土師器	甕	口縁～胴部上端	(13.4)	—	—	1/10残	密・白色針状物(0.4～0.5㎜)微量	良	外：5YR3/1黒褐 内：2.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。一部、ハケメ状の痕跡あり。	
106	058	18	9	一括	土師器	甕	口縁～胴部上端	(17.4)	—	—	1/10残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。	
106	058	19	29	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	(6.2)	—	1/3残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量、白色針状物(0.2～0.3㎜)微量	やや不良	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：7.5YR3/2黒褐	外：ハケメののち、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
107	058	20	28	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	6.6	—	1/2残	密・白色粒(0.3～0.5㎜)微量	良	外：10R4/4赤褐 内：7.5YR3/1黒褐	外：ヘラミガキののち、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
107	058	21	10	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	6.2	—	3/4残	密・赤色粒(0.5～0.8㎜)少量	良	外：5YR7/8橙 内：5YR7/8橙	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
107	058	22	22	一括	弥生土器	小型甕	口縁～体部中位	(8.8)	—	—	1/4残	やや粗・白色粒0.5～1.0㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ハケメ。一部、ヘラナデか。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。一部、ハケメ状の痕跡残る。	口唇部、ユビオサエ痕一部にあり。
107	058	23	12	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：5YR6/6橙	外：胴(肩)部、RLの斜縄文施し､2条の連続する半裁竹管状の沈線巡る。下半部、ハケメ痕か。 内：横位のハケメ痕巡る。	
107	058	24	11	一括	弥生土器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：10R4/6赤	外：口唇～口縁部、LRの斜縄文巡る。口縁下端、ヘラ状工具による刻み目施す。 内：ヘラミガキ。赤彩。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
107	060	1	1	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	(6.6)	—	1/3残	やや粗・白色粒(0.3～0.7㎜)少量だが均等	良	外：10R5/8赤 内：2.5YR4/2灰赤	外：胴部、ヘラナデ。 内：胴部、ヘラナデ。一部、ハケメ状痕跡残る。	
107	061	1	1	一括	土師器	甕	口縁～底部	18.0	5.2	19.7	ほぼ完形	密・赤褐色粒(0.5～1.0㎜)少量	良	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：10YR7/6明黄橙	外：口縁部、ハケメののち、ヨコナデ。胴部、ハケメのち、ヘラミガキ。 内：口縁部、ハケメののちヨコナデ。胴部上半、ハケメ。下半、ヘラナデ。	外面、胴部上半、細かいハケメ。
107	061	2	2	一括	土師器	甕	口縁～底部	16.0	6.4	18.5	ほぼ完形	密・白色粒(0.5～1.0㎜)少量、白色針状物(0.2～0.3㎜)微量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。一部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。一部、輪積み痕残る。	
107	061	3	5	一括	土師器	壺	胴部下半～底部	—	(6.0)	—	1/4残	密・黒灰色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ヘラナデ、ナデ。胴部下端に、輪積み痕残る。 内：ヘラナデ。一部、ハケ状痕跡残る。	
107	061	4	4	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	(7.0)	—	1/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR4/2灰褐	外：ハケメ痕、僅かに残る。 内：器面の剥離、著しい。	被熱受けたか。
107	061	5	3	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	5.4	—	2/3残	やや粗・白色粒(0.2～0.6㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：胴部、ヘラナデ。 内：胴部、ヘラナデ。	
107	062	1	1	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(12.2)	—	—	1/8残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR3/1黒褐 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。一部、ハケメ痕あり。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。一部、輪積み痕残る。	
107	062	2	6	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・赤色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：沈線によって区画された連続山形文巡る。沈線により区画された中に、斜縄文施す。 内：ヘラナデ。	
108	064	1	1	一括	土師器	壺	口縁～胴部上端	(14.0)	—	—	1/3残	密・小礫(0.5～2.0㎜)微量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：2.5YR6/6橙	外：口唇部、ヨコナデ。口縁部、ハケメ。頸部、隆帯巡り、ハケ状工具による刻み目施す。 内：口唇部、ヨコナデ。口縁部、ハケメ。胴部、ヘラナデ。	
108	064	2	4	一括	弥生土器	壺	頸部～胴部上半	—	—	—	4/5残	やや粗・白色粒(1.0～1.5㎜)均等	良	外：10R4/6赤 内：2.5YR5/8明赤褐	外：結節文により区画された斜縄文帯が2段巡る。上半部、赤彩。 内：ヘラナデ。	
108	064	3	3	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：2.5YR5/6明赤褐	外：結節文により区画された斜縄文施す。 内：ナデ。	
108	067	1	1	一括	弥生土器	浅鉢(壺転用)	胴部下半～底部	—	7.6	(9.0)	胴部下半～底部のみほぼ残	やや粗・白色粒(0.2～0.6㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：7.5YR5/4にぶい褐	外：ヘラミガキ。一部、ヘラナデ。胴部上半部、赤彩施す。 内：ヘラナデ。	本来は壺であるが、割れ口が研磨されて調整されており、壺を転用した浅鉢と思われる。
108	067	2	2	一括	縄文土器	深鉢	口縁～胴部	—	—	—	口縁～胴部片	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR4/2灰褐	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目。胴部、変形爪形文巡る。 内：ナデ。	3と同一個体の可能性あり。
108	067	3	3	一括	縄文土器	深鉢	口縁～胴部	—	—	—	口縁～胴部片	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目。胴部、変形爪形文巡る。 内：ナデ。	2と同一個体の可能性あり。
109	068	1	4	一括	弥生土器	浅鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・灰色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：10R4/6赤	外：口唇部、RLの斜縄文巡る。口縁部、羽状縄文帯巡る。 内：ヘラミガキ、赤彩。	
109	068	2	7	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.3～0.5㎜)少量	良	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：2.5YR6/6橙	外：沈線によって区画された羽状縄文巡る。 内：ヘラナデ。	
109	068	3	8	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：10R4/6赤 内：10R4/8赤	外：沈線で区画されたLRの斜縄文巡る。無文部、ヘラミガキ、赤彩。 内：ヘラミガキ、赤彩。	
109	068	4	5	一括	弥生土器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量、白色針状物(0.3㎜)極めて微量	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR6/8橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。口縁部、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
109	068	5	6	一括	弥生土器	甕	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.8～1.0㎜)微量	良	外：5YR7/8橙 内：5YR6/6橙	外：数段の輪積み痕残す。ナデ、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
109	068	6	3	一括	土師器	台付甕	胴部下端～脚部	—	—	—	1/2残	密・白色粒(0.3～0.7㎜)微量、白色針状物(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：7.5YR6/6橙	外：脚部、ナデ、ヘラナデ。一部、ハケメ痕ありか。 内：台部、ナデ、ヘラナデ。脚部、ヘラナデ。	
109	068	7	2	一括	弥生土器	甕	胴部下半～底部	—	(6.0)	—	1/10残	密・白色針状物(0.3～0.4㎜)微量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR4/3褐	外：ナデ、ヘラナデ。 内：ナデ、ヘラナデ。	
109	068	8	1	一括	縄文土器	壺か	底部	—	7.6	—	底部のみほぼ完形	やや粗・赤褐色粒(1.0～3.0㎜)微量	良	外：.5YR6/8橙 内：5YR5/3にぶい赤褐	外：ナデ。 内：ナデ。	
109	069	1	14	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	やや粗・黒色粒(0.1～0.5㎜)少量	良	外：5YR3/1黒褐 内：7.5YR7/6橙	外：沈線で区画された羽状縄文巡る。 内：ヘラナデ。	
109	069	2	15	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：5YR6/6橙	外：結節文で区画された羽状縄文巡る。無文部、赤彩。 内：ヘラナデ。	
109	069	3	18	一括	弥生土器	広口壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・赤色粒(0.5～1.5㎜)微量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：ヘラナデ。輪積み痕残し、縄文原体による刻み目施す。 内：ヘラナデ。	4と同一個体の可能性あり。
109	069	4	17	一括	弥生土器	広口壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・赤褐色粒(0.8㎜)微量、白色針状物(0.2～0.7㎜)微量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：5YR5/6明赤褐	外：ヘラナデ。輪積み痕残し、縄文原体による刻み目施す。 内：ヘラナデ。	3と同一個体の可能性あり。
109	069	5	16	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・灰色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：7.5YR7/6橙	外：結節文により区画された斜縄文配し、赤彩施す。 内：ヘラナデ。	
109	069	6	13	一括	弥生土器	甕	口縁～胴部中位	15.2	—	—	4/7残	やや粗・白色粒(0.5～2.0㎜)少量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、数段の輪積み痕残す。ヘラナデ。 内：ヘラミガキ。一部、ヘラナデ。	
109	069	7	1	一括	土師器	杯	口縁～胴部下半	(13.2)	—	—	1/6残	密・黒色粒(0.3～0.5㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラミガキ。赤彩。	
109	069	8	2	一括	土師器	鉢	口縁～胴部下半	(15.8)	—	—	1/10残	やや粗・赤褐色粒(0.5～2.0㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
109	069	9	3	一括	土師器	高杯	杯部口縁～下半	(18.2)	—	—	1/3残	やや粗・小礫(0.2～0.8㎜)少量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラミガキ。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラミガキ。一部、ハケメ痕残る。	
109	069	10	4	一括	土師器	高杯	脚部上半～下端部	—	(10.6)	—	1/8残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：10R5/8赤 内：7.5YR6/6橙	外：ヘラミガキ、赤彩。 内：脚部上半、ヘラナデ。中位、ハケメ痕残る。下端部、ヨコナデ。 一部、赤色顔料付着。	
109	069	11	5	一括	土師器	高杯	脚部上端～下半	—	—	—	9/10残	やや粗・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：10R5/6赤	外：タテ方向のハケメ。 内：ヘラナデ。	
109	069	12	10	一括	土師器	壺か	胴部下半～底部	—	5.4	—	4/7残	粗・小礫(1.0～2.0㎜)微量	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：2.5YR6/8橙	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	底部、輪台状呈す。
109	069	13	6	一括	土師器	甕	口縁～底部	(17.4)	(6.0)	23.1	3/7残	やや粗・小礫(0.3～1.5㎜)少量	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。頸部、ハケメ。胴部、ヘラナデ。胴部上半、一部、ハケメ痕残る。 内：口縁部、ヨコナデ。一部、ハケメ痕残る。胴部、ヘラナデ。	
109	069	14	7	一括	土師器	甕	口縁～胴部下半	(17.6)	—	—	3/7残	密・黒色粒(0.3～0.5㎜)少量だが均等	良	外：10R5/6赤 内：5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。頸部、一部、ハケメ痕残る。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	被熱受け、赤色化する。
110	069	15	8	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(14.4)	—	—	1/4残	密・白色針状物(0.2～0.3㎜)微量、白色粒(0.2～0.6㎜)少量	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：2.5YR4/8赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ハケメ。 内：口縁部、ヨコナデ。口縁～頸部、ハケメ。胴部、ヘラナデ。	
110	069	16	9	一括	土師器	甕	胴部中位～底部	—	6.6	—	3/5残	やや粗・白色粒(0.3～0.5㎜)少量	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：胴部、ハケメののち、ヘラナデ、やや強いヘラナデ。 内：ハケメののち、ヘラナデ。	底部、輪台状呈す。

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
110	069	17	11	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	7.8	—	5/7残	やや粗・白色粒(0.3～0.8㎜)少量	良	外：5YR6/8橙 内：7.5YR5/2灰褐	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデか。	器面剥落著しく、殆ど残存面なし。
110	069	18	12	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	(8.0)	—	1/4残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/8橙	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	内面の器面剥落著しい。
110	071	1	1	一括	土師器	小型鉢	口縁～底部	(9.9)	2.8	4.2	4/7残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラミガキ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
110	071	2	2	一括	土師器	坩	口縁～体部下半	(11.7)	—	—	1/4残	密・白色針状物(0.3～0.5㎜)少量だが均等	良	外：10R5/8赤 内：2.5YR5/8明赤褐	外：口唇部、ヨコナデ。口縁部、縦位のヘラミガキ。頸部～体部、ヘラミガキ。口縁～頸部、赤彩。 内：口唇部、ヨコナデ。口縁部～体部、ヨコ方向のヘラミガキ。口唇部付近、赤彩か。	
110	071	3	4	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	(8.0)	—	1/4残	粗・白色粒(0.5～1.0㎜)均等	やや不良	外：5YR6/6橙 内：5YR3/1黒褐	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
110	071	4	5	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	(9.0)	—	1/10残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ヘラナデ。やや強いヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
110	071	5	6	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	やや粗・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR6/6橙 内：10R4/6赤	外：折り返し口縁下端部にヘラ状工具による刻み目施し、斜縄文巡る。棒状浮文、貼付か。 内：口唇部、ヨコナデ。ヘラミガキ、赤彩。	
110	071	6	7	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：10R4/6赤	外：折り返し口縁下端部に縄文原体による刻み目施し、羽状縄文巡る。 内：ヘラミガキ、赤彩。	
110	071	7	8	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・褐色粒(0.5～1.5㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：折り返し口縁下端部に縄文原体による刻み目施し、斜縄文巡る。 内：口唇部、ヨコナデ。頸部、ヘラナデ。	
110	071	8	11,12	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	やや粗・角閃石少	良	外：10R4/6赤 内：7.5YR7/6橙	外：沈線による山形文等の区画内に、正撚り単節(LR)の斜縄文を施文する。区画外は赤彩。 内：ナデ。	
110	071	9	14	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色針状物(0.3～0.5㎜)少量	良	外：2.5YR4/4にぶい赤褐 内：2.5YR4/6赤褐	外：沈線による区画内に正撚り単節(LR)の斜縄文を施文する。無文部、ヘラミガキ、赤彩。 内：ヘラナデ。	
110	071	10	13	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・赤褐色粒(0.5～2.0㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/8橙	外：沈線による区画内に正撚り単節(LR・RL)の斜縄文を施文する。無文部、一部、赤色顔料付着。赤彩か。 内：ヘラナデ。	器表面の摩耗激しい。
110	071	11	9	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：5YR5/6明赤褐	外：沈線によって連続する山形状文に区画された中に、正撚り単節(RL・LR)の斜縄文を施文する。区画外はヘラミガキ、赤彩。 内：ヘラナデ。	
110	071	12	10	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	やや粗・白色粒(0.2～0.6㎜)均等	良	外：10R4/6赤 内：7.5YR6/6橙	外：沈線によって連続する山形状文に区画された中に、正撚り単節(RL・LR)の斜縄文を施文する。区画外はヘラミガキ、赤彩。 内：ヘラナデ。	
110	071	13	15	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	やや粗・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	やや不良	外：7.5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：沈線による斜格子状の沈線巡る。 内：ヘラナデ。	
110	071	14	17	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：5YR4/4にぶい赤褐 内：5YR5/6明赤褐	外：沈線により区画された斜格子文巡る。 内：ヘラナデ。	
110	071	15	16	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：10R4/8赤 内：7.5YR7/6橙	外：結節文帯巡る。無文部、赤彩。 内：ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量（復元値）（cm）			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
110	072	1	1	一括	土師器	坩	口縁～体部中位	(14.0)	—	—	1/4残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：2.5YR5/8明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。頸部、ヘラナデ、一部強いヘラナデ。 ハケメ痕一部残存。赤色顔料残存。赤彩していると考えられる。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、強いヘラナデ。体部、ヘラナデ。一部、 ハケメ痕残る。口縁～頸部、赤彩か。	
110	072	2	19	一括	土師器	甕	口縁部	(17.2)	—	—	1/10残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量、白色針状物(0.2～0.3㎜)微量	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。頸部、ハケメ。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、ハケメ。	
110	072	3	3	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(8.6)	—	—	1/4残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ハケメ痕一部残る。	
110	072	4	4	一括	土師器	甕	口縁部	(7.0)	—	—	1/8残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)均等	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。	
110	072	5	5	一括	土師器	甕	底部	—	(6.4)	—	4/5残	やや粗・小礫(1.0～3.0㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
110	072	6	6	一括	土師器	甕	底部	—	(7.0)	—	1/4残	粗・小礫(1.0～1.5㎜)微量、白色粒(0.5～1.0㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR5/3にぶい赤褐	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	器面の荒れが著しい。
110	072	7	7	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.3～0.5㎜)少量だが均等	良	外：10R5/8赤 内：10R5/8赤	外：沈線で区画された羽状縄文帯巡る。無文部、赤彩施す。 内：上半部、ヘラミガキ、赤彩。下半部、ヘラナデ。	
110	072	8	8	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：2条の沈線に区画された羽状縄文帯巡る。沈線の施文が粗い。 内：ヘラミガキ、ヘラナデ。一部、ヘラミガキ部分が赤色化しているが、焼成の影響と思われる。	
110	072	9	11	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.2～0.4㎜)微量	良	外：10R4/8赤 内：7.5YR7/6橙	外：結節文により区画された羽状縄文巡る。無文部、赤彩。 内：ヘラナデ。	
111	072	10	9	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・褐色粒(0.5～0.8㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：結節文により区画された羽状縄文帯巡る。 内：ヘラナデ。	
111	072	11	12	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒灰色粒(0.3～0.4㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：結節文により区画された斜縄文巡る。無文部、赤彩。 内：ヘラナデ。	
111	072	12	10	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：5YR6/6橙	外：結節文により区画された斜縄文及び、沈線による連続山形文巡る。無文部、 ヘラミガキ、赤彩。 内：ヘラナデ。	
111	072	13	13	一括	弥生土器	甕	胴部	—	—	—	胴部片	密・褐色粒(0.2～0.4㎜)微量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ヘラナデ。輪積み下端部に縄文原体による刻み目施す。 内：ヘラナデ。	
111	073	1	3	一括	土師器	高杯	杯部	21.4	—	—	杯部のみ完形	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：10R5/8赤	外：ヘラミガキ、赤彩。 内：ヘラミガキ、赤彩。上半部に赤彩顔料を刷毛塗りしたような痕跡あり。	
111	073	2	5	一括	土師器	壺	口縁～胴部下端	(17.3)	(8.0)	32.3	5/7残	密・白色粒(0.3～0.8㎜)均等	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/8明赤褐	外：口唇部、ヨコナデ。頸部、ヘラナデ。胴部、ヘラミガキ。 内：口唇部、ヨコナデ。頸部、ヘラミガキ、胴部、ヘラナデ。	
111	073	3	6	一括	土師器	甑	口縁～底部	15.6	5.8	19.1	頸部やや欠損するがほぼ完形	密・白色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR7/6橙	外：折り返し口縁直下に2ヵ所、外から内への焼成前穿孔施す。胴部上半部に一部線刻ありか。底部中央、下から上への焼成前穿孔施す。ヘラナデ、ナデ。 内：ナデ、ヘラナデ。	
111	073	4	4	一括	土師器	甕	口縁～底部	28.0	16.8	22.5	9/10残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部下端、ヘラ状工具による連続刺突施す。頸部～胴部、ヘラナデ。 内：頸部～胴部下半、ヘラナデ。胴部下端～底部、強いヘラナデ。	
111	073	5	7	一括	土師器	甕	口縁部	17.6	—	—	口縁部のみほぼ完形	密・白色粒(0.3～0.7㎜)少量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：5YR2/1黒褐	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、ヘラナデ。頸部下端、ヘラ状工具による連続刺突巡る。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、ヘラナデ。	
111	073	6	10	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(17.0)	—	—	1/8残	密・白色粒(0.3～0.5㎜)少量	良	外：2.5YR6/6橙 内：5YR4/1褐灰	外：口縁部、ヨコナデ。頸部～胴部、ハケメ。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、ハケメ。胴部、ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
111	073	7	13	一括	土師器	壺	口縁～頸部	(11.0)	—	—	1/10残	密・赤褐色粒(0.5～1.0㎜)微量	良	外：7.5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：折り返し口縁、頸部上位にハケメ痕わずかに残る。 内：口縁部、ヨコナデののち、粗いヘラミガキ。頸部、ハケメ痕残る。	
111	073	8	12	一括	土師器	甕	口縁～頸部	(8.0)	—	—	1/10残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量、白色針状物(0.4～0.7㎜)少量	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
112	073	9	1	一括	土師器	小型椀(鉢)	口縁～底部	9.6	4.0	6.1	2/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR4/4にぶい赤褐 内：5YR4/4にぶい赤褐	外：ヘラナデ、やや強いヘラナデ。 内：ヘラナデ、ヘラミガキ。	
112	073	10	2	一括	土師器	器台	器受部口縁一部欠	6.4	9.0	6.2	ほぼ完形	密・赤褐色粒(0.5～1.5㎜)少量	良	外：5YR6/8橙 内：2.5YR6/8橙	外：器受部、ヘラナデ。脚部、ヘラミガキ。 内：器受部、ナデ、ヘラナデ。脚部、ヘラナデ、ヘラミガキ。	
112	073	11	15	一括	弥生土器	壺	口縁～頸部	(16.0)	—	—	1/10残	やや粗・白色粒(0.5～1.2㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：5YR6/8橙	外：折り返し口縁、口縁部、RLの斜縄文施文後、円形浮文貼り付ける。円形浮文の摩耗著しく、浮文内の刺突痕等見えず。口縁下端部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、ヘラナデ。 内：ヘラナデののち、一部ヘラミガキ。	
112	073	12	16	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・赤褐色粒(0.2～1.0㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：5YR7/8橙	外：沈線で区画された連続山形文内に、羽状縄文施す。無文部、赤彩。 内：ヘラナデ。	
112	073	13	18,19	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	石英小粒、褐鉄鉱少	良	外：10R4/6赤 内：7.5YR6/6橙	外：S字状結節文(R)で区画された山形文内に、正撚り単節(RL)の斜縄文を施す。区画外は赤彩。 内：横方向ナデ。	
112	073	14	17	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・赤褐色粒(0.3～0.5㎜)少量だが均等	良	外：10R4/8赤 内：5YR6/6橙	外：結節文で区切られた中に、沈線による連続山形文巡り、山形文内にRLの斜縄文施す。無文部、ヘラミガキ、赤彩。 内：ヘラナデ。	
112	074	1	2	一括	土師器	杯	口縁～底部	16.0	—	5.1	4/5残	密・白色粒(0.3～0.5㎜)少量だが均等	良	外：7.5R4/8赤 内：10R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ、一部、強いヘラナデ。赤彩。	
112	074	2	3	一括	土師器	杯	口縁～底部	(17.0)	—	(4.6)	1/3残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)均等	良	外：10R5/6赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
112	074	3	4	一括	土師器	杯	口縁～体部下端	(17.2)	—	—	1/4残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
112	074	4	1	一括	土師器	鉢	口縁～底部	12.0	3.4	7.4	ほぼ完形	密・白色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
112	074	5	6	一括	土師器	高杯	脚部	—	—	—	脚部のみほぼ完形	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：5YR6/6橙	外：脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
112	074	6	33	一括	土師器	壺か	胴部下端～底部	—	6.8	—	1/2残	密・黒色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
112	074	7	45	一括	土師器	小型甕	口縁～胴部上半	(12.2)	—	—	1/8残	密・白色粒(0.3～0.4㎜)少量	良	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：7.5YR4/2灰褐	外：口縁部、ハケメののちヨコナデ。胴部、ヘラナデ。 内：口唇部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
112	074	8	16	一括	土師器	甕	胴部上半～底部	—	7.8	—	2/3残	密・赤褐色粒(0.4～0.8㎜)少量	良	外：5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
112	074	9	7	一括	土師器	甕	口縁～胴部中位	19.2	—	—	3/7残	やや粗・白色粒(0.3～1.0㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
113	074	10	17	一括	土師器	甕	胴部中位～底部	—	8.8	—	3/5残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：5YR6/8橙	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。一部、輪積み痕残る。	
113	074	11	10	一括	土師器	甕	口縁～胴部下半	17.0	—	—	4/7残	やや粗・黒色粒(0.2～0.3㎜)均等	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
113	074	12	11	一括	土師器	甕	口縁～胴部下半	16.8	—	—	1/3残	やや粗・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR6/8橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。	
113	074	13	12	一括	土師器	甕	口縁～胴部下半	(23.0)	—	—	1/4残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/8橙 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。輪積み痕、一部残る。	
114	074	14	29	一括	土師器	甕	口縁～胴部中位	18.0	—	—	4/5残	密・白色粒(0.3～0.7㎜)少量、白色針状物(0.3㎜)微量	良	外：2.5YR6/8橙 内：5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
114	074	15	8	一括	土師器	甕	口縁～胴部下端	15.0	—	—	2/3残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。頸部下端及び胴部中位に、輪積み痕残る。	
114	074	16	9	一括	土師器	甕	口縁～胴部下半	15.8	—	—	5/7残	密・赤色粒(0.3～0.5㎜)微量	良	外：2.5YR6/8橙 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。胴部上半部、輪積み痕残る。	
114	074	17	19	一括	土師器	甕	口縁～胴部中位	(18.4)	—	—	1/4残	粗・小礫(0.5～6.0㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。一部、輪積み痕残る。	
114	074	18	21	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	17.0	—	—	1/4残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：2.5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
114	074	19	13	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	17.0	—	—	口縁～胴部上半のみほぼ完形	密・黒色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：10YR7/6明黄褐 内：10YR7/6明黄褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
114	074	20	14	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	15.6	—	—	4/5残	密・白色粒(0.4～0.6㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR3/1黒褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
114	074	21	15	一括	土師器	甕	口縁～頸部	15.0	—	—	口縁～頸部のみほぼ完形	密・小礫(2.0～3.0㎜)微量	良	外：2.5YR6/8橙 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
115	074	22	30	一括	土師器	甕	胴部中位～底部	—	8.0	—	2/3残	やや粗・小石粒(2.0～4.0㎜)微量	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR6/8橙	外：胴部、ヘラケズリ。 内：胴部、ヘラナデ。	
115	074	23	31	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	5.9	—	3/5残	やや粗・小礫(0.8～3.0㎜)少量だが均等	良	外：5YR4/3にぶい赤褐 内：7.5YR7/6橙	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
115	074	24	46	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	6.0	—	2/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR5/3にぶい褐	外：ヘラナデ、ナデ。 内：ヘラナデ。	
115	074	25	32	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	5.8	—	4/5残	密・小礫(1.0～4.0㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：5YR7/8橙	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
115	074	26	20	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(18.0)	—	—	1/4残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/6橙 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
115	074	27	26	一括	土師器	小型甑	口縁～底部	17.2	5.4	12.2	2/3残	密・黒色粒(0.4～0.6㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。底部中央、やや左寄りに径3.6～3.8cmの焼成前穿孔施す。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
115	074	28	25	一括	土師器	甑	口縁～底部	(17.8)	7.6	28.6	5/7残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。頸部に輪積み痕残る。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
115	074	29	24	一括	土師器	甑	口縁～胴部下端	22.6	—	—	3/4残	密・白色粒(0.3～0.4㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR6/6橙 内：2.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
116	076	1	1	一括	土師器	甕	口縁～胴部上端	(16.8)	—	—	1/10残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：5YR4/3にぶい赤褐 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。頚部、ハケメ痕残る。 内：口縁部、ヨコナデ。頚部、ハケメ痕残る。	
116	076	2	3	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	(5.8)	—	1/8残	やや粗・小礫(0.5～0.8㎜)微量	良	外：7.5YR6/6橙 内：2.5YR6/6橙	外：ヘラナデ、ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
116	076	3	2	一括	土師器	甑か	口縁部	(23.8)	—	—	1/8残	密・赤色粒(0.4～0.8㎜)微量	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR6/8橙	外：ヨコナデ。 内：ヨコナデ。	
116	076	4	4	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：2.5YR6/6橙	外:沈線によって連続する山形状に区切られた、羽状縄文帯巡る。無文部赤彩か。 内：ヘラナデ。	
116	076	5	5	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒灰色粒(0.3～0.5㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：5YR6/6橙	外：沈線によって区画された斜格子沈線巡る。無文部、赤彩施す。一部、結節文が混じるか。	
116	076	6	6	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・赤褐色粒(0.4～0.8㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：7.5YR6/6橙	外：結節文帯巡る。無文部、赤彩施す。 内：ヘラナデ。	
116	077	1	1	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・灰色粒(0.3～0.5㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：10R4/6赤	外：口縁部、羽状縄文巡る。口縁下端部、縄文原体による刻み目施す。 内：ヘラミガキ、赤彩。	
116	077	2	2	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：5YR5/6明赤褐	外：結節文で区画された沈線による連続山形文内に、斜縄文巡る。 内：ヘラナデ。	
116	077	3	3	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：5YR6/8橙	外：沈線で区画された羽状縄文巡る。無文部、赤彩。 内：ヘラナデ。	
116	077	4	4	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/6橙	外：附加条縄文巡る。(附加条3種) 内：ナデ、ヘラナデ。	
116	078	1	1	一括	土師器	杯	口縁～底部	(7.5)	—	4.5	4/5残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
116	078	2	2	一括	土師器	杯	口縁～ 体部下半	(16.0)	—	—	1/8残	やや粗・赤褐色粒(0.2～1.5㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
116	078	3	3	一括	土師器	杯	体部中位～ 底部	—	—	—	4/7残	やや粗・小礫(0.3～1.2㎜)少量だが均等	良	外：10R4/6赤 内：7.5YR6/6橙	外：ヘラケズリ。一部、強いヘラナデ。赤彩施す。 内：ヘラナデ。	内面、器面状態不良につき、調整痕殆ど認識できず。
116	078	4	22,44	一括	土師器	鉢	口縁～底部	(16.4)	4.5	6.7	2/3残	密・白色粒(0.4～0.6㎜)微量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：時計回りにヘラナデ。一部にハケメ状痕跡残る。全面赤彩。 内：横方向ヘラナデ。一部にハケメ状痕跡残る。全面赤彩。	
117	078	5	23	一括	土師器	台付鉢	口縁～脚部	(12.2)	(11.0)	(13.8)	3/7残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。赤彩。	
117	078	6	5	一括	土師器	高杯	杯部口縁～ 杯部下端	15.0	—	—	1/2残	密・黒色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。一部、ハケ様の痕跡残る。赤彩。	
117	078	7	4	一括	土師器	高杯	杯部口縁～ 杯部下端	(16.0)	—	—	1/3残	やや粗・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量だが均等	良	外：10R4/6赤 内：10R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
117	078	8	25	一括	土師器	高杯	杯部口縁～ 杯部下端	20.0	—	—	5/7残	やや粗・灰色粒(0.5～2.0㎜)微量	良	外：10R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。赤彩。	
117	078	9	31	一括	土師器	高杯	杯部口縁～ 杯部下端	16.2	—	—	3/7残	密・白色粒(0.3～0.5㎜)微量	良	外：7.5R4/6赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。赤彩。	
117	078	10	6	一括	土師器	高杯	口縁～ 体部中位	16.0	—	—	1/8残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R5/6赤 内：10R5/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。赤彩。	
117	078	11	24	一括	土師器	高杯	脚部	—	(12.8)	—	4/7残	密・灰色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：10R4/8赤 内：7.5YR6/6橙	外：脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
117	078	12	7	一括	土師器	高杯	杯部下端～ 脚部	—	13.0	—	4/7残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：7.5YR6/4にぶい橙 (無赤彩部分)	外：杯部、ヘラケズリ。脚部、下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：杯部、ヘラナデ。脚部内面、ヘラナデ。脚部、下端部、ヨコナデ。 赤彩。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
117	078	13	17	一括	土師器	高杯	脚部上端～脚部下半	—	—	—	1/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：7.5YR6/8橙	外：ヘラミガキ。赤彩。 内：脚部内面、ヘラナデ。脚部、下端部、ヨコナデ。	
117	078	14	18	一括	土師器	高杯	杯部下端～脚部下端	—	—	—	2/3残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：10R4/6赤 内：2.5YR3/1暗赤灰	外：ヘラミガキ。赤彩。 内：杯部内面、ヘラミガキ。赤彩。脚部内面、ヘラナデ。	
117	078	15	32	一括	土師器	高杯	杯部下端～脚部下端	—	—	—	2/3残	密・白色粒(0.3～0.5㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：2.5YR6/6橙	外：脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
117	078	16	19	一括	土師器	高杯	杯部下端～脚部下半	—	—	—	1/3残	密・白色粒(0.3～0.5㎜)微量	良	外：10R5/6赤 内：2.5YR6/8橙	外：ヘラミガキ。赤彩。 内：杯部内面、ヘラミガキ。赤彩。脚部内面、ヘラナデ。	
117	078	17	8	一括	土師器	高杯	脚部上端～脚部下半	—	—	—	4/5残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R5/8赤	外：脚部、ヘラケズリ。ヘラナデ。赤彩。 内：脚部内面、ヘラナデ。脚部下端部、ヨコナデ。	赤彩していないが、焼成よく、赤色化している。
117	078	18	48	一括	土師器	器台	器受部口縁～脚部	(6.4)	(7.8)	(5.0)	3/7残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：10R4/8赤	外：ヘラナデ、ナデ。 内：器受部、ヘラミガキ。赤彩。脚部、ヘラナデ。	
117	078	19	46	一括	土師器	甕	口縁～胴部下半	15.2	—	—	4/7残	密・黒灰色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/6橙 内：5YR5/2灰褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
117	078	20	14	一括	土師器	甕	口縁～底部	16.0	6.3	26.1	3/5残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量だが均等	やや不良	外：7.5YR7/6橙 内：2.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、斜位のヘラケズリ。一部、ヘラナデか。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
118	078	21	34	一括	土師器	甕	口縁～胴部中位	(16.0)	—	—	1/4残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：2.5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
118	078	22	47	一括	土師器	甕	口縁～胴部中位	16.0	—	—	3/5残	やや粗・灰色粒(0.5～0.8㎜)均等	やや不良	外：5YR7/8橙 内：5YR7/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。一部、ヘラナデか。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
118	078	23	26	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	15.2	—	—	3/7残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)微量	良	外：5YR6/4にぶい橙 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
118	078	24	9	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(19.4)	—	—	2/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR7/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
118	078	25	28	一括	土師器	甕	口縁～胴部上端	(15.6)	—	—	1/6残	やや粗・赤褐色粒(0.3～1.0㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR7/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	摩耗激しく、調整殆ど残有せず。
118	078	26	33	一括	土師器	甕	口縁～胴部上端	18.0	—	—	3/7残	密・白色粒(0.3～0.4㎜)微量	良	外：2.5YR6/6橙 内：2.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
118	078	27	10	一括	土師器	甕(中胴形)	口縁～胴部上半	(16.2)	—	—	1/3残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量、白色針状物(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：7.5YR5/2灰褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
118	078	28	12	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(16.0)	—	—	1/8残	密・黒灰色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR3/1黒褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ、ヘラナデ。胴部、丁寧にナデられており、調整痕明瞭には残存せず。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	胴部内面、煤が付着し黒色化する。
118	078	29	11	一括	土師器	甕	口縁部	(20.0)	—	—	1/10残	密・灰色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：2.5YR5/8明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
118	078	30	21	一括	土師器	甕	口縁～胴部上端	(15.0)	—	—	1/10残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
118	078	31	13	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	14.0	—	—	4/7残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：10YR6/3にぶい黄橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。やや強いヘラナデ。	内面、煤付着により、一部黒色化。

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
118	078	32	45	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	(8.0)	—	1/3残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：7.5YR5/3にぶい褐 内：7.5YR3/1黒褐	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
118	078	33	36	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	7.0	—	1/3残	やや粗・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR5/2灰褐	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
118	078	34	35	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	5.2	—	1/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：2.5YR5/6明赤褐	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
118	078	35	37	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	6.0	—	5/7残	密・白色粒(0.3～0.6㎜)少量だが均等	良	外：5YR4/2灰褐 内：5YR6/6橙	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
118	078	36	29	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	(6.2)	—	1/2残	やや粗・小礫(0.5～1.0㎜)少量	良	外：2.5YR4/2灰赤 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
118	078	37	30	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	(7.0)	—	1/3残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量だが均等	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：5YR2/1黒褐	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
118	078	38	16	一括	土師器	甕	底部	—	(6.4)	—	1/3残	密・白色粒(0.5～0.8㎜)少量だが均等	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：5YR3/1黒褐	外：胴部、ヘラケズリ。底部、ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
118	078	39	15	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	(9.0)	—	1/4残	密・赤褐色粒(0.3～1.0㎜)微量	良	外：2.5YR6/8橙 内：5YR6/6橙	外：ヘラナデ、ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
119	078	40	43	一括	土師器	甕	頸部～底部	—	6.2	—	4/5残	密・赤褐色粒(0.3～0.5㎜)微量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR4/4にぶい橙	外：頸部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。頸部と胴部の継ぎ目、輪積み痕残る。 内：頸部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
119	078	41	27	一括	土師器	甑	口縁～底部	17.2	5.0	20.8	4/7残	やや粗・灰色粒(0.4～0.8㎜)少量	良	外：5YR7/6橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
119	078	42	38	一括	土師器	甑	胴部上半～底部	—	(7.0)	—	1/2残	密・黒色粒(0.2～0.6㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：5YR6/8橙	外：ヘラケズリ。底部中央、径6.8cm程度の焼成前穿孔施す。底部付近、ヨコナデ。 内：ヘラナデ。底部付近、ヨコナデ。	
119	079	1	17	一括	弥生土器	壺	口縁～胴部	—	—	—	口縁～胴部片	密・黒色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：2.5YR5/8明赤褐	外：折り返し口縁下端部、欠失。口縁部、斜縄文巡る。頸部、ナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、ヘラミガキ、赤彩。	
119	079	2	29	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒灰色粒(0.3～0.5㎜)少量だが均等	良	外：10R5/8赤 内：10R5/6赤	外：折り返し口縁に羽状縄文巡り、下端部に、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、ヘラミガキ。赤彩。	3と同一個体か。
119	079	3	30	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.3～0.5㎜)微量	良	外：10R5/8赤 内：10R5/6赤	外：折り返し口縁に羽状縄文巡り、下端部に、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、赤彩。 内：ヘラミガキ。赤彩。	2と同一個体か。
119	079	4	3	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	やや粗・小石粒(1.0～1.5㎜)均等	良	外：5YR7/8橙 内：5YR5/2灰褐	外：折り返し口縁下端部に、ヘラ状工具による刻み目施す。 内：ナデ。	
119	079	5	8	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.4～0.5㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：10R4/6赤	外：折り返し口縁。口縁部、RLの斜縄文帯巡る。口縁下端部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、ヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラミガキ、赤彩。	
119	079	6	9	一括	弥生土器	壺	口縁部	(18.0)	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.5～1.0㎜)少量だが均等	やや不良	外：7.5YR3/1黒褐 内：7.5YR4/2灰褐	外：折り返し口縁下端部に、ヘラ状工具による刻み目施す。口縁部にRLの斜縄文帯巡る。 内：ヘラミガキ。	
119	079	7	10	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.5～1.5㎜)均等	良	外：5YR5/6明赤褐 内：5YR5/6明赤褐	外：折り返し口縁。口縁部に羽状縄文巡り、口縁端部にヘラ状工具による刻み目施す。頸部、ヘラナデ。 内：ナデ、ヘラナデ。	
120	079	8	18	一括	弥生土器	壺	頸部	—	—	—	頸部片	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR6/6橙 内：5YR6/8橙	外：頸部、沈線によって区画された羽状縄文巡る。 内：ナデ。	
120	079	9	19	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：5YR6/6橙	外：沈線で区画された羽状縄文巡る。無文部、ヘラミガキ、赤彩。 内：ナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
120	079	10	16	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部のみほぼ完形	密・灰色粒(0.2～0.4㎜)少量だが均等	良	外：10R4/8赤 内：5YR6/8橙	外：輪積み痕残し、縄文原体(一部ヘラ状工具も使用か)による刻み目施す。 直上に結節文帯巡る。無文部、赤彩。 内：ヘラナデ、ナデ。	
120	079	11	13	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR6/8橙 内：7.5YR6/6橙	外：肩部に結節文巡る。無文部、ナデ。 内：ナデ。	
120	079	12	11	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.4～0.7㎜)少量	良	外：5YR6/8橙 内：5YR6/8橙	外：肩部に結節文で区切られた羽状縄文巡る。胴部には沈線による連続山形文巡るか。 内：ナデ、ヘラナデ。	
120	079	13	31	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	やや粗・小礫、石英微粒少	良	外：7.5YR6/6橙 内：5YR6/8橙	外：S字状結節文(R)及び山形文による区画内に正撚り単節(RL)の斜縄文を施文する。	14と同一個体の可能性あり。
120	079	14	20,21,22,23	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	石英小粒少	良	外：2.5YR4/8赤褐 内：5YR6/6橙	外：S字状結節文(R)及び山形文による区画内に、正撚り単節(LR・RL)の斜縄文を施文する。区画外に赤彩施す。 内：横方向ナデ。	13と同一個体の可能性あり。
120	079	15	12	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR4/4にぶい赤褐 内：2.5YR4/4にぶい赤褐	外：沈線によって区画された中に、結節文巡る。無文帯、ヘラミガキ、赤彩か。 内：ヘラミガキ。	
120	079	16	14	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.4～1.0㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR6/8橙	外：結節文で区画されたRLの斜縄文巡る。 内：ナデ。	
120	079	17	24	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：7.5YR4/2灰褐 内：7.5YR5/3にぶい褐	外：口唇部、縄文原体による刻み目施す。口縁部、ナデ。 内：ナデ。	
120	079	18	28	一括	弥生土器	甕	口縁～胴部上半	(23.2)	—	—	1/4残	やや粗・白色粒(0.3～0.5㎜)微量	良	外：10YR5/3にぶい黄褐 内：10YR6/4にぶい黄橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部ヘラナデ。頸部下半、一段の輪積み痕残し、縄文原体による刻み目施す。 内：ヘラナデ。	
120	079	19	25,26	一括	弥生土器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	やや粗・灰色粒(0.5～0.8㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。口縁～頸部、ナデ。 内：ナデ。	
120	079	20	27	一括	弥生土器	甕	胴部	—	—	—	胴部片	密・褐色粒(0.2～0.4㎜)微量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：胴部上半、輪積み痕残し、縄文原体による刻み目施す。ヘラナデ、ナデ。 内：ナデ。	
120	079	21	15	一括	弥生土器	甕	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.3～0.7㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR5/6明赤褐	外：3段程の輪積み痕あり。ナデ、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
120	079	22	4	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(19.0)	—	—	1/8残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：7.5YR6/6橙	外：口唇部、ヨコナデ。口縁部～胴部上半、ハケメ。 内：口唇部、ヨコナデ。口縁部、ハケメ。胴部上半、ヘラナデ。	
120	079	23	7	一括	土師器	小型壺	胴部下半～底部	—	3.9	—	2/3残	密・赤色粒(0.8～1.0㎜)微量	良	外：2.5YR6/8橙 内：7.5YR5/4にぶい褐	外：ナデ、ヘラナデ。一部、指頭痕ありか。 内：ヘラナデ。	
120	079	24	5	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	(10.0)	—	1/10残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	不良	外：5YR6/8橙 内：5YR6/6橙	外：ヘラナデ。 内：ナデ、ヘラナデ。	
120	079	25	6	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	5.6	—	3/4残	密・白色粒(0.3～0.4㎜)少量	良	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：10YR6/4にぶい黄橙	外：胴部下端、ナデ、ヘラナデ。底部、ヘラケズリ状。 内：ヘラナデ。	
120	080	1	3	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	小片	軟質の褐鉄鉱多く、石英小粒含む	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：結節文により区切られた羽状縄文巡る。	
120	080	2	2	一括	弥生土器	甕転用甑	底部	—	(7.3)	—	小片	白色小粒、褐鉄鉱含む	良	外：7.5YR6/6橙 内：10YR6/4にぶい黄橙	外：焼成後に底部中央付近を穿孔。	
120	080	3	1	一括	土師器	高杯	脚部	—	—	—	1/5残	白色小粒多、石英小粒、褐鉄鉱含む	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内(脚内部)：5YR5/4にぶい赤褐	外：縦方向に全面をヘラミガキ、全面赤彩。 内：横方向にヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
121	083	1	4	一括	土師器	小型器台	器受部～脚部上半	(8.2)	—	—	1/3残	密・赤褐色粒(0.3～0.8㎜)微量	良	外：7.5YR6/6橙 内：5YR7/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。脚部、やや強いヘラナデ。体部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。脚部、ヘラナデ。体部、ヘラミガキ。	
121	083	2	1	一括	土師器	小型器台	脚部	—	8.2	—	2/3残	やや粗・赤褐色粒(0.5～0.7㎜)微量、黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：5YR6/6橙	外：脚部中位に3ヵ所(径1.2～1.3cm)、脚部下位に3ヵ所(径0.35～0.4cm)の焼成前穿孔(外→内)施す。ヘラミガキ。下端部、ヨコナデ。 内：脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
121	083	3	5	一括	土師器	高杯	脚部中位～下端部	—	(12.0)	—	1/2残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：2.5YR5/6明赤褐	外：脚部中位,3ヵ所に焼成前穿孔(外→内)施す。ヘラミガキ。赤彩。 内：脚部、ハケメ。下端部、ヨコナデ。	
121	083	4	3	一括	土師器	高坏	杯部下端～脚部	—	—	—	4/5残	密・白色粒(0.3～0.4㎜)微量	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR5/6明赤褐	外：ヘラナデ。やや強いヘラナデ。脚部下半､3ヵ所の焼成前穿孔(外→内)施す。 内：ナデ。一部ヘラナデ。	
121	083	5	2	一括	土師器	高坏	杯部下端～脚部	—	—	—	4/5残	密・白色粒(0.3～0.4㎜)微量	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR6/8橙	外：ヘラミガキ、ヘラナデ。 内：ナデ、ヘラナデ。	
121	083	6	9	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	(5.0)	—	3/8残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR6/6橙 内：7.5YR5/3にぶい褐	外：ナデ。ヘラナデ。 内：ナデ。ヘラナデ。	器面状態不良。
121	083	7	6	一括	土師器	甕	胴部中位～底部	—	8.0	—	4/5残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量だが均等	良	外：5YR3/1黒褐 内：2.5YR4/4にぶい赤褐	外：強いヘラナデ。ヘラナデ。一部、ハケメ状の痕跡残す。 内：ナデ。ヘラナデ。	
121	083	8	7	一括	土師器	壺	胴部下端～底部	—	(6.8)	—	1/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：ヘラケズリ。 内：ナデ。ヘラナデ。	
121	083	9	8	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	(6.5)	—	1/3残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：2.5YR4/4にぶい赤褐 内：7.5YR4/2灰褐	外：ヘラナデ。ヘラケズリ。 内：ナデ。ヘラナデ。	
121	084	1	2	一括	土師器	小型壺	口縁～胴部上端	(7.4)	—	—	1/4残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量、白色針状物(0.3㎜)微量	良	外：10R5/8赤 内：10R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。赤彩か。 内：口縁部、ヨコナデ。赤彩か。	
121	084	2	3	一括	土師器	小型甕	口縁～胴部上半	(8.4)	—	—	1/8残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量、白色針状物(0.2～0.3㎜)微量	良	外：7.5YR4/2灰褐 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。一部、ハケメ痕が若干残る。 内：口縁部、ハケメののちヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
121	084	3	5	一括	土師器	甕	口縁部	(17.0)	—	—	口縁部のみ1/10残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：ヨコナデ。 内：ヨコナデ。	
121	084	4	6	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	(9.4)	—	1/4残	密・赤褐色粒(0.3～0.8㎜)少量、白色針状物(0.3～0.4㎜)微量	良	外：10R5/8赤 内：2.5YR6/8橙	外：ナデ、ヘラナデ。 内：ナデ、ヘラナデ。	被熱受け、赤色化する。
121	084	5	7	一括	土師器	小型椀	胴部下半～底部	—	(3.4)	—	2/3残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5YR4/3褐 内：7.5YR3/1黒褐	外：ヘラナデ、一部、ハケメ痕残る。 内：ヘラナデ。	
121	084	6	4	一括	土師器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量	やや不良	外：5YR3/1黒褐 内：5YR2/1黒褐	外：折り返し口縁。ヨコナデ。頸部、ハケメ。 内：口縁部、ハケメののちヨコナデ。頸部、ハケメ。	
121	084	7	8	一括	弥生土器	甕	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：5YR6/6橙	外：一段の輪積み痕残し、ヘラ状工具による刻み目施す。ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
121	084	8	9	一括	弥生土器	甕	胴部	—	—	—	胴部片	密・赤褐色粒(0.5㎜)微量	良	外：5YR6/8橙 内：7.5YR6/6橙	外：輪積み痕残し、ヘラ状工具による刻み目施す。ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
122	085	1	1	一括	土師器	鉢	口縁～底部	14.0	—	8.9	ほぼ完形	やや粗・赤褐色粒(0.4～0.6㎜)微量	良	外：7.5R4/6赤 内：2.5YR5/8明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
122	085	2	2	一括	土師器	高杯	杯部口縁～杯部下端	(16.7)	—	—	1/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。一部、ハケメ状の痕跡残る。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。一部やや強いヘラナデ。赤彩。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
122	085	3	5	一括	土師器	小型器台	器受部～脚部上端	8.5	—	—	4/5残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R3/6暗赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラミガキ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラミガキ。赤彩。	内外面共丁寧な赤彩施す。
122	085	4	3	一括	土師器	高杯	杯部下端～脚部	—	10.6	—	2/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：10R4/8赤 内：5YR6/6橙	外：脚部、ヘラミガキ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
122	085	5	4	一括	土師器	高杯	脚部のみ	—	—	—	4/5残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/6橙	外：脚部、ヘラミガキ。下端部、ヨコナデ。 内：脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
122	085	6	18	一括	土師器	台付甕か	脚部	—	—	—	2/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：ヘラナデ。下半部、ハケメ。 内：ヘラナデ。	
122	085	7	6	一括	土師器	小型坩	口縁～頸部	(11.0)	—	—	1/8残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：7.5R4/8赤 内：7.5R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。頸部、ヘラミガキ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、ヘラミガキ、強いヘラナデ。赤彩。	
122	085	8	11	一括	土師器	小型壺	口縁～体部上半	9.4	—	—	1/2残	やや粗・赤色粒(0.4～0.5㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。口縁～体部、赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、ハケメ痕残る。口縁～頸部、赤彩。	
122	085	9	7	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	18.0	—	—	1/4残	密・白色粒(0.1～0.5㎜)微量	良	外：5YR2/1黒褐 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口唇部、ヨコナデ。頸部～胴部、ハケメ。 内：口唇部、ヨコナデ。頸部～胴部上半、ハケメ。胴部中位ヘラナデ。	
122	085	10	8	一括	土師器	甕	口縁～胴部中位	19.2	—	—	1/4残	密・黒色粒(0.2～0.5㎜)少量、白色針状物(0.2～0.3㎜)微量。	良	外：5YR6/6橙 内：2.5YR5/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
122	085	11	9	一括	土師器	甕	口縁～胴部	15.4	—	—	1/8残	密・白色粒(0.3～1.0㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR5/3にぶい褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。一部、ハケメ状の痕跡残る。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。一部、ハケメ状の痕跡残る。	
122	085	12	20	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(17.0)	—	—	1/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量、白色針状物(0.2～0.3㎜)微量	良	外：5YR4/1褐灰 内：5YR4/2灰褐	外：口縁部、ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
122	085	13	19	一括	土師器	壺	胴部下半～底部	—	5.8	—	4/7残	粗・白色粒(0.5～2.0㎜)多量	良	外：2.5YR6/6橙 内：2.5YR4/3にぶい赤褐	外：ナデ。 内：ナデ。	
122	085	14	10	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	6.2	—	4/5残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：7.5YR6/2灰褐 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
122	085	15	14	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	5.6	—	2/3残	密・赤褐色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR4/1褐灰	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	やや凹み底気味。
122	085	16	15	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	6.0	—	1/2残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR4/1褐灰	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	底部、輪台技法。
122	085	17	16	一括	土師器	小型鉢(ミニチュア土器)	口縁～底部	4.2	3.2	5.5	ほぼ完形	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：2.5YR4/6赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ハケメ。ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。体部上半、輪積み痕残る。	
122	085	18	12	一括	土師器	小型鉢	口縁～胴部下半	(7.6)	—	—	1/3残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ハケメ。 内：口縁部、ヨコナデ。	
122	085	19	13	一括	土師器	小型鉢	口縁～底部	(7.3)	(4.1)	(3.5)	3/7残	やや粗・白色粒(0.4～0.6㎜)少量だが均等	良	外：5YR4/2灰褐 内：5YR3/1黒褐	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ハケメ。ヘラナデ。 内：ヘラナデ。ハケメ。	底部、輪台技法。
123	086	1	3	一括	弥生土器	浅鉢	口縁～胴部上半	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：10R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、羽状縄文巡る。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラミガキ。赤彩。	
123	086	2	1	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：折り返し口縁。口縁部、結節文巡る。口縁下端部、ヘラ状工具による刻み目施す。無文部、粗いヘラミガキ。 内：ヨコナデ。ナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
123	086	3	2	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・灰色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：10R4/6赤 内：5YR6/8橙	外：結節文により区画された、沈線による連続山形文内に、斜縄文施す。 無文部、赤彩。 内：ヘラナデ。	
123	086	4	7	一括	弥生土器	甕	胴部下半～底部	—	6.2	—	1/2残	密・白色粒(0.4～0.5㎜)微量	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：10R4/8赤	外：ヘラナデ。 内：やや強いヘラナデ。	内面、被熱よく受け、赤色化する。
123	086	5	5	一括	弥生土器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。口縁部、数段の輪積み痕残す。 内：ヨコナデ。ナデ。	
123	086	6	8	一括	弥生土器	壺	底部	—	(9.0)	—	1/4残	密・茶褐色粒(0.3～0.4㎜)微量	良	外：5YR3/1黒褐 内：7.5YR7/6橙	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
123	086	7	6	一括	弥生土器	壺	底部	—	6.4	—	4/5残	密・白色粒(0.3～0.4㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
123	087	1	15	一括	土師器	有段口縁鉢	口縁～体部下半	(13.0)	—	—	1/8残	密・石英微粒多、海綿骨針微量	良	外：10R4/6赤 内：10R4/6赤	外：口縁部、ヨコ方向ナデ。体部、ヘラケズリ後ヘラミガキ、赤彩。 内：体部ヘラミガキ、赤彩。	
123	087	2	3	一括	弥生土器	高杯	杯部下端～脚部上半	—	—	—	4/5残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)微量	良	外：10R4/8赤 内：7.5YR7/6橙	外：脚部上端、隆帯巡り、ヘラ状工具による刻み目施す。脚部、ヘラミガキ。赤彩。 内：杯部内面、ナデ。ヘラナデ。脚部内面、ナデ。ヘラナデ。	
123	087	3	2	一括	土師器	小型器台	杯部下端～脚部中位	—	—	—	2/3残	密・赤褐色粒(0.5～1.5㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR6/8橙 内：5YR6/8橙	外：脚部中央に、焼成前穿孔(上→下)3ヵ所施す。器台部中央にも、焼成前穿孔(上→下)施す。脚部、ヘラミガキ。 内：ヘラナデ。	
123	087	4	17	一括	土師器	小型坩	口縁～体部	(12.2)	—	—	1/6残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量		外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR7/6橙	外：口縁部～頸部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。 内：口縁部～頸部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
123	087	5	1	一括	土師器	小型坩	頸部～底部	—	(2.8)	—	2/3残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量、白色針状物(0.2～0.3㎜)微量。	良	外：10R4/8赤 内：10R4/6赤	外：頸部、ヘラナデ。やや強いヘラナデ。胴部、ヘラケズリ。ヘラナデ。一部やや強いヘラナデ。赤彩施す。 内：頸部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。底部付近、一部ハケメ状の痕跡残る。	
123	087	6	11	一括	土師器	高杯	脚部	(12.0)	—	—	1/8残	密・黒色粒(0.5～1.0㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：下端部、折り返し状を呈す。ヨコナデ。脚部、ヘラミガキ。 内：下端部、ヨコナデ。脚部、粗いヘラミガキ。	
123	087	7	18	一括	土師器	壺	口縁～胴部上端	(15.0)	—	—	1/4残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、折り返し状に肥厚する。　口縁部～頸部、ヨコナデ。 内：ヨコナデ。	
123	087	8	19	一括	土師器	S字状台付甕	口縁～胴部上端	19.0	—	—	1/10残	密・白色粒(0.2㎜)微量	良	外：10YR6/3にぶい黄橙 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ハケメ。 内：口縁部～頸部、ヨコナデ。	
123	087	9	21	一括	土師器	甕	口縁～胴部上端	(17.8)	—	—	1/3残	やや粗・黒灰色粒(0.4～0.8㎜)微量	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：7.5YR6/6橙	外：口唇部、ヨコナデ。口縁部、ハケメ。頸部、ヨコナデ。 内：口唇部、ヨコナデ。口縁部、ハケメ。頸部～胴部、ヨコナデ。	
123	087	10	7	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(12.8)	—	—	1/8残	やや粗・赤色粒(1.0～2.0㎜)微量	良	外：7.5YR5/3にぶい褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。一部、ハケメの痕跡残る。胴部、ハケメ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
123	087	11	6	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(16.4)	—	—	1/6残	密・小礫(1.0～1.5㎜)微量	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。一部、ハケメの痕跡残る。胴部、ハケメ。 内：口縁部、ヨコナデ。一部、ハケメの痕跡残る。頸部、ハケメ。胴部、ヘラナデ。ハケメののち、ヘラナデを施している。	
123	087	12	23	一括	土師器	甕	口縁～頸部	(12.8)	—	—	1/8残	やや粗・小礫(1.0～5.0㎜)微量	良	外：2.5YR6/6橙 内：2.5YR5/6明赤褐	外：口唇部、ヨコナデ。口縁部～頸部、ハケメ痕残る。頸部、一部ヨコナデにより、ハケメ痕消える。 内：口縁部、ヨコナデ。口縁部～頸部、ハケメ痕残る。	
124	087	13	5,8	一括	土師器	甕	口縁～底部	17.0	5.4	27.4	2/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：斜方向ヘラ削り後、ミガキ状のヘラナデ。 内：斜方向にヘラ状工具によるナデ。	
124	087	14	10	一括	土師器	甕	口縁部	(13.0)	—	—	1/10残	密・白色粒(0.3～0.4㎜)微量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
124	087	15	24	一括	土師器	甕	底部	—	(6.0)	—	3/7残	やや粗・小石粒(5.0㎜)微量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：5YR3/1黒褐	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
124	087	16	25	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	(7.0)	—	1/4残	密・赤色粒(0.5～1.0㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：2.5YR6/6橙	外：ヘラケズリ、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
124	088	1	1	一括	弥生土器	鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、結節文により区画された羽状縄文帯巡る。無文部、赤彩。羽状縄文帯下部に径5.0～5.5㎜の焼成前穿孔(外→内)施す。 内：赤彩。	
124	088	2	2	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：7.5YR6/6橙	外：沈線により区画された羽状縄文帯巡る。無文部、赤彩。 内：ナデ。	
124	088	3	3	一括	土師器	壺	体部上端～体部下半	—	—	—	1/6残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：10R4/6赤 内：2.5YR5/6明赤褐	外：体部、ヘラミガキ。赤彩。 内：体部上半、輪積み痕残る。ヘラナデか。	
124	089	1	1	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：5YR4/2灰褐	外：沈線で区画された羽状縄文帯巡る。無文部、赤彩。 内：ヘラナデ。	
124	089	2	2	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量だが均等	良	外：10R4/6赤 内：2.5YR5/6明赤褐	外：沈線で区画された羽状縄文帯巡る。無文部、ヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラナデ。	
124	089	3	3	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・橙色粒(0.2～0.5㎜)均等	良	外：7.5R4/8赤 内：2.5R5/6明赤褐	外：沈線で区画された羽状縄文帯巡る。無文部、赤彩。 内：ナデ。	
124	089	4	4	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR6/8橙	外：結節文により区画された斜縄文帯巡る。 内：ナデ。	
124	089	5	5	一括	弥生土器	甕	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.1㎜)微量	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：輪積み痕残す。ナデ。 内：ヘラナデ。	
124	089	6	6	一括	土師器	鉢	胴部下端～底部	—	(5.0)	—	1/8残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：10R3/1暗赤灰	外：ヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラミガキ。黒赤色を呈している。赤彩はしていないと思われる。	
124	090	1	2	一括	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・(金)雲母粒(0.2～0.5㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：7.5YR5/3にぶい褐	外：口唇部､2列の角押文施す。 内：ナデ。	阿玉台式
124	091	1	1	一括	土師器	高杯	脚部	—	—	—	2/3残	密・赤褐色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR6/6橙 内：2.5YR6/6橙	外：脚部、ヘラミガキ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
124	091	2	6	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	(5.8)	—	1/4残	密・赤褐色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
125	091	3	2	一括	土師器	甕	頸部～底部	—	8.0	—	4/7残	やや粗・褐色粒(0.2～0.4㎜)均等	良	外：7.5YR3/1黒褐 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：頸部直下に1段の輪積み痕残す。強いヘラナデ。ヘラミガキ。 内：ヘラナデ。	
125	091	4	4	点	弥生土器	甕	口縁～胴部上半	(20.0)	—	—	1/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヘラ状工具による刻み目施す。胴部上半、輪積み痕残し、縄文原体押捺による刻み目施す。ヘラナデ。 内：強いヘラナデ。	
125	091	5	5	一括	縄文土器か	深鉢	底部	—	—	—	底部片	やや粗・白色粒(1.0～1.5㎜)少量	良	外：2.5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
125	092	1	7	点	土師器	杯	口縁～底部	14.6	4.0	5.1	4/5残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。上半部、赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
125	092	2	8	点	土師器	杯	口縁～底部	15.5	—	5.4	3/5残	密・赤色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
125	092	3	9	一括	土師器	杯	口縁～体部下端	(14.0)	—	—	1/4残	密・白色針状物(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：10R5/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
125	092	4	2	点	土師器	高杯	杯部口縁～脚部下端	16.0	13.0	12.8	4/7残	密・黒灰色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラケズリ。脚部、ヘラケズリ。ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。杯部内面、赤彩。	
125	092	5	1	一括	土師器	高杯	口縁～脚部	16.2	12.3	10.0	ほぼ完形	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内面：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラケズリ。脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。杯部内面、赤彩。	
125	092	6	3	一括	土師器	高杯	杯部口縁～脚部下端	15.2	12.4	11.0	4/5残	密・黒灰色粒(0.2～0.8㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラケズリ。脚部、ヘラナデ。ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。杯部内面、赤彩。一部、未赤彩部分残る。	
125	092	7	4	一括	土師器	高杯	杯部口縁～脚部下端	16.2	10.4	12.5	4/5残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラケズリ。ヘラナデ。脚部、ヘラケズリ。ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。脚部、ヘラナデ。 下端部、ヨコナデ。杯部内面、赤彩。底面に未赤彩部分残る。	
125	092	8	6	点	土師器	高杯	口縁～杯部下半	(16.2)	—	—	1/3残	やや粗・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量、白色針状物(0.3㎜)微量	良	外：10R4/8赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラケズリ。ヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。やや強いヘラナデ。赤彩。	
125	092	9	5	点	土師器	高杯	杯部口縁～杯部下端	16.3	—	—	3/7残	やや粗・黒色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：2.5YR5/6明赤褐(非赤彩部分)	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラケズリ。ヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。赤彩。底面付近、未赤彩部分残る。	
125	092	10	10	点	土師器	短頸壺	口縁～底部	8.0	—	8.7	4/5残	やや粗・白色粒(1.0～3.0㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：7.5YR3/1黒褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。強いヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。口縁部、赤彩。	
126	092	11	13	点	土師器	甕	口縁～底部	9.8	5.0	24.3	2/3残	やや粗・小礫(2.0～4.0㎜)微量	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
126	092	12	11	点	土師器	甕	口縁～底部	7.1	5.2	25.7	3/5残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量、白色針状物(0.2～0.3㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
126	092	13	12	点	土師器	小型甕	口縁～底部	11.5	3.8	17.9	5/7残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
126	092	14	16	点	土師器	甕	口縁～胴部上半	(16.0)	—	—	3/7残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
126	092	15	14	点	土師器	壺	胴部下半～底部	—	8.7	—	2/3残	やや粗・赤褐色粒(3.0～4.0㎜)少量	やや不良	外：5YR6/8橙 内：10YR7/3にぶい黄橙	外：胴部、ヘラナデ。 内：胴部、ヘラナデ。一部、ハケメ痕残る。	
126	092	16	19	一括	土師器	壺	胴部下半～底部	—	(5.3)	—	3/7残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR3/1暗赤灰 内：5YR6/8橙	外：ヘラミガキ。 内：ヘラナデ。	
126	092	17	18	一括	土師器	甕	底部	—	(7.8)	—	1/3残	やや粗・白色粒(1.0～1.5㎜)少量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/8明赤褐	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
126	092	18	17	点	土師器	甕	胴部下半～底部	—	6.2	—	2/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：2.5YR6/6橙 内：2.5YR5/6明赤褐	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
127	093	1	1,2	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	褐鉄鋼小粒～大粒、白色小粒含み、石英微粒多い	良	外：5YR5/6明赤褐 内：10YR6/6明黄褐	外：沈線によって区画された羽状縄文帯巡る。無文部、ヘラミガキ。赤彩。	2,3と同一個体の可能性あり。

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
127	093	2	3	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・赤褐色粒(0.4～1.5㎜)微量	良	外：10R5/8赤 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：沈線によって区画された羽状縄文帯巡り、直下に沈線により区画された連続山形文内に斜縄文施す。無文部、赤彩。 内：ヘラナデ。	1,3と同一個体の可能性あり。
127	093	3	4	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：10R5/8赤 内：7.5YR6/6橙	外：沈線によって区画された羽状縄文帯巡る。無文部、ヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラナデ。	1,2と同一個体の可能性あり。
127	093	4	5	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.5～0.8㎜)均等	良	外：10R4/8赤 内：2.5YR4/6赤褐	外：沈線によって区画された羽状縄文帯巡る。無文部、ヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラナデ。	
127	093	5	7	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	やや粗・赤褐色粒(0.3～0.4㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：5YR6/6橙	外：櫛描きによる簾状文の直下に、櫛描きによる波状文施す。 内：ナデ。ヘラナデ。	6と同一個体の可能性あり。
127	093	6	6	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	やや粗・白色粒(0.4～0.6㎜)微量	良	外：10R4/6赤 内：2.5YR6/6橙	外：沈線によって区画された中に、櫛描きによる波状文施す。無文部、赤彩。 内：ナデ。ヘラナデ。	5と同一個体の可能性あり。
127	093	7	8	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：10R4/8赤	外：斜格子文巡る。 内：ヘラミガキ。赤彩。	
127	094	1	4	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	2/3残	密・白色粒(0.5～1.5㎜)均等	良	外：10R4/8赤 内：2.5YR6/6橙	外：沈線によって区画された連続菱形文内に、斜縄文施す。 無文部、ヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラナデ。	
127	094	2	1	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	やや粗・白色粒(0.5～1.0㎜)少量だが均等	やや不良	外：7.5YR4/8赤 内：7.5YR6/6橙	外:折り返し口縁。口縁部、斜縄文巡り、下端部にヘラ状工具による刻み目施す。 内：ナデ。	
127	094	3	2	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.8～1.0㎜)均等	良	外：5YR6/6橙 内：10R4/6赤	外：折り返し口縁。口縁部、斜縄文巡り､2本の棒状浮文貼り付ける。 内：ヘラミガキ。赤彩。	
127	094	4	3	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.5～0.8㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外:折り返し口縁。口縁部、羽状縄文巡り、下端部に縄文原体による刻み目施す。 内：ヘラミガキ。赤彩。	
127	094	5	5	一括	弥生土器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.3～0.5㎜)少量	良	外：7.5YR4/2灰褐 内：5YR4/2灰褐	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。 内：ヘラナデ。	
127	094	6	6	一括	弥生土器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：2.5YR6/6橙 内：2.5YR4/2灰赤	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。 内：ヨコナデ。	
127	095	1	3	一括	土師器	杯	口縁～体部下半	(15.6)	—	—	1/8残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
127	095	2	4	一括	土師器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ヨコナデ。 内：ヨコナデ。	
127	095	3	5	一括	弥生土器	甕	底部	—	(7.0)	—	1/10残	密・白色粒(0.3～0.5㎜)微量	やや不良	外：5YR6/6橙 内：5YR5/3にぶい赤褐	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
127	095	4	1	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.3～0.5㎜)少量	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：10R4/6赤	外：折り返し口縁。口唇部、ヘラ状工具による浅い刻み目施す。 内：ヘラナデ。赤彩。	
127	095	5	2	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.8～1.0㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：5YR6/6橙	外：沈線によって区画された連続山形文内に、斜縄文施す。無文部ヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラナデ。	
127	096	1	2	一括	土師器	杯	口縁～底部	15.0	5.0	4.8	2/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：10R5/8赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
127	096	2	4	一括	土師器	杯	口縁～底部	15.6	—	5.3	4/5残	やや粗・赤色粒(1.0～2.0㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
127	096	3	3	一括	土師器	杯	口縁～底部	14.2	—	5.6	4/5残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5YR4/6赤 内：7.5YR4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。口縁～体部下半、赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
127	096	4	5	一括	土師器	杯	口縁～底部	(14.8)	—	(5.0)	3/7残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
127	096	5	7	一括	土師器	杯	口縁～底部	(14.5)	—	(4.7)	3/7残	やや粗・赤色粒(1.0～3.0㎜)微量	良	外：7.5YR4/8赤 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
127	096	6	9	一括	土師器	杯	口縁～ 体部下半	(15.8)	—	—	1/3残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
127	096	7	8	一括	土師器	杯	口縁～ 体部下半	(14.8)	—	—	1/3残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
127	096	8	6	一括	土師器	杯	体部上半～ 底部	—	—	—	3/4残	密・灰色粒(0.3～0.4㎜)少量	良	外：10R5/6赤 内：10R5/8赤	外：体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：体部、ヘラナデ。赤彩。	
127	096	9	10	一括	土師器	鉢	口縁～底部	11.2	4.2	7.3	4/5残	やや粗・小礫(1.0～3.0㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：10R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
128	096	10	11	一括	土師器	鉢	口縁～ 体部下半	(12.0)	—	—	3/7残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR4/6赤 内：7.5YR4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
128	096	11	20	一括	土師器	高杯	口縁～ 杯部下半	(21.0)	—	—	1/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
128	096	12	21	一括	土師器	高杯	杯部下端～ 脚部	—	17.0	—	1/2残	密・褐色粒(0.5～2.5㎜)微量	良	外：10R5/8赤 内：5YR2/1黒褐	外：脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
128	096	13	23	一括	土師器	高杯	脚部	—	—	—	4/5残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5YR7/6橙	外：脚部、ヘラミガキ。赤彩。 内：脚部、ヘラナデ。下端部、一部ハケメ痕残る。脚部上面中央に、径8㎜程度の焼成前穿孔施す。	
128	096	14	24	一括	土師器	高杯	杯部下端～ 脚部	—	—	—	4/7残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：10R5/6赤 内：5YR6/6橙	外：強いヘラナデ。赤彩。 内：ヘラナデ。	
128	096	15	25	一括	土師器	高杯	脚部	—	—	—	1/2残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：10R5/6赤 内：2.5YR6/6橙	外：ヘラナデ。赤彩。 内：ヘラナデ。	
128	096	16	16,19	一括	土師器	甕 (はそう)	口縁～ 体部下位	7.3	—	—	3/5残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：体部下位を横方向ヘラ削り後、体部中位から上位を横方向ヘラミガキ、頸部縦方向ヘラミガキ。体部中位を1ヵ所穿孔する。 内：ヘラ状工具で斜方向ヘラナデ。頸部縦方向ヘラミガキ。	
128	096	17	18	一括	土師器	坩	口縁～頸部	(9.4)	—	—	1/4残	密・赤褐色粒(0.3～1.2㎜)微量	良	外：10R4/6赤 内：10R4/6赤	外：ヨコナデ。赤彩。 内：ヨコナデ。赤彩。	
128	096	18	15,17	一括	土師器	坩	口縁～底部	9.5	4.1	14.5	2/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：体部、横方向ヘラナデ、頸部縦方向ヘラナデ、ハケメ状痕跡薄く付く。その後、口縁部を横方向ナデ。 内：底部から体部下位に向け、半時計回りにヘラナデ、ハケメ状痕跡付く。体部中位は横方向ナデ。頸部は横方向ナデ、ハケメ状痕跡薄く付く。	
128	096	19	14	一括	土師器	坩	頸部上半～ 底部	—	5.0	—	4/5残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量、白色針状物(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：10R5/8赤 内：7.5YR6/6橙	外：頸部、ハケメ。胴部、ヘラナデ。赤彩。 内：頸部、ヘラナデ。胴部、下半部ハケメ。上半部ヘラナデ。頸部、赤彩。	
128	096	20	38	点	土師器	壺	口縁～底部	11.2	6.7	21.0	9/10残	密・小礫(0.3～0.8㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR4/2灰褐	外：口縁部、折り返し口縁。ヨコナデ。口縁直下に、ハケメ痕わずかに残る。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。胴部下端部、ハケメ痕残る。	
128	096	21	63	一括	土師器	甕	口縁～底部	(12.4)	(5.0)	(23.4)	1/3残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量、白色針状物(0.2～0.3㎜)微量	良	外：2.5YR6/8橙 内：5YR7/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。頸部、一部ハケメ痕残る。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
129	096	22	29	一括	土師器	甕	口縁～底部	17.2	5.6	25.6	9/10残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：2.5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。頸部～胴部上半、ハケメ痕残る。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。口縁下半部、ハケメ痕残る。胴部、ヘラナデ。	
129	096	23	28	一括	土師器	甕	口縁～底部	15.7	6.0	26.0	9/10残	密・赤褐色粒(0.3～2.0㎜)微量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
129	096	24	30	一括	土師器	甕	口縁～底部	(16.0)	7.5	27.0	5/7残	密・黒灰色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部上半、やや強いヘラナデ。胴部下半、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
129	096	25	27	一括	土師器	甕	口縁～底部	(17.0)	5.3	(25.8)	2/3残	密・赤褐色粒(0.5～3.0㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
129	096	26	37	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(20.0)	—	—	1/4残	密・白色粒(0.5～1.0㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR5/3にぶい褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
129	096	27	35	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	15.4	—	—	2/3残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
130	096	28	32	一括	土師器	甕	口縁～胴部下端	18.0	—	—	4/5残	密・灰色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。頸部、ハケメ。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。口縁下端部、ハケメ痕残る。胴部、ヘラナデ。 一部、輪積み痕残る。	
130	096	29	33	一括	土師器	甕	口縁～胴部下半	16.0	—	—	2/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
130	096	30	42	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(15.0)	—	—	1/3残	密・赤褐色粒(1.5～3.0㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
130	096	31	36	一括	土師器	甕	口縁～胴部上端	(17.2)	—	—	1/3残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)均等	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	外面、調整痕不明瞭。
130	096	32	43	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(17.0)	—	—	1/4残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR4/2灰褐	外：口縁部、ヨコナデ。頸部、ハケメ状のヘラケズリ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ハケメ状のヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
130	096	33	34	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	17.6	—	—	3/4残	やや粗・赤色粒(1.0～2.0㎜)微量	良	外：2.5YR6/6橙 内：2.5YR6/6橙	外:口縁部、ヨコナデ。頸～胴部、ハケメののち、ヘラナデ。粗いハケメ痕残る。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、粗いハケメ痕残る。胴部、ヘラナデ。	
130	096	34	64	一括	土師器	甕	頸部～底部	(13.9)	(6.3)	24.4	3/7残	密・白色粒(0.3～0.5㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：5YR6/6橙	外：胴部、ヘラケズリ。 内：頸部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
130	096	35	1	一括	土師器	甕	胴部上端～底部	—	5.4	—	2/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：7.5YR5/4にぶい褐	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
131	096	36	45	一括	土師器	壺か	胴部下半～底部	—	(9.0)	—	3/7残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
131	096	37	46	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	(7.0)	—	2/5残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：ヘラナデ。ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
131	096	38	44	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	7.8	—	1/2残	粗・小礫(0.5～3.0㎜)均等	良	外：2.5YR6/6橙 内：5YR2/1黒褐	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
131	096	39	50	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	6.5	—	2/3残	密・赤褐色粒(0.5～1.5㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR6/6橙	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
131	096	40	31	一括	土師器	壺	胴部下端～底部	—	6.0	—	4/5残	密・黒灰色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：ヘラナデ。やや強いヘラナデ。 内：ヘラナデ。	底部、輪台技法。
131	096	41	49	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	(7.0)	—	1/3残	やや粗・小礫(1.0～2.0㎜)少量	良	外：10R4/4赤褐 内：10R5/6赤	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	被熱受け、赤色化する。
131	096	42	47	一括	土師器	壺	胴部下端～底部	—	(6.0)	—	1/3残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
131	096	43	52	一括	須恵器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	緻密・白色粒(0.3～0.5㎜)少量だが均等	良好	外：5Y5/1灰 内：5Y4/1灰	外：口縁部、ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。	
131	096	44	65	一括	須恵器	大甕	口縁～底部	42.0	12.0	86.7	4/5残	硬密・白色小粒少量含む	良好	外：2.5Y7/1黄灰 内：2.5Y5/1黄灰	外：底部丸底。口唇部鋭く外反気味。口縁下位の凸帯も鋭い。体部全面に凸帯14条程度を単位とする平行線タタキ目が付く。 内：同心円状の当て具痕を体部全面に付した後、軽いナデ。	
132	097	1	1	点	弥生土器	甕	口縁～底部	23.3	5.8	20.8	4/5残	密・白色粒(0.2～0.8㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：5YR6/8橙	外：口縁部、折り返し口縁。口縁上端部に、ヘラ状工具による刻み目施す。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
132	097	2	2	点	弥生土器	甕	口縁～ 胴部下半	19.6	—	—	1/3残	粗・小礫(0.8～2.0㎜)均等	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/8黄橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。口縁部、ヨコナデ。一段の輪積み痕残す。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。ナデ。	
132	097	3	3	点	弥生土器	甕	口縁～頸部	21.4	—	—	1/8残	やや粗・小礫(2.0～5.0㎜)微量	やや不良	外：7.5YR3/2黒褐 内：7.5YR6/6橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。口縁～頚部、ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。頚部、一部ヘラナデ。	
132	098	1	2	一括	弥生土器か	甕	底部	—	—	—	底部片	粗・白色粒(0.8～1.5㎜)均等	やや不良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR4/2灰褐	外：ナデ。 内：ナデ。	
132	098	2	1	一括	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	胴部片	密・雲母粒(0.2～0.8㎜)少量	やや不良	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：平行する沈線文に沿って、爪形文が施された隆線巡る。 内：ナデ。	
134	100	1	1	点	土師器	鉢	口縁～底部	14.0	—	5.1	4/5残	やや粗・小礫(0.5～2.0㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。ヘラミガキ。赤彩。	
134	100	2	16	点	土師器	杯	口縁～底部	14.3	—	5.2	ほぼ完形	密・白色微粒及び石英小粒多、海綿骨針少量含む	良	外：5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：底部から体部を時計回りにヘラケズリ後、口縁部横方向ナデ、全面赤彩。 内：内面底部中央ヘラナデ後、体部横方向ナデ。全面赤彩。	外面口縁部の一部に煤付着。
134	100	3	22	一括	土師器	杯	口縁～底部	(16.0)	—	(5.6)	1/3残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：10R5/6赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
134	100	4	15	一括	土師器	杯	口縁～底部	13.9	—	5.4	完形	白色微粒、石英小粒、小礫多く含む	良	外：5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：底部から体部を反時計回りにヘラケズリ後、口縁部横方向ナデ、全面赤彩。 内：内面底部中央ヘラナデ後、口縁部横方向ナデ。全面赤彩。	
134	100	5	10	点	土師器	杯	口縁～底部	16.4	—	6.8	1/2残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：10R4/8赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
134	100	6	13	点	土師器	杯	口縁～底部	14.3	—	6.0	ほぼ完形	密・白色微粒、石英小粒多。海綿骨針少量含む	良	外：5YR6/6橙 内：2.5YR5/6明赤褐	外：底部から体部を時計回りにヘラケズリ後、口縁部横方向ナデ、全面赤彩。 内：内面底部中央ヘラナデ後、体部横方向ナデ。全面赤彩。	
134	100	7	14	点	土師器	杯	口縁～底部	16.5	—	6.1	4/5残	密・白色微粒多い。石英小粒、海綿骨針含む	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：底部から体部を時計回りにヘラケズリ後、口縁部横方向ナデ、全面赤彩。 内：内面底部中央ヘラナデ。全面赤彩。	
134	100	8	3	点	土師器	杯	口縁～底部	15.2	—	5.0	9/10残	やや粗・小礫(2.0～3.0㎜)微量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
134	100	9	9	一括	土師器	杯	口縁～底部	17.0	—	6.0	5/8残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：7.5R4/4にぶい赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
134	100	10	18	点	土師器	杯	口縁～底部	16.7	—	4.9	4/5残	密・石英小粒、褐鉄鉱含む	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：底部から体部を時計回りにヘラケズリ後、口縁部横方向ナデ、全面赤彩。 内：内面底部中央ヘラナデ。全面赤彩。	
134	100	11	11	点	土師器	杯	口縁～底部	14.4	—	4.6	4/7残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。体部下端部、ヘラケズリ。口縁～体部下端、赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
134	100	12	29	一括	土師器	杯	口縁～底部	(15.8)	—	(3.9)	1/4残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5R4/4にぶい赤 内：7.5R4/4にぶい赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
134	100	13	2	一括	土師器	杯	口縁～底部	16.0	—	5.9	9/10残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	内面、黒ずんでいる。
134	100	14	4	点	土師器	杯	口縁～底部	15.8	—	5.3	4/5残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	外面底部、黒班あり。
134	100	15	27	点	土師器	杯	口縁～底部	(16.0)	—	(6.0)	1/3残	密・白色針状物(0.2～0.3㎜)微量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
134	100	16	25	一括	土師器	杯	口縁～底部	(15.8)	—	(5.8)	1/3残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
134	100	17	17	点	土師器	杯	口縁～底部	15.4	—	5.0	完形	密・白色微粒、石英小粒含む。海綿骨針少量含む	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：底部から体部を反時計回りにヘラケズリ後、口縁部横方向ナデ、底部を除き体部から口縁部にかけて赤彩。 内：内面底部中央ヘラナデ。全面赤彩。	
134	100	18	8	点	土師器	杯	口縁～底部	16.6	—	5.8	5/8残	密・褐色粒(1.0～3.0㎜)微量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
135	100	19	20	一括	土師器	杯	口縁～底部	16.8	—	6.0	9/10残	密・黒灰色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
135	100	20	12	点	土師器	杯	口縁～底部	14.9	—	6.0	5/8残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
135	100	21	26	一括	土師器	杯	口縁～底部	14.8	—	5.8	1/2残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：10R4/6赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
135	100	22	28	点	土師器	杯	口縁～底部	15.8	—	5.5	4/5残	やや粗・小礫(1.0～3.0㎜)微量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。口縁～体部下端、赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
135	100	23	21	点	土師器	杯	口縁～底部	15.6	—	6.3	4/5残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：10R5/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
135	100	24	23	一括	土師器	杯	口縁～底部	(17.0)	—	(5.3)	3/7残	密・赤褐色粒(2.0～4.0㎜)微量	良	外：10R5/8赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	外面底部、黒班あり。
135	100	25	24	一括	土師器	杯	口縁～底部	(16.5)	—	(5.5)	4/9残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：7.5R4/4にぶい赤 内：7.5R4/4にぶい赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
135	100	26	7	一括	土師器	杯	口縁～底部	15.4	—	4.3	4/5残	密・黒灰色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
135	100	27	6	点	土師器	杯	口縁～底部	16.4	—	4.9	9/10残	密・黒灰色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
135	100	28	19	点	土師器	杯	口縁～底部	(17.0)	—	(4.7)	3/7残	密・灰色粒(0.3～0.5㎜)少量	良	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：10R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。口縁～体部中位、赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	外面、器面の磨耗著しい。
135	100	29	5	点	土師器	杯	口縁～底部	16.3	—	4.5	4/5残	やや粗・褐色粒(1.0～3.0㎜)微量	良	外：7.5YR4/6赤 内：7.5YR4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
135	100	30	89	一括	土師器	杯	口縁～ 杯部下半	(14.8)	—	—	1/3残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量、白色針状物(0.2㎜)微量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
135	100	31	116	一括	土師器	杯	口縁～ 体部下半	(15.9)	—	—	1/6残	やや粗・黒灰色粒(0.5～2.0㎜)微量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
135	100	32	115	一括	土師器	杯	口縁～底部	(15.8)	—	—	1/5残	密・石英微粒多い	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：底部から体部を時計回りにヘラケズリ後、口縁部横方向ナデ、全面赤彩。 内：横方向ナデ。全面赤彩。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
135	100	33	90	一括	土師器	杯	口縁～ 杯部下半	(15.5)	—	—	1/4残	密・白色粒(0.1～ 0.3㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
135	100	34	83	点	土師器	蓋	つまみ～ 下端部	1.5	10.4	3.8	ほぼ完形	密・黒灰色粒(0.1～ 0.2㎜)微量、白色針 状物(0.2～0.3㎜)微 量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5YR4/6赤	外：つまみ、ナデ。天井部、ヘラケズリ、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。 赤彩。 内：天井部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。赤彩。	
135	100	35	56	一括	土師器	小型丸底 壺	口縁～底部	12.0	3.0	10.1	4/5残	密・白色粒(0.2～ 0.3㎜)少量	良	外：7.5R4/8赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。赤彩。	
135	100	36	57	点	土師器	小型丸底 壺	口縁～底部	10.2	4.0	7.7	ほぼ完形	密・小礫(0.2～ 0.3㎜)少量だが均等	良	外：10R4/6赤 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ、赤彩。胴部、ヘラナデ。	
136	100	37	67	点	土師器	椀	口縁～底部	10.3	2.5	9.5	9/10残	密・白色粒(0.2～ 0.4㎜)少量だが均等	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。赤彩。	
136	100	38	97	一括	土師器	鉢	口縁～ 胴部下半	(15.0)	—	—	1/4残	密・白色粒(0.1～ 0.4㎜)微量	良	外：10R4/4赤褐 内：10R4/3赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。赤彩。	
136	100	39	58	点	土師器	甕 (はそう)	口縁～ 胴部下半	(7.0)	—	—	2/3残	密・白色粒(0.1～ 0.2㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。頸～胴部、ヘラナデ。一部、ヘラミガキ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、ヘラナデ。赤彩。胴部、ヘラナデ。	体部上半、径1.1～1.25㎝の焼成前穿孔(上→下)施す。
136	100	40	62	点	土師器	坩	口縁～底部	9.9	4.0	16.0	4/5残	密・黒灰色粒(0.1～ 0.2㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：10R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、ヘラナデ。赤彩。胴部、ヘラナデ。	底部付近、黒班あり。
136	100	41	64	点	土師器	坩	頸部～底部	—	4.0	—	3/5残	密・黒灰色粒(0.2～ 0.3㎜)微量	良	外：10R5/8赤 内：10R5/8赤	外：頸部、ヘラナデ。胴部、ヘラナデ。赤彩。 内：頸部、ヘラナデ。赤彩。胴部、ヘラナデ。	外面及び内面頸部、荒れていて、調整痕不明瞭。
136	100	42	59	点	土師器	坩	口縁～底部	10.6	5.6	16.6	9/10残	密・白色粒(0.2～ 0.3㎜)微量	良	外：10R5/8赤 内：5YR6/6橙	外：口唇部、ヨコナデ。頸部、ヘラミガキ、ヘラナデ。一部、ハケメ痕残る。 胴部、ヘラミガキ、ヘラナデ。下部を中心にハケメ痕残る。赤彩。 内：口唇部、ヨコナデ。頸部、ヘラナデ、ヘラミガキ。赤彩。胴部、ヘラナデ。	底部付近、黒班あり。
136	100	43	60	一括	土師器	坩	口縁～底部	10.0	4.2	15.6	ほぼ完形	密・白色粒(0.1～ 0.2㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5YR7/6橙	外：口唇部、ヨコナデ。頸部、ヘラミガキ、ヘラナデ。胴部、ヘラナデ。赤彩。 内：口唇部、ヨコナデ。頸部、ヘラナデ、ヘラミガキ。赤彩。胴部、ヘラナデ。	底部付近、黒班あり。
136	100	44	63	点	土師器	坩	頸部～底部	—	3.6	—	4/5残	密・黒色粒(0.2～ 0.4㎜)少量だが均等	良	外：10R4/8赤 内：2.5YR6/6橙	外：頸部、強いヘラナデ。胴部、ヘラナデ。やや強いヘラナデ。赤彩。 内：頸部、強いヘラナデ。胴部、ヘラナデ。頸部、赤彩。	
136	100	45	61	一括	土師器	坩	頸部～ 胴部下半	—	—	—	1/3残	密・黒色粒(0.1～ 0.2㎜)少量だが均等	良	外：7.5R4/8赤 内：7.5R4/6赤	外：頸部、ヘラナデ。胴部、ヘラナデ。赤彩。 内：頸部、ヘラナデ。赤彩。胴部、ヘラナデ。	
136	100	46	30	点	土師器	高杯	口縁～脚部	22.7	15.5	16.5	9/10残	密・白色粒(0.1～ 0.2㎜)少量、白色針 状物(0.2㎜)微量	良	外：7.5R4/6赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。 赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。赤彩。脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
136	100	47	32	点	土師器	高杯	口縁～脚部	18.2	12.8	14.3	ほぼ完形	やや粗・灰褐色粒 (1.0～4.0㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
137	100	48	34	点	土師器	高杯	口縁～脚部	15.2	12.2	13.4	ほぼ完形	密・白色微粒、石英 小粒含む。海綿骨針、 小礫少量含む	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：杯部は脚接合部から稜部に向け放射状にヘラナデ。稜から口縁まで横方向ナデ。脚部は直立部を縦方向ヘラナデ、下端部を横方向ナデ。全面赤彩。 内:杯部は内面底部中央に交差するようなヘラナデ、立ち上がり部は横方向ナデ。全面赤彩。脚内部は直立部を縦方向ナデ、下端部を横方向ナデ。	
137	100	49	133	一括	土師器	高杯	口縁～脚部	16.0	12.2	13.0	3/5残	やや粗・黒色粒 (0.2～0.4㎜)少量だ が均等	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。 赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。赤彩。脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
137	100	50	43,132	点	土師器	高杯	口縁～脚部	15.4	11.2	12.9	4/5残	密・石英小粒、海綿 骨針少量含む	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：杯部は脚接合部から稜部に向け放射状にヘラナデ後横方向ナデ。稜から口縁まで横方向ナデ。脚部は直立部を縦方向ヘラナデ、下端部を横方向ナデ。全面赤彩。 内:杯部は内面底部中央に交差するようなヘラナデ、立ち上がり部は横方向ナデ。全面赤彩。脚内部は直立部を縦方向ナデ、下端部を横方向ナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
137	100	51	39	点	土師器	高杯	口縁～脚部	16.1	12.1	12.7	ほぼ完形	密・石英微粒含む。褐鉄鉱、海綿骨針少量含む	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：杯部は脚接合部から稜部にかけて放射状にヘラナデ後横方向ナデ。稜から口縁まで横方向ナデ。脚部は直立部を縦方向ヘラナデ後横方向ナデ、下端部を横方向ナデ。全面赤彩。 内:杯部は内面底部中央に交差するようなヘラナデ、立ち上がり部は横方向ナデ。赤彩は内面底部中央に塗り残しが生じている。脚内部は直立部を縦方向ナデ、下端部を横方向ナデ。	
137	100	52	31	一括	土師器	高杯	口縁～脚部	16.5	12.0	12.3	4/7残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量、白色針状物(0.2㎜)微量	良	外：10R5/8赤 内：10R5/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。赤彩。脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
137	100	53	40	一括	土師器	高杯	口縁～脚部	16.4	13.2	11.5	4/5残	石英微粒、褐鉄鉱多い。海綿骨針少量含む	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：7.5YR6/6橙	外：杯部は脚接合部から稜部にかけて放射状にヘラナデ後横方向ナデ。稜から口縁まで横方向ナデ。脚部は直立部を縦方向ヘラナデ後横方向ナデ、下端部を横方向ナデ。全面赤彩。 内:杯部は内面底部中央に交差するようなヘラナデ、立ち上がり部は横方向ナデ。全面赤彩。脚内部は直立部を縦方向ナデ、下端部を横方向ナデ。	
137	100	54	37	一括	土師器	高杯	口縁～脚部	15.9	12.5	12.0	ほぼ完形	密・白色微粒、石英小粒多	良	外：2.5YR6/6橙 内：2.5YR5/6明赤褐	外：杯部は脚接合部から稜部にかけて放射状にヘラナデ後、稜部付近を横方向ナデ。稜から口縁まで横方向ナデ。脚部は直立部を縦方向ヘラナデ後、斜方向ヘラナデし、杯部との接合部付近に粗いハケメ状痕跡付く。下端部を横方向ナデ。全面赤彩。 内：杯部は横方向ナデ、立ち上がり部は横方向ナデ。口縁付近をヘラ状工具で横方向ナデし､粗いハケメ状痕跡残す。全面赤彩。脚内部は直立部を縦方向ナデ、下端部を横方向ナデ、一部に粗いハケメ状痕跡残す。	
137	100	55	170	点	土師器	高杯	口縁～脚部	15.3	11.3	11.5	4/5残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯～脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯～脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。杯部内面、赤彩。	
137	100	56	38	点	土師器	高杯	口縁～脚部	15.2	11.6	12.0	ほぼ完形	白色微粒、褐鉄鉱、石英微粒、海綿骨針少量含む	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：杯部は脚接合部から稜部にかけて放射状にヘラナデ。稜から口縁まで横方向ナデ。脚部は直立部を縦方向ヘラナデ。下端部を横方向ナデ。全面赤彩。 内：杯部をヘラナデ、立ち上がり部は横方向ナデ。全面赤彩。脚内部は直立部を縦方向ナデ、下端部を横方向ナデ。	
137	100	57	41	一括	土師器	高杯	口縁～脚部	15.5	11.6	11.6	4/5残	密・褐鉄鉱、小礫含む	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：杯部は脚部上位から接合部を経て稜部に向けて放射状にヘラナデし、粗いハケメ状痕跡付く。稜部付近は横方向ナデ。稜から口縁まで横方向ナデ。脚部は直立部を縦方向ヘラナデ後横方向ナデ。下端部は放射状にヘラナデし粗いハケメ状痕跡付くが、その後、横方向ナデを施す。全面赤彩。 内:杯部は横方向ナデ。内面底部中央を残し赤彩。脚内部は直立部を縦方向ナデ、下端部を横方向にヘラナデし、粗いハケメ状痕跡残す。	
138	100	58	36	点	土師器	高杯	口縁～脚部	16.8	12.6	11.1	ほぼ完形	やや粗・白色微粒、石英小粒多	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR6/8橙	外：杯部は脚部上位から接合部を経て稜部に向けて放射状にヘラナデ。稜から口縁までは下位を上方向にヘラナデ後、上位を横方向ナデ。脚部は直立部を縦方向ヘラナデ後横方向ナデ。下端部は横方向ナデ。全面赤彩。 内：杯部は横方向ナデ。赤彩を施すが、内面底部中央は塗り残したものと思われる。脚内部は直立部を縦方向ナデ、下端部を横方向にヘラナデし、部分的にハケメ状痕跡残す。	
138	100	59	33	点	土師器	高杯	口縁～脚部	15.8	12.4	10.9	4/5残	密・黒灰色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：10R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。赤彩。脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
138	100	60	91	一括	土師器	高杯	口縁～ 脚部中位	15.0	—	—	2/3残	密・黒灰色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	良	外：10R5/6赤 内：10R5/8赤	外:口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ、ヘラケズリ。脚部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。赤彩。脚部、ヘラナデ。	
138	100	61	35	一括	土師器	高杯	口縁～脚部	17.0	13.8	12.5	ほぼ完形	白色微粒、石英微粒含む。海綿骨針少量含む	良	外：10R5/6赤 内：10R5/8赤	外：杯部は脚部上位から接合部を経て稜部にかけて放射状にヘラナデ。稜から口縁までは縦方向ヘラナデにより粗いハケメ状痕跡付く。その後横方向ナデ。脚部は直立部を縦方向ヘラナデ後横方向ナデ。下端部は横方向ナデ。全面赤彩。 内：杯部は横方向にヘラナデ。全面赤彩。脚内部は直立部を縦方向ナデ、下端部を横方向にヘラナデし、部分的にハケメ状痕跡残す。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量（復元値）（cm）			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
138	100	62	42	一括	土師器	高杯	口縁～脚部	18.2	—	—	1/4残	白色微粒、石英小粒含む。海綿骨針少量含む	良	外：5YR6/6橙 内：2.5YR6/8橙	外：杯部は脚部接合部から稜部にかけて放射状にヘラナデ後、稜付近を横方向ヘラケズリ2段。稜から口縁までは横方向ナデ。脚部は直立部を縦方向ヘラナデ後横方向ナデ。全面赤彩。 内：杯部は横方向ナデ。全面赤彩。脚内部は直立部を縦方向ナデ。	
138	100	63	88	点	土師器	高杯	口縁～脚部	16.0	11.9	13.2	ほぼ完形	密・灰色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：10R5/8赤	外：杯部は脚部接合部から上方向にヘラ削り後、杯部下位を反時計回りにヘラケズリ、全面横方向ナデ。脚部は支柱部を縦方向ヘラケズリ後、全面横方向ナデ。全面赤彩。 内：横方向にヘラナデ。赤彩は内面底部中央を塗り残すが、塗り残し中央に「一」の字状に赤彩を施す。	
138	100	64	92,161	点	土師器	高杯	口縁～脚部	17.2	12.4	12.3	4/5残	褐鉄鉱、石英微粒含む	良	外：7.5YR4/4にぶい赤 内：7.5YR4/6赤	外：脚部縦方向ヘラケズリ、杯下部横方向ヘラナデ後、全面をナデ、内面底部中央以外を赤彩。 内：杯部は横方向にヘラナデ、赤彩。脚部はヘラ状工具でナデ。	
138	100	65	46,51	点	土師器	高杯	口縁～脚部	15.5	12.5	11.2	4/5残	白色微粒多、石英小粒少	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：杯部、脚部との接合部から上方向にヘラケズリ後、横方向にヘラケズリ、横方向ナデ。脚部は縦方向ヘラケケズリ後横方向ナデ。全面赤彩。 内：杯部は横方向ヘラナデ後、全面赤彩。ただし内面底部中央を塗り残している可能性がある。脚部は内部をヘラ状工具で強くナデ。	
138	100	66	44	一括	土師器	高杯	杯部	11.8	—	—	1/2残	白色微粒多、石英小粒多、褐鉄鉱多、海綿骨針微量含む	良	外：2.5YR6/6橙 内：2.5YR5/6明赤褐	外：杯部は下位を反時計回りにヘラケズリ後、横方向ナデ。中位の稜線は一部不明瞭。全面赤彩。 内：杯部は横方向ナデ。全面赤彩。	
138	100	67	131	一括	土師器	高杯	口縁～ 杯部下端	(16.4)	—	—	1/3残	やや粗・黒色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：7.5R4/6赤 内：10R5/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。赤彩。	
138	100	68	49	点	土師器	小型高杯	口縁～脚部	9.9	8.1	7.5	完形	白色小粒、石英小粒、海綿骨針含む	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：杯部は脚部接合部から稜部にかけて斜方向ヘラナデ。稜から口縁までは横方向ナデ。脚部は直立部を縦方向ヘラナデ後横方向ナデ、下端部は横方向ナデ。全面赤彩。 内：杯部は横方向ナデ。全面赤彩。脚内部は直立部を斜方向ナデ、下端部を横方向ヘラナデ。	
138	100	69	55	一括	土師器	小型高杯	脚部	—	8.2	—	1/4残	硬密・白色微粒多。石英小粒、海綿骨針少量含む	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：直立部を縦方向ヘラナデ後、横方向ナデ、下端部を横方向ナデ。赤彩。 内：横方向ヘラケズリ。	
138	100	70	106	一括	土師器	小型鉢（ミニチュア土器）	口縁～底部	5.0	3.2	2.4	4/5残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：7.5YR7/6橙	外：ヘラナデ、ユビナデ、ユビオサエ。 内：ヘラナデ、ユビナデ、ユビオサエ。指頭痕あり。	
139	100	71	72	点	土師器	甕	口縁～底部	16.2	5.8	(23.4)	4/7残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。胴部上半、ハケメ痕残る。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
139	100	72	70	点	土師器	甕	口縁～底部	(14.6)	(7.0)	(25.6)	3/7残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：2.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
139	100	73	68	点	土師器	甕	口縁～底部	17.6	7.5	32.7	3/5残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：2.5YR6/6橙 内：2.5YR6/橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。一部、輪積み痕残る。	
139	100	74	71	点	土師器	甕	口縁～底部	15.4	6.0	24.1	4/7残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：2.5YR4/8赤褐 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。一部、輪積み痕残る。	
139	100	75	79	一括	土師器	甕	口縁～ 胴部上半	15.6	—	—	3/4残	密・黒灰色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：2.5YR6/6橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
139	100	76	76	一括	土師器	甕	口縁～ 胴部上半	14.2	—	—	2/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
140	100	77	69	一括	土師器	甕	口縁～底部	(12.0)	5.0	(25.0)	4/7残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。一部、輪積み痕残る。	
140	100	78	73	一括	土師器	甕	口縁～底部	(15.8)	5.2	(25.5)	3/7残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
140	100	79	77	点	土師器	甕	口縁～胴部上半	19.4	—	—	4/5残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量、白色針状物(0.2～0.3㎜)微量	良	外：2.5YR6/6橙 内：2.5YR5/8明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
140	100	80	78	一括	土師器	甕	口縁～胴部中位	(24.5)	—	—	1/3残	やや粗・小礫(0.5～2.0㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
140	100	81	101	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(14.5)	—	—	1/4残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
140	100	82	100	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(16.2)	—	—	1/8残	密・赤褐色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
141	100	83	99	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(20.4)	—	—	1/3残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：2.5YR6/6橙 内：2.5YR5/8明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
141	100	84	75	点	土師器	甕	口縁～胴部中位	(19.0)	—	—	4/9残	やや粗・小礫(1.0～3.0㎜)少量	良	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：7.5YR7/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
141	100	85	124	一括	土師器	甕	胴部上半～底部	—	6.0	—	2/3残	やや粗・褐色粒(0.3～5.0㎜)微量	良	外：2.5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：胴部、ヘラナデ。 内：胴部、ヘラナデ。	
141	100	86	104	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	7.0	—	2/3残	密・赤褐色粒(0.2～0.5㎜)微量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：胴部、ヘラナデ。 内：胴部、ヘラナデ。	
141	100	87	125	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	(8.5)	—	3/7残	やや粗・赤褐色粒(1.0～3.0㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR5/3にぶい赤褐	外：胴部、ヘラナデ。 内：胴部、ヘラナデ。	
141	100	88	126	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	(7.3)	—	1/8残	密・赤褐色粒(0.3～1.5㎜)微量	良	外：10R6/8赤橙 内：7.5YR7/6橙	外：胴部、ヘラナデ。 内：胴部、ヘラナデ。	
141	100	89	80	点	土師器	甑	口縁～底部	26.2	6.6	26.8	4/5残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
141	100	90	81	点	土師器	甑	口縁～底部	(19.8)	6.0	(27.4)	4/5残	密・赤褐色粒(0.3～1.0㎜)微量	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：2.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。一部、輪積み痕残る。	
142	100	91	87	一括	須恵器	大甕	口縁～頸部	40.2	—	—	1/2残	緻密・灰白色粒(0.2～0.8㎜)均等	不良	外：2.5YR5/2灰赤 内：10YR5/1褐灰	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ロクロ調整。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ロクロ調整。	焼成不良につき、外面、赤紫色帯びる。内･外面、器壁の膨れあり。
142	101	1	5	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	小片	白色小粒含む	良	外：5YR5/6明赤褐 内：5YR4/4にぶい赤褐	外：口縁帯に正撚り単節(RL)の斜縄文を施し、中央を棒状工具で刺突する。2個一単位の円形浮文を付す。口縁帯を避けて赤彩。 内：口縁付近をヘラミガキ、赤彩。	
142	101	2	4	一括	弥生土器	甕	口縁部	—	—	—	小片	長石、海面骨針含む	良	外：5YR5/6明赤褐 内：7.5YR6/6橙	外：頸部に輪積み痕を明瞭に残し、口唇部にキザミを加える。 内：ヘラナデ	
142	101	3	2	一括	土師器	甕	口縁部	(17.1)	—	—	小片	石英微粒、白色小粒多	良	外：10YR5/4にぶい黄褐 内：10YR6/4にぶい黄橙	外：縦方向ヘラ削り、頸部横方向ナデ。 内：ヘラ状工具で横方向ナデ。	
142	102	1	1	一括	土師器	甕	口縁部	(21.7)	—	—	1/8残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)微量	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：5YR5/3にぶい赤褐	外：頸部から下方向にヘラナデ、口縁部を強く横方向ナデ。 内：口縁部の下位をヘラ状工具で強く横方向ナデ。胴部、ヘラ状工具で横方向ナデ。	
142	102	2	3	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	やや粗･白色小粒多、小礫(0.5～0.8㎜)少量	良	外：7.5R4/8赤 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：頸部下位に沈線区画内に正撚り単節(RL・LR・RL)の斜縄文を充填。さらに直下に、沈線による連続菱形文内に正撚り単節(LR)の斜縄文を充填する。区画外はヘラミガキ、赤彩。 内：横方向にナデ。	
143	103	1	6	一括	弥生土器	浅鉢	口縁部	—	—	—	小片	石英小粒、海綿骨針含む	良	外：5YR6/6橙 内：2.5YR5/6明赤褐	外：口縁下位に横方向の沈線を巡らし、その上に斜縄文を充填する。正撚り単節(RL・LR)の原体を交互に用い、横走回転施文している。口唇部にも縄文を施文するが、詳細は不明。 内：横方向ナデ、赤彩。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
143	103	2	1	一括	土師器	高杯	口縁部	(23.0)	—	—	小片	白色微粒、石英小粒多、海綿骨針微量含む	良	外：5YR5/6明赤褐 内：5YR5/6明赤褐	外：横方向ヘラナデ後、まばらに縦方向にミガキ状のヘラナデ。全面赤彩。 内：横方向ヘラナデ。全面赤彩。	
143	103	3	2	一括	土師器	高杯	杯部	—	—	—	1/8残	白色微粒、石英小粒、褐鉄鉱、海綿骨針微量含む	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：5YR6/6橙	外：反時計周りにヘラナデ、全面赤彩。 内：横方向ヘラナデ、全面赤彩。	
143	103	4	3	一括	土師器	甕	口縁部	(15.7)	—	—	1/8残	やや粗・白色微粒多、海綿骨針含む	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：縦方向ヘラナデ後、頸部横方向ナデ。 内：体部下位から上位に向け斜方向ヘラナデ後、頸部を横方向ナデ。	
143	105	1	1	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	小片	白色粒多	良	外：5YR5/6明赤褐 (赤彩部) 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：沈線により複合山形文を区画し、S字結節文(R)を充填する。区画外に赤彩を施す。 内：横方向ナデ。	
143	108	1	2	一括	弥生土器	鉢	口縁部	12.8	—	—	1/4残	粗・褐鉄鉱、小礫多	良	外：10YR5/3にぶい黄褐 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：体部斜方向ヘラナデ、口縁部横方向ヘラナデ。口唇部面取る。 内：横方向ナデ。	
143	108	2	9	一括	弥生土器	壺	口縁～頸部	14.0	—	—	1/8残	やや粗・白色小粒多、石英小粒少	良	外：10YR7/4にぶい黄橙 (露胎部) 内：10R5/8赤	外：口唇部面取りし赤彩。口縁部は屈曲させ、下位に粘土紐を追加し、棒状工具で押圧する。羽状縄文巡り、円形浮文を張り付ける。頸部は縦方向にヘラミガキ、赤彩を施す。 内：頸部は横方向ナデ。開口部は横方向にヘラミガキ、赤彩を施す。	
143	108	3	10	一括	弥生土器	壺	頸部	—	—	—	1/8残	白色小粒多	良	外：2.5YR4/6赤褐 内：7.5YR6/6橙	外：羽状縄文を施した後､2条の沈線で区画する。無文部、ヘラミガキ、赤彩を施す。 内：頸部括れ部上方にヘラミガキ、赤彩を施す。	
143	108	4	11	一括	弥生土器	壺	頸部～底部	—	6.8	—	3/5残	やや粗・白色粒(0.2～1.0㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：5YR6/6橙	外：頸部～胴部上半部、赤彩施す。やや強いヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
143	108	5	42	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	3/5残	密・黒灰色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：5YR6/8橙	外：頸部､2条の沈線で区画された中に、羽状縄文施す。無文部、ヘラミガキ、赤彩。 内：ヘラナデ。	
143	108	6	12	一括	弥生土器	壺	胴部～底部	—	5.9	—	1/8残	やや粗・白色小粒多	良	外：2.5YR4/6赤褐 内：10YR6/4にぶい黄橙	外：底部境から縦方向にヘラミガキ、赤彩。 内：ヘラ状工具で横方向ナデ。	
143	108	7	6	一括	弥生土器	壺	胴部～底部	—	6.7	—	1/5残	粗・白色微粒、石英小粒、長石粒、小礫、白色粒多量、角閃石微量含む	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR5/4にぶい褐	外：底部から上方向にヘラミガキ、赤彩。 内：底部から斜方向にヘラ状工具でナデ。	
144	108	8	24	一括	弥生土器	甕	口縁～底部	19.4	6.0	25.0	9/10残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。口縁部、ヨコナデ。頸部、数段の輪積み痕残す。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。ナデ。	
144	108	9	108-41 ,101-1	一括	弥生土器	甕	口縁～胴部	19.2	—	—	3/5残	密・白橙色粒(0.3～0.5㎜)少量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：口縁部、ヘラ状工具による刻み目施す。口縁下端部､1段のみ輪積み痕残す。胴部、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
144	108	10	5	一括	弥生土器	甕	胴部	—	—	—	1/3残	白色小粒、赤色小粒多	良	外：7.5YR4/2灰褐 内：2.5YR4/6赤褐	外：頸部輪積み痕を装飾として残す。胴部横方向ヘラナデ。 内：胴部下位を縦方向ヘラナデ後、中位を横方向ナデ。	
144	109	1	1	一括	土師器	坩	口縁～底部	11.8	3.9	5.3	ほぼ完形	白色微粒多	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：5YR4/6赤褐	外：全面ヘラミガキ。口縁下位にハケメ痕残る。赤彩。 内：ハケメ痕ののち軽いナデ。赤彩。内面の剥落激しい。	
144	109	2	2	一括	土師器	杯	口縁～底部	(9.4)	—	5.1	2/3残	白色微粒、小礫含む	良	外：10YR6/4にぶい黄橙 内：7.5YR6/6橙	外：手持ちで底部を上にし、反時計周りにヘラケズリ調整。口縁部横方向ナデ。 内：底部中央をヘラ状工具で同一方向にナデ、体部は横方向ナデ。	
144	109	3	4	一括	土師器	高杯	杯部	18.3	—	—	1/2残	硬く、白色微粒多、海綿骨針含む	良	外：2.5YR4/6赤褐 内：2.5YR4/6赤褐	外：全面ヘラミガキ。赤彩。 内：全面ヘラミガキ。赤彩。	
144	109	4	5	一括	土師器	甕	口縁部	(15.8)	—	—	小片	石英微粒、海綿骨針含む	良	外：10YR5/3にぶい黄褐 内：10YR4/2灰黄褐	外：胴部縦方向にヘラケズリ調整、頸部横方向ナデ。 内：胴部横方向ナデ、頸部ヘラ状工具で横方向ナデ、ハケメ状痕跡付く。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
144	109	5	9	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	(7.8)	—	3/7残	密・白色粒(0.1～0.4㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR4/3にぶい赤褐 内：7.5YR6/6橙	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	被熱受け、赤色化する。
144	109	6	3	一括	弥生土器	壺	胴部～底部	—	5.9	—	1/4残	やや粗・白色粒、褐鉄鉱含む	良	外：5YR5/6明赤褐 内：7.5YR5/6明褐	外：胴部、時計周りにヘラ削り整形後、底部境から上方向にヘラナデ。赤彩を粗く施す。 内：ヘラナデ。	
144	109	7	13	一括	弥生土器	壺	口縁～頸部	16.5	—	—	4/5残	密・白橙色粒(0.2～0.4㎜)微量	良	外：10R4/6赤 内：10R4/6赤	外：口縁部、羽状縄文巡り、下端部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、粗いヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラナデ。赤彩。	内・外面共、一部、赤色顔料残る。
144	109	8	10,12,14	一括	弥生土器	壺	口縁～底部	(14.5)	(6.7)	(19.5)	3/4残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	良	外：7.5R4/6赤 内：5YR6/6橙	外:折り返し口縁。口縁部、羽状縄文巡り、下端部、縄文原体による刻み目施す。頸部、結節文巡る。無文部、ヘラミガキ。赤彩。 内：口縁～頸部、粗いヘラミガキ。赤彩。胴部、ヘラナデ。	
144	109	9	18,19	一括	弥生土器	甕	口縁～胴部中位	(15.8)	—	—	3/7残	密・褐色粒(0.3～0.5㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口唇部、縄文原体による刻み目施す。数段の輪積み痕残し、下端部、縄文原体による刻み目施す。胴部、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	胴部、やや球状に張る。
144	109	10	20	一括	弥生土器	甕	口縁～胴部	—	—	—	口縁部～胴部片	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、数段の輪積み痕残す。 内：ヘラナデ。	
145	110	1	24	一括	土師器	蓋	口縁～底部	(14.9)	—	(3.2)	1/4残	白色微粒、石英粒、海綿骨針微量含む	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：体部時計回りにヘラケズリ。口縁部横方向ナデ。全面赤彩。 内：横方向ヘラナデ。全面赤彩。	
145	110	2	21	一括	土師器	杯	口縁～底部	(16.0)	—	5.0	2/3残	石英微粒少、海綿骨針微量含む	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：反時計回りにヘラケズリ調整、口縁部横方向ナデ、全面赤彩。 内：横方向ナデ、全面赤彩。	外面底部は器面が剥落する。
145	110	3	22,23	一括	土師器	杯	口縁～体部下端	(15.0)	—	—	1/4残	白色微粒、石英粒、海綿骨針微量含む	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR6/6橙	外：体部横方向にヘラケズリ後、横方向ナデ、全面赤彩。 内：横方向ヘラナデ。全面赤彩。	
145	110	4	1	一括	土師器	杯	口縁～底部	11.5	—	9.1	3/5残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：10R4/8赤 内：5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。口縁部、赤彩。	被熱受け、内面の器面、一部剥落。
145	110	5	27	一括	土師器	鉢	口縁～胴部	(19.8)	—	—	1/5残	白色微粒、石英粒、海綿骨針微量含む	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR6/6橙	外:口縁部、ヨコナデ。体部斜方向にヘラケズリ後、軽く横方向ナデ。全面赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。横方向ヘラナデ。全面赤彩。	
145	110	6	2	一括	土師器	小型高杯	杯部～脚部	9.8	8.5	7.7	ほぼ完形	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラケズリ。脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。杯部、赤彩。	
145	110	7	3	一括	土師器	高杯	杯部	(14.0)	—	—	2/5残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。赤彩。	
145	110	8	30	一括	土師器	高杯	脚部	—	—	—	1/8残	白色微粒、石英粒、海綿骨針微量含む	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：脚部斜方向ヘラナデ、全面赤彩。 内：脚内部、縦方向にヘラナデ。	
145	110	9	25	一括	土師器	坩	口縁～頸部	(10.8)	—	—	1/8残	やや密・白色微粒、石英粒、海綿骨針微量含む	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：頸部横方向ナデ後、縦方向に粗くヘラナデ。全面赤彩。 内：横方向ヘラナデ。全面赤彩。	
145	110	10	12	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	16.7	—	—	3/5残	密・黒灰色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：5YR6/8橙 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
145	110	11	19	一括	土師器	甕	完形	17.5	7.0	25.3	完形	密・白色粒(0.2～1.0㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ、ヘラナデ。一部、ハケメ痕残る。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
145	110	12	5	一括	土師器	甕	口縁～底部	16.3	6.8	29.8	ほぼ完形	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
146	110	13	4	一括	土師器	甕	口縁～底部	15.0	5.8	21.8	3/5残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
146	110	14	10	一括	土師器	甕	口縁～底部	19.4	5.8	27.4	4/7残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)均等	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
146	110	15	7,14	一括	土師器	甕	口縁～底部	13.5	8.0	28.8	5/7残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/8明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
146	110	16	20	一括	土師器	甕	口縁～胴部下半	16.0	—	—	4/5残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR7/6橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
146	110	17	9	一括	土師器	甕	口縁～胴部	15.9	—	—	4/5残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
147	110	18	8	一括	土師器	甕	口縁～胴部	16.2	—	—	3/5残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
147	110	19	33	一括	土師器	甕	口縁～胴部	(15.6)	—	—	1/5残	白色小粒多い、褐鉄鉱含む	良	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：胴部下位から頸部に向けて斜方向ヘラナデ、ハケメ状痕跡残る。まばらに同方向にナデ。頸部横方向ナデ。 内：横方向ヘラナデ。	
147	110	20	31	一括	土師器	甕	口縁～胴部	(15.6)	—	—	1/4残	粗・小礫多い、石英粒、赤色大粒含む	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/8黄橙	外：胴部上位を斜方向ヘラナデ後、中位を横方向ヘラナデ、頸部横方向ナデ。 内：輪積み痕残る。胴部横方向にヘラナデ。	輪積み成形。
147	110	21	6	一括	土師器	甕	口縁～胴部	19.1	—	—	5/6残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
147	110	22	34	一括	土師器	甕	口縁～胴部	(12.8)	—	—	1/8残	白色小粒、褐鉄鉱含む	良	外：10YR6/4にぶい黄橙 内：2.5Y6/3にぶい黄	外：胴部、斜上方向にヘラケズリ、頸部横方向ナデ。 内：胴部、斜方向にヘラ状工具でナデ、頸部下位に輪積み痕残し、頸部横方向ナデ。	
147	110	23	37	一括	土師器	甕	口縁部	(22.9)	—	—	1/8残	粗・小礫多い、石英小粒含む	良	外：5YR6/8橙 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：頸部から底部に向け縦方向ヘラケズリ後、頸部を横方向ナデ。 内：胴部を横方向ヘラナデ後、頸部を横方向ナデ。	
147	110	24	11	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	20.0	—	—	3/5残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
147	110	25	38	一括	土師器	甕	口縁部	(16.9)	—	—	1/8残	白色微粒、石英粒、海綿骨針微量含む	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：胴部斜方向にヘラナデ、頸部横方向ナデ。 内：胴部斜方向にヘラナデ。頸部をヘラ状工具で横方向ナデ、ハケメ状痕跡付く。	
147	110	26	15	一括	土師器	甕	胴部～底部	—	6.3	—	1/3残	白色微粒、石英小粒多、褐鉄鉱含む	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/6橙	外：底部から上位に向け斜方向ヘラナデ。 内：底部から上位に向け斜方向ヘラナデ。	
148	110	27	13	一括	土師器	甕	胴部～底部	—	6.5	—	1/4残	粗・白色微粒、石英小粒、長石粒、小礫含む	良	外：10YR6/4にぶい黄橙 内：10YR6/3にぶい黄橙	外：胴部上位から底部に向けて縦方向ヘラケズリ。 内：底部から胴部中位に向けて斜方向ナデ、胴部横方向ナデ。胴部中位に輪積み痕残る。	輪積み成形。
148	111	1	5,6	一括	弥生土器	鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、結節文により区画された斜縄文巡る。下部は、沈線による連続山形文に、斜縄文施す。	2と同一個体の可能性あり。
148	111	2	2	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	小片	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)微量	良	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：結節文により区切られた斜縄文巡り、直下に、沈線内に斜縄文が施された連続山形文巡る。 内：ナデ。	1と同一個体の可能性あり。
148	111	3	1	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.1～0.4㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/6赤	外：口唇部、斜縄文巡り、下端部に縄文原体による刻み目施す。頸部、赤彩か。 内：ヘラミガキ、赤彩。	
148	111	4	4	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	やや粗・白色粒(0.2～0.3㎜)微量含む	良	外：5YR5/6明赤褐 内：7.5YR6/6橙	外：沈線による区画内を正撚り単節(RL・LR)の斜縄文で充填。竹管状の工具で刺突する。区画外をヘラミガキ、赤彩。	
148	111	5	3	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	やや粗・白色粒(0.1～0.2㎜)微量、褐色粒(0.2～0.4㎜)微量含む	良	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：10YR5/3にぶい黄褐	外:頸部下位をS字状Rの結節文2段で区画し、正撚り単節LRの斜縄文を充填する。区画外をヘラミガキ、赤彩。 内：横方向ナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
148	111	6	7	一括	弥生土器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	粗・小礫(0.8㎜～1.0㎜)少量、褐鉄鉱(0.5～0.8㎜)微量含む	良	外：10YR5/3にぶい黄褐 内：10YR5/3にぶい黄褐	外：頸部に輪積み痕を明瞭に残す。口唇部にキザミ入れる。 内：横方向ナデ。	
148	112	1	1	一括	弥生土器	壺	口縁部	(11.4)	—	—	口縁部片	密・白色微粒(0.1～0..3㎜)、石英粒(0.2㎜)含み、海面骨針(0.2㎜)微量	良	外：7.5YR5/6明褐 内：7.5YR5/6明褐	外：頸部横方向ナデ、口縁帯は正撚り単節(RL)の斜縄文を充填する。下位に縄を押し当て、キザミ表現とする。頸部に赤彩。 内：ヘラ状工具で横方向ナデ。赤彩。	
148	112	2	2	一括	弥生土器	壺	口縁部	(15.0)	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：口唇部、斜縄文巡る。口縁部、羽状縄文巡り、下端部、ヘラ状工具による刻み目施す。 内：粗いヘラミガキ。	
148	112	3	9	一括	弥生土器	甕	口縁部	—	—	—	小片	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量含む	良	外：10YR5/3にぶい黄褐 内：10YR3/2黒褐	外：頸部、輪積み痕を明瞭に残し、口唇部にキザミを入れる。 内：横方向ナデ。	
148	112	4	4,6,7	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・赤褐色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：10YR6/3にぶい黄橙	外：結節文により区画された羽状縄文巡る。 内：ヘラナデ。	
148	112	5	8	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	小片	密・褐色粒(0.3～0.5㎜)微量含む	良	外：10YR5/3にぶい黄褐 内：10YR6/4にぶい黄橙	外：一重結び3条によるS字状結節文(R)で区画し、内部を正撚り単節(LR・RL)の斜縄文で充填。区画外はヘラミガキ、赤彩。 内：横方向ナデ。	
148	112	6	5	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：2.5YR4/4にぶい赤褐 内：10YR6/4にぶい黄橙	外：結節文により区画された斜縄文巡る。無文部、赤彩か。 内：ヘラナデ。	
149	113	1	1	一括	弥生土器	浅鉢	口縁～底部	23.0	7.7	10.0	4/5残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：7.5YR7/6橙 内：10R4/8赤	外：口唇部、斜縄文巡る。口縁部、結節文により区画された羽状縄文巡る。体部、ヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラミガキ。赤彩。	
149	113	2	2	一括	弥生土器	浅鉢	口縁～底部	20.9	6.0	10.5	4/5残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5R3/4暗赤 内：7.5R3/4暗赤	外：口唇部、斜縄文巡る。口縁部、結節文により区画された羽状縄文巡る。体部、ヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラミガキ。赤彩。	
149	113	3	17	点	弥生土器	小型壺	胴部上半～底部	—	4.4	—	2/3残	密・赤褐色粒(0.5～1.5㎜)微量	良	外：10R4/6赤 内：5YR6/6橙	外：ヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラナデ。	
149	113	4	3	点	弥生土器	壺	口縁～頸部	14.4	—	—	1/2残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：10R4/6赤 内：7.5R4/8赤	外：折り返し口縁。口縁部、結節文巡り、2本の棒状浮文貼り付ける。頸部、ヘラミガキ。赤彩。胴部上半、沈線により区画された結節文帯巡る。 内：口縁部～頸部上半、ヘラミガキ。赤彩。	
149	113	5	8	点	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	3/7残	やや粗・赤褐色粒(0.3～0.7㎜)均等	良	外：10R4/6赤 内：5YR6/6橙	外：頸部、沈線で区画された羽状縄文帯巡る。無文部、ヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラナデ。	
149	113	6	6	点	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	やや不良	外：2.5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：沈線で区画された斜格子文巡る。 内：ヘラナデ。	外面、磨耗著しい。
149	113	7	9	点	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	やや粗・白色針状物(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：5YR6/4にぶい橙	外：沈線で区画された羽状縄文、連続山形文状に巡る。無文部、ヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラナデ。	
149	113	8	11	点	弥生土器	甕	口縁～胴部上半	(26.0)	—	—	1/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヘラ状工具による刻み目施す。胴部上半、数段の輪積み痕残し、下端部に縄文原体押捺による刻み目施す。ヘラナデ。ユビオサエ。 内：ヘラナデ。	
149	113	9	10	点	弥生土器	甕	口縁～胴部上半	(17.8)	—	—	1/5残	やや粗・灰色粒(0.5～0.8㎜)少量	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヘラ状工具による刻み目施す。胴部上半、輪積み痕残し、縄文原体押捺による刻み目施す。ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
149	113	10	13	点	土師器	甕	口縁～胴部中位	13.5	—	—	2/3残	やや粗・小礫(1.0～2.5㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、折返し状。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
149	113	11	12	点	土師器	甕	胴部下半～底部	—	7.0	—	2/3残	密・石英粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR6/8橙 内：7.5YR7/6橙	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
149	113	12	14	点	土師器	甕	胴部下端～底部	—	7.0	—	1/2残	やや粗・褐色粒(1.0～1.5㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR4/2灰褐	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
149	113	13	16	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	5.0	—	2/3残	やや粗・石英粒(1.0～2.0㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
150	114	1	1	点	土師器	高杯	口縁～脚部上半	(15.1)	—	—	1/4残	密・灰色粒(0.4～0.7㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラミガキ。脚部、ヘラミガキ。 内：口縁部、ヨコナデ。脚部、ヘラナデ。杯部、ヘラミガキ。赤彩施す。	
150	114	2	2	一括	弥生土器	壺	口縁～頸部	(11.0)	—	—	1/8残	やや粗・赤褐色粒(0.3～1.0㎜)均等	良	外：10R4/6赤 内：10R4/6赤	外：折り返し口縁。口縁部に斜縄文巡り、下端部に縄文原体による刻み目施す。頸部、無節Rによる S字状回転結節文によって区切られた斜縄文巡る。無文部、ヘラミガキ、赤彩。 内：頸部上半部、ヘラミガキ、赤彩。頸部下半部、ヘラナデ。	
150	114	3	4	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(19.0)	—	—	1/10残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：7.5YR4/4にぶい赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ハケメ。 内：口縁部。ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
150	114	4	7	一括	土師器	甕	口縁部	(20.0)	—	—	1/10残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。	
150	114	5	3	点	弥生土器	甕	口縁～胴部上端	24.0	—	—	4/7残	密・黒灰色粒(0.2～0.8㎜)均等	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、ヘラナデ。一部、ハケメ状の痕跡あり。頸部下端、一段の輪積み痕残し、ヘラ状工具による刻み目施す。 内：口縁部、内面に輪積み痕残し、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、ヘラナデ。	
150	114	6	8	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	(5.8)	—	1/3残	密・赤褐色粒(0.3～4.0㎜)微量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：7.5YR6/6橙	外：ヘラナデ。 内：ナデ、ヘラナデ。	
150	114	7	5	一括	土師器	甕	体部下端～底部	—	(5.8)	—	1/2残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
150	114	8	6	一括	土師器	壺か	胴部下半～底部	—	(5.6)	—	1/3残	やや粗・白色粒(0.4～0.8㎜)均等	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：ヘラナデか。 内：ヘラナデか。	
150	116	1	10	一括	弥生土器	壺	口縁～胴部下半	19.4	—	—	5/7残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：7.5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：折り返し口縁。口縁部、斜縄文巡り、下端部に縄文原体による刻み目施す。頸部、沈線で区画された中に、結節文及び羽状縄文巡る。無文部、ヘラミガキ。赤彩。 内：口縁～頸部、ヘラミガキ。赤彩。胴部、ヘラナデ。	
150	116	2	11	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：10R5/6赤 内：7.5YR6/6橙	外：折り返し口縁。口縁部、斜縄文巡り、下端部に縄文原体による刻み目施す。下半部、粗いヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラナデ。ヘラミガキ。	
150	116	3	13	一括	弥生土器	浅鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)均等	良	外：5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、斜縄文巡り、下端部に縄文原体による刻み目施す。 内：ヘラナデ。	
150	116	4	12	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：5YR6/6橙	外：沈線及び結節文により区画された、羽状縄文巡る。 内：ヘラナデ。	
150	116	5	1	一括	土師器	杯	口縁～体部下半	(14.0)	—	—	1/8残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：10R5/6赤 内：10R5/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
150	116	6	2	一括	土師器	高杯	脚部	—	—	—	4/7残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量、海綿骨針(0.2㎜)微量	良	外：10R5/6赤 内：2.5YR6/6橙	外：脚部、ヘラケズリ。赤彩。 内：脚部、ヘラナデ。	
151	116	7	3	一括	土師器	小型甕	口縁～底部	12.7	5.4	15.4	3/5残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
151	116	8	9	一括	土師器	甕	底部	—	(8.0)	—	1/4残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：10YR4/1褐灰 内：10YR5/2灰黄褐	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
151	116	9	8	一括	土師器	甕	底部	—	(7.8)	—	1/3残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)均等	良	外：10YR5/2灰黄褐 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
151	116	10	7	一括	土師器	甕	底部	—	(6.0)	—	1/4残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。内面の剥落、著しい。	底部、木葉痕あり。
151	116	11	6	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	10.0	—	4/7残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)微量	良	外：2.5YR6/6橙 内：2.5YR6/8橙	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
151	116	12	14	一括	土師器	甕	頸部～胴部	—	—	—	1/3残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)均等	良	外：5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/6橙	外：頸部、斜縄文巡り、下端部に縄文原体による刻み目施す。 内：ヘラナデ。	
151	117	1	15	点	弥生土器	壺	口縁～胴部上半	21.0	—	—	2/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：2.5YR5/6明赤褐	外：折り返し口縁。口縁部、斜縄文巡り、下端部、縄文原体押捺による刻み目施す。頸部、ヘラミガキ、赤彩。胴部上半、沈線及び結節文により区画された羽状縄文巡る。 内：口縁～頸部上半、ヘラミガキ。赤彩。胴部、ヘラナデ。	
151	117	2	1	点	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：10R4/8赤	外：折り返し口縁。口唇部、外側にヘラ状工具による刻み目施す。口縁～頸部、羽状縄文巡る。 内：ヘラミガキ、赤彩。	
152	117	3	6	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：7.5YR6/6橙	外：沈線で区画された斜縄文帯巡る。無文部、赤彩施す。 内：ヘラナデ。	
152	117	4	4	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：5YR6/6橙	外：沈線で区画された羽状縄文巡る。直下に沈線で区画された連続山形文に斜縄文施す。無文部、赤彩。 内：ヘラナデ。たすき状に赤彩施しているようにも見える。	6と同一個体の可能性あり。
152	117	5	14	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.3～0.5㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：2.5YR6/8橙	外：沈線によって区画された斜縄文巡り、直下に斜縄文が施された連続山形文巡る。赤彩。 内：ヘラナデ。	
152	117	6	3	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：7.5R4/6赤 内：5YR6/6橙	外：沈線で区画された連続山形文巡る。山形文内に羽状縄文施す。無文部赤彩。 内：ヘラナデ。	4と同一個体の可能性あり。
152	117	7	9	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.5～1.0㎜)少量	良	外：7.5R4/8赤 内：7.5R4/6赤	外：沈線で区画された斜縄文巡る。無文部、赤彩。 内：ヘラナデ、やや強いヘラナデ。赤彩。	
152	117	8	10	点	弥生土器	壺か	口縁～胴部中位	29.0	—	—	1/2残	やや粗・黒色粒(0.2～0.4㎜)均等	良	外：10YR6/4にぶい黄橙 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。口縁部、一段の輪積み痕残す。胴部、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
152	117	9	11	一括	土師器	杯	口縁～体部下半	16.0	—	—	1/8残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：2.5YR6/6橙 内：2.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。	
152	117	10	7	点	土師器	壺か	胴部下端～底部	—	6.2	—	9/10残	やや粗・茶褐色粒(0.2～0.8㎜)均等	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：7.5YR6/6橙	外：ヘラナデ、やや強いヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
152	117	11	5	一括	土師器	小型甕	胴部下端～底部	—	(5.0)	—	1/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ヘラナデか。 内：ヘラナデ。	
152	117	12	12	一括	縄文土器	粗製深鉢か	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口縁部に平行する条線文巡る。 内：ナデ。	晩期。
152	119	1	1	一括	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	やや粗・赤褐色粒(2.0～4.0㎜)微量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/6橙	外：口縁突起部直下、RLの縄文地文に渦巻文状の磨り消し文施す。下部に、磨消懸垂文施す。 内：ナデ。	加曽利E式。
152	119	2	2	一括	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	やや粗・黒色粒(0.2～0.3㎜)均等	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：5YR6/6橙	外：口縁部、無文帯あり。直下のRL斜縄文周囲を、楕円区画状に磨り消すか。 内：ナデ。	加曽利E式。
152	119	3	4	一括	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：RLの斜縄文周囲を、楕円区画状に磨り消し、突起部、円形棒状工具による刺突施す。 内：ナデ。	加曽利E式。

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
152	119	4	5	一括	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	胴部片	やや粗・赤褐色粒(2.0～4.0㎜)微量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：2.5YR6/6橙	外：RLの斜縄文中に、磨消懸垂文施す。 内：ナデ。	加曽利E式。
152	119	5	3	一括	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	胴部片	やや粗・白色粒(0.2～1.0㎜)微量	良	外：10R5/8赤 内：10R3/1暗赤灰	外：RLの斜縄文中に、磨消懸垂文施す。 内：ナデ。	加曽利E式。被熱受け、赤色化する。
152	119	6	6	一括	縄文土器	深鉢	胴部下端～底部	—	6.2	—	4/5残	やや粗・赤褐色粒(1.0～4.0㎜)少量	良	外：2.5YR6/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ナデ。 内：ナデ。	加曽利E式。割れ口が平滑に調整されており、浅鉢として再利用されたか。
153	120	1	1	一括	土師器	杯	口縁～胴部下半	(13.0)	—	—	1/8残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
153	120	2	2	一括	土師器	杯	口縁～胴部下半	(12.0)	—	—	1/8残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
153	120	3	3	一括	土師器	杯	口縁～胴部下半	(14.6)	—	—	1/8残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：10R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
153	120	4	10	一括	土師器	杯	口縁～体部下半	(14.0)	—	—	1/6残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：10R5/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
153	120	5	7	一括	土師器	杯	口縁～体部下半	(14.0)	—	—	1/8残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：2.5YR4/4にぶい赤褐 内：5YR4/2灰褐	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
153	120	6	27	一括	土師器	高杯	口縁～脚部	(14.0)	8.5	(9.7)	3/7残	密・赤褐色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：10R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯～脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯～脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。杯部内面、赤彩。	
153	120	7	14	一括	土師器	高杯	口縁～脚部	14.2	9.8	8.9	4/5残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：10R5/8赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯～脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯～脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。杯部内面、赤彩。	
153	120	8	13	一括	土師器	高杯	杯部下端～底部	—	(9.2)	—	3/7残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：2.5YR6/8橙	外：脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：杯～脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
153	120	9	9	一括	土師器	高杯	脚部	—	9.8	—	3/5残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：杯～脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。赤彩。	脚部内面も、赤彩していると考えられる。
153	120	10	26	一括	土師器	甕	口縁～胴部下半	17.6	—	—	3/5残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：2.5YR6/8橙 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
153	120	11	15	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(16.7)	—	—	1/3残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量	やや不良	外：7.5YR4/2灰褐 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
153	120	12	19	一括	土師器	甕	胴部～底部	—	5.4	—	4/7残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/8明赤褐	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
153	120	13	18	一括	土師器	甕	胴部～底部	—	6.6	—	5/8残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：5YR5/3にぶい赤褐	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
154	120	14	17	一括	土師器	甕	胴部～底部	—	5.0	—	4/7残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：5YR4/2灰褐 内：5YR6/6橙	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
154	120	15	20	一括	土師器	甕	胴部下半～底部	—	5.5	—	3/5残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：ヘラケズリ、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
154	120	16	36	一括	土師器	甑	口縁～胴部下半	21.8	—	—	3/7残	密・黒灰色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
154	120	17	16	一括	土師器	甑	口縁～胴部	(23.8)	—	—	3/7残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	良	外：10R4/8赤 内：10R4/4赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	被熱受け、赤色味帯びる。

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量（復元値）（cm）			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
154	123	1	26	一括	土師器	杯	口縁～底部	15.3	—	5.2	4/5残	密・黒色粒(0.1～0.4㎜)少量だが均等	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
154	123	2	30	一括	土師器	杯	口縁～底部	(14.4)	—	(5.8)	3/7残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
154	123	3	27	一括	土師器	杯	口縁～底部	(11.6)	—	(5.7)	4/9残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
154	123	4	28	一括	土師器	杯	口縁～底部	(14.8)	—	(4.0)	1/3残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：10R5/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
154	123	5	29	一括	土師器	杯	口縁～底部	(14.8)	—	(4.7)	3/7残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
154	123	6	57	一括	土師器	杯	口縁～底部	(13.8)	—	(5.3)	3/7残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
154	123	7	86	一括	土師器	杯	口縁～ 体部下端	(13.6)	—	—	1/4残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：2.5YR6/6橙 内：10R5/4赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
154	123	8	58	一括	土師器	杯	口縁～ 体部下半	(15.6)	—	—	1/3残	密・小礫(2.0～4.0㎜)微量	良	外：10R4/6赤 内：10R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
154	123	9	59	一括	土師器	杯	口縁～ 体部下端	(14.0)	—	—	4/9残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量、海綿骨針(0.2㎜)微量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
155	123	10	60	一括	土師器	杯	口縁～ 体部下端	(15.8)	—	—	1/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5R4/4にぶい赤 内：7.5R4/4にぶい赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
155	123	11	1	一括	土師器	杯	口縁部	(14.8)	—	—	1/10残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：7.5YR4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
155	123	12	61	一括	土師器	蓋	天井部～ 下端部	(15.1)	—	(4.7)	1/3残	硬密・石英微粒多	良	外：5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：天井部は反時計回りでヘラ削り調整。口縁部横方向ナデ。 内：横方向ナデ。	
155	123	13	7	一括	土師器	鉢	口縁～底部	13.1	—	9.2	ほぼ完形	密・黒灰色粒(0.1～0.3㎜)均等	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
155	123	14	6	一括	土師器	鉢	口縁～底部	11.0	—	7.7	9/10残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：10R6/6赤橙 内：10R5/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
155	123	15	62	一括	土師器	杯	口縁～ 体部下端	(11.0)	—	—	1/4残	やや粗・白色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：2.5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
155	123	16	8	一括	土師器	鉢	口縁部	(12.0)	—	—	1/4残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：10R4/4赤褐 内：10R4/4赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。体部、粗いヘラミガキ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
155	123	17	5	一括	土師器	坩	口縁～底部	11.4	1.8	5.3	4/5残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：10R5/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。頸～体部、ヘラミガキ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、強いヘラナデ。赤彩。	
155	123	18	87	一括	土師器	坩	底部	—	2.0	—	3/5残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：ヘラケズリ。赤彩。 内：ヘラナデ。赤彩。	
155	123	19	9	一括	土師器	高杯	口縁～ 脚部中位	14.2	—	—	5/7残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯～脚部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ、赤彩。脚部、ヘラナデ。	
155	123	20	4	一括	土師器	高杯	杯部	(13.8)	—	—	1/8残	密・黒灰色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、やや強いヘラナデ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。赤彩。	
155	123	21	11	一括	土師器	高杯	脚部	—	(13.1)	—	3/8残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：10R4/8赤 内：10YR6/3にぶい黄橙	外：脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量（復元値）（cm）			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
155	123	22	10	一括	土師器	高杯	器受部下端～脚部	—	13.0	—	5/8残	密・赤褐色粒(0.3～4.0㎜)少量だが均等	良	外：10R5/8赤 内：5YR6/6橙	外：脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：杯部、ヘラナデ。赤彩。脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
155	123	23	18	一括	土師器	高杯	脚部	—	9.4	—	1/2残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：10R5/6赤 内：5YR6/6橙	外：脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
155	123	24	34	一括	土師器	小型鉢	口縁～底部	(12.2)	4.0	(6.2)	3/7残	やや粗・白色粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
155	123	25	65	一括	土師器	小型鉢	口縁～底部	(6.4)	3.6	(4.1)	3/7残	やや粗・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/4赤褐 内：10R4/6赤	外：ナデ、ユビナデ。 内：ヘラナデ。	
155	123	26	89	一括	土師器	小型甕	胴部下半～底部	—	(5.8)	—	1/3残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR7/6橙	外：胴部、ヘラケズリ、ヘラナデ。 内：胴部、ヘラナデ。	
155	123	27	63	一括	土師器	小型甕	口縁～胴部下端	(8.6)	—	—	3/7残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	やや不良	外：10YR6/4にぶい黄橙 内：10YR5/2灰黄褐	外：口縁～頸部、ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
155	123	28	92	一括	土師器	壺	口縁部	(15.2)	—	—	1/8残	やや粗・小礫(1.0～2.0㎜)微量	良	外：2.5YR7/8橙 内：7.5YR7/6橙	外：口縁部、折返し口縁状を呈す。ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。	
155	123	29	66	一括	土師器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：折返し口縁。ハケメののち、軽いヨコナデか。 内：ハケメののち、軽いヨコナデ。	
155	123	30	19	一括	土師器	小型甕	口縁～底部	(15.4)	4.1	(10.9)	4/7残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
155	123	31	32	一括	土師器	S字甕	口縁部	(16.0)	—	—	1/8残	密・赤褐色粒(1.0～1.8㎜)微量	良	外：2.5YR6/6橙 内：2.5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ハケメ。 内：口縁部、ヨコナデ。	
155	123	32	20	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	15.4	—	—	5/7残	やや粗・小礫(1.0～1.2㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	外面、ハケメのようなヘラケズリ痕残る。
156	123	33	21	一括	土師器	甕	口縁～胴部	(16.8)	—	—	3/7残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
156	123	34	88	一括	土師器	甕	口縁～胴部	(15.8)	—	—	1/8残	やや粗・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	良	外：10R5/8赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	被熱受け、赤色味帯びる。
156	123	35	24	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	15.8	—	—	1/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：5YR7/8橙 内：5YR5/3にぶい赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	外面、ハケメのようなヘラケズリ痕残る。
156	123	36	22	一括	土師器	甕	口縁～頸部	15.8	—	—	4/5残	やや粗・赤褐色粒(1.2～3.0㎜)少量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：5YR5/6明赤褐	外：口縁～頸部、ヨコナデ。頸部下端、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、ヘラナデ。	
156	123	37	31	一括	土師器	甕	口縁部	(14.0)	—	—	1/8残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR5/3にぶい褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
156	123	38	64	一括	土師器	壺	底部	—	5.6	—	1/2残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：10YR6/4にぶい黄橙 内：10YR6/4にぶい黄橙	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	底部、輪台技法。
156	123	39	33	一括	土師器	甕	底部	9.0	—	—	4/7残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/8明赤褐	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
156	123	40	35	一括	土師器	壺	底部	—	(6.4)	—	3/7残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：5YR4/4にぶい赤褐 内：5YR3/3暗赤褐	外：ハケメののち、ヘラミガキ施す。 内：ヘラナデ。	
156	123	41	36	一括	須恵器	蓋	天井部～下半部	(11.0)	—	—	1/10残	緻密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良好	外：5Y6/1灰 内：5Y6/1灰	外：ロクロ調整。ヨコナデ。 内：ロクロ調整。ヨコナデ。	
162	124	1	3	一括	土師器	杯	口縁～胴部下半	(13.6)	—	—	1/6残	密・黒灰色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：10R5/6赤 内：10R5/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
162	124	2	1	一括	土師器	杯	口縁～胴部下半	(15.6)	—	—	1/8残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：10R4/8赤 内：2.5YR4/2灰赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
162	124	3	2	一括	土師器	杯	口縁～胴部下半	(15.2)	—	—	1/10残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：10R5/6赤 内：10R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
162	124	4	6	一括	土師器	杯	口縁～胴部下半	(12.4)	—	—	1/8残	密・黒色粒(0.1～0.4㎜)少量だが均等	良	外：10R4/8赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
162	124	5	10	一括	土師器	高杯	杯部	(17.8)	—	—	1/8残	密・黒灰色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：10R5/8赤 内：10R5/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。赤彩。	
162	124	6	12,14	一括	土師器	高杯	器受部下端～脚部	—	—	—	5/8残	やや粗・灰色粒(0.5～2.0㎜)微量	良	外：10R5/8赤 内：10R5/8赤	外：杯～脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：杯部、ヘラナデ。脚部、ヘラナデ。杯部、赤彩。	
162	124	7	15	一括	土師器	高杯	脚部	—	—	—	4/5残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	やや不良	外：10R4/6赤 内：2.5YR6/8橙	外：脚部、ヘラケズリ。赤彩。 内：脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
162	124	8	8	一括	土師器	坩	口縁～頸部	(10.2)	—	—	1/4残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量、海綿骨針(0.2㎜)微量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。頸部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、ヘラナデ。赤彩。	
162	124	9	19	一括	土師器	坩	胴部下端～底部	—	2.0	—	4/5残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量だが均等、海綿骨針(0.2～0.3㎜)微量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/8赤	外：ヘラケズリ。赤彩。 内：ヘラナデ。赤彩。	
162	124	10	9	一括	土師器	鉢	口縁～体部下半	(11.0)	—	—	1/8残	密・黒灰色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。赤彩。体部、ヘラナデ。	
162	124	11	17	一括	土師器	壺	口縁～頸部	(11.0)	—	—	3/7残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、折返し口縁状を呈す。ヘラナデののち粗いヘラミガキ。一部、ハケメ状痕跡残る。 内：口縁部、ヘラナデののち、粗いヘラミガキ。	
162	124	12	18	一括	土師器	小型壺	口縁～頸部	(6.7)	—	—	4/5残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)微量	やや不良	外：5YR7/6橙 内：2.5YR6/8橙	外：口縁～頸部、ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、ヘラナデ。	器面、摩耗している。
162	124	13	27	一括	土師器	甕	口縁～頸部	15.8	—	—	1/2残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：5YR6/8橙 内：2.5YR6/6橙	外：口縁部～頸部、ヨコナデ。 内：口唇部、ヨコナデ。口縁部～頸部、ヘラナデ。	
162	124	14	22	一括	土師器	甕	口縁～頸部	(18.4)	—	—	1/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR7/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、ヨコナデののち、一部ヘラナデ。	ヘラケズリだが、ハケメのような痕跡残る。
162	124	15	20	一括	土師器	甕	口縁～胴部下半	23.8	—	—	3/5残	密・黒灰色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	良	外：5YR7/8橙 内：2.5YR7/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
162	124	16	23	一括	土師器	甕	口縁～頸部	(18.0)	—	—	3/7残	密・黒灰色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
162	124	17	26	一括	土師器	甕	口縁～頸部	(15.4)	—	—	1/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：5YR6/4にぶい橙	外：口縁部～頸部、ヨコナデ。 内：口縁部～頸部、ヨコナデ。	
162	124	18	29	一括	土師器	甕	口縁～頸部	(18.0)	—	—	1/4残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。頸部、ヨコナデののち、一部ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、ヨコナデののち、一部ヘラナデ。	
163	124	19	21	一括	土師器	甕	口縁～胴部	15.4	—	—	3/5残	やや粗・赤色粒(0.3～1.0㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/6橙 内：5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
163	124	20	43	一括	土師器	甕	底部	—	7.0	—	4/7残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：2.5YR6/6橙 内：2.5YR5/4にぶい赤褐	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量（復元値）（cm）			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
163	131	1	1	点	土師器	杯	口縁～底部	14.8	5.2	7.0	4/7残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	底部、木葉痕あり。
163	131	2	3	一括	土師器	杯	口縁～体部下端	(15.6)	—	—	1/8残	密・黒灰色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
163	131	3	4,5	一括	土師器	杯	口縁～体部下端	(15.0)	—	—	1/4残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：10YR3/1黒褐 内：2.5R4/4にぶい赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩か。	
164	131	4	6	点	土師器	小型椀	口縁～底部	10.4	4.8	8.4	ほぼ完形	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ、赤彩。体部、ヘラナデ。	
164	131	5	10	一括	土師器	高杯	杯部	17.0	—	—	1/4残	密・黒灰色粒(0.1～0.4㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。赤彩。	7と同一個体の可能性あり。
164	131	6	9	点	土師器	高杯	杯部	17.0	—	—	4/5残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	良	外：10R4/6赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。赤彩。	
164	131	7	11	一括	土師器	高杯	杯部	(14.9)	—	—	1/3残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：10R4/8赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。赤彩。	5と同一個体の可能性あり。
164	131	8	8	点	土師器	坩	口縁～底部	(10.4)	(5.0)	(13.8)	5/7残	密・白色粒(0.1～0.15㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：2.5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。赤彩。体部、ヘラナデ。	
164	131	9	16	点	土師器	甕	口縁～胴部中位	15.4	—	—	4/7残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：10YR7/6明黄褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	内面、ハケメのようなヘラナデが、一部残る。
164	131	10	17	点	土師器	甕	口縁～胴部下半	(20.6)	—	—	1/4残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：5YR4/2灰褐 内：5YR3/1黒褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
164	131	11	20	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(16.7)	—	—	1/8残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/4にぶい赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
164	131	12	21	一括	土師器	甕	口縁～胴部上端	(16.8)	—	—	1/8残	密・白色粒(0.1～0.15㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：2.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
164	131	13	26	点	土師器	甕	胴部下端～底部	—	(7.0)	—	3/7残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5YR5/3にぶい褐 内：10YR6/4にぶい黄橙	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
164	131	14	25	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	(7.4)	—	5/7残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：5YR6/4にぶい橙	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
165	132	1	1	一括	土師器	甕	口縁～頸部	(16.4)	—	—	1/10残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。	
165	137	1	3	一括	土師器	杯	口縁～体部下端	(13.8)	—	—	1/4残	やや粗・褐色粒(0.3～0.5㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
165	137	2	1	一括	土師器	杯	口縁～底部	(15.7)	—	—	1/4残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
165	137	3	2	一括	土師器	杯	口縁～体部下端	(15.8)	—	—	1/3残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
165	137	4	5	一括	土師器	高杯	杯部	(16.1)	—	—	1/3残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部、ヘラナデ。赤彩。	
165	137	5	4	一括	土師器	高杯	脚部	—	—	—	5/7残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：7.5R4/6赤 内：2.5YR6/6橙	外：脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
165	137	6	6	一括	土師器	壺	口縁～頸部	(14.5)	—	—	1/3残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：2.5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。頸部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
165	137	7	7	一括	土師器	壺	口縁～頸部	(17.4)	—	—	1/3残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/6橙 内：2.5YR6/6橙	外：口縁～頸部、ヨコナデ。 内：口縁～頸部、ヨコナデ。赤彩か。	
165	137	8	14	点	土師器	甕	口縁～胴部	18.5	—	—	4/7残	密・白色粒(0.2～0.8㎜)少量だが均等	良	外：5YR3/4暗赤褐 内：5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
165	137	9	16	一括	土師器	甕	口縁～胴部	17.0	—	—	4/7残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR4/2灰褐 内：7.5YR7/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部上半、ハケメののち、ヘラナデ。胴部下半、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。一部、ハケメのようなヘラナデ。	
165	137	10	12	点	土師器	甕	口縁～胴部	17.0	—	—	3/7残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：7.5YR5/4にぶい褐	外：口縁部、ハケメののち、ヨコナデ。胴部上半、ハケメ残る。胴部下半、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
166	137	11	15	一括	土師器	甕	口縁～胴部	14.7	—	—	4/7残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：2.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
166	137	12	13	点	土師器	甕	口縁～胴部	(14.8)	—	—	1/3残	やや粗・赤褐色粒(0.3～2.0㎜)少量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部上半、ハケメ残る。胴部下半、ヘラナデ、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。一部、ハケメのようなヘラナデ。	
166	137	13	11	一括	土師器	甕	口縁～胴部	15.8	—	—	5/7残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/6橙 内：5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
166	137	14	9	点	土師器	甕	胴部下半～底部	—	(5.8)	—	4/7残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：2.5YR6/6橙	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
166	137	15	10	点	土師器	甕	胴部上端	—	7.8	—	5/7残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/8橙	外：ヘラナデ、ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
166	137	16	8	点	土師器	甕	胴部下半～底部	—	(6.4)	—	5/7残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：2.5YR5/4にぶい赤橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
166	138	1	1	一括	土師器	壺か	胴部下端～底部	—	5.2	—	5/7残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：10R5/8赤 内：10R2/1赤黒	外：ヘラナデ。赤彩か。 内：ヘラナデ。	底部、輪台技法。
167	139	1	6	点	土師器	大型坩	口縁～底部	26.3	4.6	11.2	4/5残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：2.5YR6/8橙	外：口唇部、ヨコナデ。頸部、ハケメののち、ヘラミガキ。体部、ハケメ、下端部、ヘラナデ。 内：口唇部、ヨコナデ。口縁部、ハケメ。頸部、ハケメののち、ヘラナデ。 体部、ヘラナデ。口縁、赤彩か。	
167	139	2	1	一括	土師器	杯	口縁～体部下半	(14.7)	—	—	1/8残	密・黒灰色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：10R4/6赤	外：ヘラケズリ。赤彩。 内：ヘラナデ。赤彩。	
167	139	3	4	点	土師器	坩	口縁～底部	10.2	3.4	8.0	4/5残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：10R4/6赤 内：10R4/6赤	外：口唇部、ヨコナデ。頸部、ヘラミガキ。体部、ヘラミガキ。赤彩。 内：口唇部、ヨコナデ。頸部、ヘラミガキ。赤彩。体部、ヘラナデ。	外面、丁寧なヘラミガキ。
167	139	4	3	点	土師器	小型甕	口縁～底部	11.4	5.9	7.5	完形	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外:口縁部、ヨコナデ。胴部上半、ハケメ。胴部下半、ヘラナデ。輪積み痕残る。 内：口唇部、ヨコナデ。口縁部、ハケメ。胴部、ヘラナデ。	底部、輪台技法。
167	139	5	2	点	土師器	小型甕	口縁～底部	10.0	6.0	8.2	ほぼ完形	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部上半、ハケメ。胴部下半、ヘラナデ。 内：口唇部、ヨコナデ。口縁部、ハケメ。胴部、ヘラナデ。輪積み痕残る。	底部、輪台技法。
167	139	6	5	一括	土師器	坩	口縁～底部	12.6	4.2	15.6	4/5残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：10R4/6赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。頸部、ヘラミガキ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、ヘラミガキ。体部、ヘラナデ。口縁～頸部赤彩。	
167	139	7	7	一括	土師器	高杯	脚部	—	11.5	—	9/10残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：2.5YR5/6明赤褐	外：脚部、ヘラナデ。下端部、ヘラミガキ、ヨコナデ。赤彩。 内：脚部、ヘラナデ。下端部、ハケメ、ヨコナデ。	
167	139	8	8	点	土師器	器台	器受部～脚部	7.7	11.0	10.5	4/5残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：器受部、口縁部、ヨコナデ。体部、粗いヘラミガキ。脚部、中央やや下方に焼成前穿孔(上→下)施す。ヘラミガキ。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：器受部、中央部、焼成前穿孔(上→下)施す。粗いヘラミガキ、一部、ヘラナデ。赤彩。脚部、ヘラナデ。一部、ハケメ。下端部、ヨコナデ。下端部内面、赤彩か。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
167	139	9	12	一括	土師器	甕	口縁～底部	15.7	6.2	18.3	4/5残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：5YR4/2灰褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部上半、ハケメ。下半部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、ハケメ。胴部、ヘラナデ。	
167	139	10	11	点	土師器	甕	口縁～底部	16.5	6.4	25.0	完形	密・黒灰色粒(0.5～2.0㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR3/1黒褐	外：口縁～胴部下半、ハケメ。胴部下端、ヘラナデ。 内:口縁部、ハケメののち、ヘラナデ。胴部、ヘラナデ。底部付近、ハケメ残る。	内面の煤付着、著しい。
168	139	11	10	点	土師器	甕	口縁～底部	17.6		23.8	完形	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR6/6橙	外：口縁～頸部、一部ハケメ残る。ヘラナデ、ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
168	139	12	24	一括	土師器	甕	口縁～底部	18.7	6.4	23.7	3/5残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：7.5YR5/4にぶい褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ、一部ハケメ残る。 内：ヘラナデ。	外面に煤、一部付着。
168	139	13	13	一括	土師器	甕	口縁～胴部上半	(19.9)	—	—	1/4残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：10YR3/1黒褐 内：5YR4/2灰褐	外：口縁部、ヨコナデ。頸部～胴部、ハケメ。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、ハケメ。胴部、ヘラナデ。	外面、煤で黒色化している。
168	139	14	15	点	土師器	甑	口縁～底部	19.4	5.2	10.9	4/5残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
168	140	1	1	一括	土師器	高杯	脚部	—	—	—	1/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：10R4/8赤 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：ヘラナデ、ヘラケズリ。赤彩。 内：ヘラナデ、やや強いヘラナデ。	
169	143	1	4	一括	土師器	小型甕	胴部下半～底部	—	(4.0)	—	1/6残	密・白色粒(0.1～0.4㎜)微量	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：胴部、ヘラナデ。 内：胴部、ヘラナデ。	
169	143	2	5	一括	土師器	甕	口縁～頸部	(14.8)	—	—	1/10残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：10YR3/1黒褐 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：口唇部、ヨコナデ。口縁部、ハケメ。 内：口唇部、ヨコナデ。口縁部、ハケメ。頸部、ヘラナデ。	
169	143	3	7	一括	土師器	甕	胴部下端～底部	—	(8.8)	—	1/8残	密・白色粒(0.2～0.5㎜)微量	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：5YR6/4にぶい橙	外：胴部、ハケメ。 内：胴部、ハケメ。	内面の剥落著しい。
169	144	1	1	一括	土師器	杯	口縁～体部	(16.2)	—	—	1/8残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：ヘラケズリ。赤彩。 内：ヘラナデ。赤彩。	
169	144	2	4	一括	土師器	甕	底部	—	(8.8)	—	1/8残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/3にぶい褐	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
169	145	1	3	一括	土師器	杯	口縁～底部	12.0	—	4.5	3/7残	密・黒灰色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：10R5/6赤 内：10R5/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。口縁～体部下端、赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。口縁～体部下端、赤彩。	
169	145	2	5	一括	土師器	杯	口縁下端～底部	—	—	—	1/4残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：2.5YR6/6橙	外：口縁下端部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。 内：口縁下端部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
169	145	3	1	一括	土師器	杯	口縁～底部	16.0	—	6.2	ほぼ完形	やや粗・赤褐色粒(1.0～4.0㎜)少量	良	外：10R5/8赤 内：5YR6/8橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。体部中位に、輪積み痕あり。口縁～体部上位、赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
169	145	4	4	一括	土師器	杯	口縁～底部	(13.8)	—	—	3/7残	粗・赤褐色粒(1.0～4.0㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	器面の磨耗、著しい。
169	145	5	6	一括	土師器	高杯	口縁～脚部	(13.9)	8.9	9.8	5/7残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：口縁部、ヨコナデ。杯部～脚部、ヘラケズリ。下端部、ヨコナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。杯部～脚部、ヘラナデ。下端部、ヨコナデ。	
169	145	6	10	一括	土師器	小型甕	胴部中位～底部	—	4.6	—	5/7残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	良	外：5YR5/6明赤褐 内：5YR6/6橙	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
169	145	7	9	一括	土師器	小型鉢	胴部中位～底部	—	3.0	—	4/7残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR4/1褐灰	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
170	145	8	7	一括	土師器	甕	口縁～胴部下半	15.9	—	—	5/7残	密・白色粒(0.3～1.0㎜)均等	良	外：2.5YR4/3にぶい赤褐 内：2.5YR3/1暗赤灰	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
170	145	9	11	一括	弥生土器	壺	口縁～頸部	(13.5)	—	—	3/7残	密・黒灰色粒(0.1～0.3㎜)均等	良	外：10R4/6赤 内：10R4/6赤	外：口唇部、縄文原体による刻み目施す。頸部、ヘラナデ。赤彩。 内：ヘラナデ。口縁～頸部、赤彩。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
170	149	1	2	一括	土師器	壺	胴部下端～底部	—	(5.0)	—	1/4残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR4/6赤 内：7.5YR4/6赤	外：ヘラナデ。赤彩。 内：ヘラナデ。赤彩。	
170	149	2	5	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.3～0.5㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR4/2灰褐 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ヘラナデ。結節文巡る。 内：ヘラナデ。	
170	304	1	1	一括	土師器	甕	口縁部	(14.0)	—	—	1/8残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口唇部、ヨコナデ。口縁部、ハケメ、一部、ヘラナデ。 内：口唇部、ヨコナデ。口縁部、ハケメ、ヘラナデ。	
170	407	1	1	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：5YR5/6明赤褐 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：折り返し口縁。口縁部、斜縄文巡り、下端部に縄文原体による刻み目施す。赤彩か。 内：ヘラナデ。ヘラミガキ。赤彩か。	
170	407	2	2	一括	弥生土器	甕	胴部	—	—	—	胴部片	密・茶褐色粒(0.5～0.8㎜)微量	良	外：2.5YR6/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：数段の輪積み痕残す。ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
170	430	1	1	一括	カワラケ	中杯	口縁～底部	10.5	6.0	2.7	4/5残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り。一部、ナデ。 内：ロクロ調整。底部内面、一部、ナデ。	中世(戦国)。
170	436	1	2	一括	カワラケ	中杯	口縁～底部	11.3	5.4	2.9	ほぼ完形	やや粗・茶褐色粒(0.5～1.0㎜)微量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り。一部、ナデ。 内：ロクロ調整。底部内面、一部、ナデ。	中世(戦国)。
170	436	2	1	一括	カワラケ	中杯	口縁～底部	10.4	5.0	2.5	完形	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り。 内：ロクロ調整。底部内面中央部、ナデ。	中世(戦国)。
170	439	1	1	一括	カワラケ	杯	口縁～底部	13.6	7.0	3.8	完形	密・赤色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り。 内：ロクロ調整。底部内面、一部、ナデ。	中世(戦国)。
170	439	2	2	一括	カワラケ	中杯	口縁～ 体部下半	(12.0)	—	—	1/4残	密・茶褐色粒(0.3～0.5㎜)微量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ロクロ調整。 内：ロクロ調整。	中世(戦国)。
170	440	1	1	点	カワラケ	椀	口縁～底部	13.4	7.0	5.2	9/10残	密・赤色粒(1.2～5.0㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/8黄橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り。中央部、ナデ。 内：ロクロ調整。底部内面、一部、ナデ。	中世。内面、油煙付着か。
171	442	1	1	一括	カワラケ	中杯(灯明皿)	口縁～底部	10.7	5.8	2.9	4/5残	やや粗・赤褐色粒(1.0～2.0㎜)少量だが均等	良	外：10YR7/6明黄褐 内：5YR6/6橙	外:ロクロ調整。底部、回転糸切り。中央部、ナデにより糸切り痕、消している。 内：ロクロ調整。底部内面、一部、ナデ。	中世(戦国)。内面､口縁中心に油煙付着しており、灯明皿と考えられる。
171	442	2	2	点	カワラケ	香炉形	口縁～底部	12.8	9.1	5.2	9/10残	密・赤褐色粒(0.3～4.0㎜)微量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り後、外周部、ヘラナデ。3ヵ所に脚を貼り付ける。 内：ロクロ調整。底部内面、一部、ナデか。	中世。
171	444	1	1	点	カワラケ	中杯(灯明皿)	口縁～底部	10.7	5.3	3.1	9/10残	密・赤色粒(0.2～0.8㎜)微量	良	外：10YR7/6明黄褐 内：7.5YR7/6橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り。中央部、ユビによるナデ。 内：ロクロ調整。底部内面、一部、ユビによるナデ。	中世(戦国前期)。内・外面共、一部、油煙付着しており、灯明皿と考えられる。
175	472	1	55	一括	土師器	甕	口縁～ 胴部上位	(16.0)	—	—	1/4残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR5/3にぶい褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
176	473	1	2	点	陶器	大甕	胴部	—	—	—	2/3残	やや粗・白色粒・小礫多く含む	良	外：2.5YR5/4にぶい赤褐 内：7.5YR7/3にぶい橙	外：胴部下位から肩部に向けて縦方向ヘラナデ後、肩部を横方向ヘラナデ。 内：横方向及び斜め方向にナデ。	13ｃ。常滑産6a～6b型式。焼き締まる。 重量13,100g。
176	473	2	1	点	陶器	大甕	口縁～底部	(41.4)	18.6	54.6	4/5残	やや粗・白色粒多、小礫含む	不良	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：10YR7/4にぶい黄橙	三段成形で、胴部下位、肩部で接合する。 外：底部から肩部に向けて縦方向ヘラナデ後、肩部を横方向ヘラナデ。 内：横方向及び斜め方向にナデ。	15ｃ前半。常滑産9型式。焼きは良くなく、素焼き状態。内面下位は使用による器面剥落が甚だしい。重量7,100g(石膏込み)。
176	中世土器陶器C29	1	14	一括	カワラケ	中杯	口縁～底部	10.2	4.7	3.0	9/10残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り後、一部、ナデ。 内：ロクロ調整。底部内面見込部、一部、ナデ。	中世後期。
176	中世土器陶器C29	2	15	一括	カワラケ	中杯	口縁～底部	10.0	5.2	2.8	4/5残	密・黒灰色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り後、一部、ナデ。 内：ロクロ調整。底部内面見込部、ナデ。	中世後期。
176	中世土器陶器C29	3	13	一括	カワラケ	中杯	口縁～底部	10.1	4.8	3.0	9/10残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)均等	良	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：10YR7/6明黄褐	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り後、一部、ナデ。 内：ロクロ調整。底部内面、「×」のヘラ記号あり。一部、ナデ。	中世後期。

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
176	中世土器 陶器C29	4	16	一括	カワラケ	中杯	口縁～底部	10.4	5.1	2.9	5/8残	やや粗・赤褐色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り後、一部、ナデ。 内：ロクロ調整。底部内面見込部、一部、ナデ。	中世後期。
176	中世土器 陶器C29	5	18	一括	カワラケ	中杯	口縁～底部	10.8	5.2	3.2	5/8残	密・黒灰色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：10YR7/6明黄褐	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り後、一部、ナデ。 内：ロクロ調整。底部内面、一部、ナデ。	中世後期。口縁の一部、割れ口を磨って再調整しており、補修して再利用したか。
176	中世土器 陶器C29	6	17	一括	カワラケ	小皿	口縁～底部	9.4	5.0	2.4	4/7残	密・黒灰色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：10YR7/6明黄褐 内：10YR7/6明黄褐	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り後、一部、ナデ。 内：ロクロ調整。底部内面、一部、ナデ。	戦国。
176	中世土器 陶器C29	7	19	一括	カワラケ	小皿	口縁～底部	7.6	4.6	2.1	9/10残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り後、一部、ナデ。 内：ロクロ調整。底部内面見込部、一部、ナデ。	中世後期。
176	中世土器 陶器C29	8	20	一括	カワラケ	小皿 (灯明皿)	口縁～底部	(7.7)	4.4	1.7	3/7残	密・白色粒(0.2～0.4㎜)微量	良	外：10YR7/6明黄褐 内：10YR7/6明黄褐	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り後、一部、ナデ。 内：ロクロ調整。底部内面見込部、一部、ナデ。	中世後期。口縁部、一部、油煙付着しており、灯明皿か。
176	中世土器 陶器C29	9	8	一括	カワラケ	小皿	底部	—	(3.9)	—	1/4残	白色小粒、褐鉄鉱含む	良	外：7.5YR7/6橙 内：10YR7/6明黄褐	外：底部突出顕著。回転糸切痕を軽くナデ。 内：見込み中央をやや強く横ナデし、円形に窪むが、横方向ナデは施さない。	中世。
177	中世土器 陶器C29	10	23	一括	陶器	緑釉小皿	口縁～底部	11.2	5.1	3.4	5/9残	緻密・紫褐色粒(鉄分か)(0.2～2.0㎜)少量だが均等	良好	外：7.5Y5/3灰オリーブ 内：2.5Y7/2灰黄	外：ロクロ調整。底部、削り出し高台。口縁～体部下半、施釉。 内：ロクロ調整。口縁～体部下半、施釉。	中世。古瀬戸後Ⅳ期(新)、瀬戸・美濃系。
177	中世土器 陶器C29	11	25	一括	陶器	擂鉢	胴部	—	—	—	胴部片	緻密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良好	外：2.5Y4/1黄灰 内：2.5Y4/1黄灰	外：ロクロ調整。 内：ロクロ調整。2.0㎜間隔の擂り目施す。	中世。古瀬戸後Ⅳ期～大窯、瀬戸・美濃系。
177	中世土器 陶器D23	1	23	一括	陶器	擂鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	緻密・白色粒(1.0～3.0㎜)少量だが均等	良	外：2.5Y8/2灰白 内：2.5Y7/1灰白	外：ロクロ調整。 内：ロクロ調整。3.5㎜間隔7本の擂り目施す。	中世後期。備前系。
177	中世土器 陶器E18	1	10	一括	カワラケ	小皿	体部下端～底部	—	(3.6)	—	1/8残	緻密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り痕。 内：ロクロ調整。	中世後期。
177	中世土器 陶器F28	1	86	一括	カワラケ	小皿	口縁～底部	10.3	5.7	2.9	4/5残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)微量、雲母粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：2.5YR4/6赤褐 内：2.5YR4/8赤褐	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り後、中央部、ナデ。 内：ロクロ調整。見込部、ナデ。	中世後期。
177	中世土器 陶器F28	2	108	一括	カワラケ	小皿	口縁～底部	(10.0)	6.2	(3.2)	3/8残	密・赤褐色粒(0.3～0.5㎜)微量	良	外：10YR8/4浅黄橙 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り後、中央部、ナデか。 内：ロクロ調整。見込部、ナデか。	中世後期。
177	中世土器 陶器F28	3	107	一括	カワラケ	小皿 (灯明皿)	口縁～底部	(10.4)	5.6	(2.7)	3/7残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：10YR7/3にぶい黄橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り後、中央部、ナデ。 内：ロクロ調整。見込部、ナデ。	中世後期。内・外面共に、油煙付着し、灯明皿と考えられる。
177	中世土器 陶器F28	4	84	一括	カワラケ	小皿	口縁～底部	(12.9)	7.8	(3.6)	3/7残	密・赤褐色粒(0.3㎜)微量	良	外：7.5YR7/6橙 内：5YR7/6橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り後、中央部、ナデか。 内：ロクロ調整。見込部、ナデか。	中世後期。
177	中世土器 陶器F28	5	85	一括	カワラケ	小皿	口縁～底部	11.6	5.4	2.6	2/3残	緻密・赤褐色粒(0.3～0.5㎜)微量	良	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り痕。 内：ロクロ調整。	中世後期。
177	中世土器 陶器F28	6	129	一括	カワラケ	小皿	体部下端～底部	—	3.8	—	9/10残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：2.5YR6/6橙 内：10YR6/4にぶい橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り後、中央部、ナデか。 内：ロクロ調整。見込部、ナデ。	中世後期。
177	中世土器 陶器G18	1	28	一括	陶器	擂鉢	口縁～胴部	—	—	—	口縁部片	緻密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良好	外：2.5YR3/3暗赤褐 内：10R3/2暗赤褐	外：ロクロ調整。 内：ロクロ調整。1.2㎜間隔の擂り目施す。	中世。古瀬戸後Ⅳ期(新)瀬戸・美濃系。
177	中世土器 陶器G24	1	3	一括	カワラケ	小皿	口縁～底部	(6.7)	(4.3)	(2.0)	1/6残	密・褐色粒(2.0㎜)微量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り。 内：ロクロ調整。	中世後期。
177	中世土器 陶器H11	1	7	一括	カワラケ	中杯 (灯明皿)	口縁～底部	11.1	5.6	3.3	ほぼ完形	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)均等	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ロクロ調整。底部、静止糸切り。中央部分、ナデか。 内：ロクロ調整。見込部、ナデ。	中世後期。内・外面、油煙付着しており、灯明皿と考えられる。
177	中世土器 陶器H11	2	10	一括	カワラケ	中杯	口縁～底部	(10.8)	4.8	3.0	口縁部1/3残、他は完形	密・白色針状粒(0.2㎜)微量	良	外：10YR7/6明黄褐 内：10YR7/8黄橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り。中央、一部ナデか。 内：ロクロ調整。見込部、一部ナデ。	中世後期。
177	中世土器 陶器H11	3	9	一括	カワラケ	中杯	口縁～底部	(10.5)	5.3	2.8	口縁部1/3残、他は完形	密・雲母粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ロクロ調整。底部、スダレ状の敷物上で成形か。 内：ロクロ調整。底部、ナデ。	中世後期。

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量（復元値）（cm）			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
177	中世土器 陶器H11	4	8	一括	カワラケ	中杯	口縁～底部	10.9	5.0	3.1	4/5残	密・雲母粒(0.2～0.5㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ロクロ調整。見込部、ナデ。 内：ロクロ調整。底部、一部ナデ。	中世後期。
177	中世土器 陶器H11	5	11	一括	カワラケ	小皿	体部下位～底部	—	5.6	—	4/5残	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量だが均等	良	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り後、中央部、ナデか。 内：ロクロ調整。見込部、ナデか。	中世後期。
177	中世土器 陶器H27	1	6	一括	カワラケ	小皿	体部下位～底部	—	4.0	—	4/5残	密・赤褐色粒(0.3～0.5㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：10YR7/6明黄褐	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り。一部、ユビによるナデにより糸切り痕消すか。 内：ロクロ調整。見込部、ユビによるナデ。	中世後期。
177	中世土器 陶器H27	2	5	一括	カワラケ	中杯	体部下位～底部	—	5.2	—	4/5残	密・黒灰色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り。一部、ユビによるナデにより糸切り痕消すか。 内：ロクロ調整。見込部、ユビによるナデ。	中世後期。
177	中世土器 陶器H27	3	7	一括	陶器	甕	口縁部	(40.0)	—	—	1/10残	密・白色粒(0.3～0.8㎜)均等	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ヨコナデ。 内：ヨコナデ。	中世。常滑産9型式。
177	中世土器 陶器I11	1	26	一括	カワラケ	小皿	口縁～底部	9.6	6.0	2.2	ほぼ完形	極めて密・赤褐色粒(0.5～2.0㎜)微量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/8黄橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り。見込部、ナデにより糸切り痕消すか。 内：ロクロ調整。見込部、ユビによるナデ。	中世後期。
177	中世土器 陶器K12	1	9	一括	陶器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部片	やや粗・焼き締まり、白色小粒多	良	外：7.5Y5/1灰 内：5Y6/1灰	外：折り返し口縁で口縁帯は頸部に密着しないと思われる。 内：折り返し部の付け根は肥大しない。	14ｃ後半。常滑産8型式。
177	中世土器 陶器K18	1	25	一括	カワラケ	小皿	口縁～底部	(8.3)	(5.2)	(2.0)	1/4残	密・黒灰色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り。 内：ロクロ調整。	中世後期。
177	中世土器 陶器M12	1	89	一括	陶器	擂鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	緻密・黒色粒(0.1㎜)微量	良好	外：2.5YR4/2灰赤 内：2.5YR3/2暗赤褐	外：口唇部、ヨコナデ。ロクロ調整。 内：口縁部、ヨコナデ。ロクロ調整。	中世。古瀬戸後Ⅳ期(新)瀬戸・美濃系。
177	中世土器 陶器M12	2	83	一括	陶器	片口鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	やや粗・白色粒(0.2～0.4㎜)少量、小礫(1.0～1.5㎜)微量	良	外：2.5YR6/6橙 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。ロクロ調整。 内：口縁部、ヨコナデ。ロクロ調整。	中世。常滑産Ⅱ-9型式。
177	中世土器 陶器M13	1	19	一括	瓦質土器	擂鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	やや粗・黒色粒(0.1～0.4㎜)均等	やや不良	外：10YR7/2にぶい赤橙 内：10YR7/3にぶい赤橙	外：ロクロ調整。 内：口縁部、ヨコナデ。ロクロ調整。	中世。
177	中世土器 陶器P12	1	2	一括	カワラケ	中杯	口縁～底部	10.4	5.7	4.1	ほぼ完形	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：10YR7/6明黄褐	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。体部中位に、輪積み痕あり。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	中世(戦国)。底部、木葉痕あり。
184	グリッド C21	1	8	一括	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	粗・小礫(1㎜～4㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目。口縁下、水平及び菱形方向の平行沈線がヨコ方向に巡る。 内：ナデ。	浮島式か。
184	グリッド C21	2	2	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：10R4/8赤	外：折り返し口縁下端部に縄文原体による刻み目施し、羽状縄文巡る。 内：ヘラミガキ。赤彩。	
184	グリッド C21	3	3	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	粗・白色粒(0.3～1.0㎜)均等	良	外：10R4/8赤 内：2.5YR5/8明赤褐	外:沈線により区画された連続山形文内に、羽状縄文施す。無文部、ヘラミガキ。赤彩。 内：ナデ。内面器面の剥落が著しい。	
184	グリッド C21	4	1	一括	土師器	小型鉢	口縁～底部	9.8	6.0	5.4	2/3残	やや粗・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	良	外：7.5R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口唇部、ヨコナデ。口縁部、ハケメ。体部、ハケメ、ナデ、ヘラナデ。一部赤色顔料残存。赤彩している可能性高い。 内：口唇部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。一部やや強いヘラナデ。赤彩。	
184	グリッド F15	1	2	一括	土師器	小型椀	口縁～ 体部下半	(12.0)	—	—	1/10残	やや粗・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：5YR6/8橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ハケメ痕残る。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
184	グリッド F15	2	1	一括	土師器	高杯	脚部のみ	—	(9.4)	—	4/5残	やや粗・白色粒(0.2～0.3㎜)少量、白色針状物(0.3㎜)微量	良	外：10R4/6赤 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：タテ方向のハケメ。3ヵ所に焼成前穿孔施す。下端部、ヨコナデ。赤彩。 内：脚部上方、ヘラナデ。中位～下端部、ハケメ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
184	グリッド F15	3	4	一括	土師器	甕	口縁～頸部	(11.0)	—	—	1/4残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：口縁部、ヨコナデ。頸部、ハケメ痕残る。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、ハケメ痕残る。	
184	グリッド F15	4	5	一括	土師器	壺	胴部下半～底部	—	(5.0)	—	4/5残	やや粗・赤色粒(0.3～0.5㎜)少量だが均等	良	外：10R5/8赤 内：7.5YR6/6橙	外：胴部下端部付近、ヘラミガキ。赤彩。胴部中位、一部ハケメ痕あり。 内：ヘラナデ。	
184	グリッド F15	5	8	一括	土師器	甑	胴部上位～底部	—	5.6	—	2/3残	粗・茶褐色粒(0.8～3.0㎜)均等	良	外：7.5YR6/6橙 内：5YR6/8橙	外：ヘラナデ。底部中央左寄りに、径7.0㎜の焼成後穿孔施す。 内：ヘラナデ。一部強いヘラナデ。底部中央左寄りに径7.0㎜の焼成後穿孔施す。	
184	グリッド F29	1	1	一括	カワラケ	中杯	口縁～底部	11.2	6.0	2.9	9/10残	やや粗・赤橙色粒(1.0～3.0㎜)微量	良	外：7.5YR7/6橙 内：5YR6/6橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り。中央部、ナデか。 内：ロクロ調整。見込部中央、ナデか。	中世(戦国)。
184	グリッド F29	2	2	一括	カワラケ	中杯	口縁～底部	(10.6)	6.2	(3.1)	3/7残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り。中央部、ナデ。 内：ロクロ調整。見込部中央、ユビナデ。	中世(戦国)。
184	グリッド H13	1	6	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：2.5YR5/8明赤褐	外:折り返し口縁。口縁部、斜縄文巡り、下端部にヘラ状工具による刻み目施す。 内：ヘラナデ。一部、やや強いヘラナデ。	
184	グリッド H13	2	5	一括	土師器	小型短頸壺(甕)	口縁～胴部上位	(11.0)	—	—	1/4残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ハケメ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。一部、輪積み痕残る。	
184	グリッド H13	3	1	一括	土師器	坩か	頸部～胴部中位	—	—	—	1/2残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：5YR5/6明赤褐	外：ヘラミガキ。一部、赤色顔料付着。 内：強いヘラナデ。	
185	グリッド I17	1	1,9	一括	弥生土器	壺	口縁～頸部	(19.0)	—	—	3/7残	粗・白色粒(0.2～0.8㎜)均等	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：10R4/8赤	外:折り返し口縁。口唇部、斜縄文巡り、口縁部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、ヘラミガキ。赤彩。頸部下半、結節文及び沈線により区画された中に、羽状縄文施す。結節文は、上から沈線を施文する。無文部、ヘラミガキ。赤彩。 内：口縁～頸部上半、ヘラミガキ。赤彩。頸部下半、ヘラナデ。	
185	グリッド I17	2	2	一括	弥生土器	壺	口縁～頸部	(22.0)	—	—	3/8残	密・白色粒(0.1～0.4㎜)少量だが均等	良	外：10R3/6暗赤 内：10R3/6暗赤	外：折り返し口縁。口唇部、斜縄文巡り、下端部、縄文原体による刻み目施す。頸部、ヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラミガキ。赤彩。	
185	グリッド I17	3	7	一括	弥生土器	壺	頸部～胴部	—	—	—	4/7残	密・赤褐色粒(0.2～1.0㎜)少量だが均等	良	外：10R5/8赤 内：2.5YR5/6明赤褐	外：頸部、結節文により区画された斜縄文帯巡る。胴部上半、斜縄文帯巡る。無文部、粗いヘラミガキ。赤彩。 内：頸部、粗いヘラミガキ。赤彩。胴部、ヘラナデ。	
185	グリッド I17	4	10	一括	弥生土器	壺	胴部中位～底部	—	6.8	—	5/7残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：10R4/6赤 内：2.5YR5/6明赤褐	外：ヘラミガキ、赤彩。 内：ヘラナデ。	
185	グリッド I17	5	17,23	一括	弥生土器	壺	胴部～底部	—	7.4	—	5/8残	密・白色粒(0.2～1.0㎜)少量だが均等	良	外：10R4/6赤 内：10R5/8赤	外：胴部上半、沈線により区画された中に、羽状縄文巡る。胴部下半、輪積み痕残し、縄文原体による刻み目施す。無文部、ヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラナデ、ヘラミガキ。赤彩か。	
185	グリッド I17	6	5	一括	弥生土器	壺	口縁～頸部	—	—	—	口縁～頸部片	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：2.5YR4/6赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：口縁部、羽状縄文施し、下部に結節文巡る。下端部、縄文原体による刻み目施す。頸部、赤彩。 内：ヘラナデ。赤彩。	
185	グリッド I17	7	6	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR3/4暗赤褐 内：10R3/6暗赤	外：沈線で連続山形文状に区画された中に、斜縄文巡る。無文部、ヘラミガキ。赤彩。 内：ヘラナデ。赤彩か。	
185	グリッド I17	8	2	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒灰色粒(0.2～1.0㎜)少量	良	外：10YR6/4にぶい黄橙 内：10YR7/2にぶい黄橙	外：櫛歯状工具による平行沈線文、波状文施す。 内：ヘラナデ。	
185	グリッド I17	9	8	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：沈線により平行及び山形に区切られた中に、斜縄文施す。無文部、赤彩か。 内：ヘラナデ。	
185	グリッド I17	10	11,12,13,16,22	一括	弥生土器	甕	口縁～胴部下半	(22.2)	—	—	口縁～胴部片	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)均等	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部下半、1段の輪積み痕残し、縄文原体による刻み目施す。 内：ヘラナデ。	
185	グリッド I17	11	14	一括	弥生土器	甕	口縁～頸部	—	—	—	口縁～頸部片	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：10YR7/6明黄褐	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、一段の輪積み痕残し、縄文原体による刻み目施す。 内：ヘラナデ。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
185	グリッド I17	12	15	一括	弥生土器	甕	口縁～頸部	—	—	—	口縁～頸部片	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、数段の輪積み痕残す。 内：ヘラナデ。	
185	グリッド I17	13	18	一括	弥生土器	甕	胴部下端～底部	—	7.0	—	1/2残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：10YR3/1黒褐	外：ヘラナデ。 内：ヘラナデ。やや強いヘラナデ。	
185	グリッド I17	14	20	一括	弥生土器	甕	胴部下端～底部	—	5.8	—	5/8残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ヘラナデ。底部中央、径5.8㎜程度の焼成前穿孔施す。 内：ヘラナデ。底部中央、径5.8㎜程度の焼成前穿孔施す。	内面からの穿孔は、やや粗く、段差が付いている。
186	E一括	1	82	一括	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.2～0.4㎜)少量だが均等	良	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：5YR5/3にぶい赤褐	外：口縁部、刻文帯の下方に、連続する角押文が、重層並走する。 内：ナデ。	曽谷式か。
186	E一括	2	1	一括	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR3/1黒褐	外：肋骨文状の沈線ありか。 内：ナデ。	諸磯式か。
186	E一括	3	4	一括	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.2㎜)微量	良	外：7.5YR4/3褐 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：角押文施す。 内：ナデ。	五領ヶ台式か。
186	E一括	4	3	一括	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.3～1.0㎜)微量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：10R4/8赤	外：押し引き状の角押文施す。 内：ナデ。赤彩か。	五領ヶ台式。
186	E一括	5	7	一括	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.5～2.0㎜)少量だが均等	良	外：10R4/4赤褐 内：10R4/4赤褐	外：弧線文状の沈線施す。 内：ナデ。	安行3式か。
186	E一括	6	8	一括	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：角押文の直下に枠状文施す。 内：ナデ。	阿玉台式か。
186	E一括	7	10	一括	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・金雲母粒(0.5～1.0㎜)均等	良	外：5YR5/6明赤褐 内：5YR5/6明赤褐	外：隆線による枠状文の中に、連続する角押文施す。 内：ナデ。	阿玉台式。
186	E一括	8	2	一括	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：2.5YR6/8橙 内：10YR5/4にぶい黄褐	外：半球状工具による浅い刺突文施す。 内：ナデ。	加曽利E式。
186	E一括	9	3	一括	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：5YR4/2灰褐 内：5YR6/6橙	外：縄文地文で、楕円区画文施す。 内：ナデ。	加曽利E式。
186	E一括	10	4	一括	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR5/4にぶい赤褐 内：2.5YR3/1暗赤灰	外：縄文地文で、磨消懸垂文施す。 内：ナデ。	加曽利E式。
186	E一括	11	9	一括	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR4/3にぶい赤褐 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：縄文地文で、磨消懸垂文施す。 内：ナデ。	加曽利E式。
186	E一括	12	7	一括	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：5YR6/4にぶい橙 内：2.5YR6/6橙	外：口縁部直下に隆帯巡り、胴部、縄文地文に、沈線施すか。 内：ナデ。	堀之内式か。
186	E一括	13	1,2,13	一括	縄文土器	鉢	口縁～胴部上位	—	—	—	口縁～胴部片	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：横帯文巡る。 内：口縁部、径3.0㎜程度の円形棒状工具による焼成前穿孔(内→外)を、深さ3㎜程施す(貫通はせず)。体部、横帯文巡る。	加曽利B1式。
186	E一括	14	3	一括	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.2㎜)微量	良	外：5YR5/3にぶい赤褐 内：5YR5/4にぶい赤褐	外：口縁部、隆線貼付。胴部、条線施文。 内：ナデ。	加曽利B式。
186	E一括	15	4	一括	弥生土器	鉢	口縁～体部下半	(19.8)	—	—	1/3残	密・黒灰色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	良	外：10R4/6赤 内：10R4/6赤	外：折り返し口縁。口縁下端部、径3㎜程度の竹管状工具による連続刺突文巡る。胴部、ヘラナデ。粗いヘラミガキ。下半部、赤彩残る。 内：ヘラナデ。粗いヘラミガキ。赤彩。	内・外面共、摩耗しており、一部赤彩が残る。
186	E一括	16	81	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5YR7/6橙 内：10R4/6赤	外：折り返し口縁。口縁部、斜縄文巡り、口縁下端部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、赤彩施す。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、ヘラナデ。全面、赤彩施す。	
186	E一括	17	12	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：10R4/6赤 内：10R5/8赤	外:折り返し口縁。口縁部、斜縄文巡り、下端部に、縄文原体による刻み目施す。頸部、赤彩。 内：ヘラナデ。赤彩。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
186	E一括	18	2	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：折り返し口縁。口縁部、羽状縄文巡り、ヘラ状工具による刻み目を施した棒状浮文貼り付ける。 内：ヘラナデ。	
186	E一括	19	4	一括	弥生土器	壺	口縁部	—	—	—	口縁部片	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：7.5R4/6赤	外：折り返し口縁。口縁部、結節文により区画された斜縄文巡り、口縁上方に、円形浮文貼り付ける。下方は、径3㎜程度の焼成前穿孔施す。下端部、縄文原体による刻み目施す。 内：ヘラミガキ。赤彩。	
186	E一括	20	2	一括	土師器	杯	口縁～底部	(15.6)	—	(4.0)	1/4残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	良	外：10R4/8赤 内：10R4/8赤	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ。赤彩。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。赤彩。	
186	E一括	21	56	一括	土師器	高杯	脚部	(3.8)	(9.0)	(2.1)	脚部のみ1/6残	密・白色粒微量	良	外：10R4/8赤 内：5YR6/4にぶい橙	外：縦位のヘラミガキ、赤彩。 内：ヘラナデ、ナデ。	
186	E一括	22	49	一括	土師器	高杯	脚部	(4.0)	(5.6)	(3.0)	杯部下半～脚部2/3残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR4/8赤褐 内：5YR6/8橙	外：杯部中央、脚部3ヵ所に焼成前穿孔施す。脚部、タテの強いヘラナデ。 赤彩か。 内：脚部内面、ナデ、ヘラナデ。一部、ユビナデ。	
186	E一括	23	53	一括	土師器	高杯	脚部	(3.0)	(4.0)	(4.5)	脚部2/3残	密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良	外：5YR6/8橙 内：2.5YR6/6橙	外：ヘラナデ、ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	器面状態不良。
186	E一括	24	52	一括	土師器	高杯	脚部	(3.0)	(6.6)	(3.9)	脚部2/3残	密・白色粒(0.3～0.7㎜)少量だが均等	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：5YR6/8橙	外：ヘラケズリ、一部、強いヘラナデ。赤彩。 内：ヘラナデ。	
186	E一括	25	1	一括	土師器	鉢	口縁～底部	9.9	3.2	7.3	9/10残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：2.5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラミガキ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラミガキ。赤彩。	内・外面共、丁寧なヘラミガキ。
186	E一括	26	1	一括	土師器	鉢か	体部中位～底部	—	(6.0)	—	3/7残	密・白色粒(0.1～0.6㎜)少量	良	外：7.5R4/6赤 内：7.5R4/6赤	外：ヘラケズリ。赤彩。 内：ヘラナデ。赤彩。	
186	E一括	27	3	一括	土師器	甕	口縁～底部	14.4	4.8	23.4	3/5残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
187	E一括	28	1	一括	土師器	S字甕	口縁～頸部	(16.5)	—	—	1/10残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：5YR5/6明赤褐	外：ヨコナデ。 内：ヨコナデ。	
187	E一括	29	6	一括	土師器	甕	口縁～ 胴部上半	(15.4)	—	—	1/3残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：5YR5/6明赤褐 内：5YR5/6明赤褐	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、(ハケメのような)ヘラナデ。	
187	E一括	30	2	一括	土師器	甕	口縁～頸部	(17.8)	—	—	1/6残	密・黒灰色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	やや不良	外：5YR6/8橙 内：5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
187	E一括	31	3	一括	土師器	甕	口縁～頸部	(15.8)	—	—	1/8残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR5/6明赤褐 内：10R5/6赤	外：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラケズリ。 内：口縁部、ヨコナデ。胴部、ヘラナデ。	
187	E一括	32	75	一括	土師器	甕	胴部中位～底部	—	4.2	—	4/7残	粗・赤褐色粒(0.8～1.5㎜)少量だが均等、小礫(0.8～2.0㎜)少量だが均等	良	外：5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。数段の輪積み痕、残る。	
187	E一括	33	5	一括	土師器	甕	胴部～底部	—	5.4	—	3/7残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：2.5YR6/8橙	外：ヘラナデ、ヘラケズリ。 内：ヘラナデ。	
187	E一括	34	76	一括	須恵器	蓋	つまみ～蓋部中位	—	—	—	4/5残	緻密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良好	外：2.5Y7/2灰黄 内：2.5Y7/1灰白	外：ロクロ調整。天井部、回転ヘラケズリ。 内：ロクロ調整。	35と同一個体の可能性あり。
187	E一括	35	77	一括	須恵器	蓋	天井部～下端部	—	(16.8)	—	1/3残	緻密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良好	外：10YR8/2灰白 内：10YR8/1灰白	外：ロクロ調整。天井部、回転ヘラケズリ。 内：ロクロ調整。	34と同一個体の可能性あり。
187	E一括	36	15	一括	須恵器	蓋	下端部	—	(16.0)	—	1/10残	緻密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良好	外：5Y5/1灰 内：5Y6/1灰	外：ロクロ調整。 内：ロクロ調整。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
187	E一括	37	78	一括	須恵器	高台付杯	口縁～底部	(15.4)	(10.5)	(4.7)	3/7残	緻密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良好	外：10YR7/1灰白 内：10YR7/2にぶい黄橙	外：体部、ロクロ調整。底部、回転ヘラケズリ。 内：ロクロ調整。	色調、白色味強く、底部、突出する。
187	E一括	38	6	一括	須恵器	高台付杯	体部中位～底部	—	11.8	—	1/2残	緻密・白色粒(0.1～1.5㎜)少量だが均等	良好	外：5Y5/1灰 内：5Y5/1灰	外：ロクロ調整。 内：ロクロ調整。	
187	E一括	39	80	一括	須恵器	高台付杯	体部下端～底部	—	(10.0)	—	1/4残	緻密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	良好	外：10YR8/1灰白 内：10YR8/1灰白	外：ロクロ調整。 内：ロクロ調整。	色調、白色味強く、底部、突出する。
187	E一括	40	1	一括	灰釉陶器	壺	胴部中位～底部	—	9.0	—	4/7残	緻密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良好	外：5Y6/2灰オリーブ 内：2.5Y8/1灰白	外：ロクロ調整。自然釉かかる。 内：ロクロ調整。	
187	E一括	41	86	一括	陶器	天目茶碗	口縁～体部下端	(11.2)	—	—	1/10残	緻密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良好	外：5YR6/3にぶい橙(釉なし部) 内：5YR2/3極暗赤褐(釉部)	外：ロクロ調整。口縁～体部中位、施釉。 内：ロクロ調整。全面施釉。	中世。古瀬戸後Ⅲ期、瀬戸・美濃系。 43と同一個体の可能性あり。
187	E一括	42	30	一括	陶器	緑釉小皿	口縁～体部中位	(8.6)	—	—	1/8残	緻密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良好	外：5Y5/3灰オリーブ 内：5Y4/2灰オリーブ	外：ロクロ調整。口縁部、施釉。 内：ロクロ調整。口縁部、施釉。	中世。古瀬戸後Ⅳ期、瀬戸・美濃系。
187	E一括	43	91	一括	陶器	天目茶碗	体部下端～底部	—	4.2	—	4/5残	緻密・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	良好	外：2.5YR4/3にぶい赤褐(釉なし部) 内：7.5YR2/1黒(釉部)	外：ロクロ調整。施釉部分、なし。削り出し高台。 内：ロクロ調整。全面施釉。	中世。古瀬戸後Ⅱ～Ⅲ期。 41と同一個体の可能性あり。
187	E一括	44	34	一括	陶器	卸し皿	体部下端～底部	—	(5.4)	—	1/4残	緻密・黒色粒(0.1～0.2㎜)微量	良好	外：2.5Y8/2灰白 内：2.5Y8/4淡黄	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り。 内：ロクロ調整。底部、格子状の卸し目施す。	中世。古瀬戸後期、瀬戸・美濃系
187	E一括	45	14	一括	陶器	擂鉢	胴部	—	—	—	胴部片	緻密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	良好	外：2.5YR5/6明赤褐 内：5YR4/3にぶい赤褐	外：ロクロ調整。 内：ロクロ調整。櫛歯状工具による摺り目施す。	中世。古瀬戸後Ⅳ期～大窯、瀬戸・美濃系。
187	E一括	46	2	一括	カワラケ	小皿	口縁～底部	7.0	4.2	2.0	3/5残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	良	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り。一部、ユビナデか。 内：ロクロ調整。底部内面中央部、ユビナデ。	中世後期。
187	E一括	47	1	一括	カワラケ	中杯	口縁～底部	11.0	5.5	2.8	3/5残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	良	外：10YR7/4にぶい黄橙 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り。一部、ユビナデ。 内：ロクロ調整。底部内面、ユビナデ。	中世後期。
188	E一括	48	515	一括	陶器	大甕	口縁～胴部下半	(27.5)	—	—	1/2残	やや粗・白色粒含む。焼き締まる。	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR5/2灰褐	外:胴部下位から肩部に向け、縦方向にヘラ状工具でナデ、ハケメ状痕跡が付く。肩部横方向ナデ、頸部から口縁部横方向ナデ。 内：粘土紐接合部を中心に、指頭圧痕が帯状に付く。胴部下位から斜め上方に向けナデ、肩部を横方向ナデ。	15ｃ後半。常滑産10型式。口縁部から肩までテリが出る。重量7,100g(石膏込み)。

第3表　台遺跡A地点出土土器観察表

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
200	125	1	1	一括	土師器	坩	口縁～底部	10.9	2.5	4.0	4/5残	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：2.5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	
200	217	1	1	一括	カワラケか	鉢	口縁～底部	8.8	7.8	4.2	ほぼ完形	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：7.5YR7/6橙 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラケズリ、ヘラナデ。 内：口縁部、ヨコナデ。体部、ヘラナデ。	中世後期か。底部、木葉痕あり。
200	231	1	1	一括	陶器	おろし目付片口大皿	口縁～底部	33.0	14.6	11.2	4/5残	緻密・黒色粒(0.2～1.2㎜)少量だが均等	良好	外：5Y6/2灰オリーブ 内：2.5Y7/4浅黄	外：ロクロ調整。口縁部、1ヵ所に片口状の注ぎ口付く。上半部、施釉。底部、回転ヘラ切り離し後、3つの脚を付ける。 内：ロクロ調整。上半部、施釉。下半部に一部、串状工具による斜格子状のおろし目付く。	中世。古瀬戸後Ⅳ期、瀬戸・美濃系。
201	231	2	2	一括	陶器	脚付鉢	口縁～底部	28.1	11.7	8.6	完形	緻密・黒色粒(0.1～0.2㎜)均等	良好	外：2.5YR2/2極暗赤褐(釉部分) 内：10YR6/3にぶい黄橙(素地部分)	外：ロクロ調整。口縁部、角棒状工具による刻み目施す。上半部、施釉(鉄釉)。底部、回転ヘラ切り離し後、3つの脚を付ける。 内：ロクロ調整。上半部、施釉(鉄釉)。底部内面、円形状の線刻あり。	中世。瀬戸・美濃系。

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
201	232	1	1	一括	灰釉陶器	長頸壺	頸部～底部	—	(12.0)	—	3/7残	緻密・黒色粒(0.2～1.5㎜)少量だが均等	良好	外：5Y4/2灰オリーブ(釉部分) 内：5Y7/1灰白(素地部分)	外：ロクロ調整。肩部、自然釉かかる。 内：頸部、三段構成により胴部と接合する。ロクロ調整。	
201	233	1	1	一括	陶器	平椀	口縁～体部	15.6	—	—	1/10残	緻密・白色粒(0.1～0.15㎜)微量	良好	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り後、中央部、ナデ。 内：ロクロ調整。底部内面、ナデ。	中世。古瀬戸後Ⅲ期。
201	250	1	3	一括	須恵器	杯	底部	—	13.0	—	4/5残	緻密・黒色粒(0.5～1.5㎜)少量だが均等	良好	外：10YR6/2灰黄褐 内：10YR6/1褐灰	外：ロクロ調整。底部、回転ヘラ切り。 内：ロクロ調整。	
201	303	1	1	一括	土師質土器	カワラケ(小皿)	口縁～底部	11.0	5.0	2.7	1/3残	密・黒色粒(0.2～0.5㎜)微量	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り。 内：ロクロ調整。	中世。
201	303	2	2	一括	土師質土器	カワラケ(小皿)	口縁～底部	11.2	5.7	2.5	1/3残	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)均等	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り後、中央部、ナデ。 内：ロクロ調整。底部内面中央部、ナデ。	中世(戦国)。
201	303	3	3	一括	土師質土器	カワラケ(小皿)	口縁～底部	7.5	4.1	2.1	3/7残	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	良	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り後、中央部、ナデ。 内：ロクロ調整。底部内面、ナデ。	中世(戦国)。
202	323	1	1	一括	土師質土器	柱状高台土器	口縁～底部	7.8	6.1	4.8	ほぼ完形	やや粗・赤褐色粒(0.5～2.5㎜)微量	良	外：7.5YR6/4にぶい橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り。 内：ロクロ調整。	中世。
202	325	1	2	一括	陶器	折縁皿	口縁部	(11.0)	—	—	1/10残	緻密・黒色粒(0.1㎜)少量だが均等	良好	外：7.5Y6/2灰オリーブ 内：7.5Y6/2灰オリーブ	外：ロクロ調整。 内：ロクロ調整。	中世。大窯4式(前半)、瀬戸・美濃系。
202	336	1	1	一括	陶器	平椀	口縁部	15.6	—	—	1/10残	緻密・白色粒(0.1～0.15㎜)微量	良好	外：7.5YR6/6橙 内：7.5YR6/6橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り後、中央部、ナデ。 内：ロクロ調整。底部内面、ナデ。	中世。古瀬戸後Ⅳ期。
202	A一括	1	16-1 16-2	一括	弥生土器	壺	胴部中位～底部	—	(9.4)	—	3/7残	粗・黄白色粒(0.3～1.0㎜)少量	不良	外：10R3/6暗赤 内：10YR8/3浅黄橙	外：結節文により区画された網目状撚糸文巡る。無文部、ヘラミガキ、赤彩。 内：ヘラナデ。	
202	A一括	2	26	一括	弥生土器	壺	胴部	—	—	—	胴部片	粗・黄白色粒(0.4～1.0㎜)少量	不良	外：10R4/6赤 内：7.5YR7/3にぶい橙	外：結節文により区画された網目状撚糸文巡る。無文部、赤彩。 内：ヘラナデ。	
202	A一括	3	17	一括	弥生土器	甕	口縁～頸部	—	—	—	口縁～胴部片	密・黒色粒(0.1～0.15㎜)少量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：口唇部、ヘラ状工具による刻み目施す。頸部、竹管状工具による連続刺突文巡る。 内：口縁部、ヨコナデ。頸部、ヘラナデ。	
202	A一括	4	19,20	一括	弥生土器	壺か	胴部	—	—	—	胴部片	密・白色粒(0.5㎜)微量	良	外：5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：縄文原体による連続押捺巡る。ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
202	A一括	5	12	一括	弥生土器	甕	胴部上半～底部	—	5.4	—	5/7残	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：10YR7/4にぶい黄橙	外：胴部上～中位、ヘラミガキ。胴部下半、ヘラナデ。 内：ヘラナデ。	
202	A一括	6	4	一括	土師質土器	カワラケ(小皿)	口縁～底部	10.0	5.4	2.5	ほぼ完形	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	良	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/6橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り後、中央部、ナデ。 内：ロクロ調整。底部内面、一部、ナデ。	中世。
202	A一括	7	1	一括	土師質土器	カワラケ(中杯)	口縁～底部	(9.6)	(6.7)	(2.6)	1/6残	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	良	外：7.5YR5/4にぶい褐 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ロクロ調整。底部、回転糸切り。 内：ロクロ調整。	中世(戦国)。

第4表　台遺跡B地点出土土器観察表

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量(復元値)(cm)			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
205	6号溝	1	1	一括	陶器	大甕	口縁部	(40.0)	—	—	1/10残	緻密・白色粒(0.1～0.7㎜)少量だが均等	良好	外：10R3/4暗赤 内：10R3/4暗赤	外：口縁部、折返し状を呈す。ロクロ調整。 内：ロクロ調整。	中世。常滑産9型式。
205	1号地下式坑	1	3	一括	陶器	片口鉢Ⅱ類	口縁～体部下半	—	—	—	口縁～体部片	緻密・白色粒(0.1～0.8㎜)均等	良好	外：5YR5/3にぶい赤褐 内：5YR5/2灰褐	外：ロクロ調整。 内：ロクロ調整。	中世。常滑産9型式。3号台地整形区画-1と同一個体の可能性あり。
205	3号台地整形区画	1	1	一括	陶器	片口鉢Ⅱ類	口縁～体部下半	(29.7)	—	—	1/6残	緻密・白色粒(0.1～0.4㎜)均等	良好	外：5YR5/4にぶい赤褐 内：10YR6/2灰黄褐	外：ロクロ調整。 内：ロクロ調整。	中世。常滑産9型式。1号地下式坑-1と同一個体の可能性あり。
205	B一括	1	1	一括	陶器	片口鉢Ⅰ類	体部下半～底部	—	(14.0)	—	1/8残	粗・小礫(0.7～2.0㎜)少量	良	外：2.5YR6/8橙 内：10YR8/3浅黄橙	外：ロクロ調整。 内：ロクロ調整。摩耗著しい。	中世。常滑産4型式。

第5表　台遺跡D地点出土土器観察表

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	部位	法量（復元値）（cm）			遺存	胎土・含有物	焼成	色調	調整・文様	備考
								口径	底径	器高						
206	D一括	1	8.13	一括	土師器	甕	口縁～底部	(18.0)	8.4	29.1	ほぼ完形	密・白色粒(0.3～0.5㎜)微量	良	外：2.5YR5/8明赤褐 内：2.5YR5/8明赤褐	外：ヨコナデ。 内：ヨコナデ。	

第6表　台遺跡E地点出土土製品観察表

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	時期	胎土	法量（復元値）（cm）			重量（g）	遺存	色調	備考
									現存長	幅	厚さ				
74	006	10	7	点	土製品	土錘	—	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	5.4	4.4	4.2	76.3	ほぼ完形	7.5YR7/6橙	外：ナデ、ヘラナデ。 内：径5.8㎜程度の棒状工具に粘土を巻き付け、成形後、引き抜いたか。 焼成良。
74	006	11	8	点	土製品	土錘	—	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量	3.9	4.3	4.3	62.6	下端部1/5欠	10R5/8赤	外：ナデ、ヘラナデ、やや強いヘラナデ。 内：径5.0㎜程度の棒状工具に粘土を巻き付け、成形か。焼成極めて良く、一部、赤色化している。
74	006	12	9	点	土製品	土錘	—	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	3.2	3.2	3.1	32.0	完形	7.5YR3/1黒褐	外：ナデ、ヘラナデ。 内：径5.8㎜程度の棒状工具に粘土を巻き付け、成形後、引き抜いたか。 焼成良。
77	011	8	8	一括	有孔土製品	土錘	—	密・白色粒(0.1㎜)微量	1.4	1.6	1.7	4.0	完形	7.5YR5/4にぶい褐	外：上・下面のほぼ中央に径2.0㎜程度の焼成前穿孔施す。穿孔部の平面形が8の字状を呈し、複数回、穿孔を施したと考えられる。土玉か。
81	023	22	19	一括	土製品	柱状土製品	—	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	4.5	3.0	3.0	49.8	下半部欠	5Y6/6橙	外：上部1ヵ所、また下部にも1ヵ所焼成後穿孔施す。上部は湾曲し、くぼんでいる。 くぼみ部分、ユビナデ、ナデ。脚部分、ナデ、一部、ヘラナデか。 内：径5.0㎜程度の穿孔施す。
87	032	11	11	一括	土製品	支脚	—	軟質・脆く、白色微粒多	12.4	11.1	10.6	1,050.0	上端欠	10YR6/4にぶい黄橙	外：ヘラナデ、ユビナデ。棒状工具で1ヵ所刺突する。 下半部は、焼成が悪く、土壌が緩く固まっている状態に過ぎない。
88	032	12	12	一括	土製品	支脚	—	やや粗・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	13.1	7.8	7.7	1,210.0	下半部1/3欠	5YR6/6橙	外：ナデ、ユビナデ。一部、ユビオサエ。
88	032	13	9	一括	土製品	土錘	—	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	3.4	1.9	1.1	5.7	上端・下端共に欠	7.5YR6/6橙	外：ナデ、ユビオサエ。 内：棒状のものに、粘土を巻き付け、成形後、抜き取った痕跡あり。
90	038	13	10	点	土製品	ミニチュア(鉢)	—	密・黒色粒(0.2～0.3㎜)少量	1.5	1.2	2.6	9.4	ほぼ完形	5YR6/8橙	外：ユビナデ、ナデ。一部、ヘラミガキ痕あり。 内：ユビナデ、ナデ。
90	038	14	13	一括	土製品	支脚	—	粗・白色粒(0.2～0.5㎜)均等	17.4	12.6	7.9	1,850.0	上端部及び裏面1/3欠	7.5YR7/4にぶい橙	ナデ、ユビナデ。一部、ユビオサエ。
92	042	21	20	一括	土製品	球状土錘(土玉)	—	やや粗・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	2.8	3.5	3.4	33.3	ほぼ完形	7.5YR6/6橙	外：ヘラナデ、ヘラケズリ。 内：焼成前に、径4～5㎜程の棒状工具に、粘土を球状に巻き付け、成形後、引き抜いたと考えられる。
99	044	66	72	点	土製品	球状土錘(土玉)	—	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	4.8	4.3	4.0	83.5	ほぼ完形	2.5YR6/8橙	外：ナデ、ユビオサエ、一部、ヘラナデ。 内：焼成前に、径5.0㎜程の棒状工具に、粘土を球状に巻き付け、成形後、引き抜いたか。
99	044	67	73	一括	土製品	球状土錘(土玉)	—	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	2.8	3.2	3.2	25.5	完形	7.5YR6/6橙	外：ナデ、ユビオサエ。 内：焼成前に、径4.0㎜程の棒状工具に、粘土を球状に巻き付け、成形後、引き抜いたか。
104	050	13	15	点	土製品	支脚か	—	やや粗・白色粒(0.2～1.0㎜)少量	4.3	6.4	3.1	82.3	上面のみ1/10残	外：7.5YR6/6橙 内：5YR6/6橙	外：ユビナデ、ナデ。
104	050	14	12	一括	土製品	土器片錘	—	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量	4.2	3.7	1.5	33.5	ほぼ完形	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ。左右端部に、紐かけに伴う欠け、及び磨耗痕あり。
104	050	15	13	一括	土製品	土器片錘	—	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	2.9	2.8	1.0	11.3	ほぼ完形	外：7.5YR4/2灰褐 内：7.5YR5/3にぶい褐	外：ナデ。左右端部に、紐かけに伴う欠け、及び磨耗痕あり。
104	052	3	8	一括	土製品	土器片錘	—	粗・白色小粒多、石英小粒	4.3	3.9	1.1	27.7	ほぼ完形	外：2.5YR5/6明赤褐 内：10YR4/1褐灰	深鉢胴部片。 外：縦方向に棒状工具による条痕文。 内：横方向ナデ。転用調整：円盤状に割れ面を調整し、両端に切欠きを設ける。
104	052	4	7	一括	土製品	球状土錘(土玉)	—	やや粗・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	2.0	2.9	1.1	9.4	両端部欠。側面部のみ1/2残	外：7.5YR7/6橙 内：7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、ヘラナデ。一部、ユビオサエ。 内：径4.2～4.8㎜の棒状工具に粘土巻き付け、球状に成形後、引き抜いたと考えられる。

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	時期	胎土	法量(復元値)(cm)			重量(g)	遺存	色調	備考
									現存長	幅	厚さ				
107	060	2	2	一括	土製品	支脚	—	やや粗・白色粒(0.5～2.0㎜)微量	12.0	6.6	5.3	301.0	左側縁及び下半部1/3欠	7.5YR6/6橙	外：ナデ、ユビナデ。一部、ユビオサエ。
115	074	30	28	一括	土製品	支脚	—	密・白色粒(0.2～0.5㎜)少量	9.6	7.0	5.4	295.0	胴部のみ1/2残	7.5YR6/4にぶい橙	外：ナデ、一部、ヘラナデ。もろく、ボソボソしている。
123	086	8	9	一括	土製品	管状土錘	—	やや粗・白色粒(0.2～0.3㎜)微量	4.6	4.1	4.1	73.7	上半部1/5欠	7.5YR7/6橙	外：ナデ、一部、ヘラナデ。 内：径1.0cm程度の棒状工具に粘土を巻き付け、成形後、引き抜いたか。
126	092	19	21	一括	土製品	球状土錘(土玉)	—	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量	2.8	3.2	3.3	24.9	上端部一部欠	2.5YR5/6明赤褐	外：ナデ、ユビナデ。一部、ユビオサエ。 内：径6.0㎜程の棒状工具に粘土巻き付け、球状に成形後、引き抜いたと考えられる。
131	096	45	53	点	土製品	支脚	—	密・黒色粒(0.2～0.4㎜)少量	13.4	10.5	8.7	919.0	上半部及び裏面1/4欠	7.5YR7/4にぶい橙	外：ナデ、ユビナデ。
148	110	28	18	一括	土製品	支脚	—	脆くスサ状繊維含む	13.2	9.1	8.6	815.0	完形	10YR7/4にぶい黄橙	外：縦方向ナデ。底面無調整。
152	117	13	5	一括	土製品	土器片錘	縄文中期(加曽利E式)	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	3.4	5.0	1.0	25.3	ほぼ完形	2.5YR6/6橙	深鉢胴部片。深鉢破片の両端を打ち欠いて、錘に転用したと考えられる。 外：沈線直下に条線入る。 内：ナデ。
156	123	42	38	一括	土製品	ミニチュア	—	密・赤色粒(0.2～0.4㎜)微量	3.5	3.9	1.8～3.4	22.5	ほぼ完形	10YR7/4にぶい黄橙	外：正面→裏面に5ヵ所にわたり、串状工具による焼成前穿孔施す。 ユビナデ、ユビオサエ。指頭痕残る。焼成、良。丁寧なつくり。
156	123	43	40	一括	土製品	ミニチュア	—	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	4.0	2.7	2.3	26.2	完形	10YR7/3にぶい黄橙	外：上方右側面→左側面に、径4.5㎜程度の串状工具による焼成前穿孔施す。 ユビナデ、ユビオサエ。焼成、良。丁寧なつくり。
156	123	44	42	一括	土製品	ミニチュア	—	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量	3.1	2.1	2.1	16.7	完形	7.5YR6/4にぶい橙	外：上方右側面→左側面に、径2.0㎜程度の串状工具による焼成前穿孔施す。 ユビナデ、ユビオサエ。焼成、良。丁寧なつくり。
156	123	45	41	一括	土製品	分銅(水滴)状土製品	—	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	2.5	2.1	(2.0)	6.8	3/5残	10YR7/4にぶい黄橙	外：上端部、割れ口中央部を、半円形状に焼成後穿孔施した形跡あり。円環状に穿孔されていたか。直下に2ヵ所、焼成後穿孔を試みた形跡あり。貫通させることを意図していたか。分銅(水滴)状を呈し、極めて丁寧なヘラミガキ施す。表面は、平滑で光沢あり。特殊な遺物の印象を受ける。
156	123	46	39	—	土製品	勾玉	古墳中期	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	5.3	1.7	1.0	15.2	穿孔部先端、若干欠	5YR5/4にぶい赤褐	外：裏面→表面に、1ヵ所、焼成前穿孔施す。ナデ、ユビナデ。
163	124	21	36	一括	土製品	土錘か	—	密・赤橙色粒(0.2～0.4㎜)少量	2.6	2.9	2.8	19.9	上方部1/3残	5YR4/2灰褐	外：径5.8㎜程の棒状工具による焼成前穿孔施す。 内：ナデ、ユビナデ、ユビオサエ。土錘の従来の穿孔位置とは、異なる位置に穿孔が施されており、土錘でない可能性あり。
163	124	22	35	一括	土製品	土錘	—	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	2.9	2.5	1.8	11.0	1/4残	5YR5/4にぶい赤褐	外：下→上に、径5.3㎜程の棒状工具による焼成前穿孔施す。 内：ナデ、ユビナデ、ユビオサエ。
164	131	15	28	一括	土製品	土錘	—	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	3.9	(2.7)	(1.3)	19.2	3/7残	5YR4/1褐灰	外：管状土錘。径6.0～7.0㎜程の棒状工具に、粘土巻き付け、引き抜いたか。
166	137	17	18	点	土製品	土錘	—	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	3.0	3.2	2.5	22.1	完形	10YR7/4にぶい黄橙	外：球状土錘。ナデ、ユビナデ、ユビオサエ。一部、ヘラナデ。
166	137	18	17	点	土製品	土錘	—	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	3.0	3.5	2.7	25.4	ほぼ完形	10YR7/4にぶい黄橙	外：球状土錘。ナデ、ユビナデ、ユビオサエ。一部、ヘラナデか。 やや、ソロバン玉状を呈す。
169	143	4	10	一括	土製品	土錘	—	密・白色粒(0.1～0.3㎜)少量	2.8	3.0	2.8	21.3	ほぼ完形	2.5YR4/3にぶい赤褐	外：球状土錘。ナデ、ユビナデ、ユビオサエ。丁寧なつくり。光沢がある。
169	144	3	5	一括	土製品	土錘	—	密・白橙色粒(0.1～0.4㎜)微量	5.8	2.8	2.8	56.8	完形	7.5YR5/4にぶい褐	外：管状土錘。ナデ、ユビナデ、ユビオサエ。
170	145	10	15	一括	土製品	土錘	—	密・黒灰色粒(0.1～0.2㎜)少量	3.0	3.6	3.2	34.1	完形	10YR7/4にぶい黄橙	外:球状土錘。ナデ、ユビナデ、ユビオサエ。径5.5㎜程度の焼成前穿孔施す。

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	時期	胎土	法量(復元値)(cm)			重量(g)	遺存	色調	備考
									現存長	幅	厚さ				
170	145	11	12	一括	土製品	土錘	—	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	2.8	3.2	3.1	26.7	完形	7.5YR7/6橙	外：球状土錘。ナデ、ユビナデ。径8.0㎜程度の焼成前穿孔施す。
175	472	2	17	一括	土製品	土鈴	—	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	3.7	3.0	2.7	14.9	ほぼ完形	10YR8/3浅黄橙	外：上方に径3.8㎜程度の焼成前穿孔(側面図の左→右)施す。下部中央に、方形の切れ込みを焼成前穿孔する。ナデ、ユビナデ、下部に指頭痕残る。 内：ナデ。外身内に径9.0×10.0㎜程度の土製の丸玉入る。
175	472	3	16	一括	土製品	人形	—	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)微量	8.9	4.7	6.9	120.8	完形	2.5Y8/1灰白(に近い)	外：ナデ、ユビナデ、ユビオサエ。一部、指頭痕残る。ヘラ状工具により、衣部分の沈線、施す。担がれた猿の顔部及び、男の袖内部分、赤色顔料残る。底部中央、径8.0×6.0㎜、深さ11.0㎜程度の焼成前穿孔施す。棒状のものに刺したか。
188	E一括	49	10	一括	土製品	球状土錘	—	密・白色粒(0.1～0.2㎜)少量	3.8	3.9	1.9	24.0	1/2残	7.5YR6/4にぶい橙	外：球状土錘。ナデ、ユビナデ。径6.5㎜程度の焼成前穿孔施す。
188	E一括	50	JJ16	一括	土製品	柱状土製品	—	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	4.2	3.1	3.0	50.2	上半部1/2残か	2.5YR4/4にぶい赤褐	外：柱状土錘か。上部、径4.2×5.0㎜程度の棒状工具による焼成前穿孔施す。下端部にも、棒状工具による焼成前穿孔の痕跡あり。ヘラナデ、ヘラミガキ。焼成良く、ヘラミガキ部、赤褐色呈す。023号遺構に類品がある。
188	E一括	51	6	一括	土製品	土器片錘	縄文中期(加曽利E式)	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	5.0	8.2	1.1	63.5	ほぼ完形	7.5YR7/4にぶい橙	深鉢胴部片。 外：縄文地文で、磨消懸垂文施す。両端部、紐掛けによる摩耗痕あり。 内：ナデ。
188	E一括	52	9	一括	瓦	平	—	密・白色粒(0.2～1.0㎜)少量	(10.8)	(10.0)	(2.0)	271.9	右側縁部のみ残	凸：10YR4/1褐灰 凹：10YR4/1褐灰	焼成、良。 凸面：縄目叩き痕。 凹面：布目痕。 右側縁部：ヘラケズリ、ヘラナデ。
188	E一括	53	47	一括	土製品	人形	近世か	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量だが均等	12.2	12.4	7.1	182.0	完形	5YR6/6橙	外：腹帯部、頭髪部、及び背面、着物裾部、黒彩。
189	E一括	54	48	一括	土製品	人形	近世か	密・白色粒(0.2～0.4㎜)微量	9.6	9.9	5.2	122.7	5/7残	5YR6/6橙	外：頭髪部下端、一部、黒彩残る。
189	E一括	55	49	一括	土製品	人形	近世か	密・黒灰色粒(0.3～0.4㎜)少量	9.5	10.3	5.1	114.0	ほぼ完形	5YR6/4にぶい橙	外：背面、着物裾部、一部、黒彩残るか。
190	E一括	56	61	一括	土製品	人形	近世か	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	7.4	4.9	2.8	37.0	5/7残	7.5YR6/4にぶい橙	外：左右側面部、ヘラナデ。
190	E一括	57	54	一括	土製品	人形	近世か	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	9.6	9.2	4.5	80.0	完形	2.5YR6/6橙	外：腹帯部、頭髪部、及び背面、着物裾部、一部、黒彩残る。
190	E一括	58	55	一括	土製品	人形	近世か	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	9.3	9.5	4.8	76.9	ほぼ完形	2.5YR6/6橙	外：頭髪部、及び背面、着物裾部、黒彩残る。
191	E一括	59	62	一括	土製品	人形	近世か	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	4.1	4.3	3.1	25.5	頭部のみ残	5YR6/4にぶい橙	外：頭髪部、一部、黒彩残るか。
191	E一括	60	50	一括	土製品	人形	近世か	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	9.5	9.2	5.1	99.8	完形	7.5YR7/4にぶい橙	外：腹帯部、頭髪部、及び背面、着物裾部、一部、黒彩残る。
191	E一括	61	56	一括	土製品	人形	近世か	密・赤褐色粒(0.2～0.8㎜)微量	7.2	7.8	3.8	63.0	ほぼ完形	2.5YR6/6橙	外：左右側面部、ヘラナデ。頭髪部、一部、黒彩残るか。
192	E一括	62	57	一括	土製品	人形	近世か	密・白色粒(0.1～0.3㎜)微量	7.0	7.4	3.4	57.7	左肩部、一部欠	5YR6/6橙	外：左右側面部、ヘラナデ。頭髪部、一部、黒彩残る。
192	E一括	63	52	一括	土製品	人形	近世か	密・白色粒(0.3～0.5㎜)微量	8.6	9.6	4.2	97.8	4/5残	2.5YR5/6明赤褐	外：左右側面部、ヘラナデ。頭髪部、一部、黒彩残るか。
192	E一括	64	51	一括	土製品	人形	近世か	密・黒灰色粒(0.1～0.2㎜)少量	9.4	9.1	5.0	99.6	ほぼ完形	5YR6/6橙	外：背面、着物裾部、一部、黒彩残るか。

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	時期	胎土	法量(復元値)(cm)			重量(g)	遺存	色調	備考
									現存長	幅	厚さ				
193	E一括	65	60	一括	土製品	人形	近世か	密・白色粒(0.1～0.2㎜)微量	7.0	6.2	3.2	45.0	右裾部、一部欠	2.5YR6/6橙	外：左右側面部、ヘラナデ。右裾部、端部まで成形せずに焼成か。
193	E一括	66	53	一括	土製品	人形	近世か	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量	8.6	9.3	4.1	88.5	ほぼ完形	5YR7/6橙	外：左右側面部、ヘラナデ。頭髪部、黒彩。
193	E一括	67	58	一括	土製品	人形	近世か	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)微量	7.6	7.6	3.9	57.2	完形	5YR6/6橙	外：頭髪部、一部、黒彩残るか。
194	E一括	68	59	一括	土製品	人形	近世か	密・黒色粒(0.1～0.3㎜)少量だが均等	7.5	7.2	3.9	51.7	完形	5YR6/6橙	外：頭髪部、及び背面、着物裾部、黒彩残る。
194	E一括	69	46	一括	土製品	人形	近世か	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	3.4	2.0	1.5	9.1	頭～肩部欠	10YR8/4浅黄橙	外：立像と考えられる。底部中央、径2.0㎜、深さ17㎜程度の棒状工具による焼成前穿孔(下→上)施す。小型土人形の下半部か。
184	グリッドH13	4	4	一括	土製品	土錘	—	密・海綿骨針状白色粒(0.2㎜)微量	5.1	2.9	2.5	24.0	下半部2/5欠	5YR6/6橙	外：ナデ、一部、ヘラナデ。 内：(先端が細い)棒状工具に粘土を巻き付け、成形後、引き抜いたか。

第7表　台遺跡A地点出土土製品観察表

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	時期	胎土	法量(復元値)(cm)			重量(g)	遺存	色調	備考
									現存長	幅	厚さ				
201	241	1	1	一括	土製品	球状土製品	—	密・黒色粒(0.1～0.2㎜)少量	3.9	4.4	(4.1)	88.0	裏面部、若干欠	10YR5/2灰黄褐	外：ナデ、ユビナデ。底部、平坦面の中央に径7.0㎜程の円形棒状工具を、15.5㎜程度挿入して引き抜き、焼成前穿孔施す。全体に丁寧なつくり。

第8表　台遺跡B地点出土土製品観察表

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	種別	器種	時期	胎土	法量(復元値)(cm)			重量(g)	遺存	色調	備考
									現存長	幅	厚さ				
205	B一括	2	1	一括	土製品	土器片錘	縄文中期(阿玉台式)	密・雲母粒(0.3～1.0㎜)少量だが均等	5.5	6.7	1.5	75.1	ほぼ完形	10YR7/4にぶい黄橙	深鉢口縁部片。 外：楕円状の隆線に沿って角押文施す。両端部、切れ込みがあり、紐掛けによる摩耗痕あり。 内：ナデ。

第9表　台遺跡E地点出土金属器・骨角器観察表

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	種別	遺存	素材	法量(推定)（cm）			重量(g)	備考
							長さ	幅	厚さ		
163	124	23	41	板状鉄製品	—	鉄	2.99	1.83	0.40	3.4	右側部分の錆付着及び錆膨れ、著しい。
164	131	16	31	鉄釘	上・下端部欠	鉄	4.19	0.78	0.48	2.0	鉄板を折り曲げて、方形状(角釘)に成形している。
194	E一括	70	45	青銅鋲杵	完形	銅	12.48	5.13	1.84	54.0	基部､2ヵ所の穿孔施す。
194	E一括	71	63	骨製キセル入れ	上端部、一部欠	骨	19.87	3.02	2.52	49.5	下端部、黒ずんでいる。

第10表　台遺跡E地点出土銭貨観察表

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	銭名	素材	遺存度	法量(推定)（㎜）				重量　g	備考
							現存長	幅	厚さ	方(円)孔		
172	451	1	6	開元通宝	銅	完形	24.83	24.86	1.11～1.14	6.89×6.83	3.0	
172	451	2	10	開元通宝	銅	完形	23.64	23.44	1.08～1.25	6.26×6.12	3.5	
172	451	3	35	開元通宝	銅	1/3欠	24.51	21.65	1.18～1.30	6.68×6.53	2.2	
172	451	4	40	開元通宝	銅	完形	24.13	24.41	1.09～1.20	6.56×6.79	2.6	
172	451	5	42	開元通宝	銅	完形	24.05	24.22	0.97～1.22	6.93×6.73	2.9	
172	451	6	48	開元通宝	銅	完形	23.18	23.34	0.86～1.13	6.57×6.74	2.2	
172	451	7	20	至道元宝(行)	銅	完形	24.87	24.78	1.05～1.27	6.05×5.96	3.5	
172	451	8	37	至道元宝(真)	銅	完形	24.80	24.40	1.15～1.50	6.43×6.10	3.4	
172	451	9	56	咸平元宝	銅	完形	24.46	24.94	1.00～1.14	6.07×6.04	3.2	
172	451	10	25	祥符通宝	銅	完形	24.95	24.90	1.13～1.32	6.61×6.48	3.5	
172	451	11	51	祥符通宝	銅	完形	24.71	24.72	1.04～1.19	6.19×6.34	3.2	
172	451	12	53	祥符通宝	銅	完形	25.08	25.09	0.88～0.94	5.71×5.82	3.2	
172	451	13	45	天禧通宝	銅	完形	23.49	23.90	0.72～0.95	6.70×6.57	2.2	
172	451	14	7	天聖元宝(篆)	銅	完形	24.42	24.51	1.10～1.24	6.07×6.24	3.5	
172	451	15	29	天聖元宝(真)	銅	完形	24.96	24.81	1.10～1.39	7.27×7.33	3.3	
172	451	16	5	景祐元宝(真)	銅	完形	25.39	25.38	1.19～1.33	7.17×7.67	3.0	
172	451	17	9	皇宋通宝(篆)	銅	完形	24.19	24.62	1.05～1.15	6.96×6.98	3.5	
172	451	18	12	皇宋通宝(真)	銅	完形	23.46	23.89	1.08～1.19	6.50×6.28	3.6	
172	451	19	13	皇宋通宝(篆)	銅	完形	24.41	24.42	0.96～1.04	6.19×6.15	3.1	
172	451	20	15	皇宋通宝(真)	銅	完形	25.01	25.11	1.41～1.48	6.48×6.98	4.4	
172	451	21	23	皇宋通宝(真)	銅	完形	25.17	24.81	1.32～1.43	9.31×9.07	4.2	加工銭。
172	451	22	41	皇宋通宝(篆)	銅	完形	24.82	24.72	0.89～1.16	7.20×7.04	2.6	
172	451	23	46	皇宋通宝(篆)	銅	完形	24.45	24.58	0.98～1.11	7.32×7.46	3.1	
172	451	24	47	皇宋通宝(篆)	銅	完形	24.52	24.90	0.98～1.15	7.75×7.92	3.2	
172	451	25	59	皇宋通宝(真)	銅	完形	24.78	24.79	1.00～1.55	6.75×6.74	3.3	
172	451	26	16	至和通宝(篆)	銅	完形	24.68	24.80	1.08～1.96	7.06×7.31	3.7	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	銭名	素材	遺存度	法量(推定)(㎜)				重量 g	備考
							現存長	幅	厚さ	方(円)孔		
172	451	27	21	至和元宝(真)	銅	完形	23.90	24.01	1.32～1.42	6.48×6.46	3.7	
172	451	28	28	嘉祐通宝(篆)	銅	完形	23.79	23.73	0.96～1.12	6.74×6.61	2.8	
172	451	29	1	熙寧元宝(真)	銅	完形	24.59	24.93	0.93～0.97	6.90×7.07	2.3	
172	451	30	3	熙寧元宝(真)	銅	完形	24.56	24.57	1.21～1.34	6.62×6.65	3.9	
172	451	31	30	熙寧元宝(篆)	銅	完形	24.21	23.97	1.22～1.33	6.78×6.90	3.7	
172	451	32	14	元豊通宝(篆)	銅	完形	24.44	24.36	1.09～1.11	5.89×6.62	3.6	
172	451	33	22	元豊通宝(真)	銅	完形	24.04	24.03	1.21～1.31	7.02×6.80	3.2	
172	451	34	26	元豊通宝(真)	銅	完形	24.18	24.29	1.13～1.53	6.08×6.18	3.2	
172	451	35	36	元豊通宝(真)	銅	完形	24.21	24.10	1.15～1.43	5.69×5.93	3.4	
172	451	36	55	元豊通宝(真)	銅	完形	24.92	24.96	1.21～1.34	6.68×6.74	3.8	
172	451	37	57	元豊通宝(真)	銅	完形	24.68	24.31	1.19～1.23	6.21×5.92	3.5	
172	451	38	126	元豊通宝(真)	銅	完形	24.63	24.52	1.06～1.18	5.34×5.32	3.1	
172	451	39	4	元祐通宝(真)	銅	下端一部欠	23.69	23.71	1.11～1.21	6.55×6.53	3.3	
172	451	40	11	元祐通宝(篆)	銅	完形	23.94	24.13	1.00～1.85	7.29×7.06	3.0	
173	451	41	24	元祐通宝(篆)	銅	完形	24.20	24.17	1.11～1.23	7.01×6.87	3.1	
173	451	42	34	元祐通宝(真)	銅	完形	23.85	24.05	1.14～1.25	6.73×6.54	2.8	
173	451	43	60	元祐通宝(篆)	銅	完形	23.98	24.23	1.10～1.30	6.95×7.04	2.9	
173	451	44	17	聖宋元宝(篆)	銅	完形	23.95	24.20	1.18～1.35	6.57×6.43	3.3	
173	451	45	31	政和通宝(篆)	銅	完形	24.45	24.56	1.20～1.41	6.05×5.94	3.2	
173	451	46	32	政和通宝(真)	銅	完形	24.67	24.32	1.02～1.29	6.02×6.06	3.0	
173	451	47	38	政和通宝(篆)	銅	左端一部欠	23.48	24.59	1.14～1.40	6.13×5.93	3.7	
173	451	48	44	政和通宝(真)	銅	右側一部欠	24.25	24.32	0.93～1.28	6.37×6.42	2.4	3.0㎜の穴あり。
173	451	49	2	淳熙元宝	銅	完形	23.49	23.48	1.09～1.22	6.30×6.26	3.2	
173	451	50	58	嘉定通宝	銅	完形	23.95	23.90	1.30～1.42	6.74×6.73	3.5	
173	451	51	27	淳祐元宝	銅	完形	24.67	24.65	1.12～1.40	6.74×6.77	3.6	
173	451	52	18	洪武通宝	銅	完形	24.32	24.56	1.37～1.42	5.57×5.81	3.9	
173	451	53	19	洪武通宝	銅	完形	24.08	24.11	1.28～1.44	5.03×5.21	3.4	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	銭名	素材	遺存度	法量(推定)(㎜)				重量 g	備考
							現存長	幅	厚さ	方(円)孔		
173	451	54	43	洪武通宝	銅	完形	22.60	22.51	1.39～1.69	4.75×4.70	4.2	
173	451	55	49	永楽通宝	銅	完形	25.32	25.36	1.14～1.33	5.27×5.41	3.2	
173	451	56	52	永楽通宝	銅	完形	25.32	25.34	1.13～1.64	5.66×5.38	3.6	
173	451	57	54	永楽通宝	銅	完形	25.04	25.00	1.48～1.57	5.46×5.34	3.5	
173	451	58	62	永楽通宝	銅	完形	24.89	24.70	1.14～1.32	5.27×5.17	3.8	
173	451	59	63	永楽通宝	銅	完形	24.96	24.99	1.35～1.58	5.48×5.81	3.9	
173	451	60	68	永楽通宝	銅	完形	24.88	24.79	1.03～1.14	5.75×5.82	2.5	
173	451	61	70	永楽通宝	銅	完形	24.99	24.86	1.16～1.21	5.79×5.65	2.8	
173	451	62	71	永楽通宝	銅	完形	25.03	24.54	1.12～1.50	5.55×5.56	3.1	
173	451	63	79	永楽通宝	銅	完形	25.07	25.08	1.31～1.53	5.81×5.59	4.1	
173	451	64	80	永楽通宝	銅	完形	25.37	25.39	1.42～1.66	5.57×5.53	4.4	
173	451	65	82	永楽通宝	銅	完形	25.03	25.05	1.39～1.53	5.65×5.64	3.8	
173	451	66	85	永楽通宝	銅	完形	25.21	24.56	1.40～1.55	5.90×5.80	2.7	
173	451	67	86	永楽通宝	銅	完形	24.60	24.74	1.14～1.32	5.76×5.79	2.7	
173	451	68	87	永楽通宝	銅	完形	24.63	24.66	1.17～1.54	5.79×5.75	2.2	布付着。
173	451	69	100-1	永楽通宝	銅	完形	24.87	24.89	1.11～1.35	5.88×5.94	3.4	
173	451	70	100-2	永楽通宝	銅	完形	25.11	25.14	1.05～1.31	5.65×5.73	3.1	
173	451	71	100-3	永楽通宝	銅	完形	24.75	24.94	0.97～1.11	6.16×6.22	2.1	
173	451	72	100-4	永楽通宝	銅	完形	24.92	24.85	1.18～1.39	5.76×5.77	3.2	
173	451	73	101-1	永楽通宝	銅	完形	24.88	25.06	1.12～1.29	5.92×5.88	2.4	
173	451	74	101-2	永楽通宝	銅	完形	24.94	25.05	1.32～1.39	5.81×5.70	3.7	
173	451	75	101-3	永楽通宝	銅	完形	24.92	25.01	1.30～1.40	5.73×5.76	3.4	
173	451	76	108-3	永楽通宝	銅	完形	24.82	24.86	1.01～1.16	5.57×5.59	3.2	
173	451	77	117-1	永楽通宝	銅	完形	24.93	24.65	1.26～1.62	5.70×5.66	3.9	
173	451	78	117-2	永楽通宝	銅	完形	25.14	24.79	0.74～1.34	5.74×5.58	1.8	
173	451	79	117-3	永楽通宝	銅	完形	25.22	24.99	1.30～1.64	5.26×5.23	3.2	
173	451	80	121-5	永楽通宝	銅	完形	24.81	24.41	1.15～1.19	5.95×6.01	3.0	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	銭名	素材	遺存度	法量(推定)(㎜)				重量 g	備考
							現存長	幅	厚さ	方(円)孔		
174	451	81	117-4	永楽通宝	銅	完形	24.81	25.59	1.27～1.44	5.54×5.16	3.0	
174	451	82	117-5	永楽通宝	銅	完形	25.22	24.67	1.42～1.72	5.44×5.12	4.3	
174	451	83	117-6	永楽通宝	銅	完形	25.08	24.83	0.98～1.20	5.32×5.35	2.3	
174	451	84	121-1	永楽通宝	銅	完形	25.05	24.93	1.24～1.34	5.59×5.14	3.5	
174	451	85	121-2	永楽通宝	銅	完形	24.37	24.92	1.40～1.47	5.81×5.57	3.6	
174	451	86	121-3	永楽通宝	銅	完形	25.00	24.59	1.30～1.31	6.03×5.72	3.4	
174	451	87	121-4	永楽通宝	銅	完形	24.94	24.76	1.21～1.30	5.86×6.06	3.8	
174	451	88	33	朝鮮通宝	銅	完形	23.87	23.42	1.28～1.53	5.94×5.54	2.7	
174	451	89	67	寛永通宝	銅	完形	25.46	25.60	1.19～1.55	5.97×5.91	3.6	
174	451	90	73	寛永通宝	銅	完形	24.70	24.45	1.28～1.38	5.49×5.47	3.3	
174	451	91	77	寛永通宝	銅	完形	24.72	24.74	1.39～1.57	6.11×6.07	3.6	
174	451	92	88	寛永通宝	銅	完形	25.32	25.46	1.12～1.16	6.01×6.15	3.0	
174	451	93	91	寛永通宝	銅	完形	23.86	23.77	1.37～1.44	5.63×5.61	4.0	
174	451	94	118-1	寛永通宝	銅	完形	25.14	24.68	1.09～1.30	5.56×5.51	3.1	
174	451	95	99-2	寛永通宝	銅	完形	25.08	25.20	1.30～1.36	5.48×5.40	3.6	
174	451	96	102-1	寛永通宝	銅	完形	24.57	24.58	0.99～1.20	5.71×5.57	3.0	
174	451	97	102-2	寛永通宝	銅	完形	24.70	24.68	2.29～2.69	5.23×5.11	6.7	2枚圧着。
174	451	98	112-1	寛永通宝	銅	完形	24.15	24.01	1.11～1.12	5.55×5.36	3.4	
174	451	99	112-3	寛永通宝	銅	完形	23.96	24.34	1.17～1.32	5.29×5.39	3.7	
174	451	100	113-1	寛永通宝	銅	完形	25.18	25.14	1.16～1.49	6.02×6.17	3.6	
174	451	101	114-2	寛永通宝	銅	完形	24.31	24.38	1.19～1.29	5.28×5.33	3.7	
174	451	102	115-1	寛永通宝	銅	完形	24.78	24.73	1.24～1.32	5.64×5.46	3.7	
174	451	103	122-6	寛永通宝	銅	完形	24.74	24.77	1.14～1.20	5.61×5.60	3.7	
174	451	104	122-1	寛永通宝	銅	完形	25.19	25.21	1.15～1.26	5.25×5.42	3.3	
174	451	105	118-2	寛永通宝	銅	完形	24.60	24.88	1.44～1.82	5.37×5.44	4.0	
174	451	106	119-1	寛永通宝	銅	完形	23.61	23.53	1.21～1.35	5.35×5.43	3.3	
174	451	107	119-4	寛永通宝	銅	完形	24.48	24.49	1.30～1.42	5.36×5.40	3.6	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	銭名	素材	遺存度	法量(推定)(㎜)				重量 g	備考
							現存長	幅	厚さ	方(円)孔		
174	451	108	115-2	寛永通宝	銅	完形	24.68	24.71	1.03～1.16	5.38×5.72	3.1	
174	451	109	99-1	寛永通宝	銅	完形	24.51	24.46	1.28～1.33	5.75×5.61	3.6	
174	451	110	116-4	寛永通宝	銅	完形	22.89	22.92	1.21～1.31	6.03×5.91	3.3	
175	472	4	36-1	寛永通宝	銅	完形	25.11	25.19	1.07～1.18	4.89×5.11	3.0	
175	472	5	37	寛永通宝	銅	完形	23.67	23.63	1.02～1.08	5.91×6.15	2.5	
175	472	6	52-4	寛永通宝	銅	完形	24.58	24.55	1.16～1.20	5.82×5.85	3.5	
175	472	7	52-6	寛永通宝	銅	完形	24.98	25.08	1.14～1.21	6.20×6.04	3.1	
175	472	8	14-2	寛永通宝	銅	完形	25.04	25.13	1.21～1.23	5.75×5.81	3.5	
175	472	9	45-2	寛永通宝	銅	完形	23.42	23.48	1.05～1.13	6.08×6.29	2.5	
175	472	10	4	文久永宝	銅	完形	26.19	25.99	1.06～1.08	5.98×6.26	3.1	
194	E一括	72	226	祥符元宝	銅	完形	24.66	24.80	1.06～1.09	6.60×6.42	3.4	
194	E一括	73	172	元豊通宝(篆)	銅	完形	24.22	24.13	1.16～1.20	7.23×7.37	3.3	
194	E一括	74	171	治平元宝(真)	銅	完形	23.18	23.41	1.14～1.20	6.32×6.29	3.1	
194	E一括	75	122	熙寧元宝(真)	銅	完形	23.29	24.27	1.05～1.26	7.19×7.58	3.3	
194	E一括	76	3-2	永楽通宝	銅	下端一部欠	24.36	24.17	1.12～1.26	5.97×5.89	2.6	
194	E一括	77	70	永楽通宝	銅	完形	25.57	25.31	1.46～1.49	5.37×5.56	2.1	
194	E一括	78	121	宣徳通宝	銅	下部片欠	22.57	25.80	1.11～1.26	4.83×5.04	2.1	
194	E一括	79	73	○和元宝	銅	完形	24.64	24.48	1.28～1.48	7.01×6.97	3.2	両面変形あり。径1.8㎜程度の穿孔1ヵ所ありか。
195	E一括	80	80	寛永通宝	銅	完形	23.97	23.86	1.01～1.24	5.30×5.21	3.1	
195	E一括	81	82	寛永通宝	銅	完形	24.26	24.28	1.00～1.04	5.60×5.61	3.0	
195	E一括	82	125	寛永通宝	銅	完形	24.49	24.58	1.04～1.06	6.06×6.20	2.7	
195	E一括	83	144	寛永通宝	銅	完形	24.45	24.16	1.02～1.23	5.70×5.84	3.1	
195	E一括	84	145	寛永通宝	銅	完形	24.49	24.62	1.11～1.19	5.83×5.69	2.8	
195	E一括	85	168	寛永通宝	銅	完形	25.06	25.17	0.96～0.97	6.36×6.23	2.5	
195	E一括	86	222	寛永通宝	銅	完形	24.25	23.81	0.97～1.13	5.35×5.41	3.1	
195	E一括	87	229	寛永通宝	銅	完形	24.21	24.20	1.13～1.14	6.03×5.76	3.0	
195	E一括	88	247	寛永通宝	銅	完形	24.61	24.90	1.29～1.37	5.54×5.56	3.5	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	銭名	素材	遺存度	法量(推定)(㎜)				重量 g	備考
							現存長	幅	厚さ	方(円)孔		
195	E一括	89	251	寛永通宝	銅	完形	22.90	23.11	1.26～1.35	6.41×6.30	2.8	
195	E一括	90	259	寛永通宝	銅	完形	25.47	25.36	1.04～1.35	6.21×5.98	2.9	
195	E一括	91	270	寛永通宝	銅	完形	23.90	23.98	1.05～1.15	5.88×5.98	3.1	
195	E一括	92	272	寛永通宝	銅	完形	24.78	24.69	1.16～1.44	5.90×5.82	3.6	
195	E一括	93	281	寛永通宝	銅	完形	24.82	24.62	1.32～1.40	5.98×6.04	4.0	
195	E一括	94	288	寛永通宝	銅	完形	24.81	24.64	1.23～1.38	5.70×5.77	3.5	
195	E一括	95	292	寛永通宝	銅	完形	24.33	24.39	1.08～1.19	6.06×5.94	3.0	
195	E一括	96	299	寛永通宝	銅	完形	24.14	24.29	1.20～1.40	5.24×5.74	3.7	
195	E一括	97	300	寛永通宝	銅	完形	24.07	24.12	1.11～1.17	5.44×5.59	3.0	
195	E一括	98	304	寛永通宝	銅	完形	23.96	23.79	1.05～1.32	5.62×5.43	3.2	
195	E一括	99	306	寛永通宝	銅	完形	24.76	24.51	1.41～2.13	5.68×5.56	4.0	
195	E一括	100	310	寛永通宝	銅	完形	24.55	24.47	1.26～1.49	6.37×5.76	4.2	
195	E一括	101	323	寛永通宝	銅	完形	24.88	24.65	1.12～1.24	6.00×5.94	2.8	
195	E一括	102	325	寛永通宝	銅	完形	24.11	24.14	1.04～1.08	5.55×5.95	2.9	
195	E一括	103	327	寛永通宝	銅	完形	24.53	24.00	1.24～1.35	5.88×5.68	3.5	
195	E一括	104	332	寛永通宝	銅	完形	25.18	25.25	1.13～1.21	5.90×5.94	3.7	
195	E一括	105	337	寛永通宝	銅	完形	24.36	24.51	1.11～1.23	5.66×5.84	3.2	
195	E一括	106	342	寛永通宝	銅	完形	24.12	24.30	1.11～1.30	5.78×5.87	3.1	ひも付着。
195	E一括	107	344	寛永通宝	銅	完形	24.60	24.92	1.18～1.26	5.52×5.38	3.6	
195	E一括	108	355	寛永通宝	銅	完形	24.47	24.53	1.02～1.04	6.21×6.21	3.2	
195	E一括	109	358	寛永通宝	銅	完形	24.74	24.87	1.23～1.38	5.41×5.74	3.3	
195	E一括	110	361	寛永通宝	銅	完形	24.57	24.57	1.27～1.50	6.01×5.90	3.7	
195	E一括	111	364	寛永通宝	銅	完形	24.52	24.39	1.17～1.35	5.62×5.31	3.3	
195	E一括	112	367	寛永通宝	銅	完形	25.32	25.35	1.29～1.38	5.83×5.85	4.0	1.3㎜の穴あり。
195	E一括	113	381	寛永通宝	銅	完形	22.64	22.62	1.15～1.37	5.59×5.32	3.1	
195	E一括	114	382	寛永通宝	銅	完形	24.16	24.14	1.03～1.04	5.85×6.30	2.4	
195	E一括	115	383	寛永通宝	銅	完形	25.01	24.69	1.38～1.46	6.15×6.07	3.7	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	銭名	素材	遺存度	法量(推定)(㎜)				重量 g	備考
							現存長	幅	厚さ	方(円)孔		
195	E一括	116	152-15	寛永通宝	銅	完形	25.12	25.03	1.23～1.27	5.30×5.32	3.6	
195	E一括	117	152-8	寛永通宝	銅	完形	24.58	24.33	1.14～1.20	6.08×5.63	2.9	
195	E一括	118	187-1	寛永通宝	銅	完形	24.78	24.86	1.04～1.12	5.69×5.59	3.0	
195	E一括	119	187-7	寛永通宝	銅	完形	24.33	24.46	0.98～1.26	6.23×6.05	3.0	
196	E一括	120	25-3	寛永通宝	銅	完形	23.40	23.43	1.16～1.17	5.55×5.52	3.3	
196	E一括	121	120-1	寛永通宝	銅	完形	24.14	24.16	0.98～1.12	5.72×5.65	2.6	
196	E一括	122	152-13	寛永通宝	銅	完形	24.75	24.78	1.09～1.19	5.92×5.80	3.1	
196	E一括	123	71	寛永通宝	銅	完形	24.53	24.33	1.05～1.25	6.01×6.04	3.4	
196	E一括	124	33-2	寛永通宝	銅	完形	24.48	24.46	0.93～1.01	5.45×5.73	2.6	
196	E一括	125	33-3	寛永通宝	銅	完形	24.48	24.57	1.03～1.04	6.04×5.90	2.7	
196	E一括	126	33-4	寛永通宝	銅	完形	24.67	24.56	1.17～1.18	6.07×6.03	3.8	
196	E一括	127	33-1	寛永通宝	銅	完形	24.67	24.59	1.24～1.25	5.61×5.73	3.8	
196	E一括	128	389	寛永通宝	銅	完形	24.88	24.63	1.14～1.19	5.52×5.47	3.2	
196	E一括	129	393	寛永通宝	銅	完形	24.75	24.77	1.25～1.29	5.37×5.53	4.1	
196	E一括	130	394	寛永通宝	銅	完形	24.59	25.52	1.28～1.33	5.97×5.89	3.4	
196	E一括	131	409	寛永通宝	銅	完形	24.55	24.48	1.23～1.34	5.49×5.43	3.9	
196	E一括	132	411	寛永通宝	銅	完形	25.14	24.97	1.14～1.20	5.60×5.68	3.2	
196	E一括	133	412	寛永通宝	銅	左端一部欠	24.05	24.15	1.05～1.12	6.15×6.17	2.5	0.6㎜の穴あり。
196	E一括	134	433	寛永通宝	銅	完形	25.10	25.31	0.97～1.08	5.89×5.78	2.8	0.73㎜の穴あり。
196	E一括	135	436	寛永通宝	銅	完形	24.56	24.64	1.35～1.36	5.32×5.43	3.5	
196	E一括	136	440	寛永通宝	銅	完形	24.56	24.55	1.17～1.20	5.46×5.66	3.7	
196	E一括	137	441	寛永通宝	銅	完形	24.45	24.44	1.22～1.31	5.54×5.57	3.3	
196	E一括	138	444	寛永通宝	銅	完形	24.66	24.63	0.91～0.96	5.88×5.81	2.5	
196	E一括	139	445	寛永通宝	銅	完形	24.56	24.44	0.95～0.99	6.11×6.09	2.5	
196	E一括	140	449	寛永通宝	銅	完形	25.42	25.53	1.02～1.23	5.93×5.95	3.6	
196	E一括	141	455	寛永通宝	銅	完形	24.63	24.25	1.14～1.19	5.75×5.88	3.6	
196	E一括	142	459	寛永通宝	銅	完形	24.47	24.44	1.21～1.30	5.50×5.30	3.4	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	銭名	素材	遺存度	法量(推定)(㎜)				重量 g	備考
							現存長	幅	厚さ	方(円)孔		
196	E一括	143	463	寛永通宝	銅	左側一部欠	23.68	23.79	0.87～1.05	6.02×5.63	2.2	
196	E一括	144	465	寛永通宝	銅	完形	24.44	24.55	1.16～1.21	5.26×5.40	3.5	
196	E一括	145	470	寛永通宝	銅	完形	24.68	24.66	1.15～1.36	5.50×5.60	4.1	
196	E一括	146	478	寛永通宝	銅	完形	23.92	24.00	1.12～1.18	6.25×6.01	3.5	
196	E一括	147	75	寛永通宝	銅	完形	24.03	24.04	0.92～1.00	5.58×5.50	2.3	
196	E一括	148	76	寛永通宝	銅	完形	23.80	23.85	0.96～1.02	5.72×5.57	3.0	
196	E一括	149	284	寛永通宝	銅	完形	24.63	24.83	1.08～1.19	5.68×5.78	3.5	
196	E一括	150	246	寛永通宝	銅	完形	25.29	25.13	1.35～1.55	5.80×5.85	3.6	
196	E一括	151	188-1	寛永通宝	銅	完形	25.40	25.51	1.41～1.55	5.47×5.43	2.9	布付着。
196	E一括	152	291	寛永通宝	銅	左端一部欠	24.53	24.17	1.40～1.64	5.13×5.25	2.8	
196	E一括	153	6-1	寛永通宝	鉄	完形	24.26	24.48	1.31～1.39	5.41×5.03	3.0	両面変形あり。
196	E一括	154	238	寛永通宝	銅	完形	24.61	24.67	1.11～1.12	5.87×6.02	2.9	1.47㎜の穴あり。
196	E一括	155	368	寛永通宝	銅	完形	24.30	24.18	1.05～1.21	5.98×5.95	2.8	
196	E一括	156	180	文久永宝	銅	完形	26.77	26.88	1.04～1.22	6.28×6.59	3.1	
196	E一括	157	175	文久永宝	銅	完形	26.85	26.87	1.25～1.36	6.94×6.85	4.3	
196	E一括	158	176	文久永宝	銅	完形	26.72	26.71	1.10～1.15	6.64×6.66	3.7	
197	E一括	159	177	文久永宝	銅	完形	26.76	26.96	1.21～1.27	6.18×6.31	4.0	
197	E一括	160	182	文久永宝	銅	完形	26.76	26.76	1.01～1.04	6.55×6.56	3.2	
197	E一括	161	179	文久永宝	銅	完形	27.04	26.96	1.22～1.26	6.72×7.07	3.5	
197	E一括	162	2	文久永宝	銅	完形	26.72	26.73	1.25～1.31	6.21×6.29	4.5	
197	E一括	163	181	文久永宝	銅	完形	26.56	26.53	1.18～1.23	6.76×6.52	3.7	
197	E一括	164	1	文久永宝	銅	完形	27.27	27.00	1.07～1.11	7.67×7.57	3.7	
197	E一括	165	174	文久永宝	銅	完形	26.74	26.72	1.12～1.26	5.63×5.75	3.6	
197	E一括	166	152-17	文久永宝	銅	一部欠	26.57	26.84	1.04～1.40	6.23×5.99	2.5	
197	E一括	167	173	文久永宝	銅	完形	26.91	26.77	1.07～1.15	6.08×6.10	3.9	
197	E一括	168	152-16	文久永宝	銅	完形	26.34	26.47	1.08～1.15	6.14×6.20	4.0	
197	E一括	169	155	題目銭	鉄か	完形	24.40	24.32	1.20～1.22	5.20×4.69	3.5	「南無妙法蓮華経」の文字あり。径1.0㎜程度の穿孔ありか。

第11表　台遺跡E地点出土玉類観察表

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	器種	素材	法量(mm)				重量(g)	遺存度	色調	類型	特徴
							現存長	幅	厚さ	孔					
159	123	96	2506	一括	臼玉	滑石	5.65	5.59	2.49	2.27～2.21	0.1102	完形	7.5Y5/2灰オリーブ	A'	
159	123	97	2934	一括	臼玉	滑石	6.12	5.88	3.88	2.14～2.01	0.2344	完形	7.5Y6/2灰オリーブ	B	
159	123	98	2860	一括	臼玉	滑石	5.92	5.79	2.95	2.24～2.17	0.1418	1/8欠	7.5Y5/2灰オリーブ	B	
159	123	99	3041	一括	臼玉	滑石	5.89	5.77	2.43	1.67～1.66	0.1526	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
159	123	100	2323	一括	臼玉	滑石	5.82	5.88	3.08	2.27～2.23	0.1475	ほぼ完形	7.5Y5/2灰オリーブ	B	
159	123	101	2540	一括	臼玉	滑石	5.63	5.80	4.16	1.98～1.86	0.2553	完形	7.5Y6/2灰オリーブ	B	
159	123	102	3075	一括	臼玉	泥岩	5.61	5.77	3.34	1.58～1.60	0.1921	完形	10Y3/1オリーブ黒	B	
159	123	103	2199	一括	臼玉	滑石	5.76	5.71	2.41	1.89～1.85	0.1480	1/6欠	7.5Y5/2灰オリーブ	B	
159	123	104	2355	一括	臼玉	滑石	5.74	5.76	4.12	1.84～1.80	0.2378	ほぼ完形	7.5Y5/2灰オリーブ	B	
159	123	105	2927	一括	臼玉	蛇紋岩	5.76	5.66	2.32	1.84～1.72	0.1254	1/8欠	7.5Y6/2灰オリーブ	B	
159	123	106	2270	一括	臼玉	滑石	5.75	5.67	3.94	2.13～1.83	0.1953	ほぼ完形	7.5Y5/2灰オリーブ	B	
159	123	107	2399	一括	臼玉	滑石	5.70	5.54	3.15	1.86～1.74	0.1637	1/8欠	7.5Y5/2灰オリーブ	B	
159	123	108	2778	一括	臼玉	滑石	5.57	5.59	3.71	1.88～1.77	0.1932	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
159	123	109	2474	一括	臼玉	滑石	5.57	5.58	4.20	1.97～1.93	0.2027	1/8欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
159	123	110	2942	一括	臼玉	蛇紋岩	5.58	5.53	2.67	1.79～1.74	0.1208	ほぼ完形	7.5Y4/3暗オリーブ	B	
159	123	111	2319	一括	臼玉	滑石	5.46	5.40	3.07	2.00～1.73	0.1590	ほぼ完形	7.5Y5/2灰オリーブ	B	
159	123	112	2528	一括	臼玉	滑石	5.36	5.43	2.82	1.57～1.41	0.1837	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
159	123	113	2324	一括	臼玉	滑石	5.41	5.23	3.26	1.92～1.87	0.1482	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
159	123	114	2646	一括	臼玉	蛇紋岩	5.36	5.40	3.82	1.97～1.93	0.1887	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
159	123	115	2217	一括	臼玉	滑石	5.30	5.39	3.52	2.54～1.89	0.1514	ほぼ完形	7.5Y6/2灰オリーブ	B	
159	123	116	2539	一括	臼玉	滑石	5.22	5.37	3.51	2.02～1.76	0.2055	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
159	123	117	2463	一括	臼玉	滑石	4.74	5.35	2.45	1.68～1.66	0.1268	1/10欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
159	123	118	2183	一括	臼玉	蛇紋岩	5.34	5.15	3.05	2.09～1.93	0.1621	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	器種	素材	法量(㎜)				重量(g)	遺存度	色調	類型	特徴
							現存長	幅	厚さ	孔					
159	123	119	2007	一括	臼玉	滑石	5.33	5.15	3.43	2.20～2.16	0.1516	ほぼ完形	7.5Y5/2灰オリーブ	B	
160	123	120	2994	一括	臼玉	砂岩	5.06	5.28	2.15	1.74～1.81	0.0885	1/10欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	細粒
160	123	121	2252	一括	臼玉	滑石	5.27	5.23	3.50	1.75～1.69	0.1550	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	122	3149	一括	臼玉	泥岩	5.19	5.20	3.34	2.52～2.00	0.1358	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	123	2912	一括	臼玉	砂岩	5.17	5.00	2.14	2.25～2.16	0.0814	1/8欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	124	2401	一括	臼玉	滑石	5.15	5.01	2.85	2.30～2.22	0.1184	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	125	2185	一括	臼玉	蛇紋岩	5.13	5.04	3.47	2.03～1.86	0.1432	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	B	
160	123	126	2940	一括	臼玉	蛇紋岩	5.11	5.06	3.22	2.04～1.84	0.1423	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	127	2015	一括	臼玉	滑石	5.08	5.06	2.35	2.29～2.18	0.0988	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	128	2525	一括	臼玉	滑石	4.75	5.07	2.44	1.93～1.64	0.0978	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	129	2863	一括	臼玉	蛇紋岩	5.06	4.90	3.67	1.81～1.78	0.1478	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	130	2929	一括	臼玉	蛇紋岩	5.05	4.91	2.95	1.97～1.68	0.1157	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	131	2947	一括	臼玉	蛇紋岩	5.04	4.94	1.36	1.59～1.54	0.0622	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	132	2595	一括	臼玉	滑石	5.00	4.96	2.60	1.81～1.66	0.1046	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	133	2461	一括	臼玉	蛇紋岩	5.00	4.98	3.05	1.64～1.62	0.1106	1/6欠	10Y3/1オリーブ黒	B	
160	123	134	2434	一括	臼玉	滑石	4.92	4.94	2.46	1.67～1.50	0.1061	完形	10Y3/1オリーブ黒	B	
160	123	135	2388	一括	臼玉	滑石	4.91	4.93	3.18	2.28～2.04	0.1090	完形	7.5Y5/2灰オリーブ	B	
160	123	136	3056	一括	臼玉	砂岩	4.92	4.64	2.27	1.80～1.62	0.0893	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	細粒
160	123	137	2803	一括	臼玉	蛇紋岩	4.89	4.87	2.21	1.67～1.59	0.1425	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	138	2950	一括	臼玉	滑石	4.86	4.68	1.56	1.55～1.35	0.0580	1/6欠	5Y6/2灰オリーブ	B	
160	123	139	2060	一括	臼玉	滑石	4.81	4.85	4.02	2.22～1.90	0.1359	完形	7.5Y5/2灰オリーブ	B	
160	123	140	2949	一括	臼玉	蛇紋岩	4.83	4.71	1.79	1.92～1.67	0.0696	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	141	2431	一括	臼玉	滑石	4.83	4.77	2.16	1.89～1.53	0.0799	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	142	2880	一括	臼玉	泥岩	4.82	4.73	3.19	1.69～1.65	0.1189	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	器種	素材	法量(㎜)				重量(g)	遺存度	色調	類型	特徴
							現存長	幅	厚さ	孔					
160	123	143	2464	一括	臼玉	滑石	4.80	4.58	3.33	1.91～1.89	0.1166	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	144	3044	一括	臼玉	滑石	4.79	4.71	3.53	1.94～1.61	0.1213	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	145	2398	一括	臼玉	滑石	4.72	4.23	3.02	1.76～1.73	0.0965	ほぼ完形	7.5Y5/2灰オリーブ	B	
160	123	146	2352	一括	臼玉	滑石	4.70	4.61	1.84	1.57～1.40	0.0739	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	147	2559	一括	臼玉	滑石	4.66	4.36	1.62	1.38～1.36	0.0535	1/8欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	148	3069	一括	臼玉	緑泥石岩	4.65	4.64	2.42	1.96～1.64	0.0840	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	B	
160	123	149	2481	一括	臼玉	滑石	4.65	4.60	2.58	1.68～1.60	0.0966	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	150	2945	一括	臼玉	蛇紋岩	4.65	4.59	2.54	1.55～1.44	0.0955	完形	10Y3/1オリーブ黒	B	
160	123	151	2658	一括	臼玉	泥岩	4.42	4.59	3.91	2.03～2.01	0.1288	ほぼ完形	7.5Y5/2灰オリーブ	B	
160	123	152	2451	一括	臼玉	滑石	4.53	4.59	3.80	1.81～1.78	0.1159	1/10欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	153	3068	一括	臼玉	泥岩	4.51	4.59	2.52	1.65～1.57	0.0924	ほぼ完形	7.5Y5/2灰オリーブ	B	
160	123	154	3051	一括	臼玉	蛇紋岩	4.50	4.58	1.98	1.79～1.66	0.0633	1/10欠	10Y3/1オリーブ黒	B	
160	123	155	2475	一括	臼玉	滑石	4.53	4.57	3.03	1.90～1.62	0.1180	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	156	2850	一括	臼玉	滑石	4.57	4.55	2.11	1.90～1.84	0.0680	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	B	
160	123	157	2456	一括	臼玉	滑石	4.56	4.55	2.20	1.57～1.49	0.0836	1/8欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	158	2783	一括	臼玉	泥岩	4.51	4.43	2.70	1.74～1.72	0.0942	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	B	
160	123	159	2672	一括	臼玉	滑石	4.50	4.45	2.44	1.60～1.56	0.0833	1/8欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	160	2763	一括	臼玉	蛇紋岩	4.46	4.41	3.28	1.75～1.73	0.1032	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	B	
160	123	161	2365	一括	臼玉	滑石	4.36	4.44	2.79	1.94～1.67	0.0828	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	162	3046	一括	臼玉	滑石	4.43	4.31	2.29	1.47～1.46	0.0738	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	163	2687	一括	臼玉	滑石	4.42	4.38	3.02	1.80～1.58	0.0985	ほぼ完形	7.5Y5/2灰オリーブ	B	
160	123	164	2211	一括	臼玉	蛇紋岩	4.32	4.36	2.48	1.75～1.68	0.0775	完形	10Y3/1オリーブ黒	B	
160	123	165	2235	一括	臼玉	滑石	4.31	4.36	3.07	1.51～1.50	0.0898	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	166	2908	一括	臼玉	泥岩	4.34	4.31	2.11	1.67～1.65	0.0721	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	B	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	器種	素材	法量(㎜)				重量(g)	遺存度	色調	類型	特徴
							現存長	幅	厚さ	孔					
160	123	167	2422	一括	臼玉	滑石	4.28	4.34	2.81	1.61～1.49	0.0772	1/6欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	168	2256	一括	臼玉	滑石	4.28	4.27	2.34	1.37～1.32	0.0810	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	169	2659	一括	臼玉	滑石	4.23	4.27	3.07	1.80～1.59	0.0853	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	B	
160	123	170	2531	一括	臼玉	滑石	4.21	4.26	1.49	1.38～1.35	0.0592	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	171	2948	一括	臼玉	蛇紋岩	4.19	4.18	2.03	1.46～1.42	0.0586	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	B	
160	123	172	2806	一括	臼玉	頁岩	4.05	4.17	2.21	1.82～1.76	0.0387	1/6欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	173	2124	一括	臼玉	滑石	4.17	4.10	3.39	1.72～1.63	0.0884	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	174	2765	一括	臼玉	緑泥石岩	4.07	3.86	2.42	1.39～1.34	0.0621	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	175	2774	一括	臼玉	滑石	3.98	4.02	2.52	1.65～1.54	0.0675	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	176	2914	一括	臼玉	滑石	3.96	3.09	2.38	1.47～1.46	0.0577	完形	10Y3/1オリーブ黒	B	
160	123	177	2937	一括	臼玉	緑泥石岩	3.91	3.90	2.47	1.56～1.51	0.0582	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	178	2494	一括	臼玉	滑石	3.87	3.90	1.96	1.52～1.34	0.0551	完形	10Y3/1オリーブ黒	B	
160	123	179	3105	一括	臼玉	泥岩	3.71	3.83	2.20	1.45～1.43	0.0515	完形	10Y3/1オリーブ黒	B	
160	123	180	2649	一括	臼玉	滑石	3.60	3.63	2.13	1.62～1.60	0.0441	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	B	
160	123	181	2980	一括	臼玉	泥岩	7.12	6.92	3.05	1.78～1.56	0.2633	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	182	2857	一括	臼玉	蛇紋岩	6.48	6.32	4.01	1.96～1.75	0.2691	1/6欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	183	2742	一括	臼玉	泥岩	6.09	6.18	4.03	1.84～1.83	0.2856	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	184	2618	一括	臼玉	滑石	6.08	5.88	3.33	1.87～1.82	0.2042	1/8欠	5Y6/2灰オリーブ	C	
160	123	185	2740	一括	臼玉	蛇紋岩	5.94	6.05	1.90	1.94～1.90	0.1405	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	186	2569	一括	臼玉	滑石	5.89	5.77	2.85	1.48～1.45	0.1790	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	187	2606	一括	臼玉	滑石	5.55	5.87	2.69	1.59～1.49	0.1484	1/8欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	188	2711	一括	臼玉	滑石	5.58	5.82	2.90	1.85～1.72	0.1773	1/10欠	7.5Y6/2灰オリーブ	C	
160	123	189	2626	一括	臼玉	滑石片岩	5.82	5.73	2.38	1.57～1.49	0.1388	1/8欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	190	2729	一括	臼玉	滑石	5.80	5.72	2.89	1.83～1.77	0.1613	ほぼ完形	7.5Y5/2灰オリーブ	C	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	器種	素材	法量(㎜)				重量(g)	遺存度	色調	類型	特徴
							現存長	幅	厚さ	孔					
160	123	191	2874	一括	臼玉	緑泥石岩	5.72	5.56	1.76	1.78～1.67	0.0934	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	C	
160	123	192	2861	一括	臼玉	滑石	5.71	5.69	2.39	1.69～1.68	0.1246	1/6欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	193	2629	一括	臼玉	滑石片岩	5.70	5.45	3.35	1.62～1.53	0.1783	1/8欠	7.5Y5/2灰オリーブ	C	
160	123	194	2662	一括	臼玉	滑石	5.61	5.64	2.24	1.81～1.80	0.1224	1/8欠	7.5Y6/2灰オリーブ	C	
160	123	195	2712	一括	臼玉	緑泥石岩	5.61	4.31	2.82	1.81～1.69	0.1266	1/3欠	7.5Y5/2灰オリーブ	C	
160	123	196	2120	一括	臼玉	滑石	5.49	5.58	3.00	1.95～1.90	0.1640	ほぼ完形	7.5Y5/2灰オリーブ	C	
160	123	197	2478	一括	臼玉	滑石	5.48	5.57	4.91	1.91～1.82	0.2503	1/8欠	5Y6/2灰オリーブ	C	
160	123	198	2891	一括	臼玉	砂岩	5.56	5.54	4.62	1.77～1.69	0.2548	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	細粒
160	123	199	2641	一括	臼玉	滑石	5.56	5.46	2.38	1.76～1.54	0.1196	ほぼ完形	5Y6/2灰オリーブ	C	
160	123	200	2704	一括	臼玉	滑石	5.54	5.23	1.51	2.02～1.96	0.0623	1/4欠	10Y3/1オリーブ黒	C	
160	123	201	2127	一括	臼玉	滑石	5.34	5.50	1.86	1.87～1.73	0.0785	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	202	2697	一括	臼玉	滑石	5.47	5.36	2.03	1.85～1.65	0.0986	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	203	2931	一括	臼玉	緑泥石岩	5.46	5.38	2.60	1.91～1.63	0.1242	1/8欠	7.5Y6/2灰オリーブ	C	
160	123	204	2773	一括	臼玉	緑泥石岩	5.45	5.33	1.69	1.91～1.89	0.0802	1/10欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	205	2037	一括	臼玉	蛇紋岩	5.41	5.27	3.83	1.92～1.88	0.1950	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	206	2485	一括	臼玉	滑石	5.38	5.41	1.43	1.44～1.36	0.0795	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	207	3079	一括	臼玉	砂岩	5.37	5.36	4.96	1.88～1.86	0.2558	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	208	2810	一括	臼玉	蛇紋岩	5.29	5.36	1.94	2.16～2.15	0.1142	ほぼ完形	7.5Y5/2灰オリーブ	C	
160	123	209	2752	一括	臼玉	泥岩	5.36	2.24	4.08	1.78～1.73	0.1886	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	210	3001	一括	臼玉	砂岩	5.36	5.28	4.00	1.55～1.66	0.1827	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	細粒
160	123	211	2685	一括	臼玉	蛇紋岩	5.34	5.11	4.31	1.68～1.48	0.2037	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	212	2795	一括	臼玉	滑石	5.33	5.11	2.29	2.14～2.06	0.1206	1/8欠	7.5Y5/2灰オリーブ	C	
160	123	213	2714	一括	臼玉	滑石	5.27	5.33	1.34	2.06～2.01	0.0704	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	214	2636	一括	臼玉	滑石	5.33	5.11	3.67	2.01～1.98	0.1893	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	器種	素材	法量(㎜)				重量(g)	遺存度	色調	類型	特徴
							現存長	幅	厚さ	孔					
160	123	215	2706	一括	臼玉	滑石	5.33	5.31	2.03	1.82～1.74	0.0904	1/10欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	216	2925	一括	臼玉	泥岩	5.29	4.88	2.39	2.10～1.81	0.1185	1/10欠	10Y3/1オリーブ黒	C	
160	123	217	2144	一括	臼玉	蛇紋岩	5.28	5.23	2.70	2.30～2.14	0.1238	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	218	2889	一括	臼玉	滑石	5.20	5.15	4.84	1.72～1.69	0.2149	ほぼ完形	5Y6/2灰オリーブ	C	
160	123	219	2061	一括	臼玉	滑石	5.09	5.17	5.10	1.93～1.87	0.2067	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	220	2515	一括	臼玉	滑石	5.16	5.06	4.89	1.47～1.45	0.2765	ほぼ完形	5Y6/2灰オリーブ	C	
160	123	221	2240	一括	臼玉	滑石	5.13	5.01	1.66	1.92～1.87	0.0732	ほぼ完形	7.5Y6/2灰オリーブ	C	
160	123	222	2286	一括	臼玉	滑石	5.06	5.12	3.90	1.55～1.49	0.1519	ほぼ完形	5Y6/2灰オリーブ	C	
160	123	223	2797	一括	臼玉	蛇紋岩	4.87	5.11	3.55	2.26～2.11	0.0485	1/8欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	224	2556	一括	臼玉	緑泥石岩	5.10	5.09	2.04	1.91～1.83	0.0381	1/6欠	10Y3/1オリーブ黒	C	
160	123	225	2632	一括	臼玉	滑石	5.10	5.05	1.94	1.69～1.64	0.0919	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	226	2754	一括	臼玉	滑石	5.09	5.10	4.53	1.48～1.47	0.2291	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	227	2159	一括	臼玉	滑石	5.08	5.05	2.56	2.34～1.86	0.0972	1/10欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	228	2785	一括	臼玉	滑石	4.89	5.04	2.09	1.65～1.59	0.0902	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	229	2630	一括	臼玉	滑石	5.04	4.92	3.70	1.56～1.52	0.1615	ほぼ完形	7.5Y5/2灰オリーブ	C	
160	123	230	2719	一括	臼玉	滑石	5.02	4.88	3.61	1.71～1.62	0.1506	ほぼ完形	7.5Y6/2灰オリーブ	C	
160	123	231	2471	一括	臼玉	滑石	4.90	5.00	3.40	1.54～1.49	0.1505	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	C	
160	123	232	2798	一括	臼玉	滑石	4.95	4.98	2.39	1.77～1.67	0.1054	ほぼ完形	7.5Y6/2灰オリーブ	C	
160	123	233	2710	一括	臼玉	滑石	4.84	4.90	3.27	1.92～1.88	0.1310	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
160	123	234	2053	一括	臼玉	蛇紋岩	4.88	4.27	1.71	1.49～1.48	0.0761	1/3欠	7.5Y5/2灰オリーブ	C	
160	123	235	2930	一括	臼玉	滑石	4.86	4.85	3.02	1.82～1.69	0.1256	1/8欠	7.5Y6/2灰オリーブ	C	
160	123	236	2851	一括	臼玉	滑石	4.84	4.85	2.00	1.43～1.42	0.0760	ほぼ完形	7.5Y5/2灰オリーブ	C	
160	123	237	2814	一括	臼玉	緑泥石岩	4.76	4.83	1.70	1.48～1.36	0.0659	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	C	
160	123	238	2486	一括	臼玉	滑石	4.79	4.82	1.87	1.62～1.57	0.0738	1/10欠	10Y3/1オリーブ黒	C	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	器種	素材	法量(mm)				重量(g)	遺存度	色調	類型	特徴
							現存長	幅	厚さ	孔					
160	123	239	2545	一括	臼玉	滑石	4.78	4.82	1.52	1.37～1.21	0.1125	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	C	
161	123	240	2722	一括	臼玉	泥岩	4.81	4.80	1.64	1.45～1.37	0.0735	完形	10Y3/1オリーブ黒	C	
161	123	241	2881	一括	臼玉	滑石	4.77	4.74	1.64	1.67～1.64	0.0579	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	242	2989	一括	臼玉	蛇紋岩	4.77	4.72	3.98	1.65～1.34	0.1570	ほぼ完形	7.5Y4/3暗オリーブ	C	
161	123	243	2684	一括	臼玉	滑石	4.69	4.77	1.45	1.62～1.59	0.0590	完形	10Y3/1オリーブ黒	C	
161	123	244	2480	一括	臼玉	滑石	4.73	4.76	1.81	1.89～1.87	0.0646	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	C	
161	123	245	2674	一括	臼玉	蛇紋岩	4.75	4.71	2.13	1.44～1.39	0.0790	完形	10Y3/1オリーブ黒	C	
161	123	246	2553	一括	臼玉	滑石	4.73	4.66	1.77	1.39～1.36	0.0416	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	C	
161	123	247	2600	一括	臼玉	蛇紋岩	4.72	4.66	2.03	1.49～1.36	0.0801	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	C	
161	123	248	2974	一括	臼玉	泥岩	4.66	4.70	3.87	1.45～1.41	0.1546	1/10欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	249	3027	一括	臼玉	泥岩	4.66	4.52	3.60	2.26～2.08	0.1088	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	250	2769	一括	臼玉	滑石	4.63	4.60	3.01	1.89～1.81	0.1212	ほぼ完形	7.5Y5/2灰オリーブ	C	
161	123	251	2747	一括	臼玉	滑石	4.61	4.63	1.47	1.87～1.83	0.0523	完形	7.5Y5/2灰オリーブ	C	
161	123	252	2753	一括	臼玉	蛇紋岩	4.43	4.63	2.24	1.36～1.33	0.0896	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	253	2699	一括	臼玉	滑石	4.62	4.57	1.80	1.66～1.62	0.0647	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	254	2044	一括	臼玉	蛇紋岩	4.61	4.35	2.68	1.81～1.70	0.0832	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	255	2744	一括	臼玉	緑泥石岩	4.52	4.60	3.73	2.23～1.90	0.1219	ほぼ完形	7.5Y5/2灰オリーブ	C	
161	123	256	2604	一括	臼玉	蛇紋岩	4.60	4.41	2.67	1.82～1.77	0.0968	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	257	2036	一括	臼玉	滑石	4.60	4.43	2.15	1.55～1.47	0.0704	ほぼ完形	7.5Y5/2灰オリーブ	C	
161	123	258	2578	一括	臼玉	緑泥石岩	4.59	4.53	2.32	1.32～1.26	0.0918	1/8欠	10Y3/1オリーブ黒	C	
161	123	259	2840	一括	臼玉	砂岩	4.58	4.51	2.95	2.02～1.62	0.0999	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	細粒
161	123	260	2647	一括	臼玉	滑石	4.58	4.32	2.61	1.81～1.51	0.0804	1/8欠	10Y3/1オリーブ黒	C	
161	123	261	2339	一括	臼玉	滑石	4.58	4.57	1.89	1.64～1.61	0.0563	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	262	2113	一括	臼玉	滑石	4.47	4.55	2.65	1.94～1.91	0.0864	ほぼ完形	7.5Y5/2灰オリーブ	C	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	器種	素材	法量(㎜)				重量(g)	遺存度	色調	類型	特徴
							現存長	幅	厚さ	孔					
161	123	263	2737	一括	臼玉	滑石	4.53	4.20	2.20	1.94～1.82	0.0527	1/8欠	10Y3/1オリーブ黒	C	
161	123	264	3153	一括	臼玉	緑泥石岩	4.44	4.51	2.90	1.68～1.63	0.0854	ほぼ完形	10G3/1暗緑灰	C	
161	123	265	2995	一括	臼玉	蛇紋岩	4.51	4.39	2.52	1.35～1.18	0.0735	1/10欠	10Y3/1オリーブ黒	C	
161	123	266	2815	一括	臼玉	緑泥石岩	4.40	4.49	1.73	1.49～1.36	0.0666	ほぼ完形	5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	267	2757	一括	臼玉	滑石	4.47	4.30	1.62	1.81～1.78	0.0572	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	C	
161	123	268	2786	一括	臼玉	滑石	4.47	4.45	1.79	1.57～1.51	0.0564	完形	7.5Y5/2灰オリーブ	C	
161	123	269	2469	一括	臼玉	滑石	4.46	4.31	4.09	2.03～1.79	0.1297	1/10欠	7.5Y5/2灰オリーブ	C	
161	123	270	2864	一括	臼玉	砂岩	4.39	4.45	3.28	1.93～1.80	0.0964	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	細粒
161	123	271	2356	一括	臼玉	滑石	4.45	4.38	3.07	1.60～1.58	0.1005	ほぼ完形	7.5Y5/2灰オリーブ	C	
161	123	272	2725	一括	臼玉	滑石	4.25	4.42	1.66	1.67～1.56	0.0427	1/10欠	5Y6/2灰オリーブ	C	
161	123	273	2935	一括	臼玉	緑泥石岩	4.36	4.33	3.24	1.54～1.47	0.1038	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	274	2981	一括	臼玉	泥岩	4.35	4.13	1.66	1.45～1.25	0.0527	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	C	
161	123	275	2620	一括	臼玉	滑石	4.33	4.25	3.70	2.15～1.94	0.1065	ほぼ完形	7.5Y5/2灰オリーブ	C	
161	123	276	2741	一括	臼玉	滑石	4.32	4.30	1.48	1.48～1.41	0.0568	完形	10Y3/1オリーブ黒	C	
161	123	277	2870	一括	臼玉	泥岩	4.27	3.97	2.22	1.90～1.87	0.0536	1/6欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	278	2831	一括	臼玉	蛇紋岩	4.26	4.25	2.50	1.61～1.35	0.0781	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	C	
161	123	279	2423	一括	臼玉	滑石	4.25	4.12	4.57	1.77～1.74	0.1183	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	280	2799	一括	臼玉	蛇紋岩	4.25	4.09	1.63	1.40～1.31	0.2134	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	281	3163	一括	臼玉	粘板岩	4.24	4.19	2.25	1.75～1.35	0.0677	完形	10Y3/1オリーブ黒	C	
161	123	282	2676	一括	臼玉	滑石	4.24	4.20	2.15	1.47～1.38	0.0627	完形	5Y6/2灰オリーブ	C	
161	123	283	2623	一括	臼玉	緑泥石岩	4.23	4.18	1.80	1.42～1.39	0.0428	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	284	2182	一括	臼玉	滑石	4.21	3.86	3.12	1.70～1.54	0.0893	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	C	
161	123	285	2938	一括	臼玉	蛇紋岩	4.18	4.09	2.31	1.51～1.40	0.0665	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	286	2550	一括	臼玉	滑石	4.15	4.16	2.61	1.59～1.70	0.0622	1/8欠	7.5Y6/2灰オリーブ	C	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	器種	素材	法量(㎜)				重量(g)	遺存度	色調	類型	特徴
							現存長	幅	厚さ	孔					
161	123	287	2683	一括	臼玉	緑泥石岩	4.13	4.11	2.29	1.43～1.39	0.0630	1/8欠	10Y3/1オリーブ黒	C	
161	123	288	2693	一括	臼玉	蛇紋岩	4.09	4.12	1.96	1.46～1.42	0.0517	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	289	2304	一括	臼玉	滑石	4.10	4.01	4.15	1.85～1.80	0.0995	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	290	2537	一括	臼玉	滑石	4.01	4.10	3.49	1.67～1.65	0.0935	1/8欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	291	2510	一括	臼玉	蛇紋岩	3.99	4.06	3.14	1.31～1.08	0.1015	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	C	
161	123	292	3029	一括	臼玉	泥岩	4.04	3.97	3.43	1.60～1.50	0.0906	ほぼ完形	7.5Y5/2灰オリーブ	C	
161	123	293	2295	一括	臼玉	滑石	3.92	4.01	1.82	1.49～1.27	0.0466	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	294	2689	一括	臼玉	滑石	4.01	3.98	2.26	1.43～1.36	0.0661	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	295	2201	一括	臼玉	滑石	3.96	3.91	2.37	1.50～1.49	0.0631	1/8欠	10Y3/1オリーブ黒	C	
161	123	296	2582	一括	臼玉	滑石	3.91	3.87	2.22	1.45～1.38	0.0542	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	297	2373	一括	臼玉	滑石	3.89	3.74	2.48	1.60～1.53	0.0543	1/5欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	298	2720	一括	臼玉	泥岩	3.87	3.89	2.22	1.33～1.24	0.0556	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	299	2057	一括	臼玉	緑泥石岩	3.84	3.79	2.70	1.44～1.40	0.0645	1/5欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	300	2014	一括	臼玉	滑石	3.79	3.82	1.94	1.57～1.56	0.0483	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	C	
161	123	301	2627	一括	臼玉	滑石	3.62	3.58	2.94	1.61～1.56	0.0556	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	C	
161	123	302	2042	一括	臼玉	滑石	4.45	4.50	4.63	1.86～1.69	0.1621	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	D	
161	123	303	2954	一括	臼玉	泥岩	4.25	4.17	4.45	2.09～1.65	0.1158	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	D	
161	123	304	2521	一括	臼玉	滑石	3.93	3.96	3.89	1.54～1.40	0.1252	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	D	
161	123	305	3039	一括	臼玉	緑色片岩	5.79	5.91	1.27	1.68～1.54	0.0677	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	E	
161	123	306	2087	一括	臼玉	頁岩	5.56	5.47	1.70	2.10～1.95	0.0760	完形	10Y3/1オリーブ黒	E	
161	123	307	2417	一括	臼玉	緑泥石岩	5.23	5.12	1.73	1.66～1.57	0.0722	完形	7.5GY3/1暗緑灰	E	
161	123	308	2969	一括	臼玉	泥岩	5.23	4.49	1.62	1.61～1.53	0.0818	1/10欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	E	
161	123	309	2058	一括	臼玉	滑石	5.20	5.13	1.42	1.75～1.71	0.0397	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	E	
161	123	310	2179	一括	臼玉	滑石	5.18	5.04	1.03	1.82～1.81	0.0486	完形	10Y3/1オリーブ黒	E	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	器種	素材	法量(㎜)				重量(g)	遺存度	色調	類型	特徴
							現存長	幅	厚さ	孔					
161	123	311	3026	一括	臼玉	泥岩	5.16	5.13	1.65	1.96～1.92	0.0650	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	E	
161	123	312	2826	一括	臼玉	滑石	5.08	5.00	1.33	2.14～2.10	0.0582	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	E	
161	123	313	3101	一括	臼玉	雲母片岩	4.87	5.07	1.79	1.73～1.59	0.0789	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	E	
161	123	314	3126	一括	臼玉	頁岩	5.03	5.07	1.26	1.55～1.52	0.0619	完形	10Y3/1オリーブ黒	E	
161	123	315	2040	一括	臼玉	滑石	4.89	5.00	0.98	1.86～1.75	0.0463	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	E	
161	123	316	2013	一括	臼玉	滑石	4.62	5.00	1.43	1.73～1.68	0.0413	ほぼ完形	5Y6/2灰オリーブ	E	
161	123	317	2992	一括	臼玉	蛇紋岩	4.83	4.92	1.82	1.40～1.39	0.0829	完形	10Y3/1オリーブ黒	E	
161	123	318	3092	一括	臼玉	緑泥石岩	4.79	4.63	0.92	1.68～1.68	0.0362	完形	7.5Y5/2灰オリーブ	E	
161	123	319	2031	一括	臼玉	蛇紋岩	4.70	4.79	1.20	1.57～1.55	0.0446	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	E	
161	123	320	3032	一括	臼玉	泥岩	4.76	4.62	1.29	1.66～1.62	0.0513	完形	10Y3/1オリーブ黒	E	
161	123	321	2976	一括	臼玉	泥岩	4.55	4.68	2.51	1.55～1.51	0.0898	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	E	
161	123	322	3119	一括	臼玉	泥岩	4.67	4.64	1.59	1.50～1.44	0.0585	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	E	
161	123	323	2195	一括	臼玉	滑石	4.65	4.46	1.48	1.58～1.43	0.0539	完形	10Y3/1オリーブ黒	E	
161	123	324	2717	一括	臼玉	蛇紋岩	4.65	4.64	1.11	1.47～1.44	0.0406	完形	10Y3/1オリーブ黒	E	
161	123	325	2920	一括	臼玉	緑泥石岩	4.58	4.61	1.48	1.82～1.80	0.0549	完形	10Y3/1オリーブ黒	E	
161	123	326	2901	一括	臼玉	雲母片岩	4.61	4.58	1.25	1.58～1.51	0.0359	ほぼ完形	7.5Y5/2灰オリーブ	E	
161	123	327	2695	一括	臼玉	滑石	4.55	4.45	1.16	1.51～1.48	0.0390	完形	10Y3/1オリーブ黒	E	
161	123	328	2734	一括	臼玉	滑石	4.53	4.49	1.34	1.55～1.50	0.0511	1/10欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	E	
161	123	329	2968	一括	臼玉	泥岩	4.40	4.50	2.18	1.63～1.51	0.0719	完形	10Y3/1オリーブ黒	E	
161	123	330	2967	一括	臼玉	泥岩	4.49	4.41	1.53	1.67～1.64	0.0509	完形	10Y3/1オリーブ黒	E	
161	123	331	3058	一括	臼玉	蛇紋岩	4.41	4.42	1.29	1.55～1.53	0.0418	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	E	
161	123	332	2808	一括	臼玉	緑色片岩	4.34	4.42	1.31	1.45～1.40	0.0949	ほぼ完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	E	
161	123	333	3005	一括	臼玉	緑泥石岩	4.41	4.40	1.82	1.33～1.27	0.0506	1/10欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	E	
161	123	334	2025	一括	臼玉	滑石	4.35	4.39	0.92	1.46～1.44	0.0300	完形	10Y3/1オリーブ黒	E	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	器種	素材	法量(mm)				重量(g)	遺存度	色調	類型	特徴
							現存長	幅	厚さ	孔					
161	123	335	2966	一括	臼玉	泥岩	4.32	4.33	1.79	1.71～1.36	0.0557	完形	10Y3/1オリーブ黒	E	
161	123	336	2816	一括	臼玉	緑泥石岩	4.28	4.18	1.26	1.56～1.49	0.0421	完形	10Y3/1オリーブ黒	E	
161	123	337	3066	一括	臼玉	泥岩	4.25	4.22	1.22	1.20～1.25	0.0396	完形	10Y3/1オリーブ黒	E	
161	123	338	3130	一括	臼玉	滑石	4.19	4.20	1.82	2.16～2.13	0.0373	完形	5Y6/2灰オリーブ	E	
161	123	339	2441	一括	臼玉	滑石	4.20	4.17	0.80	1.80～1.75	0.0264	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	E	
161	123	340	3114	一括	臼玉	泥岩	4.13	4.04	1.56	1.84～1.69	0.0408	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	E	
161	123	341	2239	一括	臼玉	滑石	4.11	4.00	1.31	1.37～1.32	0.0365	完形	10Y3/1オリーブ黒	E	
161	123	342	2331	一括	臼玉	滑石	3.96	4.00	1.08	1.40～1.37	0.0313	完形	2.5GY3/1暗オリーブ灰	E	
161	123	343	2419	一括	臼玉	滑石	5.89	5.57	2.18	2.24～2.13	0.1068	ほぼ完形	7.5Y6/2灰オリーブ	E'	
161	123	344	2455	一括	臼玉	滑石	5.89	5.60	2.22	2.21～2.20	0.0946	1/6欠	2.5GY3/1暗オリーブ灰	E'	
161	123	345	2152	一括	臼玉	滑石	5.38	5.44	1.17	1.49～1.39	0.0620	ほぼ完形	10Y3/1オリーブ黒	E'	
161	123	346	2309	一括	臼玉	滑石	5.42	5.38	1.56	1.45～1.43	0.0690	1/8欠	7.5Y5/2灰オリーブ	E'	
161	123	347	2438	一括	臼玉	滑石	4.31	4.34	1.82	1.47～1.42	0.0580	1/10欠	10Y3/1オリーブ黒	E'	
161	123	348	2196	一括	臼玉	滑石	5.18	5.03	1.38	1.95～1.92	0.0600	完形	10Y3/1オリーブ黒	E'	
161	123	349	89	一括	臼玉(未製品)	滑石	8.66	7.42	3.66	1.89～1.80	0.3236	—	7.5Y6/2灰オリーブ	—	
161	123	350	91	一括	臼玉(未製品)	滑石	8.31	7.29	2.65	2.39～2.19	0.2359	—	2.5GY3/1暗オリーブ灰	—	
161	123	351	90	一括	臼玉(未製品)	滑石	7.86	8.03	3.22	0.79～1.44	0.2941	—	2.5GY3/1暗オリーブ灰	—	
161	123	352	87	一括	臼玉(未製品)	滑石	7.42	7.81	2.78	1.90～1.80	0.2676	—	2.5GY3/1暗オリーブ灰	—	

第12表　台遺跡E地点出土石器等観察表

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	器種	素材	法量(mm)				重量(g)	遺存度	色調	特徴	備考
							現存長	幅	厚さ	孔					
74	005	5	5	一括	磨製石斧	ドレライト	124.0	69.0	35.0	—	498.0	左上半部1/3欠	5Y4/1 灰	太型蛤刃石斧。先端部の叩打痕著しい。 側面は、よく研磨されて成形されている。	
76	008	2	3	一括	砥石	流紋岩	42.0	33.0	22.0	—	43.2	上・下端部欠	10YR6/4 にぶい黄橙	表面の剥落著しい。一部、刀子状の擦痕あり。	新第三紀
76	010	6	6	一括	砥石	軽石	41.0	31.0	27.0	—	4.4	下半部欠	2.5Y8/3 淡黄	一部、磨耗痕あり。	
77	011	9	9	一括	有孔円板	滑石	30.5	31.0	4.0	—	7.3	ほぼ完形	10Y5/1 灰	表：縦方向の擦痕あり。 裏：縦及び左斜め上からの擦痕あり。	
82	026	4	7	一括	砥石	緻密質安山岩	59.0	20.0	16.0	—	28.6	下半部欠	10YR6/2 灰黄褐	右側面の磨耗痕著しい。刀子状の擦痕あり。	新第三紀
82	026	5	8	一括	砥石	軽石	39.0	21.0	26.0	—	4.3	下端部一部欠	2.5Y7/4 浅黄	多孔質。気泡多数。下端部を除き全面にわたり磨耗痕あり。 一部、刀子状の擦痕ありか。	
83	029	8	12	一括	磨石・凹石	火山礫凝灰岩	114.0	82.0	46.0	—	610.0	左側縁部一部欠	10R4/4 赤褐	磨耗痕著しい。 上・下面に1ヵ所ずつ凹みあり。凹み石に転用か。 上面部は被熱著しく、一部表面剥離。 最終的には、焼礫として再利用されたと見られる。	奥日光 焼け
83	029	9	13	一括	磨石	火山礫凝灰岩	74.0	58.0	36.0	—	213.3	ほぼ完形	5Y6/2 灰オリーブ	全周する側面部の磨耗、著しい。	新第三紀
86	031	18	10	一括	フレーク	黒曜石	23.5	15.0	7.0	—	2.1	—	7.5YR2/1 黒	表：右上側面、フィッシャー激しく入る。 左下方向及び左上方向からのリング入る。 裏：右上方向からのリング入る。	神津島か
88	032	14	10	一括	砥石	流紋岩	77.0	43.0	26.0	—	117.2	上半部1/3欠	2.5Y8/3 淡黄	縦～斜位の刀子痕あり。	新第三紀
92	042	22	23	点	打製石斧	緻密質安山岩	62.0	53.0	15.0	—	59.0	基部欠 先端部2/3残	10Y5/1 灰	表：先端部、擦痕あり。 裏：基部付近及び先端部に擦痕あり。	新第三紀
92	042	23	22	点	磨製石斧	ドレライト	80.0	52.0	47.0	—	395.0	上半部・左側縁部欠	N3/0 暗灰	—	
100	044	68	74	点	フレーク	黒曜石	27.0	14.5	10.0	—	2.4	—	7.5YR2/1 黒	表：上方向から、浅いリング入る。 裏：右下方向から、リングが入る。	高原山か
100	044	69	75	一括	磨石	輝石安山岩	110.0	58.0	40.0	—	440.0	上端部一部欠	5Y6/1 灰	左右両側面、磨耗痕著しい。	新第三紀
100	045	8	10	一括	磨石	無斑晶質安山岩	39.0	34.0	30.0	—	57.6	右側縁部一部残	5Y6/1 灰	側縁部の磨耗痕、著しい。	
103	049	16	16	点	砥石	デイサイト	152.0	103.0	41.5	—	960.0	下半部欠	5Y7/2 灰白	割れ面を再利用しており、磨耗している。	新第三紀
104	050	16	14	一括	磨石	流紋岩質凝灰岩	82.0	37.0	48.0	—	152.5	右側縁部一部残	2.5Y4/1 黄灰	正面・裏面及び側縁部の一部、磨耗著しい。	奥日光
110	071	16	19	一括	石鏃	黒曜石	16.0	12.0	2.0	—	0.5	完形	N2/0 黒	両側縁部、リングが入る。	高原山か
115	074	31	48	一括	磨石	チャート	92.0	76.0	46.0	—	337.0	左側縁部付近 1/4残	2.5Y7/2 灰黄	側縁部、磨耗著しい。	
116	074	32	47	一括	磨石	砂岩	86.0	48.0	59.0	—	348.0	左側半分欠	2.5YR3/1 暗赤灰	側縁部、一部磨耗著しい。表面、一部ヒビ入る。 一部赤色味呈し、焼礫として再利用された可能性あり。	
116	077	5	6,7	一括	磨石	輝石安山岩	157.2	130.0	54.0	—	1480.0	4/3残	5Y7/1 灰白	外面、ほぼ全面に磨耗痕あり。側縁から表・裏面の磨耗著しい。	
119	078	43	40	一括	砥石	軽石	37.0	44.0	26.0	—	10.1	上半部1/2残	2.5Y8/2 灰白	割れた後、割れ口も砥石として利用したとみられる。	黒雲母 白味を帯びる
121	084	9	10	一括	砥石	砂岩	72.0	55.0	20.0	—	129.2	上・下部及び 右側縁部欠	5YR5/4 にぶい赤褐	全体に赤みがかっており、被熱を受けた可能性あり。	
122	085	20	17	一括	砥石	流紋岩	49.0	39.0	12.0	—	24.8	下半部2/5欠	5Y7/2 灰白	上面やや右寄りに、径3.2㎜程度の穿孔(裏→表)施す。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	器種	素材	法量(㎜)				重量(g)	遺存度	色調	特徴	備考
							現存長	幅	厚さ	孔					
124	087	17	13	一括	片刃石斧	砂岩	40.0	36.0	12.0	—	37.2	上・下部及び 左側縁部若干欠	10Y5/1 灰	裏面及び右側面に擦痕あり。 欠失面以外、極めてよく研磨されている。	
126	092	20	22	一括	有孔円板	滑石片岩	25.5	27.0	3.0	—	4.5	ほぼ完形	10Y5/1 灰	表：縦方向の研磨痕あり。 裏：縦及び斜め方向の研磨痕あり。 径1.8㎜程の穿孔(下→上)中央部に2ヵ所施す。	
131	096	46	55	一括	石製紡錘車	滑石片岩	41.5	41.0	10.5	—	25.8	ほぼ完形	N1.5/0 黒	表：径9.0㎜程度の中心孔の周囲、線刻あり。 外周部、丁寧な研磨痕。 裏：丁寧な研磨痕。	
131	096	47	54	一括	磨石	輝石安山岩	149.0	75.0	42.8	—	785.0	ほぼ完形	10YR7/2 にぶい黄橙	表・裏面部、磨耗著しい。側面部、磨耗している。 円形の剥離痕、数ヵ所あり。敲き石としても利用か。	
132	096	48	61	一括	磨石	チャート	69.0	61.0	40.8	—	223.7	ほぼ完形	N1.5/0 黒	表・裏面及び側面部に、数ヵ所磨耗著しい面あり。 ほぼ全面を、磨石として使用していたと見られる。	
132	096	49	62	一括	磨石	輝石安山岩	55.0	54.0	49.0	—	182.4	右側縁部1/6残	5Y6/1 灰	表・裏面部、磨耗している。側面部、磨耗著しい。	
132	096	50	60	一括	敲石	頁岩	86.0	80.0	50.0	—	440.0	ほぼ完形	2.5Y7/3 浅黄	表・裏面部、磨耗している。側面部、磨耗著しい。	
142	100	92	109	点	有孔円板	滑石片岩	36.0	34.2	2.9	—	7.6	ほぼ完形	10Y6/1 灰	表：縦方向の研磨痕あり。 裏：縦及び横方向の研磨痕あり。 径1.5㎜程の穿孔(下→上)中央部に2ヵ所施す。	
142	100	93	110	一括	有孔円板	滑石片岩	22.0	22.8	3.2	—	3.4	1/8欠	10Y5/1 灰	表：横方向の研磨痕あり。 裏：斜め方向の研磨痕あり。 径1.4～1.8㎜程の穿孔(下→上)中央部に2ヵ所施す。	
142	100	94	111	一括	フレーク	黒曜石	26.0	15.0	6.0	—	1.2	—	N2/0 黒	表：左上方向からのリング及びフィッシャー入る。 裏：右方向からの弱いリング入る。	高原山か
142	100	95	112	一括	砥石	軽石	80.0	45.2	36.0	—	29.1	ほぼ完形	2.5Y8/3 淡黄	磨耗痕あり。側面に複数の擦痕あり。刃物の研磨痕か。	
144	108	11	22	一括	有孔円板	緑色片岩	24.5	19.0	3.5	左1.31～1.53 右1.32～1.52	2.8	1/3欠	10Y6/1 灰	弱い研磨痕あり。	
148	110	29	50	一括	磨石	チャート	95.3	53.0	50.5	—	320.0	完形	2.5YR3/1 暗赤灰	左側面以外、磨耗痕著しい。	
150	113	14	19	一括	磨石	砂岩	48.0	65.0	45.0	—	250.0	上半部1/2欠	10YR7/2 にぶい黄橙	側面部、磨耗著しい。 上半部、割れ口面、砥石として再利用か。	
150	113	15	18	一括	砥石	砂岩	94.0	31.0	24.0	—	115.2	下半部1/4欠	2.5Y7/2 灰黄	一部、刀子状の擦痕あり。	
150	113	16	20	一括	砥石	流紋岩	62.0	31.0	21.0	—	70.4	上半部1/2欠	2.5Y7/3 浅黄	上面下端部、刀子状の研磨痕が明瞭に残る。	
151	116	13	18	一括	フレーク	玉髄	48.2	45.1	25.0	—	88.8	—	10YR7/3 にぶい黄橙	—	
151	116	14	17	一括	浮子	軽石	41.8	31.4	21.1	5.8～6.0	6.2	ほぼ完形	10YR7/3 にぶい黄橙	中央部やや上方、径5.8～6.0㎜程度の穿孔施す。 浮子として使用か。右側面部、摩耗著しい箇所あり。 砥石に転用か。	
151	116	15	16	一括	砥石	軽石	50.9	41.1	24.2	—	7.9	ほぼ完形	10YR7/4 にぶい黄橙	外周部、摩耗痕著しい。 上面部、刀子状の研磨痕あり。	
151	116	16	15	一括	砥石	軽石	48.2	56.1	40.2	—	17.0	ほぼ完形	10YR8/3 浅黄橙	外周部、摩耗痕著しい。 中央の凹部、刀子状の研磨痕著しい。	
152	119	7	7	一括	砥石	軽石	94.2	58.7	18.1	—	12.4	下半部1/3欠	10YR7/4 にぶい黄橙	左上方部、割れ口も砥石として使用。	
154	120	18	24	一括	フレーク	黒曜石	25.0	16.0	5.0	—	2.0	—	N2/0 黒	—	神津島か
157	123	47	48	一括	石鏃	珪質頁岩	34.5	18.5	7.3	—	3.3	完形	N4/ 灰	両側縁部、リングが入る。	
157	123	48	49	一括	フレーク	黒曜石	46.5	10.2	9.2	—	2.8	—	2.5Y3/1 黒褐	—	和田峠か

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	器種	素材	法量(㎜)				重量(g)	遺存度	色調	特徴	備考
							現存長	幅	厚さ	孔					
157	123	49	2613	一括	フレーク	黒曜石	35.0	24.6	78.2	—	7.3	—	N2/0 黒		粗悪質
157	123	50	50	一括	フレーク	黒曜石	30.0	60.0	5.9	—	7.1	—	5Y2/1 黒	一部、リングが密に入る。	高原山か
157	123	51	51	一括	磨石	輝石 ホルンフェルス	103.0	49.0	31.0	—	205.5	完形	5Y4/1 灰	一部、磨耗痕著しい。	
157	123	52	55	一括	打製石斧	チャート	62.0	39.0	15.0	—	24.7	上・下端部欠	2.5YR4/4 にぶい赤褐	—	
157	123	53	67	一括	砥石	軽石	57.0	50.0	23.0	—	11.1	完形	10YR6/3 にぶい黄褐	一部、摩耗著しい。	
157	123	54	52	一括	磨石	砂質泥岩	82.1	59.8	144.1	—	335.0	完形	10YR7/3 にぶい黄橙	一部、摩耗著しい。	
157	123	55	53	一括	砥石	泥岩	92.0	41.0	18.0	—	66.7	上・下端部欠	5PB2/1 青黒	一部、摩耗著しい。	
157	123	56	2226	一括	有孔円板	滑石	35.7	41.4	5.1	左1.58～1.42 右1.51～1.42	13.4	1/8欠	7.5Y3/1 オリーブ黒	斜め方向の弱い研磨痕入る。	
157	123	57	2560	一括	有孔円板	滑石片岩	32.5	32.2	4.1	左2.03～1.86 右1.85～1.75	7.4	ほぼ完形	7.5GY5/1 緑灰	研磨、雑な印象受ける。	
157	123	58	2103	一括	有孔円板	滑石	29.3	31.0	4.1	左1.70～1.52 右1.65～1.40	8.3	ほぼ完形	2.5GY5/1 オリーブ灰	一部、斜め方向の弱い研磨痕入る。	
158	123	59	2116	一括	有孔円板	滑石	28.6	35.3	3.5	左1.37～1.34 右1.55～1.22	7.3	ほぼ完形	5GY3/1 暗オリーブ灰	—	
158	123	60	2944	一括	有孔円板	雲母片岩	29.5	32.7	3.8	左1.52～1.50 右1.54～1.51	6.8	ほぼ完形	5GY3/1 暗オリーブ灰	横方向の弱い研磨痕入る。	
158	123	61	2638	一括	有孔円板	滑石片岩	29.2	35.6	3.2	左1.50～1.40 右1.45～1.40	7.7	ほぼ完形	5GY3/1 暗オリーブ灰	—	
158	123	62	43	一括	有孔円板	滑石	24.9	35.4	5.1	左1.20～1.50 右1.21～1.49	6.9	1/5欠	5GY3/1 暗オリーブ灰	縦方向の研磨痕入る。	
158	123	63	2978	一括	有孔円板	緑色片岩	27.8	33.6	3.3	左1.51～1.43	7.7	1/8欠	5GY3/1 暗オリーブ灰	—	
158	123	64	44	一括	有孔円板	滑石	27.0	53.0	5.8	左1.25～1.10 右1.20～1.10	12.7	—	5GY3/1 暗オリーブ灰	剣形石製品を有孔円板に転用加工する段階と考えられる。 縦方向の研磨痕入る。	
158	123	65	2458	一括	有孔円板	雲母片岩	24.5	30.7	3.6	左1.69～1.68 右1.64～1.61	5.2	ほぼ完形	2.5GY6/1 オリーブ灰	—	
158	123	66	3160	一括	有孔円板	粘板岩	27.4	27.7	3.1	左1.48～1.32 右1.45～1.23	5.2	ほぼ完形	5GY3/1 暗オリーブ灰	横及び斜め方向の弱い研磨痕入る。	
158	123	67	2608	一括	有孔円板	滑石	27.7	28.9	4.1	左1.70～1.64 右1.71～1.64	7.0	ほぼ完形	2.5GY6/1 オリーブ灰	—	
158	123	68	2320	一括	有孔円板	緑色片岩	25.1	28.9	3.5	左2.01～1.64 右1.93～1.81	4.5	ほぼ完形	5GY3/1 暗オリーブ灰	—	
158	123	69	2412	一括	有孔円板	滑石	30.1	32.9	5.1	左1.84～1.63 右1.82～1.46	10.8	1/6欠	5GY3/1 暗オリーブ灰	横及び斜め方向の研磨痕入る。	
158	123	70	2017	一括	有孔円板	滑石	26.9	27.4	3.3	左1.71～1.63 右1.86～1.71	4.7	1/10欠	2.5GY6/1 オリーブ灰	斜め方向の弱い研磨痕入る。	
158	123	71	2223	一括	有孔円板	滑石	24.5	24.9	4.4	左1.61～1.43 右1.62～1.42	4.7	1/10欠	5GY3/1 暗オリーブ灰	斜め方向の弱い研磨痕入る。	
158	123	72	3095	一括	有孔円板	粘板岩	23.2	24.8	2.8	左1.48～1.36 右1.48～1.46	3.2	1/10欠	5GY3/1 暗オリーブ灰	—	
158	123	73	3006	一括	有孔円板	滑石片岩	25.9	29.2	4.5	左1.68～1.52 右1.63～1.53	6.4	1/10欠	5GY6/1 オリーブ灰	—	
158	123	74	2484	一括	有孔円板	滑石片岩	26.2	28.6	4.0	左1.90～1.65	4.8	1/4欠	5GY3/1 暗オリーブ灰	斜め方向の弱い研磨痕入る。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	器種	素材	法量(㎜)				重量(g)	遺存度	色調	特徴	備考
							現存長	幅	厚さ	孔					
158	123	75	2852	一括	有孔円板	滑石片岩	24.8	26.1	4.1	左1.75～1.60 右1.78～1.66	4.2	1/8欠	5GY3/1 暗オリーブ灰	縦方向の弱い研磨痕入る。	
158	123	76	47	一括	有孔円板	緑色片岩	28.2	27.1	4.1	左1.31～1.00 右1.00～0.98	4.8	1/5欠	5GY6/1 オリーブ灰	粗雑なつくりの印象受ける。	
158	123	77	2829	一括	有孔円板	緑色片岩	21.1	23.9	2.9	左1.81～1.45 右1.69～1.68	2.8	1/10欠	5GY3/1 暗オリーブ灰	斜め方向の弱い研磨痕入る。	
158	123	78	2791	一括	有孔円板	滑石片岩	17.9	23.5	2.5	左1.46～1.36 右1.45～1.43	0.1	1/8欠	5GY3/1 暗オリーブ灰	—	
158	123	79	2119	一括	有孔円板	滑石片岩	21.9	23.8	2.9	左1.32～1.24 右1.55～1.22	2.8	1/8欠	5GY3/1 暗オリーブ灰	—	
158	123	80	2067	一括	有孔円板	滑石	20.0	22.4	3.3	左1.34～1.30 右1.41～1.35	2.8	ほぼ完形	5GY3/1 暗オリーブ灰	—	
158	123	81	2766	一括	有孔円板	蛇紋岩	19.9	23.1	3.3	左1.85～1.60 右1.78～1.58	2.7	1/8欠	5GY3/1 暗オリーブ灰	縦及び斜め方向の弱い研磨痕入る。	
159	123	82	2640	一括	有孔円板	滑石片岩	22.8	21.6	2.4	左1.63～1.56 右1.61～1.45	2.4	1/8欠	2.5GY6/1 オリーブ灰	斜め方向の弱い研磨痕入る。	
159	123	83	2482	一括	有孔円板	滑石片岩	19.2	14.2	3.1	左1.85～1.31	1.6	1/3欠	5GY3/1 暗オリーブ灰	斜め方向の弱い研磨痕入る。	
159	123	84	2008	一括	有孔円板	滑石	18.4	21.2	3.9	左1.92～1.61 右1.83～1.77	2.9	ほぼ完形	5GY3/1 暗オリーブ灰	横及び斜め方向の弱い研磨痕入る。	
159	123	85	2392	一括	有孔円板	滑石	16.0	19.3	4.3	左1.84～1.68 右1.74～1.49	1.9	1/5欠	5GY3/1 暗オリーブ灰	横方向の弱い研磨痕入る。	
159	123	86	2748	一括	有孔円板	滑石片岩	26.5	21.8	3.9	左1.90～1.50	3.2	1/2欠	2.5GY6/1 オリーブ灰	—	
159	123	87	2890	一括	有孔円板	緑色片岩	30.9	11.2	4.4	—	2.2	3/4欠	10Y3/1 オリーブ黒	縦方向の弱い研磨痕入る。	
159	123	88	3023	一括	有孔円板	緑色片岩	25.6	15.5	2.7	左1.47～1.41	2.1	3/5欠	10Y4/1 灰	横及び斜め方向の弱い研磨痕入る。	
159	123	89	2354	一括	有孔円板	滑石片岩	10.0	18.1	3.1	—	0.6	2/3欠	2.5GY6/1 オリーブ灰	斜め方向の弱い研磨痕入る。	
159	123	90	45	一括	勾玉	滑石	39.8	15.9	4.2	2.78～1.79	7.0	ほぼ完形	7.5Y3/1 オリーブ黒	穿孔部を穿ち直している。	
159	123	91	46	一括	勾玉	滑石	33.1	15.5	4.4	1.22～1.12	4.3	ほぼ完形	10Y5/1 灰	—	
159	123	92	2716	一括	勾玉	蛇紋岩	28.7	11.0	4.3	1.76～1.60	4.4	ほぼ完形	10Y3/1 オリーブ黒	斜め方向の弱い研磨痕入る。	
159	123	93	2334	一括	勾玉	滑石	23.5	13.1	3.3	1.85～1.59	2.6	ほぼ完形	7.5GY3/1 暗緑灰	—	
159	123	94	2472	一括	剣形	滑石	43.2	13.5	3.7	1.64～1.46	2.8	1/8欠	2.5GY4/1 暗オリーブ灰	斜め方向の研磨痕入る。	
159	123	95	2410	一括	剣形	滑石片岩	51.1	22.2	4.2	2.00～2.10	6.5	1/5欠	5GY3/1 暗オリーブ灰	横及び斜め方向の弱い研磨痕入る。	
163	124	24	37	一括	有孔円板	滑石片岩	21.0	21.8	3.2	左1.50～1.25 右1.60～1.20	2.5	1/8欠	7.5GY5/1 緑灰	横及び斜め方向の弱い研磨痕入る。	
163	124	25	38	一括	フレーク	黒曜石	29.8	23.0	7.2	—	5.6	—	5Y3/1 オリーブ黒		粗悪質
163	124	26	39	一括	磨石	砂岩	44.1	58.8	27.8	—	104.3	右上部1/6残	5PB2/1 青黒	一部、研磨痕著しい。	
163	124	27	40	一括	砥石	軽石	57.6	46.0	27.4	—	14.3	下半部1/3欠	10YR8/4 浅黄橙	よく研磨されており、砥石として使用か。	
164	131	17	30	一括	勾玉	緑色片岩	36.5	13.1	5.4	—	5.9	下端部1/6欠	10Y6/1 灰	穿孔を途中で中断し、新たに穿ち直している。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	器種	素材	法量(㎜)				重量(g)	遺存度	色調	特徴	備考
							現存長	幅	厚さ	孔					
166	138	2	2	一括	フレーク	黒曜石	28.5	29.0	8.0	—	4.5	—	N2/0 黒	複数方向からのフィッシャー、リング入る。	高原山か
168	139	15	16	一括	砥石	砂岩	174.3	102.1	80.0	—	2250.0	完形	5Y7/2 灰白	正面及び左側縁部を中心に、刀子状の研磨痕残る。 右側縁部、摩耗痕著しく磨石としても使われたか。	
169	143	5	11	一括	磨石	火山礫凝灰岩	111.2	57.3	44.8	—	323.0	3/7残	5YR7/4 にぶい橙	全体が赤色味帯びており割れた後、焼礫として再利用されたか。 上面・中央下部が一部窪んでおり、凹み石としても使われたか。	奥日光
169	144	4	3	一括	磨石	輝石安山岩	33.1	39.2	29.4	—	53.8	1/3残	10YR7/4 にぶい黄橙	正面部の摩耗、著しい。	新第三紀
171	442	3	4	点	板碑	緑色片岩	444.1	163.0	28.2	—	2780.0	9/10残	2.5GY5/1 オリーブ灰	—	
171	442	4	3	点	五輪塔(火輪)	輝石安山岩	168.0	169.1	77.5	—	2810.0	完形	10YR6/1 褐灰	—	
171	446	1	2	点	板碑	緑色片岩	145.4	174.8	18.2	—	690.0	1/8残	5G6/1 緑灰	裏：一部ノミ痕跡残る。	
171	446	2	3	点	板碑	緑色片岩	185.2	207.3	14.2	—	840.0	1/8残	2.5GY7/1 明オリーブ灰	—	
171	446	3	1	点	板碑	雲母片岩	198.2	172.4	22.3	—	1000.0	1/10残	N6/0 灰	—	
171	446	4	4	点	板碑	緑色片岩	125.3	98.2	18.1	—	260.0	1/8残	2.5GY6/1 オリーブ灰	—	
171	449	1	1	点	板碑	緑色片岩	151.2	127.8	21.7	—	610.0	1/8残	5G6/1 緑灰	—	
175	472	11	1	一括	数珠玉	石英(水晶)	17.0	14.0	17.0	—	7.4	完形	2.5Y7/3 浅黄	親珠と考えられ、T字状(左→右、下→上)に穿孔施す。 横方向が中糸、下方向が房用の穿孔と考えられる。 下面の穿孔部周囲、粗い研磨による平坦面あり。	
178	石造物C29	1	27-1	一括	板碑	緑色片岩	132.2	121.7	12.8	—	455.0	1/8残	2.5GY5/1 オリーブ灰	表：中央上面に梵字ありか。	
178	石造物C29	2	28-2	一括	板碑	緑色片岩	174.1	117.2	18.1	—	655.0	1/3残	2.5GY5/1 オリーブ灰	表：上方中央に梵字あり。	
178	石造物C29	3	33-1	一括	板碑	緑色片岩	183.1	108.4	17.3	—	570.0	1/4残	7.5GY6/1 緑灰	—	
178	石造物C29	4	29	一括	板碑	雲母片岩	248.0	124.1	18.9	—	830.0	1/3残	5Y7/1 灰白	表：上方中央に梵字あり。	
178	石造物D30	1	33	一括	板碑	緑色片岩	136.1	120.4	16.5	—	400.0	1/8残	7.5Y7/1 灰白	表：擦痕のような痕跡あり。	
178	石造物D30	2	23	一括	五輪塔(火輪)	輝石安山岩	171.3	181.1	75.0	—	3200.0	ほぼ完形	2.5Y6/1 黄灰	左側端部、若干欠。	
178	石造物D30	3	24	一括	五輪塔(水輪)	輝石安山岩	167.1	198.2	122.4	—	5800.0	ほぼ完形	10YR7/2 にぶい黄橙	やや歪な形状。	
178	石造物E30	1	62	一括	板碑	緑色片岩	251.2	174.1	20.0	—	1600.0	上方部1/4残	2.5Y8/2 灰白	裏：端部にノミ痕跡残る。	
179	石造物E30	2	60	一括	板碑	緑色片岩	393.2	165.1	20.1	—	2150.0	4/5残	10Y5/1 灰	表：上方中央に蓮座上の梵字あり。 下方右側に「明○」、下方左側に「四○」の刻字あり。 裏：ヨコ方向のノミ痕跡残る。	
179	石造物E30	3	63	一括	板碑	緑色片岩	255.1	148.2	25.3	—	1210.0	1/3残	5G6/1 緑灰	—	
179	石造物E30	4	61	一括	板碑	雲母片岩	412.0	163.4	21.8	—	2200.0	5/7残	N6/0 灰	表：上方中央に、梵字ありか。	
179	石造物E30	5	55	一括	板碑	緑色片岩	584.2	214.3	19.0	—	4800.0	ほぼ完形	10Y5/1 灰	—	
180	石造物F28	1	137	一括	板碑	緑色片岩	567.1	210.3	35.2	—	6500.0	ほぼ完形	7.5GY6/1 緑灰	表：上方中央に梵字あり。 裏：一部、ノミ痕跡残るか。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	器種	素材	法量(㎜)				重量(g)	遺存度	色調	特徴	備考
							現存長	幅	厚さ	孔					
181	石造物F28	2	156	一括	板碑	雲母片岩	457.3	181.2	26.1	—	3850.0	下端部若干欠9/10残	5Y6/1灰	裏：一部、ノミ痕跡残る。	
181	石造物F28	3	155	一括	板碑	緑色片岩	453.2	176.5	19.3	—	3810.0	4/5残	2.5GY5/1オリーブ灰	—	
181	石造物F28	4	140	点	五輪塔(空風輪)	輝石安山岩	188.2	105.4	102.3	—	2700.0	ほぼ完形	10YR6/2灰黄褐	やや赤色味がかる。	
181	石造物F28	5	146	点	五輪塔(空風輪)	輝石安山岩	201.2	104.8	110.8	—	2750.0	完形	2.5Y6/1黄灰	—	
182	石造物F28	6	151	一括	五輪塔(火輪)	輝石安山岩	166.1	165.0	90.1	—	2980.0	ほぼ完形	2.5Y6/1黄灰	—	伊豆系か
182	石造物F28	7	142	一括	五輪塔(火輪)	輝石安山岩	195.0	189.1	138.4	—	6600.0	ほぼ完形	2.5Y7/2灰黄	厚みがある。	
182	石造物F28	8	154	一括	五輪塔(火輪)	輝石安山岩	171.0	170.0	104.2	—	4960.0	ほぼ完形	2.5Y7/1灰白	左側端部、若干欠。	北関東系
182	石造物F28	9	149	点	五輪塔(火輪)	輝石安山岩	185.1	193.1	118.0	—	7100.0	完形	7.5YR6/2灰褐	赤色味帯びる。	北関東系
182	石造物F28	10	138	一括	五輪塔(火輪)	輝石安山岩	183.2	182.0	114.9	—	6350.0	ほぼ完形	2.5Y7/2灰黄	ノミによる加工痕残る。	
182	石造物F28	11	152	点	五輪塔(水輪)	輝石安山岩	174.0	187.3	123.8	—	5200.0	ほぼ完形	10YR6/1褐灰	やや歪な形状。	
183	石造物F28	12	143	点	五輪塔(水輪)	輝石安山岩	187.8	190.2	126.5	—	6430.0	完形	2.5Y6/2灰黄	—	
183	石造物F28	13	147	一括	五輪塔(水輪)	輝石安山岩	156.2	160.1	110.1	—	3740.0	完形	2.5Y7/2灰黄	—	
183	石造物F28	14	144	点	五輪塔(水輪)	輝石安山岩	192.9	211.1	142.0	—	7940.0	ほぼ完形	2.5Y7/2灰黄	—	
183	石造物F28	15	141	一括	五輪塔(地輪)	輝石安山岩	179.0	178.9	124.4	—	8150.0	ほぼ完形	2.5Y6/2灰黄	—	
183	石造物F28	16	153	点	五輪塔(地輪)	輝石安山岩	182.9	180.0	141.1	—	10200.0	ほぼ完形	2.5Y7/1灰白	端部、面取り状の切断面残る。	北関東系
183	石造物F28	17	139	一括	五輪塔(地輪)	輝石安山岩	158.1	165.0	108.9	—	5750.0	ほぼ完形	2.5Y7/2灰黄	隅部、面取り状の切断面あり。	
184	石造物F28	18	145	一括	五輪塔(地輪)	輝石安山岩	164.1	167.0	114.9	—	6800.0	ほぼ完形	2.5Y6/2灰黄	—	
184	石造物F28	19	148	点	五輪塔(地輪)	輝石安山岩	171.2	173.8	120.9	—	7700.0	完形	2.5Y7/2灰黄	—	
185	グリッドI17	15	21	一括	フレーク	黒曜石	22.7	17.1	5.3	—	2.4	—	N2/0黒	正面、左上方向からのリング及びフィッシャー入る。	高原山か
197	E一括	170	65	一括	石鏃	黒曜石	24.5	19.0	4.5	—	1.2	ほぼ完形	N2/0黒	左右両側面から、複数のリング入る。	和田峠か
197	E一括	171	67	一括	フレーク	黒曜石	16.9	14.3	4.1	—	0.8	—	N2/0黒	複数方向からのリング及びフィッシャーが観察される。	高原山か
197	E一括	172	513	一括	フレーク	黒曜石	13.8	14.0	9.1	—	1.2	—	N2/0黒	裏：左方向からの弱いリング入る。	高原山か
197	E一括	173	66	一括	フレーク	チャート	32.5	17.8	5.0	—	2.6	—	N3/0暗灰	—	
197	E一括	174	11	一括	フレーク	黒曜石	28.6	22.1	13.1	—	5.9	—	N2/0黒	複数方向からのリング入る。	高原山か
197	E一括	175	10	一括	磨石	砂岩	86.0	55.0	37.5	—	256.3	完形	10YR7/2にぶい黄橙	側縁部の全周及び裏面の中央部、よく磨耗している。	
198	E一括	176	69	一括	磨石	砂岩	78.1	66.5	32.0	—	233.1	右側縁部1/3残	2.5Y6/1黄灰	上・下面の磨耗著しい。側面の磨耗ややあり。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	器種	素材	法量(㎜)				重量(g)	遺存度	色調	特徴	備考
							現存長	幅	厚さ	孔					
198	E一括	177	71	一括	磨石	輝石安山岩	36.2	56.8	29.2	—	72.0	上半部1/3残	2.5YR4/4 にぶい赤褐	側面及び上面の磨耗著しい。裏面は一部に刀子状の擦痕残る。 被熱を受けた可能性あり。焼け礫として再利用されたか。	新第三紀 焼け
198	E一括	178	72	一括	磨石	デイサイト	42.5	44.5	28.8	—	87.4	上・下端部欠	10R4/4 赤褐	側面、凹部状にへこみ、磨耗著しい。 割れ口を含めて、被熱による赤色化・剥落あり。	新第三紀 焼け
198	E一括	179	70	一括	磨石	童青石 ホルンフェルス	34.8	43.2	33.0	—	79.1	上半部残	5Y6/2 灰オリーブ	右側縁、上面及び裏面の凹み部の磨耗著しい。	
198	E一括	180	1	一括	砥石	流紋岩	44.0	34.0	10.0	—	24.6	左側縁部・下半部欠	5YR5/6 明赤褐	正面及び下面の磨耗著しい。 下半部は割れ面を再度、砥石として使用している。	
198	E一括	181	74	一括	砥石	流紋岩	32.6	32.8	18.0	—	33.5	上・下端部欠	7.5YR7/2 明褐灰色	正面上方は、割れ口を再利用して、 棒状のものを研磨した痕跡あり。正面右下方に刀子状の擦痕あり。	新第三紀
198	E一括	182	1	一括	勾玉	滑石	29.6	13.8	5.1	1.20	3.9	ほぼ完形	N1.5/0 黒	側縁部の調整がやや雑な印象受ける。	
198	E一括	183	73	一括	剣形	滑石片岩	19.5	19.8	4.0	1.80	2.3	下半部欠	7.5GY4/1 暗緑灰	片面穿孔。	
198	E一括	184	2	一括	剣形	粘板岩	75.1	19.2	7.2	2.00	15.4	ほぼ完形	N1.5/0 黒	上端部、径2.0㎜程度の穿孔施す。 斜め方向の研磨痕残る。	
199	E一括	185	5	一括	板碑	緑色片岩	130.8	83.7	19.2	—	238.9	1/8残	5Y5/2 灰オリーブ	—	
199	E一括	186	3	一括	五輪塔(火輪)	孔質輝石安山岩	193.2	193.0	120.1	—	5550.0	完形	5YR6/3 にぶい橙	赤色味強い。	
199	E一括	187	1	一括	五輪塔(水輪)	輝石安山岩	191.1	196.2	119.9	—	5950.0	4/5残	2.5Y7/2 灰黄	—	
199	E一括	188	3	一括	五輪塔(水輪)	輝石安山岩	164.3	200.0	113.2	—	5430.0	ほぼ完形	2.5Y5/1 黄灰	下半部の一部、面取り状の面残る。	
199	E一括	189	1	一括	五輪塔(水輪)	輝石安山岩	243.0	245.9	155.9	—	13680.0	完形	2.5Y7/2 灰黄	—	
200	E一括	190	1	一括	五輪塔(水輪)	輝石安山岩	182.4	190.1	124.4	—	6700.0	4/5残	2.5Y7/2 灰黄	—	
200	E一括	191	2	一括	五輪塔(地輪)	輝石安山岩	160.5	154.1	93.1	—	4300.0	ほぼ完形	2.5Y7/1 灰白	—	
200	E一括	192	4	一括	五輪塔(地輪)	輝石安山岩	168.2	171.4	121.9	—	6920.0	4/7残	2.5Y7/2 灰黄	—	
200	E一括	193	4	一括	五輪塔(地輪)	輝石安山岩	164.1	171.7	104.3	—	5780.0	ほぼ完形	2.5Y7/1 灰白	端部、面取り状の面残る。	

第13表　台遺跡A地点出土石器等観察表

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	器種	素材	法量(㎜)				重量(g)	遺存度	色調	特徴	備考
							現存長	幅	厚さ	孔					
200	115	1	1	一括	硯	砂質凝灰岩	74.4	65.9	17.0	—	132.5	4/7残	2.5Y5/2 暗灰黄	墨堂部右側、刀子状の擦痕複数あり。 墨堂部中央、摩耗著しく楕円状に窪んでいる。	南伊豆か
201	257	1	1	一括	板碑	緑色片岩	342.1	172.0	27.9	—	2700.0	3/4残	5GY5/1 オリーブ灰	表：上方中央に梵字(キリークか)あり。	
202	A一括	8	551	一括	石鏃	黒曜石	34.6	16.0	7.5	—	2.9	完形	N2/0 黒	両側縁部、密にリングが入る。	
202	A一括	9	552	一括	石鏃	黒曜石	22.4	16.9	5.3	—	1.1	ほぼ完形	N2/0 黒	両側縁部、リングが入る。	
202	A一括	10	550	一括	石鏃	瑪瑙	23.8	13.9	4.9	—	1.2	左下端部欠 3/4残	10YR7/3 にぶい黄橙	両側縁部、リング及びフィッシャーが入る。	
203	A一括	11	549	一括	ヘラ状石器か	黒曜石	48.2	17.4	11.1	—	9.8	—	N2/0 黒	両側縁部、リングが入る。	

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	器種	素材	法量(mm)				重量(g)	遺存度	色調	特徴	備考
							現存長	幅	厚さ	孔					
203	A一括	12	10	一括	磨石	ホルンフェルス	92.9	49.1	43.8	—	273.7	上端・下半部欠 3/7残	5Y6/2 灰オリーブ	左側縁部、摩耗著しい。	
203	A一括	13	6	一括	板碑	緑色片岩	461.2	194.0	25.1	—	3700.0	4/5残	2.5GY5/1 オリーブ灰	表：笠部直下に二条線入り、下部に蓮座上の梵字あり。 その下部に、仏花及び仏花瓶の陰刻ありか。 裏：下部にノミ痕跡あり。	
203	A一括	14	10	一括	板碑	緑色片岩	323.0	120.2	26.1	—	1600.0	左側縁部1/4残	5GY5/1 オリーブ灰	裏：ヨコ方向及び一部タテ方向のノミ痕跡が残る。	
203	A一括	15	9	一括	板碑	緑色片岩	183.1	139.0	19.2	—	870.0	上方部1/4残	7.5GY5/1 緑灰	裏：ヨコ方向のノミ痕跡が多数残る。	
204	A一括	16	2	一括	石臼	輝石安山岩	187.1	284.8	98.2	—	4820.0	3/7残	2.5Y7/2 灰黄	下臼。受け皿部、若干残る。 右側部分の擂り目、比較的明瞭に残る。	
204	A一括	17	3	一括	石臼	輝石安山岩	181.0	198.8	101.8	—	3080.0	1/4残	2.5Y7/3 浅黄	下臼。擂り目、僅かに残る。	

第14表　台遺跡D地点出土石器等観察表

図番号	遺構番号	遺物番号	実測番号	取り上げ	器種	素材	法量(mm)				重量(g)	遺存度	色調	特徴	備考
							現存長	幅	厚さ	孔					
206	D一括	2	560	一括	石鏃	黒曜石	27.3	17.1	4.2	—	1.2	完形	N2/0 黒	両側縁部、密にリング及びフィッシャーが入る。	
206	D一括	3	555	一括	石鏃	黒曜石	24.3	16.8	4.9	—	1.1	完形	N2/0 黒	両側縁部、リング及びフィッシャーが入る。	
206	D一括	4	556	一括	石鏃	チャート	18.9	16.2	4.6	—	0.8	完形	2.5GY5/1 オリーブ灰	両側縁部、リングが入る。	
206	D一括	5	558	一括	石鏃	黒曜石	21.7	19.4	5.5	—	1.5	先端部・左下端部欠 4/5残	N2/0 黒	両側縁部、リングが入る。	
206	D一括	6	557	一括	石鏃	チャート	20.8	13.9	3.7	—	0.5	完形	5GY4/1 暗オリーブ灰	両側縁部、リング及びフィッシャーが入る。	
206	D一括	7	553	一括	石鏃	黒曜石	14.3	17.1	6.0	—	1.0	完形	N2/0 黒	両側縁部、リングが入る。	
206	D一括	8	559	一括	石鏃	チャート	20.3	12.4	3.9	—	0.7	右下端部、若干欠	10Y4/1 灰	両側縁部、リングが入る。	
206	D一括	9	554	一括	石鏃	黒曜石	17.5	15.7	5.1	—	1.0	先端部・左側縁部～ 下端部欠3/5残	N2/0 黒	両側縁部、リングが入る。	
206	D一括	10	548	一括	打製石斧	緻密質 輝石安山岩	80.4	79.7	15.5	—	118.0	上半部欠	7.5Y6/1 灰	—	

報告書抄録

ふりがな	いちはらしだいいせきいーちてん
書名	市原市台遺跡E地点
副書名	上総国分寺台遺跡調査報告書
巻次	ＸＸⅧ
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書
シリーズ番号	第41集
編著者名	小川浩一・櫻井敦史・鶴岡英一・小橋健司
編集機関	市原市教育委員会（市原市埋蔵文化財調査センター）
所在地	〒290-0011　千葉県市原市能満1489番地　℡0436(41)9000
発行年月日	2017年12月22日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
台遺跡Ｅ地点（だいいせき　ちてん）	千葉県市原市（ちばけんいちはらし）根田四丁目（ねだよんちょうめ）	12219	058Ｅ	35度30分22秒	140度6分32秒	19820401～19830331	12,293㎡（プラニメーター計測値）	土地区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
台遺跡Ｅ地点	包蔵地 集落跡	弥生 古墳 中世	方形周溝墓５基 竪穴建物跡143軒 土坑跡94基	縄文土器 弥生土器 古墳時代土師器 中世土器・陶器 石器 石製模造品 臼玉 板碑 五輪塔 銭貨	北端にある大型竪穴建物跡は、多量の土器が出土し、土器祭祀等特殊な性格を帯びていた遺構と考えられる。 また、中央部南寄りに位置する竪穴建物跡からは、1,000点を超える臼玉が出土しており、臼玉祭祀が行われていた特殊な遺構の可能性が高い。 ２つの遺構で、異なる手段を用いた祭祀が行われていたと考えられる。
要　約	台遺跡は、東京湾に面した海岸平野を西に望む標高18～20m前後の台地上にあり、Ｅ地点は、御林跡遺跡や根田遺跡を南に望む、台遺跡の北端に位置する。同地点は、墳墓では西谷古墳群が存在する。古墳以外の調査の結果、弥生時代中期の方形周溝墓や、弥生時代後期～古墳時代後期初頭までの竪穴建物跡及び中世の土坑墓などを検出した。また、古墳時代中期後葉～後期初頭の竪穴建物跡において、土器祭祀及び臼玉祭祀が行われたと考えられる遺構がそれぞれ検出された。 北西部においては、中世戦国期における墓域が展開していたと考えられ、板碑や五輪塔などの石造物が出土している。 国分寺台遺跡群において、これまであまり調査事例のなかった、古墳時代中～後期初頭及び中世の遺構が検出されたことは、今後、同遺跡群における歴史的土地利用の変遷を考えていくうえで興味深いものと言えるだろう。				

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第41集
上総国分寺台遺跡調査報告XXVIII

市原市台遺跡Ｅ地点（本文編）

平成29年11月28日　印刷
平成29年12月22日　発行

編集発行　市原市教育委員会
埋蔵文化財調査センター
〒290-0011
千葉県市原市能満1489番地
TEL 0436(41)9000

印　刷　株式会社 弘　文　社
〒272-0033
千葉県市川市市川南2-7-2
TEL 047(324)5977